SETSUNAN UNIVERSITY

SYLLABUS

2019 看護学部 授業計画

看　護　学　科

看護学部　看護学科

◎教育研究上の目的

生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観、心豊かな人間性と看護実践能力を備えた人材を育成し、地域社会における保健・医療・福祉の向上、看護の発展に貢献できる看護職者を養成する。

◎ディプロマ・ポリシー（DP：卒業認定・学位授与の方針）

本学科の課程を修め、所定の単位を修得したうえで、次の要件を満たした者に学士（看護学）の学位を授与します。

■知識・理解

［ＤＰ１］心豊かな人間性と人や社会を理解するための幅広い教養を身につけている。（基礎的教養）

［ＤＰ２］対象理解や看護実践に繋がる看護や薬に関する専門的知識を身につけている。（専門的知識）

■思考・判断

［ＤＰ３］広く多元的に情報を収集し、科学的根拠に基づき、問題を解決できる能力を身につけている。（問題解決力）

■関心・意欲・態度

［ＤＰ４］生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観をもって看護を実践できる力を身につけている。（倫理観）

［ＤＰ５］保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し意欲的に他者と協働関係を築く力を身につけている。（チームワーク）

［ＤＰ６］地域社会と看護の発展に貢献する意思をもち、看護職として自己研鑽の姿勢を身につけている。（学習意欲・態度）

■技能・表現

［ＤＰ７］科学的根拠に裏打ちされた安全安楽な看護を提供するための実践能力を身につけている。（実践力）

［ＤＰ８］多様な人々と信頼関係を築くことができるコミュニケーション力を身につけている。（コミュニケーション力）

［ＤＰ９］学習や社会活動に必要な読解力・数理能力をもとに、自らの考えを表現する力を身につけている。（情報リテラシー）

◎カリキュラム・ポリシー（CP：教育課程編成・実施の方針）

ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、次のとおり教育課程を編成・実施します。

■知識・理解

①心豊かな人間性を涵養し、広範な教養と幅広い視野を身につけるための基礎・教養科目を配置する。また、人間や人間を取り巻く社会への理解を深めるための教養科目を配置

する。

②身体を系統立てて理解し、健康・疾病に基づいた観察力、判断能力を養うための専門基礎科目群を配置するとともに、看護を実践するうえで必要となる知識を身につけるため各看護学専門領域科目群を配置する。

■思考・判断

③物事を探求する研究的思考を持ち続けるための科目、広く多元的に情報を収集する能力を身につけるための専門科目およびキャリア形成科目を配置する。各看護学専門領域科目群は、講義・演習・実習の授業形態により、知識、技術、態度が体系的に思考でき、確実な問題解決能力が養われるよう専門科目に「看護学概論」、「看護学援助論」、「看護学実習」と「看護と統合の実践科目群」を段階的に配置する。

■関心・意欲・態度

④１～４年次まで、段階に応じた倫理観を養うための「看護倫理」、「看護学概論」、「看護学実習」、「看護研究」などの専門科目を配置する。

⑤１～４年次まで、薬学部との協働学習によるチームワークを涵養するためのキャリア形成科目を配置する。また、保健医療チームの一員として協働関係を築く力を養うための「看護学実習」を配置する。

⑥地域社会と看護の発展に貢献するために「看護研究」、「統合看護学実習」などの専門科目を配置する。また、目指す看護職像を意識したうえでキャリア設計し、将来ビジョンを明確にしていく力を育むためのキャリア形成科目や「看護学実習」の専門科目を配置する。

■技能・表現

⑦科学的根拠に裏打ちされた安全安楽な看護を提供するための実践能力を身につけるために、講義・演習・実習の授業形態による専門科目「看護学概論」、「看護学援助論」、「看護学実習」を段階的に配置する。

⑧多様な人々との信頼関係構築に必要なコミュニケーション力を身につけるために、キャリア形成科目に「患者コミュニケーション」、専門科目に「カウンセリング論」、「看護対人関係論」、「看護学援助論」、「看護学実習」などを配置する。

⑨自らの考えを表現するための情報リテラシーを身につける「情報リテラシー」、「統計の基礎」、「保健統計学」、「看護研究」、「看護学援助論」、「看護学実習」などを配置する。

◎アドミッション・ポリシー（AP：入学者受入れの方針）

本学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを理解し、次に掲げる知識・技能・意欲などを備え、入学後は学修・課外活動に主体的に取り組む人を求めます。

■知識・理解

①国語および外国語の文章を読み解き、かつ自分の考えを論理的に文章として書くことのできる基礎的な知識を有している。

②看護の基礎となる生命現象に対する数学、理科（生物･化学）に関する基礎的な知識を有している。

■思考・判断

③自然科学の現象について自ら調べ、論理的に考えることができる力を有している。

■関心・意欲・態度

④倫理・道徳観を持ち、生命や人の尊厳を大切にする態度を有している。

⑤主体的に課外活動やボランティア活動に参加し、他者と相互理解しようとする姿勢を有している。

⑥人や看護に関心があり、将来、看護職として地域社会に貢献したいと考え、主体的に学び続ける態度や柔軟な創造力を有している。

■技能・表現

⑦人と良好な関係を築き、他者の意見に耳を傾け、自分の考えも適切に相手に伝える力を有している。

入学者選抜の実施にあたっては、学力試験、適性検査をはじめとして、大学入試センター試験、面接、学修計画書、小論文、高等学校調査書、英語ほかの資格検定試験の結果などを入試毎に組み合わせて評価します。

授　　業　　計　　画

科目名	担当者	ページ
イ		
医療経済論	田 井 義 人	9
エ		
英語Ⅰ	ユアン マクドゥーガル	171
英語Ⅰ	中 道 英美子	173
英語Ⅰ	ヘドリックⅢ ロイ	175
英語Ⅱ	ユアン マクドゥーガル	177
英語Ⅱ	中 道 英美子	179
英語Ⅱ	ヘドリックⅢ ロイ	181
英語Ⅲ	藤 原 崇	183
英語Ⅲ	中 道 英美子	185
英語Ⅲ	木 村 理恵子	187
疫学	小 堀 栄 子	11
カ		
海外ビジネスインターンシップ	西之坊 穂	247
カウンセリング論	吉 田 幸 平	13
家族関係論	石 田 拓 也	14
家族看護学	富 永 真 己	15
株式投資と企業家育成	林 正 浩	248
看護学概論	中 山 由 美	17
看護関係法規	足 立 安 正	19
看護管理学	撫 養 真紀子	21
看護教育学	中 山 由 美	23
韓国語Ⅰ	北 島 由紀子	189
韓国語Ⅰ	北 島 由紀子	190
韓国語Ⅱ	北 島 由紀子	191
韓国語Ⅱ	北 島 由紀子	192
看護研究Ⅰ	小 堀 栄 子	25
看護研究Ⅱ	鎌 田 佳奈美	27
看護対人関係論	佐久間 夕美子	28
看護倫理	鎌 田 佳奈美	30
患者安全	森 谷 利 香	371
患者安全	森 谷 利 香	374
患者コミュニケーション	田 中 結 華	377
感染と防御	伊 藤 潔	31
キ		
基礎看護学実習Ⅰ	佐久間 夕美子	33
基礎看護学実習Ⅱ	中 山 由 美	34
基礎看護技術Ⅰ	佐久間 夕美子	36
基礎看護技術Ⅰ	佐久間 夕美子	40
基礎看護技術Ⅱ	中 山 由 美	44
基礎看護技術Ⅱ	中 山 由 美	47
基礎看護技術Ⅲ	佐久間 夕美子	50
基礎看護技術Ⅲ	佐久間 夕美子	52
基礎看護技術Ⅳ	中 山 由 美	54
北河内を知る	荻 田 喜代一	250
キャリアデザイン	西 鶴 智 香	379
キャリアデザインⅠ（ＢＡＳＩＣ）	石 井 三 恵	252
キャリアデザインⅠ（ＢＡＳＩＣ）	山 岡 亮 太	254
キャリアデザインⅠ（ＢＡＳＩＣ）	中 川 浩 一	256
キャリアデザインⅠ（ＢＡＳＩＣ）	上野山 裕 士	258
キャリアデザインⅠ（ＢＡＳＩＣ）	中 川 浩 一	260
キャリアデザインⅡ（ＡＤＶＡＮＣＥ）	上野山 裕 士	262
キャリアデザインⅡ（ＡＤＶＡＮＣＥ）	橋 本 朗 子	264
キャリア入門	小 﨑 篤 志	381
教育学	朝 日 素 明	266
ケ		
経済学	高 橋 勇 介	268
現代韓国事情	田 中 悟	269
現代ビジネス論	牧 美喜男	271
コ		
公衆衛生学	小 堀 栄 子	56
公衆衛生看護学概論	富 永 真 己	58
国際看護学	富 永 真 己	60
コミュニケーション論	櫻 井 清 華	273
サ		
災害看護論	中 山 由 美	62
在宅看護学援助論Ⅰ	田 中 結 華	64
在宅看護学援助論Ⅱ	田 中 結 華	66
在宅看護学概論	田 中 結 華	68
在宅看護学実習	田 中 結 華	70
シ		
疾病・治療論Ⅰ	小 﨑 篤 志	71
疾病・治療論Ⅱ	小 﨑 篤 志	73
疾病・治療論Ⅲ	小 﨑 篤 志	76
疾病・治療論Ⅳ	大 橋 敦	78
疾病・治療論Ⅴ	西 村 史 朋	79
疾病・治療論Ⅵ	小笠原 一 能	81
周産期医学	西 村 史 朋	83
就職実践基礎	山 岡 亮 太	274
就職実践基礎	亀 田 峻 宣	275
小児看護学援助論Ⅰ	鎌 田 佳奈美	85
小児看護学援助論Ⅱ	池 田 友 美	87
小児看護学概論	鎌 田 佳奈美	89
小児看護学実習	鎌 田 佳奈美	91
情報リテラシーⅠ	小 堀 栄 子	193
情報リテラシーⅠ	小 堀 栄 子	195
助産学概論	泉 川 孝 子	92
助産学実習	泉 川 孝 子	94
助産管理論	泉 川 孝 子	95
助産技術学演習Ⅰ	泉 川 孝 子	97
助産技術学演習Ⅱ	但 馬 まり子	99
助産診断・技術学Ⅰ	西 頭 知 子	101
助産診断・技術学Ⅱ	但 馬 まり子	103
助産診断・技術学Ⅲ	泉 川 孝 子	105
女性学	荒 木 菜 穂	276
女性学	荒 木 菜 穂	278
人体の構造と機能Ⅰ	吉 田 侑 矢	107

科目名	担当者	ページ
人体の構造と機能Ⅱ	尾 中 勇 祐	109
人体の構造と機能Ⅲ	久 家 貴 寿	111
人体の構造と機能Ⅳ	山 口 太 郎	112
心理学	樋 口 隆 弘	280

ス

スポーツ科学Ⅰ	藤 林 真 美	197
スポーツ科学Ⅰ	藤 林 真 美	199
スポーツ科学Ⅱ	藤 林 真 美	201

セ

青少年育成ファシリテーター養成講座	浅 野 英 一	282
精神看護学援助論Ⅰ	眞 野 祥 子	114
成人看護学援助論Ⅰ	竹 下 裕 子	118
精神看護学援助論Ⅱ	山 本 智津子	116
成人看護学援助論Ⅱ	森 谷 利 香	120
成人看護学援助論Ⅲ	森 谷 利 香	122
精神看護学概論	眞 野 祥 子	124
成人看護学概論	森 谷 利 香	126
精神看護学実習	眞 野 祥 子	128
成人看護学実習Ⅰ	稲 垣 美 紀	129
成人看護学実習Ⅱ	森 谷 利 香	130
成人病態看護論	稲 垣 美 紀	131
生物・化学の基礎	眞 島 崇	283
生命倫理	赤 塚 京 子	285
世界遺産論	北 條 ゆかり	287
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	居 場 嘉 教	289
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	橋 本 正 治	290
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	石 田 秀 士	291
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	石 田 裕 子	292
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	浅 野 英 一	293
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	久 保 貞 也	294
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	牧 野 幸 志	295
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	大 塚 正 人	296
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	石 井 信 輝	297
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	田 井 義 人	298
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	吉 田 佐治子	300
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	上野山 裕 士	301
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	藤 原 京 佳	302
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	居 場 嘉 教	303
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	橋 本 正 治	304
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	石 田 秀 士	305
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	石 田 裕 子	306
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	浅 野 英 一	307
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	久 保 貞 也	308
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	牧 野 幸 志	309
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	大 塚 正 人	310
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	石 井 信 輝	311
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	田 井 義 人	312
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	吉 田 佐治子	314
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	上野山 裕 士	315
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	藤 原 京 佳	316
専門日本語ＦⅠ	塩 谷 尚 子	203
専門日本語ＦⅡ	塩 谷 尚 子	204
専門日本語Ｒ	塩 谷 尚 子	205

ソ

総合看護学演習	小 﨑 篤 志	133
ソーシャル・イノベーション実務総論	石 井 三 恵	317

タ

大学教養応用	大 塚 正 人	319
大学教養実践	伊 藤 譲	321
大学教養入門	荻 田 喜代一	323
代謝栄養学	竹 内 健 治	134
ダイバーシティとコミュニケーション	石 井 三 恵	325

チ

地域看護学	富 永 真 己	135
地域貢献実践演習	鶴 坂 貴 恵	327
地域と私	鶴 坂 貴 恵	328
地域連携教育活動Ⅰ	吉 田 佐治子	330
地域連携教育活動Ⅱ	吉 田 佐治子	331
チームビルディング	水 野 武	332
中国語Ⅰ	欒 玉 璽	206
中国語Ⅰ	欒 玉 璽	208
中国語Ⅱ	欒 玉 璽	210
中国語Ⅱ	欒 玉 璽	212

テ

哲学	森 本 誠 一	334

ト

統計の基礎	小 堀 栄 子	214
統計の基礎	小 堀 栄 子	216
統合看護学実習	鎌 田 佳奈美	137

ニ

日本語会話ＦⅠ	古 川 由理子	218
日本語会話ＦⅡ	古 川 由理子	219
日本語会話Ｒ	古 川 由理子	220
日本国憲法	小宮山 直 子	337
日本語総合ＦⅠ	藤 原 京 佳	221
日本語総合ＦⅡ	藤 原 京 佳	222
日本語総合Ｒ	藤 原 京 佳	223
日本語読解ＦⅠ	佐々木 成 美	224
日本語読解ＦⅡ	佐々木 成 美	225
日本語読解Ｒ	佐々木 成 美	226
日本語表現作文ＦⅠ	佐々木 成 美	227
日本語表現作文ＦⅡ	佐々木 成 美	228
日本語表現作文Ｒ	佐々木 成 美	229
日本語表現法	南 谷 静 香	230
日本語表現法	南 谷 静 香	232
日本語文法ＦⅠ	佐々木 成 美	234
日本語文法ＦⅡ	佐々木 成 美	235
日本語文法Ｒ	佐々木 成 美	236

科目名	担当者	ページ
日本事情ＦⅠ	門　脇　　薫	237
日本事情ＦⅡ	門　脇　　薫	239
日本事情ＲⅠ	門　脇　　薫	241
日本事情ＲⅡ	門　脇　　薫	243
ハ		
犯罪被害者の支援と法的救済	小　野　晃　正	339
ヒ		
ビジネスマナー	奥　田　和　子	341
病院薬学演習	菊　田　真　穂	138
病院薬学演習	菊　田　真　穂	140
病理学総論	小　﨑　篤　志	142
フ		
プロポーザル・デザイン	北　村　　浩	343
文学	辻　　晶　子	345
文化人類学	西　垣　　有	347
ホ		
法学入門	安　藤　由香里	349
保健医療福祉行政論	富　永　真　己	145
母性看護学援助論Ⅰ	泉　川　孝　子	147
母性看護学援助論Ⅱ	名　草　みどり	149
母性看護学概論	泉　川　孝　子	151
母性看護学実習	泉　川　孝　子	153
ボランティア活動論	森　本　誠　一	350
マ		
マーケティングと歴史	武　居　奈緒子	353
ミ		
身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	中　沼　丈　晃	355
モ		
ものづくりインターンシップ基礎	坂　本　淳　二	357
ものづくりインターンシップ基礎	楢　橋　祥　一	359
ものづくりインターンシップ実践	坂　本　淳　二	360
ものづくり海外インターンシップ	楢　橋　祥　一	362
ヤ		
役立つ金融知力	陸　川　富　盛	364
薬物治療学	田　中　雅　幸	155
薬理学総論	山　口　太　郎	157
ラ		
ライフサイエンスの基礎	西　矢　芳　昭	367
リ		
臨床医療演習Ⅰ	松　本　葉　子	383
臨床医療演習Ⅱ	小　﨑　篤　志	385
臨床医療実践演習	山　本　十三代	387

科目名	担当者	ページ
ロ		
老年看護学援助論Ⅰ	小　川　宜　子	159
老年看護学援助論Ⅱ	小　川　宜　子	161
老年看護学概論	松　田　千登勢	163
老年看護学実習Ⅰ	松　田　千登勢	165
老年看護学実習Ⅱ	松　田　千登勢	166
老年看護学実習Ⅲ	松　田　千登勢	167

専　　門　　科　　目

科目名	医療経済論	科目名（英文）	Healthcare Economics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田井　義人
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN2023a0		

授業概要・目的	・医療における課題を経済学的に考察し、医療サービスの供給体制、制度及び医療機関の経営問題に関わる考察を行い、看護職に求められる経済学的視点を修得する。 ・看護職となるに当たって保健・医療・福祉における経済面・経営面に関する社会常識としての知識を修得する。 ・動画によって米国の医療制度について考察し、日本における皆保険制度についての理解を深める。 ･40 診療科 24 時間対応の救急業務、感染症等の政策医療を実施している市立病院にて人事、経理及び病院情報システム構築業務に従事した実務経験を活かして病院勤務する看護師に求められる人的能力（コンピテンシー）向上に必要な経済的視点を今後看護師が考慮すべきﾜｰｸﾗｲﾌﾊﾞﾗﾝｽ検討に必要な給与と労働時間の関係や勤務病院の選択指針についての授業を行う。また今後大卒看護師として修得すべき看護職の管理職（副院長、看護部長）として求められる資質についても説明する。
到達目標	・診療報酬制度として収入が規定されており、一般の企業における売上とは異なる収入体系とその制度の必要性について認識・理解した上で適正なコスト意識と業務改善意識を持って看護業務に従事できることを目標とする。
授業方法と留意点	・看護職に求められる経済学視点について講義する。診療報酬制度に基づく報酬の支払いを中心に経済学による需要と供給の価格決定プロセスを比較しながら考察する。 ・医療における財・サービスの交換システムの特殊性に焦点を置きながら、多くの看護職が勤務する病院での現状と課題について講義する。 ・後半は、看護職の管理的立場の職種である看護部長において求められる考え方について講義する。
科目学習の効果（資格）	・看護専門職の科目だけでなく、就職・勤務にむけた経済社会の財・サービス交換活動への経済学的思考の修得を目的とする。 ・経済理論だけでなく実際の組織において必要とされる看護職の今後の課題に対する政策構築に関する考察についても考慮したい。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	経済学からみた看護サービス	経済活動と医療経済との違いについて講義する。	第Ⅰ章 教科書第Ⅰ章の予習 1 時間程度 教科書と配布資料による復習 2 時間程度
2	社会経済環境の変化と看護師雇用の現状	変化に伴う看護師の環境と雇用関係について講義する。	第Ⅱ章 教科書第Ⅱ章の予習 1 時間程度 教科書と配布資料による復習 2 時間程度
3	診療報酬制度がもたらす影響１	看護師が他職種の業務を担うメカニズムについて講義する。	第Ⅲ章 教科書第Ⅲ章の予習 1 時間程度 教科書と配布資料による復習 2 時間程度
4	診療報酬制度がもたらす影響２	看護師の技能評価を妨げるメカニズムについて講義する。	第Ⅳ章 教科書第Ⅳ章の予習 1 時間程度 教科書と配布資料による復習 2 時間程度
5	看護師の労働供給	看護師の労働力提供の体系について説明する。その主な原因である結婚と出産・育児について講義する。	第Ⅴ章 教科書第Ⅴ章の予習 1 時間程度 教科書と配布資料による復習 2 時間程度
6	看護師の労働需要と市場構造	労働市場における搾取と労働力不足について講義する。	第Ⅵ章 教科書第Ⅵ章の予習 1 時間程度 教科書と配布資料による復習 2 時間程度
7	人的資本論から検証する労働条件格差	看護師間で生じている賃金格差の状況を確認した上で，その格差を，教育やトレーニングにより養成される技能の差異をもって説明する「人的資産」の視点から講義する。	第Ⅶ章 教科書第Ⅶ章の予習 1 時間程度 教科書と配布資料による復習 2 時間程度
8	市場の階層性が生み出す賃金格差	日本における看護師の労働市場構造において、人的投資の機会費用をはじめとして看護師の賃金を決める要因は何か，看護師の賃金決定メカニズムについて講義する。	第Ⅷ章 教科書第Ⅷ章の予習 1 時間程度 教科書と配布資料による復習 2 時間程度
9	職務価値からみた賃金格差	賃金格差を説明するもう 1 つの分析視角，「職務価値」と看護師の賃金との関係について講義する。	第Ⅸ章 教科書第Ⅸ章の予習 1 時間程度 教科書と配布資料による復習 2 時間程度
10	看護師の雇用政策とインパクト	看護師の労働市場にどのような影響を及ぼしそして雇用にどう影響を与えたのかについて講義する。	第Ⅹ章 教科書第Ⅹ章の予習 1 時間程度 教科書と配布資料による復習 2 時間程度
11	よりよい看護を実現するために	看護師の働きが，そして技能が正当に評価され，消費者である患者に対してよりよい看護サービスを生産し、それをどのように提供していくかについて講義する。	第ⅩⅠ章 教科書第ⅩⅠ章の予習 1 時間程度 教科書と配布資料による復習 2 時間程度
12	診療報酬および経済政策のポイント理解と習熟度確認試験。（予定）	診療報酬制度および看護職が直面する経済政策のポイントを説明し、その後論述形式での中間試験を行う。	これまでの配布資料、教科書および直筆ノートのみ持込可。
13	看護管理職の備えるべき視点１	「看護部長の基本事務、変化への対応力、看護部長の組織管理、マネジメント技法への関心度、専門看護職と組織改革、看護部門の組織文化」について講義する。	配布資料 授業テーマ、内容・方法を読んで関連冊子、資料による予習 1 時間程度と配布資料による復習 2 時間程度
14	看護管理職の備えるべき視点２	「変革期の人材マネジメント、看護政策対応力、院内看護政策力、情報マネジメント、コミュニケーション、看護業務の変化、苦情対応のマネジメント、組織フ レームワークの再検討」について講義する。	配布資料 授業テーマ、内容・方法を読んで関連冊子、資料による予習 1 時間程度と配布資料による復習 2 時間程度
15	看護管理職の備えるべき視	「コスト意識と金銭感覚、看護情報提供	配布資料

		点３	と看護連携、看護業務の電子化、病院統治力」について講義する。	授業テーマ、内容・方法を読んで関連冊子、資料による予習１時間程度と配布資料による復習２時間程度

関連科目	労働経済学、ミクロ経済学、経営学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	看護師の働き方を経済学から読み解く　看護のポリティカルエコノミー	角田由佳	医学書院
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験(50%)、習熟度試験またはレポート（20%)、受講態度（30%）で総合評価する。
学生へのメッセージ	・専門職になるための科目の修得は、国家資格取得も含め必須である。しかし、卒業後、多くの看護職が勤務する病院や福祉施設の運営は、公的な補助があるものの経済学の考え方に基づいて運営されている。 ・少子高齢化社会の到来に向けて、これからの看護職は、社会的な知識（経済学等の社会科学科目）も必要とされる。本講義は、そのための基礎的な考え方の習得を目指す。 ・急性期だけでなく慢性期治療にも対応した市立病院で 15 年間事務職として総務、人事、医事、システム関連部署に勤務し診療関係全般に従事した経験から高度医療機関での看護師に求められる実践的な教育を行う。
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス１号館７階　田井准教授室（経済学部）
備考	社会科学分野である経済学、経営学による分析内容について、看護職の視点から必要な項目を説明する。

科目名	疫学	科目名（英文）	Epidemiology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期後半	授業担当者	小堀　栄子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN1018a0		

授業概要・目的	授業では、集団の健康や疾病の分布とその関連要因を明らかにする疫学について講義し、その基本的な考え方を学ぶ。まず、疾病とそのリスク要因の関係に注目した説明変数と結果変数という考え方、因果関係と関連の違い、各研究デザインの利点と限界、そして誤差・バイアスについて学ぶ。最後に、スクリーニングについての基本事項と、人を対象とする医学研究についての倫理について取り上げる。
到達目標	疫学の概要や役割を知り、疾病予防の背景にある科学的な根拠およびその意味が理解できるようになる。
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせ、理解を深める。
科目学習の効果（資格）	健康に関する事象について、論理的捉え方・考え方ができるようになる

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	疫学の概要	疫学の考え方、歴史	・第１回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
2	疫学指標	割合、比、率、罹患率、有病率、相対リスク、寄与リスク	・前回学習内容を授業資料と教科書で復習すること（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
3	疫学研究デザイン（1）	因果推論、介入研究（１）	・前回学習内容を授業資料と教科書で復習すること（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
4	疫学研究デザイン（2）	観察研究（１）コホート研究	・前回学習内容を授業資料と教科書で復習すること（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
5	疫学研究デザイン（3）	観察研究（２）症例対照研究	・前回学習内容を授業資料と教科書で復習すること（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
6	疫学研究デザイン（４）	観察研究（３）横断研究ほか	・前回学習内容を授業資料と教科書で復習すること（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
7	誤差とバイアス（１）	偶然誤差、系統誤差、精度、妥当性、情報バイアス、選択バイアス、交絡、交絡の調整	・前回学習内容を授業資料と教科書で復習すること（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
8	スクリーニング	検査、感度、特異度、カットオフポイント、ROC 曲線	・前回学習内容を授業資料と教科書で復習すること（30 分） ・わからない点を解決すること（適宜）
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	統計の基礎

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	疫学/保健統計（最新保健学講座）	丸井英二	メヂカルフレンド社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

	2			
	3			
評価方法 （基準）	課題 20%、試験 80%で評価し、60%以上を合格とする。授業全８回出席が前提．出席の扱いは学生便覧のとおり（「出席状況が好ましくない場合は、単位を認めないことがあります」学生便覧より）。			
学生への メッセージ	・授業では、疫学を学んでいくうえで最低限必要な理解の枠組みと、その枠組みを理解するうえで最低限必要な知識について講義する。教科書を読むだけでは把握しにくいので、毎回の授業には真剣に臨むこと． ・授業中の私語、教室の出入りは厳禁． ・授業中にあてられたとき教室にいなかった場合は欠席扱いとする． 7 号館 3 階 研究室 24			
担当者の 研究室等				
備考	提出された課題内容をまとめたものを授業で取り上げ、解説する。			

科目名	カウンセリング論	科目名（英文）	Counseling
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	吉田　幸平
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP8○		
科目ナンバリング	NDN2011a0		

授業概要・目的	対人援助職が臨床現場で求められる能力は多岐にわたるが、その中に「コミュニケーションの技術」が含まれる。臨床現場で生じるコミュニケーションは日常で用いられるコミュニケーションとは異なるものであり、専門的な知識と訓練及び経験を要する。カウンセリング論では、臨床心理学の理論を学習し、ロールプレイングで実践することでコミュニケーションの技術を獲得することを目標とする。担当講師は、医療現場（主として緩和ケア領域）で活動している現役の臨床心理士・公認心理師である。講師の実際のケースを紹介することで治療的コミュニケーションを学ぶ機会を提供する。
到達目標	本授業を通して、受容・共感といった対人援助職に必要な職業的姿勢に加え、臨床場面におけるコミュニケーションの技術を学ぶことができる。
授業方法と留意点	本授業は集中講義の形式を採り、講義に加え、グループワークなどの演習を中心に授業を進める。その性質上、遅刻や欠席はグループワークの進行を困難にするため、やむを得ない場合を除き原則として遅刻・欠席は認めない。 授業日の最後の時間に、毎回レポートを課す。本授業はレポート及びグループワークへの積極的参加を評価対象とするため、必ず提出を求める。もし提出が困難な場合は、速やかに講師に相談すること。 授業日の最初の講義で質疑応答の時間を作る。学生は前回の講義やグループワークで疑問に感じたことなどをレポートに記載し、講師がそれに対しフィードバックを行う。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	カウンセリング総論①	ロールプレイ① 看護とカウンセリングの相違 カウンセリング総論	講義内容の理解を深めましょう。積極的にグループワークに参加しましょう。
2	カウンセリング総論②	コミュニケーションとは 治療場面における信頼関係の意義 信頼関係の構築のプロセス	講義内容の理解を深めましょう。
3	カウンセリングの技法①	質問の性質と効用 信頼関係構築の技法	講義内容の理解を深めましょう。
4	カウンセリングの技法②	ロールプレイ②	積極的にグループワークに参加しましょう。
5	症例提示①	講師によるカウンセリングの症例発表① レポート①	講義内容や演習内容を整理し理解を深めましょう。
6	振り返り	質疑応答 ロールプレイ③（復習）	積極的にグループワークに参加しましょう。予習として、前回の講義資料を再読しておきましょう(1時間)。
7	カウンセリングにおけるアセスメント	アセスメントの重要性 治療方針としてのアセスメント	講義内容の理解を深めましょう。
8	カウンセリングの技法③	“問題志向”と“解決志向” 患者のリソースを探す質問法	講義内容の理解を深めましょう。
9	カウンセリングの技法④	ロールプレイ④	積極的にグループワークに参加しましょう。
10	症例提示②	講師によるカウンセリングの症例発表② レポート②	講義内容や演習内容を整理し理解を深めましょう。
11	振り返り	質疑応答 ロールプレイ⑤	積極的にグループワークに参加しましょう。予習として、前回の講義資料を再読しておきましょう（1時間)。
12	カウンセリングにおける治療者の留意点	転移と逆転移、治療者の“枠組み” 「巻き込まれ」と「燃え尽き」	講義内容の理解を深めましょう。
13	カウンセリングの技法⑤	能動的介入技法 変化を促す介入	講義内容の理解を深めましょう。
14	カウンセリングの技法⑥	ロールプレイ⑥	積極的にグループワークに参加しましょう。
15	症例提示③	講義内容の総括 レポート③	講義内容や演習内容を整理し理解を深めましょう。

関連科目	臨床心理学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	レポート 70%、授業への積極的な関与 30% ※集中講義形式のため、3 日とも当日レポートを課します。 ※グループワークを重視するため、積極性も評価の対象とします。
学生へのメッセージ	この授業では、講義はもちろんのこと、ロールプレイなどの実践形式の演習を中心に進めていきます。それは、実際に離床場面に出て、その場で患者さんに接する際に役立つコミュニケーション能力を学習してもらうことが重要と考えているためです。楽しみながら、実際のカウンセリングの内容を学習していきましょう。
担当者の研究室等	１号館２階　非常勤講師室
備考	授業時間外の質問に対しては、授業当日に連絡先を提示します。

専門科目

科目名	家族関係論	科目名（英文）	Family Relationship
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石田　拓也
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP6△		
科目ナンバリング	NDN1021a0		

授業概要・目的	本科目では、家族を構成する個人の資質と、その関係性の結果として表れるシステムという視点をもとに講義を行う。授業計画の前半では臨床心理学の知見から家族に関する基礎的な知識を深める。後半では、さまざまな臨床場面を想定した講義を行う。具体的には、身体的、心理的な問題にかかわらず、困難を抱える個人、あるいは家族について、アセスメントを行うための知識を獲得する。そして、そのアセスメントを根拠とした介入方法を考えることができるようになることを目指す。
到達目標	自身の経験にとらわれず、臨床心理学的な客観性に基づき、個人、家族の困難についてアセスメントできるようになる。また困難への介入方法について、自由に考えることができるようになることを目指す。
授業方法と留意点	講義が中心となるが、時に映像教材や模擬事例をもとにディスカッションを行う。質疑の時間も講義時間内に取る予定である。
科目学習の効果（資格）	援助専門職として、患者、患者の家族に関わる際の心理的援助の基礎を学ぶことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	家族とは何か	オリエンテーションと、その後に臨床心理学からみた家族について概説する。	講義前後の予復習（2時間）
2	システムとしての家族	家族心理学、家族療法の基礎について、システムの視点から学ぶ。また模擬事例について、ディスカッションを行う。	講義前後のグループ討議（2時間）
3	家族の発達	家族という集団の発達について、また夫婦関係とその病理について学習する。	講義内で提示する参考図書を用いての講義前後の予復習（2時間）
4	アタッチメント①	親子関係についてアタッチメントの視点から学習する。また映像資料を用いて、ディスカッションを行う。	講義前後のグループ討議（2時間）
5	アタッチメント②	各発達段階とアタッチメントの関係を論じる。	講義内で提示する参考図書を用いての講義前後の予復習（2時間）
6	対象喪失①	対象喪失に伴う心理的変化について学習する。	講義内で提示する参考図書を用いての講義前後の予復習（2時間）
7	対象喪失②	資料を用いて、ディスカッションを行う。	講義前後のグループ討議（2時間）
8	家族とその病理	DV やアルコール・薬物依存について学習する。	講義内で提示する参考図書を用いての講義前後の予復習（2時間）
9	虐待とその支援	虐待に関する心理・社会的支援について学習する。	講義内で提示する参考図書を用いての講義前後の予復習（2時間）
10	家族支援各論①	心理療法的アプローチについて、グループワークを通して学習する。	講義前後のグループ討議（2時間）
11	家族支援各論②	グループワークの成果について、プレゼンテーションを行う。	講義前後のグループ討議（2時間）
12	家族支援各論③	心理検査について学習する。	講義内で提示する参考図書を用いての講義前後の予復習（2時間）
13	アセスメント①	模擬事例を用いて家族力動についてアセスメントするスキルを習得する。	講義前後のグループ討議（2時間）
14	アセスメント②	アセスメントから支援方法を導き出す方法論を習得する。	講義前後のグループ討議（2時間）
15	まとめ	講義の総括を行う。	講義内で提示する参考図書を用いての講義前後の予復習（2時間）

関連科目	臨床心理学・カウンセリング論・心理学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験（100%）によって評価する。 ただし、授業態度によって減点することがある。 グループワークやプレゼンテーションの評価とフィードバックは、授業内で行う。
学生へのメッセージ	どのような形であれ、人間だれしも家族から離れることはできません。自身の経験を振り返りながら、家族についての新たな視点を持てるようになってください。
担当者の研究室等	1号館2階　非常勤講師室
備考	参考図書は随時、講義内で紹介する。 総合病院精神科外来、精神科病院病棟勤務を経て、たちメンタルクリニック（精神科・心療内科）にて7年勤務した経験から、心理学についての知識にとどまらず、その方法論について実務的な教育を行う。

科目名	家族看護学	科目名（英文）	Family Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	富永　真己.森谷　利香.足立　安正.泉川　孝子.稲垣　美紀.鎌田　佳奈美.松田　千登勢.眞野　祥子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3○,DP6○		
科目ナンバリング	NDN2022a0		

授業概要・目的	家族は、家族員の疾病予防や疾病回復、健康管理において、互いに重要な役割を担う。このことから、疾病をもつ家族の関係性や役割、家族としての力関係などの変化、問題を克服する家族の力量について学び、理解する。さらに、家族看護学において用いられる理論と、実践的の場で活用するアセスメント方法を学び、そのうえで、家族のセルフケア力の向上を目指して、看護職としての家族への支援のあり方を理解する。加えて、看護学の専門領域別に具体的事例を用いて家族看護の実際について学び、看護職としての在り方について考察する。
到達目標	１．家族看護学の目的、家族の定義について理解する。 ２．家族看護に用いる理論を学ぶ。 １）家族発達理論、２）家族システム理論　３）家族ストレス対処理論 ３．家族看護過程の理解と、家族アセスメントモデルについて理解する。 ４．家族看護における看護者の役割と援助姿勢について理解する。 ５．看護の以下の専門領域における家族看護について理解する。 １）小児看護学における家族看護 ２）母性看護学における家族看護 ３）成人看護学（急性期）における家族看護 ４）成人看護学（慢性期）における家族看護 ５）老年看護学における家族看護 ６）精神看護学における家族看護 ７）在宅看護学における家族看護
授業方法と留意点	授業計画に沿って講義中心に行う。また、一部グループワークを含めて理解を深める。教科書は必ず持参すること。適宜資料を配布するが配布された資料も毎回持参すること。事例などの理解の助けとすべく、昨今の時事や事件などのニュースや視聴覚教材、事例なども適宜取り入れて、授業を進行する。また途中で、課題をもとにグループ学習を取り入れ、学生の講義への参加を促す。講義後は、既学習における学びを復習しつつ、看護の対象としての家族への理解を深めるようにする。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	家族看護学とは何か 看護学における家族の理解	家族看護学の定義、目的 家族看護学に求められていること 我が国の家族の現状と課題（看護の視点から）、家族と健康	事前：テキスト１章を予習する 厚生の指標の人口構成の章を確認する(30 分以上)。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し世帯構成と家族の変化、家族の役割について考察すること（1 時間)。
2	家族を理解するための理論１	１．家族発達理論 ２．家族システム理論	事前：テキストの該当部分を読んで予習する（30 分以上)。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、家族を理解するための理論についての理解を深める（1 時間)。
3	家族を理解するための理論２	３．家族ストレス対処理論 １）ジェットコースター ２）ABCX 等 ３）実践におけるモデルの適応	事前：テキストの該当部分を読んで予習する（30 分以上)。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、家族を理解するための理論についての理解を深める（1 時間)。
4	家族看護の過程、 家族アセスメントとは何か	家族看護過程の概要 家族のセルフケア機能	事前：テキストの該当部分を読んで予習する（30 分以上)。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、家族看護の課程とアセスメントについての理解を深める（1 時間)。
5	家族アセスメントモデル	カルガリーアセスメントモデル ジェノグラム、エコマップの学習	事前：テキストの該当部分を読んで予習する（30 分以上)。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、家族アセスメントモデルについての理解を深める（1 時間)。
6	家族アセスメントモデル	フリードマン家族アセスメントモデル、家族エンパワーメントモデル等	事前：テキストの該当部分を読んで予習する（30 分以上)。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、家族アセスメントモデルについての理解を深めること（1 時間)。
7	家族看護における基本的な考え方と看護者の役割	１．家族成員に対する援助 ２．家族の関係性に働着かける ３．家族単位の社会性に働きかける	事前：テキストの該当部分を読んで予習する（30 分以上)。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、家族看護における基本的な考え方と看護者の役割についての理解を深める（1 時間)。
8	家族看護における看護者の基本姿勢 今までのまとめ	１．家族との関係のあり方 ２．看護者の基本的な姿勢 ３．学習のまとめ	事前：テキストの該当部分を読んで予習する（30 分以上)。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、家族看護における看護者の基本的な姿勢とこれまでの学びから課題を考察する（1 時間)。
9	小児看護学における家族看護	小児看護における家族看護学について、専門の特性を踏まえた看護の役割やあり方を学ぶ。	事前：資料や指定された参考書等を読んで予習する（30 分以上)。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、小児看護における家族看護として看護者の役割についての理解を深める（1 時間)。
10	母性看護学にける家族看護	母性看護における家族看護学について、専門の特性を踏まえた看護の役割やあ	事前：資料や指定された参考書等を読んで予習する（30 分以上)。

			り方を学ぶ。	事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、母性看護における家族看護として看護者の役割についての理解を深める（1時間）。
	11	成人看護学（急性期）における家族看護	成人（急性期）看護における家族看護学について、専門の特性を踏まえた看護の役割やあり方を学ぶ。	事前：資料や指定された参考書等を読んで予習する（30分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、成人看護における家族看護として看護者の役割についての理解を深める（1時間）。
	12	成人看護学（慢性期）における家族看護	成人（慢性期）看護における家族看護学について、専門の特性を踏まえた看護の役割やあり方を学ぶ。	事前：資料や指定された参考書等を読んで予習する（30分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、成人看護における家族看護として看護者の役割についての理解を深める（1時間）。
	13	老年看護学における家族看護	老年看護における家族看護学について、専門の特性を踏まえた看護の役割やあり方を学ぶ。	事前：資料や指定された参考書等を読んで予習する（30分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、老年看護における家族看護として看護者の役割についての理解を深める（1時間）。
	14	精神看護学における家族看護	精神看護における家族看護学について、専門の特性を踏まえた看護の役割やあり方を学ぶ。	事前：資料や指定された参考書等を読んで予習する（30分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、精神看護における家族看護として看護者の役割についての理解を深める（1時間）。
	15	在宅看護学における家族看護	在宅看護における家族看護学について、専門の特性を踏まえた看護の役割やあり方を学ぶ。事例を用いて学習する。	事前：資料や指定された参考書等を読んで予習する（30分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、在宅看護における家族看護として看護者の役割についての理解を深める（1時間）。

関連科目	家族関係論ほか

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	家族看護学、理論と実践　第４版	鈴木和子、渡辺裕子	日本看護協会出版会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公衆衛生看護学．ＪＰ	後閑容子，荒賀直子	インターメディカル
2	国民衛生の動向 2018/2019		厚生労働統計協会
3	家族看護学	上別府圭子他	医学書院

評価方法 （基準）	小テスト・レポート類（20%）、定期試験（80%） 授業態度が不良の場合は、一定の減点を行う場合がある。
学生へのメッセージ	本科目はオムニバス形式で、医療機関や保健機関、事業所などで看護職として豊富な実務経験を有する教員陣が担当します。家族の形が多様化する昨今、患者や対象者だけでなく家族への支援も看護職に求められる中、支援の基礎となる学問です。日々の学習（予習・復習）を大事にし、学びを深めてください。
担当者の研究室等	教員研究室は枚方キャンパス７号館３階。
備考	事後学習課題であるミニレポートについては、毎回、教員が確認した後、次の授業開始時に返却します。 本授業では授業での発言や取り組みの姿勢も評価の対象とします。そのため、本授業の座席は指定とします。 追加の文献や資料などは授業中に紹介します。

科目名	看護学概論	科目名（英文）	Introduction to Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中山　由美.神谷　美紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP4○,DP6○,DP8○		
科目ナンバリング	NDN2025a0		

授業概要・目的	基盤となる看護の主要概念や対象を取り巻く背景などを理解し、看護の歴史と教育を学ぶことにより、看護学を捉える基盤を形成する。 看護職者の倫理感や関連する法について理解し、この授業を通して看護学の学習の基盤となる知識や態度の修得を目指す。 科目責任者は、独立型 3 次救命救急センターで初期治療室、OP 室、ドクターズカーNS、病棟勤務、訪問看護師を行っていました。また総合病院の看護部管理室教育担当者として、院内教育や教育評価に関わっていました。
到達目標	看護の対象である人間と健康、環境について及びそれらの関連が理解できる。 看護の歴史的変移を理解できる。 看護の機能・役割について理解できる。 看護を行う者としての責務を考え、倫理的態度を培う。 看護について自己の考えを述べることができる。
授業方法と留意点	看護とは、また看護職者としての倫理感についての課題を提示し、レポートやグループワーク、発表等を通して学習成果を確認する。さらに、学生が自身の意見を主張する能力を修得するためにテーマに基づく討議を行う。 授業はパワーポイントを使用し、毎回、配布資料と教科書を使用し行う。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業ガイダンスおよび、本学のシラバスの構成について	授業ガイダンスで授業計画、評価方法を理解する。 また本学の看護学部での学びの構成やどのような学生を育成しようとしているのかを理解する。 社会人基礎力について理解する。 （中山由美）	事前課題：テキストの目次にどのような項目があるかを確認してきて下さい。 事後課題：配布資料を復習 して下さい。(30 分)
2	看護と対象となる人・環境について	人や健康、社会の概念を前提に、人の身体的、精神的、社会的特徴を理解する。 （中山由美）	事前課題:教科書第 1 章と第 3 章を読んでくること。(30 分) 事後課題：授業で提示した、「人間」や「環境」を理解するための主要概念について整理しておくこと。(1 時間)
3	看護と対象となる人・環境について	個人・家族・コミュニティ・地域社会、健康障害をもつ対象の理解、ライフサイクル（生死）と発達課題などの個々の特徴を持った人に対する看護とは、どのようなものかを理解する。 （中山由美）	事前課題:テキストの第 3 章を読んでくること。(30 分) 事後課題：授業で学んだ健康の概念、諸指標、看護との関係を整理しておくこと。(1 時間)
4	看護の役割と機能・専門職の連携と協働について	保健・医療・福祉における専門職チームとチーム医療の中での看護の役割について理解する。地域包括ケアシステムにおける看護の役割を理解する。 （神谷）	事前課題：第 4 章を読んでくること。(30 分) 事後課題：配布資料を整理しておくこと。(1 時間)
5	看護の目的、看護実践のねらいについて（1）	ナイチンゲールおよびヘンダーソンなどの理論をもとに看護について理解する。 （中山由美）	事前課題:ナイチンゲールとヘンダーソンの理論を調べてみること。(1 時間) 事後課題:グループで取り扱う理論家のことを調べておくこと。(1 時間)
6	看護の目的、看護実践のねらいについて（2）	看護理論家の理論をグループでまとめて理解を深める。 （中山由美）	事前課題:グループで取り扱う理論家のことを調べてくること。(1 時間) 事後課題:他グループの発表内容を整理しておくこと。(1 時間)
7	看護の目的、看護実践のねらいについて（3）	グループでまとめた看護理論家の理論を発表し、看護について理解を深める。 （中山由美）	事前課題:グループで取り扱う理論家のことを調べてくること。(1 時間) 事後課題:他グループの発表内容を整理しておくこと。(1 時間)
8	看護の歴史について	看護の歴史的変遷を理解して看護の本質を捉えることができる。 （中山由美）	事前課題:教科書第 2 章を読んでくること。(30 分) 事後課題：歴史的背景をまとめ整理しておくこと。(1 時間)
9	看護における職業倫理と患者の権利について（1）	看護に深く関連する道徳と倫理、法律を理解する。 （中山由美）	事前課題：看護職者の倫理綱領を調べてくること。教科書第 6 章第 7 章Ⅰ看護制度を読んでくること。(1 時間) 事後課題：授業内容を整理しておくこと。(1 時間)
10	看護における職業倫理と患者の権利について（2）	グループディスカッションを通して、対象者がどのような権利を保持し、治療過程の対象者に対して看護職にどのような倫理感が必要か自己の考えを述べることができる。 看護学生のとるべき態度について自己の考えを述べることができる。 （中山由美）	事前課題:教科書第 6 章第 7 章Ⅰ看護制度を読んでくること。(30 分) 事後課題:グループメンバーの意見を聴き、倫理感について自己の考えをまとめておくこと。(1 時間)
11	看護師制度と看護教育について	看護師制度について理解する。看護職の様々な資格について理解する。 （中山由美）	事前課題:教科書第 7 章を読んでくること。(30 分) 事後課題：授業内容を整理しておくこと。(1 時間)
12	看護実践について	患者を主体とし、患者の安全・安楽を考えた看護過程および看護過程を実践するための人間関係について理解する。 （中山由美）	事前課題:教科書第 5 章を読んでくること。(30 分) 事後課題：授業内容を整理しておくこと。(1 時間)
13	医療安全について	医療事故の発生メカニズムを理解し、安	事前課題：第 9 章を読んでくること。(30 分)

			全な医療への取り組みを理解する。（神谷）	事後課題：授業内容を整理しておくこと。(1 時間)
	14	グローバル化と災害看護について	グローバル社会における看護のあり方、災害における看護について理解する。（中山由美）	事前課題：教科書第 10 章を読んでくること。(30 分) 事後課題：授業内容を整理しておくこと。(1 時間)
	15	看護とは（まとめ）	グループでディスカッションし、看護とは何か自己の体験や家族などの体験と照らし合わせて理解を深める。（中山由美）	事前課題：課題はアナウンスする。(1 時間) 事後課題：そのひとを理解し、看護とは何かをグループで話し合い、まとめた内容を整理すること。(1 時間)

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新体系看護学全書基礎看護学①看護学概論	宮脇美保子編	メヂカルフレンド社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ケアの本質、生きることの意味	ミルトン・メイヤロフ	ゆみる出版
2	看護の基本となるもの	ヴァージニア・ヘンダーソン	日本看護協会出版会
3	看護覚え書 ： 看護であること・看護でないこと	F．ナイチンゲール	現代社

評価方法（基準）
筆記試験 70%、グループワーク資料や授業参加態度（出席状況含む）など 30%
筆記試験を受けるために、原則、全講義を出席していること。

学生へのメッセージ
大学生活に希望と不安を抱いていると思います。
本授業で看護職とはどのようなものか理解でき、学習の向上に繋がるようにしてもらえたらと思っています。
看護職は自分の関わり一つで、ひとの人生・生命に変化をあたえる仕事です。そのため私たちの倫理感、社会人基礎力、対人関係能力、専門家としての知識と技術が重要となります。それらの能力を磨いていけるようなひとになれるようお互い頑張りましょう。

担当者の研究室等
7 号館 3 階研究室 3（中山由美）、研究室 2（神谷）

備考
医療安全 ナーシンググラフィカ メディカ出版　ISBN-10: 4840453853　も参考になります。興味のある学生は参考資料として読んでみてください。

科目名	看護関係法規	科目名（英文）	Nursing-related Laws
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	足立　安正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP6△		
科目ナンバリング	NDN2024a0		

授業概要・目的	看護職は人々の生活や健康だけでなく、人間の生命に直接関係する職種である。そのため、看護職に関する資格や業務内容は法律で規定されている。看護職が人々の健康を守り、その職務を全うするためには、保健医療福祉に関する諸制度の概要や看護関係法令の理解が必要である。 本科目では、諸制度や法令を知識として学ぶだけでなく、日常生活での経験やマスメディアからの情報、そして、看護と関連づけながら理解できることを目指す。
到達目標	・保健師助産師看護師法に定められている内容を説明することができる。 ・医事法や保健衛生法、薬務法、社会保障法、労働法の重要事項を理解することができる。 ・医療従事者に問われる３種類の法律上の責任について理解することができる。
授業方法と留意点	教科書および配付資料を用いた講義とグループディスカッションによって行う。
科目学習の効果（資格）	看護職に必要な法的な知識を学び、その知識を踏まえたディスカッションを行うことによって、専門的知識が身につくとともに、根拠に基づいた判断と行動ができるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業オリエンテーション 法の概念	・授業概要と進め方の説明 ・厚生行政のしくみ	事前：教科書の該当項目を精読しておく。 事後：教科書や講義資料をよく読む。次回の事前学習と合わせて１時間の復習と予習を行う。
2	看護法(1)	・保健師助産師看護師法の沿革および目的 ・保健師、助産師、看護師の法律上の定義・免許の要件、業務について	事前：教科書の該当項目を精読しておく。 事後：教科書や講義資料をよく読む。次回の事前学習と合わせて１時間の復習と予習を行う。
3	看護法(2)	・看護師等の人材確保の促進に関する法律	事前：教科書の該当項目を精読しておく。 事後：教科書や講義資料をよく読む。次回の事前学習と合わせて１時間の復習と予習を行う。
4	医事法と看護(1)	・医療法	事前：教科書の該当項目を精読しておく。 事後：教科書や講義資料をよく読む。次回の事前学習と合わせて１時間の復習と予習を行う。
5	医事法と看護(2)	・医療関係職種に関する法律	事前：教科書の該当項目を精読しておく。 事後：教科書や講義資料をよく読む。次回の事前学習と合わせて１時間の復習と予習を行う。
6	保健衛生法と看護(1)	・地域保健法 ・がん対策基本法 ・学校保健安全法	事前：教科書の該当項目を精読しておく。 事後：教科書や講義資料をよく読む。次回の事前学習と合わせて１時間の復習と予習を行う。
7	保健衛生法と看護(2)	・精神保健及び精神障害者福祉に関する法 ・予防接種法	事前：教科書の該当項目を精読しておく。 事後：教科書や講義資料をよく読む。次回の事前学習と合わせて１時間の復習と予習を行う。
8	社会保障法と看護(1)	・社会保障制度と医療保険制度の概要 ・障害者基本法 ・障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律	事前：教科書の該当項目を精読しておく。 事後：教科書や講義資料をよく読む。次回の事前学習と合わせて１時間の復習と予習を行う。
9	社会保障法と看護(2)	・児童福祉法 ・配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する防止法 ・生活保護法	事前：教科書の該当項目を精読しておく。 事後：教科書や講義資料をよく読む。次回の事前学習と合わせて１時間の復習と予習を行う。
10	薬事法と看護	・医薬品医療機器等法 ・麻薬及び向精神薬取締法	事前：教科書の該当項目を精読しておく。 事後：教科書や講義資料をよく読む。次回の事前学習と合わせて１時間の復習と予習を行う。
11	労働法と看護	・労働基準法 ・雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法 ・育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律	事前：教科書の該当項目を精読しておく。 事後：教科書や講義資料をよく読む。次回の事前学習と合わせて１時間の復習と予習を行う。
12	看護事故の法的責任(1)	・医療事故と医療過誤、ヒヤリハット	事前：教科書の該当項目を精読しておく。 事後：教科書や講義資料をよく読む。次回の事前学習と合わせて１時間の復習と予習を行う。
13	看護事故の法的責任(2)	・民事上・刑事上および行政上の法的責任	事前：教科書の該当項目を精読しておく。 事後：教科書や講義資料をよく読む。次回の事前学習と合わせて１時間の復習と予習を行う。
14	時事的な医療関連の法律	・医療関連法律のトピックス ・臨地実習における事故の法的責任	事前：教科書の該当項目を精読しておく。 事後：教科書や講義資料をよく読む。次回の事前学習と合わせて１時間の復習と予習を行う。
15	全体のふりかえりとまとめ		事前：教科書の該当項目を精読しておく。 事後：教科書や講義資料をよく読む。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ナーシング・グラフィカ　健康支援と社会保障④ 看護をめぐる法と制度	平林勝政，小西知世，和泉澤千恵	メディカ出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 （基準）	定期試験および課題やグループワークの内容を総合して評価する。 定期試験 70%、課題・グループワーク 30%			
学生への メッセージ	授業担当者の保健師としての実務経験において、保健師活動である家庭訪問や保健事業には根拠となる法令がありました。法令を理解・解釈し、その根拠に基づいて活動することが、人々をまもり、自分をまもることにもつながります。看護師・助産師も同じです。法的な知識を自分の力に変えて活動できるように学んでいきましょう。			
担当者の 研究室等	7 号館 3 階研究室 22			
備考				

科目名	看護管理学	科目名（英文）	Nursing Management
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期後半	授業担当者	撫養　真紀子.伊藤　恵子.安田　照美
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP6△		
科目ナンバリング	NDN3031a0		

授業概要・目的	看護管理の視点から、組織・人材、社会・行政、情報、経済・経営、安全などに関する基本的な知識を学び、医療・看護の質の向上に向けた効果的で効率的な看護管理のあり方を検討する。具体的には、医療チームの一員として多職種との連携と看護職の専門性、看護職としてのキャリア形成、自身の健康管理などを学習する。さらに、看護管理の目的は、看護活動によって人々の健康と幸福に貢献することであり、看護管理からみた看護職の倫理、医療安全を患者・家族と協働し組織として取り組む方法などについて学ぶ。 （オムニバス方式／全８回） １回／ 安田　照美 （第１回） ５回／ 撫養　真紀子 （第２回・第３回・第４回・第５回・第６回） ２回／ 伊藤　恵子 （第７回・第８回）
到達目標	１．看護に関する制度・政策から組織のあり方と病棟管理までをシステムとして理解することができる。 ２．看護管理に関する諸理論と看護実践のあり方を説明できる。 ３．医療・看護の質向上において、看護管理のあり方や重要性が理解できる。 ４．看護専門職としてキャリア形成に向けて必要なことが考察できる。
授業方法と留意点	事前事後学習課題の欄に各回の内容に該当するテキストページを書いているので、テキストを読み予習をして授業に参加する。テキストページの記載がない場合、授業テーマと内容・方法の欄の内容について予習を行う(事前事後の学習時間: 1時間程度)。また、少人数でのグループ討議を行い学びを深める。
科目学習の効果（資格）	看護管理はどのような場においても、対象を中心に看護サービスを提供するために必要な学修である。 より良い看護の提供を創造できる看護職になるために自律的な成長への課題を見出すことができる。 看護師国家試験受験のための必須科目でもある。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	病院における看護管理	・看護サービスと経済のしくみ ・看護サービスマネジメント ・人的資源の確保と開発 ・労務管理	事前学習：本日の内容に該当する教科書の内容を読んでおく。 事後学習：本日の講義内容に該当する教科書の部分を読み直し、実習での学びの根拠を整理する。
2	看護管理の基本となるもの	・看護管理とは、ディスカッション ・看護管理の基盤となる知識 ・看護管理のプロセス	事前課題：教科書の該当箇所を熟読し授業に参加する（教科書 p28-62)。統合実習で受けた病院看護管理者の講義や実習の学びを振り返っておく。 事後課題：講義内容に該当する教科書の部分を読み復習する。
3	看護活動をとりまく法律･制度	・看護管理に関する法律 ・保健医療福祉政策と最近の動向 ・看護と専門機関・職能団体	事前学習：教科書の該当箇所を熟読し授業に参加する（教科書 p198-220)。特に、保健師助産師看護師法を調べておく。 事後学習：本日の講義内容に該当する教科書の部分を読み、看護関係法規の学習内容と併せて学びを整理する。
4	看護職とキャリア	・社会人になる ・看護の教育体系 ・看護職としてのキャリア	事前学習：教科書の該当箇所を熟読し授業に参加する（教科書 p168-186)。冒頭でキャリアについて小グループでの演習を行うので、自らのキャリアについて考えてくる。 事後学習：自己の描くキャリアデザインの実現のためにはどのような課題があるのか考え整理する。
5	看護の質向上	・看護管理と倫理 ・医療安全 ・医療・看護の質と評価	事前課題：教科書の該当箇所を熟読し授業に参加する（教科書ｐ110-136)。医療安全については授業の冒頭で質問をする。 事後課題：臨地実習で実践していた医療安全を想起し学びを整理する。
6	看護管理に求められる能力	・セルフマネジメント ・人とかかわるためのスキル ・集団に働きかけるスキル ・グループワーク、ディスカッション	事前学習：教科書の該当箇所を熟読し授業に参加する（教科書 p138-165)。人・集団に関わるために必要なスキルを考えてくる。 事後学習：本日の講義内容に該当する教科書の部分を読み自己の行動傾向として必要なスキルについて考え整理する。
7	病院のマネジメント	・病院・医療機関の組織と機能 ・医療事故と安全管理 ・災害対応 ・病院機能評価	事前学習：本日の内容に該当する教科書の内容を読んでおく。 事後学習：本日の講義内容に該当する教科書の部分を読み直し、実習での学びの根拠を整理する。
8	病院、施設における看護管理	・看護管理のスキル ・組織の理解 ・経営	事前学習：臨地実習で学修した管理について振り返っておく。 事後学習：本日の講義内容に該当する教科書の部分を読み実習での学びの根拠を整理する。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

<table>
<tr><td>関連科目</td><td>保健医療福祉行政論、看護関係法規、看護学概論、各領域の看護学概論、看護倫理、実習科目全般、キャリアデザイン</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>ﾅｰｼﾝｸﾞ・ｸﾞﾗﾌｨｶ　看護の統合と実践①看護管理　第4版</td><td>吉田千文他</td><td>メディカ出版</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>適宜提示する</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>定期試験および課題やグループワークの内容を総合して評価する。
定期試験　70%、課題・グループワーク　30%</td></tr>
<tr><td>学生へのメッセージ</td><td>看護管理は管理者だけが行うものではない。チームの一員として一人一人が自分の果たす役割を認識したうえで、リーダーシップを発揮できるように取り組むこと。主体的に参加し、自己の考えを述べ、ディスカッションにより多様な考えを受止め、視野を広げられることを期待する。</td></tr>
<tr><td>担当者の研究室等</td><td></td></tr>
<tr><td>備考</td><td>質問等があれば、メールアドレス（makiko_muya@cnas.u-hyogo.ac.jp）に連絡をしてください。
オフィスアワーは授業実施後です。</td></tr>
</table>

科目名	看護教育学	科目名（英文）	Nursing Education
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期前半	授業担当者	中山　由美
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3065a0		

授業概要・目的	看護教育制度の歴史的変遷や現状を理解できる。また継続教育について理解し、教育方法や教育評価について理解することができる。具体的には、看護教育制度、看護教育課程、看護継続教育、看護学教育における倫理的基盤、看護教育方法、および教育目標・計画等の立案、また看護教育評価等に関する基礎的知識を学び、看護師への継続的な教育の必要性や看護職の役割について理解を深める。 授業担当者は独立型救命救急センターで初期治療室、ドクターズカー担当、病棟勤務を経験後、総合病院の看護部管理室教育担当者となり、施設の教育内容や評価について担当した経験がある。
到達目標	1. 看護教育について自己の考えを述べることができる。 2. 看護教育制度の歴史的変遷を理解することができる。 3. 看護学教育における倫理について自己の考えを述べることができる。 4. 看護教育目標・計画立案・教育評価の立案の仕方を理解することができる。 5. 成人教育における教育者としての役割について述べることができる。 6. 今後の自己の学習姿勢について考えることができる。
授業方法と留意点	教科書および配布資料にて授業を行っていく。 教育者と学習者への倫理的配慮について、また成人教育の視点から講義および演習時の関わり方をグループワークまたは個人課題を通して基礎的な教育についての自己の考えを明確にしクラスで共有する。
科目学習の効果（資格）	自己のキャリア形成にも関連し、また職場で教育的立場に立った時に役立つ基礎的知識を学ぶことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	看護教育制度	看護教育の歴史的変遷について	事後学習：授業資料を確認し看護教育・看護学教育・看護教育学の定義を整理する。 教科書の看護教育の歴史的変遷を熟読する。(1 時間程度)
2	看護教育課程	指定規則と看護教育課程、カリキュラム構成について	事前学習：保健師助産師看護師法における保健師助産師看護師学校養成所指定規則について著書を読んでくる。(1 時間程度) 事後学習：授業資料を熟読し、本学のカリキュラム構成と指定規則との関係を考えてみる。また大学のアドミッションポリシーやカリキュラムポリシーとカリキュラムとの関連を考える。(1 時間程度)
3	生涯教育と看護継続教育	生涯学習と看護継続教育の意味を理解し、看護職者のキャリアデザインを検討する	事前学習：生涯学習と看護継続教育の意味を調べてくる。(30 分程度) 事後学習：自己のキャリア目標・ビジョンを検討する。(30 分程度)
4	成人教育における学習理論	ペタゴジー（Pedagogy）とアンドラゴジー（Andragogy）の違いについて	事前学習：ペタゴジー（Pedagogy）とアンドラゴジー（Andragogy）について調べてくる。(1 時間程度) 事後学習：8 回目の授業の発表資料を準備する。今まで受けてきた授業を一つ取り出し、どのような授業方法を実施すると学生が自主的に授業参加するか検討する。(1 時間程度)
5	看護教育学における倫理的基盤	看護学の学習過程で関連してくる倫理的視点を検討する。また教育現場で生じる倫理的視点を検討する	事後学習：自己の実習を指導者や教員の立場に立ち振り返り、倫理的な課題を検討する。また教育者として配慮しないといけない倫理的視点とはどのようなものか検討する。(1 時間程度)
6	看護教育学における倫理的基盤	第 5 回目の内容をグループディスカッションしクラスでの共有を行う。	事前学習：発表資料を作成する。(1 時間程度) 事後学習：クラスで共有した看護教育における倫理的配慮について復習する。(30 分程度)
7	看護教育目標・計画立案・教育評価	看護教育課程や養成所のアドミッションポリシーなどを踏まえた授業目標や授業計画を検討する視点を学ぶ	事前学習：評価に関する自己の考えを説明できるように準備する。(1 時間程度) 事後学習：大学のアドミッションポリシーやカリキュラムポリシーと科目の目標などとの関連を検討する。(1 時間程度)
8	成人教育における学習理論	基礎看護技術Ⅳの授業において成人教育における学習理論を活用した授業方法を検討しグループ発表する	事前学習：発表資料を作成する。(2 時間程度)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	看護学概論、看護関係法規その他これまでに学んだ全ての科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	看護教育学　看護を学ぶ自分と向き合う	クレッグ美鈴／池西悦子	南江堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3
評価方法 （基準）	筆記試験および課題やグループワークの資料などを総合して評価する。 定期試験 50%、課題やグループワーク等 50%。
学生への メッセージ	将来、どのような職場で働くとしても、指導的立場に立つ時期があると思います。そのような時に学習者に効果的な関わりや教育が実施できるひとになって欲しいと思っています。
担当者の 研究室等	７号館・３階　　研究室２　（中山由美）
備考	

科目名	看護研究Ⅰ	科目名（英文）	Nursing Research Ⅰ
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小堀　栄子.田中　結華.青野　美里.足立　安正.池田　友美.泉川　孝子.稲垣　範子.稲垣　美紀.小川　宣子.鎌田　佳奈美.亀田　直子.小﨑　篤志.佐久間　夕美子.志戸岡　惠子.竹下　裕子.但馬　まり子.田中　真佐惠.富永　真己.中山　祐一.中山　由美.名草　みどり.西頭　知子.舟木　友美.松田　千登勢.松本　葉子.眞野　祥子.村瀬　由貴.森谷　利香.山本　智津子.山本　十三代.吉永　愛香
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP4○,DP6○,DP7△		
科目ナンバリング	NDN3069a0		

授業概要・目的	授業では、卒業研究を行うにあたり、研究とは何か、関心のあるテーマをどのように絞り込むのか、研究目的をどのように立てるのか、データは何をどのように収集するのか、集めたデータをどのように分析・解釈するのか、研究倫理とは何かなど、研究の基本的事項を身につけ、研究計画書を作成する。研究に必要なこれら各内容に一貫性をもたせるための具体的なアドバイスを、量的研究を行っている経験をもとに、演習を通して具体的に指導する。前半 10 コマは授業・演習形式で、後半 5 コマは各領域に分かれてゼミ形式で行う。
到達目標	研究の意義、目的、方法、プロセスなどを理解し、研究のイメージが具体的に描けるようになる。研究計画書が書けるようになる。研究倫理の意味と重要性を理解し、研究不正の重大性を認識できるようになる。
授業方法と留意点	講義（前半 10 コマ）と実習、ゼミ（後半 5 コマ）を組み合わせ、理解を深める。
科目学習の効果（資格）	研究の具体的プロセスと各段階で何をすればよいかわかるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	研究とは何か	研究の概要と研究テーマ	・第 1 回学習内容について教科書 p1-10, p37-41 を読むこと（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所 p12-18 を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
2	研究テーマを決める	概念図を描く	・前回学習内容を授業資料と教科書で復習すること（30 分） ・次回学習内容について教科書 p31-36 を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
3	研究の倫理	研究実施に必要な倫理的配慮と科学的姿勢の重要性	・前回学習内容を授業資料と教科書で復習すること（30 分） ・次回学習内容について教科書 p. 44-51 を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
4	文献の検索方法	主な文献検索ソフトの使い方	・前回学習内容を授業資料と教科書で復習すること（30 分） ・次回学習内容について教科書 p130-132 を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
5	量的研究（1）	研究論文の構成と内容	・前回学習内容を授業資料と教科書で復習すること（30 分） ・次回学習内容について教科書 p52-59, p133-138 を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
6	量的研究（2）	文献の読み方、論文の書き方	・前回学習内容を授業資料と教科書で復習すること（30 分） ・次回学習内容について教科書 p72-78 を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
7	量的研究（3）	質問票のつくり方	・前回学習内容を授業資料と教科書で復習すること（30 分） ・次回学習内容について教科書 p84-90, p130-132 を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
8	質的研究（1）	研究論文の構成と内容	・前回学習内容を授業資料と教科書で復習すること（30 分） ・次回学習内容について教科書 p90-102 を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
9	質的研究（2）	インタビューガイドとデータ分析	・前回学習内容を授業資料と教科書で復習すること（30 分） ・次回学習内容について教科書 p19-30 を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
10	研究計画書の書き方	演習	・前回学習内容を授業資料と教科書で復習すること

				（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
	11	各領域でゼミ形式の授業(1)	各領域による	各領域による
	12	各領域でゼミ形式の授業(2)	各領域による	各領域による
	13	各領域でゼミ形式の授業(3)	各領域による	各領域による
	14	各領域でゼミ形式の授業(4)	各領域による	各領域による
	15	各領域でゼミ形式の授業(5)	各領域による	各領域による

関連科目	疫学、統計の基礎

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	楽しくなる看護研究	上野栄一　出口洋二　一ノ山隆司	メヂカルフレンド社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	講義（前半 10 コマ）は科目成績配分全体の 70%とし試験で、またゼミ（後半 5 コマ）は科目成績配分全体の 30%とし、研究計画書の提出で、それぞれ評価する。60%以上を合格とする。全 15 回出席が前提．出席の扱いは学生便覧のとおり（「出席状況が好ましくない場合は、単位を認めないことがあります」学生便覧より）。
学生への メッセージ	・授業では、研究入門を学んでいくうえで最低限必要な理解の枠組みと、その枠組みを理解するうえで最低限必要な知識について講義する。教科書を読むだけでは把握しにくいので、毎回の授業には真剣に臨むこと． ・授業中の私語、教室の出入りは厳禁 ・授業中にあてられたとき教室にいなかった場合は欠席扱い
担当者の 研究室等	7 号館 3 階研究室 24
備考	授業内の演習では授業内で解説を行う。ゼミで各自作成した研究計画書に対しては教員が個別にコメントする。

科目名	看護研究Ⅱ	科目名（英文）	Nursing Research II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田　佳奈美
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	NDN4070a0		

授業概要・目的	「研究入門」「看護研究Ⅰ」の学びをもとに、人や看護に対して関心や疑問をもち、それらを探究できるような研究的・倫理的態度と方法論を習得する。具体的には、各自が関心のあるテーマを絞り、担当教員のもとで、研究計画書の作成、研究への取り組み、論文作成、発表を行う。本研究にかかわる看護教員および医師教員は全員が３年以上の臨床経験を有しており、臨床実践やその基礎となる課題をテーマに研究指導を行う。
到達目標	１．人や看護に関する疑問を研究テーマにすることができる。 ２．研究計画書を作成できる。 ３．研究対象者に対し倫理的配慮ができる。 ４．テーマに沿った研究への取り組みができる。 ５．研究成果を論文にすることができる。 ６．研究成果を発表できる。
授業方法と留意点	担当教員のもとで研究をすすめること。具体的な方法やスケジュール、教室は担当教員によって異なるため、担当教員からの授業に関する連絡事項（ポータル、掲示）を見落とさないように留意すること。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	・担当教員の指示を受け研究をすすめる。 ・研究における倫理的配慮について、担当教員から指導を受ける。 ・研究計画書を作成する。 ・研究計画書に沿って研究を実施する。 ・人を対象とする研究の場合は必ず研究倫理審査を受ける。 ・倫理審査を受けるため、指導教員から指導を受けて申請書類作成する。 ・論文作成時の不正について担当教員より説明を受ける。 ・研究結果に基づいて忠実に論文を作成し、発表する。 ＊事前事後課題としては、テーマに沿って文献検討、結果の分析、論文作成を事前事後で行い、その内容に対して指導を受ける。
関連科目	「看護研究Ⅰ」
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 担当教員の指示を受けること / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 担当教員の指示を受けること / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	成果物およびプレゼンテーションなどルーブリック指標を用いて評価を行う
学生へのメッセージ	自ら積極的・計画的に研究をすすめて下さい。
担当者の研究室等	各担当教員研究室
備考	看護研究Ⅰの後半とⅡは、原則として同じ領域の教員が担当する。

専門科目

科目名	看護対人関係論	科目名（英文）	Human Relationship in Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期後半	授業担当者	佐久間　夕美子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP5△,DP8◎		
科目ナンバリング	NDN2026a0		

授業概要・目的	看護の場における対人関係に関する基本的な概念・技法の理解と修得を目指す。看護師は患者の心身の状態をアセスメントしながら、一人ひとりに合ったコミュニケーションをとる技術の修得が不可欠である。そのような患者－看護師間のコミュニケーションの特徴を学び、「聴くこと」「話すこと」を中心に、看護場面のロールプレイ等を用いた学生同士のグループ学習を通して修得する。また、実習マナー、チーム医療での人間関係のあり方について、リフレクティブな学習方法を通して学ぶ。科目責任者は、総合病院および個人病院等、看護師として約 10 年間勤務した経験から、より実践的な看護場面におけるコミュニケーションや対人関係技術についての教育を行う。
到達目標	１．患者・看護師間のコミュニケーションの特徴について説明できる。 ２．コミュニケーションの際に必要な基本的技法について説明できる。 ３．看護場面のロールプレイを、コミュニケーションの基本的技法を用いて学生同士で行うことができる。 ４．ロールプレイを通して、自分自身と他者のコミュニケーションの振り返りを行うことができる。
授業方法と留意点	講義で理論を説明し、その中で重要なコミュニケーション技法については小グループを編成し演習を行う。具体的な看護場面をイメージできるよう、ビデオや写真等の視覚教材、パワーポイント等も使用する。また、グループで協力し、グループワークやディスカッション、発表を行い、ピア評価も適宜実施する。「知っている」と「できる」とは違う。「できる」ようになるよう、積極的に参加する態度が必要である。そして、この授業で学んださまざまなコミュニケーションの技術を、日常生活の中で練習することが欠かせない。授業では、名札をつけて出席すること。またテキストを毎回持参すること。
科目学習の効果（資格）	患者中心の看護実践にむけて、看護の対象者と適切に人間関係を構築できるよう、基盤となる技術を身につけます。また、全ての看護学実習科目及びその他専門科目を学ぶ上で、この科目での学びが重要となります。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	看護の場における対人関係とは	授業ガイダンスを行うともに、看護の場における対人関係について概要を説明する。また、対人関係を振り返り学習することの重要性、グループの協力について説明する。	事前課題：指定した教科書(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)。 事後課題：小レポートを提出すること。グループでディスカッションし、課題レポートを作成すること(1時間)。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみること(1時間)。
2	患者－看護師関係のコミュニケーションの特徴、「聴くこと」と「話すこと」	患者と看護師の間で築かれる人間関係とそのコミュニケーションの特徴について事例を用いながら学ぶ。また、「聴くこと」・「話すこと」について演習し、考えを深める。	事前課題：指定した教科書(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)。 事後課題：小レポートを提出すること。グループでディスカッションし、課題レポートを作成すること(1時間)。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみること(1時間)。
3	相手のメッセージ（気持ち）を受けとめる（1）	会話は話のキャッチボールを行うものであり、相手が受け取っていなければ何も伝わらない。相手の気持ちを受けとめる会話による「受容」と「傾聴」について学ぶ。	事前課題：指定した教科書(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)。 事後課題：小レポートを提出すること。グループでディスカッションし、課題レポートを作成すること(1時間)。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみること(1時間)。
4	相手のメッセージ（気持ち）を受けとめる（2）	「受容」と「傾聴」についてグループで練習し、相手の気持ちを受けとめる会話について、体験を通した学びを行う。	事前課題：指定した教科書(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)。 事後課題：小レポートを提出すること。グループでディスカッションし、課題レポートを作成すること(1時間)。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみること(1時間)。
5	患者との会話を練習しよう（1）	模擬患者設定を使って、患者の気持ちを受けとめることを目的にロールプレイを行う。学生同士で互いに協力して、役割を変えながら繰り返し練習する。観察役がフィードバックし、よりよいコミュニケーションになるよう練習する。	事前課題：指定した教科書(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)。 事後課題：小レポートを提出すること。グループでディスカッションし、課題レポートを作成すること(1時間)。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみること(1時間)。
6	患者との会話を練習しよう（2）	前回の続きを行う。会話を通して、患者のことばに耳を傾け、その気持ちを受けとめる関わりが、「共感」につながり、看護の重要なスキルであることを体験的に理解する。	事前課題：指定した教科書(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)。 事後課題：小レポートを提出すること。グループでディスカッションし、課題レポートを作成すること(1時間)。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみること(1時間)。
7	現場での学び、チーム医療の人間関係	現場で学ぶことについて、視聴覚教材を用いて、実習で必要なマナーについて考える。また、チーム医療で互いに尊重し合いながら率直にコミュニケーションする人間関係について学ぶ。	事前課題：指定した教科書(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)。 事後課題：小レポートを提出すること。グループでディスカッションし、課題レポートを作成すること(1時間)。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみること(1時間)。
8	まとめ	グループに分かれ、看護の場における対人関係についての今までの学びをまとめて振り返り、達成できたことや今後の課題について話し合い、発表する。	事前課題：指示したテストの出題範囲について復習しておくこと(1時間) 事後課題：授業終了後に示した課題についてレポートを作成すること(1時間)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	看護学概論、各看護学の科目と関連します。特に、各看護学実習で現場で学ぶ際に基本となる科目です。

<table>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>仲間とみがく看護のコミュニケーション・センス</td><td>大森武子　他</td><td>医歯薬出版株式会社</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>授業の参加度とレポート（40%）、ピア評価（10%）、筆記試験（50%）により総合評価する。
筆記試験の受験資格は、原則全ての授業・演習に出席していることとする。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>看護は対象者を身体的・精神的・社会的な側面から理解し、よりよい人間関係を築くことから始まります。看護実践において、対人関係能力はその基本的能力のひとつであり、必要不可欠なものです。何気ないコミュニケーションから、相手の思いに気付く視点をもつことが看護の基本です。また、会話や状況など客観的な事実と、その時感じたこと・考えたことを分けて捉え、分析することも重要です。この授業を通して、今後の実習や学習の基本的な能力を身につけてゆきましょう。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>7 号館 3 階　研究室 1（佐久間）</td></tr>
<tr><td>備考</td><td></td></tr>
</table>

専門科目

科目名	看護倫理	科目名（英文）	Nursing Ethics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期後半	授業担当者	鎌田　佳奈美
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎		
科目ナンバリング	NDN3064a0		

授業概要・目的	あらゆる対象や看護場面で遭遇する倫理的諸問題に対する感受性を高め、倫理原則や理論を用いて、倫理問題の解決に向けた姿勢を育む。 担当責任者である鎌田は、臨床で看護師としての６年の実践経験をもとに、具体的な事例に対する倫理原則や理論を用いたアプローチ方法および、倫理的な姿勢について教授する。
到達目標	１．倫理理論、倫理原則、諸概念について理解する。 ２．倫理問題に関わる人々の立場や背景を理解し、考慮できる。 ３．あらゆる側面から倫理的に判断する素地を身に付ける
授業方法と留意点	統合実習で各学生が体験した倫理場面を取り上げ、課題を見出す。１事例を選択し、各グループで課題の整理および倫理課題のアプローチ方法に基づき、倫理的課題の整理および検討を行う。各グループで検討した内容のプレゼンテーションを行い、学びを共有する。
科目学習の効果（資格）	看護師国家試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	看護倫理の基礎	倫理とは 倫理原則 看護における倫理 意思決定のプロセス	事前：基礎看護学概論で学習した看護倫理にかかる概念について、復習をしておく．(1 時間) 事後：実習での倫理課題の場面を再構成する（1 時間）
2	倫理課題へのアプローチ	倫理原則に基づくアプローチ法について 倫理原則に基づく倫理カンファレンスについて	事前：個々の事例の整理（1 時間） 事後：事例について、倫理的課題を明確にする（1 時間）
3	倫理課題へのアプローチの実際	各事例について、倫理原則に基づくアプローチを検討する	事前：個々の事例の整理（1 時間） 事後：事例について、倫理的課題を明確にする（1 時間）
4	倫理課題へのアプローチの実際	各事例について、倫理原則に基づくアプローチを検討する	事前：事例の倫理課題についてグループワーク(1 時間) 事後：グループワークのプロダクト作成(1 時間)
5	事例検討	成人および老年事例の倫理問題へのアプローチおよび全体討議	事前：事例の倫理課題についてグループワーク(1 時間) 事後：グループワークのまとめ資料作成(1 時間)
6	事例検討	妊産褥婦および小児事例の倫理問題へのアプローチおよび全体討議	事前：事例の倫理課題についてグループワーク(1 時間) 事後：グループワークのまとめ資料作成(1 時間)
7	事例検討	地域・在宅および精神事例の倫理問題へのアプローチおよび全体討議	事前：事例の倫理課題についてグループワーク(1 時間) 事後：グループワークのまとめ資料作成(1 時間)
8	子ども虐待と倫理 臨時試験	子どもの権利侵害としての虐待 まとめ	事前：子ども虐待についての事前学習(1 時間) 事後：全授業の内容を振り帰り(2 時間)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	生命倫理、看護学概論、成人看護学概論、老年看護学概論、母性看護学概論、助産学概論、小児看護学概論、精神看護学概論、在宅看護学概論、全看護学実習

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜提示する		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	個人課題 20%、グループ課題 15%、臨時試験 65%
学生へのメッセージ	統合実習では、看護倫理の授業を意識し、倫理的な感受性を高めて下さい。 また、皆さんが体験した倫理場面に応じて検討、プレゼンテーションがなされるため、シラバス内容および順番が変更する可能性があります。
担当者の研究室等	７号館３階　鎌田研究室 17
備考	・実習で経験した事例をもとに倫理的な視点から振り返り、グループで検討を行う。

科目名	感染と防御	科目名（英文）	Microbiology and Immunology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	伊藤　潔
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN1007a0		

授業概要・目的	それぞれの感染症に特定のウイルスや微生物が関与することを理解するため、代表的な病原体の種類や特徴とそれらが引き起こす症状について学ぶ。また、病原体に対する生体防御機構と予防法や治療法の基礎知識を学ぶことにより、科学的な根拠に基づいて感染症の予防と治療に従事する専門職としての能力を身につける。さらに、分子生物学的・遺伝学的観点から感染と防御について概説することにより、最先端の感染症医療に対応できる能力を身につける。
到達目標	１．代表的な病原微生物の生物学的特徴、感染経路、代表的な治療法および予防法などについて説明できる。 ２．微生物の検出、取扱い、滅菌と消毒について概説できる。 ３．免疫学の発展と免疫系について説明できる。 ４．感染症の患者や家族などに対して適切な態度で接することができる。
授業方法と留意点	教科書の内容を中心に PowerPoint を用いて解説する。必要に応じて練習問題や課題を出すので、正誤にかかわらず自らの考えを記すこと。PowerPoint の内容をまとめたプリントを配布するので、講義前に教科書の該当領域と合わせて熟読し、概要を理解すること。また、講義中に重要と思われる内容をマークしたり、必要に応じて書き込みすること。講義後、再度、教科書とプリントの内容を確認し、重要な内容をノートにまとめること。疑問や質問などがあれば研究室に来て確認して欲しい。
科目学習の効果（資格）	目に見えない病原体の存在とそれらの特性を理解することで、一般市民の健康と生命を守るために必要な衛生学的知識を修得できる。また、感染防御と感染症治療の基礎を理解することで、感染症患者の治療や院内感染防止に役立つ知識を身につけることができる。感染症が誰にでも起こりうる病気であることを理解することで、感染症の患者やその家族に対する偏見を無くし、献身的に医療に従事する態度を醸成する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション(講義の概要について) 感染症とは何か？病原体とは何か？免疫とは何か？感染症の歴史	講義の方法、資料、注意事項、評価方法について説明する。 様々な病原体によって引き起こされる感染症と、免疫の概念について解説する。	事前学習：教科書 p. 1～p. 10 を熟読する（1 時間）。 事後学習：重要な内容についてノートにまとめる（1 時間）。
2	感染・感染症の機構と種類	感染はどうやって起こるのか、感染症の種類について、教科書・プリント・PowerPoint を用いて解説する。	事前学習：教科書 p. 12～p. 43 とプリントの該当部分を熟読する（1 時間）。 事後学習：重要な内容についてノートにまとめる（1 時間）。
3	病原体の概要と分類	病原体（細菌・ウイルス・真菌・原虫・寄生虫・プリオン）の特徴と分類、および疾患との関連について、教科書・プリント・PowerPoint を用いて解説する。	事前学習：教科書 p. 130～139，p. 242～247，p. 310～313，p. 335～338 を熟読する（1 時間）。 事後学習：重要な内容についてノートにまとめる（1 時間）。
4	免疫の概念	免疫反応に関与する細胞や分子の種類と、それらの働きについて解説する。	事前学習：教科書 p. 46～p. 70 とプリントの該当部分を熟読する（1 時間）。 事後学習：重要な内容についてノートにまとめる（1 時間）。
5	免疫系のネットワーク	自然免疫と獲得免疫の特徴、および細胞性免疫反応と液性免疫反応の特徴について解説する。	事前学習：教科書 p. 46～p. 70，p. 77～82 とプリントの該当部分を熟読する（1 時間）。 事後学習：重要な内容についてノートにまとめる（1 時間）。
6	免疫による感染防御と免疫に基づく疾患	ワクチン，正常な免疫系が関与する疾患、免疫系の過剰反応や異常によって起こる疾患の特徴について解説する。	事前学習：教科書 p71～76、p. 83～p. 91 とプリントの該当部分を熟読する（1 時間）。 事後学習：重要な内容についてノートにまとめる（1 時間）。
7	微生物の特徴・微生物検査法・滅菌と消毒	病原微生物の存在や特性を知る方法と、それらを除去する方法について解説する。 病原体を除去したり殺滅する方法と、感染症の予防や治療について解説する。	事前学習：教科書 p. 96～p. 107、p. 156～p. 162、p. 255～p. 257 とプリントの該当部分を熟読する(1時間)。 事後学習：重要な内容についてノートにまとめる（1 時間）。
8	感染症の予防	感染症予防の考え方、予防接種、感染予防対策について解説する。	事前学習：教科書 p. 92～p. 127 の該当部分を熟読する（1 時間）。 事後学習：重要な内容についてノートにまとめる（1 時間）。
9	化学療法	化学療法の概念、歴史と代表的な抗菌薬・抗ウイルス薬、および薬剤耐性について解説する。	事前学習：教科書 p. 163～p. 175 とプリントの該当部分を熟読する（1 時間）。 事後学習：重要な内容についてノートにまとめる（1 時間）。
10	代表的な細菌感染症－１	グラム陽性菌による感染症の例として、ブドウ球菌感染症、ボツリヌス症、結核などについて解説する。	事前学習：教科書 p. 140～p. 155、p. 176～p. 240 とプリントの該当部分を熟読する（1 時間）。 事後学習：重要な内容についてノートにまとめる（1 時間）。
11	代表的な細菌感染症－2	グラム陰性菌やその他の細菌による感染症の例として、ペスト、コレラ、大腸菌感染症などについて解説する。	事前学習：教科書 p. 140～p. 155、p. 176～p. 240 とプリントの該当部分を熟読する（1 時間）。 事後学習：重要な内容についてノートにまとめる（1 時間）。
12	代表的なウイルス感染症－１	ウイルス感染症の例として、ヘルペスやインフルエンザを中心に解説する。	事前学習：教科書 p. 242～p. 307 とプリントの該当部分を熟読する（1 時間）。 事後学習：重要な内容についてノートにまとめる（1 時間）。
13	代表的なウイルス感染症－２	ウイルス感染症の例として、B 型肝炎、後天性免疫不全症候群（ＡＩＤＳ）を中心に解説する。	事前学習：教科書 p. 242～p. 307 とプリントの該当部分を熟読する（1 時間）。 事後学習：重要な内容についてノートにまとめる（1 時間）。
14	真菌の特徴と代表的な真菌感染症	真菌の病原性と代表的な真菌感染症について解説する。	事前学習：教科書 p. 310～p. 333 とプリントの該当部分を熟読する（1 時間）。

				事後学習：重要な内容についてノートにまとめる（1時間）。
	15	原虫・蠕虫の特徴と代表的な寄生虫感染症	寄生虫感染症の例として、マラリアや住血吸虫症などについて解説する。	事前学習：教科書 p. 336～p. 369 とプリントの該当部分を熟読する（1 時間）。 事後学習：重要な内容についてノートにまとめる（1時間）。

関連科目	生命科学概論、生物・化学の基礎、公衆衛生学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	わかる、身につく病原体・感染・免疫	藤本秀士	南山堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	系統看護学講座：微生物学：疾病のなりたちと回復の促進[4]（第 13 版）	南嶋洋一	医学書院
2	ビジュアル微生物学	小田紘	ヌーヴェルヒロカワ
3			

評価方法（基準）	定期試験（100 点満点中 60 点以上で合格）により総合評価する。
学生へのメッセージ	ヒトは多種多様な生物との関わり合いの中で生きている。目に見えないほど小さな生物の中には、ヒトにとって有益なものもあれば、有害なものもある。正常な免疫系は我々の身体を種々の病原体から守る役割を果たしているが、免疫系の異常によって病気が引き起こされる場合もある。ヒトと微生物の関係と免疫の仕組みを理解し、科学的な見地に基づいて感染防御に必要なことは何かを考えられる医療従事者になることを望む。疑問に思ったことがあれば、レポート用紙等に書きとめ、解決して行く姿勢が重要である。
担当者の研究室等	伊藤　潔　（1 号館 5 階　生物系薬学分野（生化学））
備考	感染症や免疫系、および微生物について学ぶためには、生物学の基礎的知識が不可欠であり、高校レベルの生物学の知識を有することが要求される。高校で生物学を履修していない者は、本講義を履修する前に高校の生物学の教科書や教材を参考に自己学習することを勧める。

科目名	基礎看護学実習Ⅰ	科目名（英文）	Clinical Practice in Fundamental Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	佐久間　夕美子.中山　由美.今井　秀人.神谷　美紀子.北村　敦子.舟木　友美
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP4◎,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎		
科目ナンバリング	NDN2032a0		

授業概要・目的	看護学概論等の既習内容を踏まえ、保健医療の現場における看護の対象である人とその生活・健康状態、それらを取り巻く環境のあり方、看護職者やチーム専門職者の役割を体験的に学び、看護の役割や機能について理解を深め、今後の看護を学ぶ動機とする。 [実習目的] 看護の対象となる人とその人を取り巻く環境を理解する。 また、実習による体験を通して、看護の目的と役割、看護の機能する場および看護活動に関する知識を深める。
到達目標	1）看護の対象となる人の療養生活を支える環境のあり方を理解する。 2）看護の対象となる人とその健康状態、生活や思いを理解し、看護職者およびその他の専門職者による援助の実際を知る。 3）看護の目的、看護が果たす役割や機能する場、看護のあり方について自己の考えをまとめ、今後の看護を学習する上での課題を見出すことができる。 4）看護学生として適切な態度で実習に臨むことができる。
授業方法と留意点	原則として実習病棟への学生配置は1グループ4～6人編成とし、各グループは教員の指導を受ける。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	1．実習時期 9月上旬 2．事前学内オリエンテーション ○実習前に、実習目的・目標、実習計画、事前学習、留意事項等の説明を受ける。 ○実習目的・目標をもとに、各自の実習における課題と目標を明確にする。 3．病院実習 ○臨床講義：看護部長より病院の概要および看護職者の役割についての講義を受ける。 ○病院内見学：病院環境の見学を行い、各部署の機能について説明を受ける。 ○病棟実習：看護場面を見学する。 入院患者とのコミュニケーションを通して、対象者の健康状態、生活状態や思いについて知る。 4．学内実習 ○実習を通して学んだことを討議し、発表する。
関連科目	看護学概論、看護対人関係論
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	実習目的・目標の達成状況、実習記録を総合して評価する。
学生へのメッセージ	看護学生として初めての病院実習です。学内で看護学生としての心構えや態度をしっかり学び、体調を整えて実習に臨みましょう。
担当者の研究室等	7号館3階　研究室1（佐久間）、研究室3（中山）、研究室2（神谷）、共同研究室1（北村、舟木）、共同研究室3（今井）
備考	実習病院 星ヶ丘医療センター、関西医科大学附属病院

専門科目

科目名	基礎看護学実習Ⅱ	科目名（英文）	Clinical Practice in Fundamental Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	中山　由美.今井　秀人.神谷　美紀子.北村　敦子.佐久間　夕美子.舟木　友美
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎		
科目ナンバリング	NDN2033a0		

授業概要・目的	［実習目的］ 看護の対象となる人を総合的に理解し、対象者の日常生活の援助に焦点をあて、看護過程を段階的に展開できる基礎的能力を培う。また、看護職者に必要な態度を養う。 ［概要］ 医療の場で療養生活を送る対象者を受け持ち、対象者の日常生活の援助に焦点をあて対象者に必要な援助を明確にする。 既習の知識・技術を統合して、対象者が必要としている看護を実践する。 具体的には、対象者と人間関係を形成し、ヘンダーソンの 14 の項目で情報収集を行い、情報の分析から看護問題を抽出する。対象者に即した援助の必要性を検討し、日々、看護計画を立案・実施する。また日々、立案した看護計画や実践の評価方法を理解する。これらの実践過程を通して、自己の看護観、倫理感について考えを深める。
到達目標	１）対象者と対人関係を築きながら発達段階、健康状態、日常生活に焦点を当てて情報を収集することができる。 （１）対象者とコミュニケーションを図り、対人関係を築くことができる。 （２）対象者の発達段階、健康状態、日常生活等を把握するために必要な情報を、記録やフィジカルイグザミネーション、インタビューおよび看護の場面への参加を通して収集することができる。 ２）対象者について、気づいたことに着目して情報を集め、日々の日常生活上のケアの計画を立案することができる。 ３）立案した日々のケアの計画を、教員、指導者の指導のもと、実施することができる。 ４）実施したケアおよび計画の考察を行うことができる。 ５）収集した情報をヘンダーソンの 14 のニードの枠組みで整理・統合・分析し、対象者の状態を把握することができる。 ６）実習を通して得た学びを振り返り、看護に対する自らの考えを明らかにすることができる。 ７）主体的に実習に取り組み、看護学生として適切な態度で実習に臨むことができる。 （１）対象者の尊厳と権利を尊重し、プライバシーの保護を行うことができる。 （２）自ら学ぶ態度で情報を求め、注意事項を守り、積極的に実習することができる。 （３）実習に必要な事前学習を行い、知識・技術の復習を行うことができる。 （４）グループのリーダーまたはメンバーとしての役割を果たし、協力しあうことができる。 （５）看護師・担当教員からの助言を適切に受け止め、実習に生かすことができる。
授業方法と留意点	【授業方法と留意点】 1.実習グループは、1 グループ 5～6 名編成とし、担当教員および臨地実習指導者の指導を受ける。 2.実習施設概要・留意事項等のオリエンテーションを受ける。 3.実習目的・目標をもとに、各自の実習における課題と目標を明確にする。 4.実習に必要な事前学習を行い、知識・技術の復習を行う。 5.実習にあたり、実習病院・病棟から、病棟の機能や看護職の役割について、オリエンテーションを受ける。 6.原則として、入院中の患者を１名受持ち、対象者の全体像を把握し日々の中で必要な看護を立案し実践・評価する。 7.病棟実習では毎日、学生主体のカンファレンスを行う。 8.カンファレンスでは、一日の振り返りと翌日の計画について意見交換し、お互いの学びを共有する。 9.実習記録は、毎日必ず記録し、担当教員および臨地実習指導者からの助言・指導を受ける。 10.各自の実習における学びを各グループで検討してまとめ、互いに発表を行って共有する。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	［実習内容］ １．オリエンテーション 実習前にオリエンテーションを受け、実習に必要な知識・技術の復習を行う。 ２．病院実習 1 月～3 月に、以下の内容で 2 週間の実習を行う。 1)対象者の紹介をうけ、人間関係を形成する。 2)対象者の発達段階、健康状態、日常生活を把握するために必要な情報を、インタビューや記録、フィジカルイグザミネーション、および看護の場面への参加を通して収集する。 3)収集した情報をヘンダーソンの 14 の項目に沿って整理・分析し、対象者の看護問題を抽出する。 4)抽出した看護問題から患者に必要な日常生活援助を導きだす。 5)得られた問題に対する日々の看護目標および実習目標を適切に設定する。 6)日々の看護目標を達成するための看護計画を立案する。 7)対象者が必要としている看護技術について気づき、対象者に応じた方法を検討する。 8)立案した日々の計画を、教員・臨地実習指導者の指導の下で実施する。 9)看護計画および実施した看護について、指導教員の指導のもと、評価・修正する。 10)最終的に実習全体を通じた学びを振り返り、看護に対する自らの考えを述べる。 11)実習に必要な事前学習を行い、知識・技術を復習して実習の準備をする。 12)実習を行う上で必要な情報を積極的に求め、グループメンバーと共有し連携する。 13)臨地実習指導者・指導教員からの助言を適切にうけとめ、積極的に実習に生かす。 14)実施内容については臨地実習指導者・指導教員の指導を得てから行う。 15)観察・実施内容については、臨地実習指導者・指導教員に適切に報告を行う。 16)対象者の権利を尊重し、プライバシーの保護を行う。 17) 看護職に必要な態度について看護職者の倫理綱領などに照らし合わせて自己の考えをまとめる。
関連科目	看護学概論、看護対人関係論、基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、疾病治療論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ、薬物治療学など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教科書・・なし		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	参考書・・必要に応じて適宜紹介する。		
2			
3			

評価方法 （基準）	実習内容(実習目的・目標の達成状況、記録、実習態度)を総合して評価する。 ※記録については最終記提出の評価だけではなく、日々の記録の記載状況や内容も含みます。 原則、全日休まず実習に参加していること。
学生への メッセージ	看護の対象者への関わりを通して支援の必要性を見出し、個別性を考慮した看護を考え実践できるようになりましょう。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　研究室 3（中山）、研究室 4（佐久間）、研究室 2（神谷）、共同研究室 1（北村、舟木）、共同研究室 3（今井）
備考	［実習場所］ 星ヶ丘医療センター、関西医科大学附属病院、関西電力病院

科目名	基礎看護技術Ⅰ	科目名（英文）	Fundamental of Nursing Skills Ⅰ
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	佐久間　夕美子.中山　由美.今井　秀人.神谷　美紀子.北村　敦子.舟木　友美
ディプロマポリシー(DP)	DP2○,DP3○,DP6○,DP7◎,DP8○		
科目ナンバリング	NDN2027a0		

授業概要・目的	看護を実践するための基本的な看護技術のうち、日常生活を整える援助技術を学ぶ。科学的根拠に基づき安全と安楽に留意しながら、対象者の生活を整える看護援助を実践するための基本的能力を培う。科目責任者は総合病院および個人病院等、看護師として約10年間勤務した経験から、日常生活の援助技術に関する実践的な教育を行う。
到達目標	看護技術の基本的な考え方、療養環境の調整、体位の整えと移動の援助、活動休息の援助、バイタルサインの観察、衣生活の援助、食事の援助、排泄の援助、身体清潔の援助について根拠を踏まえた技術の理論と技法を修得する。
授業方法と留意点	基本的には講義形式で日常生活を整える援助の理論を学び、その後、基礎看護学実習室にて技術演習を行う。 授業では教科書を用いるが、最新の情報やトピックスを提供するため、配付資料を適宜追加する。また援助場面をイメージできるように、ビデオや写真等の視聴覚教材、パワーポイント等も使用する。 技術演習では教員が援助のデモンストレーションを行い、具体的な方法や注意事項等を示しながら実施する。教員は少人数グループを担当し、個別に指導を行う。また、看護師及び患者役割の体験から援助技術に関するグループワークやディスカッション、発表等を行い、クラス全体での学びを深める。
科目学習の効果（資格）	基礎看護学実習Ⅰ、Ⅱの履修にかかわる科目。 基礎看護技術Ⅱの履修にかかわる科目。 看護師国家試験受験資格にかかわる科目。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	看護技術とは	看護技術の基本的な考え方について概観する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1時間)。
2	療養環境の調整（1)	療養環境の調整に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1時間)。
3	療養環境の調整（2)	ベッドメーキングを実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1時間)。
4	療養環境の調整（3)	ベッドメーキングを実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1時間)。
5	療養環境の調整（4)	臥床患者のシーツ交換を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1時間)。
6	療養環境の調整（5)	臥床患者のシーツ交換を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1時間)。
7	体位の整え(1)	ボディメカニクス・体位の整えに関する	【事前課題】

			理論を学ぶ	教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1 時間)。
	8	体位の整え(2)	臥床患者の体位の整えを実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み，ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1 時間)。
	9	体位の整え(3)	臥床患者の体位の整えを実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1 時間)。
	10	移動・移送の援助(1)	移動・移送の援助に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1 時間)。
	11	移動・移送の援助(2)	車いす・ストレッチャーでの移動・移送の援助を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1 時間)。
	12	移動・移送の援助(3)	車いす・ストレッチャーでの移動・移送の援助を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1 時間)。
	13	活動・休息の援助	活動・休息の援助に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1 時間)。
	14	バイタルサインの観察(1)	バイタルサインに関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1 時間)。
	15	バイタルサインの観察(2)	バイタルサインの観察を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1 時間)。
	16	バイタルサインの観察	バイタルサインの観察を実践する	【事前課題】

	(3)		教科書の該当部分を事前に読み，ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1 時間)。
17	衣生活の援助(1)	衣生活の援助に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1 時間)。
18	衣生活の援助(2)	臥床患者の寝衣交換を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1 時間)。
19	身体の清潔(1)	身体の清潔に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1 時間)。
20	身体の清潔(2)	清潔を実践する：口腔ケアを実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1 時間)。
21	身体の清潔(3)	身体の清潔を実践する：臥床患者の洗髪を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1 時間)。
22	身体の清潔(4)	身体の清潔を実践する：臥床患者の洗髪を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1 時間)。
23	身体の清潔(5)	身体の清潔を実践する：臥床患者の手浴・足浴を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1 時間)。
24	身体の清潔(6)	身体の清潔を実践する：臥床患者の全身清拭を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1 時間)。
25	食事の援助(1)	食事の援助に関する理論を学ぶ	【事前課題】

				教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1 時間)。
	26	食事の援助(2)	食事の援助を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1 時間)。
	27	排泄の援助(1)	排泄の援助に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1 時間)。
	28	排泄の援助(2)	便尿器・おむつによる排泄の援助を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1 時間)。
	29	排泄の援助(3)	便尿器・おむつによる排泄の援助を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1 時間)。
	30	学びのまとめ	学びの整理と総合技術トレーニングを実践する	【事前課題】 事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間)。また、課題の看護技術については自己練習を重ね、確実に実施できるように準備すること(2 時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1 時間)。

関連科目	基礎看護技術Ⅱ　基礎看護技術Ⅲ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新体系　看護学全書　専門分野Ⅰ　基礎看護学　基礎看護技術Ⅰ	深井喜代子	メヂカルフレンド社
2	新体系　看護学全書　専門分野Ⅰ　基礎看護学　基礎看護技術Ⅱ	深井喜代子	メヂカルフレンド社
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	基礎看護技術	阿曽洋子	医学書院
2			
3			

評価方法 （基準）	筆記試験、実技試験、授業への参加状況や授業態度により評価する。 筆記試験 40%、実技試験 30%、課題レポートの提出状況と内容 20%、授業態度 10% 筆記試験と実技試験の受験資格は、原則全ての授業及び演習に出席していることとする。
学生への メッセージ	基礎看護技術Ⅰで学ぶ内容は、今後全ての看護学実習の基礎となります。積極的に授業に参加するだけでなく、練習を繰り返し行い、知識と技術を確実に身につけて下さい。自己学習には教科書や授業資料の他、ナーシング・スキルを活用して下さい。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　研究室 1（佐久間)、研究室 3（中山)、研究室 2（神谷)、共同研究室 1（北村、舟木)、共同研究室 3（今井）
備考	技術演習時の服装、身だしなみ、持参物品等については、事前に別途指示します。

科目名	基礎看護技術Ⅰ	科目名（英文）	Fundamental of Nursing Skills Ⅰ
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	佐久間　夕美子.中山　由美.今井　秀人.神谷　美紀子.北村　敦子.舟木　友美
ディプロマポリシー(DP)	DP2○,DP3○,DP6○,DP7◎,DP8○		
科目ナンバリング	NDN2027a0		

授業概要・目的	看護を実践するための基本的な看護技術のうち、日常生活を整える援助技術を学ぶ。科学的根拠に基づき安全と安楽に留意しながら、対象者の生活を整える看護援助を実践するための基本的能力を培う。科目責任者は総合病院および個人病院等、看護師として約10年間勤務した経験から、日常生活の援助技術に関する実践的な教育を行う。
到達目標	看護技術の基本的な考え方、療養環境の調整、体位の整えと移動の援助、活動休息の援助、バイタルサインの観察、衣生活の援助、食事の援助、排泄の援助、身体清潔の援助について根拠を踏まえた技術の理論と技法を修得する。
授業方法と留意点	基本的には講義形式で日常生活を整える援助の理論を学び、その後、基礎看護学実習室にて技術演習を行う。 授業では教科書を用いるが、最新の情報やトピックスを提供するため、配付資料を適宜追加する。また援助場面をイメージできるように、ビデオや写真等の視聴覚教材、パワーポイント等も使用する。 技術演習では教員が援助のデモンストレーションを行い、具体的な方法や注意事項等を示しながら実施する。教員は少人数グループを担当し、個別に指導を行う。また、看護師及び患者役割の体験から援助技術に関するグループワークやディスカッション、発表等を行い、クラス全体での学びを深める。
科目学習の効果（資格）	基礎看護学実習Ⅰ、Ⅱの履修にかかわる科目。 基礎看護技術Ⅱの履修にかかわる科目。 看護師国家試験受験資格にかかわる科目。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	看護技術とは	看護技術の基本的な考え方について概観する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1時間)。
2	療養環境の調整（1)	療養環境の調整に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1時間)。
3	療養環境の調整（2)	ベッドメーキングを実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1時間)。
4	療養環境の調整（3)	ベッドメーキングを実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1時間)。
5	療養環境の調整（4)	臥床患者のシーツ交換を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1時間)。
6	療養環境の調整（5)	臥床患者のシーツ交換を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1時間)。
7	体位の整え(1)	ボディメカニクス・体位の整えに関する	【事前課題】

			理論を学ぶ	教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1 時間)。
	8	体位の整え(2)	臥床患者の体位の整えを実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み，ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1 時間)。
	9	体位の整え(3)	臥床患者の体位の整えを実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1 時間)。
	10	移動・移送の援助(1)	移動・移送の援助に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1 時間)。
	11	移動・移送の援助(2)	車いす・ストレッチャーでの移動・移送の援助を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1 時間)。
	12	移動・移送の援助(3)	車いす・ストレッチャーでの移動・移送の援助を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1 時間)。
	13	活動・休息の援助	活動・休息の援助に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1 時間)。
	14	バイタルサインの観察(1)	バイタルサインに関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1 時間)。
	15	バイタルサインの観察(2)	バイタルサインの観察を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1 時間)。
	16	バイタルサインの観察	バイタルサインの観察を実践する	【事前課題】

	(3)		教科書の該当部分を事前に読み，ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1 時間)。
17	衣生活の援助(1)	衣生活の援助に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1 時間)。
18	衣生活の援助(2)	臥床患者の寝衣交換を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1 時間)。
19	身体の清潔(1)	身体の清潔に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1 時間)。
20	身体の清潔(2)	清潔を実践する：口腔ケアを実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1 時間)。
21	身体の清潔(3)	身体の清潔を実践する：臥床患者の洗髪を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1 時間)。
22	身体の清潔(4)	身体の清潔を実践する：臥床患者の洗髪を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1 時間)。
23	身体の清潔(5)	身体の清潔を実践する：臥床患者の手浴・足浴を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1 時間)。
24	身体の清潔(6)	身体の清潔を実践する：臥床患者の全身清拭を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1 時間)。
25	食事の援助(1)	食事の援助に関する理論を学ぶ	【事前課題】

				教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1 時間)。
	26	食事の援助(2)	食事の援助を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1 時間)。
	27	排泄の援助(1)	排泄の援助に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1 時間)。
	28	排泄の援助(2)	便尿器・おむつによる排泄の援助を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1 時間)。
	29	排泄の援助(3)	便尿器・おむつによる排泄の援助を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1 時間)。
	30	学びのまとめ	学びの整理と総合技術トレーニングを実践する	【事前課題】 事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間)。また、課題の看護技術については自己練習を重ね、確実に実施できるように準備すること(2 時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1 時間)。

関連科目	基礎看護技術Ⅱ　基礎看護技術Ⅲ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新体系　看護学全書　専門分野Ⅰ　基礎看護学　基礎看護技術Ⅰ	深井喜代子	メヂカルフレンド社
2	新体系　看護学全書　専門分野Ⅰ　基礎看護学　基礎看護技術Ⅱ	深井喜代子	メヂカルフレンド社
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	基礎看護技術	阿曽洋子	医学書院
2			
3			

評価方法 （基準）	筆記試験、実技試験、授業への参加状況や授業態度により評価する。 筆記試験 40%、実技試験 30%、課題レポートの提出状況と内容 20%、授業態度 10% 筆記試験と実技試験の受験資格は、原則全ての授業及び演習に出席していることとする。
学生への メッセージ	基礎看護技術Ⅰで学ぶ内容は、今後全ての看護学実習の基礎となります。積極的に授業に参加するだけでなく、練習を繰り返し行い、知識と技術を確実に身につけて下さい。自己学習には教科書や授業資料の他、ナーシング・スキルを活用して下さい。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　研究室 1（佐久間)、研究室 3（中山)、研究室 2（神谷)、共同研究室 1（北村、舟木)、共同研究室 3（今井）
備考	技術演習時の服装、身だしなみ、持参物品等については、事前に別途指示します。

科目名	基礎看護技術Ⅱ	科目名（英文）	Fundamental of Nursing Skills II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	２年	クラス	1
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中山　由美.今井　秀人.神谷　美紀子.北村　敦子.佐久間　夕美子.舟木　友美
ディプロマポリシー(DP)	DP2○,DP3○,DP6○,DP7◎,DP8○		
科目ナンバリング	NDN2028a0		

授業概要・目的	看護を実践するための看護基本技術のうち、診療に伴う看護技術を学ぶ。対象者の立場に立ち、正確で安全な援助を提供できるように、根拠を踏まえた技術を修得する。具体的には、感染予防の看護、薬物療法の看護、検査時の看護、体温維持の看護、呼吸障害の看護、栄養障害の看護、排泄障害の看護、創傷の看護などについて技術を修得する。 科目責任者は、独立型三次救命救急センターに勤務し、初期治療室、OP 室、ドクターズカー担当、病棟勤務を行い、訪問看護師も行っていました。また総合病院の看護管理部で教育担当者として看護師教育に携わっていました。
到達目標	診療に伴う看護技術について、手技の１つ１つの根拠を述べることができる。 検査・治療を受ける患者、家族の立場に立った関わりや倫理的側面を考えることができる。 診療に伴う看護技術を実践することができる。
授業方法と留意点	授業計画に沿って教科書を基本とし、各援助方法について学習する。 最新の情報を提供するため、適宜、資料を配布し説明する。 援助場面をイメージできるように、ビデオや写真等の視聴覚教材、パワーポイント等を使用する。 毎回、教員によるデモンストレーションを実施する。教員が少人数制のグループを担当し、注射等の技術実践時には、安全をはかりながら個別指導を行う。また患者役を体験し、患者の立場から看護技術や関わり方を振り返る。患者の安全、安楽、倫理的配慮を考え学びを深める。 総合トレーニングでは、事例患者への援助方法をグループで検討後、実践方法を発表することでクラス全体で学びを深める。
科目学習の効果（資格）	基礎看護学実習Ⅱを履修するために重要な科目となります。 看護師国家試験受験資格にかかわる科目です。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	診療に伴う看護技術	診療に伴う看護とはどのようなものか、また関連法規からも理解をする。	【事前課題】 診療時の看護師の役割、看護倫理綱領を各自で復習し授業に出席すること。(1 時間) 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。(30 分)
2	薬物療法・注射時の看護	薬物療法、注射時の看護の役割を学び、安全、安楽な援助が実施できるように関連法規をふまえて理解する。	【事前課題】 教科書の薬物療法の項を読んだ上で出席すること。(1 時間) 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。(30 分)
3	感染予防の看護	滅菌・消毒方法や無菌操作、またスタンダードプリコーション等について理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。(1 時間) 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。(30 分)
4	感染予防	手指消毒法、マスク、ガウン等の装着方法を実施する。	【事前課題】 ナーシングスキルや教科書のスタンダードプリコーションの手技の項から、各自チェックリストの作成と根拠を調べる。(1 時間) 【事後課題】 教員のデモや演習を踏まえて自己が作成したチェックリストに追記し学びを深める。(1 時間)
5	無菌操作（1）	注射器等の取り扱いや注射器と注射針の接続等について実施する。	【事前課題】 ナーシングスキルや教科書の注射器・注射針の接続、薬液の吸い上げの項から、各自チェックリストの作成と根拠を調べる。(1 時間) 【事後課題】 教員のデモや演習を踏まえて自己が作成したチェックリストに追記し学びを深める。(1 時間)
6	無菌操作（1）	注射器等の取り扱いや注射器と注射針の接続等について実施する。	【事前課題】 ナーシングスキルや教科書の注射器・注射針の接続、薬液の吸い上げの項から、各自チェックリストの作成と根拠を調べる。(1 時間) 【事後課題】 教員のデモや演習を踏まえて自己が作成したチェックリストに追記し学びを深める。(1 時間)
7	皮下注射	上腕モデル等を用いて、安全、安楽に皮下注射を実施する。	【事前課題】 ナーシングスキルや教科書の皮下注射の項から、各自チェックリストの作成と根拠を調べる。(1 時間) 【事後課題】 教員のデモや演習を踏まえて自己が作成したチェックリストに追記し学びを深める。(1 時間)
8	皮下注射	上腕モデル等を用いて、安全、安楽に皮下注射を実施する。	【事前課題】 ナーシングスキルや教科書の皮下注射の項から、各自チェックリストの作成と根拠を調べる。(1 時間) 【事後課題】(1 時間) 教員のデモや演習を踏まえて自己が作成したチェックリストに追記し学びを深める。
9	筋肉注射	上腕・臀部モデルを用いて、安全、安楽に筋肉注射を実施する。	【事前課題】 ナーシングスキルや教科書の筋内肉注射の項から、各

				自チェックリストの作成と根拠を調べる。(1 時間) 【事後課題】 教員のデモや演習を踏まえて自己が作成したチェックリストに追記し学びを深める。(1 時間)
	10	筋肉注射	上腕・臀部モデルを用いて、安全、安楽に筋肉注射を実施する。	【事前課題】 ナーシングスキルや教科書の筋内肉注射の項から、各自チェックリストの作成と根拠を調べる。(1 時間) 【事後課題】 教員のデモや演習を踏まえて自己が作成したチェックリストに追記し学びを深める。(1 時間)
	11	技術トレーニング／実技到達度チェック	学習した注射関連の技術トレーニングを行い、技術の到達度を確認する。	【事前課題】 注射器と注射針の無菌的接続または薬物の吸い上げの手技を振り返る。(1 時間) 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
	12	検査時の看護	検査時の援助方法および、検体の採取と取扱いについて理解する。	【事前課題】 教科書の検査時の看護師の役割の項を読んだ上で授業に参加すること。(1 時間) 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
	13	末梢静脈血採血	血管モデルを使用し、安全、安楽に末梢静脈血採血を実施する。	【事前課題】 ナーシングスキルや教科書の採血の項から、各自チェックリストの作成と根拠を調べる。(1 時間) 【事後課題】 教員のデモや演習を踏まえて自己が作成したチェックリストに追記し学びを深める。(1 時間)
	14	末梢静脈血採血	血管モデルを使用し、安全、安楽に末梢静脈血採血を実施する。	【事前課題】 ナーシングスキルや教科書の採血の項から、各自チェックリストの作成と根拠を調べる。(1 時間) 【事後課題】 教員のデモや演習を踏まえて自己が作成したチェックリストに追記し学びを深める。(1 時間)
	15	薬物療法・輸液の看護	輸液実施時の看護の役割を学び、安全、安楽な援助方法を理解する。	【事前課題】 教科書の輸液療法の項を読んだ上で出席すること。(30 分) 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。(30 分)
	16	輸液療法・静脈内注射	血管モデルを使用し、安全、安楽に輸液療法及び静脈内注射を実施する。	【事前課題】 ナーシングスキルや教科書の輸液療法の項から、各自チェックリストの作成と根拠を調べる。(1 時間) 【事後課題】 教員のデモや演習を踏まえて自己が作成したチェックリストに追記し学びを深める。(1 時間)
	17	輸液療法・静脈内注射	血管モデルを使用し、安全、安楽に輸液療法及び静脈内注射を実施する。	【事前課題】 ナーシングスキルや教科書の輸液療法の項から、各自チェックリストの作成と根拠を調べる。(1 時間) 【事後課題】 教員のデモや演習を踏まえて自己が作成したチェックリストに追記し学びを深める。(1 時間)
	18	技術トレーニング／実技到達度チェック	学習した注射関連の技術トレーニングを行い、技術の到達度を確認する。	【事前課題】 皮下注射、筋肉内注射の手技を振り返る。(1 時間) 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。(1 時間)
	19	創傷の看護	創傷ケアの基礎的な理論と技術を理解する。	【事前課題】 教科書の創傷管理の項を読んだ上で出席すること。(30 分) 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。(30 分)
	20	排泄障害の看護	排泄障害に対する援助と、その援助方法としてのグリセリン浣腸、導尿法について理解する。	【事前課題】 教科書の導尿時の看護の項を読んだ上で出席すること。(1 時間) 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。(30 分)
	21	無菌操作（2）	滅菌物の取り扱い等を実施する。	【事前課題】 ナーシングスキルや教科書の滅菌物の取扱いの項から、各自チェックリストの作成と根拠を調べる。(1 時間) 【事後課題】 教員のデモや演習を踏まえて自己が作成したチェックリストに追記し学びを深める。(1 時間)
	22	創傷管理	ガーゼ交換などの創傷処置と包帯法・三角巾法を実施する。	【事前課題】 ナーシングスキルや教科書の創傷処置の項から、各自チェックリストの作成と根拠を調べる。(1 時間) 【事後課題】 教員のデモや演習を踏まえて自己が作成したチェックリストに追記し学びを深める。(1 時間)
	23	導尿	膀胱留置バルンカテーテルの挿入につい	【事前課題】

			てモデルを用いて実施する。 滅菌手袋の装着を行う。	ナーシングスキルや教科書の導尿も項から、各自チェックリストの作成と根拠を調べる。(1 時間) 【事後課題】 教員のデモや演習を踏まえて自己が作成したチェックリストに追記し学びを深める。(1 時間)
	24	導尿	膀胱留置バルンカテーテルの挿入についてモデルを用いて実施する。 滅菌手袋の装着を行う。	【事前課題】 ナーシングスキルや教科書の導尿も項から、各自チェックリストの作成と根拠を調べる。(1 時間) 【事後課題】 教員のデモや演習を踏まえて自己が作成したチェックリストに追記し学びを深める。(1 時間)
	25	栄養障害の看護（栄養）	栄養状態のアセスメント方法、栄養摂取への援助方法を理解する。 経管栄養法について理解する。	【事前課題】 教科書の経管栄養の項を読んだ上で出席すること。(30 分) 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。(30 分)
	26	呼吸障害の看護	呼吸障害がある患者のアセスメント方法や呼吸状態を整える援助方法を理解する。	【事前課題】 教科書の酸素療法の項を読んだ上で出席すること。(30 分) 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。(30 分)
	27	酸素療法	酸素ボンベの取り扱い、酸素療法に伴う援助を実施する。	【事前課題】 ナーシングスキルや教科書の酸素療法の項から、各自チェックリストの作成と根拠を調べる。(1 時間) 【事後課題】 教員のデモや演習を踏まえて自己が作成したチェックリストに追記し学びを深める。(1 時間)
	28	体温維持の看護および温・冷罨法	体温の異常についてのアセスメント方法や罨法など体温の恒常性への援助方法について理解する。	【事前課題】 教科書の罨法の項を読んだ上で出席すること。(30 分) 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。(30 分)
	29	総合トレーニング（事例患者への援助）	輸液ルートなどを装着している事例患者に対しての援助をグループで検討し実践発表を行う。	【事前課題】 演習前に学習内容を別紙で配布する。(1 時間) 課題レポートおよびグループでの実践のプレゼン準備を行うこと。 【事後課題】他グループの発表を参考にし学びを深める。(1 時間)
	30	総合トレーニング（事例患者への援助）	輸液ルートなどを装着している事例患者に対しての援助をグループで検討し実践発表を行う。	【事前課題】 演習前に学習内容を別紙で配布する。(1 時間) 課題レポートおよびグループでの実践のプレゼン準備を行うこと。 【事後課題】他グループの発表を参考にし学びを深める。(1 時間)

関連科目	基礎看護技術Ⅰ等。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技Ⅱ	深井喜代子（編）	メヂカルフレンド社
2	新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技Ⅰ	深井喜代子（編）	メヂカルフレンド社
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	基礎看護技術	阿曽洋子他	医学書院
2			
3			

評価方法（基準）	筆記試験、実技試験、およびレポートと授業参加度や授業態度により評価する。 筆記試験（50%）、技術到達度チェック（20%）、課題レポートの提出状況と内容（20%）、授業態度（10%） 筆記試験、実技試験の受験資格は、原則、全ての授業および演習に出席していることとします。
学生へのメッセージ	診療に伴う援助について本格的に学んでいきます。薬物療法など注射に関連する技術なども多く、患者への安全・安楽な技術を目指し、また安全な演習を実施していくためにも気を引き締めて演習を行っていきましょう。 適宜、自己学習において、ナーシング・スキルを活用するように。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　研究室 3（中山）、研究室 1（佐久間）、研究室 2（神谷）、共同研究室 1（北村、舟木）、共同研究室 3（今井）
備考	技術演習時の服装、身だしなみ、持参物品等については、事前に別途指示する。

科目名	基礎看護技術Ⅱ	科目名（英文）	Fundamental of Nursing Skills II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	２年	クラス	２
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中山　由美.今井　秀人.神谷　美紀子.北村　敦子.佐久間　夕美子.舟木　友美
ディプロマポリシー(DP)	DP2○,DP3○,DP6○,DP7◎,DP8○		
科目ナンバリング	NDN2028a0		

授業概要・目的	看護を実践するための看護基本技術のうち、診療に伴う看護技術を学ぶ。対象者の立場に立ち、正確で安全な援助を提供できるように、根拠を踏まえた技術を修得する。具体的には、感染予防の看護、薬物療法の看護、検査時の看護、体温維持の看護、呼吸障害の看護、栄養障害の看護、排泄障害の看護、創傷の看護などについて技術を修得する。 科目責任者は、独立型三次救命救急センターに勤務し、初期治療室、OP 室、ドクターズカー担当、病棟勤務を行い、訪問看護師も行っていました。また総合病院の看護管理部で教育担当者として看護師教育に携わっていました。
到達目標	診療に伴う看護技術について、手技の１つ１つの根拠を述べることができる。 検査・治療を受ける患者、家族の立場に立った関わりや倫理的側面を考えることができる。 診療に伴う看護技術を実践することができる。
授業方法と留意点	授業計画に沿って教科書を基本とし、各援助方法について学習する。 最新の情報を提供するため、適宜、資料を配布し説明する。 援助場面をイメージできるように、ビデオや写真等の視聴覚教材、パワーポイント等を使用する。 毎回、教員によるデモンストレーションを実施する。教員が少人数制のグループを担当し、注射等の技術実践時には、安全をはかりながら個別指導を行う。また患者役を体験し、患者の立場から看護技術や関わり方を振り返る。患者の安全、安楽、倫理的配慮を考え学びを深める。 総合トレーニングでは、事例患者への援助方法をグループで検討後、実践方法を発表することでクラス全体で学びを深める。
科目学習の効果（資格）	基礎看護学実習Ⅱを履修するために重要な科目となります。 看護師国家試験受験資格にかかわる科目です。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	診療に伴う看護技術	診療に伴う看護とはどのようなものか、また関連法規からも理解をする。	【事前課題】 診療時の看護師の役割、看護倫理綱領を各自で復習し授業に出席すること。(1 時間) 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。(30 分)
2	薬物療法・注射時の看護	薬物療法、注射時の看護の役割を学び、安全、安楽な援助が実施できるように関連法規をふまえて理解する。	【事前課題】 教科書の薬物療法の項を読んだ上で出席すること。(1 時間) 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。(30 分)
3	感染予防の看護	滅菌・消毒方法や無菌操作、またスタンダードプリコーション等について理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。(1 時間) 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。(30 分)
4	感染予防	手指消毒法、マスク、ガウン等の装着方法を実施する。	【事前課題】 ナーシングスキルや教科書のスタンダードプリコーションの手技の項から、各自チェックリストの作成と根拠を調べる。(1 時間) 【事後課題】 教員のデモや演習を踏まえて自己が作成したチェックリストに追記し学びを深める。(1 時間)
5	無菌操作（1）	注射器等の取り扱いや注射器と注射針の接続等について実施する。	【事前課題】 ナーシングスキルや教科書の注射器・注射針の接続、薬液の吸い上げの項から、各自チェックリストの作成と根拠を調べる。(1 時間) 【事後課題】 教員のデモや演習を踏まえて自己が作成したチェックリストに追記し学びを深める。(1 時間)
6	無菌操作（1）	注射器等の取り扱いや注射器と注射針の接続等について実施する。	【事前課題】 ナーシングスキルや教科書の注射器・注射針の接続、薬液の吸い上げの項から、各自チェックリストの作成と根拠を調べる。(1 時間) 【事後課題】 教員のデモや演習を踏まえて自己が作成したチェックリストに追記し学びを深める。(1 時間)
7	皮下注射	上腕モデル等を用いて、安全、安楽に皮下注射を実施する。	【事前課題】 ナーシングスキルや教科書の皮下注射の項から、各自チェックリストの作成と根拠を調べる。(1 時間) 【事後課題】 教員のデモや演習を踏まえて自己が作成したチェックリストに追記し学びを深める。(1 時間)
8	皮下注射	上腕モデル等を用いて、安全、安楽に皮下注射を実施する。	【事前課題】 ナーシングスキルや教科書の皮下注射の項から、各自チェックリストの作成と根拠を調べる。(1 時間) 【事後課題】(1 時間) 教員のデモや演習を踏まえて自己が作成したチェックリストに追記し学びを深める。
9	筋肉注射	上腕・臀部モデルを用いて、安全、安楽に筋肉注射を実施する。	【事前課題】 ナーシングスキルや教科書の筋内肉注射の項から、各

				自チェックリストの作成と根拠を調べる。(1 時間) 【事後課題】 教員のデモや演習を踏まえて自己が作成したチェックリストに追記し学びを深める。(1 時間)
	10	筋肉注射	上腕・臀部モデルを用いて、安全、安楽に筋肉注射を実施する。	【事前課題】 ナーシングスキルや教科書の筋内肉注射の項から、各自チェックリストの作成と根拠を調べる。(1 時間) 【事後課題】 教員のデモや演習を踏まえて自己が作成したチェックリストに追記し学びを深める。(1 時間)
	11	技術トレーニング／実技到達度チェック	学習した注射関連の技術トレーニングを行い、技術の到達度を確認する。	【事前課題】 注射器と注射針の無菌的接続または薬物の吸い上げの手技を振り返る。(1 時間) 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
	12	検査時の看護	検査時の援助方法および、検体の採取と取扱いについて理解する。	【事前課題】 教科書の検査時の看護師の役割の項を読んだ上で授業に参加すること。(1 時間) 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
	13	末梢静脈血採血	血管モデルを使用し、安全、安楽に末梢静脈血採血を実施する。	【事前課題】 ナーシングスキルや教科書の採血の項から、各自チェックリストの作成と根拠を調べる。(1 時間) 【事後課題】 教員のデモや演習を踏まえて自己が作成したチェックリストに追記し学びを深める。(1 時間)
	14	末梢静脈血採血	血管モデルを使用し、安全、安楽に末梢静脈血採血を実施する。	【事前課題】 ナーシングスキルや教科書の採血の項から、各自チェックリストの作成と根拠を調べる。(1 時間) 【事後課題】 教員のデモや演習を踏まえて自己が作成したチェックリストに追記し学びを深める。(1 時間)
	15	薬物療法・輸液の看護	輸液実施時の看護の役割を学び、安全、安楽な援助方法を理解する。	【事前課題】 教科書の輸液療法の項を読んだ上で出席すること。(30 分) 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。(30 分)
	16	輸液療法・静脈内注射	血管モデルを使用し、安全、安楽に輸液療法及び静脈内注射を実施する。	【事前課題】 ナーシングスキルや教科書の輸液療法の項から、各自チェックリストの作成と根拠を調べる。(1 時間) 【事後課題】 教員のデモや演習を踏まえて自己が作成したチェックリストに追記し学びを深める。(1 時間)
	17	輸液療法・静脈内注射	血管モデルを使用し、安全、安楽に輸液療法及び静脈内注射を実施する。	【事前課題】 ナーシングスキルや教科書の輸液療法の項から、各自チェックリストの作成と根拠を調べる。(1 時間) 【事後課題】 教員のデモや演習を踏まえて自己が作成したチェックリストに追記し学びを深める。(1 時間)
	18	技術トレーニング／実技到達度チェック	学習した注射関連の技術トレーニングを行い、技術の到達度を確認する。	【事前課題】 皮下注射、筋肉内注射の手技を振り返る。(1 時間) 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。(1 時間)
	19	創傷の看護	創傷ケアの基礎的な理論と技術を理解する。	【事前課題】 教科書の創傷管理の項を読んだ上で出席すること。(30 分) 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。(30 分)
	20	排泄障害の看護	排泄障害に対する援助と、その援助方法としてのグリセリン浣腸、導尿法について理解する。	【事前課題】 教科書の導尿時の看護の項を読んだ上で出席すること。(1 時間) 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。(30 分)
	21	無菌操作（2）	滅菌物の取り扱い等を実施する。	【事前課題】 ナーシングスキルや教科書の滅菌物の取扱いの項から、各自チェックリストの作成と根拠を調べる。(1 時間) 【事後課題】 教員のデモや演習を踏まえて自己が作成したチェックリストに追記し学びを深める。(1 時間)
	22	創傷管理	ガーゼ交換などの創傷処置と包帯法・三角巾法を実施する。	【事前課題】 ナーシングスキルや教科書の創傷処置の項から、各自チェックリストの作成と根拠を調べる。(1 時間) 【事後課題】 教員のデモや演習を踏まえて自己が作成したチェックリストに追記し学びを深める。(1 時間)
	23	導尿	膀胱留置バルンカテーテルの挿入につい	【事前課題】

			てモデルを用いて実施する。 滅菌手袋の装着を行う。	ナーシングスキルや教科書の導尿も項から、各自チェックリストの作成と根拠を調べる。(1 時間) 【事後課題】 教員のデモや演習を踏まえて自己が作成したチェックリストに追記し学びを深める。(1 時間)
	24	導尿	導尿・膀胱留置バルンカテーテルの挿入についてモデルを用いて実施する。 滅菌手袋の装着を行う。	【事前課題】 ナーシングスキルや教科書の導尿も項から、各自チェックリストの作成と根拠を調べる。(1 時間) 【事後課題】 教員のデモや演習を踏まえて自己が作成したチェックリストに追記し学びを深める。(1 時間)
	25	栄養障害の看護（栄養）	栄養状態のアセスメント方法、栄養摂取への援助方法を理解する。 経管栄養法について理解する。	【事前課題】 教科書の経管栄養の項を読んだ上で出席すること。(30 分) 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。(30 分)
	26	呼吸障害の看護	呼吸障害がある患者のアセスメント方法や呼吸状態を整える援助方法を理解する。	【事前課題】 教科書の酸素療法の項を読んだ上で出席すること。(30 分) 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。(30 分)
	27	酸素療法	酸素ボンベの取り扱い、酸素療法に伴う援助を実施する。	【事前課題】 ナーシングスキルや教科書の酸素療法の項から、各自チェックリストの作成と根拠を調べる。(1 時間) 【事後課題】 教員のデモや演習を踏まえて自己が作成したチェックリストに追記し学びを深める。(1 時間)
	28	体温維持の看護および温・冷罨法	体温の異常についてのアセスメント方法や罨法など体温の恒常性への援助方法について理解する。	【事前課題】 教科書の罨法の項を読んだ上で出席すること。(30 分) 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。(30 分)
	29	総合トレーニング（事例患者への援助）	輸液ルートなどを装着している事例患者に対しての援助をグループで検討し実践発表を行う。	【事前課題】 演習前に学習内容を別紙で配布する。(1 時間) 課題レポートおよびグループでの実践のプレゼン準備を行うこと。 【事後課題】他グループの発表を参考にし学びを深める。(1 時間)
	30	総合トレーニング（事例患者への援助）	輸液ルートなどを装着している事例患者に対しての援助をグループで検討し実践発表を行う。	【事前課題】 演習前に学習内容を別紙で配布する。(1 時間) 課題レポートおよびグループでの実践のプレゼン準備を行うこと。 【事後課題】他グループの発表を参考にし学びを深める。(1 時間)

関連科目	基礎看護技術Ⅰ等。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技Ⅱ	深井喜代子（編）	メヂカルフレンド社
2	新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技Ⅰ	深井喜代子（編）	メヂカルフレンド社
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	基礎看護技術	阿曽洋子他	医学書院
2			
3			

評価方法 （基準）	筆記試験、実技試験、およびレポートと授業参加度や授業態度により評価する。 筆記試験（50%）、技術到達度チェック（20%）、課題レポートの提出状況と内容（20%）、授業態度（10%） ※筆記試験は 60 点以上取得しなければなりません。また上記の内容で総合的に算出します。 ※筆記試験、実技試験の受験資格は、原則、全ての授業および演習に出席していること。 ※日々の演習時の課題提出状況・内容も評価点となりますので未提出の場合、課題レポート点が獲得できません。
学生への メッセージ	診療に伴う援助について本格的に学んでいきます。薬物療法など注射に関連する技術なども多く、患者への安全・安楽な技術を目指し、また安全な演習を実施していくためにも気を引き締めて演習を行っていきましょう。 適宜、自己学習において、ナーシング・スキルを活用するように。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　研究室 3（中山）、研究室 1（佐久間）、研究室 2（神谷）、共同研究室 1（北村、舟木）、共同研究室 3（今井）
備考	技術演習時の服装、身だしなみ、持参物品等については、事前に別途指示する。

専門科目

科目名	基礎看護技術Ⅲ	科目名（英文）	Fundamental of Nursing Skills III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	２年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	佐久間　夕美子.中山　由美.今井　秀人.神谷　美紀子.北村　敦子.舟木　友美
ディプロマポリシー(DP)	DP2○,DP3○,DP6○,DP7◎,DP8○		
科目ナンバリング	NDN2029a0		

授業概要・目的	対象者の問題や状態をアセスメントするための情報を収集し、その情報の解釈・分析・統合するための技術の一つであるフィジカルアセスメントの知識・技術を学ぶ。具体的には、ヘルスヒストリーの聴取方法や客観的な情報を得る手段であるフィジカルイグザミネーション（視診、触診、打診、聴診）技術を学ぶ。科目責任者は、総合病院及び個人病院で看護師として約 10 年間勤務した経験から、フィジカルアセスメントに関する実践的な教育を行う。
到達目標	呼吸器系、循環器系、消化器系、筋・骨格系、脳・神経系のフィジカルアセスメント技術を修得する。
授業方法と留意点	基本的には講義形式でフィジカルアセスメントの理論を学び、その後、基礎看護学実習室にて技術演習を行う。授業では、教科書と視聴覚教材を用いるが、最新の情報やトピックスを提供するため、配布資料を適宜追加する。技術演習では少人数グループとなり、教員がグループごとに担当し個別指導する。看護師及び患者役割を体験し、実施したフィジカルアセスメントと配慮について振り返る。また、事例課題を用いたアセスメントの思考過程をレポートにまとめ、その内容を元にグループワークやディスカッション、発表等を行い、学びを共有する。
科目学習の効果（資格）	基礎看護学実習Ⅱの履修にかかわる科目。 看護師国家試験受験資格にかかわる科目。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	看護における看護過程とヘルスアセスメント､フィジカルアセスメントの考え方	看護における看護過程とヘルスアセスメント､フィジカルアセスメントの考え方に関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること（2 時間)。
2	ヘルスヒストリーとフィジカルアセスメントの基本的技術	ヘルスヒストリーとフィジカルアセスメントの基本的技術に関する理論を学び、実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること（2 時間)。
3	呼吸器系のフィジカルアセスメント（1）	呼吸器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること（2 時間)。
4	呼吸器系のフィジカルアセスメント（2）	呼吸器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること（2 時間)。
5	呼吸器系のフィジカルアセスメント（3）	呼吸器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること（2 時間)。
6	循環器系のフィジカルアセスメント（1）	循環器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること（2 時間)。
7	循環器系のフィジカルアセスメント（2）	循環器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること（2 時間)。
8	循環器系のフィジカルアセスメント（3）	循環器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること（2 時間)。
9	消化器系のフィジカルアセスメント（1）	消化器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること（2 時間)。
10	消化器系のフィジカルアセスメント（2）	消化器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポー

				トを作成すること（2 時間）。
	11	筋･骨格系のフィジカルアセスメント（1）	筋･骨格系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること（2 時間）。
	12	筋･骨格系のフィジカルアセスメント（2）	筋･骨格系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること（2 時間）。
	13	脳･神経系のフィジカルアセスメント（1）	脳･神経系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること（2 時間）。
	14	脳･神経系のフィジカルアセスメント（2）	脳･神経系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること（2 時間）。
	15	フィジカルアセスメントトレーニング	学びの整理と総合技術トレーニングを実践する。	【事前課題】 各単元で学んだことを復習し、フィジカルアセスメント技術の自己学習を行う(2 時間)。 【事後課題】 終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1 時間）。

関連科目	基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ、基礎看護技術Ⅳ、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	成人看護学　ヘルスアセスメント	横山美樹、石川ふみよ	ヌーヴェルヒロカワ
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ナーシング・グラフィカ基礎看護学②ヘルスアセスメント	松尾ミヨ子	メディカ出版
2	フィジカルアセスメントガイドブック	山内豊明	医学書院
3			

評価方法 （基準）	筆記試験、実技試験、授業への参加状況や授業態度により評価する。 筆記試験 50%、実技課題 20%、課題レポートの提出状況及びアセスメントの思考過程 20%、授業態度 10% 筆記試験と実技試験の受験資格は、原則全ての授業及び演習に出席していることとする。
学生への メッセージ	「人体の構造と機能」の知識が基盤となりますので十分に復習してから授業に臨んでください。また、予習・復習には教科書や授業資料の他、ナーシング・スキル等の視聴覚教材を活用し、積極的に自己学習をしてください。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　研究室 1（佐久間）、研究室 3（中山）、研究室 2(神谷)、共同研究室 1（北村、舟木）、共同研究室 3（今井）
備考	技術演習時の身だしなみ、持参物品等については、事前に別途指示します。

専門科目

科目名	基礎看護技術Ⅲ	科目名（英文）	Fundamental of Nursing Skills III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	２年	クラス	２
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	佐久間　夕美子.中山　由美.今井　秀人.神谷　美紀子.北村　敦子.舟木　友美
ディプロマポリシー(DP)	DP2○,DP3○,DP6○,DP7◎,DP8○		
科目ナンバリング	NDN2029a0		

授業概要・目的	対象者の問題や状態をアセスメントするための情報を収集し、その情報の解釈・分析・統合するための技術の一つであるフィジカルアセスメントの知識・技術を学ぶ。具体的には、ヘルスヒストリーの聴取方法や客観的な情報を得る手段であるフィジカルイグザミネーション（視診、触診、打診、聴診）技術を学ぶ。科目責任者は、総合病院及び個人病院で看護師として約 10 年間勤務した経験から、フィジカルアセスメントに関する実践的な教育を行う。
到達目標	呼吸器系、循環器系、消化器系、筋・骨格系、脳・神経系のフィジカルアセスメント技術を修得する。
授業方法と留意点	基本的には講義形式でフィジカルアセスメントの理論を学び、その後、基礎看護学実習室にて技術演習を行う。授業では、教科書と視聴覚教材を用いるが、最新の情報やトピックスを提供するため、配布資料を適宜追加する。技術演習では少人数グループとなり、教員がグループごとに担当し個別指導する。看護師及び患者役割を体験し、実施したフィジカルアセスメントと配慮について振り返る。また、事例課題を用いたアセスメントの思考過程をレポートにまとめ、その内容を元にグループワークやディスカッション、発表等を行い、学びを共有する。
科目学習の効果（資格）	基礎看護学実習Ⅱの履修にかかわる科目。 看護師国家試験受験資格にかかわる科目。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	看護における看護過程とヘルスアセスメント､フィジカルアセスメントの考え方	看護における看護過程とヘルスアセスメント､フィジカルアセスメントの考え方に関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること（2 時間)。
2	ヘルスヒストリーとフィジカルアセスメントの基本的技術	ヘルスヒストリーとフィジカルアセスメントの基本的技術に関する理論を学び、実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること（2 時間)。
3	呼吸器系のフィジカルアセスメント（1）	呼吸器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること（2 時間)。
4	呼吸器系のフィジカルアセスメント（2）	呼吸器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること（2 時間)。
5	呼吸器系のフィジカルアセスメント（3）	呼吸器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること（2 時間)。
6	循環器系のフィジカルアセスメント（1）	循環器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること（2 時間)。
7	循環器系のフィジカルアセスメント（2）	循環器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること（2 時間)。
8	循環器系のフィジカルアセスメント（3）	循環器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること（2 時間)。
9	消化器系のフィジカルアセスメント（1）	消化器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること（2 時間)。
10	消化器系のフィジカルアセスメント（2）	消化器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポー

				トを作成すること（2 時間）。
	11	筋･骨格系のフィジカルアセスメント（1）	筋･骨格系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること（2 時間）。
	12	筋･骨格系のフィジカルアセスメント（2）	筋･骨格系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること（2 時間）。
	13	脳･神経系のフィジカルアセスメント（1）	脳･神経系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること（2 時間）。
	14	脳･神経系のフィジカルアセスメント（2）	脳･神経系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること（2 時間）。
	15	フィジカルアセスメントトレーニング	学びの整理と総合技術トレーニングを実践する。	【事前課題】 各単元で学んだことを復習し、フィジカルアセスメント技術の自己学習を行う(2 時間)。 【事後課題】 終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1 時間）。

関連科目	基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ、基礎看護技術Ⅳ、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	成人看護学　ヘルスアセスメント	横山美樹、石川ふみよ	ヌーヴェルヒロカワ
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ナーシング・グラフィカ基礎看護学②ヘルスアセスメント	松尾ミヨ子	メディカ出版
2	フィジカルアセスメントガイドブック	山内豊明	医学書院
3			

評価方法 （基準）	筆記試験、実技試験、授業への参加状況や授業態度により評価する。 筆記試験 50%、実技課題 20%、課題レポートの提出状況及びアセスメントの思考過程 20%、授業態度 10% 筆記試験と実技試験の受験資格は、原則全ての授業及び演習に出席していることとする。
学生への メッセージ	「人体の構造と機能」の知識が基盤となりますので十分に復習してから授業に臨んでください。また、予習・復習には教科書や授業資料の他、ナーシング・スキル等の視聴覚教材を活用し、積極的に自己学習をしてください。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　研究室 1（佐久間）、研究室 3（中山）、研究室 2(神谷)、共同研究室 1（北村、舟木）、共同研究室 3（今井）
備考	技術演習時の身だしなみ、持参物品等については、事前に別途指示します。

専門科目

科目名	基礎看護技術Ⅳ	科目名（英文）	Fundamental of Nursing Skills Ⅳ
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中山　由美.今井　秀人.神谷　美紀子.北村　敦子.佐久間　夕美子.舟木　友美
ディプロマポリシー(DP)	DP2○,DP3◎,DP6○,DP7◎		
科目ナンバリング	NDN2030a0		

授業概要・目的	看護ケアを対象者に提供するための基盤となる看護過程について学ぶ。根拠に基づき、対象者の看護上の問題を明確にし、問題を解決するためのプロセスを学ぶ。ヘンダーソンの理論に基づいた看護過程の展開方法を、演習を通して修得する。 科目責任者は、独立型 3 次救命救急センターで初期治療室、OP 室、ドクターズカー担当、病棟勤務を行い、短期間ですが訪問看護も経験しております。また総合病院の看護管理室教育担当者として、看護スタッフに看護過程の展開の講義を行っていました。
到達目標	授業および演習を通して、看護過程の展開方法を理解できる。 具体的には、事例を活用し、情報整理、情報の分析、看護問題の抽出、看護目標・看護計画の立案、評価方法、看護実践時の記録の記載方法および振り返り方法などを理解できる。 看護実践に看護者の倫理綱領が関係することを理解できる。 看護過程を展開するときに、患者への安全、安楽、倫理的配慮の視点が関与していることを理解できる。
授業方法と留意点	教科書を基本とし、適宜、配布資料を用い説明する。また看護過程の展開方法をイメージできるように視聴覚教材やパワーポイントを使用する。 看護過程の展開方法を習得するために、少人数制のグループワークや演習を行い、事例展開をする。 アセスメント内容、関連図、看護計画について、グループ発表を行ない、クラス全体で学びを共有する。
科目学習の効果（資格）	基礎看護学実習Ⅱおよび看護師国家試験受験資格にかかわる科目です。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	看護過程の展開（1）	看護理論と看護過程の展開について、またヘンダーソンの理論と 14 の基本的ニードなどについて理解する。	【事前・事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。教科書番号 2 の 1～6 頁。(1 時間)
2	看護過程の展開（2）	事例を通して、情報の分類やアセスメント方法について理解する。	【事前・事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。教科書番号 2 の 1～6 頁。(1 時間)
3	看護過程の展開（3）	事例を通して、情報の分類やアセスメント方法について理解する。	【事前・事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。教科書番号 2 の 1～6 頁。(1 時間)
4	看護過程の展開（4）	事例の全体像の把握、看護問題、看護目標の立案について理解する。	【事前・事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。教科書番号 2 の 7～8 頁。(1 時間)
5	看護過程の展開（5）	事例を通して、看護計画の立案について理解する。	【事前・事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。教科書番号 2 の 9～11 頁。(1 時間)
6	看護過程の演習（1）	グループワークにて、事例の情報分類・アセスメントを行う。	【事前課題】 情報・アセスメントシートを各自記載してくること。(1 時間) 【事後課題】 グループでディスカッションし課題を仕上げる。(1 時間)
7	看護過程の演習（2）	グループで作成した情報整理・アセスメント内容について発表しクラス全体で学びを共有する。	【事前課題】 グループで発表資料を作成する。(1 時間) 【事後課題】 他のグループの発表を参考にし自己の課題に追記を行う。(1 時間)
8	看護過程の演習（3）	グループで作成した情報整理・アセスメント内容について発表しクラス全体で学びを共有する。	【事前課題】 グループで発表資料を作成する。(1 時間) 【事後課題】 他のグループの発表を参考にし自己の課題に追記を行う。(1 時間)
9	看護過程の演習（4）	グループにて、関連図の検討を行う。	【事前課題】 関連図の各自記載してくること。(1 時間) 【事後課題】 グループでディスカッションしグループ課題を作成する。(1 時間)
10	看護過程の演習（5）	グループにて、関連図の検討を行う。	【事前課題】 関連図の各自記載してくること。(1 時間) 【事後課題】 グループでディスカッションしグループ課題を作成する。(1 時間)
11	看護過程の演習（6）	グループで作成した関連図について発表しクラス全体で学びを共有する。	【事前課題】 グループで関連図の発表資料を作成する。(1 時間) 【事後課題】 他のグループの発表を参考にし自己の課題に追記を行う。(1 時間)
12	看護過程の演習（7）	グループで作成した関連図について発表しクラス全体で学びを共有する。	【事前課題】 グループで関連図の発表資料を作成する。(1 時間) 【事後課題】 他のグループの発表を参考にし自己の課題に追記を行う。(1 時間)
13	看護過程の演習（8）	グループワークにて、事例の看護問題、看護目標、看護計画を検討する。	【事前課題】 看護問題の命名、看護目標、看護計画を各自記載してくること。事例に即した援助を実際に実施して看護計画を立案すること。(1 時間) 【事後課題】

				グループで基礎看護学実習室にて実践を検討しながら発表資料を作成する。(1 時間)
	14	看護過程の演習（9）（１０）	グループで作成した看護問題、看護目標、看護計画の内容と実践を発表する。	【事前課題】 グループで看護目標、看護計画の発表資料を作成する。(1 時間) 【事後課題】 他のグループの発表を参考にし自己の課題に追記を行う。(1 時間)
	15	看護過程の展開（6）	看護問題、看護目標、看護計画、看護実践内容などの評価方法について理解する。 ケアの実践方法、患者の反応を記録に記載し、考察する方法が理解できる。 看護実践と看護職者の倫理綱領との関係を考える。	【事前・事後課題】 教員案を参考に自己の課題に追記を行う。 提示された課題を期日までに行ってくること。教科書番号 2 の 12～14 頁。(1 時間)

関連科目：基礎看護技術Ⅲおよび基礎看護学実習Ⅱに深く関連します。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	実践に役立つ看護過程と看護診断	三上れつ	ヌーヴェルヒロカワ
2	看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践	秋葉公子	ヌーヴェルヒロカワ
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

レポートおよびグループワークでの課題達成状況や授業参加度、授業態度などで評価する。
グループ課題達成状況 10%、グループワーク参加状況等 30%、個人レポート等 40%、小テスト 20%。
単位を取得するためには、原則、全ての授業および演習に出席していること。

※上記の総合評価で成績を算出する。個人レポートは筆記試験に相当する提出物となる。
※授業途中に情報アセスメント、関連図、全体像の文章化、問題リスト、看護計画の用紙の課題達成状況の確認をします。これらの確認も筆記試験がない分、個人の成績得点に反映されます。
※教員との報告・連絡・相談を密にとる授業なので、教員やグループメンバーと連携がとれない場合、授業態度に反映されます。
※本授業は基礎看護学実習Ⅱに深く関与する授業であり、課題の達成および専門職者となる態度が整っているかが評価に反映されます。

学生へのメッセージ：看護を提供するということは看護師の考え方や思いがそのケアに反映されます。個人として看護師としての自己の考えや倫理感を養っていきましょう。
本科目は基礎看護学実習Ⅱに深く関連する科目です。本科目が取得できない場合、基礎看護学実習Ⅱの課題が達成できない状況が予測されます。本科目の課題を達成していけるように自己学習をしっかり行っていきましょう。

担当者の研究室等：7 号館 3 階　研究室 2（中山）、研究室 4（佐久間）、研究室 2（神谷）、共同研究室 1（北村、舟木）、共同研究室 3（今井）

備考：授業で行った内容については、小テストを行うので、その都度、配布資料と教科書を読み直すこと。
グループワーク時の課題については、適宜、指示をするので次回期日までに行ってくること。

専門科目

科目名	公衆衛生学	科目名（英文）	Introduction to Public Health
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期前半	授業担当者	小堀　栄子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP6△		
科目ナンバリング	NDN1020a0		

授業概要・目的	授業では、公衆衛生の歴史、人口の現在と将来からはじまり、集団の健康をはかるための健康指標、および集団の健康を守るための予防医学の考え方、それに基づいて行われている感染症や慢性疾患の罹患の現状と対策などについて学ぶ。また、人の健康が環境から受ける影響についても取り上げる。
到達目標	私たちの健康に影響を与える環境や社会を理解し、公衆衛生の取り組みを有機的に理解する.
授業方法と留意点	講義を中心とするが、各回の最新の話題に関する視聴覚教材や時事ニュースなどを随時活用し、身近な話題から専門的な話へとつなげていく.
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	人類史と人口・疫学転換	人類史における人の健康	・第１回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
2	日本の公衆衛生の歴史	公衆衛生の歴史と概要	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
3	人口統計（１）	人口静態統計	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
4	人口統計（２）	人口動態統計	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
5	疾病予防と予防政略	予防医学の考え方	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
6	感染症と予防	感染症の疫学と予防	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
7	慢性疾患と予防	慢性疾患の疫学と予防	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
8	環境保健	環境が健康に及ぼす影響	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと（30 分）
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	疫学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	シンプル衛生公衆衛生学 2019	鈴木庄亮	南江堂
2	国民衛生の動向 2018/2019	厚生労働統計協会	厚生労働統計協会
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3
評価方法 （基準）	課題 20%、試験 80%で評価し、60%以上を合格とする．授業全 8 回出席が前提．出席の扱いは学生便覧のとおり（「出席状況が好ましくない場合は、単位を認めないことがあります」学生便覧より）。
学生への メッセージ	・授業では、公衆衛生学を学んでいくうえで最低限必要な理解の枠組みと、その枠組みを理解するうえで最低限必要な知識について講義する。教科書を読むだけではわかりにくいので、毎回の授業には真剣に臨むこと． ・授業中の私語、教室の出入りは厳禁． ・授業中にあてられたとき教室にいなかった場合は欠席扱い．
担当者の 研究室等	7 号館 3 階 研究室 24
備考	提出された課題内容をまとめたものを授業で取り上げ、解説する。

科目名	公衆衛生看護学概論	科目名（英文）	
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	富永　真己
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP4○,DP5△,DP6◎,DP8△		
科目ナンバリング	NDN2063a0		

授業概要・目的	地域で生活するあらゆる年代のあらゆる健康レベルの人々を対象とする公衆衛生看護について、その歴史的な変遷と成り立ちについて学ぶ。また社会環境の変化に影響を受け発展した、公衆衛生看護の基本となる概念と理論、ヘルスケアシステムと地域保健サービスの仕組みについて講義を通じて学び、地域看護のあり方を考える基礎的な内容を理解する。　さらに、ヘルスプロモーションの理念とそれに関わる保健・医療・福祉制度の概要とともに保健師等の地域で活躍する看護職の活動について学び、公衆衛生看護における対象と活動分野について理解を深める。
到達目標	1．公衆衛生看護の歴史的な変遷と社会環境の変化による影響を踏まえ、その基本的な概念とヘルスプロモーションの理念について理解できる。 2．地域で暮らす人々の健康問題を理解するとともに、プライマリーヘルスケアとヘルスプロモーションの理念に基づき展開される活動について説明できる。 3．公衆衛生看護活動に関わる法制度と地域保健医療福祉システムを理解し、その目的と活動の基本的なプロセスについて説明できる。 4．地域住民の健康と生活を支援するポプレーションアプローチとハイリスクアプローチをはじめ、保健師の活動について基礎となる理論と方法を理解できる。 5．行政、産業、学校など対象集団、発達段階及び健康レベル別の公衆衛生看護活動の概要について理解し、看護職（保健師等）の役割について説明できる。
授業方法と留意点	授業計画に沿って講義中心に行う。また、一部グループワークを取り入れ、理解を深める。教科書は必ず持参すること。 適宜資料を配布するが、配布された資料も毎回持参すること。昨今の社会の時事やニュース、視聴覚教材などを利用し、事例なども紹介しながら、学生の参加を促し授業を進行する。
科目学習の効果（資格）	保健・医療・福祉制度の概要とともに地域における看護職の活動を理解することで、今後、さらなる活躍が期待される地域包括ケアシステムの看護職の役割について理解を深め、考察することができる。 看護師・助産師国家試験においても出題される分野であり、試験対策として知識を習得する必要がある。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	公衆衛生看護学オリエンテーション、公衆衛生看護学の概念と保健師の活動	公衆衛生看護学オリエンテーション（カリキュラム上の位置づけと保健師免許、国家試験について）、公衆衛生看護学の概念と保健師の活動の場と対象、日本の健康政策について	事前：保健福祉行政論及び家族看護学についてテキストを読んでくる（テキストP3～12）と同時に、関係する資料を調べて読み予習する（30分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、理解を深める（1時間）。
2	公衆衛生看護の歴史的変遷	公衆衛生看護の歴史的変遷（諸外国の公衆衛生看護、日本特有の公衆衛生看護活動体制と法、保健所と保健師の活動体制、新たな保健師活動への指針）	事前：テキストP13～63，69～82を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する（30分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、理解を深める（1時間）。
3	疾病予防、国内のヘルスプロモーションと公衆衛生看護	ヘルスプロモーションと公衆衛生看護（プライマリーヘルスケア、ヘルスプロモーションと「健康日本２１」、日本におけるヘルスプロモーションの取り組みと成果）	事前：テキストP13～92，196～200，218～223、261～275を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する（30分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、理解を深める（1時間）。
4	ヘルスプロモーションの理論と方法	ヘルスプロモーションの展開（ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチ、国の政策と保健事業）	事前：テキストP13～92，196～200，218～223、261～275を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する（30分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、理解を深める（1時間）。
5	保健行動と保健活動の理論と方法	保健行動と保健活動の理論とモデルと実際の取り組み（成人保健活動より）、保健指導と健康教育概論	事前：テキストP13～92，196～200，218～223、261～275を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する（30分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、理解を深める（1時間）。
6	公衆衛生看護活動 － 1	公衆衛生看護活動 － 1 保健指導と家庭訪問、健康相談、健康診査の概要	事前：テキストP64～67，177～193，208～211を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する（30分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、理解を深める（1時間）。
7	公衆衛生看護活動 －2	公衆衛生看護活動 － 2 対象別の公衆衛生看護活動（人々の発達段階に応じた看護活動、母子保健活動、成人保健活動、高齢者保健活動）	事前：テキストP227～242，262～268，283～286を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する（30分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、理解を深める（1時間）。
8	公衆衛生看護活動方法 － 3	公衆衛生看護活動 － 3 健康レベルに応じた公衆衛生看護活動（精神保健・感染症概論）	事前：テキストP338～344，350～356，357～362、369-371を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する（30分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、理解を深める（1時間）。
9	公衆衛生看護活動方法 － 4	公衆衛生看護活動 － 4 健康レベルに応じた公衆衛生看護活動（結核・難病概論）	事前：テキストP378～383，306～312を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する（30分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、理解を深める（1時間）。
10	公衆衛生看護活動 － 5	公衆衛生看護活動 － 5 グループ支援・組織化・地区組織活動	事前：テキストP149～171を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する（30分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、理解を深める（1時間）。
11	公衆衛生看護活動 － 6	公衆衛生看護活動 － 6 地域診断の概要（地域診断の定義、地域診断の意義と目的、地域診断の理論とモデル、地域診断の方法）、地区踏査	事前：テキストP97～116を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する（30分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、理解を深める（1時間）。
12	公衆衛生看護活動 － 7	公衆衛生看護活動 － 7	事前：テキストP42～48、P128～147，P487～488を読

			地域診断の事例，公衆衛生看護と医療経済、保健事業の計画策定と施策化、予算の仕組み、評価	んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する（30 分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、理解を深める（1 時間）。
	13	産業保健 1	産業保健 1（産業保健・産業看護の理念と我が国の実態）	事前：テキスト P447～469 を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する（30 分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、理解を深める（1 時間）。
	14	産業保健 2・学校保健	産業保健 2・学校保健（学校保健と養護教諭の役割・活動の実際）	事前：テキスト P447～469, 433～446 を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する（30 分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、理解を深める（1 時間）。
	15	これからの保健師活動	保健師を取り巻く状況とこれからの公衆衛生看護活動	事前：テキスト P515～526 を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する（30 分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、理解を深める（1 時間）。

関連科目	公衆衛生学、医療経済論、保健医療福祉行政論、家族看護学、その他各領域の看護学概論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公衆衛生看護学. jp　改訂第 4 版	荒賀直子，後閑容子	インターメディカル
2	国民衛生の動向 2018/2019		厚生労働統計協会
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	小テスト・レポート類（10%）、定期試験（90%） 授業態度不良の場合は、一定の減点を行う場合がある。
学生への メッセージ	・本科目は公衆衛生看護の実務者である保健師として 15 年の豊富な実務経験を有する教員が担当し、授業ではそれらの経験を踏まえ実践的な教育を取り入れ行います。授業では、テキストを使用しますので必ず毎回持参してください。 ・また保健福祉行政論及び家族看護学の科目で学んだ内容を復習した上で臨んでください。 ・社会で日々おこっている時事に関心をもって新聞等から情報を収集・把握して下さい。くれぐれもネット情報だけに偏らない、頼らない習慣を持つようにして下さい。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階 研究室 7
備考	事後学習課題であるミニレポートについては、毎回、教員が確認した後、次の授業開始時に返却します。 本授業では授業での発言や取り組みの姿勢も評価の対象とします。そのため、本授業の座席は指定とします。 追加の文献や資料などは授業中に紹介します。

専門科目

科目名	国際看護学	科目名（英文）	International Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	富永　真己.西頭　知子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP6○		
科目ナンバリング	NDN2066a0		

授業概要・目的	世界の人々の健康問題について理解を深め、国際看護活動の現状と課題及び意義について学び、看護を行う上で見につけておきたい国際的な視野を養う。海外での看護活動をめざす学生だけでなく、日本の看護現場でも必要な異文化の理解とグローバリゼーション、国際化の中で求められる国際看護や国際協力のあり方に関する自分の意見を持てるようにする。
到達目標	(1) グローバル・ヘルスの変遷とグローバル看護の概念および現状と課題について説明できる。 (2) 日本社会が多文化共生を目指すうえで、異文化・多文化における看護の実際と課題について説明できる。 (3) グローバル看護における社会制度と看護実践の課題、情報の利用について説明できる。 (4) 世界の人々の健康問題と国際協力における看護の役割について説明できる。
授業方法と留意点	授業計画に沿って講義中心に行う。また、一部グループワークを取り入れ、理解を深める。教科書は必ず持参すること。 適宜資料を配布するが、配布された資料も毎回持参すること。昨今の社会の時事やニュース、視聴覚教材などを利用し、事例なども紹介しながら、学生の参加を促し授業を進行する。
科目学習の効果（資格）	日本社会が多文化共生を目指すうえで、医療・保健・看護の分野においても異文化・多文化の理解は必要不可欠で、看護専門職としての支援について幅広く考えることができる。また、将来の活躍の場の可能性を広く捉えることができる。将来的に国家試験での出題も予測されるため、試験対策としての知識習得ともなる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	国際看護学のオリエンテーション、グローバル・ヘルスとグルーバル看護	公衆衛生看護学オリエンテーション（カリキュラム上の位置づけについて）、グローバル・ヘルスの変遷とグローバル看護の概念および現状と課題について学ぶ。	事前：テキストを読んでくる（テキストP2～23）と同時に、関係する資料を調べて読み予習する（30分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、理解を深める（1時間）。
2	異文化・多文化と看護１	日本社会が多文化共生を目指す上での異文化・多文化の日本の現状と、日本の看護の実際について学ぶ。	事前：テキストP26～52を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する（30分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、理解を深める（1時間）。
3	異文化・多文化と看護２	日本社会が多文化共生を目指す上での異文化・多文化の日本の現状と、日本の看護の実際と課題についてに事例を通じて学ぶ。	事前：テキストP33-65を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する（30分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、理解を深める（1時間）。
4	グローバル看護における社会制度と看護実践､情報の利用	グローバル看護における社会制度と看護実践の課題、情報の利用について、事例を通じて学ぶ。	事前：テキストP65～93を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する（30分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、理解を深める（1時間）。
5	国際協力と看護 －青年海外協力隊の活動－	国際協力の仕組みと国際看護活動の現状と課題、看護の役割について学ぶ。	事前：教科書P128～141を読み、分からない言葉を調べる（30分以上）。 事後：授業内容を振り返り整理する（1時間）。
6	異文化理解とコミュニケーション	異文化の疑似体験を通して、言葉や価値観が異なる人同士が分かり合うために必要な態度やスキルについて学ぶ。	事前：事前配布資料を読む（30分以上）。 事後：授業内容を整理し、ミニレポートをまとめる（1時間）。
7	開発途上国における子どもの健康	開発途上国の子どもの健康問題について学ぶ。	事前：教科書P115-117を読む。開発途上国における子どもの健康問題について調べ、ミニレポートにまとめる（30分以上）。 事後：授業内容を振り返り、整理する（1時間）。
8	開発途上国における女性の健康	開発途上国の女性の健康問題について学ぶ。	事前：教科書P62-64を読む。開発途上国における女性の健康問題について調べ、ミニレポートにまとめる（30分以上）。 事後：授業内容を振り返り、整理する（1時間）。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	公衆衛生学、保健医療福祉行政論、その他各領域の看護学概論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際看護学:グローバル・ナーシングに向けての展開	南裕子監修，新川加奈子，大野夏代，神原咲子	中山書店
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト・レポート類（10%）、定期試験（90%） 授業態度不良の場合は、一定の減点を行う場合がある。
学生へのメッセージ	・本科目は、海外で看護実践者として実務経験を有する教員に加え、海外の在留邦人や国内の外国人の研究経験を有する教員が担当します。授業ではそれらの経験を踏まえ事例などの紹介を積極的に取り入れ行います。授業では、テキストを使用しますので必ず毎回持参してください。

	・社会で日々おこっている時事に関心をもって新聞等から情報を収集・把握して下さい。くれぐれもネット情報だけに偏らない、頼らない習慣を持つようにして下さい。
担当者の 研究室等	富永真己　7 号館 3 階研究室 7 西頭知子　7 号館 3 階研究室 14
備考	

専門科目

科目名	災害看護論	科目名（英文）	Nursing in Disaster
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中山　由美.今井　秀人.京極　多歌子.舟木　友美.松田千登勢
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP4○,DP5△,DP7○		
科目ナンバリング	NDN2068a0		

授業概要・目的	災害を体験した対象者の心身の健康問題について理解するとともに、災害時の看護職（看護師、保健師等）の役割、トリアージ方法、救命救急時の看護について学ぶ。具体的には、災害に対応できる看護の知識を養うために、災害の概念、災害看護の定義および被災者のメンタルヘルス、各期における様々な活動の場での支援などについて学習する。また救命救急時の実際として、一次救命処置、二次救命処置、災害時のトリアージ方法について講義、演習を通して学ぶ。 科目責任者は、独立型 3 次救命救急センターで、初期治療室、ドクターズカー担当、OP 室、病棟勤務、および訪問看護を経験しています。また総合病院の看護管理部で教育担当者として看護師の教育に関与していました。
到達目標	１．災害および災害看護に関する基礎的知識を理解することができる。 ２．災害が人々の健康や生活に及ぼす影響について述べることができる。 ３．災害サイクルに応じた看護支援活動と看護職の果たす役割を述べることができる。 ４．心のケア、トリアージおよび救急救命等を理解することができる。 ５．個人の備えと地域防災を理解し、具体的な備えを検討できる。 ６．国際的視野での看護活動を理解することができる。
授業方法と留意点	講義や演習において、配布資料、教科書、ビデオなど用いる。本講義は、具体的に災害看護を実践できる基礎知識を養うためにグループでの救護活動や課題別グループワークなどを行いますので、積極的に参加してください。
科目学習の効果（資格）	講義、演習およびグループワークを通して災害看護の基礎を学ぶことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	災害発生時の校内における救護活動について	防災訓練時の救護法について、実際を学ぶ。(演習) 松田千登勢	教員からポータルより事前アナウンスを行います。事後レポートを出します。(1 時間)
2	災害発生時の校内における救護活動について	防災訓練時の救護法について、実際を学ぶ。(演習) 中山由美	教員からポータルより事前アナウンスを行います。事後レポートを出します。(1 時間)
3	災害看護論の授業概要、災害看護に関する基礎知識 災害および災害看護に関する基礎知識	災害看護学を学ぶ意味、災害看護のあゆみ、災害看護について学ぶ。 健康危機管理、災害の種類と各期などについて学ぶ。 中山由美	事前・事後学習：配布資料および教科書 1 章を読んで復習しておくこと。(1 時間)
4	災害時に看護が果たす役割と災害各期の看護活動 様々な活動の場の看護活動	病院、避難所、仮設住宅における看護師、保健師、訪問看護師などの活動について学ぶ。 松田千登勢	事前・事後学習：配布資料および教科書 2 章を読んで復習しておくこと。(1 時間)
5	災害時に必要な技術(トリアージの概念・方法・課題)	トリアージについて学ぶ。事例での振り分けを行い学びを深める。 （グループワークや演習を含む） 中山由美、今井秀人、舟木友美	事前・事後学習：教科書第 2 章 D のトリアージを読んでくること。また一次救命処置を復習してくること。(1 時間)
6	災害時に必要な技術(トリアージの概念・方法・課題)	トリアージについて学ぶ。事例での振り分けを行い学びを深める。 （グループワークや演習を含む） 中山由美、今井秀人、舟木友美	事前・事後学習：教科書第 2 章 D のトリアージを読んでくること。また一次救命処置を復習してくること。(1 時間)
7	災被災者の心理のプロセスとこころのケア等	被災者の精神的援助について学ぶ。 松田千登勢	事前・事後学習：配布資料および教科書第 2 章 F を読んで復習しておくこと。
8	災害の取り組みについて	災害時の取り組みについて検討する。 （グループワーク） 松田千登勢	事前・事後学習：グループで学習内容をまとめ発表資料を作成すること。(1 時間)
9	災害の取り組みについて	グループワークの結果を発表する。 松田千登勢	事前・事後学習：グループで学習内容をまとめ発表資料を作成すること。(1 時間)
10	災害の取り組みについて	グループワークの結果を発表する。 松田千登勢	事前・事後学習：グループで学習内容をまとめ発表資料を作成すること。(1 時間)
11	国際災害看護活動	海外での災害看護活動の実際と課題について概説する。 京極歌多子	事後学習：授業内容について復習すること。(30 分)
12	災害時の援助について	演習：一次、二次救急救命措置、災害時の救護活動などについての実際を学ぶ。 （演習） 中山由美、今井秀人、舟木友美	事前・事後学習：一次救命処置、二次救命処置、トリアージ法方について教科書などで学習すること。(1 時間)
13	災害時の援助について	演習：一次、二次救急救命措置、災害時の救護活動などについての実際を学ぶ。 （演習） 中山由美、今井秀人、舟木友美	事前・事後学習：一次救命処置、二次救命処置、トリアージ法方について教科書などで学習すること。(1 時間)
14	災害時の援助について	演習：一次、二次救急救命措置、災害時の救護活動などについての実際を学ぶ。 （演習） 中山由美、今井秀人、舟木友美	事前・事後学習：一次救命処置、二次救命処置、トリアージ法方について教科書などで学習すること。(1 時間)
15	災害時の援助について	演習：一次、二次救急救命措置、災害時の救護活動などについての実際を学ぶ。 （演習） 中山由美、今井秀人、舟木友美	事前・事後学習：一次救命処置、二次救命処置、トリアージ法方について教科書などで学習すること。(1 時間)

関連科目	救急看護、臨床心理学、公衆衛生学および公衆衛生看護学、国際看護
教科書	

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 災害看護学・国際看護学 / 日本赤十字社　事業局看護部 浦川喜久子他 / 医学書院 2 / / / / 3 / / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 災害看護ー心得ておきたい基本的な知識 / 小原真理子監修／酒井明子監修 / 南山堂 2 / 災害救護 / 勝見　敦・小原真理子編集 / 廣川書店 3 / / / /
評価方法（基準）	学期末試験 50%、演習時のレポートや発表作成資料など 50%で評価する。
学生へのメッセージ	災害が頻繁に起こっており、看護職に期待される役割があると考えますので、災害への関心を持ってもらい、積極的に課題に取り組んで欲しいと思います。
担当者の研究室等	7 号館 3 階 研究室 2（中山由美）、研究室 6（松田千登勢）、共同研究室 1（舟木友美）、共同研究室 3（今井秀人）
備考	

科目名	在宅看護学援助論Ⅰ	科目名（英文）	Home Care Nursing Ⅰ
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中　結華.足立　安正.富永　真己.安田　香.山本　十三代
ディプロマポリシー(DP)	DP2○,DP3◎,DP4○,DP6○,DP7○,DP8△		
科目ナンバリング	NDN2060a0		

授業概要・目的	在宅看護実践は、療養者の自宅に赴き「生活の場」で展開される。在宅療養者・家族の、健康、生活機能、および QOL の維持・向上のための支援方法について学ぶ。具体的には、在宅看護に必要な面接技術、さまざまな発達段階や健康障害（神経難病、COPD、脳血管障害後遺症、精神疾患、終末期ケアなど)を持つ人への在宅療養支援について、事例を通じて理解する。 また、在宅療養者に必要な日常生活援助技術、医療処置に伴う援助技術を理解する。
到達目標	1.在宅看護に必要な面接技術について理解できる。 2.在宅療養者に必要な日常生活援助技術について理解できる。 3.在宅療養者に必要な医療処置技術を理解できる。 4.さまざまな発達段階や健康障害における在宅療養支援について理解できる
授業方法と留意点	講義と演習、グループワークにより授業を行う。テキストおよび配付資料、視聴覚教材を用いて理解を深める。基礎看護技術、および各看護で学ぶ看護技術を基盤として、在宅療養の場でどのように実践するかを深く考えて頂きたい。事例検討では、高度実践を専門的に行っている看護師を招いて学ぶ。授業へは主体的に取り組み、積極的に参加すること。各回にフィードバックカードの提出を求める。
科目学習の効果（資格）	在宅看護学実習に必要な技術、事例を学び、在宅看護学援助論Ⅱでの学習に関連づける。また、入院患者の退院後の生活に向けて支援する際に必要な知識・技能を習得することにつながる。看護師国家試験受験のために、単位取得が必要である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業オリエンテーション 在宅看護の場で必要な面接技術（1）	在宅看護におけるコミュニケーションの特徴、面接技術、および訪問時のマナー・態度について学ぶ。	<事前学習>事前に指定したテキストの該当部分を予習しておくこと。 <事後課題>講義後のノート整理を行うこと
2	在宅看護の場で必要な面接技術（2）	在宅看護に必要な面接技術についてグループで演習課題に取り組む。	<事前学習>第１回授業の内容を復習すること。 <事後課題>グループワークの課題提出
3	在宅看護に必要な日常生活援助技術（１）	在宅看護に必要な療養環境の整え、食事、排泄、清潔、衣生活、活動と休息などの日常生活援助技術について学ぶ。事例を用いてグループで取り組み、在宅での具体的援助方法について検討する。	<事前学習>事前に必要な看護技術について予習すること。詳細は授業時に指示する。 <事後課題> グループで事例検討に必要な作業を分担し、各自が行う。
4	在宅看護に必要な日常生活援助技術（２）	前回に引き続きグループで検討する。	<事前学習>分担部分をグループで検討できるよう各自準備すること。 <事後課題> グループで事例検討に必要な作業を各自分担し、次回の準備をすること。
5	在宅看護に必要な日常生活援助技術（３）	グループでの検討をまとめ発表準備をする。	<事前学習>分担部分をグループで検討できるよう各自準備すること。 <事後課題> グループで事例検討に必要な作業を各自分担し、次回の準備をすること
6	在宅看護に必要な日常生活援助技術:グループ発表と討議（１）	各グループで、検討した事例をもとに、在宅看護に必要な日常生活援助技術について発表し、質疑応答を行う。また、教員からもコメントする。	<事前学習>分担部分をグループで検討できるよう各自準備すること。 <事後課題> 次回発表できるように準備すること。
7	在宅看護に必要な日常生活援助技術:グループ発表と討議（２）	各グループで、検討した事例をもとに、在宅看護に必要な日常生活援助技術について発表し、質疑応答を行う。また、教員からもコメントする。	<事前学習>他のグループの取り上げた日常生活援助技術についてテキストで予習しておくこと <事後課題> 各援助技術のポイントを整理しておくこと。
8	在宅療養におけるストーマケア、創傷管理（褥瘡ケアを含む）、在宅中心静脈栄養法の技術（１）	講義、および事例によって在宅におけるストーマケア、褥瘡を含む創傷管理技術について学ぶ。在宅中心静脈栄養法に伴う援助技術について学ぶ。皮下埋め込み式カテーテルの取扱いも含む。	<事前学習>テキストで各技術を予習しておくこと。 <事後課題> 各援助技術のポイントを整理しておくこと。
9	在宅療養におけるストーマケア、創傷管理（褥瘡ケアを含む）、在宅中心静脈栄養法の技術（２）	講義、および事例によって在宅におけるストーマケア、褥瘡を含む創傷管理技術について学ぶ。在宅中心静脈栄養法に伴う援助技術について学ぶ。皮下埋め込み式カテーテルの取扱いも含む。	<事前学習>テキストで各技術を予習しておくこと。 <事後課題> 各援助技術のポイントを整理しておくこと。
10	神経難病をもつ在宅療養者の看護	神経難病をもつ在宅療養者の看護について、事例に基づいて学ぶ。また、在宅人工呼吸器による呼吸療法についても合わせて学ぶ。 ゲストスピーカーとして、専門看護師大杉花先生（拓海会訪問看護ステーション）による講義と討議を行う。	<事前学習>テキストで事例、および各技術を予習しておくこと。 <事後課題> 事例における援助のポイントを整理しておくこと。
11	COPD をもつ在宅療養者の看護	COPD をもつ在宅療養者の看護について、事例に基づいて学ぶ。また、在宅酸素療法、呼吸器リハビリテーションについても合わせて学ぶ。	<事前学習>テキストで事例、および各技術を予習しておくこと。 <事後課題> 事例における援助のポイントを整理しておくこと。
12	認知症をもつ在宅療養者の看護	認知症をもつ在宅療養者の看護について、事例に基づいて学ぶ。	<事前学習>テキストで事例、および各技術を予習しておくこと。 <事後課題> 事例における援助のポイントを整理しておくこと。
13	精神疾患をもつ在宅療養者の看護	精神疾患をもつ在宅療養者の看護について、事例に基づいて学ぶ。	<事前学習>テキストで事例、および各技術を予習しておくこと。 <事後課題> 事例における援助のポイントを整理しておくこと。

	14	終末期にある在宅療養者の看護	終末期にある在宅療養者の看護について、事例に基づいて学ぶ。また、疼痛管理、看取りについても合わせて学ぶ。 ゲストスピーカーとして、専門看護師船越政江先生（わたぼうし訪問看護ステーション）による講義と討議を行う。	〈事前学習〉テキストで事例、および各技術を予習しておくこと。 〈事後課題〉 事例における援助のポイントを整理しておくこと。
	15	まとめ	まとめ 本授業科目での学びについてまとめる。	〈事前学習〉ノート、資料を整理しておくこと。 〈事後課題〉 授業全体を復習し、筆記試験に備えること。

関連科目	在宅看護学概論、在宅看護学援助論Ⅱ、在宅看護学実習、地域看護学、家族看護学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	系統看護学講座統合分野在宅看護論	河原加代子他	医学書院
2	ナーシンググラフィカ在宅看護論②在宅療養を支える技術	臺有桂他	メディカ出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	講義・演習への参加態度 40%（小テスト、フィードバックカード、グループワーク、レポート、発表、ピア評価も含める） 筆記試験 60%
学生への メッセージ	本授業では、在宅看護学概論を踏まえて、在宅援助方法のさまざまな技術を学びます。原理原則は基礎看護技術と変わりませんが、療養者それぞれの生活があるように援助も百人百様の方法で援助を提供しなければなりません。看護のフィールドも変化・拡大しつつあります。頭を柔軟に学習に取り組んでください。 ・授業担当者の田中結華は、総合病院で 4 年間の看護師経験を有する。富永真己は、看護師 1 年と保健師 15 年の経験を有する。、山本十三代は、総合病院で保健師として 15 年、うち訪問看護ステーションでの 5 年、外来看護 3 年の経験を有する。それぞれの実践から実践的な教育を行う。 なお、指示した事前・事後学習を含め、自己学習には 15 時間以上をあてること。
担当者の 研究室等	田中　結華　７号館　３階　第９研究室 富永　真己　７号館　３階　第７研究室 山本　十三代　７号館　３階　第５研究室 4 月着任教員については、授業初日に通知する。
備考	

専門科目

科目名	在宅看護学援助論Ⅱ	科目名（英文）	Home Care Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中　結華.山本　十三代.足立　安正.富永　真己.安田　香
ディプロマポリシー(DP)	DP2○,DP3◎,DP4○,DP6○,DP7○,DP8○		
科目ナンバリング	NDN2061a0		

授業概要・目的	在宅看護学概論、在宅看護学援助論Ⅰの既習知識を活用し、様々な発達段階、健康上の問題を抱えながら、地域で生活する療養者・家族を１単位とした看護過程の展開について学ぶ。 講義でCOPDを発症している事例で看護展開をデモンストレーションする。グループ学習では、３事例(脳梗塞後遺症のある事例、ALSを発症し人工呼吸を装着している事例、肝臓がんの終末期の事例)のうち１事例を看護展開していく。また、チームアプローチの一手段としてサービス担当者会議をロールプレイングして多職種連携の重要性を学ぶ。 目的 １．様々な発達段階、健康上の問題を抱えながら、地域で生活する療養者・家族を１単位とした看護過程の展開について学ぶ ２．在宅看護実践の特徴と在宅で実施する援助技術が安全、安楽にできるための方法論、在宅看護の役割について学ぶ。 ３．系統的チームアプローチの実践について学び、多職種連携の重要性を学ぶ。
到達目標	１．在宅における看護過程の展開を理解できる 1)事例に基づいて、情報収集の視点の必要性を理解できる 2)対象を生活者として捉え、アセスメントする必要性を理解できる 3)療養者、家族介護者に無理のない計画内容で立案できる 4)計画内容の実践シュミレーションを計画できる(援助計画) 5)シュミレーションに沿った援助の実践と評価ができる 6)看護計画の実践、評価から、適宜、修正することの必要性を理解できる ２．既習の学習で修得した日常生活援助技術を、在宅という生活環境の中で、療養者、家族の身体的、精神的状況に応じて創意工夫して考えることができる。 ３．系統的チームアプローチについて理解できる。
授業方法と留意点	この授業は、演習科目です。以下のことを留意して受講してください。 ・事前学習、課題を通して講義内容の理解がきるようにしてください。 ・家族看護学で学んだジェノグラム、エコマップ、家族看護理論については理解しておくこと。 ・共同学習、グループ学習の場面が多くあります。個人の意見をもって参加できること、また、他者の意見に耳を傾けることが大切になる授業展開になります。
科目学習の効果（資格）	在宅看護学実習及び他の看護学領域実習に必要な「知識・技術・態度」を身につけることができる。看護師国家試験受験のために単位取得が必要である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義:2コマ続き 家族を集合体とした看護過程の展開	事例紹介(COPDの療養者) 事例に基づいて①情報収集　②アセスメント・問題の明確化③看護計画④実践⑤評価のプロセスの一連の流れ示す	事前:看護過程の構成要素について復讐をしておくこと(30分) 事後:本日の事例展開について見直しをしておく(30分) グループ学習での事例については、提示した課題をすること(3時間)
2	同上	同上 次回から検討する事例とグループと担当教員について発表する。 グループのリーダー、サブリーダーを決める。	同上
3	演習:2コマ続き グループワーク(1) 情報の整理、全体像の把握、問題点の明確化	脳梗塞事例：6グループ×6人 ALS事例：6グループ×6人 肝臓がん事例：6グループ×6人 教員別に分かれてグループ学習を進めていく。 個人学習を基に、グループで情報の整理、全体像の把握、問題点を明確にする。担当教員の相談。アドバイスを得ながら進める。	事前:上記の課題を必ずして参加する。個人学習は授業終了後提出 事後:グループワークの内容の整理を行う(30分) 提示した課題をすること(3時間)
4	演習: グループワーク(2) 同上	同上	同上
5	演習: グループワーク(3) 看護計画の立案、具体的援助計画の立案	個人学習を基に、グループで看護計画の立案、具体的援助計画の立案を行う。	事前:上記の課題を必ずして参加する。個人学習は授業終了後提出 事後:グループワークの内容の整理を行う(30分) 提示した課題をすること(3時間)
6	演習: グループワーク(4) 同上	同上	同上 中間発表に向けて、グループ学生同士のディスカッションをしておくこと(30分)
7	演習: 中間発表 具体的な援助内容の決定と計画の修正	全体像、問題点、看護計画、具体的な援助内容(必要物品、手順、評価方法)について発表し、意見交換する。実演する援助内容についてグループ内で打ち合わせを行い実演へ向けて準備する。	事後:実演へ向けて、グループ内でディスカッションおよびシュミレーションをしておく(2時間) 援助計画については、頭に入れておく グループの援助計画を担当教員に提出
8	実演:2コマ続き 援助技術の改善と訪問看護の実際	前半、後半グループに分かれる。在宅、成人の実習室で援助計画に沿って、援助を実演し、グループ間で創意工夫をして、療養者にとって最良の援助について検討する(50分)。 訪問看護場面を想定し、バイタルサイン測定から援助、訪問終了の一連の流れを	事前:グループで準備する物品の確認をグループ内で行う(30分) 事後:実演後の看護技術の評価をグループ学生間で行う(1時間)

		実演する(40 分)。 実演をしていないグループは情報処理演習室で発表資料の作成を行う。	
9	同上	同上	同上
10	演習: グループワーク(5) グループ発表「実演内容と評価」の準備	実演の評価を行う。 発表運営、発表時の役割について決定する。 情報処理演習室で発表資料をパワーポイントで作成する。	事後:グループ発表へ向けてグループ学生間でディスカッションしておく(1 時間) 指示された期日に発表資料を担当教員に 1 部提出 他のグループの発表資料に目を通し質問できるようにしておく(1 時間)
11	演習: グループ発表「実演内容と評価」	担当教員ごとのグループ内で発表し意見交換する(1 グループ 10 分程度)	事後:1 回～11 回までの看護過程の展開の一連の流れについて整理する(1 時間) ジェノグラム・エコマップについて復習しておく(1 時間) 提示した課題を行う(1 時間)
12	演習: グループワーク(6) チームアプローチの実際 サービス担当者会議	同事例に関わる社会資源をエコマップに起こし、それぞれの支援内容について討議し、発表する。	事前在宅看護学概論で作成した「在宅ケアマネジメント」を復習しておく(30 分) 事後:本日の内容を整理する(1 時間)
13	演習:2 コマ続き 個人ワーク(1) ロールプレイング(サービス担当者会議)の準備	社会資源の関係職種になり切り、教員が提示した問題について、思いや対応についてとサービス担当者会議に期待することをレポートする。	事前:サービス担当者会議について復習する(30 分) 事後:授業中作成のレポートは授業終了後提出
14	演習: ロールプレイング サービス担当者会議	在宅・成人の実習室に分かれ、各グループ内で関係職種になり切り、サービス担当者会議に出席する。問題解決につながるようすすめる(30 分)。 サービス担当者会議終了後、演じた職種としての感想と訪問看護師の役割についてレポートする(60 分)。	事後:授業中作成のレポートは授業終了後提出 提示した在宅看護実践のまとめの要点について、1 回～14 回で学んだ事と教科書等を参考にまとめてくる(2 時間)
15	在宅看護学演習のまとめ 事例を用いた看護過程の展開と演習から学んだこと-意見交換-	在宅看護援助技術 地域で生活を支えるということ 家族、多職種との関わり方についてのまとめ	事前:在宅看護実践に対して自分なりの意見を持って参加する。 事後:指示された期日に最終レポート課題に沿って作成し、今までの課題を綴じた個人ファイルとともに提出する(4 時間)

関連科目	家族関係学、家族看護学、地域看護学、在宅看護概論、在宅看護学援助論Ⅰ、在宅看護学実習、他領域の看護学、専門基礎科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	系統看護学講座　「在宅看護論」	河原加代子	医学書院
2	ナーシング・グラフィカ「在宅看護論②　在宅療養を支える技術」	臺有桂	MC メディカ出版
3	根拠のわかる在宅援助技術	正野逸子	メジカルフレンド社

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	写真でわかる訪問看護	押川眞喜子	インターメディカ
2	よくわかる在宅看護	角田直枝	GaKKen
3	継続看護マネジメント	長江弘子	医歯薬出版

評価方法 （基準）	グループでの学習成果(提出物)や個人課題の提出物、演習への参加姿勢(ピア評価)、演習を終えての課題レポートを含めた評価；70% 定期試験；30%
学生への メッセージ	グループ学習は、個人の事前・事後学習を通しての参加意識が学習成果に影響します。グループで取り決めた到達目標、自己役割を果たし在宅看護の展開方法や必要な医療処置やセルフケア力が発揮されるような支援方法について学習しましょう。 授業主担当の山本十三代は、保健師として慢性期病棟に５年、外来、訪問看護室に８年勤務した経験から、在宅看護実践の展開方法について、また、継続看護、多職種連携の中の訪問看護師の果たす役割について教育します。授業担当者の田中結華は看護師として内科病棟看護の実務経験から在宅看護実践の展開方法について教育します。授業担当者の富永真己は保健師として地域看護の実務経験から在宅看護実践の展開方法について教育します。
担当者の 研究室等	山本十三代　７号館　３階　第５研究室 田中結華　　７号館　３階　第９研究室 富永真己　　７号館　３階　第７研究室 他２名
備考	演習内容によっては、２コマ続きがあります。時間割の確認を怠らないことと全出席ができるように体調管理・生活管理をしてください。

専門科目

科目名	在宅看護学概論	科目名（英文）	Introduction to Home Care Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期後半	授業担当者	田中　結華
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP4○,DP6○,DP8△		
科目ナンバリング	NDN2059a0		

授業概要・目的	在宅看護の変遷を踏まえて、社会の変化と諸制度、人々の多様な価値観の変化、ＱＯＬの重視、セルフケア、自己決定の尊重という観点から在宅看護の目的を理解する。同時に、地域で生活しながら療養する人々とその家族・生活環境を理解し、療養生活を安定して継続できるように支援するために必要な看護の基本的知識・技術・倫理観を学ぶ。在宅看護における社会資源及びチームケア・職種間の連携の在り方について理解する。
到達目標	1. 在宅看護の目的と特徴を説明できる。 2. 在宅看護の歴史的変遷を説明できる。 3. 在学看護の対象者について説明できる。 4. 在宅療養の支援と看護者の役割について説明できる。 5. 在宅看護を支える法、制度とその活用について説明できる。 6. 在宅看護におけるリスクマネジメントについて説明できる。 7. 在宅看護における倫理について説明できる。
授業方法と留意点	授業計画に沿って講義中心に行う。また、一部グループワークを含めて理解を進める。教科書を必ず持参すること。資料も配付する。在宅看護の方法としての訪問看護や他職種・他機関との連携、在宅ケアマネージメント方法などイメージが困難な学習には、DVD の活用、事例を用いて学習を進める。講義終了後は、講義資料やノート整理を習慣づけること。復習時に理解の困難な用語や事柄については、次講義時間を活用する、あるいは教員の研究室の方に来るなど、その時の学びを大切に、主体的に学習に取り組むこと。事前・事後学習については、授業内で別途指示することがある。
科目学習の効果（資格）	看護師の資格取得に必須の単位である。患者の入院から退院･退院後の生活に向けて継続した看護に必要な基礎的知識を獲得をする領域でもある。在宅看護は、療養者の生活の場で展開される。したがって、医療・保健・福祉分野との連携に必要な知識・技術・倫理観について幅広く学ぶ機会である。臨床看護師としてだけではなく、地域社会における役割と認識を深め、社会のニーズに即した専門職のあり方を持つことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	在宅看護の概念と歴史的経緯	地域における在宅看護（訪問看護）のとは何か、その目的と特徴を学ぶ。また訪問看護の歴史を学ぶ。	事前：テキストの第 1 章を読んでくること。(1.5 時間) 事後：授業内容を整理しておくこと。
2	在宅看護の対象者	在宅看護の対象者の特徴、住まいや家族、地域の視点から理解する。家族関係を視覚化するエコマップについてワークを行う。	事前：テキストの第 2 章を読んでくること。(1.5 時間) 事後：授業内容を整理しておくこと。
3	在宅療養の支援と看護者の役割	在宅看護の提供方法である外来看護、訪問看護等の支援方法について学ぶ。	事前：テキストの第 3 章を読んでくること。(1.5 時間) 事後：授業内容を整理しておくこと。
4	在宅看護に関連する法と制度	在宅看護を支える法的基盤、介護保険等を含めた法と制度について学ぶ。講義、小グループ討議を中心に行う。	事前:テキストの第 4 章の該当部分を読んでくること。(1.5 時間) 事後：授業内容を整理しておくこと。
5	訪問看護サービスの提供	訪問看護サービスを提供するための訪問看護ステーションを主とした施設、訪問看護の機能について重点的について学ぶ。	事前:テキストの第 4 章の該当部分を読んでくること。(1.5 時間) 事後：授業内容を整理しておくこと。
6	在宅看護における社会資源の活用と多職種連携	在宅看護におけるさまざまな社会資源の活用と多職種との連携、地域のネットワーク作りについて学ぶ。	事前：テキスト 4 章の該当部分を読んでくること。(1.5 時間) 後：授業内容を整理しておくこと。
7	在宅看護における看護の展開方法とリスクマネジメント	在宅看護における看護を展開する上で必要な視点と、リスクマネジメントを学ぶ。	事前:テキスト第5章の該当部分を読んでくること。(1.5 時間) 事後：授業内容を整理しておくこと。
8	在宅看護における倫理と権利保障	在宅看護学における倫理を、訪問看護の倫理と、個人情報保護、虐待なども含めて多様な視点で学ぶ。	事前:テキスト第5章の該当部分を読んでくること。(1.5 時間) 事後：授業内容を整理しておくこと。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	家族関係論　　地域看護学　専門科目の概論のすべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	系統看護学講座統合分野在宅看護論	河原加代子他	医学書院
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト・　レポート類，グループワークなどの評価（20%）　定期試験(80%) 小テストは、事前・事後学習に関する内容を実施する。
学生へのメッセージ	現在、我が国は少子化社会そして超高齢社会にあり、看護職の働く場は病院看護から在宅看護へ拡大されています。病院看護との違いは、療養者の「生活の場」で行う看護支援は、幅広い知識と創造力を更に求められます。短い時間で幅広い学習をすることになります。日々の学習（事前・事後学習）を大事にしましょう。講義中の質問は大歓迎です。

	なお、指示した事前・事後学習を含め、自己学習には 30 時間以上をあてること。
担当者の 研究室等	７号館　３階　第９研究室　田中結華
備考	不定期に、小テスト、レポートを行う。課題については、授業内、あるいは Moodle 上などでフィードバックを行う。授業での発言や課題・討議等に取り組む姿勢も評価の対象とする。課題（小テスト、レポート、討議の内容は、参考書は大いに参照すること。文献等は授業でも紹介する。

科目名	在宅看護学実習	科目名（英文）	Practice in Home Care Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	田中　結華.足立　安正.富永　真己.安田　香.山本　十三代
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎		
科目ナンバリング	NDN3062a0		

授業概要・目的	＜授業概要＞ 健康障害を持ちながら在宅で療養する人々と家族を理解する。在宅看護の特性と在宅ならではの援助技術、在宅ケアシステムにおける社会資源の活用・関係職種間の連携や協働の実際を体験し、これらを通し在宅看護実践に求められる能力を養う。 ＜実習目的＞ 地域の中で療養する人々やその家族の生活実態、健康上の問題を理解し在宅における看護の機能と役割の実際を学ぶ。
到達目標	実習目標 １．訪問看護の役割と方法を述べることができる。 ２．訪問看護ステーションの機能と活動の概要について述べることができる。 ３．在宅療養者とその家族を生活者としてとらえ、健康課題を解決するための援助方法を述べることができる。 ４．地域の社会資源とその活用方法、および関連する職種との連携の実際を述べることができる。 ５．主体的に実習に取り組み、看護学生として適切な態度で実習に臨むことができる。
授業方法と留意点	実習方法 訪問看護ステーションでの実習を行う。 1.看護学臨地実習要綱をよく読み理解した上で、在宅実習要綱で示している実習目的・目標を達成できるよう務める。 2.実習オリエンテーションには、必ず出席する。 3.実習目標を理解し必要な事前学習・演習を行い主体的に実習に取り組む。 4.実習期間中、訪問看護師に同行し看護の実践を見学/体験をする。 5.実習期間中の教員からの指導は時間設定し行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	１．オリエンテーションを受ける。 要綱・記録用紙、配付した必要書類を持参すること。 １）全体オリエンテーション（７月、９月の２回） 実習の目的・目標、実習方法、実習記録の作成方法、事前・事後学習課題、実習に必要な書類作成 ２）グループ別直前オリエンテーション 原則として実習前週の金曜日１７時から、老年・精神・在宅看護実習室で１時間程度実施する。 ２．実習要綱に沿って実習を行う。 1）.訪問看護ステーションで２週間(学内演習２日間、臨地実習８日間)の実習。 2）.実習１日目は、直接実習施設に行くので事前に交通アクセスの把握が必要。 3）.初日より、訪問看護師に同行し在宅療養者のご自宅へ行き看護の実際を学ぶ。 4）.訪問は１日２ケースの訪問を原則とする。うち、１ケースは受持療養者とし、２週にわたり継続訪問する。 5）.２日目からの同行は基礎看護技術を用いて療養者にかかわれるように取り組む。 6).受持療養者に対しては、ケース把握(全体像),問題点の明確化、看護計画の立案という流れを用いて在宅療養者や家族に対する必要な援助を考える。 7).地域の社会資源、諸機関、多職種協働について学ぶ。 8).原則として１週目の金曜日、２週目の木曜日は、指導者・教員を交えたカンファレンスを実施する。 9).原則として２週目の学内日は、学内合同カンファレンスで、各自の実習内容をプレゼンテーションする。情報の共有と意見交換を行い在宅看護の理解を深める。
関連科目	在宅看護学概論、在宅看護学援助論Ⅰ、在宅看護学援助論Ⅱを基盤にする。なお、在宅看護学はあらゆる発達段階、健康段階にある人が対象者となり得るため、基礎看護学をはじめ、他の専門科目すべてが関連する。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	２．３年次に用いた教科書		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜、紹介する		
2			
3			

評価方法（基準）	実習目標の達成度を、実習要綱に示すルーブリック評価基準を用いて評価する。
学生へのメッセージ	２週間の短い期間の実習です。学習目標を明確にして取り組みましょう。 在宅実習は、様々な職種の人との交流や協議の場面に参加することができます。連携すること、協働することの意義を理解し訪問看護師の役割について丁寧に考えてみてください。
担当者の研究室等	田中　結華　７号館　　３階　第９研究室 富永　真己　７号館　　３階　第７研究室 山本十三代　７号館　　３階　第５研究室 足立　安正　７号館　３階（後日連絡） 安田　香　７号館　３階　（後日連絡）
備考	体調管理に留意すること。

科目名	疾病・治療論Ⅰ	科目名（英文）	Clinical Medicine Ⅰ
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小﨑　篤志
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP7△		
科目ナンバリング	NDN1012a0		

授業概要・目的	看護において、身体の構造や機能のメカニズム、それらの障害である疾病を理解する事は重要である。 本科目は、医学的対応が必要となる成人各期に起り得る疾病を身体の系統臓器別に取り上げ、疾病の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する。 授業担当者の小崎は大学附属病院で総合診療科・代謝内分泌科の科長として５年間以上勤務した経験から、内科疾患の診断・治療に関する実践的な教育を行う。
到達目標	本科目では、主に呼吸器および循環器疾患に関して講義を行い、これらの基礎知識を修得し、各疾患の患者への的確な観察や看護援助さらには充実した生活を送るための支援が行えるように理解を深める。
授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って講義を行う。教科書を中心に液晶プロジェクターを用いて授業を進めるが、その中には初めて目にするような専門用語が多く含まれており、その意味を正確に理解させるには生物学・医化学などのバックグラウンドが必要となる。 授業では、新しい単語の説明や分かりにくい点を板書で説明しながら内容を補足しながら進めて行く。学生の習熟度により、授業の進行スピードの変更並びに、プリントやビデオなどを併用した授業方法も考慮する。
科目学習の効果（資格）	本講義は病理学総論、疾病治療論Ⅱ、疾病治療論Ⅲとともに各疾患の知識を修得する事により、患者への的確な看護支援が行える基礎となる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	疾病・治療論(呼吸器１)	講義にて教科書の呼吸器疾患の、 ・解剖まとめ ・呼吸生理 ・酸塩基平衡 について説明する。	・気管・気管支・肺に関する解剖生理を予習する（1時間） ・説明した教科書内のアンダーラインを引いた重要部位を復習・記憶する。(2時間)
2	疾病・治療論(呼吸器２)	講義にて教科書の呼吸器疾患の、 ・動脈血液カス分析 ・換気機能検査（スパイログラム・フローボリューム曲線） について説明する。	・気管・気管支・肺に関する解剖生理を予習する（1時間） ・説明した教科書内のアンダーラインを引いた重要部位を復習・記憶する。(2時間)
3	疾病・治療論(呼吸器３)	講義にて教科書の呼吸器疾患、 ・身体診察（視診・聴診） ・胸部画像検査（X線・CT・MRI・PET・気管支鏡・胸腔鏡） ・かぜ症候群 ・インフルエンザ の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について説明する。	・気管・気管支・肺に関する解剖生理を予習する（1時間） ・説明した教科書内のアンダーラインを引いた重要部位を復習・記憶する。(2時間)
4	疾病・治療論(呼吸器４)	講義にて教科書の呼吸器疾患、 ・肺結核 ・粟粒結核 ・肺炎総論 ・細菌性肺炎 ・誤嚥性肺炎 ・マイコプラズマ肺炎 の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について説明する。	・細菌に関する予習する（1時間） ・説明した教科書内のアンダーラインを引いた重要部位を復習・記憶する。(2時間)
5	疾病・治療論(呼吸器５)	講義にて教科書の呼吸器疾患、 ・レジオネラ肺炎 ・気管支喘息 ・間質性肺疾患総論 ・特発性間質性肺炎 ・薬剤性肺障害 ・じん肺 の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について説明する。	・アレルギーと肺に関する解剖生理を予習する（1時間） ・説明した教科書内のアンダーラインを引いた重要部位を復習・記憶する。(2時間)
6	疾病・治療論(呼吸器６)	講義にて教科書の呼吸器疾患、 ・慢性閉塞性肺疾患（COPD） ・びまん性汎細気管支炎（PBC） ・肺腫瘍総論 ・肺扁平上皮癌 ・肺腺癌 ・肺小細胞癌 の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について説明する。	・気管・気管支・肺に関する解剖生理を予習する（1時間） ・説明した教科書内のアンダーラインを引いた重要部位を復習・記憶する。(2時間)
7	疾病・治療論(呼吸器７)	講義にて教科書の呼吸器疾患、 ・転移性肺癌 ・肺水腫 ・肺血栓塞栓症 ・睡眠時無呼吸症候群 ・過換気症候群 ・自然気胸 の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について説明する。	・肺循環に関する解剖生理を予習する（1時間） ・説明した教科書内のアンダーラインを引いた重要部位を復習・記憶する。(2時間)
8	疾病・治療論(循環器１)	講義にて教科書の循環器疾患の、 ・解剖まとめ ・循環生理 ・症候（浮腫・チアノーゼ・失神・ショック）	・心臓に関する解剖生理を予習する（1時間） ・説明した教科書内のアンダーラインを引いた重要部位を復習・記憶する。(2時間)

			について説明する。	
	9	疾病・治療論(循環器２)	講義にて教科書の循環器疾患の、 ・診察（血圧・脈拍・聴診） ・検査（心電図） について説明する。	・心臓・血管に関する解剖生理を予習する（1 時間） ・説明した教科書内のアンダーラインを引いた重要部位を復習・記憶する。(2 時間)
	10	疾病・治療論(循環器３)	講義にて教科書の循環器疾患の、 ・検査（X 線・エコー・CT・心カテーテル） ・心不全（発生機序・検査・薬物治療・非薬物治療） について説明する。	・心臓・血管に関する解剖生理を予習する（1 時間） ・説明した教科書内のアンダーラインを引いた重要部位を復習・記憶する。(2 時間)
	11	疾病・治療論(循環器４)	講義にて教科書の循環器疾患、 ・虚血性心疾患総論 ・労作性狭心症 ・冠攣縮性狭心症 ・急性冠症候群 ・不安定狭心症 ・急性心筋梗塞① の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について説明する。	・冠動脈に関する解剖生理を予習する（1 時間） ・説明した教科書内のアンダーラインを引いた重要部位を復習・記憶する。(2 時間)
	12	疾病・治療論(循環器５)	講義にて教科書の循環器疾患、 ・急性心筋梗塞② ・不整脈（発生機序・検査・薬物治療・非薬物治療） ・心房期外収縮 ・WPW 症候群 ・心房細動 の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について説明する。	・心電図と刺激伝導系に関する予習する（1 時間） ・説明した教科書内のアンダーラインを引いた重要部位を復習・記憶する。(2 時間)
	13	疾病・治療論(循環器６)	講義にて教科書の循環器疾患、 ・心室期外収縮 ・心室頻拍 ・心室細動 ・房室ブロック（１・２・３度） ・心臓弁膜症総論 ・大動脈弁狭窄症 の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について説明する。	・心電図と心臓の解剖生理に関する予習する（1 時間） ・説明した教科書内のアンダーラインを引いた重要部位を復習・記憶する。(2 時間)
	14	疾病・治療論(循環器７)	講義にて教科書の循環器疾患、 ・大動脈弁閉鎖不全症 ・僧帽弁狭窄症 ・僧帽弁閉鎖不全症 ・感染性心内膜炎 の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について説明する。	・心臓の解剖生理に関する予習する（1 時間） ・説明した教科書内のアンダーラインを引いた重要部位を復習・記憶する。(2 時間)
	15	疾病・治療論(循環器８)	講義にて教科書の循環器疾患、 ・心筋疾患総論 ・拡張型心筋症 ・肥大型心筋症 ・心タンポナーデ ・高血圧症総論 ・本態性高血圧症 ・大動脈瘤 ・大動脈解離 の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について説明する。	・心筋・心膜・動脈の解剖生理に関する予習する（1 時間） ・説明した教科書内のアンダーラインを引いた重要部位を復習・記憶する。(2 時間)

関連科目	病理学総論、疾病治療論Ⅱ、疾病治療論Ⅲ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	病気がみえる vol.4 呼吸器		メディックメディア
2	病気がみえる vol.2 循環器		メディックメディア
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	合否判定は定期試験を中心に総合判定する。 試験には主に客観問題を出題する。講義中の授業態度などを評価の一部とする。 定期試験（90%）、講義での授業態度など（10%）で最終評価する。
学生への メッセージ	授業には指定教科書を持参して下さい。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　研究室 23
備考	病理学総論、疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅱ、疾病治療論Ⅲで同じシリーズの教科書を使用します。

科目名	疾病・治療論Ⅱ	科目名（英文）	Clinical Medicine II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小﨑　篤志
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP7△		
科目ナンバリング	NDN1013a0		

授業概要・目的	看護において、身体の構造や機能のメカニズム、それらの障害である疾病を理解する事は重要である。 本科目は、医学的対応が必要となる成人各期に起り得る疾病を身体の系統臓器別に取り上げ、疾病の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する。 授業担当者の小崎は大学附属病院で総合診療科・代謝内分泌科の科長として５年間以上勤務した経験から、内科疾患の診断・治療に関する実践的な教育を行う。　。
到達目標	本科目では、主に血液・膠原病・腎および泌尿器疾患に関して講義を行い、これらの基礎知識を修得し、各疾患の患者への的確な観察や看護援助さらには充実した生活を送るための支援が行えるように理解を深める。
授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って講義を行う。教科書を中心に液晶プロジェクターを用いて授業を進めるが、その中には初めて目にするような専門用語が多く含まれており、その意味を正確に理解させるには生物学・医化学などのバックグラウンドが必要となる。 授業では、新しい単語の説明や分かりにくい点を板書で説明しながら内容を補足しながら進めて行く。学生の習熟度により、授業の進行スピードの変更並びに、プリントやビデオなどを併用した授業方法も考慮する。
科目学習の効果（資格）	本講義は病理学総論、疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅲとともに各疾患の知識を修得する事により、患者への的確な看護支援が行える基礎となる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	疾病・治療論(麻酔学)	講義で配布するプリントにて、 ・全身麻酔（吸入麻酔・静脈麻酔） ・局所麻酔（脊麻・硬麻・ブロック） について説明する。	・授業終了後、配布プリントでアンダーラインを引いた重要部位を記憶すること。(2 時間)
2	疾病・治療論(血液１)	講義にて教科書の血液疾患、 ・血液総論 ・赤血球総論 ・鉄代謝 ・貧血総論 ・鉄欠乏性貧血 の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について説明する。	・赤血球に関する解剖生理を予習する（1 時間） ・説明した教科書内のアンダーラインを引いた重要部位を復習・記憶する。(2 時間)
3	疾病・治療論(血液２)	講義にて教科書の血液疾患、 ・巨赤芽球性貧血 ・再生不良性貧血 ・溶血性貧血 ・白血球総論 ・急性白血病総論 の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について説明する。	・赤血球・白血球に関する解剖生理を予習する（1 時間） ・説明した教科書内のアンダーラインを引いた重要部位を復習・記憶する。(2 時間)
4	疾病・治療論(血液３)	講義にて教科書の血液疾患、 ・急性骨髄性白血病 ・急性リンパ性白血病 ・慢性骨髄性白血病 ・リンパ性腫瘍総論 ・ホジキンリンパ腫 ・非ホジキンリンパ腫 ・成人Ｔ細胞白血病 ・造血幹細胞移植 の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について説明する。	・白血球に関する解剖生理を予習する（1 時間） ・説明した教科書内のアンダーラインを引いた重要部位を復習・記憶する。(2 時間)
5	疾病・治療論(血液４)	講義にて教科書の血液疾患、 ・止血機構総論 ・免疫性血小板減少性紫斑病 ・血栓性血小板減少性紫斑病 ・血友病 ・播種性血管内凝固 の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について説明する。	・血小板・凝固機構に関する解剖生理を予習する（1 時間） ・説明した教科書内のアンダーラインを引いた重要部位を復習・記憶する。(2 時間)
6	疾病・治療論(免疫・膠原病１)	講義にて教科書の免疫・膠原病疾患、 ・アレルギー総論 ・アナフィラキシー ・膠原病総論 ・関節リウマチ の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について説明する。	・免疫機構に関する解剖生理を予習する（1 時間） ・説明した教科書内のアンダーラインを引いた重要部位を復習・記憶する。(2 時間)
7	疾病・治療論(免疫・膠原病２)	講義にて教科書の免疫・膠原病疾患、 ・全身性エリテマトーデス ・強皮症 ・皮膚筋炎 ・多発性筋炎 ・混合性結合組織病 ・シェーグレン症候群 ・ベーチェット病 の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について説明する。	・免疫機構に関する解剖生理を予習する（1 時間） ・説明した教科書内のアンダーラインを引いた重要部位を復習・記憶する。(2 時間)
8	疾病・治療論(感染症１)	講義にて教科書の感染症疾患、 ・感染症総論（分類・検査） ・院内感染	・感染に関する予習する（1 時間） ・説明した教科書内のアンダーラインを引いた重要部位を復習・記憶する。(2 時間)

			・日和見感染 ・細菌感染症総論 ・抗菌薬 の主要症状、病態生理、検査法、治療法等について説明する。	
	9	疾病・治療論(感染症２)	講義にて教科書の感染症疾患、 ・ブドウ球菌（皮膚・食中毒） ・レンサ球菌（A 群β溶連菌・肺炎球菌） ・大腸菌（0157） ・サルモネラ ・コレラ ・カンピロバクター ・緑膿菌 ・セラチア ・淋菌 の主要症状、病態生理、検査法、治療法等について説明する。	・病原体に関する予習する（1 時間） ・説明した教科書内のアンダーラインを引いた重要部位を復習・記憶する。（2 時間）
	10	疾病・治療論(感染症３)	講義にて教科書の感染症疾患、 ・ボツリヌス ・破傷風 ・偽膜性大腸炎 ・梅毒 ・クラミジア ・リケッチア ・ノロウイルス ・単純ヘルペス ・水痘・帯状疱疹 ・伝染性単核症 の主要症状、病態生理、検査法、治療法等について説明する。	・病原体に関する予習する（1 時間） ・説明した教科書内のアンダーラインを引いた重要部位を復習・記憶する。（2 時間）
	11	疾病・治療論(感染症４)	講義にて教科書の感染症疾患、 ・HIV/AIDS ・真菌総論 ・カンジダ症 ・ニューモシスチス ・クリプトコックス症 の主要症状、病態生理、検査法、治療法等について説明する。	・病原体に関する予習する（1 時間） ・説明した教科書内のアンダーラインを引いた重要部位を復習・記憶する。（2 時間）
	12	疾病・治療論(腎泌尿器１)	講義にて教科書の腎泌尿器疾患の、 ・解剖まとめ ・尿検査 ・血液検査 ・画像検査 ・腎生検 ・カテーテル処置 について説明する。	・泌尿器系に関する解剖生理を予習する（1 時間） ・説明した教科書内のアンダーラインを引いた重要部位を復習・記憶する。（2 時間）
	13	疾病・治療論(腎泌尿器２)	講義にて教科書の腎泌尿器疾患の、 ・症候（多尿・乏尿・無尿・頻尿・尿閉） ・腎疾患総論 ・溶連菌感染後急性糸球体腎炎 ・IgA 腎症 ・急性腎不全 の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について説明する。	・腎臓に関する解剖生理を予習する（1 時間） ・説明した教科書内のアンダーラインを引いた重要部位を復習・記憶する。（2 時間）
	14	疾病・治療論(腎泌尿器３)	講義にて教科書の腎泌尿器疾患、 ・慢性腎不全 ・慢性腎臓病 ・血液浄化療法 ・血液透析 ・腹膜透析 ・腎移植 の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について説明する。	・腎臓に関する解剖生理を予習する（1 時間） ・説明した教科書内のアンダーラインを引いた重要部位を復習・記憶する。（2 時間）
	15	疾病・治療論(腎泌尿器４)	講義にて教科書の腎泌尿器疾患、 ・尿路結石総論 ・上部尿路結石 ・前立腺癌 ・前立腺肥大症 ・尿失禁 の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について説明する。	・尿管・膀胱・前立腺に関する解剖生理を予習する（1 時間） ・説明した教科書内のアンダーラインを引いた重要部位を復習・記憶する。（2 時間）

関連科目：病理学総論、疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅲ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	病気がみえる vol.5 血液		メディックメディア
2	病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症		メディックメディア
3	病気がみえる vol.8 腎・泌尿器		メディックメディア

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

	2			
	3			
評価方法 （基準）	合否判定は定期試験を中心に総合判定する。 試験には主に客観問題を出題する。講義中の授業態度などを評価の一部とする。 定期試験（90%）、講義での授業態度など（10%）で最終評価する。			
学生への メッセージ	第２回以降、講義には指定教科書を持参して下さい。			
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　研究室 23			
備考	病理学総論、疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅱ、疾病治療論Ⅲで同じシリーズの教科書を使用します。			

専門科目

科目名	疾病・治療論Ⅲ	科目名（英文）	Clinical Medicine III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期前半	授業担当者	小﨑　篤志
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP7△		
科目ナンバリング	NDN1014a0		

授業概要・目的	看護において、身体の構造や機能のメカニズム、それらの障害である疾病を理解する事は重要である。 本科目は、医学的対応が必要となる成人各期に起り得る疾病を身体の系統臓器別に取り上げ、疾病の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する。 授業担当者の小崎は大学附属病院で総合診療科・代謝内分泌科の科長として５年間以上勤務した経験から、内科疾患の診断・治療に関する実践的な教育を行う。
到達目標	本科目では、主に脳神経および骨関節疾患に関して講義を行い、これらの基礎知識を修得し、各疾患の患者への的確な観察や看護援助さらには充実した生活を送るための支援が行えるように理解を深める。
授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って講義を行う。教科書を中心にプロジェクターを用いて授業を進めるが、その中には初めて目にするような専門用語が多く含まれており、その意味を正確に理解させるには解剖学・医化学などのバックグラウンドが必要となる。 授業では、新しい単語の説明や分かりにくい点を板書で説明しながら内容を補足しながら進めて行く。学生の習熟度により、授業の進行スピードの変更並びに、プリントやビデオなどを併用した授業方法も考慮する。
科目学習の効果（資格）	本講義は病理学総論、疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅱとともに各疾患の知識を修得する事により、患者への的確な看護支援が行える基礎となる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	疾病・治療論(脳神経１)	講義にて教科書の脳神経、 ・脳神経総論（構造・機能） ・大脳皮質 ・大脳基底核 ・間脳・脳幹・小脳 ・脳動脈系 ・脳血管障害総論 について学習する。	・脳に関する解剖生理を予習する（1 時間） ・説明した教科書内のアンダーラインを引いた重要部位を復習・記憶する。(2 時間)
2	疾病・治療論(脳神経２)	講義にて教科書の脳神経疾患、 ・頭蓋内圧亢進 ・脳浮腫 ・脳ヘルニア ・脳梗塞（アテローム血栓性・心原性・ラクナ） の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について説明する。	・脳血管に関する解剖生理を予習する（1 時間） ・説明した教科書内のアンダーラインを引いた重要部位を復習・記憶する。(2 時間)
3	疾病・治療論(脳神経３)	講義にて教科書の脳神経疾患、 ・脳出血（被殻・視床・脳幹・小脳・皮質下） ・脳動脈瘤 ・クモ膜下出血 の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について説明する。	・脳血管に関する解剖生理を予習する（1 時間） ・説明した教科書内のアンダーラインを引いた重要部位を復習・記憶する。(2 時間)
4	疾病・治療論(脳神経４)	講義にて教科書の脳神経疾患、 ・脳動静脈奇形 ・可塑性とリハビリ ・高次脳機能障害 ・脳脊髄液総論 ・水頭症総論 ・正常圧水頭症 ・運動障害 の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について説明する。	・脳脊髄液に関する解剖生理を予習する（1 時間） ・説明した教科書内のアンダーラインを引いた重要部位を復習・記憶する。(2 時間)
5	疾病・治療論(脳神経５)	講義にて教科書の脳神経疾患、 ・ギランバレー症候群 ・脱髄疾患総論 ・多発性硬化症 ・神経変性疾患 ・筋萎縮性側索硬化症 の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について説明する。	・脳神経に関する解剖生理を予習する（1 時間） ・説明した教科書内のアンダーラインを引いた重要部位を復習・記憶する。(2 時間)
6	疾病・治療論(脳神経６)	講義にて教科書の脳神経疾患、 ・パーキンソン症候群 ・デュシェンヌ型筋ジストロフィー ・重症筋無力症 ・細菌性髄膜炎 ・認知症総論 の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について説明する。	・脳神経に関する解剖生理を予習する（1 時間） ・説明した教科書内のアンダーラインを引いた重要部位を復習・記憶する。(2 時間)
7	疾病・治療論(脳神経７)	講義にて教科書の脳神経疾患、 ・アルツハイマー型認知症 ・レビー小体型認知症 ・脳血管性認知症 ・てんかんの分類 ・意識障害（ＪＣＳ・ＧＣＳ） ・脳死 の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について説明する。	・脳神経に関する解剖生理を予習する（1 時間） ・説明した教科書内のアンダーラインを引いた重要部位を復習・記憶する。(2 時間)
8	疾病・治療論(骨疾患など)	講義にて骨疾患、主に骨折や骨粗鬆症の	・骨関節に関する解剖生理を予習する（1 時間）

		原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する。	・説明した配布プリント内のアンダーラインを引いた重要部位を復習・記憶する。(2 時間)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	病理学総論、疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	病気がみえる vol.7 脳・神経		メディックメディア
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	合否判定は定期試験を中心に総合判定する。 試験には主に客観問題を出題する。講義中の授業態度などを評価の一部とする。 定期試験（90%）、講義での授業態度など（10%）で最終評価する。
学生への メッセージ	授業には指定教科書を持参して下さい。 8 回目はプリントを配布します。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　研究室 23
備考	病理学総論、疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅱ、疾病治療論Ⅲで同じシリーズの教科書を使用します。

専門科目

科目名	疾病・治療論Ⅳ	科目名（英文）	Clinical Medicine Ⅳ
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	大橋　敦
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP7△		
科目ナンバリング	NDN1015a0		

授業概要・目的	小児の成長発達や健康上の課題に視点をあてて整理し、看護の対象である小児の理解を深める。対象の個別性（年齢、疾患の重症度、家庭環境）に応じた看護援助を行うための疾病の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する。
到達目標	小児に特有の急性疾患・慢性疾患、手術を必要とする先天性疾患、低出生体重児などに関する病態生理、検査・処置、治療等について理解できる。
授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って講義を行う。スライドを中心に講義を行い、スライドと同等の内容が記載されている資料を配付する。講義後の事後学習に配付資料を十分活用して欲しい。疾患を解説する際に、解剖生理についての基礎的な知識が必要となるので、事前学習を十分に行う。
科目学習の効果（資格）	看護師国家試験受験のための必須科目である。 本科目は、小児看護学援助論Ⅰ、小児看護学実習の理解を深めるための基盤となる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	新生児の疾患について	新生児、早産児の生理機能と代表的な疾患を理解する。	事前課題：課題プリント 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
2	小児の呼吸器疾患について	小児の呼吸生理の特徴と、小児に多い呼吸器疾患を理解する。	事前課題：課題プリント 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
3	小児の循環器疾患について	小児の循環生理の特殊性と先天性心疾患を理解する。	事前課題：課題プリント 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
4	小児の血液疾患・悪性腫瘍について	小児に多い血液疾患、悪性疾患を理解する。	事前課題：課題プリント 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
5	小児の消化器疾患、腎・泌尿器疾患について	小児に多い消化器疾患、腎・泌尿器疾患を理解する。	事前課題：課題プリント 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
6	小児の神経疾患について	小児に多い神経疾患を理解する。染色体異常症、発達障害について理解する。	事前課題：課題プリント 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
7	小児の内分泌・代謝疾患について	小児に多い内分泌疾患、成長障害、代謝性疾患を理解する。	事前課題：課題プリント 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
8	小児の感染症、免疫・アレルギーについて	小児に多い感染症、免疫・アレルギー疾患を理解する。予防接種について理解する。	事前課題：課題プリント 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	人体の構造と機能Ⅰ．Ⅱ．Ⅲ．Ⅳ、小児看護学概論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新体系　看護学全書　小児看護学①　小児看護学概論　小児保健	松尾宣武/濱中喜代　編集	メジカルフレンド社
2	新体系　看護学全書　小児看護学②　健康障害をもつ小児の看護	松尾宣武/濱中喜代　編集	メジカルフレンド社
3	ナーシンググラフィカ　小児看護技術　小児看護学②	中野綾美　編集	メディカ出版

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	小児科学　第２版	金子一成　編集	金芳堂
2	小児の疾患と看護　小児看護③	中野綾美　編集	メディカ出版
3	小児臨床看護学各論　小児看護学②	奈良間美穂　他	医学書院

評価方法（基準）	合否判定は定期試験で判定する。筆記試験１００点満点の６０点以上で合格とする。
学生へのメッセージ	疾病・治療論Ⅳでは非常に広範囲の内容を含んでいます。単に知識の記憶にとどまらず、自ら主体的に考え、理解し、活用できるよう学習を深めて下さい。
担当者の研究室等	
備考	

科目名	疾病・治療論Ⅴ	科目名（英文）	Clinical Medicine Ⅴ
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	西村　史朋
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP7△		
科目ナンバリング	NDN1016a0		

授業概要・目的	≪概要≫ 次世代を担う母性準備期（思春期）、母性が最も発揮する時期（成熟期）、母性継承期（更年期・老年期）にある女性特有とされる、月経異常、性感染症、不妊症、ホルモン療法、婦人科疾患（子宮筋腫、子宮がんなど）、および乳腺疾患、妊娠・分娩に関する健康障害と治療法について学ぶ。（全８回） 担当講師は産婦人科医として周産期医療、婦人科医療、女性のヘルスケアの臨床に長年携わった経験を持ち、女性特有の疾患や健康の維持について有機的な講義を展開する。
到達目標	１．子どもを産み育てるために必要となる妊娠前からの女性・家族への支援を理解する。 ２．婦人科疾患（月経異常、性感染症、不妊症、子宮筋腫、子宮がんなど）、妊娠・分娩に関する健康障害と治療法について理解する。
授業方法と留意点	女性特有の疾患についての配当講義は当講義に限定されることが多い一方で、その内容は多岐にわたり、膨大な量になる。 8回の講義のみでその全てを網羅しようとすると、学生の理解可能な速度を完全に超えてしまうことになる。 十分な予習復習と、講義中に眠らないで済む程度の十分な睡眠を確保して講義に臨んでいただきたい。
科目学習の効果（資格）	母性看護学援助論Ⅰ、Ⅱの基礎科目になり、母性看護学実習の履修要件である

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	月経とその異常（思春期から性成熟期の健康管理）	月経のメカニズムとその異常（月経周期異常、月経随伴症候群）について概説し、その対処の必要性について学ぶ。 また月経異常をきたす可能性のある良性疾患（子宮筋腫、子宮内膜症、子宮腺筋症）とその治療について学ぶ。	事前学習課題：テキスト「母性看護学概論」第３章および第５章を読んでくる（1時間） 事後学習課題：講義内容の復習（30分）
2	婦人科疾患一般（がんの診療における一般的な方針）	がんの一般的な診断方法（細胞診、組織診、画像診断と病期の決定）と主要な治療法（手術、放射線、化学療法）の特性と選択、限界について学ぶ。	事前学習課題：事前配布資料を読んでくる（30分） 事後学習課題：講義内容の復習（30分）
3	婦人科疾患各論（子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌について）	子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌についてそれぞれの具体的な診断と治療について学ぶ。	事前学習課題：事前に配布する資料を読んでくる（30分） 事後学習課題：講義内容の復習（30分）
4	乳腺疾患各論（乳癌について） 女性のヘルスケア領域（月経前症候群、更年期症候群、骨粗鬆症、性感染症について）	乳癌の診断と治療について学ぶ。 女性のヘルスケア領域の疾患と治療について学ぶ。 （月経前症候群、更年期症候群、骨粗鬆症、性感染症）	事前学習課題：事前配布資料を読んでくる（30分） 事後学習課題：講義内容の復習（30分）
5	不妊治療と妊娠 妊娠の経過とその異常	不妊治療の概略を理解する。 妊娠の成立とその経過について理解し、異常について学ぶ。 妊娠期：妊娠高血圧症候群、流産・早産、胎児発育評価と IUGR、IUGR と将来の生活習慣病、胎盤機能の異常と IUGR、羊水の機能と生理 ハイリスク妊婦とは 妊娠期の異常：妊娠初期の異常（妊娠悪阻、流産、異所性妊娠）、 妊娠中期（多胎妊娠、早期産、切迫早産）、 妊娠後期（前置胎盤、常位胎盤早期剥離） 妊娠期の感染症（母子感染について、風疹、トキソプラズマ症、B 型肝炎、C 型肝炎、成人 T 細胞性白血病、パルボウィルス B19 感染症、B 群溶血性レンサ球菌感染症、 梅毒、性器クラミジア、淋菌感染症、エイズ）	事前学習課題：テキスト「母性看護学各論」（第 2 章、第 7 章Ⅰ節 B）を読んでくる（30分） 事後学習課題：講義内容の復習（30分）
6	分娩の経過とその異常	分娩の経過とその異常について学ぶ。 分娩期：分娩の三要素（産道／娩出力／娩出物）について整理し、それらの関係と分娩の異常について理解する。 産道：骨産道と軟産道の異常 娩出力：陣痛微弱と分娩の遷延、過強陣痛 娩出物：胎位異常、胎盤の異常、臍帯の異常、羊水の異常 胎児機能不全 ＊無痛分娩や急速遂娩（吸引分娩、鉗子分娩、帝王切開術）について。	事前学習課題：テキスト「母性看護学各論」（第 7 章 II 節）を読んでくる（30分） 事後学習課題：講義内容の復習（30分）
7	産褥・新生児の異常	産褥期： 産褥出血、産褥熱、精神障害、マタニティブルーズ、エジンバラ産後鬱診断表について、産褥血栓症	事前学習課題：テキスト「母性看護学各論」（第 7 章 III 節）を読んでくる(30分) 事後学習課題：講義内容の復習（30分）
8	産褥・新生児の異常	新生児の異常：新生児仮死、新生児蘇生アルゴリズム分娩時外傷、高ビリルビン血症、低出生体重児、呼吸窮迫症候群、未熟児網膜症等	事前学習課題：テキスト「母性看護学各論」（第 7 章 IV 節）を読んでくる(30分) 事後学習課題：講義内容の復習（30分）
9			

	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			

関連科目	人体の構造と機能、臨床心理学、疾病治療論、代謝栄養学、食生活論、病理学総論、感染と防御、家族関係論、看護関係法規、看護対人関係論、基礎看護技術、成人看護援助論、小児看護援助論、精神看護援助論、地域看護学、家族看護学、看護倫理、生命倫理、心理学、母性看護学概論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	系統看護学講座　母性看護学概論	森　恵美他	医学書院
2	系統看護学講座　母性看護学各論	森　恵美他	医学書院
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	病気が見える voL10 産科		メディックメディア
2	病気が見える voL9 婦人科、乳腺外来		メディックメディア
3	成人看護学⑨女性生殖器	末岡　浩他	医学書院

評価方法（基準）	定期試験 80%、レポート課題等 20%、授業参加度等を見て総合的に評価する。
学生へのメッセージ	婦人科疾患（性・生殖機能障害など）、妊娠・分娩に関する健康障害について理解を深め、身体面だけでなく心理面、社会的側面に及ぼす影響について考える機会とするなどのたくさんの問いを持って、真摯に学んで下さい。
担当者の研究室等	連絡担当：泉川孝子（研究室 15）
備考	授業担当は非常勤講師のため、授業時間外での質問等に対する応対方法は授業開始時に知らせる。

科目名	疾病・治療論Ⅵ	科目名（英文）	Clinical Medicine Ⅵ
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	小笠原　一能
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP7△		
科目ナンバリング	NDN1017a0		

授業概要・目的	精神科医療における診断と治療の概念、主な精神疾患の病因、症状、診断、回復過程、治療について学ぶ。一部、現代の精神保健に関する事項についても触れる。
到達目標	各精神疾患の病因・症状・診断・回復過程・治療、現代の精神保健上の問題について理解する。
授業方法と留意点	講義を中心とするが、適宜質問を受け付け、質問に対する答えや意見・感想を求めて授業への積極的参加を促す。
科目学習の効果（資格）	看護師国家試験受験資格のための必修科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	総論・外因性精神疾患	精神疾患の分類・診断基準・原因・症状の捉え方に続き、外因性精神疾患（症状性精神疾患、器質性精神疾患、中毒性精神疾患、認知症など）、急性・心的外傷後ストレス障害、適応障害などの病因、症状、治療について理解する	事前：教科書「第１章Ⅲ（P.17～24）」「第２章Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ、Ⅹ　（P.113～170）」を読んできてください。　（１時間） 事後：授業内容を整理しておいてください。（１時間）
2	うつ病・躁うつ病・統合失調症	医学が「こころ」をどう捉えているかに続き、うつ病・躁うつ病（双極性障害）・統合失調症の病因、症状、予後、治療法、精神疾患と遺伝の関連ついて理解する	事前：教科書「第２章Ⅲ、Ⅳ（P.64～112）」を読んできてください。（１時間） 事後：授業内容を整理しておいてください。（１時間）
3	神経発達障害・脳神経と精神疾患	神経発達障害（精神遅滞、学習障害、注意欠如・多動性障害、自閉症スペクトラム障害など）の病因、症状、治療法について理解する	事前:教科書「第１章Ⅱ(P.11～16)」「第２章?(P.171～182)」を読んできてください。（１時間） 事後：授業内容を整理しておいてください。（１時間）
4	神経症性障害・心身症・パーソナリティ障害	神経症性障害（不安障害、強迫性障害、解離性障害、身体症状症）、心身症、パーソナリティ障害の分類、病因、症状、治療法について理解する	事前：教科書「第２章Ⅰ、Ⅱ（P.35～63）」を読んできてください。（１時間） 事後：授業内容を整理しておいてください。（１時間）
5	精神科的治療Ⅰ ～基礎的介入・身体療法～	精神科で行われている治療法（支持的精神療法、疾患教育、生活指導、薬物療法、電気けいれん療法、高照度光療法、認知リハビリテーションなど）について理解する。漢方薬も概説する	事前：教科書「第３章Ⅰ、Ⅱ（P.203～243）」を読んできてください。（１時間） 事後：授業内容を整理しておいてください。（１時間）
6	精神科的治療Ⅱ てんかん、睡眠障害、摂食障害	精神科で行われている治療法（催眠療法、精神分析療法、行動療法、認知療法、アート・セラピー、森田療法、来談者中心療法、ユマニチュードなど）について理解する。また、てんかん、睡眠障害、摂食障害の分類、症状、治療法について理解する	事前：教科書「第２章Ⅸ　(P.162～167)、14（P.197～201）」「第３章Ⅲ（P.244～251）」を読んできてください。（１時間） 事後：授業内容を整理しておいてください。（１時間）
7	依存・乱用・嗜癖・脳波	アルコール使用障害、薬物使用障害の概念、症状、治療、依存からの回復過程、アディクション、脳波の基礎について理解する	事前：教科書「第２章Ⅷ（P.151～161）」を読んできてください。（１時間） 事後：授業内容を整理しておいてください。（１時間）
8	性関連障害、ストレス	性同一性障害（性別違和）、性嗜好障害の症状と治療、ストレス過程、ストレスによって起こる身体・精神的反応、労働ストレスについて理解する	事前：教科書「第２章Ⅰ（P34～51）、ⅩⅣ（P176）」を読んできてください。(１時間) 事後：授業内容を整理しておいてください。（１時間）
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ、精神看護学援助論Ⅱ、精神看護学実習

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	はじめての精神医学	渡辺雅幸	中山書店
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験 84%、講義ごとのワークシート 16%
学生へのメッセージ	質問は歓迎します。 社会に流布している「偏見・差別意識」「過剰なロマン的・文学的見方」の両方にとらわれない、科学的・合理的かつ（本当の意味で）人道的な

	精神科患者さんへの見方を考えてもらいたいと思います。
担当者の 研究室等	質問等があれば、精神看護学領域の教員（眞野・山本智、吉永）を経由して連絡をください。 本科目は精神科医としての臨床経験を持つ教員が担当します。
備考	学生の理解度に応じて、シラバスを変更することがある。 日程（日程変更を含む）は追って連絡するので、注意深く掲示板およびポータルサイトを確認をすること。

科目名	周産期医学	科目名（英文）	Perinatal Medicine
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	西村　史朋.河田　興.齊藤　三佳
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	最新の周産期医療現場で必須の知識を修得し、異常に対する診断および治療法を理解する。 新生児の生理と異常について学習し、異常に対する診断及び治療法を理解する。演習では新生児蘇生を学ぶ
到達目標	１．周産期医療で必須の知識を修得する。 ２．異常に対する診断および治療法を理解する。 ３．新生児の生理と異常について学習し、異常に対する診断及び治療法を理解する。 ４．演習では縫合術と新生児蘇生（ＮＣＰＲ）を習得する。
授業方法と留意点	産科：集中講義の形での授業になるため、知識や技能の修得や定着のために時間を割くことが難しい。事前の学習が必須であるため、かならず事前課題の確認を行うこと。 新生児科：テキストおよび配布するプリント等により授業を行います。
科目学習の効果（資格）	助産師国家試験に合格するとともに、実際の現場で異常を察知し対応できるために、知識ならびに手技・手法を身に着ける

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	周産期医学とは	産婦人科から見た周産期についての概略と歴史、母子手帳の変遷と妊婦の健診について	事前課題：自分の出生の聞き取り（1 時間） 事後：講義の復習（1 時間）
2	新生児の異常兆候	新生児の異常兆候	事前：なし 事後：講義の復習
3	妊娠による母体の変化と異常ー１	妊娠による母体の変化と異常（初期：悪阻、切迫流産、流産、異所性妊娠、胞状奇胎）実技：縫合練習	事前課題：臨床ケース検討（1 時間） 事後課題：講義の復習（1 時間）
4	新生児蘇生	新生児蘇生について、演習含む	事前：なし 事後：講義の復習
5	新生児の疾患-1	呼吸器疾患、分娩外傷、感染症など	事前：なし 事後：講義の復習
6	妊娠による母体の変化と異常ー２	妊娠による母体の変化と異常（中期：切迫早産、前期破水、妊娠高血圧症候群、後期：子宮内胎児発育制限、血液型不適合、感染症）実技：縫合練習	事前課題：臨床ケース検討（1 時間） 事後課題：講義の復習（1 時間）
7	分娩の生理と異常ー１	分娩の生理と異常（分娩の三要素とそれらの異常、対処方法…胎位異常、微弱陣痛、遷延分娩、前置胎盤、常位胎盤早期剥離、肩甲難産）	事前課題：臨床ケース検討（1 時間） 事後課題：講義の復習（1 時間）
8	分娩の生理と異常ー２	分娩の生理と異常(産科救急：分娩時出血、妊娠合併症、アナフィラキシー、意識消失)	事前課題：臨床ケース検討（1 時間） 事後課題：講義の復習（1 時間）
9	新生児疾患ー２	循環器疾患、消化器疾患、血液疾患など	事前：なし 事後：講義の復習
10	周産期を取り巻く状況について	産科合併症や社会的な問題に助産師が対処してゆくために必要な知識と問題点について。	事前課題：臨床ケース検討（1 時間） 事後課題：講義の復習（1 時間）
11	ハイリスク新生児とその対応	ハイリスク新生児とその対応（低出生体重児・早産児を含む）	事前：なし 事後：講義の復習
12	産褥期の異常-1	産褥期の異常-1（子宮内反症、子宮破裂、羊水塞栓、産科的異常出血）実技：縫合実習）	事前課題：臨床ケース検討（1 時間） 事後課題：講義の復習（1 時間）
13	妊娠合併症	妊娠合併症（妊娠糖尿病、甲状腺機能異常、浮腫、マイナートラブル）	事前課題：臨床ケース検討（1 時間） 事後課題：講義の復習（1 時間）
14	合併症妊娠	合併症妊娠(感染症:HIV, HTLV, GBS, クラミジア、麻疹、ムンプス、リンゴ病。心疾患、腎疾患、免疫疾患)	事前課題：臨床ケース検討（1 時間） 事後課題：講義の復習（1 時間）
15	周産期の話題	周産期の話題とこれからの助産師のありかた	事前課題：臨床ケース検討（1 時間） 事後課題：講義の復習（1 時間）

関連科目	助産学概論,、母性看護学援助論Ⅰ、母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	目でみる妊娠と出産（Visual series）	馬場 一憲	文光堂
2	日本版救急蘇生ガイドラインに基づく新生児蘇生法テキスト 2015 改訂版	細野　茂春	メジカルビュー社
3	新生児学入門第 4 版	仁志田　博司	医学書院

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	産科：事前課題の提出（10%）、授業への参加（10%）、および試験（80%） 新生児科：講義内で行う小テスト等、および演習への参加意欲などにより評価します。
学生への	産科：集中講義と演習になりますので、密度の高いものにするために事前の準備や知識の整理が必要です。事前課題に取り組む中、あるいは、今

メッセージ	までの実習などを通して抱いた疑問をしっかり持って講義に参加してください。 新生児科：正しい知識に基づいた、自ら考える医療を実践してくために、新生児時期の特徴的な疾患と病態を理解し学習しましょう。
担当者の 研究室等	1 号館 2 階　　非常勤講師室
備考	

科目名	小児看護学援助論Ⅰ	科目名（英文）	Pediatric Nursing Ⅰ
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鎌田　佳奈美.池田　友美.亀田　直子.中山　祐一
ディプロマポリシー(DP)	DP2○,DP3◎,DP4○,DP6○,DP7○,DP8△		
科目ナンバリング	NDN2048a0		

授業概要・目的	様々な発達段階にある子どもの健康状態に応じた日常生活を理解し、適切な看護を提供するために必要な基本的知識と援助技術を学修する。また、子どもの健康上の問題を理解するために、健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響、子どもの疾病の原因や検査や治療法の理解を深め、子どもと家族を尊重した看護のあり方を考える。 本科目を担当する鎌田は６年、池田は５年の病院の看護職としての実践経験から、入院中の子どもの日常生活援助やヘルスアセスメントに関する知識を教授する。亀田は９年間の臨床経験から、入院中の子どもの状況に応じた看護技術について、具体的に教授し、演習指導を行う。中山は３年の小児病棟での実践経験と地域で生活する障がい児への実践経験をもとに地域で生活する障がい児の看護および看護技術演習の指導を行う。
到達目標	１．各発達段階にある子どもの日常生活と看護援助の特徴を理解する。 ２．子どもの健康問題の特徴と、健康問題が子どもと家族に与える影響について理解する。 ３．子どもの日常生活援助技術および子どものヘルスアセスメントについて理解する。 ４．子どもの身体構造的・機能的な特徴に基づいた症状を理解する。 ５．子ども特有の急性疾患・慢性疾患、障がいの子どもに関する病態生理、検査・処置、治療の看護について理解する。
授業方法と留意点	小児看護学概論で習得内容の振り返りを行いながら授業をすすめる。簡単な事例を用いて演習を行い、習得した知識の活用を促す。小児看護学における援助技術については、事前にグループ学習し、学生が主体となってデモストレーション、実施、ピア評価を行うことで、学生の自主性、主体性、相乗効果を促せるよう工夫する。
科目学習の効果（資格）	看護師国家試験受験のための必須科目である。 本科目は、小児看護学援助論Ⅱの理解を深め、小児看護学実習を行うために基盤となる科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	病気や入院に対する子どもの理解	子どもの病気の特徴について概観する 子どもは病気や入院をどのように理解するか(認知発達段階の特徴を踏まえ，子どもが病気や入院をどう理解するかについて)	事前課題教科書：「健康障害をもつ小児の看護」の第１章のⅡを自己学習しておくこと、ピアジェの認知発達理論について復習しておくこと(1時間) 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。(1時間)
2	健康問題や入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護	健康問題や入院が子どもに及ぼす影響について 健康問題が入院が家族に及ぼす影響について 子どもと家族にとって適切な外来および入院環境について	事前課題：教科書「健康障害をもつ小児の看護」の第１章のⅠおよびⅢを自己学習しておくこと)(1時間) 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1時間)
3	子どもの発達段階に応じた日常生活援助	食べる機能の発達の特徴と日常生活援助 健康問題のある子どもへの発達段階に応じた食援助	事前課題：教科書「小児看護学概論」第６章Ⅴの「食べる」の項、および教科書「健康障害をもつ小児の看護」第２章を自己学習しておくこと(1時間) 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1時間)
4	子どもの発達段階に応じた日常生活援助	睡眠の機能の発達の特徴と日常生活援助 健康問題のある子どもへの発達段階に応じた睡眠援助	事前課題：教科書「小児看護学概論」第６章Ⅴの「眠る」の項、および教科書「健康障害をもつ小児の看護」第２章を自己学習しておくこと(1時間) 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1時間)
5	子どもの発達段階に応じた日常生活援助	排泄の機能の発達の特徴と日常生活援助 健康問題のある子どもへの発達段階に応じた排泄援助	事前課題：事前課題：教科書「小児看護学概論」第６章Ⅴの「排泄する」の項、および教科書「健康障害をもつ小児の看護」第２章を自己学習しておくこと(1時間) 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1時間)
6	子どもの発達段階に応じた日常生活援助	身だしなみを整えるの機能の発達の特徴と日常生活援助 健康問題のある子どもへの発達段階に応じた身だしなみを整える援助	事前課題：教科書「小児看護学概論」第６章Ⅴの「身だしなみを整える」の項、および教科書「健康障害をもつ小児の看護」第２章を自己学習しておくこと(1時間)、技術自己練習（1時間） 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1時間)
7	子どもの発達段階に応じた日常生活援助	遊びの機能の発達の特徴と日常生活援助 健康問題のある子どもへの発達段階に応じた遊びの援助	事前課題：教科書「小児看護学概論」第６章Ⅴの「遊び」の項、および教科書「健康障害をもつ小児の看護」第２章を自己学習しておくこと(1時間)、技術自己練習（1時間） 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1時間)
8	子どもによく見られる症状と看護	啼泣、不機嫌、発熱、発疹、けいれん、嘔吐、下痢、脱水など、子どもによくみられる症状の機序と看護について	事前課題：教科書「小児看護学概論」第６章Ⅴの「遊び」の項、および教科書「健康障害をもつ小児の看護」第４章を自己学習しておくこと(1時間)、技術自己練習（1時間） 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1時間)
9	子どもによくみられる症状と看護	呼吸困難、痛み、意識障害、浮腫、掻痒感など、子どもによくみられる症状の機序と看護について	事前課題：教科書「小児看護学概論」第６章Ⅴの「遊び」の項、および教科書「健康障害をもつ小児の看護」第４章を自己学習しておくこと(1時間)、技術自己練習（1時間） 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1時間)
10	小児看護技術(日常生活援助）演習	定頸していない乳児の抱っこ、移動に関する援助技術 歩行可能な幼児の抱っこ、移動に関する援助技術 ベッド柵の取扱い	事前課題：教科書「小児看護技術」第４章６「移動の援助技術」の自己学習および自己練習(2時間) 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1時間)

	11	小児看護技術(日常生活援助) 演習	定頸していない乳児の抱っこ、移動に関する援助技術 歩行可能な幼児の抱っこ、移動に関する援助技術 ベッド柵の取扱い	事前課題：教科書「小児看護技術」第4章6「移動の援助技術」の自己学習および自己練習(2時間) 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1時間)
	12	検査や処置を受ける子どもと家族の看護	子どもが検査や処置を受ける場合の特徴について 検査や処置を受ける子どもの体験 子どもに特徴的な情緒反応や認知について プレパレーションについて	事前課題：教科書「健康障害をもつ小児の看護」第7章Ⅰおよび第3章Ⅱ・Ⅳを自己学習(2時間) 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1時間)
	13	子どものヘルスアセスメント	子どもとのコミュニケーションについて ヘルスアセスメントの目的・意義について 子どもの観察と情報収集の方法について	事前課題：教科書「健康障害をもつ小児の看護」第3章Ⅲの自己学習、「小児看護技術」第1章アセスメント看護技術のグループ練習(2時間) 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1時間)
	14	ヘルスアセスメント技術演習	事例に応じたバイタルサイン測定および身体計測技術確認	事前課題：教科書「小児看護技術」第1章アセスメント看護技術のグループ練習(2時間) 事後課題：技術演習内容の振り返り(1時間)
	15	ヘルスアセスメント技術演習	事例に応じたバイタルサイン測定および身体計測技術確認	事前課題：教科書「小児看護技術」第1章アセスメント看護技術のグループ練習(2時間) 事後課題：技術演習内容の振り返り(1時間)

関連科目	小児看護学概論、基礎看護技術

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新体系　看護学全書　小児看護学①　小児看護学概論　小児保健	松尾宣武/濱中喜代　編集	メジカルフレンド社
2	新体系　看護学全書　小児看護学②　健康障害をもつ小児の看護	松尾宣武/濱中喜代　編集	メジカルフレンド社
3	小児看護技術　改訂第3版	今野美紀、二宮啓子　編集	南江堂

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	小児科学　第2版	金子一成　編集	金芳堂
2	小児の疾患と看護　小児看護③	中野綾美　編集	メディカ出版
3	小児臨床看護学各論　小児看護学②	奈良間美穂　他	医学書院

評価方法 (基準)	後期の定期試験80%、課題、演習、グループワーク20%とし総合的に評価する シラバスの順番が多少前後する場合がありますが、事前に連絡をします。
学生への メッセージ	小児看護学援助論Ⅰでは非常に広範囲の内容を含んでいます。単に知識の記憶に止まらず、自ら主体的に考え、理解し、活用できるよう学習を深めて下さい。演習日時および内容の詳細は第1回目の授業で説明します。
担当者の 研究室等	7号館　3階　研究室１７(鎌田)、研究室１８(池田)、共同研究室5（亀田)、共同研究室3（中山）
備考	課題(試験やレポート等のフィードバックについて ・技術のレポート課題はフィードバックをしますので、それらをもとにリフレクションを行い実習に生かしてください。

科目名	小児看護学援助論Ⅱ	科目名（英文）	Pediatric Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	池田　友美.鎌田　佳奈美.亀田　直子.中山　祐一
ディプロマポリシー(DP)	DP2○,DP3◎,DP4○,DP6○,DP7○,DP8○		
科目ナンバリング	NDN2049a0		

授業概要・目的	疾病・障がいがある子どもと家族の健やかな育ちを支えるために、小児期によくみられる疾患をもつ子どもの看護を理解する。また、さまざまな発達段階や健康状態にある子どもとその家族の最善の利益を目指した看護のあり方を看護過程を通して考える。
到達目標	１．疾患や障がいがある子どもと家族の援助について説明できる。 ２．急性期にある子どもと家族の看護について考案できる。 ３．慢性期にある子どもと家族の看護について考案できる。 ４．さまざまな発達段階や健康状態にある子どもとその家族の最善の利益を目指した看護のあり方を考察できる。 ５．小児看護特有の基本的技術を習得する。
授業方法と留意点	視聴覚教材や外部講師による講義、施設の見学を活用し、疾患や障がいのある子どもを理解しやすいように解説する。また、事例演習はグループワークによって、さまざまな健康レベルにある子どもの援助についての理解をうながす。技術演習では、事例を用いて、子どもの発達、健康状態、生活、心理面を力動的にアセスメントし、子どもと家族のニーズから抽出された看護援助を検討するためにグループワークを行なう。
科目学習の効果（資格）	看護師国家試験受験のための必須科目である。 本科目は、小児看護学実習の理解を深めるための基盤となる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	さまざまな健康障害がある子どもと家族への援助	小児看護学実習の概要 子どもとの関わり方についてグループを行う	事前課題：教科書第３章Ⅰを読む（30 分） 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる（30 分）
2	小児看護の看護過程	小児の看護課程について	事前課題：課題プリント（30 分） 事後課題：課題プリント（1 時間）
3	【事例演習】 急性期にある 子どもと家族の看護（１）	急性期にある子どもと家族 の特徴 急性期における子どもと家族の看護過程の展開（グループワーク）	事前課題：課題プリント（1 時間） 事後課題：課題プリント（2 時間）
4	【事例演習】 急性期にある 子どもと家族の看護（２）	急性期における子どもと家族の看護過程の展開（グループワーク）	事前課題：課題プリント（1 時間） 事後課題：課題プリント（2 時間）
5	【事例演習】 慢性期にある 子どもと家族の看護（１）	慢性疾患を抱えながら生活する子どもとその家族の特徴 慢性期における子どもと家族の看護過程の展開（グループワーク）	事前課題：課題プリント（1 時間） 事後課題：課題プリント（2 時間）
6	【事例演習】 慢性期にある 子どもと家族の看護（２）	慢性期における子どもと家族の看護過程の展開（グループワーク）	事前課題：課題プリント（1 時間） 事後課題：課題プリント（2 時間）
7	手術を受ける子どもと家族の看護	子どもの手術の特徴と手術を受ける子どもと家族への援助 子どもの救急法について	事前課題：教科書第７章Ⅱ、Ⅶを読む（30 分） 事後課題：授業でわからなかった内容 やさらに深く学習したいことについて調べる（30 分）
8	障がいのある子どもと家族の看護 在宅に移行 する子どもと家族の看護	障がいのある子どもとその家族の意思決定、在宅に移行するための準備、地域で生活するための看護師の役割（施設見学を予定しています）	事前課題：教科書第７章Ⅷ、11 を読む（30 分） 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる（30 分）
9	災害に遭遇した子どもと家族の看護 心の問題がみ られる子どもと家族の看護	子どもの被災の特徴 心の問題をもつ子ども と家族への援助	事前課題：教科書７章 13、15 を読む（30 分） 事後課題：授業でわからなかった内容 やさらに深く学習したいことについて調べる（30 分）
10	ターミナル期の子どもと家族の看護	死にゆく子どもとその子どもを看取る家族への援助（グループワーク）	事前課題：教科書第６章Ⅲを読む（30 分） 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる（30 分）
11	【事例演習】 急性期・慢性期にある子どもと家族の看護	事例による看護計画の立案（グループワーク）	事前課題：教科書を読む（30 分） 事後課題：課題プリント（1 時間）
12	【技術演習】 急性期・慢性期にある子どもと家族の看護　まとめ（１）	立案した計画による援助の実施	事前課題：課題プリント（1 時間） 事後課題：課題プリント（30 分）
13	【技術演習】 急性期・慢性期にある子どもと家族の看護　まとめ（２）	立案した計画による援助の実施	事前課題：課題プリント（1 時間） 事後課題：課題プリント（30 分）
14	【技術演習】 急性期・慢性期にある子どもと家族の看護　まとめ（３）	立案した計画による援助の実施	事前課題：課題プリント（1 時間） 事後課題：課題プリント（30 分）
15	子どもの実際の理解	小児の看護過程に必要な発達の理解（外部講師による講義を予定しています）	事前課題：授業内に提示する（30 分） 事後課題：課題のプリント（1 時間）

関連科目	小児看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ、小児看護学実習

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新体系看護学全書　小児看護学②　健康障害をもつ小児の看護	松尾宣武、濱中喜代	メヂカルフレンド社
2	小児看護技術　改訂第３版	今野 美紀、二宮 啓子	南江堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新体系看護学全書　小児看護学概論・小児保健	松尾宣武、濱中喜代	メヂカルフレンド社

	2	ナーシンググラフィカ　小児看護学②　小児看護技術	中野綾美	メディカ出版
	3	写真でわかる小児看護技術	山元恵子	インターメディカ
評価方法（基準）	定期試験および課題・グループワーク・技術演習を総合的に評価する。 定期試験 80%、課題・グループワーク・技術演習 20%			
学生へのメッセージ	小児看護学実習に向けての実践的な授業になります。授業担当の教員全員が、5 年以上の小児看護の臨床経験があり、病気や障がいのある子どもたちとの関わりを通して学んだこと・考えたことを皆さんにわかりやすく伝えたいと思っています。 課題やグループワークも多いですが、既習の知識を振り返りながら計画的にすすめましょう。			
担当者の研究室等	7 号館　3 階　研究室 16（池田）、１７（鎌田）、共同研究室３（中山）、共同研究室５（亀田）			
備考				

科目名	小児看護学概論	科目名（英文）	Introduction to Pediatric Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期前半	授業担当者	鎌田　佳奈美.池田　友美
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP4○,DP6○,DP8△		
科目ナンバリング	NDN2047a0		

授業概要・目的

小児看護学の対象である子どもと家族の理解を踏まえ、発達の促進および健康保持増進に向けた看護者の役割と機能、支援方法を学習する。また、子どもと家族の理解を深めるために、必要な発達理論、親子関係理論、家族システム理論および概念について理解し、子ども観・家族観を深める。

科目責任者である鎌田は看護師として小児病棟での５年の実践経験、池田は助産師・看護師としての５年の臨床経験を活かし、具体的な子どもと家族の事例を用いながら、理論分析や倫理分析を含めた実践的な教育を行う。

到達目標

１．小児看護の対象である子どもと家族の理解する
２．子どもの健康保持増進および発達を促進に向けた看護者の役割と機能を理解する
３．小児看護によく適用される発達理論や家族理論について理解し、看護への適用を考えることができる

授業方法と留意点

子どもの成長・発達の一般原則を理解し、子どものイメージ化を促すため、視聴覚教材や事例を多く用いて講義を進める。また、毎回、事前課題を提示し、それをもとに講義を展開したり、グループワークなどを取り入れながら授業を進める。学習した内容については、身近な子どもの姿を通じて、振り返りができるような課題もを取り入れ、学生が主体的に本科目に取り組めるよう工夫をする。

科目学習の効果（資格）

看護師国家試験受験のための必須科目である。
本科目は、小児援助論Ⅰ、小児援助論Ⅱ、小児看護学実習の理解を深めるための基盤となる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	小児看護学の概観､子どもの特徴	・小児看護学の構成を概観し、授業の進め方、評価について ・子どもの発達区分、特徴について ・保健統計からみた子どもと家族、および子どもを取り巻く環境について	事前課題：教科書「序章　小児看護学を学ぶにあたって」を読んでおくこと。(1時間) 事後課題：身近にいる子どもを観察し、その内容や気づきをまとめる(1時間)
2	子どもを取り巻く医療･小児看護の変遷とこれからの課題	・小児医療・看護の歴史と変遷について ・小児看護の対象と目標について ・小児看護の場と看護の特徴について	事前課題：授業で課題を提示する(1時間) 事後課題：授業でわからなかった内容のまとめとさらに深く学習したいことについて調べる(1時間)
3	子どもの最善の利益	・子どもの権利条約、医療における子どもの権利について ・小児医療で起こりやすい倫理的問題について	事前課題：授業で課題を提示する(1時間) 事後課題：授業でわからなかった内容のまとめとさらに深く学習したいことについて調べる(1時間)
4	小児看護で用いる概念と理論	・発達理論（ピアジェ、エリクソン）について ・母子関係理論（ボウルビイ）等について	事前課題：授業で課題を提示する(1時間) 事後課題：授業でわからなかった内容のまとめとさらに深く学習したいことについて調べる(1時間)
5	子どもの成長･発達の特徴Ⅰ	・成長・発達の一般原則について ・成長・発達への影響因子について ・成長・発達過程について ・成長・発達の評価について	事前課題：授業で課題を提示する(1時間) 事後課題：授業でわからなかった内容のまとめとさらに深く学習したいことについて調べる(1時間)
6	子どもの成長･発達の特徴Ⅱ	・子どもの形態的成長と機能的発達の特徴について	事前課題：授業で課題を提示する(1時間) 事後課題：授業でわからなかった内容のまとめとさらに深く学習したいことについて調べる(1時間)
7	子どもの事故防止と安全予防接種	・子ども死亡原因について ・発達段階によっておこりやすい事故について ・子どもが事故を起こしやすい要因について ・予防接種の目的について ・定期予防接種と任意予防接種について ・予防接種の対象疾患について	事前課題；社会資源について調べ、グループで検討し、まとめる。(2時間)
8	子どもと家族を守るための社会制度・社会資源	母子保健法、学校保健安全法、児童虐待防止法、予防接種法等について、グループ毎に発表する。	事前課題；社会資源について調べ、グループでまとめた内容についてのプレゼン資料を作成する。(2時間)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目

看護学概論、生命倫理

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新体系看護学全書　小児看護学概論・小児保健	松尾宣武・濱中喜代	メチィカルフレンド社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	小児看護学概論・小児臨床看護学総論	奈良間　美保	医学書院
2			
3			

評価方法（基準）

提出課題 10%、定期試験 90%で評価する。

学生への メッセージ	小児看護学概論では広範な内容を網羅し、子どもの看護を理解する上での基盤となります。知識の記憶ではなく、自らが主体的に考え、理解することを目指しましょう。習得した知識を活用できるよう、周囲の子どもに目を向け、洞察を深めてください。
担当者の 研究室等	7 号館・3 階、研究室 17（鎌田）、研究室１６（池田）
備考	

科目名	小児看護学実習	科目名（英文）	Clinical Practice in Pediatric Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	鎌田　佳奈美.池田　友美.亀田　直子.中山　祐一
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎		
科目ナンバリング	NDN3050a0		

授業概要・ 目的	【概要】 小児看護学の既習内容の知識・技術を統合して、子どもと家族を理解し,最良の健康状態の維持促進を目指して、子どもと家族を尊重した支援を実践するための基礎的能力を養う。そのため、実習施設の小児病棟において、小児期にある対象を受け持ち、子どもの発達や健康段階に応じた子どもと家族への看護過程を展開する。 本科目を担当する鎌田(6 年)、池田（5 年)、亀田（9 年)、中山（3 年）は全員が臨床での看護職および小児病棟での実践経験をもっている。それらの経験を踏まえ、講義で学習した知識を子どもと家族の看護実践に活かすことが出来るよう、具体的で現実的な内容を教授する。
到達目標	１．子どもの成長・発達を統合的に理解し、個々の特性に応じた日常生活援助を行う。 ２．健康問題や入院が子どもと家族に与える影響を理解する。 ３．子どもの健康レベル、発達段階に応じた看護問題・ニーズを抽出し、計画・実践・評価する。 ４．子どもと家族の生活を支えるチームにおける看護師の役割を理解し、多職種との連携の実際を知る。 ５．実習を通して自己の看護観・子ども観を深め、今後の課題を明らかにする。
授業方法と 留意点	１．1 グループ 5～6 人編成とし、小児病棟において 2 週間の実習を行う。 ２．原則として 1 名の子どもを受け持ち、子どもと家族との関わりを通して、看護 過程を展開する。 ３．看護の実施は、臨地実習指導者または実習指導教員と共に行う。 ４．実習時には行動計画を指導者に発表し、終了時には必ず報告を行う。 ５．毎日カンファレンスを実施し、子どもと家族への理解を深め、ニーズに応じた計画の立案を促す。 ６．ケア実施後は記録することで、自己の実践の振り返りを行い、学習を深める。 【留意点】 小児看護学実習要綱の注意事項を参照のこと。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【事前の計画】 １）実習目的・目標、方法、留意点など,事前にオリエンテーションを行う。 ２）事前の情報をもとに、受け持ちの子どもについての理解を深める。 【実習計画】 １）2 日間の保育所実習を行い、子どもの成長発達および日常生活について理解を深める。 ２）病院実習 1 週目：受け持ちの子どもと家族との関係形成および看護実践に必要な情報収集、分析、統合を行う。 2 週目：子どもと家族のニーズに基づいた看護計画を立案する。立案した計画を実施し、評価を行い計画を修正する。 【事後の計画】 臨地での体験の振り返りを通じて、自己の看護観、子ども観および今後の学生自身の課題を明確する。
関連科目	小児看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ、小児看護学援助論Ⅱ
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	実習内容・カンファレンスでの討議状況、提出記録をもとに総合的に実習指導教員が評価する
学生への メッセージ	小児看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ・Ⅱで学修した知識を活かして、子どもと家族が真に必要としている看護を実践して下さい。
担当者の 研究室等	鎌田研究室１７、池田研究室１６、亀田共同研究室５、中山共同研究室３
備考	実習施設：星ヶ丘医療センター、市立ひらかた病院、関西医科大学附属枚方病院、愛仁会リハビリテーション病院、大阪市立総合医療センター、枚方市立保育所

専門科目

科目名	助産学概論	科目名（英文）	Introduction to Midwifery
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	泉川　孝子.但馬　まり子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	この授業では、助産を中核として妊孕期間の周辺にも目を向け女性の健康問題について、健康状態を良好に保持・増進できるように取り組む。また助産の理論を元に助産ケアの実践能力の理解を深め、専門職として社会から期待される助産師の役割について考える。
到達目標	1. 出産時の支援を中核とした、次世代の健全育成について考えることができる。 2. 出産の変遷を知り、助産師の役割を認識することができる。 3. リプロダクティブヘルスにおける諸問題と課題について理解できる。 4. 助産学における対象を理解するための理論と、関連する学問領域と探求方法が理解できる。 5. わが国と諸外国の母子保健の動向や諸制度について理解できる。 6. 助産師の倫理綱領について理解し、専門職としての責務について考えることができる。
授業方法と留意点	講義とグループワークを中心に進めていきます。毎回の講義の振り返りをしてください。
科目学習の効果（資格）	助産師国家試験受験資格取得に関わる必修科目です。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	助産と概念	助産とは何かを軸に、助産の起源、概念の変遷と社会的背景の関連について述べる。	事前課題：テキストの該当部分を読んでくる（第1章 A) 事後学習課題：講義内容を整理する （前後、各１時間）
2	助産に関係する概念と理論	助産に関係する概念（リプロダクティブヘルス/ライツ、ジェンダーなど）と、助産診断について概説する。助産学を構成する理論について学習する。	事前課題：テキストの該当部分を読んでくる（第1章 B) 事後学習課題：講義内容のキーワードについて整理する （前後、各１時間）
3	助産師の歴史と文化	助産の歴史、助産習俗について理解を深める。分娩が医師の行う産科学と助産師の助産学に分かれ、現代の分娩へと至る経緯を理解する。	事前学習：テキストの該当部分を読んでくる（第6章 ABCD) 事後課題：講義内容の整理する （前後、各１時間）
4	助産と法律	助産師をとりまく法律について理解し、助産業務に関する法律について考える。	事前課題：テキストの該当部分を読んでくる（第2章 AB) 事後学習課題：講義内容を整理する （前後、各１時間）
5	助産師と教育	助産師教育の変遷からの学びを深め、これからの助産師のあり方を考える。	事前課題：テキストの該当部分を読んでくる（第7章 AB) 事後学習課題：講義内容を整理する。 （前後、各１時間）
6	日本と諸外国の母子保健ー１	日本と諸外国の母子保健の現状を把握し、助産師の役割を考える。	事前課題：テキストの該当部分を読んでくる（第5章 AB) 事後学習課題：講義内容を整理する （前後、各１時間）
7	日本と諸外国の母子保健ー２	日本と諸外国の母子保健の現状を把握し、助産師の役割を考える。	事前学習：テキストの該当部分を読んでくる（第5章 AB) 事後課題：講義の整理と課題を調べる。 （前後、各１時間）
8	助産師と倫理	今日の倫理的課題と助産師の役割・職業倫理 専門職のあり方と助産業務について考える。	事前課題：テキストの該当部分を読んでくる（第4章） 事後学習課題：講義内容を整理する （前後、各１時間）
9	グループワーク１	バイオエシックスの概念について述べる。出生前診断、減数中絶と母体保護法、体外受精の倫理と法的問題やウイメンズヘルス（ＤＶ含む）についてグループワークをする	事前課題：グループワークに必要な課題を準備する 事後学習課題：グループ討議の内容を整理し発表資料を作成する （前後、各１時間）
10	グループワーク２	バイオエシックスの概念について述べる。出生前診断、減数中絶と母体保護法、体外受精の倫理と法的問題やウイメンズヘルス（ＤＶ含む）についてグループワークをする	事前課題：グループワークに必要な課題を準備する 事後学習課題：グループ討議の内容を整理し発表資料を作成する （前後、各１時間）
11	代替医療と助産ケア--1	西洋医学を基盤とし、代替医療と助産ケアについて理解する。 ＊アロマセラピー 講師：アロマセラピスト	事前学習：配布資料を読んでくる 事後課題：講義、演習内容の整理 （前後、各１時間）
12	代替医療と助産ケア--2	西洋医学を基盤とし、代替医療と助産ケアについて理解する。 ＊アロマセラピー 講師：アロマセラピスト	事前課題：　配布資料を読んでくる 事後学習課題：講義、演習内容、助産ケアについて整理する （前後、各１時間）
13	グループワークの発表	グループ発表の内容から、我が国の助産師に期待されること、専門職としての課題について考える。	事前課題：発表課題について準備する（9、10回） 事後学習課題：発表、討議内容について整理する （前後、各１時間）
14	助産と研究ー１	エビデンスは助産ケアをよりよく行うための方法論である。ここでは、エビデンスに基づいた助産ケアの開発と必要性について論じる。	事前課題：テキストの該当部分を読んでくる（第3章 B) 事後学習課題：講義内容を整理する （前後、各１時間）
15	助産と研究ー２	エビデンスは助産ケアをよりよく行う	事前課題：テーマに沿って文献検索を行い１論文を

			ための方法論である。ここでは、エビデンスに基づいた助産ケアの開発と必要性について論じる。	準備する 事後学習課題：講義、討議内容について整理する （前後、各 1 時間）

関連科目	母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰ、母性看護学援助論Ⅱ、周産期医学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	基礎助産学Ⅰ　助産学概論	我部山キヨ子　他	医学書院
2	基礎助産学〔2〕　母子の基礎科学〔第 5 版〕	我部山　キヨ子／武谷　雄二 編集	医学書院
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	試験 70%、グループワーク・課題発表 30%
学生への メッセージ	助産師を目指す皆さんと、多様なニーズを持つ女性への支援、周産期の母子や家族の健康や、自然な分娩、母乳育児への安全で快適なケアの在り方について考えていきましょう。授業担当の各教員は、総合病院で助産師として６～10 年間勤務した経験から、助産学に関する実践的な教育を行う。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　研究室 15（泉川）、研究室 20（但馬）
備考	

科目名	助産学実習	科目名（英文）	Clinical Practice in Midwifery and Maternity
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	11	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	泉川　孝子.但馬　まり子.飯田　恵子.永田　阿子.名草　みどり.西頭　知子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	（概要） 妊婦、産婦、褥婦及び新生児とその家族への助産過程の展開を通して、助産診断及び助産技術に必要な知識と技術を習得し、実践できる能力を養う。また、実践を通して個別的な援助方法について学び、医療・保健チームの中での助産師の役割や機能を考察する。そして、受け持ち事例を通して、地域におけるケア継続の必要性について理解を深め、地域における助産師の役割を考え、助産師としての職業的アイデンティティの形成を図れる素地を養う。 （目的） 周産期における母子とその家族に対する助産過程の展開を通して、助産診断・技術に必要な知識と技術を習得し、実践できる能力を養う。実習を通して助産のあり方を考え、職業的アイデンティティの形成を図る。
到達目標	１．妊産褥婦と新生児及びその家族に対して、助産過程を展開し、母子とその家族のニーズに応じた援助ができる。 ２．対象者の意思決定や価値観を尊重し、尊厳と人権を擁護する意識を持ち、行動できる。 ３．助産活動を通じて、助産師としての役割と責任について理解できる。 ４．助産実践の向上のため、常に主体的に学習する態度を養う。
授業方法と留意点	病院および助産所にて助産に関わる実習を行う
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	助産学実習要綱参照
関連科目	母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰ、母性看護学援助論Ⅱ、母性看護学実習 小児看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ、小児看護学援助論Ⅱ、地域看護学、家族看護学、精神看護学援助論Ⅰ 周産期医学、助産学概論、助産診断・技術学Ⅰ、助産診断・技術学Ⅱ、助産診断・技術学Ⅲ 助産技術学演習、助産管理論
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	分娩介助技術、受け持ち事例の展開等の実習内容、実習態度、実習記録，出席状況を基にした実習目標の達成度を総合的に評価する。 詳細は、助産学実習要綱参照のこと。
学生へのメッセージ	教材は、関連科目の教科書、参考書を用いて学習する。実習時は必要時紹介します。 少人数制で長期の実習となります。健康管理を十分行ってください。 チームワークをもちながらも、個々に主体的・積極的な態度で臨んでください。 実習指導担当の各教員は、総合病院で助産師として６～10 年間勤務した経験から、助産診断及び助産技術に関する実践的な教育を行う。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　泉川（研究室 15）、西頭（研究室１4）、但馬（研究室２０）、名草（研究室 13）、飯田、永田（共同研究室 5）
備考	１．実習場所 ・病院：市立ひらかた病院、関西医科大学附属病院、八尾市立病院、関西医科大学総合医療センター 大阪府済生会野江病院、大阪市立総合医療センター、大和高田市立病院、JCHO 大和郡山病院 ・助産所：柏助産院、はるか助産院、ゆう助産院、橋本助産院 ２．分娩介助実習では、分娩介助例数が 10 例に達するまで継続的に実習を行う。

科目名	助産管理論	科目名（英文）	Midwifery Management
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	泉川　孝子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	助産管理の概要及び運用に必要な基本概念（法的根拠やその内容、管理の原則）を理解し、管理者が果たす役割、助産における危機管理について学ぶ。また周産期管理システム（母体搬送システム、新生児搬送等）を理解する。
到達目標	助産管理の概要を理解し、助産における危機管理について理解する。 また、助産業務の行われる場の管理、業務の管理に必要な基礎的知識、さらに、産科医療の特徴と医療事故防止について理解を深める。
授業方法と留意点	実際の事例を通して、産科医療の特徴を学び、助産の場面での管理の在り方を考えていきます。
科目学習の効果（資格）	助産師国家試験受験資格取得に関連する必修科目です。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	助産管理の基本概念とプロセスについて	マネジメントの定義とマネジメントサイクル、管理理論について学ぶ。	事前学習：テキストの該当部分を読んでくる（第1章A) 事後学習：講義内容を整理する （前後、各1時間）
2	助産管理の概念	助産師の業務範囲、助産管理の特性と組織化について学ぶ。	事前学習：テキストの該当部分を読んでくる（第1章B) 事後学習：講義内容を整理する （前後、各1時間）
3	関係法規と助産師の義務・責任について （助産と医療経済含む）	医療保障制度と助産業務について、助産業務の診療報酬を学ぶ。 講師：助産院院長	事前学習：テキストの該当部分を読んでくる（第1章C,第2章A) 事後学習：講義内容を整理する （前後、各1時間）
4	関係法規と助産師の義務・責任について	助産業務に関係する法律につて学ぶ。 助産業務ガイドラインについて理解する。	事前学習：テキストの該当部分を読んでくる（第2章B) 事後学習：講義内容を整理する （前後、各1時間）
5	周産期の管理システムとリスクマネジメント	周産期管理システム（NICU)、周産期搬送システム、オープンシステム、周産期の医療事故とリスクマネジメントについて学ぶ。	事前学習：テキストの該当部分を読んでくる（第3章AB) 事後学習：講義内容を整理する （前後、各1時間）
6	周産期の医療事故とリスクマネジメントー1	周産期医療事故と助産業務におけるリスクマネジメントについて事例を用いてグループワーク *講師：アドバンス助産師と協同	事前学習：実習中の事例や課題事例について想起する（第3章AB、配布資料） 事後学習：討議内容を整理する （前後、各1時間）
7	周産期の医療事故とリスクマネジメントー2	周産期医療事故と助産業務におけるリスクマネジメントについて事例を用いてグループワーク *講師：アドバンス助産師と協同	事前学習：実習中の事例や課題事例について想起する（配布資料） 事後学習：討議内容を整理する （前後、各1時間）
8	助産所における助産業務管理	助産所の管理・運営について 講師：助産院院長	事前学習：テキストの該当部分を読んでくる（第5章ABCD) 事後学習：講義内容を整理する （前後、各1時間）
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰ、母性看護学援助論Ⅱ、助産学概論、周産期医学、助産診断・技術学Ⅰ、助産診断・技術学Ⅱ、助産診断・技術学Ⅲ、助産診断・技術学演習、助産学実習、統合実習

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	助産学講座10　助産管理	我部山キヨ子　他	医学書院
2	助産業務ガイドライン		日本助産師会
3	母子保健の主なる統計　平成28年度	公益財団法人母子衛生研究会編集	公益財団法人母子衛生研究会

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	試験：80%、グループワーク・課題発表：20%
学生へのメッセージ	周産期の母子や家族に対して、産婦の主体性を担保しつつ、助産師業務ガイドラインの理解を深め、尊守しつつ安全な助産ケアや管理の在り方について考えていきましょう。授業担当の各教員は、総合病院で助産師として7年間勤務、その後、非常勤で夜間当直勤務をした経験から、助産学、助産過程の展開に実践的な教育を行う。木村先生は、開業助産師の経験から助産管理の実践的な教育を行う。
担当者の研究室等	泉川（研究室15）

備考	

科目名	助産技術学演習Ⅰ	科目名（英文）	Practice in Midwifery Skills Ⅰ
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	泉川　孝子.飯田　恵子.永田　阿子.西頭　知子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	（概要） 助産診断・技術学の履修内容をもとに、助産ケアを提供するために必要な知識、技術、態度を演習を通して統合できる能力を養う。妊婦の健康診査、各期の健康教育、新生児の出生直後から新生児期の観察と必要なケア、褥婦への助産診断に基づくケア（乳房ケア、復古の促進）、家族を含む育児、退院後の生活（家庭訪問、1ヵ月健診等）への指導技術について学ぶ。 （目的） 周産期に必要な母児の診察と助産ケア、健康教育、指導技術を習得する。
到達目標	1）妊婦健康診査および胎児の健康状態の診断に必要な技術を習得できる。 2）妊娠期の健康教育の目的・目標を理解し、企画できる。 3）新生児の出生直の観察、呼吸確立への援助（環境調整含む）を習得する。 4）新生児期の観察と必要なケアを習得する。 5）褥婦への助産診断に基づく必要なケア（乳房ケア、復古の促進）を習得する。 6）褥婦と家族を含む育児、退院後の生活（家庭訪問、1ヵ月健診等）への指導技術を習得する。
授業方法と留意点	演習を主に行う。妊婦、褥婦と新生児、家族への助産ケア、健康教育や指導技術について学ぶので、自主的学習が必要となる。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	妊婦の健康診査	妊婦の健康診査に必要な技術について学ぶ。	事前：「助産診断・技術学Ⅰ」教科書の本テーマに関連する部分(P174-187)、その他テーマに関する資料を熟読し、触診・計測・聴診の技術練習を行う(1時間)。 事後：授業内容の確認と技術練習(1時間)。
2	胎児発育・健康状態の診断	胎児発育・健康状態の診断に必要な技術について学ぶ。	事前：「助産診断・技術学Ⅰ」教科書の本テーマに関連する部分(P203-209, 346-366)、その他テーマに関する資料を熟読する。 分娩監視装置を用いた胎児心拍数モニタリングの技術練習を行う(1時間)。 事後：授業内容の確認と技術練習(1時間)。
3	妊娠期の健康教育：個別指導(1)	妊娠期の個人を対象とした健康教育の展開について学ぶ。 （「助産診断・技術学Ⅰ」の事例を対象とした個別指導案を作成する）	事前：教科書の該当部分(P83-97, 100-111)を読む。「助産診断・技術学Ⅰ」の事例を確認する(30分)。 事後：個別指導案を作成する(1時間)。
4	妊娠期の健康教育：個別指導(2)	妊娠期の個人を対象とした健康教育の展開について学ぶ。 （「助産診断・技術学Ⅰ」の事例を対象とした個別指導案を作成する）	事前：個別指導案を完成し、提出する(1時間)。 事後：討議内容を受け指導案の見直し・修正を行い、最終提出する(1時間)。
5	妊娠期の健康教育：集団指導(1)	妊娠期の集団を対象とした健康教育の計画・実施・評価について学ぶ。 （集団指導のテーマ決定、企画書の作成、実施準備）	事前：教科書の該当部分(P60-80, 112-156, 158-184)、「助産診断・技術学Ⅰ」教科書(P210-288)および参考書の本テーマに関連する部分を読む(1時間)。 事後：グループに分かれ、妊婦を対象とした集団指導のテーマを設定し企画書を作成、実施準備をする。(2時間)。
6	妊娠期の健康教育：集団指導(2)	妊娠期の集団を対象とした健康教育の計画・実施・評価について学ぶ。 （企画書の作成、実施準備）	事前・事後：グループに分かれ、妊婦を対象とした集団指導のテーマを設定し企画書を作成、実施準備をする。(各1時間)。
7	妊娠期の健康教育：集団指導(3)	妊娠期の集団を対象とした健康教育の計画・実施・評価について学ぶ。 （企画書の作成、実施準備）	事前・事後：グループに分かれ、妊婦を対象とした集団指導のテーマを設定し企画書を作成、実施準備をする。(各1時間)。
8	妊娠期の健康教育：集団指導(4)	妊娠期の集団を対象とした健康教育の計画・実施・評価について学ぶ。 （集団指導の実施）	事前：各グループで集団指導の企画書を完成させ、提出する(1時間)。 事後：企画および実施の評価をまとめて提出する(1時間)。
9	産褥期・新生児期のケア（1）	・褥婦・新生児の観察技術 ・褥婦の子宮復古、身体面の回復を促進するケア内容 ・沐浴指導への導入	事前課題：産後の経過について学習 事後課題：母親、家族対象の沐浴指導案に関する資料収集。 （各1時間）
10	産褥期・新生児期のケア（2）	・出席直後の新生児の呼吸確立への援助 ・新生児のフィジカルアセスメント ・インファントウオーマー・保育器機能と使用 ・母子のアタッチメントの技術	事前課題：出生直後の新生児の経過について学習 事後課題：出生時における新生児の異常について再学習 （各1時間）
11	産褥期・新生児期のケア（3）	・沐浴指導案の発表と討議、ロールプレイ	事前課題：新生児の沐浴指導案の作成 事後課題：新生児の沐浴指導案の修正と追記 （各1時間）
12	産褥期・新生児期のケア（4）	褥婦の進行性変化を促進するケアの内容 ・母乳育児支援の指導案作成	事前課題：母乳育児支援案に関する資料収集 事後課題：母乳育児支援の指導案の作成準備 （各1時間）
13	産褥期・新生児期のケア（5）	母乳育児支援の指導案発表と討議、ロールプレイ	事前課題：母乳育児支援の指導案作成 事後課題：母乳育児支援指導案の修正、追記等 （各1時間）
14	産褥期・新生児期のケア（6）	育児、退院指導案（家庭訪問含む）の作	事前課題：育児、退院指導案（家庭訪問含む）の資

			成	料収集 事後課題：育児、退院指導案（家庭訪問含む）の作成案の準備 （各 1 時間）
	15	産褥期･新生児期のケア（7）	育児、退院指導案（家庭訪問含む）の発表と討議、ロールプレイ	事前課題：育児、退院指導案（家庭訪問含む）の作成 事後課題：育児、退院指導案（家庭訪問含む）の修正と追記 （各 1 時間）

関連科目	母性看護学概論，母性看護学援助論Ⅰ，母性看護学援助論Ⅱ，母性看護学実習， 小児看護学概論，小児看護学援助論Ⅰ，小児看護学援助論Ⅱ，地域看護学，家族看護学，精神看護学援助論Ⅰ， 周産期医学，助産学概論，助産診断・技術学Ⅰ，助産診断・技術学ⅡⅠ，助産診断・技術学Ⅲ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	助産学講座８　助産診断・技術学Ⅰ		医学書院
2	参加型両親学級　そのまま使えるツール集		日総研
3	UNICEF/ WHO 赤ちゃんにやさしい母乳育児支援ガイド　ベーシック・コース「母乳育児成功のための 10 か条の実践」	BFHI　2009　翻訳編集委員会	医学書院

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	今日の助産　改訂[第 3 版]	北川眞理子、内山和美編集	南江堂
2	最新産科学　異常編　改訂第 22 版	荒木勤	東京文光堂本郷
3	ナーシンググラフィカ母性看護学③	荒木奈緒他	メディカ出版

評価方法 （基準）	定期試験　50% 指定された課題の提出、発表等　　50%
学生への メッセージ	助産技術学演習は、助産学実習準備になる科目です。個人の自主的学習およびグループワークによるチームワークやメンバーシップを発揮して主体的に課題に取り組んで行きましょう。 実習にとても役立つと思います。授業担当の各教員は、総合病院で助産師として６～10 年間勤務した経験から、助産技術学演習に実践的な技術教育を行います。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　泉川（研究室 15）　西頭（研究室 14）　飯田・永田（共同研究室５）
備考	課題である各指導案は、助産学実習で活用します。

科目名	助産技術学演習Ⅱ	科目名（英文）	Practice in Midwifery Skills II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	但馬　まり子.飯田　恵子.泉川　孝子.永田　阿子.名草みどり.西頭　知子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	（概要） 助産師としてケアを提供するために必要な知識、技術、態度について助産診断・技術学の履修内容をもとに、演習を通して統合できる能力を養う。分娩介助技術、出生時の新生児処置技術演習を通して学ぶ。助産師の行う業務として分娩介助とともに保健指導は重要な内容である。受胎調節実地指導員の申請ににも関わる家族計画指導の方法を演習を通して学ぶ （目的） 分娩介助技術及び家族計画指導技術について、助産の技法を学修する。
到達目標	１．周産期の知識と助産診断をもとに対象者への援助を実施できる ２．分娩介助技術を習得できる ３．対象者へのケアの提供に対する責任と敬意をもった態度で援助ができる ４．家族計画指導技術に必要な知識と技術を習得する。
授業方法と留意点	演習を主に行う。分娩介助に必要な技術演習と家族計画指導に必要な知識と技術を習得するための演習を行う。分娩介助技術は練習することで上達する。授業時間内での練習には限りがるため、自主的練習を促す。授業内での技術演習は一人一人の到達度を確認しながら行う。
科目学習の効果（資格）	助産師国家試験、および助産学実習に関わる科目です

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	家族計画指導案作成(1)	家族計画指導における基礎知識 各種受胎調節法について 家族計画指導案作成の留意点	事前課題：受胎調節法について事前学習　参考書「基礎助産学〔3〕　母子の健康科学」の第 7 章家族計画の章を参考にする。(1 時間) 事後課題：指導案の作成（2 時間）
2	家族計画指導案作成(2)	・指導案の作成	事前課題：指導案の作成（2 時間） 事後課題：指導案発表の準備（1 時間）
3	家族計画指導案作成(3)	指導案の発表と討議	事前課題：指導案発表の準備（1 時間） 事後課題：指導案発表後の評価（1 時間）
4	分娩介助技術演習（１）	・分娩介助の意義と原理 ・分娩体位と介助法	事前課題：講義までに分娩経過のビデオ視聴とテキスト P92～107 まで目を通す。(1 時間) 事後課題：課題レポートを出す（1 時間）
5	分娩介助技術演習（２）	・分娩介助手順と根拠	事前課題：介助手順の資料に事前に目を通す（1 時間） 事後課題：課題レポートを出す（1 時間）
6	分娩介助技術演習（３）	分娩介助時の物品の準備と清潔野の作成方法デモンストレーション	事前課題：介助手順の資料に事前に目を通す（1 時間） 事後課題：本日行った技術を練習する（2 時間）
7	分娩介助技術演習（４）	分娩介助時の物品の準備と清潔野の作成方法の実践	事前課題：介助手順の資料に事前に目を通す（1 時間） 事後課題：本日行った技術を練習する（2 時間）
8	分娩介助技術演習（５）	デモンストレーション ・人工破膜の実施判断と方法 ・会陰保護の手技 ・児娩出までの介助方法 前在肩甲・後在肩甲娩出法 躯幹娩出法 ・臍帯切断の方法 ・胎盤の娩出法	事前課題：事前課題レポートを完成させる（1 時間） 事後課題：なし
9	分娩介助技術演習（６）	実践 ・人工破膜の実施判断と方法 ・会陰保護の手技 ・児娩出までの介助方法 前在肩甲・後在肩甲娩出法 躯幹娩出法 ・臍帯切断の方法 ・胎盤の娩出法	事前課題：なし 事後課題：本日行った技術を練習する（2 時間）
10	分娩介助技術演習（７）	その他の技術 臍帯巻絡の解除法 会陰切開時の対処法 出生直後の児のケアの実践 胎盤計測	事前課題：事前課題レポートを完成させる（1 時間） 事後課題：本日行った技術を練習する（2 時間）
11	分娩介助技術演習（８）	一連の分娩介助技術のデモンストレーション	事前課題：介助手順の資料に事前に目を通す（1 時間） 事後課題：本日行った技術を練習する（2 時間）
12	分娩介助技術演習（９）	一連の流れの助産技術の実践	事前課題：なし 事後課題：本日行った技術を練習する（2 時間）
13	異常分娩時の対処（１）	以下の項目に必要な知識 ・肩甲難産時の体位と介助 ・児心音低下時の対応 ・吸引分娩時の介助	事前課題：資料の課題を完成させる（1 時間） 事後課題：本日行った技術を練習する（2 時間）

	14	異常分娩時の対処（２）	肩甲難産時の実践 児心音低下時の実践 吸引分娩時の準備の実践	事前課題：資料の課題を完成させる（1 時間） 事後課題：本日行った技術を練習する（2 時間）
	15	異常分娩時の対処（３）	異常出血時の対処 シナリオを用いてシミュレーションと討議	事前課題：シナリオを読み、事前に課題を仕上げてくる。(1 時間) 事後課題：トレーニング後の評価（1 時間）

関連科目	母性看護学概論，母性看護学援助論Ⅰ，母性看護学援助論Ⅱ，母性看護学実習， 小児看護学概論，小児看護学援助論Ⅰ，小児看護学援助論Ⅱ，地域看護学，家族看護学，精神看護学援助論Ⅰ， 周産期医学，助産学概論，助産診断・技術学Ⅰ，助産診断・技術学Ⅱ，助産診断・技術学Ⅲ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	助産学講座７　助産診断・技術学Ⅱ〔２〕分娩期・産褥期	我部山キヨ子　他	医学書院
2	病気が見える Vol10	井上裕美他	MEDIC MEDIA
3	図説 CTG テキスト	中井章人	MEDICAL VIEW

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	今日の助産　改訂第３版	北川眞理子・内山和美　編集	南江堂
2	マタニティサイクルの実践保健指導	鈴木由美	丸善プラネット
3	助産学講座３ 基礎助産学〔3〕　母子の健康科学〔第５版〕	我部山清子他	医学書院

評価方法 （基準）	定期試験　30%（定期試験で６割に達しない場合、再試験となります） 保健指導案・保健指導１０％ 分娩介助技術試験　６0%（評価表を用いて採点します）
学生への メッセージ	授業担当者は臨床経験を活かし、学生がわかりやすいように、習得しやすいように技術を実践し、一人一人の技術習得状況を確認しながら関わります。保健指導技術や分娩介助技術は助産学実習の実施項目です。指導案の作成は講義時間以外の時間も活用し自主的，積極的に学習してください。学内で指導案の作成ができていると実習時に役立ちます。助産学実習では 10 例の分娩介助を実践しなければいけません。実習に出たときに自信を持って介助ができるようにしっかり学内で練習しましょう。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　但馬（研究室 20）
備考	分娩介助技術，および保健指導案は助産学実習で活用します。

科目名	助産診断・技術学Ⅰ	科目名（英文）	Midwifery Diagnostics and Technique I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	西頭　知子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	妊娠期の助産診断に必要な知識・技術の基礎と原理について学習する。妊娠時期の診断、妊娠経過の診断、妊婦の心理・社会的側面の診断、状況に応じたケアについて学習する。そして、教育、相談の基礎技術に基づき、妊娠期における健康教育について考える。また、流早産・胎内死亡など心理的危機に直面した妊婦と家族のケアやハイリクス妊婦と家族のケアと助産師の役割について学習する。
到達目標	1．妊娠期の助産診断の特徴について理解できる。 2．妊娠期の助産診断に必要な身体・心理・社会的変化について理解できる。 3．正常および異常妊婦の妊娠経過と適応過程についてアセスメントし、助産診断できる。 4．助産診断に基づき、事例に必要な助産計画を立案できる。 5．妊婦の家族も含めた支援について考えることができる。
授業方法と留意点	授業計画に沿って、講義とグループワークにて進める。グループワークでは、指定教科書や配布資料以外にも活用できる資料を見つけて利用すること。
科目学習の効果（資格）	助産師国家試験受験資格取得に関わる必修科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	助産診断の特徴	妊娠期における助産診断の特徴を学ぶ	事前：教科書1の該当部分(P2-40)を読む(1時間)。 事後：授業内容を振り返り整理する(1時間)。
2	妊娠の生理と正常妊娠期の経過（1）	妊娠による母体の生理的変化、胎児の発生・成長・発達について学ぶ。	事前:教科書1の該当部分(P42-54)を読む(1時間)。 事後：授業内容を振り返り整理する(1時間)。
3	妊娠の生理と正常妊娠期の経過（2）	妊娠による母体の生理的変化、胎児の発生・成長・発達について学ぶ。	事前:教科書1の該当部分(P55-77)を読む(1時間)。 事後：授業内容を振り返り整理する(1時間)。
4	妊娠期の異常・ハイリスク妊娠（1）	妊娠期におこる可能性のある病態について学ぶ。 合併症を有する女性の妊娠経過におけるリスクについて学ぶ。	事前：教科書 1 の該当部分(P98-134)を読む(1 時間)。 事後：授業内容を振り返り整理する(1時間)。
5	妊娠期の異常・ハイリスク妊娠（2）	妊娠期におこる可能性のある病態について学ぶ。 合併症を有する女性の妊娠経過におけるリスクについて学ぶ。	事前：教科書 1 の該当部分(P135-158)を読む(1 時間)。 事後：授業内容を振り返り整理する(1時間)。
6	妊娠期の助産過程の展開	妊娠期の助産過程の展開について学ぶ。	事前：教科書1の該当部分(P5-7,160-173)を読む(1時間)。 事後：授業内容を振り返り整理する(1時間)。
7	妊娠期のフィジカルアセスメント（1）	妊婦のフィジカルアセスメントを実施するために必要な情報収集と診断技術について学ぶ。	事前：教科書 1 の該当部分(P174-199)を読む(1 時間)。 事後：授業内容を振り返り整理する(1時間)。
8	妊娠期のフィジカルアセスメント（2）	妊婦のフィジカルアセスメントを実施するために必要な情報収集と診断技術について学ぶ。	事前：教科書1の該当部分(P200-209 読む(1時間)。 事後：授業内容を振り返り整理する(1時間)。
9	妊娠期の心理的・社会的変化とアセスメント	妊娠期の心理状態と妊婦・夫婦・家族にとっての社会的変化およびそれらに対する妊婦の適応状態を把握するためのアセスメントについて学ぶ。	事前：教科書1・2の該当部分(1. P80-96,2. 28-56)を読む(1時間)。 事後：授業内容を振り返り整理する(1時間)。
10	妊娠期の事例を用いた助産過程の展開：正常（1）	事例を用いた助産過程の展開を通して、助産過程のプロセスについて学ぶ。 妊娠時期や対象のニーズに応じた生活指導、妊婦のセルフケア能力を高める支援について学ぶ。	事前：教科書1. の該当部分(P210-288)を読む(1時間)。 事後：グループで妊娠期の助産過程を展開する。グループでの作業がスムーズに進むよう、各自準備をする(2時間)。
11	妊娠期の事例を用いた助産過程の展開：正常（2）	事例を用いた助産過程の展開を通して、助産過程のプロセスについて学ぶ。 妊娠時期や対象のニーズに応じた生活指導、妊婦のセルフケア能力を高める支援について学ぶ。	事前・事後：グループで妊娠期の助産過程を展開する。グループでの作業がスムーズに進むよう、各自準備をする(各2時間)。
12	妊娠期の事例を用いた助産過程の展開：正常（3）	展開した助産過程の発表およびグループ討議を行う。	事前：グループで妊娠期の助産過程を展開し、発表資料として提出する(2時間)。 事後：グループ討議の内容から助産診断、アセスメント、目標、計画等を見直し、修正後最終提出する(2時間)。
13	妊娠期の事例を用いた助産過程の展開：異常・ハイリスク（1）	事例を用いた助産過程の展開を通して、助産過程のプロセスについて学ぶ。 リスクに応じた適切な管理、妊婦と家族がセルフケア能力を持つための支援、必要な生活習慣の変容についての指導や利用できる社会資源や制度について学ぶ。	事前：教科書 1 の該当部分(P290-341)を読む(1 時間)。 事後：グループで妊娠期の助産過程を展開する。グループでの作業がスムーズに進むよう、各自準備をする(2時間)。
14	妊娠期の事例を用いた助産過程の展開：異常・ハイリスク（2）	事例を用いた助産過程の展開を通して、助産過程のプロセスについて学ぶ。 リスクに応じた適切な管理、妊婦と家族がセルフケア能力を持つための支援、必要な生活習慣の変容についての指導や利用できる社会資源や制度について学ぶ。	事前・事後：グループで妊娠期の助産過程を展開する。グループでの作業がスムーズに進むよう、各自準備をする(各2時間)。
15	妊娠期の事例を用いた助産過程の展開：異常・ハイリスク（3）	展開した助産過程の発表およびグループ討議を行う。	事前：グループで妊娠期の助産過程を展開し、発表資料として提出する(2時間)。 事後：グループ討議の内容から助産診断、アセスメ

				ント、目標、計画等を見直し、修正後最終提出する(2 時間)。

関連科目	母性看護学概論，母性看護学援助論Ⅰ，母性看護学援助論Ⅱ，母性看護学実習，周産期医学，助産学概論、助産診断・技術学Ⅱ，助産診断・技術学Ⅲ、助産技術学演習Ⅰ，助産技術学演習Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	助産学講座 6　助産診断・技術学Ⅱ〔1〕妊娠期　医学書院	我部山キヨ子　他	医学書院
2	助産学講座 4　基礎助産学〔4〕母子の心理・社会学 医学書院	村瀬　聡美／我部山　キヨ子 編集	医学書院
3	産婦人科診療ガイドライン　産科編 2017　日本産科婦人科学会	日本産科婦人科学会	日本産科婦人科学会

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	助産学講座 2　基礎助産学〔2〕母子の基礎科学	我部山キヨ子　他	医学書院
2	助産学講座 3　基礎助産学〔3〕母子の健康科学	我部山キヨ子　他	医学書院
3	今日の助産	北川眞理子　他編集	南江堂

評価方法 （基準）	定期試験　70% 提出課題　30%
学生への メッセージ	本科目は、助産師として臨床での実務経験を持つ教員が担当します。助産学実習での実践的な学びにつながるような授業を行います。助産学実習で活用できるよう、資料や自己学習ノートを整理しまとめておくとよいと思います。グループワークが円滑に進むよう、各自が役割を果たし、積極的に取り組んでください。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階 西頭知子（研究室 14）
備考	

科目名	助産診断・技術学Ⅱ	科目名（英文）	Midwifery Diagnostics and Technique II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	但馬　まり子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	（概要） 産婦の安全・安楽な分娩のために必要な助産診断とケアを実践するための基本を学び、分娩開始・分娩経過の診断、リスクの査定、産婦の心理・社会的側面の診断ができ、状況に応じたケアが実践できる知識と技術の基本について学ぶ。また、分娩進行に伴う異常の発生予測と予防的行動、異常発生時の観察と対処について学習し、産婦のケアと助産師の役割について考える。また講義時にはCG動画を用いて、分娩のメカニズムを学習する。助産診断は分娩経過に合わせて事例を用い、思考過程に沿って助産診断を学習する。 （目的） 分娩期の助産診断の特徴と、正常分娩の経過に伴う助産診断、および異常分娩の経過と助産診断に必要な知識と技術の基本について理解できる。
到達目標	１．分娩期の助産診断の特徴、および診断類型について理解できる ２．産婦・胎児の助産診断に必要な身体・心理・社会的変化の特徴について理解できる ３．分娩期の経過と適応過程についてアセスメントと助産診断ができる ４．助産診断に基づき、事例に必要な助産計画を立案できる ５．助産診断に基づいて援助計画が立案できる ６．ハイリスク産婦の分娩経過に伴うリスク査定、助産診断と援助について理解できる
授業方法と留意点	講義、および討論・グループワークを中心とする。知識確認のため課題を提示します。
科目学習の効果（資格）	助産師国家試験受験資格取得に関わる必修科目です。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	助産診断の特徴	正常分娩の経過についての理解 ・分娩経過の全体像 ・分娩の３要素 娩出力 産道 娩出物 （胎児及び附属物） ・分娩期における助産診断の特徴	事前課題：1週間前に分娩期の知識の復習のため課題を出します。テキスト「病気が見える」P186～215を参考に仕上げてくる（講義当日朝に提出）（1時間） 事後課題は:本日の知識の復習（課題レポート）（1時間）
2	正常分娩の経過と助産診断（1）	胎児の分娩機転 ・児頭の回旋 分娩経過の全体像 ・前駆期 ・分娩の開始 ・分娩第１期 ・分娩第２期 ・分娩第３期 ・分娩第４期	事前課題:前回の講義時に配布した課題のレポート（1時間） 事後課題：本日の知識の復習（課題レポート）（1時間）
3	正常分娩の経過と助産診断（2）	分娩期の助産診断の特徴と診断類型について ・分娩期助産診断のポイント ・分娩予測 ・母体の診断 分娩開始の診断 分娩時期の診断 分娩進行状態の診断	事前課題：なし 事後課題:診断項目に対する診断指標を完成させる。（2時間）
4	正常分娩の経過と助産診断（3）	分娩経過に伴う胎児の健康状態の診断と対処 ・胎児の診断 ・胎児の健康状態のアセスメント ・胎児附属物の診断 ・CTGモニターの判読	事前課題:「図説CTGテキスト」P2～10までを読み、理解してくる。（1時間） 事後課題は:提示されたモニター所見を判読・診断を記載し、提出する。（1時間）
5	正常分娩の経過と助産診断（4）	分娩経過に伴う産婦や家族の心理・社会的背景に関連する助産診断と援助についてプレゼン ・痛みや恐怖が分娩に与える影響 ・夫立ち会い分娩について ・産婦の健康生活	事前課題：助産診断技術学Ⅱ（医学書院）P34～44を読み、出された課題に対してプレゼンの準備（2時間） 事後課題：なし
6	分娩期の事例を用いた助産過程の展開（1）	事例を用いて助産過程の展開し、事例の助産診断に基づいた助産計画・ケア計画を立案する。 ・電話連絡時 ・分娩第１期	事前課題：陣痛発来で入院時の判断について、電話での問診項目を調べてくる。（1時間） 事後課題：本日用いた知識確認資料の完成（1時間）
7	分娩期の事例を用いた助産過程の展開（2）	事例を用いて助産過程の展開し、事例の助産診断に基づいた助産計画・ケア計画を立案する。 分娩第１期（極期～分娩第２期まで）	事前課題：助産過程の展開を行う（1時間） 事後課題：本日用いた知識確認資料の完成（1時間）
8	分娩期の事例を用いた助産過程の展開（3）	事例を用いて助産過程の展開し、事例の助産診断に基づいた助産計画・ケア計画を立案する。 ・分娩準備及び分娩室入室の診断 ・児娩出までの診断	事前課題：助産過程の展開を行う（1時間） 事後課題：本日用いた知識確認資料の完成（1時間）

	9	分娩期の事例を用いた助産過程の展開（4）	事例を用いて助産過程の展開し、事例の助産診断に基づいた助産計画・ケア計画を立案する。 ・分娩第 3 期 ・分娩第 4 期	事前課題：助産過程の展開を行う（1 時間） 事後課題：本日用いた知識確認資料の完成（1 時間）
	10	助産診断の実践	各自与えられた事例の助産診断・助産計画を立案する	事前課題：なし 事後課題：助産診断・計画を立案（1 時間）
	11	助産診断の実践	助産診断・助産計画・援助の発表およびグループ討議を行う。この事例を用いて分娩介助試験を実施する。	事前課題：事例の助産診断を完成させる（1 時間） 事後課題は、発表時の質疑やコメントを振り返り助産過程の修正・追加を行う（2 時間）
	12	分娩経過の異常と助産診断	分娩の 3 要素の異常と診断	事前課題：助産診断技術学Ⅱ（医学書院）P170～190 までを参考に課題を完成させる。（1 時間） 事後課題：提示した課題の完成（1 時間）
	13	分娩に伴う損傷・偶発疾患・合併症のアセスメントと支援	軟産道裂傷と弛緩出血、産科ショックの原因と対応	事前課題：助産診断技術学Ⅱ（医学書院）P244～253 までを参考に課題レポートを完成させる。（1 時間） 事後課題：提示した課題の完成（1 時間）
	14	ハイリスク・異常産婦のアセスメントと支援	身体的・心理的・社会的ハイリスク因子のアセスメントと診断、支援	事前課題：助産診断技術学Ⅱ（医学書院）P192～209 まで目を通してくる（1 時間） 事後課題：提示した課題の完成（1 時間）
	15	産科手術を受ける産婦のアセスメントと支援	帝王切開術を受ける産婦の術前術後のアセスメントと支援	事前課題：助産診断技術学Ⅱ（医学書院）P212～243 までを参考に課題レポートを完成させる（1 時間） 事後課題：提示した課題の完成（1 時間）

関連科目	母性看護学概論，母性看護学援助論Ⅰ，母性看護学援助論Ⅱ，母性看護学実習，周産期医学，助産学概論、助産診断・技術学Ⅰ，助産診断・技術学Ⅲ、助産診断技術学演習、助産学実習、助産管理論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	助産学講座 7　助産診断・技術学Ⅱ〔２〕分娩期・産褥期	我部山キヨ子　他	医学書院
2	病気が見える Vol10　産科	井上裕美他	MEDIC MEDIA
3	図説 CTG テキスト	中井章人	MEDICAL VIEW

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	産科診療ガイドライン―産科編 2017－	日本産婦人科学会	日本産婦人科学会
2	母体急変時の初期対応第 2 版	日本母体救命システム普及協議会	メディカ出版
3	今日の助産―改定第 3 版―	北川眞理子・内山和美	南江堂

評価方法（基準）	定期試験　80% 助産診断指標・助産過程の展開・助産診断と助産計画の発表　20%
学生へのメッセージ	授業担当者は、助産師としての臨床経験をもとに実例を取り上げながら分娩の現象をわかりやすく解説し、学生のアセスメント力を強化します。学生は講義時に提示された課題を通して知識の確認を行い、助産学実習や助産師国家試験対策のための資料や要点をまとめておきましょう。助産過程の展開は指示されたところまで必ず期限内に完成させるようにしましょう。分娩期の知識が分娩介助技術を習得するうえで必要な知識となります。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　但馬（研究室 20）
備考	講義時の資料や助産過程の展開資料は助産学実習で活用します。

科目名	助産診断・技術学Ⅲ	科目名（英文）	Midwifery Diagnostics and Technique III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	泉川　孝子.名草　みどり.飯田　恵子.永田　阿子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	（概要） 褥婦・新生児経過の助産診断に必要な知識・技術の基礎と原理を学習する。分娩想起や褥婦の心理・社会的側面の診断、褥婦の復古促進や母子の愛着形成促進のためのケアが実践できるよう学習する。そして、母子とその家族を包括したケアの展開をめざし、新しい役割や家族システムの変化への支援を行うための知識・技術の基礎を学習する。また、新生児は正常な適応過程が診断でき、状況に応じたケアを学習する。 （目的） 産褥・新生児期の助産診断の特徴と，経過の助産診断に必要な知識と技術の基本について理解できる
到達目標	１．産褥・新生児期の助産診断の特徴，および診断類型について理解できる ２．褥婦・新生児の助産診断に必要な身体・心理・社会的変化の特徴について理解できる ３．産褥・新生児期の経過と適応過程についてアセスメントと助産診断ができる ４．助産診断に基づき，事例に必要な助産計画を立案できる ５．助産診断に基づいて個別指導案を立案できる
授業方法と留意点	講義、およびレポート作成と発表・討論を行う。
科目学習の効果（資格）	助産師国家試験受験資格に関わる必修科目です。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	助産診断の特徴	産褥・新生児期における助産診断の特徴	事前課題：助産診断・技術学Ⅱ［2］（第５版）第 11 章　産褥期の助産診断を読んでくる。 事後課題：講義内容と学習課題に関する学習ノートの作成 （各１時間）
2	産褥・新生児期の助産過程の展開	産褥・新生児期に必要な助産過程の展開の理論・内容・方法	事前課題：助産診断・技術学Ⅱ［2］（第５版）　第９章　産褥期の生理 を読んでくる。 事後課題：助産過程の展開を開始する （各１時間）
3	正常産褥期の助産診断	正常な産褥経過の身体的・心理的・社会的側面に関する助産診断について学ぶ 方法：講義	事前課題：助産学講座７　助産診断・技術学Ⅱ（p278～299）を一読してくる 事後課題：講義内容と学習課題に関する学習ノートの作成 （各１時間）
4	正常新生児の助産診断	新生児の子宮外適応過程と、生後１か月までの生理的変化	事前課題：助産診断・技術学Ⅱ［3］（第５版）　第１章　新生児のケアを読んでくる 事後課題：講義内容と学習課題に関する学習ノートの作成 （各１時間）
5	母乳栄養確立への助産診断と援助	産褥期の進行性変化の助産診断、および母乳育児を促進する援助	事前課題：助産学講座７　助産診断・技術学Ⅱ（第 15 章 ABC）を一読してくる 事後課題：講義内容と学習課題に関する学習ノートの作成 （各１時間）
6	母子関係・家族形成過程と援助	母子関係形成・育児行動取得・家族形成	事前課題：産褥期の心理について参考書３（該当章：10,12-C・F）、教科書３（第２章）を一読してくる 事後課題：講義内容と学習課題に関する学習ノートの作成 （各１時間）
7	ハイリスク褥婦と新生児の助産診断と援助	ハイリスク褥婦と新生児の助産診断と必要な援助として、NICU・GCU と母子関係形成への援助、およびディベロップメンタルケア	事前課題：助産診断・技術学Ⅱ［3］（第５版）　第２章　NICU とハイリスク新生児のケアを読んでくる 事後課題：講義内容と学習課題に関する学習ノートの作成 （各１時間）
8	産褥・新生児期の事例を用いた助産過程の展開（1）	事例を用いて助産過程の展開を実施する。事例の助産診断に基づいた助産計画・個別保健指導内容を立案することにより、助産過程のプロセスについて理解を深める	課題 ・各自で産褥・新生児期の助産過程の展開を実施する ・助産過程と個別指導内容の発表の準備を行う （2 時間）
9	産褥・新生児期の事例を用いた助産過程の展開（2）	事例を用いて助産過程の展開を実施する。事例の助産診断に基づいた助産計画・個別保健指導内容を立案することにより、助産過程のプロセスについて理解を深める	課題 ・各自で産褥・新生児期の助産過程の展開を実施する ・助産過程と個別指導内容の発表の準備を行う （2 時間）
10	産褥・新生児期の事例を用いた助産過程の展開（3）	事例を用いて助産過程の展開を実施する。事例の助産診断に基づいた助産計画・個別保健指導内容を立案することにより、助産過程のプロセスについて理解を深める	事前・事後課題： 産褥・新生児期の助産課程を展開する 個別指導内容の発表準備を行う （各１時間）
11	産褥・新生児期の事例を用いた助産過程の展開（4）	事例を用いて助産過程の展開を実施する。事例の助産診断に基づいた助産計画・個別保健指導内容を立案することにより、助産過程のプロセスについて理解を深める	事前・事後課題： 産褥・新生児期の助産課程を展開する 個別指導内容の発表準備を行う （各１時間）
12	発表とまとめ（1）	助産診断・助産計画・個別指導の発表お	事後課題：発表時の質疑やコメントを振り返る

			よびグループ討議を行う	（1.5 時間）
	13	発表とまとめ（2）	助産診断・助産計画・個別指導の発表およびグループ討議を行う	事後課題：発表時の質疑やコメントを振り返る（1.5 時間）
	14	産褥・新生児期の事例を用いた助産過程の展開まとめ（1）	各自の課題の基づき、助産過程の修正・追加を行い完成する	課題：助産過程で作成した資料を全て提出する（1.5 時間）
	15	産褥・新生児期の事例を用いた助産過程の展開まとめ（2）	各自の課題の基づき、助産過程の修正・追加を行い完成する	課題：助産過程で作成した資料を全て提出する（1.5 時間）

関連科目	母性看護学概論，母性看護学援助論Ⅰ，母性看護学援助論Ⅱ，母性看護学実習， 小児看護学概論，小児看護学援助論Ⅰ，小児看護学援助論Ⅱ，地域看護学，家族看護学，精神看護学援助論Ⅰ， 周産期医学，助産学概論，助産診断・技術学Ⅰ，助産診断・技術学Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	助産学講座 8　助産診断・技術学Ⅱ〔3〕新生児期・乳幼児期	横尾　京子　編集	医学書院
2	助産学講座 3　基礎助産学〔3〕母子の健康科学	我部山　キヨ子　編集	医学書院
3	助産学講座 7　助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・産褥期	我部山　キヨ子　編集	医学書院

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新生児学入門　第 4 版	仁志田博司著	医学書院
2	助産学講座 9　地域母子保健・国際看護学	我部山　キヨ子／毛利　多恵子編集	医学書院
3	助産学講座 4　基礎助産学〔4〕母子の心理・社会学	我部山　キヨ子　編集	医学書院

評価方法（基準）	定期試験　70% 助産過程の展開・発表・課題提出　20% 助産学習ノートの提出　10%
学生へのメッセージ	助産学実習や助産師国家試験対策のための資料や自己学習ノートを作成し、要点をまとめておきましょう。助産過程の展開は授業開始から自主的に開始してください授業担当の各教員は、総合病院で助産師として６～10 年間勤務した経験から、助産診断、助産過程の展開に実践的な教育を行う。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　泉川（研究室１５）、名草（研究室１３）、飯田・永田（共同研究室５）
備考	助産学習ノート、助産過程の展開、および保健指導内容は助産学実習で活用します

科目名	人体の構造と機能Ⅰ	科目名（英文）	Anatomy and Physiology Ⅰ
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉田　侑矢
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN1001a0		

授業概要・目的	「人体の構造と機能」は看護師を含む医療専門職の教育において基礎となる重要な科目である。生命体の成り立ちを個体、器官、細胞レベルで理解するために、生命体の構造と機能及び機能調節などに関する基本的知識を修得する。
到達目標	本科目では、「解剖学」「組織学」の基礎から学習を始め、「骨格」「関節」の全容を学習すると共に、全身を取りまく「骨格筋」と、骨格筋による「運動」を学習する。さらに、「末梢神経系」の支配について学習する。
授業方法と留意点	授業方法はプレゼンテーション及び板書による「講義」を中心に行う。授業は指定席で実施することがある。適宜、講義前に小テストを実施するので、普段からの学習習慣を身につけるようにすること。
科目学習の効果（資格）	看護師国家試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	細胞、組織、臓器・器官の成り立ち	細胞の機能及び細胞、組織、臓器・器官の成り立ちと、人体の正常機能を維持するための仕組みについて学習する。	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する（1時間）　復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させ（1時間）、これを中心に小テストに備える（1時間）。
2	4大組織	4大組織について名称をあげ､その特徴、分布を学習する。	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する（1時間）　復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させ（1時間）、これを中心に小テストに備える（1時間）。
3	骨の構造、発生・成長、機能	人体の骨の構造・機能、発生と成長、全身の骨格について学習する。	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する（1時間）　復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させ（1時間）、これを中心に小テストに備える（1時間）。
4	人体の骨格	人体の骨格（連結を含む）について学習する。	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する（1時間）　復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させ（1時間）、これを中心に小テストに備える（1時間）。
5	筋の構造・機能	骨格筋、心筋、平滑筋の構造と機能について学習する。	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する（1時間）　復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させ（1時間）、これを中心に小テストに備える（1時間）。
6	筋の収縮とその特徴	骨格筋、心筋、平滑筋の収縮の仕組み、収縮の特徴について学習する。	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する（1時間）　復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させ（1時間）、これを中心に小テストに備える（1時間）。
7	体幹の骨格と筋	脊柱、胸郭、背部の筋、胸部の筋、腹部の筋について学習する。	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する（1時間）　復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させ（1時間）、これを中心に小テストに備える（1時間）。
8	上肢の骨格と筋	上肢帯の骨格、自由上肢の骨格、上肢帯の筋群、上腕の筋群、前腕の筋群、手の筋群、上肢の運動について学習する。	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する（1時間）　復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させ（1時間）、これを中心に小テストに備える（1時間）。
9	下肢の骨格と筋	下肢帯の骨格、自由下肢の骨格、下肢帯の筋群、大腿の筋群、下腿の筋群、足の筋群、下肢の運動について学習する。	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する（1時間）　復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させ（1時間）、これを中心に小テストに備える（1時間）。
10	頭頸部の骨格と筋	脳頭蓋、顔面頭蓋、頭部の筋、頸部の筋について学習する。	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する（1時間）　復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させ（1時間）、これを中心に小テストに備える（1時間）。
11	自律神経系の機能	自律神経系（交感神経と副交感神経）の特徴・機能について学習する。	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する（1時間）　復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させ（1時間）、これを中心に小テストに備える（1時間）。
12	自律神経系の構造	交感神経系と副交感神経系の構造について学習する。	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する（1時間）　復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させ（1時間）、これを中心に小テストに備える（1時間）。
13	自律神経系の調節	自律神経系の神経伝達物質、受容体、調節について学習する。	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する（1時間）　復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させ（1時間）、これを中心に小テストに備える（1時間）。
14	筋の神経支配	骨格筋、心筋、平滑筋の神経支配ついて学習する。	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する（1時間）　復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させ（1時間）、これを中心に小テストに備える（1時間）。
15	総合演習	問題演習等を通して本科目範囲の理解を深めるとともに､問題解決能力を醸成する。	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する（1時間）　復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させ（1時間）、これを中心に小テストに備える（1時間）。また、講義、教科書、講義ノートの中で理解が不完全な部分をみつけ、この部分を学習し、定期テストに備える。

<table>
<tr><td>関連科目</td><td>人体の構造と機能Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能［1］解剖生理学（第 10 版）</td><td>坂井建雄、岡田隆夫</td><td>医学書院</td></tr>
<tr><td>2</td><td>メディカルイメージブック　解剖学</td><td>中島雅美　編</td><td>医歯薬出版株式会社</td></tr>
<tr><td>3</td><td>人体の構造と機能ＩⅡ講義ノート</td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>小テスト（30%）、定期試験（70%）により総括評価する。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>授業担当者の吉田侑矢は、薬局薬剤師としても従事しており、その経験を基に臨床的観点から活用できる解剖学、組織学に関する基礎的知識の養成を行う。
『人体の構造と機能ＩⅡ講義ノート』を活用しながら授業内容をまとめ、小テストを通して、普段からの学習習慣を身につけてください。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>1 号館 3 階（病態医科学研究室）</td></tr>
<tr><td>備考</td><td></td></tr>
</table>

科目名	人体の構造と機能Ⅱ	科目名（英文）	Anatomy and Physiology II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	尾中　勇祐
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN1002a0		

授業概要・目的	「人体の構造と機能」は看護師を含む医療専門職の教育において基礎となる重要な科目である。生命体の成り立ちを個体、器官、細胞レベルで理解するために、生命体の構造と機能及び機能調節などに関する基本的知識を修得する。
到達目標	本科目では、「消化器系器官」の構造と機能を学習して栄養の消化と吸収を理解する。また、「呼吸器系器官」「血液系」の構造と機能を学習して呼吸と血液のはたらきを理解する。
授業方法と留意点	授業方法はプレゼンテーション及び板書による「講義」を中心とする。人体臓器模型等を用いた演習形式学習や授業を指定席で実施することがある。講義前にレポート課題の提出または小テストを実施するので、普段から学習習慣を身につけるようにすること。
科目学習の効果（資格）	看護師国家試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	消化器系：	●人体の構造と機能Ⅱの概要 ●消化器系の概要 ●口腔～食道 口、咽頭、食道の構造と機能について説明	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する（１時間）、これを中心にレポート提出、小テストに備える（１時間） 講義ノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える
2	消化器系：	●胃 胃の構造、運動、機能、調節について説明 ●十二指腸～胆嚢、膵臓 十二指腸、胆嚢、膵臓の構造と機能について説明	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する（１時間）、これを中心にレポート提出、小テストに備える（１時間） 講義ノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える
3	消化器系：	●小腸 ●栄養素の消化と吸収 小腸の構造、運動、機能、調節について説明 栄養素（糖質、タンパク質、脂質）の消化・吸収とビタミンやミネラルの吸収について説明	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する（１時間）、これを中心にレポート提出、小テストに備える（１時間） 講義ノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える
4	消化器系：	●肝臓、大腸 肝臓、大腸の構造、運動、機能、調節について説明	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する（１時間）、これを中心にレポート提出、小テストに備える（１時間） 講義ノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える
5	呼吸器系：	●呼吸器系の概要 ●鼻腔～咽頭 ●喉頭～気管、気管支 鼻腔から咽頭の構造について説明 喉頭、気管支、肺胞の構造について説明	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する（１時間）、これを中心にレポート提出、小テストに備える（１時間） 講義ノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える
6	呼吸器系：	●呼吸筋、呼吸量 ●呼吸中枢とガス交換 呼吸運動、呼吸気量について説明 呼吸の神経調節、呼吸運動、ガスの運搬と交換について説明	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する（１時間）、これを中心にレポート提出、小テストに備える（１時間） 講義ノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える
7	消化器系、呼吸器系：	●消化器系、呼吸器系のまとめ１ 問題演習等を通して消化器系、呼吸器系器官の理解を深めるとともに、問題解決能力を醸成する。	講義、教科書、講義ノートの中で理解が不完全な部分をみつけ、その部分を復習する。 さらに、演習問題を解いて、講義ノート及びメディカルイメージブックを活用しながら、自己の理解度を確認する。
8	消化器系、呼吸器系：	●消化器系、呼吸器系のまとめ２ 問題演習等を通して消化器系、呼吸器系器官の理解を深めるとともに、問題解決能力を醸成する。	講義、教科書、講義ノートの中で理解が不完全な部分をみつけ、その部分を復習する。 さらに、演習問題を解いて、講義ノート及びメディカルイメージブックを活用しながら、自己の理解度を確認する。
9	血液系：	●血液の機能と成分 血漿タンパク質の種類と働きについて説明	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する（１時間）、これを中心にレポート提出、小テストに備える（１時間） 講義ノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える
10	血液系：	●造血、血球 造血機構、血球の種類と働きについて説明	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する（１時間）、これを中心にレポート提出、小テストに備える（１時間） 講義ノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える
11	血液系：	●赤血球、白血球 ●血小板 赤血球、白血球の種類と働きについて説明 血小板の働きについて説明	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する（１時間）、これを中心にレポート提出、小テストに備える（１時間） 講義ノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える
12	血液系：	●血小板、止血 ●血液凝固 血小板および止血の機構について説明 血液凝固機構について説明	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する（１時間）、これを中心にレポート提出、小テストに備える（１時間） 講義ノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える

	13	血液系：	●血液型 血液型について説明 ●血液系のまとめ１ 問題演習等を通して血液系の理解を深めるとともに、問題解決能力を醸成する。	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する（１時間）、これを中心にレポート提出、小テストに備える（１時間） 講義ノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える 講義、教科書、講義ノートの中で理解が不完全な部分をみつけ、その部分を復習する。
	14	血液系：	●血液系のまとめ２ 問題演習等を通して血液系の理解を深めるとともに、問題解決能力を醸成する。	講義、教科書、講義ノートの中で理解が不完全な部分をみつけ、その部分を復習する。 さらに、演習問題を解いて、講義ノート及びメディカルイメージブックを活用しながら、自己の理解度を確認する。
	15	総合演習	問題演習等を通して本科目範囲の理解を深めるとともに、問題解決能力を醸成する。	講義、教科書、講義ノートの中で理解が不完全な部分をみつけ、その部分を学習し、定期テストに備える。

関連科目	人体の構造と機能Ⅰ、Ⅲ、Ⅳ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	系統看護学講座　専門基礎分野　「解剖生理学（人体の構造と機能①）」	坂井建雄、岡田隆夫	医学書院
2	メディカルイメージブック　解剖学	中島雅美　編	医歯薬出版株式会社
3	人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ講義ノート		

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テストおよびレポート（30%）、定期試験（70%）により総括評価する。
学生へのメッセージ	『人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ講義ノート』を活用しながら授業をまとめ、小テスト、レポートを通して、普段からの学習習慣を身につけてください。
担当者の研究室等	１号館（薬学部）　６階　薬理学研究室
備考	指定した教科書３冊は「人体の構造と機能Ⅰ」で使用するものと同じものです。必ず持ってきてください。 課題（小テスト、レポート等）については、課題提出後に内容の解説を行います。 講義１日目の持ち物として「小さな鏡（手鏡）」があれば、持ってきてください。口の中を観察し、口腔の理解を深めます。

科目名	人体の構造と機能Ⅲ	科目名（英文）	Anatomy and Physiology III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	久家　貴寿
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN1003a0		

授業概要・目的	「人体の構造と機能」は看護師を含む医療専門職の教育において基礎となる重要な科目である。生命体の成り立ちを個体、器官、細胞レベルで理解するために、生命体の構造と機能及び機能調節などに関する基本的知識を修得する。 授業担当教員は独立行政法人医薬基盤研究所において、4年間、疾患診断技術の研究開発に取り組んだ経験を持つ。本講義の理解が、臨床検査などを実践するうえで必要になることも解説する。
到達目標	1. 「循環器系器官」の構造に関する知識を身につけている。 2. 循環器系器官による血液循環調節の仕組みに関する知識を身につけている。 3. 「泌尿器系器官」の構造に関する知識を身につけている。 4. 泌尿器系器官による尿生成と体液調節の仕組みに関する知識を身につけている。 5. 「内分泌系器官」の構造に関する知識を身につけている。 6. 内分泌系器官による内臓機能調節の仕組みに関する知識を身につけている。
授業方法と留意点	パワーポイントを用いた「講義」を行う。講義では、主に「学ぶ意義」、「概要」、「要点」などを解説する。「詳細」については、講義後に、各自で、教科書を使った事後学習を行うことで理解すること。講義資料は全て WebBox にアップロードするので、ダウンロードして活用すること。講義開始時に、クイズなどの課題を提示するので、講義時間中にその解を各自で見出してください。
科目学習の効果（資格）	看護師国家試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	心臓の構造	心臓の位置と外形、心臓の部屋と弁、心臓壁、心臓の血管と神経について理解する	講義後に教科書を熟読し、詳細まで理解を深めること（2時間程度）
2	心臓の機能１	心臓の興奮と伝播、心電図について理解する	講義後に教科書を熟読し、詳細まで理解を深めること（2時間程度）
3	心臓の機能２	心臓の収縮とその調節について理解する	講義後に教科書を熟読し、詳細まで理解を深めること（2時間程度）
4	末梢循環系の構造	血管の構造、肺循環、全身の動・静脈系について理解する	講義後に教科書を熟読し、詳細まで理解を深めること（2時間程度）
5	血液の循環調節１	血圧、血液循環について理解する	講義後に教科書を熟読し、詳細まで理解を深めること（2時間程度）
6	血液の循環調節２	血圧調節、微小循環、循環器系の病態生理について理解する	講義後に教科書を熟読し、詳細まで理解を深めること（2時間程度）
7	リンパ系の構造と機能	リンパ管の構造、リンパ循環について理解する	講義後に教科書を熟読し、詳細まで理解を深めること（2時間程度）
8	体液の調節と尿の生成１	腎臓の構造と機能、糸球体の構造と機能、尿細管の構造と機能について理解する	講義後に教科書を熟読し、詳細まで理解を深めること（2時間程度）
9	体液の調節と尿の生成２	傍糸球体装置、腎臓から分泌される生理活性物質、排尿路の構造について理解する	講義後に教科書を熟読し、詳細まで理解を深めること（2時間程度）
10	体液の調節と尿の生成３	尿の貯蔵と排尿、体液調節について理解する	講義後に教科書を熟読し、詳細まで理解を深めること（2時間程度）
11	内分泌系による内臓機能の調節１	ホルモンの化学構造と作用機序、内分泌系器官について理解する	講義後に教科書を熟読し、詳細まで理解を深めること（2時間程度）
12	内分泌系による内臓機能の調節２	視床下部－下垂体系、甲状腺、副甲状腺について理解する	講義後に教科書を熟読し、詳細まで理解を深めること（2時間程度）
13	内分泌系による内臓機能の調節３	膵臓、副腎、性腺の構造と分泌ホルモンの機能について理解する	講義後に教科書を熟読し、詳細まで理解を深めること（2時間程度）
14	内分泌系による内臓機能の調節４	ホルモン分泌調節、ホルモンによる生体機能調節について理解する	講義後に教科書を熟読し、詳細まで理解を深めること（2時間程度）
15	総括	循環器系、泌尿器系、内分泌系に関して総括する	講義後に教科書を熟読し、詳細まで理解を深めること（2時間程度）

関連科目	人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、薬理学Ⅰ、Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	解剖生理学 - 人体の構造と機能 -	坂井健雄／岡田隆夫	医学書院
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	100点満点の定期試験において、60点以上獲得したものに対して単位を認定する。
学生へのメッセージ	講義を聴くだけでは本科目の修得は不可能です。必ず、教科書を熟読してください。 単位取得だけを本科目の受講目的とするのではなく、純粋に、生体の仕組みを知ることを楽しんでください。
担当者の研究室等	1号館4階　生体分子分析学研究室
備考	

専門科目

科目名	人体の構造と機能Ⅳ	科目名（英文）	Anatomy and Physiology IV
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	山口　太郎
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN1004a0		

授業概要・目的	「人体の構造と機能」は看護師を含む医療専門職の教育において基礎となる重要な科目である。生命体の成り立ちを個体、器官、細胞レベルで理解するために、生命体の構造と機能及び機能調節などに関する基本的知識を修得する。
到達目標	本科目では、「神経系器官・感覚器系器官」の構造と機能、「生体防御機構」を学習して生体情報の伝達・受容と調節や生体防御反応について理解する。また、「生殖器系器官」の構造と機能を学習して生殖・発生・老化のしくみを理解する。
授業方法と留意点	授業方法は「講義」を中心として、人体臓器模型や問題等を用いた演習形式学習も行う。小テストを実施する場合もあるので、普段からの学習習慣を身につけるようにしてください。
科目学習の効果（資格）	看護師国家試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	神経系の構造と機能	神経細胞と支持細胞、神経細胞の興奮と伝播、シナプス伝達について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。 予習（30 分）復習（1 時間）を目安に学習してください。
2	脊髄と脳	脊髄の構造と機能、脳の構造と機能について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。 予習（30 分）復習（1 時間）を目安に学習してください。
3	脊髄神経と脳神経	脊髄神経の構造と機能、脳神経の構造と機能、運動性上行路、感覚性下行路について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。 予習（30 分）復習（1 時間）を目安に学習してください。
4	脳の高次機能	脳波と睡眠、記憶、本能と情動行動、内臓調節機能について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。 予習（30 分）復習（1 時間）を目安に学習してください。
5	眼の構造と機能	眼球の構造、眼球付属器、視覚について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。 予習（30 分）復習（1 時間）を目安に学習してください。
6	耳の構造と機能	耳の構造、聴覚、平衡感覚について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。 予習（30 分）復習（1 時間）を目安に学習してください。
7	味覚、嗅覚、疼痛	味覚器と味覚、嗅覚器と嗅覚、痛みの分類、疼痛発生機序について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。 予習（30 分）復習（1 時間）を目安に学習してください。
8	皮膚の構造と機能	皮膚の構造と機能について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。 予習（30 分）復習（1 時間）を目安に学習してください。
9	生体防御	皮膚・粘膜における防御、食食作用・細胞傷害物質による防御、免疫による防御について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。 予習（30 分）復習（1 時間）を目安に学習してください。
10	体温	熱の出納、体温の分布と測定、体温調節について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。 予習（30 分）復習（1 時間）を目安に学習してください。
11	男性生殖器	男性生殖器の構造と機能について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。 予習（30 分）復習（1 時間）を目安に学習してください。
12	女性生殖器	女性生殖器の構造と機能について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。 予習（30 分）復習（1 時間）を目安に学習してください。
13	受精と胎児発生	生殖細胞と受精、初期発生と着床、胎児と胎盤について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。 予習（30 分）復習（1 時間）を目安に学習してください。
14	成長と老化	小児期の成長、老化について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。 予習（30 分）復習（1 時間）を目安に学習してください。
15	体表から見た人体の構造	体表から触知できる骨格部分・骨格筋・血管を各自が確認して部位の名称を確認する。	授業のまとめノートを作成すること。 予習（30 分）復習（1 時間）を目安に学習してください。

関連科目	人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、薬理学Ⅰ、Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	筆記試験１００点満点の６０点以上で合格とする。ただし、小テスト等の一定割合を評価に入れることもある。 尚、必要に応じて課題レポートを課すことがある。
学生への	授業のまとめノートの作成や小テストを通して、普段からの学習習慣を身につけてください。疑問をもったときには遠慮なく質問してください。

メッセージ	
担当者の 研究室等	1 号館 6 階　薬理学研究室
備考	講義内容をよく理解し、予習・復習するよう努めてください。

専門科目

科目名	精神看護学援助論Ⅰ	科目名（英文）	Psychiatric and Mental Health Nursing Ⅰ
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	眞野　祥子.山本　智津子.吉永　愛香
ディプロマポリシー(DP)	DP2○,DP3◎,DP4○,DP6○,DP7○,DP8△		
科目ナンバリング	NDN2056a0		

授業概要・目的	精神看護を実践するために必要となる基本的な知識・技術を学ぶ。精神看護では、患者―看護師の対人関係が病気回復において重要となる。そこで患者―看護師関係に関する理論を理解したうえで、患者―看護師関係を展開していくためのスキルトレーニング法であるロールプレイング、プロセスレコードを用いた演習で自己洞察を深め、患者―看護師関係における自己の活用の能力向上を目指す。 精神疾患を持つ患者理解の基礎となる幻覚・妄想、躁、うつ状態などの精神症状の捉え方について学び、患者の精神症状をアセスメントし、看護介入が行えるようになることを目指す。また、精神科で行われている治療とその看護について学ぶ。 精神科病院で行われている地域移行支援と精神科救急の現状を理解するため、ゲストスピーカー（精神科病院で看護師経験のある看護管理職）による講義も予定している。
到達目標	援助的人間関係に関する理論を理解する。 援助的人間関係に関する技術を身につける。 幻覚・妄想、躁、うつ状態、不安状態、強迫状態等の精神症状のとらえ方を理解する。 精神科で行われている治療とその治療を受ける患者の看護について理解する。 精神科病棟で実践されている看護とそこで働く看護師の役割を理解する。
授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って講義を行う。精神医療・精神障害者をイメージすることが難しいと考えられるため、現場で働いている看護師による講義を取り入れ、興味・関心を引き出し、イメージの促進を図る。 授業は講義を中心に行うが、学生が授業中も頭を働かせて参加できるように質問に対する答えや意見・感想を求め、授業への積極的参加を促す。 毎回の授業の最後に「ワークシート」を配布し、その日の授業テーマに基づく課題の解答を求め、次回の授業で学生にフィードバックしていく。
科目学習の効果（資格）	看護師国家試験受験資格のための必修科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	精神症状のアセスメント	幻覚妄想状態と看護	事前：「第３章-Ⅱ-B（P.73～78）」「第６章-Ⅱ-A、E（P.290～306、325～330）」を読んで来てください（1時間）。 事後:授業内容を整理しておいてください(1時間)。
2	精神症状のアセスメント	意欲低下、引きこもり状態と看護	事前：「第３章-Ⅱ-D（P.83～91）」「第６章-Ⅱ-B（P.306～330）」を読んで来てください（1時間）。 事後:授業内容を整理しておいてください(1時間)。
3	精神症状のアセスメント	拒絶と看護	事前：「第３章-Ⅱ-B、D（P.73～78、83～91）」「第６章-Ⅱ-A,B（P.290～312）」を読んで来てください（1時間）。 事後:授業内容を整理しておいてください(1時間)。
4	精神症状のアセスメント	不安状態、強迫状態と看護	事前:「第３章-Ⅱ-E,F(P.91～102)」「第６章-Ⅱ-B,G（P.306～312、338～344）」を読んで来てください（1時間）。 事後:授業内容を整理しておいてください(1時間)。
5	精神症状のアセスメント	躁、うつ状態、希死念慮と看護	事前「第３章-Ⅱ-D（P.66～73）」「第６章-Ⅱ-B、C（P.306～319）」を読んで来てください（1時間）。 事後:授業内容を整理しておいてください(1時間)。
6	精神症状のアセスメント	操作的状態と看護	事前第３章-Ⅱ-N（P.140～143）」「第６章-Ⅱ-H（P.345～351）」を読んで来てください（1時間）。 事後:授業内容を整理しておいてください(1時間)。
7	援助的人間関係（理論編１）	患者-看護師関係の意義と特徴	事前：「第４章（P.194～226）」を読んで来てください（1時間）。 事後:授業内容を整理しておいてください(1時間)。
8	援助的人間関係（理論編２）	対人関係論、プロセスレコード	事前：「第４章（P.194～226）」を読んで来てください（1時間）。 事後:授業内容を整理しておいてください(1時間)。
9	援助的人間関係（実践編）	コミュニケーションスキルトレーニング演習	事後:授業内容を整理しておいてください(1時間)。
10	援助的人間関係（実践編）	プロセスレコードを記載する	事後:授業内容を整理しておいてください(1時間)。
11	プロセスレコードの分析と評価	プロセスレコードの振り返り、エゴグラム	事後:授業内容を整理しておいてください(1時間)。
12	援助的人間関係(実践編)	コミュニケーションスキルトレーニング演習（症状への対応）	事前：「第６章-Ⅱ-A（P.290～306）」を読んで来てください（1時間）。 事後:授業内容を整理しておいてください(1時間)。
13	精神科治療と看護（１）	薬物療法と看護	事前：「第３章-Ⅲ-A（P.150～166）」を読んで来てください（1時間）。 事後:授業内容を整理しておいてください(1時間)。
14	精神科治療と看護（２）	精神療法、ＳＳＴ、心理教育、作業療法と看護	事前：「第３章-Ⅲ-B,C,D（P.166～192）」を読んで来てください（1時間）。 事後:授業内容を整理しておいてください。(1時間)
15	退院調整と地域生活支援・精神科救急に関する看護	精神障害者の退院促進と地域で生活していくための支援活動、精神科救急の現場で実践されている看護援助、精神科における看護師の役割・機能など	事後：授業内容を復習をしておいてください（1時間）。

関連科目	精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅱ、精神看護学実習

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新体系看護学全書　精神看護学②　精神障害をもつ人の看護	佐藤壹三	メヂカルフレンド社
2	はじめての精神医学	渡辺雅幸	中山書店
3			

参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
評価方法 （基準）	合否は、定期試験（85%）及びワークシート、演習、演習時の課題（15%）を総合して判定する。
学生への メッセージ	積極的に授業に参加してください。 本科目は、精神科病院での実務経験がある教員 3 名で担当します。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　研究室 19（眞野）、研究室 18（山本智）、共同研究室２（吉永）
備考	学生の理解度に応じて、シラバスを変更することがある。 外部講師による講義も予定している。日程は追って連絡するので、注意深く掲示板、ポータルサイトを確認をすること。

科目名	精神看護学援助論Ⅱ	科目名（英文）	Psychiatric and Mental Health Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山本　智津子.眞野　祥子.吉永　愛香
ディプロマポリシー(DP)	DP2○,DP3◎,DP4○,DP6○,DP7○,DP8○		
科目ナンバリング	NDN2057a0		

授業概要・目的	本科目は、精神科病棟で勤務経験のある教員が精神疾患と治療等の基本的な知識・技術をふまえたうえで、精神疾患を有する対象とその家族に対する基本的看護援助方法を学ぶ。それらの基礎知識を活用しながら、ペーパーペーシェントによる看護過程の展開を行い、対象をアセスメントする技術と、必要な看護援助方法を理解する。 また地域で生活する精神障害者への支援体制について学ぶ。 さらにゲストスピーカー（当事者）の語りにより、当事者の思い等を理解したうえで看護援助方法を考える。
到達目標	各精神疾患の症状、治療、看護援助方法について理解できる。 ペーパーペーシェントを通して、対象にとって必要な看護援助方法が理解できる。 地域における精神保健福祉活動が理解できる。
授業方法と留意点	基本的には授業計画にそってスライドを用いながら講義を行う。一方的な講義にならないよう学生が発言する機会を設け、また精神疾患・精神症状や精神障害者への理解を深められるように視聴覚教材を活用する。
科目学習の効果（資格）	看護師国家試験受験資格のための必修科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	疾患による看護の特徴（1）	統合失調症（者）の理解と看護	事前：「第６章Ⅱ－A（P290～306）」を読んできてください（1時間）。 事後：「第６章Ⅱ－A（P290～306）」および授業内容を整理しておいてください（1時間）。
2	疾患による看護の特徴（2）	気分障害（者）の理解と看護	事前：「第６章Ⅱ－B・C（P306～319）」を読んできてください（1時間）。 事後：「第６章Ⅱ－B・C（P306～319）」および授業内容を整理しておいてください（1時間）。
3	疾患による看護の特徴（3）	神経症性障害（者）の理解と看護	事前：「第３章Ⅱ－E・F（P91～102）」を読んできてください（1時間）。 事後：「第３章Ⅱ－E・F（P91～102）」および授業内容を整理しておいてください（1時間）。
4	疾患による看護の特徴（4）	パーソナリティ障害・摂食障害（者）の理解と看護	事前:「第３章Ⅱ－N(P140～143)」「第６章Ⅱ－H(P345～351)」を読んできてください（1時間）。 事後:「第３章Ⅱ－N(P140～143)」「第６章Ⅱ－H(P345～351)」および授業内容を整理しておいてください（1時間）。
5	疾患による看護の特徴（5）	アルコール依存および薬物依存（者）の理解と看護	事前:「第３章Ⅱ－L(P126～132)」「第６章Ⅱ－F(P331～338)」を読んできてください（1時間）。 事後:「第３章Ⅱ－L(P126～132)」「第６章Ⅱ－F(P331～338)」および授業内容を整理しておいてください（1時間）。
6	疾患による看護の特徴（6）	身体合併症をもつ対象の看護	事前：「第６章Ⅲ（P363～379）」を読んできてください（1時間）。 事後：「第６章Ⅲ（P363～379）」および授業内容を整理しておいてください（1時間）。
7	ゲストスピーカー（当事者）の理解	ゲストスピーカー（当事者）の語り	事前：「第６章Ⅱ－A・B・C（P290～319）」を読んできてください（1時間）。 事後：「第６章Ⅱ－A・B・C（P290～319」および授業内容を整理しておいてください（1時間）。
8	地域精神保健福祉活動の現状、他職種との連携	精神障害者の地域生活支援	事前：「第７章（P384～448）」を読んできてください（1時間）。 事後：「第７章（P384～448）」および授業内容を整理しておいてください（1時間）。
9	精神障害がセルフケアへ及ぼす影響のアセスメント	オレム・アンダーウッド理論と活用法	事前：「第５章（P228～259）」を読んできてください（1時間）。 事後：「第５章（P228～259）」および授業内容を整理しておいてください（1時間）。
10	事例演習（1）	情報収集と整理①	事前：「第５章（P228～259）」「第６章Ⅱ－A（P290～306）」を読んできてください（1時間）。 事後：「第５章（P228～259）」「第６章Ⅱ－A（P290～306）」および授業内容を整理しておいてください（1時間）。
11	事例演習（2）	情報収集と整理②	事前：「第５章（P228～259）」「第６章Ⅱ－A（P290～306）」を読んできてください（1時間）。 事後：「第５章（P228～259）」「第６章Ⅱ－A（P290～306）」および授業内容を整理しておいてください（1時間）。
12	事例演習（3）	アセスメント①	事前：「第５章（P228～259）」「第６章Ⅱ－A（P290～306）」を読んできてください（1時間）。 事後：「第５章（P228～259）」「第６章Ⅱ－A（P290～306）」および授業内容を整理しておいてください（1時間）。
13	事例演習（4）	アセスメント②	事前：「第５章（P228～259）」「第６章Ⅱ－A（P290～306）」を読んできてください（1時間）。 事後：「第５章（P228～259）」「第６章Ⅱ－A（P290～306）」および授業内容を整理しておいてください（1時間）。
14	事例演習（5）	問題点の整理	事前：「第６章Ⅱ－A（P290～306）」を読んできてく

				ださい（1時間）。 事後：「第6章Ⅱ－A（P290～306）」および授業内容を整理しておいてください（1時間）。
	15	事例演習（6）	看護計画立案 評価・修正	事前：「第6章Ⅱ－A（P290～306）」を読んできてください（1時間）。 事後：「第6章Ⅱ－A（P290～306）」および授業内容を整理しておいてください（1時間）。

関連科目：精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ、精神看護学実習

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	精神看護学②精神障害をもつ人の看護	佐藤壹三監修	メヂカルフレンド社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	はじめての精神医学	渡辺雅幸	中山書店
2			
3			

評価方法（基準）：合否は定期試験（80%）、ワークシートおよび演習時の課題（20%）を総合して評価する。

学生へのメッセージ：積極的に授業に参加してください。

担当者の研究室等：7号館3階　研究室18（山本智）、研究室19（眞野）、共同研究室2（吉永）

備考：学生の理解度に応じて、シラバスを変更することがある。

専門科目

科目名	成人看護学援助論Ⅰ	科目名（英文）	Adult Nursing Ⅰ
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	竹下　裕子.稲垣　範子.稲垣　美紀.長沢　美和子
ディプロマポリシー(DP)	DP2○,DP3◎,DP4○,DP6○,DP7○,DP8△		
科目ナンバリング	NDN2036a0		

授業概要・目的

【授業概要・目的】
健康状態に急激な変化を生じ、生命の危機的状態にある対象とその家族の特徴を理解し、生命の維持と心身の早期回復、早期社会復帰に向けた看護を実践する能力を身につけることができる。また、急性期にある対象の事例を取り上げ、看護過程を展開する能力を身につけることができる。

＜稲垣美紀＞
集中治療室で看護師として勤務した経験を活かした実践的教育を行う。
＜竹下裕子＞
外科系病棟で看護師として勤務した経験を活かした実践的教育を行う。
＜稲垣範子＞
集中治療室で急性・重症看護専門看護師として勤務した経験を活かした実践的教育を行う。
＜長沢美和子＞
外科系病棟で看護師として勤務した経験を活かした実践的教育を行う。

到達目標

【一般目標】
１．健康状態に急激な変化を生じ、生命の危機的状態にある対象や、手術を受ける対象とその家族の身体的、心理・社会的特徴および倫理的課題について理解できる。
２．麻酔・手術における侵襲と生体反応を踏まえ、術後合併症のアセスメントと予防のための看護援助について理解できる。
３．手術によって、形態変化や機能障害をもたらされた対象とその家族の適応および新たなセルフケア能力獲得を促すための看護援助について理解できる。
４．手術を受ける対象とその家族が，周手術期および退院後も、ＱＯＬのより高い生活を獲得できるよう、チーム医療のもとで行う看護援助について理解できる。
５．手術を受ける対象とその家族への看護実践に必要となる情報収集，アセスメント，計画立案の過程について理解できる。
６．手術を受ける対象とその家族の看護問題を解決するために、主体的な学習態度で取り組むことができる。

授業方法と留意点

下記の授業計画に沿って講義および看護過程の展開を中心に授業を行う。また、重要なテーマについてグループ討議や資料作成等を行う。事前学習として、教科書の該当範囲を読んでおくこと。事後課題として、授業内容の整理，復習を行うこと。

科目学習の効果（資格）

・臨地実習（成人看護学実習Ⅰ）において，看護援助を実践するための基盤となる.
・看護師国家試験の出題範囲である.

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	周手術期にある対象の特徴と理解①ー手術侵襲と生体反応	麻酔・手術侵襲に伴う生体反応，炎症，感染症，創傷治癒	【事前】教科書１の序章，第１章，第４章を読んでくること（１時間） 【事後】教科書・資料の内容を復習をしておく（１時間）。
2	周手術期にある対象の特徴と理解②ー術前患者	情報収集とアセスメント，術前オリエンテーション，術前日～術当日の看護	【事前】教科書１の第７章を読んでくること（１時間） 【事後】教科書・資料の内容を復習をしておく（１時間）。
3	周手術期にある対象の特徴と理解③ー術中患者	麻酔法，手術室環境，麻酔の基礎知識と麻酔導入時～覚醒時の看護	【事前】教科書１の第３章，第８章を読んでくること（１時間） 【事後】教科書・資料の内容を復習をしておく（１時間）。
4	周手術期にある対象の特徴と理解④ー術後患者	麻酔・手術侵襲からの回復を促進するための看護 患者アセスメント，早期離床，疼痛管理，自己管理に向けた援助	【事前】教科書１の第９章を読んでくること（１時間） 【事後】教科書・資料の内容を復習をしておく（１時間）。
5	術後合併症の発生機序と予防のための看護援助①	呼吸器合併症，循環器合併症，イレウス予防のための看護	【事前】教科書１の第９章を読んでくること（１時間） 【事後】教科書・資料の内容を復習をしておく。また，術後の体液バランスと輸液管理についてまとめておく（１時間）。
6	術後合併症の発生機序と予防のための看護援助②	術後感染，縫合不全（創傷管理・ドレーン管理含む），術後せん妄予防のための看護	【事前】教科書１の第１章C～E，第９章を読んでくること（１時間） 【事後】教科書・資料の内容を復習をしておく（１時間）。
7	形態変化や機能障害への適応とセルフケア能力獲得促進のための看護援助①＋看護過程の展開①	手術を受ける対象に対する看護と看護過程の展開（胃切除術）	【事前】教科書２のⅦ（胃切除術）を参考にしながら，胃がんの原因と誘因，症状と発生機序，分類と進行度，術式と各術式の特徴（切除部位，再建方法）などをまとめておくこと（１時間） 【事後】看護記録の提出（１時間）
8	手術を受ける対象に対する看護過程の展開②	事例をもとに看護過程を展開するーカルテからの情報収集	【事前】看護過程に関する資料及び課題を事前に配布する。課題を完成させる（１時間）。 【事後】看護記録の提出（１時間）
9	手術を受ける対象に対する看護過程の展開③	事例をもとに看護過程を展開するーカルテからの情報収集＋アセスメント	【事前】看護過程に関する資料及び課題を事前に配布する。課題を完成させる（１時間）。 【事後】看護記録の提出（１時間）
10	手術を受ける対象に対する看護過程の展開④	事例をもとに看護過程を展開するー関連図	【事前】看護過程に関する資料及び課題を事前に配布する。課題を完成させる（１時間）。 【事後】看護記録の提出（１時間）
11	手術を受ける対象に対する看護過程の展開⑤	事例をもとに看護過程を展開するー関連図	【事前】看護過程に関する資料及び課題を事前に配布する。課題を完成させる（１時間）。 【事後】看護記録の提出（１時間）
12	形態変化や機能障害への適応とセルフケア能力獲得促進のための看護援助②	開胸術・開心術を受ける対象に対する看護	【事前】教科書２のⅦ（肺切除術・冠動脈バイパス術）を参考にしながら，開胸術・開心術を受ける疾患，症状と発生機序，術式の特徴などをまとめてお

				くこと（1時間） 【事後】資料の内容を復習をしておく（1時間）。
	13	形態変化や機能障害への適応とセルフケア能力獲得促進のための看護援助③	開頭術を受ける対象に対する看護	【事前】教科書2のⅦ（脳動脈クリッピング術）を参考にしながら，開頭術を受けるクモ膜下出血の原因と誘因，症状と発生機序，術式の特徴などをまとめておくこと（1時間） 【事後】資料の内容を復習をしておく（1時間）。
	14	形態変化や機能障害への適応とセルフケア能力獲得促進のための看護援助④	人工関節置換術を受ける対象に対する看護	【事前】教科書2のⅦ（両側人工膝関節置換術）を参考にして関節リウマチの原因と誘因，症状と発生機序，分類，術式特徴などをまとめておくこと（1時間） 【事後】資料の内容を復習をしておく（1時間）。
	15	形態変化や機能障害への適応とセルフケア能力獲得促進のための看護援助⑤	総合演習	【事前】授業時間内に指定した内容を学習をしておく（1時間） 【事後】資料の内容を復習しておく（1時間）。

関連科目

成人看護学概論
成人病態看護論
人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ
病理学総論
疾病治療論Ⅰ・Ⅱ
感染と防御

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	系統看護学講座　臨床外科看護総論	矢永勝彦　他編	医学書院（目安価格：税抜き2,800円）
2	パーフェクト臨床実習ガイド　成人看護Ⅰ　急性期・周手術期	井上智子　編	照林社(目安価格:税抜き3,200円)
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	成人看護学　周手術期看護論（第3版）	雄西智恵美　他編	ヌーヴェルヒロカワ
2	経過別成人看護学2　周手術期看護	明石恵子　編	メヂカルフレンド社
3			

評価方法（基準）	筆記試験（80%）、課題の達成状況(20%)により、総合的に評価する。
学生へのメッセージ	急性期にある対象に対しては，迅速な対処を必要とされることが多く，看護の展開が速いのが特徴です．習得した知識を個別の対象に適用できるためには，十分な事前・事後学習が不可欠です
担当者の研究室等	7号館3階　研究室30（竹下）
備考	授業は、「成人看護学援助論Ⅲ」と連動させながら行います。したがってスケジュールを別途説明しますので、間違いないように授業の事前準備を行ってください。

専門科目

科目名	成人看護学援助論Ⅱ	科目名（英文）	Adult Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	森谷　利香.青野　美里.志戸岡　恵子
ディプロマポリシー(DP)	DP2○,DP3◎,DP4○,DP6○,DP7○,DP8△		
科目ナンバリング	NDN2037a0		

授業概要・目的	【授業概要】 慢性的な健康問題のある成人期の人々を理解し、対象者が主体的に療養生活に取り組むために必要な看護援助を学習する。また、代表的な慢性病をモデルにして、疾病や症状をコントロールするために必要とされる対象者のセルフケア、ストレスコーピング、生活の再構築や適応を促進するための看護の援助方法について学習する。 【目的】 慢性的な健康問題を有する成人期の対象と家族の特徴を踏まえ、その QOL の維持・向上、および主体的な療養生活に向けた看護を実践する能力を身につけることができる。
到達目標	１．セルフケア、生活の再構築・適応、ストレスコーピングの促進が必要な対象とその家族の特徴と課題を、倫理的側面を含めて説明できる。 ２．対象と家族の生活をセルフケアの視点でアセスメントし、増悪因子を踏まえた、主体的な生活習慣の修正に向けた援助が理解できる。また、これに関連する援助技術を習得できる。 ３．対象とその家族にとっての病や障がいの受け止めや治療への意思決定、および、生活への影響を説明できる。また、これらを踏まえた上で、対象と家族の、その人らしい生活に向けた看護援助を理解できる。さらに、これに関連する援助技術を習得できる。 ４．対象の対症療法における看護と症状に応じた日常生活の調整について理解できる。 ５．対象の病の進行や治療に対する不安というストレスと、これへの前向きなコーピングに向けた看護援助について理解できる。 ６．対象の症状、および治療に伴う副作用への看護援助について理解できる。 ７．セルフケア、生活の再構築・適応、ストレスコーピングの促進が必要な対象とその家族の QOL の維持・向上のために必要なチーム医療の在り方と看護の役割を理解できる。
授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って進める。病態、検査、治療に関しては、人体の構造と機能とともに理解が必要であるため、既習の内容を復習しながら進める。看護については、まず、病態の理解に関連させて理解を深められるようにする。そして、疾病による心理・社会的影響を理解できるよう、慢性病者の療養生活のイメージ化を促す。これらの上で、看護援助を具体的に説明する。
科目学習の効果（資格）	看護師国家試験受験に必須の科目である

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	セルフケアを促進するための看護援助（1）	慢性心不全により活動耐性の低下した患者の理解と看護 1)	【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第Ⅴ章-２-４を読んでおくこと（１時間）。 【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること（１時間）。
2	セルフケアを促進するための看護援助（2）	慢性心不全により活動耐性の低下した患者の理解と看護 2)	【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第Ⅴ章-２-４を読んでおくこと（１時間）。 【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること（１時間）。
3	セルフケアを促進するための看護援助（3）	慢性腎不全により恒常性の維持が困難になった患者の理解と看護 1)	【事前学習】病態の復習を行うこと。教科書第Ⅴ章-５-１を読んでおくこと（１時間）。 【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること（１時間）。
4	セルフケアを促進するための看護援助（4）	慢性腎不全により恒常性の維持が困難になった患者の理解と看護２）	【事前学習】病態の復習を行うこと。教科書第Ⅴ章-５-１を読んでおくこと（１時間）。 【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること（１時間）。
5	セルフケアを促進するための看護援助（5）	糖尿病によりライフスタイルの修正が必要な患者の理解と看護 1)糖尿病の発症に伴う身体的・心理社会的反応とセルフケアの特徴	【事前学習】病態の復習を行うこと。教科書第Ⅴ章-４-１を読んでおくこと（１時間）。 【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。 レポートを課す（１時間）。
6	セルフケアを促進するための看護援助（6）	糖尿病によりライフスタイルの修正が必要な患者の理解と看護 2)糖尿病セルフケア支援のための援助技法	【事前学習】病態の復習を行うこと。教科書第Ⅴ章-４-１を読んでおくこと（１時間）。 【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。 レポートを課す（１時間）。
7	生活の再構築や適応を促進するための看護援助（1）	筋萎縮性側索硬化症により身体活動が制限された患者の理解と看護 1) 難病患者の身体的・心理社会的反応への看護	【事前学習】病態の復習を行うこと。教科書第Ⅴ章-７-３を読んでおくこと（１時間）。 【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。レポートを課す（１時間）。
8	生活の再構築や適応を促進するための看護援助（2）	筋萎縮性側索硬化症により身体活動が制限された患者の理解と看護 2)生活の再構築の過程を支える看護	【事前学習】病態の復習を行うこと。教科書第Ⅴ章-７-３を読んでおくこと（１時間）。 【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。レポートを課す（１時間）。
9	生活の再構築や適応を促進するための看護援助（3）	膠原病（全身性エリテマトーデス、関節リウマチ）によりライフイベントに影響を受ける患者の理解と看護	【事前学習】病態の復習を行うこと。教科書第Ⅴ章-６-４を読んでおくこと（１時間）。 【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること（１時間）。
10	生活の再構築や適応を促進するための看護援助（4）	慢性閉塞性肺疾患により新たな療養法を必要とする患者の理解と看護	【事前学習】病態の復習を行うこと。教科書第Ⅴ章-１-２を読んでおくこと（１時間）。 【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること（１時間）。
11	ストレスコーピングを促進するための看護援助（1）	慢性肝炎により肝硬変・肝がんへの進行の不安を抱く患者の理解と看護 1)	【事前学習】病態の復習を行うこと。教科書第Ⅴ章-３-２，３，４を読んでおくこと（１時間）。 【事後学習】

				教科書と資料の内容を復習すること（1時間）。
	12	ストレスコーピングを促進するための看護援助（2）	慢性肝炎により肝硬変・肝がんへの進行の不安を抱く患者の理解と看護 2）	【事前学習】病態の復習を行うこと。教科書第Ⅴ章－3－2，3，4を読んでおくこと（1時間）。 【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること（1時間）。
	13	ストレスコーピングを促進するための看護援助（3）	肺がんによる症状マネジメントを必要とする患者の理解と看護	【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第Ⅴ章－1－3を読んでおくこと（1時間）。 【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること（1時間）。
	14	ストレスコーピングを促進するための看護援助（4）	白血病の寛解をめざす患者の理解と看護 1）	【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第Ⅴ章－6－2を読んでおくこと（1時間）。 【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること（1時間）。
	15	ストレスコーピングを促進するための看護援助（5）	白血病の寛解をめざす患者の理解と看護 2）	【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第Ⅴ章－6－2を読んでおくこと（1時間）。 【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること（1時間）。

関連科目	成人看護学概論、成人看護学援助論Ⅲ、成人病態看護論 人体の構造と機能、疾病・治療論や薬物治療学など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	看護学テキスト Nice　成人看護学　慢性期看護　改訂第 2 版	鈴木久美　他	南江堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	成人看護学　慢性期看護論	鈴木志津枝　他	ヌーヴェルヒロカワ
2	経過別成人看護学３　慢性期看護	黒江ゆり子　他	メヂカルフレンド社
3			

評価方法 （基準）	本科目では 2／3 以上の出席を成績評価の対象とする。定期試験 90%、レポート 10%の内容から総合的に評価する。
学生への メッセージ	本授業では、各教員の病院での実践経験を踏まえて授業内容を教授します。提出されたレポートに関しては必要に応じて授業の中でフィードバックします。試験については、再試験対象者のうち、希望する学生に対してフィードバックします。 成人看護学実習Ⅱにつながる基本的な内容ですので、しっかり学習しましょう。成人看護学援助論Ⅲと連動していますので、具体的な進め方は別途説明します。
担当者の 研究室等	研究室 29　森谷
備考	

専門科目

科目名	成人看護学援助論Ⅲ	科目名（英文）	Adult Nursing III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	森谷　利香.松本　葉子.青野　美里.稲垣　範子.稲垣　美紀.志戸岡　恵子.竹下　裕子.長沢　美和子
ディプロマポリシー(DP)	DP2○,DP3◎,DP4○,DP6○,DP7○,DP8○		
科目ナンバリング	NDN2038a0		

授業概要・目的	〔授業概要〕 成人期にある看護の対象となる人々の健康段階における代表的な健康問題を取り上げて、対象者の身体・心理・社会的特徴を学習する。これらを踏まえて、それぞれの健康問題のある対象に対する看護の方向性および看護援助方法について学習した上で、事例に対する看護技術を習得する。 〔目的〕 成人期にある対象およびその家族のニーズを、健康レベルや生活背景を踏まえてアセスメントしたうえで、根拠に基づいた看護を計画、展開できる基礎的能力を養う。また、アセスメントをもとにした模擬患者への看護援助技術の提供や患者役の体験を通して、より適切な看護援助技術の実践に向けた自己の課題に気付くことができる。学内演習の振り返りを通して、看護職者としての倫理観や対象に適した看護実践を展開する基礎的能力を養う。
到達目標	1. 手術侵襲により身体的・精神的状態に急激な変化をきたしやすい急性期にある対象の観察とモニタリングができる。 2. 急性期にある対象の心身の苦痛を理解し、緩和に必要な看護技術について習得する。 3. 急性期にある対象の合併症予防と心身の早期回復を促進するための看護技術について習得する。 4. 慢性的な健康問題のある対象の看護に必要な知識及び看護技術について習得する。 5. 慢性的な健康問題のある対象への看護過程の展開について習得する。
授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って進める。授業方法は、学内演習を中心とする。
科目学習の効果（資格）	成人看護学実習Ⅰ、Ⅱで実際に活用する援助方法である。 また、看護師国家試験受験において必須科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	手術を受ける対象への看護過程の展開	・看護過程の展開は、「成人看護学援助論Ⅰ」と連動させて行う。 ・看護問題の明確化，優先順位決定，計画立案を行う。	事前課題：看護過程に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(2時間) 事後課題：看護記録の提出（1時間）
2	手術を受ける対象への看護過程の展開	・自身が展開した看護過程を他者に説明する。 ・看護過程全体のまとめを行う。	事前課題：看護過程に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(2時間) 事後課題：看護記録の提出（1時間）
3	手術を受ける対象への看護技術①	・術直後の全身状態の観察とモニタリング，早期離床の促進（主に講義）	事前課題：技術演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(1時間) 事後課題：課題の提出（1時間）
4	手術を受ける対象への看護技術②	・術直後の全身状態の観察とモニタリング，早期離床の促進（主に援助の必要性・方法・留意点などの計画立案を行う）	事前課題：技術演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(1時間) 事後課題：課題の提出（1時間）
5	手術を受ける対象への看護技術③	・術直後の全身状態の観察とモニタリング（技術演習）	事前課題：技術演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(1時間) 事後課題：課題の提出（1時間）
6	手術を受ける対象への看護技術④	・術直後の全身状態の観察とモニタリング（技術演習）	事前課題：技術演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(1時間) 事後課題：課題の提出（1時間）
7	手術を受ける対象への看護技術⑤	・早期離床と日常生活援助(技術演習)	事前課題：技術演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(1時間) 事後課題：課題の提出（1時間）
8	手術を受ける対象への看護技術⑥	・早期離床と日常生活援助(技術演習)	事前課題：技術演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(1時間) 事後課題：課題の提出（1時間）
9	慢性的な健康問題のある対象への看護過程１）	情報の整理・解釈・分析 1)	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。（2時間）
10	慢性的な健康問題のある対象への看護過程２）	情報の整理・解釈・分析 2)	事後課題：完成させた課題を提出する。(情報の整理・解釈・分析）提出　（1時間）
11	慢性的な健康問題のある対象への看護過程３）	関連図，統合・看護計画の明確化	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。（2時間） 事後課題：完成させた課題（関連図，統合・看護計画の明確化）を提出する。（1時間）
12	慢性的な健康問題のある対象への看護過程４）	看護計画の立案	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。（1時間） 事後課題：完成させた課題(看護計画)を提出する。（1時間）
13	慢性的な健康問題のある対象への看護過程５）	看護過程成果の共有	事後課題：完成させた全ての課題を提出する。(1時間)
14	慢性的な健康問題のある対象への看護技術１）	・輸液療法により体液管理を必要とする患者への援助 ・自己血糖測定・インスリン自己注射を用いてセルフマネジメントを必要とする患者への援助	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する（1時間） 事後課題：演習に関する資料および振り返りレポートを提出する。（1時間）
15	慢性的な健康問題のある対象への看護技術２）	・継続的な療養法の習得に向けた教育的支援	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する（1時間） 事後課題：実施を振り返りレポートを提出する 。（1時間）

関連科目	成人看護学援助論Ⅰ、Ⅱ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1 | 2 | 3
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 2 3
評価方法（基準）	本科目では 2／3 以上の出席を成績評価の対象とする。演習課題（レポートや記録等）の達成状況、および演習態度（積極性や取り組みへの姿勢等）を 100 点とし、総合的に評価する。
学生へのメッセージ	本授業では、各教員の病院での実践経験を踏まえて授業内容を教授します。 また、成人看護学援助論Ⅰ、Ⅱと連動して進めます。具体的には別途説明します。提出されたレポートに関しては必要に応じて授業中、もしくは授業終了後にフィードバックします。
担当者の研究室等	研究室　26　稲垣美・　研究室 29　森谷
備考	

専門科目

科目名	精神看護学概論	科目名（英文）	Introduction to Psychiatric and Mental Health Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期前半	授業担当者	眞野　祥子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP4○,DP6○,DP8△		
科目ナンバリング	NDN2055a0		

授業概要・目的	精神看護学の対象は、精神疾患を持つ人に限らず、あらゆる発達段階にある人々を含んでいる。本科目では、心の健康を保持・増進するために必要となる基本的な知識を学び、精神医療に関連する基本的な概念を理解する。具体的には、精神看護学と精神保健の基本、現代社会におけるストレスと健康、精神医療・保健・福祉の歴史と法律、精神疾患を持つ人の実態、リエゾン精神看護について学習する。また、将来、看護職に就く者として自身の心の健康を保持・増進するための知識についても学習する。
到達目標	心の構造と機能について説明できる。 心の健康・不健康について説明できる。 現代社会の変化によって、私たちの心の健康にどのような影響をがあるか説明できる。 自分自身の心の健康を保つための知識を身につけ、実践することができる。 災害時などの状況において危機状況とその対応・予防について説明できる。 精神保健の概念について説明できる。 精神科看護師の役割について説明できる。
授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って講義を行う。精神看護学を身近に感じられるように、学生自身の経験や知識、健康に関するトピックスを活用し、メンタルヘルスの現状や問題点を概観し、心の健康・不健康について自分の言葉で考察できるようになることを目指す。また、精神医療・精神障害者をイメージすることが難しいと考えられるため、視聴覚教材や精神医療に関する映画などを補助的に活用して興味・関心を引き出し、イメージの促進を促していく。 授業は講義を中心に行うが、学生が授業中も頭を働かせて参加できるように質問に対する答えや意見・感想を求め、授業への積極的参加を促したい。毎回の授業の最後に「ワークシート」を配布し、その日の授業テーマに基づく課題の解答を求め、次回の授業で学生にフィードバックしていく。
科目学習の効果（資格）	看護師国家試験受験資格のための必修科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	精神看護学の基本	精神看護学の位置づけ、精神看護の対象となる人・生活の場について理解する。	事前：教科書①「序章-Ⅰ～Ⅳ(P.2～28)」を読んで来てください（1時間）。 事後：授業内容を教科書と照らし合わせ、整理しておいてください（1時間）。
2	心とは何か	精神力動的な考え方にもとづいて、心の構造と働きを理解する。	事前：教科書①「第１章Ⅰ、Ⅱ（P.30～74）」を読んで来てください（1時間）。 事後：授業内容を教科書と照らし合わせ、整理しておいてください（1時間）。
3	心の健康とは何か（ストレスと健康、看護師のメンタルヘルス）	ストレスの概念、対処行動、危機介入、PTSD、バーン舞うととその対処、看護職者の感情体験について理解する	事前：教科書①「第４章Ⅰ～Ⅲ（P.128～147）」「第５章Ⅰ～Ⅳ（P.150～173）」「第６章Ⅰ、Ⅱ（P.176～232）」教科書②「第８章Ⅲ（P.487～508）」を読んで来てください（1時間）。 事後：授業内容を教科書と照らし合わせ、整理しておいてください（1時間）。
4	ライフサイクルと危機	エリクソンの生涯発達理論、フロイトの精神性的発達論について理解する。	事前：教科書①「第２章Ⅰ～Ⅴ（P.76～101）」を読んで来てください（1時間）。 事後：授業内容を教科書と照らし合わせ、整理しておいてください（1時間）。
5	精神保健医療福祉の歴史的変遷	欧米、日本の精神保健医療福祉の歴史と変遷について理解する。	事前：教科書①「第７章Ⅰ、Ⅱ（P.234～252）」を読んで来てください（1時間）。 事後：授業内容を教科書と照らし合わせ、整理しておいてください（1時間）。
6	精神看護における法と人権擁護	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（精神保健福祉法）について理解する。	事前：教科書①「第７章Ⅲ（P.258～280）」を読んで来てください（1時間）。 事後：授業内容を教科書と照らし合わせ、整理しておいてください（1時間）。
7	精神障害を持って生きる人の生活	精神障害者が置かれている社会的立場、偏見、社会生活を維持する上での困難について理解する。	事前：教科書②「第１章Ⅰ～Ⅳ（P.２～20）」を読んで来てください（1時間）。 事後：授業内容を教科書と照らし合わせ、整理しておいてください（1時間）。
8	精神障害者の現状と精神保健医療福祉施策の動向	自立と社会復帰、地域生活支援、認定・専門看護師制度、触法精神医療など、精神障害者の保護・医療・福祉の現状について理解する	事前：教科書②「第７章Ⅰ～Ⅲ（P.384～450）」「第８章Ⅰ、Ⅱ（452～487）」を読んで来てください（1時間）。 事後：授業内容を教科書と照らし合わせ、整理しておいてください（1時間）。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	精神看護学援助論Ⅰ、精神看護学援助論Ⅱ、精神看護学実習

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新体系　看護学全書　精神看護学①　精神看護学概論・精神保健	佐藤　壹三	メヂカルフレンド社
2	新体系　看護学全書　精神看護学②　精神障害をもつ人の看護	渡邉博幸	メヂカルフレンド社
3			

参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
評価方法 （基準）	定期試験（85%）及びレポート、ワークシート（15%）を総合して判定する。なおレポート課題については授業の時に説明する。
学生へのメッセージ	積極的に授業に参加してください。精神科病院で実務経験のある教員が担当します。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　研究室 19（眞野）
備考	学生の理解度に応じてシラバスを変更することがある。

専門科目

科目名	成人看護学概論	科目名（英文）	Introduction to Adult Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	森谷　利香.松本　葉子.稲垣　美紀.竹下　裕子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP4○,DP6○,DP8○		
科目ナンバリング	NDN2034a0		

授業概要・目的	ライフサイクルにおける成人期の特性をふまえ、家族や職場・地域社会で様々な役割をもつ成人期の対象の健康及び健康の危機状況や急性期症状を呈する健康問題をもつ成人期の対象の理解と看護、及び慢性的な経過をたどる健康障害を持つ対象の理解と看護について学習する。また成人看護に有用な主要概念・理論について理解する。
到達目標	1．ライフサイクルにおける成長発達と特徴について説明できる。 2．成人保健の動向について統計的な視点から説明できる。 3．急激な健康破綻を生じる対象が抱える健康問題の特徴と看護について説明できる 4．慢性的な経過をたどる健康障害をもつ対象の理解及び特徴的な看護について説明できる。 5．成人看護に有用な主要概念・理論について説明できる。 6．リハビリテ-ションを必要とする対象の理解及び特徴的な看護について説明できる。 7．がんと共に生きる患者の理解及び特徴的な看護について説明できる。 8．ﾀｰﾐﾅﾙ期にある患者の理解及び特徴的な看護について説明できる。 9．成人期の特徴をとらえた統合的なアセスメント・看護過程の展開について説明できる。
授業方法と留意点	成人期にある対象を理解する。そして授業計画に沿った講義を通して、ライフサイクルにおける青年期から向老期の成人の特徴を理解する。成人の特徴を踏まえた急性期看護および慢性期看護を学習する。教科書による予習・復習を課し、教科書の内容を活用して学習する。また臨床事例や視聴覚教材を活用して、主要概念や看護理論の知識を深め、実践に活用できるようなみかた・考え方を学習する。
科目学習の効果（資格）	看護師国家試験受験の試験科目「成人看護学」の内容を修得するための授業科目の一つである。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ライフサイクルからみた成人期の特徴	・成人期の成長・発達と健康レベル ・成人保健の動向	・授業前に第Ⅰ章「成人看護学の概念と構成」，第Ⅱ章「成人看護学の特性」を読んでおく。(1時間) 特に第Ⅰ章2,3，第Ⅱ章1,3を読んでおくこと。 ・授業後は学んだ内容の復習すること。(1時間)
2	成人期にある対象の健康 保健・医療・福祉における動向と課題	・成人期における健康、健康レベルにおける枠組み ・成人期における健康障害の特徴と予防の現状 ・第1・2回で理解した内容をもとに、成人期にある対象の健康課題について、自身や周囲の人々の経験などから、理解を深めることができる。	・授業前に第Ⅲ章「保健・医療・福祉における動向と課題」、第Ⅴ章「健康レベルにおける枠組み」を読んでおくこと。(1時間) ・授業後は課題を提出する。(1時間)
3	急激な健康破綻を生じる対象が抱える健康問題の特徴と看護	・侵襲に対する生体反応 ・急性期にある患者の特徴 ・急性期にある患者の看護 ・心身の危機状態に対する看護の基盤となる理論・モデル	・授業前に第Ⅴ章「健康レベルにおける枠組み」、第Ⅵ章3「ストレス理論・ストレスコーピング・危機理論」、4「生体侵襲理論」を読んでおくこと。(1時間) ・授業後は学んだ内容の復習すること。(1時間)
4	成人期にある対象の理解	・アクティブラーニング 成人期にある対象の健康課題や看護の役割について、グループ討議する。	・授業前に第2回講義後に提出した課題及び今までの講義内容をもとに、成人期にある対象の健康課題や看護師の役割について、自身の考えをまとめておくこと。(1時間) ・授業後は学んだ内容の復習すること。(1時間)
5	急性期にある対象の理解①	・アクティブラーニング がんで手術療法を受ける対象の事例を活用しながら、周手術期にある対象の心身の特徴や問題についてグループ討議する。	・授業前に配布する資料を読んでおく。(30分) ・授業後は課題を提出する。(1時間)
6	急性期にある対象の理解②	・アクティブラーニング ①で明らかにした周手術期にある対象の心身の特徴や問題について他者に説明（発表）し、看護の方向性について討議する。討議を通して、様々な理解の視点や考え方を得る。	・授業前に配布する資料を読んでおく。(30分) ・授業後は課題を提出する。(1時間)
7	成人看護学における倫理的課題と看護者の役割、緩和ケア	・アクティブラーニング 看護倫理と倫理原則、成人看護にまつわる倫理的課題について理解する。さらに、教科書の症例検討シートを参考にしながら事例検討を行い、倫理的問題解決過程を学習する。 ・急性期にある対象の全人的苦痛の理解と緩和ケア	・授業前に教科書第Ⅳ章「成人看護における倫理と看護者の役割」を読んでおくこと。緩和ケアについては資料を配布する。(1時間) ・授業後は課題を提出する。(1時間)
8	慢性的な経過をたどる健康障害をもつ対象の理解と特徴的な看護(1)	・慢性疾患及び治療法の特徴 ・対象の心理・身体・社会的な特徴と看護	・授業前に教科書第Ⅴ章3「慢性的な経過をたどる健康障害の患者」、第Ⅴ章4「健康再構築への支援を必要としている対象」を読んでおくこと(1時間)。 ・授業後には授業内容を復習すること（1時間)。
9	慢性的な経過をたどる健康障害をもつ対象の理解と特徴的な看護(2)	・セルフケア理論の理解と活用	・授業前に教科書第Ⅵ章5「セルフケア論」を読んでおくこと（1時間)。 ・授業後には授業内容を復習すること（1時間)。
10	リハビリテ-ションを必要とする対象の理解と特徴的な看護	・アンドラゴジー理論の理解と活用 ・自己効力理論の理解と活用、患者支援教育の理解	・授業前に第Ⅵ章10「アンドラゴジー」、6「自己効力理論」を読んでおくこと（1時間)。 ・授業後には授業内容を復習すること（1時間)。
11	慢性的な経過をたどる健康障害を持つ患者の看護に有用な主要概念・理論（1）	・リハビリテーションの概念の理解	・授業前に第Ⅴ章3「リハビリテーションを必要とする患者」を読んでおくこと（1時間)。 ・授業後には授業内容を復習すること（1時間)。

	12	慢性的な経過をたどる健康障害を持つ患者の看護に有用な主要概念・理論(2)	・リハビリテーションを必要とする対象の理解（障害受容）と看護の役割	・授業前に第Ⅴ章３「リハビリテーションを必要とする患者」を読んでおくこと（1 時間)。 ・授業後には授業内容を復習すること（1 時間)。
	13	がんと共に生きる患者の理解と特徴的な看護	・がんとともに生きる対象の理解（全人的苦痛をもつ患者の理解）と特徴的な看護 ・がん医療における緩和ケア	・授業前に参考書の「がん看護」の「がん患者の特徴」を読んでおくこと（1 時間)。 ・授業後には授業内容を復習すること（1 時間)。
	14	ターミナル期の患者の理解と特徴的な看護	・ターミナル期の定義 ・ターミナル期にある対象の特徴（心理過程の理解）と必要な援助	・授業前に第Ⅴ章５「ターミナル期の援助を必要としている対象」を読んでおくこと（1 時間)。 ・授業後には授業内容を復習すること。またレポート課題を行う（2 時間)。
	15	成人看護学におけるヘルスアセスメント、成人期の特徴をとらえた看護過程の展開	・成人看護学におけるヘルスアセスメント ・心理社会的側面に関するアセスメント、アセスメントの統合、看護展開	・授業前に教科書第Ⅶ「成人におけるヘルスアセスメント」、第Ⅷ章「看護過程の展開」を読んでおくこと（1 時間)。 ・授業後には授業内容を復習すること（1 時間)。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	成人看護学概論（第２版）	大西和子、岡部聡子編	ヌーベルヒロカワ
2	新体系 看護学全書 経過別成人看護学 終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア	田村 恵子 編	メヂカルフレンド社
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国民衛生の動向 2015/2016（厚生の指標）		
2	新体系 看護学全書 経過別 成人看護学①急性期看護：クリティカルケア	明石惠子、益田美津美	メヂカルフレンド社
3	がん看護学	大西和子、飯野京子	ヌーベルヒロカワ

評価方法 （基準）	本科目では 2／3 以上の出席を成績評価の対象とする。 定期試験及びレポート課題を総合して総括的評価をする。尚レポート課題は授業中に説明する。 定期試験(80%)、レポート及び課題の達成状況(20%)
学生への メッセージ	本授業では、各教員の病院での実践経験を踏まえて授業内容を教授します。成人看護学に関する基礎となる知識を習得しますので、しっかり学習しましょう。提出されたレポートに関しては必要に応じて授業の中でフィードバックします。試験については、再試験対象者のうち、希望する学生に対してフィードバックします。
担当者の 研究室等	研究室 26 稲垣美・ 研究室 29 森谷
備考	

専門科目

科目名	精神看護学実習	科目名（英文）	Clinical Practice in Psychiatric and Mental Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	眞野　祥子.山本　智津子.吉永　愛香
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎		
科目ナンバリング	NDN3058a0		

授業概要・目的	【概要】 精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ・Ⅱでの学習をもとに、精神科病棟での精神疾患を持つ人とのかかわりを通し、精神看護について学ぶ。具体的には、精神に障害を持つ人および家族について理解し、人間性を尊重したかかわりを通して、健康段階やその変化に応じた基礎的知識、技術およびコミュニケーション能力を養う。 【目的】 精神に障害を持つ人と看護師との関係について学ぶとともに、その人の全体像を把握し、病気やセルフケア能力の回復過程に沿った援助に必要な看護実践能力を修得する。また、精神医療の現状を理解する。
到達目標	・患者-看護師関係を理解し、援助的人間関係を樹立することができる。 ・受け持ち患者の全体像を把握し、健康やセルフケア能力の回復過程に沿った援助を実践することができる。 ・精神障害者の権利擁護、精神医療の現状と他職種との連携について理解することができる。
授業方法と留意点	1.　原則として１グループ５名編成とし、担当教員の指導を受ける。 2.　実習前に、実習目的・目標、実習計画・事前学習・実習施設概要・留意事項等のオリエンテーションを受ける。 3.　実習目的・目標をもとに、各自の実習における課題と目標を明確にする。 4.　実習にあたり、実習病院・病棟のオリエンテーションを受け、病棟の機能や看護職の役割を理解する。 5.　実習中は、受持ち対象者に適した看護過程の展開を行う。 6.　毎日カンファレンスを行い、１日の振り返りと翌日の計画について意見交換し、互いの学びを共有する。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【実習期間】2019 年 10 月～2020 年 2 月の 2 週間 【実習内容】 1. 学生は特定の患者を受け持ち、看護過程を展開する。 2. 看護場面を選択して、プロセスレコードを記載し、振り返りを行う。 3. 治療効果を考慮して、学生主催のレクリエーションを企画・運営する。 【事前学習課題】 精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ・Ⅱで学習した知識と技術を活用できるように復習をしておくこと。特に統合失調症（参考図書②第 6 章Ⅱ-A、P.290～306）、うつ病（参考図書②第 6 章Ⅱ-B・C、P.306～319）、躁うつ病（参考図書②第 6 章Ⅱ-B・C、P.306～319）、精神保健福祉法（参考図書①第 7 章、234～280）、援助的人間関係（参考図書②第 4 章、P.193～226）に関しては必ず復習しておくこと。
関連科目	精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ、精神看護学援助論Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新体系　看護学全書　精神看護学①　精神看護学概論　精神保健	岩崎弥生	メヂカルフレンド社
2	新体系　看護学全書　精神看護学②　精神障害を持つ人の看護	渡邉博幸	メヂカルフレンド社
3	改定第２版　はじめての精神医学	渡辺雅幸	中山書店

評価方法（基準）	実習内容(実習目的・目標の達成状況、記録)、レポートを総合して評価する。
学生へのメッセージ	精神科病院での実務経験がある教員３名が担当します。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　研究室 19（眞野)、研究室 18（山本智)、共同研究室 2(吉永)
備考	【実習場所】 ハートランドしぎさん、大阪精神医療センター

科目名	成人看護学実習Ⅰ	科目名（英文）	Clinical Practice in Adult Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	稲垣　美紀.竹下　裕子.稲垣　範子.長沢　美和子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎		
科目ナンバリング	NDN3039a0		

授業概要・目的	【授業概要・目的】 急性状態を経過している成人期の人々に対して援助的人間関係を築き、対象を全人的に捉え、身体的・心理的危機を乗り越えて自己管理に向かうことができるよう、看護実践に必要な能力及び態度を修得する。
到達目標	【実習目標】 1. 手術を受ける対象と関係を築きながら全人的に理解し、援助的関係を形成できる。 2. 手術を受ける対象の個別的特徴や状態を理解し、看護過程を通して根拠に基づいた看護を実践できる。 3. 周手術期における基本的な看護援助を原理・原則に基づき安全・安楽に実施できる。 4. 周手術期の全過程を通じて一貫性・連続性を維持できるよう、医療チームの一員として関係職者との協働・連携の必要性について理解できる。 5. 実習を通して、人間の尊厳と権利を尊重した態度を身につけ、看護実践における倫理的な感性を高めることができる。 6. 自らの実践を振り返ることで自己の課題を見出し、自己研鑽し続けることの重要性が理解できる。
授業方法と留意点	【実習方法】 1. 原則として１グループ 5～６人編成とする。 2. 実習前に、実習目的・目標、実習計画・事前学習・実習施設概要・留意事項等のオリエンテーションを受ける。 3. 実習目的・目標をもとに、各自の実習における課題と目標を明確にする。 4. 実習にあたり、実習病院・病棟のオリエンテーションを受け、病棟の機能や看護職の役割を理解する。 5. 実習中は、急性期の受持ち対象者に応じた看護過程の展開を行う。 6. 毎日学生主体のカンファレンスを行い、一日の振り返りと翌日の計画について意見交換し、お互いの学びを共有する。 7. 実習記録は、必ず記録し、指導教員及び臨地実習指導者からの助言・指導を受ける。 8. 各自の実習における学びを振り返り、学びと課題を記録する。 【実習施設】 星ヶ丘医療センター、関西医科大学附属枚方病院
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	成人看護学領域の授業科目で使用した教科書、提示した資料など　疾病・治療論で使用した教科書、提示した資料など		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	必要に応じて適宜紹介する		
2			
3			

評価方法（基準）	実習期間出席した上で、実習内容（実習目的・目標の達成状況、記録)、実習態度を総合して評価する。
学生へのメッセージ	対象の経過は急性に短期間に変化するので、その時の対象の反応に対してどのような援助が必要か、自分の観察力、洞察力を発揮し、また自分の課題とも向き合い、自己の成長につなげてください。本実習では、各教員の病院での実践経験を踏まえて教授します。
担当者の研究室等	竹下（研究室３０）
備考	

専門科目

科目名	成人看護学実習Ⅱ	科目名（英文）	Clinical Practice in Adult Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	森谷　利香.松本　葉子.青野　美里.志戸岡　恵子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎		
科目ナンバリング	NDN3040a0		

授業概要・目的	【概要】 慢性的な健康問題のある成人期の人々に対して、援助的人間関係を築き、対象者を身体的・心理的・社会的側面から理解して、QOL の充実に向けて対象者が主体的に療養生活に取り組むことができるよう、看護実践に必要な能力および態度を修得する。 【目的】 慢性的な経過をたどる健康障がいをもつ対象者とその家族を理解し、その人らしく生きていくことができるよう支援するために必要な知識・技術・態度を養う。
到達目標	【目標】 1）慢性的な健康問題を有する成人期の対象(以下「対象」)、およびその家族の健康状態と多様な背景について発達段階・発達の特性を踏まえて説明できる。 2）対象、ならびにその家族と援助的人間関係を築くことができる。 3）対象の健康状態や療養上のニーズについて生活背景を踏まえてアセスメントし、QOL の維持・向上のために根拠に基づいた看護を計画し、実践できる。 4）対象とその家族の QOL の維持・向上に必要なチーム医療について理解し、チームにおける看護の役割について説明できる。 5）対象とその家族が直面している倫理的課題について理解し、意思決定の尊重と権利擁護のための行動がとれる。 6）自らの看護実践について、対象と家族の QOL の維持・向上にどのように貢献したのか、また、自己の看護者としての成長について振り返り、課題を明らかにできる。そして、課題の解決に向けて主体的な学習態度で取り組むことができる。
授業方法と留意点	1．実習方法 1）実習グループは原則として 1 グループ 5 名編成とする。 2）実習目的・目標、実習計画、事前学習、実習施設概要、留意事項などのオリエンテーションを受ける。 3）実習目的・目標達成に向けて必要な事前学習を行う。 4）臨地に出向き、看護過程に沿って、担当教員・臨地実習指導者の指導のもと実習を行う。 5）カンファレンスは指定したテーマに基づいて行い、体験や学びをグループで共有するとともに、その後の実践につなげる。 6）実習中に指定された記録物を作成する。すべての記録物は、期日を厳守して提出する。 7）実習を通して、自己の課題を明確にする。 8）実習を通した学びを振り返り、発表することで、学びを共有する。 2．実習期間・病棟実習時間 期間…3 週間 病棟実習時間…原則として 9 時～16 時（うち 1 時間を休憩とする） 3．実習施設 独立行政法人　地域医療機能推進機構　星ヶ丘医療センター 関西医科大学香里病院 関西電力病院
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【実習内容】 看護過程に沿って以下のような看護を実践する。 ・コミュニケーション ・バイタルサインの測定、フィジカルイグザミネーション ・日常生活上の援助 ・治療や処置に関する援助 ・患者教育
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	実習目的・目標の達成状況、および事前学習から総合的に評価する。
学生へのメッセージ	本実習では、各教員の病院での実践経験を踏まえて実習内容を教授します。この実習は慢性的な健康問題をもつ対象への看護の実際を学ぶ機会となります。まずは関連する科目の学習が重要です。それらを基盤として、実習で応用することで理解を深めるとともに技術を習得しましょう。
担当者の研究室等	研究室２９（森谷）
備考	

科目名	成人病態看護論	科目名（英文）	Adult Nursing in Clinical State
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期後半	授業担当者	稲垣　美紀.松本　葉子.森谷　利香
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP4○,DP6○		
科目ナンバリング	NDN2035a0		

授業概要・目的

【概要】
看護実践においては、様々な機能障害を有し、また症状を呈する成人期の人々に対して、看護を提供する場面に遭遇する。患者の各々の病態について、発生機序・程度・経過、増悪あるいは軽減させる要因を理解する必要がある。本科目では、成人期にある対象の主要な機能障害や症状を取り上げて、病態とその病態が対象者に及ぼす身体的・心理的・社会的な影響及び的確なアセスメントと看護援助の方法について学習する。
【目的】
疾病やそれに伴う治療・処置，または，事故や災害などにより発現あるいは増悪する身体症状について，その体験が成人期の対象やその家族に与える身体的・心理社会的影響をふまえ，アセスメントから看護実践につなげる方法を理解する。なお，疾病については発症から終末までのすべての病期を含む。

到達目標

【目標】
1. 各機能障害および症状を発現する病態を理解する。
2. 各機能障害および症状がもたらす対象者やその家族への影響を理解する。
3. 機能障害の予防、緩和、また症状に伴う苦痛の軽減のための看護実践方法を理解する。

授業方法と留意点

・授業方法は講義を中心として、一部は模擬患者（DVD 等）を用いて演習を行う。
・出席は出欠管理システムおよび提出物で確認します。
・レポートは、提出期限までに提出のない場合には、減点対象とします。

科目学習の効果（資格）

病態や症状に関する看護方法は、看護を実践するうえで不可欠な基礎的能力です。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	脳神経･感覚機能障害のある患者の看護１	「運動麻痺」の症状を呈する患者の理解と看護	事前：病気がみえる Vol.7 脳・神経の解剖生理の復習（1 時間） 事後：教科書および資料の復習（1 時間）
2	脳神経･感覚機能障害のある患者の看護２	「意識障害」の症状を呈する患者の理解と看護	事前：病気がみえる Vol.7 脳・神経の解剖生理の復習（1 時間） 事後：教科書および資料の復習（1 時間）
3	循環機能障害のある患者の看護１	「ショック」「浮腫」「脱水」の症状を呈する患者の理解と看護	事前：病気がみえる Vol.2 循環器の解剖生理の復習（1 時間） 事後：教科書および資料の復習（1 時間）
4	循環機能障害のある患者の看護２	循環機能障害患者のある患者のアセスメントと看護 授業内で DVD を用いた事例学習を行い、事後には個人レポートを提出する。	事前：病気がみえる Vol.4 呼吸器の解剖生理の復習（1 時間） 事後：教科書および資料の復習、レポートの記載（1 時間）
5	呼吸機能障害のある患者の看護１	「呼吸困難」の症状を呈する患者の理解と看護	事前：病気がみえる Vol.4 呼吸器の解剖生理の復習（1 時間） 事後：教科書および資料の復習（1 時間）
6	呼吸機能障害のある患者の看護２	「咳嗽・喀痰」の症状を呈する患者の理解と看護	事前：病気がみえる Vol.2 循環器の解剖生理の復習（1 時間） 事後：教科書および資料の復習（1 時間）
7	消化機能障害のある患者の看護１	「便秘」「下痢」「悪心・嘔吐」「腹痛」の症状を呈する患者の理解と看護	事前：病気がみえる Vol.1 消化器の解剖生理の復習（1 時間） 事後：教科書および資料の復習（1 時間）
8	消化機能障害のある患者の看護２	消化機能障害のある患者のアセスメントと看護 授業内で DVD を用いた事例学習を行い、事後には個人レポートを提出する。	事前:病気がみえる Vol.1 消化器の解剖生理の復習（1 時間） 事後：教科書および資料の復習、レポートの記載（1 時間）
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目

人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ，疾病・治療論Ⅰ、Ⅱ，病理学総論，成人看護学概論，成人看護援助論Ⅰ、Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	看護過程に沿った対症看護　病態生理と看護のポイント　第５版	高木永子監修	学研
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	病気がみえる　Vol. 1　消化器	福本陽平　監修	メディックメディカ
2	病気がみえる　Vol. 2　循環器	荻原誠久　監修	メディックメディカ
3	病気がみえる　Vol. 4　呼吸器	滝澤　始　監修	メディックメディカ

評価方法（基準）

定期試験（90%）、レポート課題（10%）により総括評価する。。2/3 以上の出席を成績評価の対象とします。

学生へのメッセージ

本授業では、各教員の病院での実践経験を踏まえて授業内容を教授します。
関連科目の理解が本科目の学習につながるため、予習復習を確実に行ってください。

	原則として、演習を欠席した場合の補講は実施しません。 提出したレポートは、必要に応じて授業内でフィードバックします。 試験については、再試験対象者のうち、希望する学生に対してフィードバックします。 希望の場合には、稲垣美紀まで連絡をしてください。
担当者の 研究室等	研究室 26（稲垣）
備考	

科目名	総合看護学演習	科目名（英文）	Seminar in Integrated Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	小﨑　篤志
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP7○		
科目ナンバリング	NDN4071a0		

授業概要・目的	4年間の学習内容を総合的に振り返り、専門基礎科目、専門科目を統合して、横断的に学習する。また、学生自ら本学で学習した必要な知識を系統的に整理し、理解することで、看護を行う上での基盤を形成し、加えて、将来にわたり主体的に学習が継続できる力を養う。
到達目標	１．これまでに学習した学習内容の知識を系統的に整理し、理解する。 ２．自ら主体的に学習を継続することができる。
授業方法と留意点	各専門科目をオムニバス形式で、講義および演習形式で実施する。
科目学習の効果（資格）	看護師国家資格

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	薬理学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う
2	人体の構造・病理学・疾病①	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う
3	人体の構造・病理学・疾病②	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う
4	人体の構造・病理学・疾病③	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う
5	人体の構造・病理学・疾病④	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う
6	公衆衛生	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う
7	医療福祉行政論	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う
8	基礎看護学①	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う
9	基礎看護学②	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う
10	成人看護学①	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う
11	成人看護学②	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う
12	在宅・老年看護学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う
13	母性看護学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う
14	小児看護学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う
15	精神看護学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う

関連科目	全専門基礎科目、全専門科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	授業中に資料を配布する		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	看護師国家試験高正答率過去問題集ーでた！でた問	東京アカデミー	東京アカデミー
2	看護学生スタディガイド	池西静江、石束佳子	照林社
3	レビューブック	岡庭　豊	MADIC MADIKA

評価方法（基準）	定期試験２回分の合計得点で評価する。 （但し、全ての臨時試験を受験しておくことを定期試験の受験要件とする）
学生へのメッセージ	全看護学の総合的な科目です。自己の学習を進めながらしっかり復習をしていきましょう。
担当者の研究室等	各担当教員の研究室
備考	講師の都合により、上記授業順序はこの限りではありません。

専門科目

科目名	代謝栄養学	科目名（英文）	Biochemical Nutriology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期後半	授業担当者	竹内　健治
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN1005a0		

授業概要・目的	糖質、脂質、タンパク質（アミノ酸）、ビタミン、ミネラルの五大栄養素を中心に、その構造、性質、役割など生化学的な特徴を理解する。また、摂取した食物の消化、吸収の機序を知り、どのように体内で代謝され生体のエネルギーや構成成分になるのかについて、体内で起こる種々の化学反応とその反応を触媒している酵素の役割を中心に理解する。さらに、栄養不足や栄養過多、代謝異常に伴う疾患についてその発症機構を分子レベルで理解する。
到達目標	この授業を通じて学生には、栄養不足や栄養過多、代謝異常に伴う疾患についてその発症機構を分子レベルで理解することができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	教科書の内容に沿って、プロジェクター、プリントなどを用いて講義する。
科目学習の効果（資格）	生物系科目全般の基礎となる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション「栄養と代謝総論」 栄養素各論「糖質」	私たちは毎日食事をして栄養をとらなければ生きていけない。なぜ栄養が必要なのだろうか? 栄養素としての糖質の基本構造と種類、さらにその役割を理解する。	栄養素各論「糖質」の部分の教科書を授業前あらかじめ読む。授業で説明した内容をを見直す。（２時間）
2	糖質の代謝	食べた糖質が、どのように消化吸収されるかを理解する。	糖質の代謝の部分の教科書を授業前あらかじめ読む。授業で説明した内容をを見直す。（２時間）
3	栄養素各論「脂質」	栄養素としての脂質の基本構造と種類、さらにその役割を理解する。	栄養素各論「脂質」の部分の教科書を授業前あらかじめ読む。授業で説明した内容をを見直す。（２時間）
4	脂質の代謝	食べた脂質が、どのように消化吸収されるかを理解する。	脂質の代謝の部分の教科書を授業前あらかじめ読む。授業で説明した内容をを見直す。（２時間）
5	栄養素各論「アミノ酸、タンパク質」	栄養素としてのアミノ酸とタンパク質の基本構造と種類、さらにその役割を理解する。	栄養素各論「アミノ酸、タンパク質」の部分の教科書を授業前あらかじめ読む。授業で説明した内容をを見直す。（２時間）
6	アミノ酸とタンパク質の代謝 エネルギー代謝の統合と制御	食べたタンパク質の消化、吸収と、アミノ酸の代謝を理解する。 代謝のバランスが崩れたときに、どのようなことが起こるかを理解する。	アミノ酸とタンパク質の代謝の部分の教科書を授業前あらかじめ読む。授業で説明した内容をを見直す。（２時間）
7	体の中での酵素の役割 代謝異常と疾患	私たちの体温は３７℃、ｐＨは中性である。このような緩和な状況で栄養を代謝できるのは体内に酵素があるおかげである。 遺伝情報に誤りがあると、それが原因で代謝異常がおこることを理解する	酵素の役割の部分の教科書を授業前あらかじめ読む。授業で説明した内容をを見直す。（２時間）
8	栄養素各論「ヌクレオチド、核酸」遺伝情報	ヌクレオチドと核酸の基本構造と種類、さらにその役割を理解する。 遺伝情報がどのように保存され、どのように次世代へ伝わるのかを理解する。	栄養素各論「ヌクレオチド、核酸」と遺伝情報の部分の教科書を授業前あらかじめ読む。授業で説明した内容をを見直す。（２時間）
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	生物・化学の基礎など生物系科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能②臨床生化学	宮澤恵二	メディカ出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テストと課題（25%）、定期試験（75%）で評価する。
学生へのメッセージ	代謝栄養学の観点からみると、健康とは、食物の消化・吸収から代謝、および老廃物の排出という人体の活動が正常に営まれることであり、疾病はこの正常な営みが崩れた場合に起こる。代謝栄養学の知識は、他領域の分野を学習するための基礎であり、それらの習得に役立つことは間違いない。講義時間が少ないため、覚えるだけの部分は授業時間以外の学習で補ってもらう。講義内容についての質問はいつでも受け付けますので、気軽にたずねて下さい。
担当者の研究室等	1 号館 5 階細胞生物学研究室
備考	小テストの正解は授業後ｗｅｂ box 内で発表する。

科目名	地域看護学	科目名（英文）	Community Health Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	富永　真己
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP4○,DP5△,DP6◎,DP8△		
科目ナンバリング	NDN2063a0		

授業概要・目的	地域で生活するあらゆる年代のあらゆる健康レベルの人々を対象とする地域看護・公衆衛生看護について、その歴史的な変遷と成り立ちについて学ぶ。また社会環境の変化に影響を受け発展した、地域看護・公衆衛生看護の基本となる概念と理論、ヘルスケアシステムと地域保健サービスの仕組みについて講義を通じて学び、地域看護のあり方を考える基礎的な内容を理解する。　さらに、ヘルスプロモーションの理念とそれに関わる保健・医療・福祉制度の概要とともに保健師等の地域で活躍する看護職の活動について学び、地域看護・公衆衛生看護における対象と活動分野について理解を深める。
到達目標	1. 地域看護・公衆衛生看護の歴史的な変遷と社会環境の変化による影響を踏まえ、その基本的な概念とヘルスプロモーションの理念について理解できる。 2. 地域で暮らす人々の健康問題を理解するとともに、プライマリーヘルスケアとヘルスプロモーションの理念に基づき展開される活動について説明できる。 3. 地域看護・公衆衛生看護活動に関わる法制度と地域保健医療福祉システムを理解し、その目的と活動の基本的なプロセスについて説明できる。 4. 地域住民の健康と生活を支援するポプレーションアプローチとハイリスクアプローチをはじめ、保健師の活動について基礎となる理論と方法を理解できる。 5. 行政、産業、学校など対象集団、発達段階及び健康レベル別の地域看護・公衆衛生看護活動の概要について理解し、看護職（保健師等）の役割について説明できる。
授業方法と留意点	授業計画に沿って講義中心に行う。また、一部グループワークを取り入れ、理解を深める。教科書は必ず持参すること。 適宜資料を配布するが、配布された資料も毎回持参すること。昨今の社会の時事やニュース、視聴覚教材などを利用し、事例なども紹介しながら、学生の参加を促し授業を進行する。
科目学習の効果（資格）	保健・医療・福祉制度の概要とともに地域における看護職の活動を理解することで、今後、さらなる活躍が期待される地域包括ケアシステムの看護職の役割について理解を深め、考察することができる。 看護師・助産師国家試験においても出題される分野であり、試験対策として知識を習得する必要がある。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	公衆衛生看護学オリエンテーション、公衆衛生看護学の概念と保健師の活動	公衆衛生看護学オリエンテーション（カリキュラム上の位置づけと保健師免許、国家試験について）、公衆衛生看護学の概念と保健師の活動の場と対象、日本の健康政策について	事前：保健福祉行政論及び家族看護学についてテキストを読んでくる（テキスト P3～12）と同時に、関係する資料を調べて読み予習する（30 分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、理解を深める（1 時間）。
2	公衆衛生看護の歴史的変遷	公衆衛生看護の歴史的変遷（諸外国の公衆衛生看護、日本特有の公衆衛生看護活動体制と法、保健所と保健師の活動体制、新たな保健師活動への指針）	事前：テキスト P13～63, 69～82 を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する（30 分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、理解を深める（1 時間）。
3	疾病予防、国内のヘルスプロモーションと公衆衛生看護	ヘルスプロモーションと公衆衛生看護（プライマリーヘルスケア、ヘルスプロモーションと「健康日本２１」、日本におけるヘルスプロモーションの取り組みと成果）	事前：テキスト P13～92, 196～200, 218～223、261～275 を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する（30 分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、理解を深める（1 時間）。
4	ヘルスプロモーションの理論と方法	ヘルスプロモーションの展開（ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチ、国の政策と保健事業）	事前：テキスト P13～92, 196～200, 218～223、261～275 を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する（30 分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、理解を深める（1 時間）。
5	保健行動と保健活動の理論と方法	保健行動と保健活動の理論とモデルと実際の取り組み（成人保健活動より）、保健指導と健康教育概論	事前：テキスト P13～92, 196～200, 218～223、261～275 を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する（30 分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、理解を深める（1 時間）。
6	公衆衛生看護活動 － 1	公衆衛生看護活動 － 1 保健指導と家庭訪問、健康相談、健康診査の概要	事前：テキスト P64～67, 177～193, 208～211 を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する（30 分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、理解を深める（1 時間）。
7	公衆衛生看護活動 －2	公衆衛生看護活動 － 2 対象別の公衆衛生看護活動（人々の発達段階に応じた看護活動、母子保健活動、成人保健活動、高齢者保健活動）	事前：テキスト P227～242, 262～268, 283～286 を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する（30 分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、理解を深める（1 時間）。
8	公衆衛生看護活動方法 － 3	公衆衛生看護活動 － 3 健康レベルに応じた公衆衛生看護活動（精神保健・感染症概論）	事前：テキスト P338～344, 350～356, 357～362、369-371 を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する（30 分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、理解を深める（1 時間）。
9	公衆衛生看護活動方法 － 4	公衆衛生看護活動 － 4 健康レベルに応じた公衆衛生看護活動（結核・難病概論）	事前：テキスト P378～383, 306～312 を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する（30 分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、理解を深める（1 時間）。
10	公衆衛生看護活動 － 5	公衆衛生看護活動 － 5 グループ支援・組織化・地区組織活動	事前：テキスト P149～171 を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する（30 分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、理解を深める（1 時間）。
11	公衆衛生看護活動 － 6	公衆衛生看護活動 － 6 地域診断の概要（地域診断の定義、地域診断の意義と目的、地域診断の理論とモ	事前：テキスト P97～116 を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する（30 分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整

			デル、地域診断の方法)、地区踏査	理し、理解を深める（1 時間)。
	12	公衆衛生看護活動 － 7	公衆衛生看護活動 － 7 地域診断の事例, 公衆衛生看護と医療経済、保健事業の計画策定と施策化、予算の仕組み、評価	事前：テキスト P42～48､P128～147, P487～488 を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する（30 分以上)。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、理解を深める（1 時間)。
	13	産業保健 1	産業保健 1（産業保健・産業看護の理念と我が国の実態）	事前：テキスト P447～469 を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する（30 分以上)。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、理解を深める（1 時間)。
	14	産業保健 2・学校保健	産業保健 2・学校保健（学校保健と養護教諭の役割・活動の実際）	事前：テキスト P447～469, 433～446 を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する（30 分以上)。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、理解を深める（1 時間)。
	15	これからの保健師活動	保健師を取り巻く状況とこれからの公衆衛生看護活動	事前：テキスト P515～526 を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する（30 分以上)。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、理解を深める（1 時間)。

関連科目	公衆衛生学、医療経済論、保健医療福祉行政論、家族看護学、その他各領域の看護学概論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「公衆衛生看護学. jp　改訂第 4 版]	荒賀直子，後閑容子	インターメディカル
2	「国民衛生の動向 2018/2019」　厚生労働統計協会		
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	小テスト・レポート類（10%)、定期試験（90%) 授業態度不良の場合は、一定の減点を行う場合がある。
学生への メッセージ	・本科目は地域看護・公衆衛生看護の実務者である保健師として 15 年の豊富な実務経験を有する教員が担当し、授業ではそれらの経験を踏まえ実践的な教育を取り入れ行います。授業では、テキストを使用しますので必ず毎回持参してください。 ・また保健福祉行政論及び家族看護学の科目で学んだ内容を復習した上で臨んでください。 ・社会で日々おこっている時事に関心をもって新聞等から情報を収集・把握して下さい。くれぐれもネット情報だけに偏らない、頼らない習慣を持つようにして下さい。
担当者の 研究室等	富永真己　7 号館 3 階研究室 7
備考	事後学習課題であるミニレポートについては、毎回、教員が確認した後、次の授業開始時に返却します。 本授業では授業での発言や取り組みの姿勢も評価の対象とします。そのため、本授業の座席は指定とします。 追加の文献や資料などは授業中に紹介します。

科目名	統合看護学実習	科目名（英文）	Clinical Practice in Integrated Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田　佳奈美.青野　美里.足立　安正.飯田　恵子.池田　友美.泉川　孝子.稲垣　範子.稲垣　美紀.今井　秀人.小川　宣子.神谷　美紀子.亀田　直子.北村　敦子.佐久間　夕美子.志戸岡　惠子.竹下　裕子.但馬　まり子.田中　真佐恵.田中　結華.富永　真己.中山　祐一.中山　由美.長沢　美和子.永田　阿子.名草　みどり.西頭　知子.舟木　友美.松田　千登勢.松本　葉子.眞野　祥子.村瀬　由貴.森谷　利香.安田　香.山本　智津子.山本　十三代.吉永　愛香
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎		
科目ナンバリング	NDN4072a0		

授業概要・目的	【授業の概要】 自らが関心のある看護専門領域(対象領域；基礎看護学領域、成人看護学領域、老年看護学領域、小児看護学領域、母性看護学領域、精神看護学領域、在宅看護学領域、助産学領域)を選択し、指定の実習施設において実習を行う。 【実習目的】 自らが関心のある看護領域において自己の課題解決を目指し、これまでに学習した看護を統合して、対象者の健康課題を明らかにするとともに、保健・医療・福祉チームの一員として他職種と協働・連携し、必要な看護を考え提供するための能力を養う。また、その看護実践の基盤となる看護観と倫理観を育み、自己の課題の達成状況を評価し、さらなる看護実践能力と問題解決能力を高めるため、専門職業人として自己研鑽し続ける能力を身につける。 　実習を担当する全教員が看護職として３年以上の臨床および実践経験を有している。それらの経験を活かし、具体的で実践的な実習指導を行う。
到達目標	【実習目標】 1.看護実践上の自己の課題を明確にし、その解決をめざして主体的に実習に取り組むことができる。 2.既習の知識・技術・態度を統合して看護の対象者を全人的に捉え、健康課題を明らかにし、看護を実践できる。 3.看護の機能と役割を理解し、保健・医療・福祉チームの一員として他の医療専門職者との協働・連携の必要性を説明できる。 4.実習を通して、自らの看護に対する考えを深め、看護観を説明できる。 5.倫理的視点で看護実践を捉え、人間の尊厳と権利を尊重した行動ができ、自らの倫理観を説明できる。 6.生涯にわたり看護専門職者として成長し続けるために、自己の課題の達成状況および看護実践過程や方法を振り返ることを通して、主体的に自己研鑽に取り組む必要性を説明できる。
授業方法と留意点	【授業方法】 1.実習１日目は、学内において領域別にオリエンテーションを受ける。午後より、看護管理 　について受講する。 2.実習２日目より、領域別臨地実習をおこなう(詳細については、各領域の実習要綱参照)。 3.実習最終日は、学内において領域別に実習目標の達成の成果、学びを深める。 【留意事項】 　統合実習要綱を熟知し、実習に臨む。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	担当教員の指示をうけること。
関連科目	専門基礎科目・専門科目
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 特に指定しない / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 各領域で指定する / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	実習内容・態度・記録をルーブリック指標等を用いて評価する。
学生へのメッセージ	これまでの学習内容を統合したまとめの実習です。自らの課題を克服できるよう目標を定め実習に臨んで下さい。
担当者の研究室等	全ての担当教員
備考	

専門科目

科目名	病院薬学演習	科目名（英文）	Practice in Hospital Pharmacy
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	３年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	菊田　真穂.小西　麗子.小森　浩二.三田村　しのぶ
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP5○,DP7○		
科目ナンバリング	NDN1010a0		

授業概要・目的	チーム医療を担える看護師になるために、模擬処方せんを用いて調剤や服薬指導を実践する中で、病院内で薬剤を取り扱う際の注意点や薬剤に関わる基本的な実務を理解する。
到達目標	チーム医療を担える看護師になるために、演習を通して薬剤に関わる基本的な実務を理解し、薬剤に関する基本的な知識、技能を修得する。
授業方法と留意点	週替わりで講義（７号館にて実施）と演習（６号館にて実施）を行うので実施場所や準備に留意すること。
科目学習の効果（資格）	チーム医療に貢献できる看護師を目指す。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	処方せんの読み方を理解する	講義（小森）	講義（授業）内容を復習し、実際に行う演習に備えてください。
2	調剤の基本（計数調剤・散剤・水剤・軟膏剤）を理解する	講義（菊田）	講義（授業）内容を復習し、実際に行う演習に備えてください。
3	調剤の基本を実践する 計数調剤／軟膏剤 前半	演習（菊田・小森他） （6 号館 2 階　調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
4	調剤の基本を実践する 計数調剤／軟膏剤 後半	演習（菊田・小森他） （6 号館 2 階　調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
5	調剤の基本を実践する 水剤／散剤 前半	演習（菊田・小森他） （6 号館 2 階　調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
6	調剤の基本を実践する 水剤／散剤 後半	演習（菊田・小森他） （6 号館 2 階　調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
7	基本的な処方の意図を理解する	講義（菊田）	講義（授業）内容を復習し、実際に行う演習に備えてください。
8	注射剤の基本的な計算が出来る	講義（菊田）	講義（授業）内容を復習し、実際に行う演習に備えてください。
9	注射剤調剤（混注）の基本を理解する	講義（菊田・小森）	講義（授業）内容を復習し、実際に行う演習に備えてください。
10	調剤の基本を実践する 注射剤混合調製／調剤薬の監査 前半	演習（菊田・小森他） （6 号館　1 階　無菌調製実習室　・2 階　調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
11	調剤の基本を実践する 注射剤混合調製／調剤薬の監査 後半	演習（菊田・小森他） （6 号館　1 階　無菌調製実習室　・2 階　調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
12	調剤の基本を実践する 抗がん剤調製／消毒剤調製・医薬品管理 前半	演習（菊田・小森他） （6 号館　1 階　無菌調製実習室　・2 階　調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
13	調剤の基本を実践する 抗がん剤調製／消毒剤調製・医薬品管理 後半	演習（菊田・小森他） （6 号館　1 階　無菌調製実習室　・2 階　調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
14	医薬品情報提供書の作成の基本を理解し、服薬指導を実践する（発表会） 前半	プレゼンテーション及びフィードバック（菊田・小森他）	演習で行った内容を復習しておいてください。
15	医薬品情報提供書の作成の基本を理解し、服薬指導を実践する（発表会） 後半	プレゼンテーション及びフィードバック（菊田・小森他）	演習で行った内容を復習しておいてください。

関連科目	薬理学総論、薬物治療学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新ビジュアル薬剤師実務シリーズ　下 調剤業務の基本[技能]　第３版	上村直樹、平井みどり	羊土社
2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナーシンググラフィカ④　疾病の成り立ち－臨床薬理学	古川裕之、赤瀬智子、林正健二	メディカ出版
	2			
	3			
評価方法 （基準）	受講態度 70%（発表内容を含む）および成果物 30%で総合的に評価する。但し、受講態度が不良な場合には減点することがある。 100 点満点中 60 点以上で合格。
学生へのメッセージ	薬剤に関わる基本的な実務を理解してもらいます。医薬品の一般名称など初めて目にする知識もあるとは思いますが、医薬品をさわらない看護師はいませんのでしっかり取り組んでください。 授業担当者は以下の通り臨床経験を有しており、その経験から、調剤業務を通して、薬剤の取り扱いや薬物治療の注意点に関する実践的な教育を行う。 菊田真穂 ： 星ヶ丘厚生年金病院（現、JCHO 星ヶ丘医療センター）で病院薬剤師として 12 年間勤務し、現在も同施設にて研修を行っている。 小森浩二 ： 錦秀会　阪和住吉総合病院で病院薬剤師として 5 年間勤務し、現在も信愛会 交野病院にて研修を行っている。 三田村しのぶ ： 薬局薬剤師として 11 年間勤務し、現在も福田総合病院で兼職として勤務している。 小西麗子 ： 津島市民病院（愛知県）で病院薬剤師として 9 年間勤務し、現在も福田総合病院で兼職として勤務している。
担当者の 研究室等	6 号館 3 階　医療薬学研究室
備考	講義前の予習（教科書を読む）　：　1 時間×15 回 復習および課題に関連する情報の収集　：　1 時間×15 回

専門科目

科目名	病院薬学演習	科目名（英文）	Practice in Hospital Pharmacy
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	３年	クラス	２
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	菊田　真穂.小西　麗子.小森　浩二.三田村　しのぶ
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP5○,DP7○		
科目ナンバリング	NDN1010a0		

授業概要・目的	チーム医療を担える看護師になるために、模擬処方せんを用いて調剤や服薬指導を実践する中で、病院内で薬剤を取り扱う際の注意点や薬剤に関わる基本的な実務を理解する。
到達目標	チーム医療を担える看護師になるために、演習を通して薬剤に関わる基本的な実務を理解し、薬剤に関する基本的な知識、技能を修得する。
授業方法と留意点	週替わりで講義（７号館にて実施）と演習（６号館にて実施）を行うので実施場所や準備に留意すること。
科目学習の効果（資格）	チーム医療に貢献できる看護師を目指す。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	処方せんの読み方を理解する	講義（小森）	講義（授業）内容を復習し、実際に行う演習に備えてください。
2	調剤の基本（計数調剤・散剤・水剤・軟膏剤）を理解する	講義（菊田）	講義（授業）内容を復習し、実際に行う演習に備えてください。
3	調剤の基本を実践する 計数調剤／軟膏剤 前半	演習（菊田・小森他） （6 号館 2 階　調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
4	調剤の基本を実践する 計数調剤／軟膏剤 後半	演習（菊田・小森他） （6 号館 2 階　調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
5	調剤の基本を実践する 水剤／散剤 前半	演習（菊田・小森他） （6 号館 2 階　調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
6	調剤の基本を実践する 水剤／散剤 後半	演習（菊田・小森他） （6 号館 2 階　調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
7	基本的な処方の意図を理解する	講義（菊田）	講義（授業）内容を復習し、実際に行う演習に備えてください。
8	注射剤の基本的な計算が出来る	講義（菊田）	講義（授業）内容を復習し、実際に行う演習に備えてください。
9	注射剤調剤（混注）の基本を理解する	講義（菊田・小森）	講義（授業）内容を復習し、実際に行う演習に備えてください。
10	調剤の基本を実践する 注射剤混合調製／調剤薬の監査 前半	演習（菊田・小森他） （6 号館　1 階　無菌調製実習室　・2 階　調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
11	調剤の基本を実践する 注射剤混合調製／調剤薬の監査 後半	演習（菊田・小森他） （6 号館　1 階　無菌調製実習室　・2 階　調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
12	調剤の基本を実践する 抗がん剤調製／消毒剤調製・医薬品管理 前半	演習（菊田・小森他） （6 号館　1 階　無菌調製実習室　・2 階　調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
13	調剤の基本を実践する 抗がん剤調製／消毒剤調製・医薬品管理 後半	演習（菊田・小森他） （6 号館　1 階　無菌調製実習室　・2 階　調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
14	医薬品情報提供書の作成の基本を理解し、服薬指導を実践する（発表会） 前半	プレゼンテーション及びフィードバック（菊田・小森他）	演習で行った内容を復習しておいてください。
15	医薬品情報提供書の作成の基本を理解し、服薬指導を実践する（発表会） 後半	プレゼンテーション及びフィードバック（菊田・小森他）	演習で行った内容を復習しておいてください。

関連科目	薬理学総論、薬物治療学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新ビジュアル薬剤師実務シリーズ　下 調剤業務の基本[技能]　第３版	上村直樹、平井みどり	羊土社
2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナーシンググラフィカ④　疾病の成り立ち－臨床薬理学	古川裕之、赤瀬智子、林正健二	メディカ出版
	2			
	3			
評価方法 （基準）	受講態度 70%（発表内容を含む）および成果物 30%で総合的に評価する。但し、受講態度が不良な場合には減点することがある。 100 点満点中 60 点以上で合格。
学生への メッセージ	薬剤に関わる基本的な実務を理解してもらいます。医薬品の一般名称など初めて目にする知識もあるとは思いますが、医薬品をさわらない看護師はいませんのでしっかり取り組んでください。 授業担当者は以下の通り臨床経験を有しており、その経験から、調剤業務を通して、薬剤の取り扱いや薬物治療の注意点に関する実践的な教育を行う。 菊田真穂 ： 星ヶ丘厚生年金病院（現、JCHO 星ヶ丘医療センター）で病院薬剤師として 12 年間勤務し、現在も同施設にて研修を行っている。 小森浩二 ： 錦秀会　阪和住吉総合病院で病院薬剤師として 5 年間勤務し、現在も信愛会 交野病院にて研修を行っている。 三田村しのぶ ： 薬局薬剤師として 11 年間勤務し、現在も福田総合病院で兼職として勤務している。 小西麗子 ： 津島市民病院（愛知県）で病院薬剤師として 9 年間勤務し、現在も福田総合病院で兼職として勤務している。
担当者の 研究室等	6 号館 3 階　医療薬学研究室
備考	講義前の予習（教科書を読む）　：　1 時間×15 回 復習および課題に関連する情報の収集　：　1 時間×15 回

科目名	病理学総論	科目名（英文）	Pathology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小﨑　篤志
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN1006a0		

授業概要・目的	看護において、身体の構造や機能のメカニズム、それらの障害である疾病を理解する事は重要である。 本科目は、医学的対応が必要となる成人各期に起り得る疾病を身体の系統臓器別に取り上げ、疾病の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する。 授業担当者の小崎は大学附属病院で総合診療科・代謝内分泌科の科長として５年間以上勤務した経験から、内科疾患の診断・治療に関する実践的な教育を行う。
到達目標	本科目では、主に消化器および代謝内分泌疾患に関して講義を行い、これらの基礎知識を修得し、各疾患の患者への的確な観察や看護援助さらには充実した生活を送るための支援が行えるように理解を深める。
授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って講義を行う。教科書を中心に液晶プロジェクターを用いて授業を進めるが、その中には初めて目にするような専門用語が多く含まれており、その意味を正確に理解させるには生物学・医化学などのバックグラウンドが必要となる。 授業では、新しい単語の説明や分かりにくい点を板書で説明しながら内容を補足しながら進めて行く。学生の習熟度により、授業の進行スピードの変更並びに、プリントやビデオなどを併用した授業方法も考慮する。
科目学習の効果（資格）	本講義は疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅱ、疾病治療論Ⅲへと引き継がれる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	病理学総論(消化器１)	講義にて教科書の消化管疾患の、 ・解剖まとめ ・症候（腹痛・便秘・嘔吐・吐血・下血） ・検査（X 線・内視鏡・ESD・EMR） のについて説明する。	・消化管に関する解剖生理を予習する（1 時間） ・説明した教科書内のアンダーラインを引いた重要部位を復習・記憶する。(2 時間)
2	病理学総論(消化器 2)	講義にて教科書の消化管疾患、 ・食道の解剖 ・摂食・嚥下 ・食堂アカラシア ・マロリーワイス症候群 ・食堂裂孔ヘルニア ・胃食道逆流症（GERD） の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について説明する。	・食道に関する解剖生理を予習する（1 時間） ・説明した教科書内のアンダーラインを引いた重要部位を復習・記憶する。(2 時間)
3	病理学総論(消化器３)	講義にて教科書の消化管疾患、 ・食道癌 ・食道静脈瘤 ・胃十二指腸解剖 ・H.pylori 感染症 ・急性胃粘膜病変（AGML） の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について説明する。	・食道・胃十二指腸に関する解剖生理を予習する（1 時間） ・説明した教科書内のアンダーラインを引いた重要部位を復習・記憶する。(2 時間)
4	病理学総論(消化器４)	講義にて教科書の消化管疾患、 ・胃十二指腸潰瘍 ・消化管穿孔 ・胃ポリープ ・胃癌（含む再建法） の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について説明する。	・胃十二指腸に関する解剖生理を予習する（1 時間） ・説明した教科書内のアンダーラインを引いた重要部位を復習・記憶する。(2 時間)
5	病理学総論(消化器５)	講義にて教科書の消化管疾患、 ・胃切除後症候群 ・腸・腹膜解剖 ・過敏性腸症候群 ・イレウス　（単純性・複雑性・麻痺性） の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について説明する。	・腸・腹膜に関する解剖生理を予習する（1 時間） ・説明した教科書内のアンダーラインを引いた重要部位を復習・記憶する。(2 時間)
6	病理学総論(消化器６)	講義にて教科書の消化管疾患、 ・クローン病 ・潰瘍性大腸炎 ・偽膜性大腸炎 ・腹膜炎 ・急性虫垂炎 ・急性腹症 ・大腸癌 の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について説明する。	・腸・腹膜に関する解剖生理を予習する（1 時間） ・説明した教科書内のアンダーラインを引いた重要部位を復習・記憶する。(2 時間)
7	病理学総論(消化器７)	講義にて教科書の胆肝膵疾患、 ・肝臓解剖生理 ・症候（黄疸・腹水） ・門脈圧亢進症 ・肝性脳症 ・肝臓検査（CT・エコー） ・ウイルス肝炎総論 ・A 型肝炎 の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について説明する。	・肝臓・胆嚢に関する解剖生理を予習する（1 時間） ・説明した教科書内のアンダーラインを引いた重要部位を復習・記憶する。(2 時間)
8	病理学総論(消化器８)	講義にて教科書の胆肝膵疾患、 ・B 型肝炎 ・C 型肝炎	・肝臓・胆嚢に関する解剖生理を予習する（1 時間） ・説明した教科書内のアンダーラインを引いた重要部位を復習・記憶する。(2 時間)

			・急性肝炎 ・慢性肝炎 ・劇症肝炎 ・肝硬変 ・脂肪肝（NAFLD・NASH） の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について説明する。	
	9	病理学総論(消化器９)	講義にて教科書の胆肝膵疾患、 ・肝細胞癌 ・転移性肝癌 ・胆膵検査（CT・エコー） ・胆石症 ・急性膵炎 ・膵癌 の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について説明する。	・胆嚢・胆管・膵臓に関する解剖生理を予習する（1時間） ・説明した教科書内のアンダーラインを引いた重要部位を復習・記憶する。(2時間)
	10	病理学総論(代謝内分泌１)	講義にて教科書の代謝内分泌疾患、 ・糖代謝総論 ・１型糖尿病 ・２型糖尿病① の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について説明する。	・膵臓の内分泌機能に関する解剖生理を予習する（1時間） ・説明した教科書内のアンダーラインを引いた重要部位を復習・記憶する。(2時間)
	11	病理学総論(代謝内分泌２)	講義にて教科書の代謝内分泌疾患、 ・２型糖尿病② ・糖尿病昏睡 ・低血糖 の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について説明する。	・膵臓の内分泌機能に関する解剖生理を予習する（1時間） ・説明した教科書内のアンダーラインを引いた重要部位を復習・記憶する。(2時間)
	12	病理学総論(代謝内分泌３)	講義にて教科書の代謝内分泌疾患、 ・慢性合併症 ・糖尿病網膜症 ・糖尿病腎症 ・糖尿病神経症 ・糖尿病足病変 ・尿酸代謝総論 ・高尿酸血症 の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について説明する。	・尿酸代謝に関する生化学を予習する（1時間） ・説明した教科書内のアンダーラインを引いた重要部位を復習・記憶する。(2時間)
	13	病理学総論(代謝内分泌４)	講義にて教科書の代謝内分泌疾患、 ・痛風 ・甲状腺機能亢進症 ・バセドウ病 ・亜急性甲状腺炎 ・甲状腺機能低下症 ・慢性甲状腺炎 の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について説明する。	・甲状腺に関する解剖生理を予習する（1時間） ・説明した教科書内のアンダーラインを引いた重要部位を復習・記憶する。(2時間)
	14	病理学総論(代謝内分泌５)	講義にて教科書の代謝内分泌疾患、 ・甲状腺腫瘍 ・副甲状腺総論 ・原発性機能亢進症 ・続発性機能亢進症 ・特発性機能低下症 ・副腎総論 ・クッシング症候群 ・アルドステロン症 の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について説明する。	・副甲状腺・副腎に関する解剖生理を予習する（1時間） ・説明した教科書内のアンダーラインを引いた重要部位を復習・記憶する。(2時間)
	15	病理学総論(代謝内分泌６)	講義にて教科書の代謝内分泌疾患、 ・アジソン病 ・褐色細胞腫 ・下垂体総論 ・尿崩症 ・先端巨大症・巨人症 の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について説明する。	・下垂体に関する解剖生理を予習する（1時間） ・説明した教科書内のアンダーラインを引いた重要部位を復習・記憶する。(2時間)

関連科目	疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅱ、疾病治療論Ⅲ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	病気がみえる vol.1 消化器		メディックメディア
2	病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌		メディックメディア
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	合否判定は定期試験を中心に総合判定する。 試験には主に客観問題を出題する。講義中の授業態度等を評価の一部とする。

	定期試験（90%）、講義での授業態度評価など（10%）で最終評価する。
学生へのメッセージ	授業には指定教科書を持参して下さい。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　研究室 23
備考	病理学総論、疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅱ、疾病治療論Ⅲで同じシリーズの教科書を使用します。

科目名	保健医療福祉行政論	科目名（英文）	Health and Welfare Administration
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	富永　真己.山本　十三代
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP6△		
科目ナンバリング	NDN1019a0		

授業概要・目的	人口の少子高齢化、格差の拡大など、日本国内の社会のあり方が大きく変わりつつあり、人々の生活の安心・安定を支える社会の仕組みも変わる必要に迫られている。将来、保健医療専門職として社会で活躍する上で必要不可欠な社会保障を中心に、根拠法を含む保健医療福祉行政とその制度の歴史的変遷と概要、仕組みについて、講義を通じて学び、理解を深める。また、日本の公衆衛生の向上と発展の視点から、今後あるべき保健医療福祉行政や、保健・医療・福祉の連携、専門職の役割について、講義を通じて考察する。
到達目標	1. 保健医療福祉行政の概要について理解できる。 2. 保健医療福祉行政の歴史的変遷について理解できる。 3. 社会福祉制度について理解できる。 4. 社会保障制度について理解できる。 5. 保健医療福祉行政とその制度・仕組み、制度ごとの関係や違いについて理解できる。 6. 今後の保健医療福祉行政の方向性や、専門職の連携と役割について考察できる。
授業方法と留意点	授業計画に沿って講義中心に行う。教科書は必ず持参すること。授業の内容によっては資料も配布する。また視聴覚教材の活用、時事ニュースなどの引用、事例をを交えた形で授業を進める。講義終了後は、講義資料やノートの整理を習慣づけること。復習時に理解の困難な用語や事柄については、図書館などで調べるなどした上で、次の授業時間を活用して質問するなど、主体的に学習にとりくむ。
科目学習の効果（資格）	社会保障制度と福祉の動向を知ることにより、看護の対象者への支援について幅広く考えることができる。 看護師・助産師国家試験においても社会保障制度の出題は増加しているため、試験対策としても知識習得をしていく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	保健医療福祉行政の概要と変遷(1)	社会福祉・社会保障とは何か 社会保障の仕組み・機能・歴史 保健医療福祉の財源	事前：テキスト p42 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む（30 分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく（1 時間）。
2	保健医療福祉行政の概要と変遷(2)	社会福祉の担い手と役割 社会福祉の実践方法 社会資源の活用方法	事前：テキスト p43～p76 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む（30 分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく（1 時間）。
3	社会福祉の制度 ライフサイクルと社会福祉 〈子ども・家庭と福祉〉	子ども・家庭福祉の理念と目的 子育て支援・少子化対策に関する施策 児童虐待・母子保健に関する施策	事前：テキスト p80～p96 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む（30 分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく（1 時間）。
4	社会福祉の制度 ライフサイクルと社会福祉 〈障害児・者と福祉〉	障害者を守る法律の概要 障害者を支援するサービス体系 自立支援医療 障害者雇用および支援	事前：テキスト p98～p110 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む（30 分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく（1 時間）。
5	社会福祉の制度 ライフサイクルと社会福祉 〈難病対策〉	難病対策の取り組み、改革の内容 難病患者に対する医療等に関する法律	事前：テキスト p111～p119 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む（30 分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく（1 時間）。
6	社会福祉の制度 〈生活保護〉	公的扶助制度 生活保護における生活保障 給付の要件と保護基準、見直し	事前：テキスト p136～p149 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む（30 分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく（1 時間）。
7	社会福祉の制度 〈地域福祉〉	地域福祉の定義と理念 地域福祉計画 保健・医療と福祉の連携	事前：テキスト p152～p161 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む（30 分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく（1 時間）。
8	社会福祉の制度 ライフサイクルと社会福祉 〈高齢者と福祉〉	高齢者保健福祉施策の社会的背景、目的、理念、経緯 老人福祉法による高齢者支援 今後の課題 高齢者の権利擁護と虐待防止	事前：テキスト p120～p133 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む（30 分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく（1 時間）。
9	社会保障制度 〈医療保険制度〉	医療保険制度の沿革、しくみ 高齢者医療制度 医療保険制度の課題	事前：テキスト p171～p186 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得ておくこと（30 分以上）。 事後：授業内容を整理しておくこと（1 時間）。
10	社会保障制度 〈年金制度〉	公的年金制度の意義としくみ 沿革、概要、給付 企業年金などの概要 課題	事前：テキスト p164～p170 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む（30 分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく（1 時間）。
11	社会保障制度 〈雇用保険と労災保険〉	雇用保険制度の役割、しくみ、課題 労災保険制度の概要、給付 業務災害、通勤災害の認定	事前：テキスト p200～p210 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む（30 分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく（1 時間）。
12	社会保障制度	制度創設の背景	事前：テキスト p187～p199 まで熟読する。さらに

		〈介護保険（1）〉 〈山本〉	介護保険制度の概要(意義、しくみ、実施体制と財源)	授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む（30 分以上)。 事後：ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく（1 時間)。
	13	社会保障制度 〈介護保険（2）〉 〈山本〉	介護サービスの利用 介護サービスの内容	事前：授業テーマに関係する事柄について最新情報を臨む（30 分以上)。 事後：ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく（1 時間)。
	14	社会保障制度 〈介護保険（3）〉 〈山本〉	介護保険制度の見直しと課題	事前：授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む（30 分以上)。 事後：ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく（1 時間)。
	15	保健医療福祉行政の計画と評価	地方自治体の保健医療福祉計画 地方自治体の計画策定 計画の推進と管理・評価	授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む（30 分以上)。 事後：ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく（1 時間)。

関連科目	公衆衛生学、医療経済論、各領域の看護学概論、地域看護学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	社会福祉と社会保障 （ナーシング・グラフィカ健康支援と社会保障）	増田雅暢　平野かよ子　島田 美喜	メディカ出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	これからの保健医療福祉行政論	星旦二　麻原きよみ	日本看護協会出版会
2	衛生行政大要	上田茂	日本公衆衛生協会
3	国民衛生の動向 2018		厚生労働統計協会

評価方法 （基準）	小テスト・レポート類（10%)、定期試験（90%） 授業態度不良の場合は、一定の減点を行う場合がある。
学生への メッセージ	・本科目は看護師・保健師として 15 年の豊富な実務経験を有する教員が、看護職として必要な保健医療福祉行政の法や制度について具体的な事例を紹介しながら、授業を進めていきます。 ・授業では、保健医療福祉行政論を学んでいくうえで最低限必要な理解の枠組みと、その枠組みを理解するうえで最低限必要な知識について講義します。看護師、保健師、助産師の国家試験の出題率も高い内容であるため、予習復習をしっかり行うと同時に、社会保障制度や社会福祉制度に関する日々のニュースに関心を持って、国の動きに着目していきましょう。
担当者の 研究室等	富永真己　　7 号館 3 階研究室 7 山本十三代　7 号館 3 階研究室 5
備考	事後学習課題であるミニレポートについては、毎回、教員が確認した後、次の授業開始時に返却します。 本授業では授業での発言や取り組みの姿勢も評価の対象とします。そのため、本授業の座席は指定とします。 追加の文献や資料などは授業中に紹介します。

科目名	母性看護学援助論Ⅰ	科目名（英文）	Maternal Nursing Ⅰ
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	泉川　孝子.名草　みどり.永田　阿子.西頭　知子
ディプロマポリシー(DP)	DP2○,DP3◎,DP4○,DP6○,DP7○,DP8△		
科目ナンバリング	NDN2052a0		

授業概要・目的	≪概要≫ 妊娠期・分娩期・産褥期の生理的変化、心理・社会的特徴、胎児の発育、新生児の生理、周産期における家族の役割について学び、アセスメントと看護の方法について学ぶ。 （オムニバス　方式／全 15 回）
到達目標	１．子どもを産み育てるために必要となる妊娠前からの女性・家族への支援を理解する。 ２．正常経過にある妊産褥婦と新生児について、身体的特性と心理・社会的特徴からのアセスメント、看護を理解する。 ３．異常経過にある妊産褥婦と新生児について、身体的特性と心理・社会的特徴からのアセスメント、看護を理解する。
授業方法と留意点	講義・グループワーク・DVD 鑑賞・課題、演習などの方法で学ぶ
科目学習の効果（資格）	母性看護学援助論Ⅱの基礎科目になり、母性看護学実習の履修要件である

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	母性の発揮を促す看護	子どもを生み育てるにあたり生じる遺伝、不妊の問題、および不妊治療を受ける女性の心理的特徴からその支援、看護について理解する	事前学習課題：テキストを読んでくる（各論：第 2 章 ABC） 事後学習課題：不妊治療を受けるの対象者への支援のあり方、看護について整理する （前後、各 1 時間）
2	娠期の心理・社会的特性、妊婦と胎児のアセスメント(1)	妊婦の心理的特徴と妊婦・家族の新しい役割獲得に関する課題について学ぶ。 妊婦の身体的・生理的特徴について学ぶ。	事前学習課題：　教科書の該当ページ（P78－103）を読んでくる（1 時間） 事後学習課題：授業内容を振り返り、整理して理解を深める（1 時間）
3	妊婦と胎児のアセスメント（2)、妊婦と家族の看護	妊婦と胎児の健康状態のアセスメントについて、必要な情報とアセスメントの視点について学ぶ。 妊婦のセルフケア能力を高める援助、親になるための準備について学ぶ。	事前学習課題：教科書の該当ページ（P103－176）を読んでくる（1 時間） 事後学習課題：授業内容を振り返り、整理して理解を深める（1 時間）
4	ハイリスク妊娠と看護	妊娠の異常とその要因、およびハイリスク妊婦の看護について学ぶ。	事前学習課題：教科書の該当ページ（P358－400）を読んでくる（1 時間） 事後学習課題：授業内容を振り返り、整理して理解を深める（1 時間）
5	正常分娩の経過	１．分娩の要素と機序 ２．分娩経過に伴う産婦の身体的変化 ３．分娩経過の胎児への影響 ４．分娩期の産婦・家族の心理的変化 ５．出生 2 時間までの新生児の生理	事前学習課題：テキストを読んでくる（各論：第 4 章 AB） 事後学習課題：分娩経過について整理する （前後、各 1 時間）
6	分娩期のアセスメントと看護	１．分娩経過と産婦の健康状態のアセスメントと看護 ２．産婦と家族の心理・社会面のアセスメントと看護 ３．安全・安楽な分娩への援助 ４．胎児の健康状態のアセスメントと看護 ５．出生後 2 時間までの新生児のアセスメントと看護 ６．母子関係形成に向けての援助	事前学習課題：テキストを読んでくる（各論：第 4 章 C） 事後学習課題：産婦と胎児の健康状況、産婦家族へのアセスメントについて整理する （前後、各 1 時間）
7	ハイリスク分娩の看護	１．分娩期の異常と看護 ２．産科手術と看護 ３．胎児・新生児の異常と看護	事前学習課題：テキストを読んでくる（各論：第 7 章Ⅱ） 事後学習課題：分娩時異常時の看護について整理する （前後、各 1 時間）
8	帝王切開術と看護	帝王切開術を受けた褥婦のアセスメントと看護について学ぶ 母子分離、喪失感覚、悲嘆へのケアについて学ぶ	事前学習課題：テキストを読んでくる（各論：第 7 章ⅡI,K） 事後学習課題：帝王切開術前後の看護について整理する （前後、各 1 時間）
9	褥婦の身体的変化	退行性変化と進行性変化について学ぶ	事前学習課題：テキストを読んでくる（各論：第 6 章 ABCD） 事後学習課題：授業内容を整理する （前後、各 1 時間）
10	褥婦の心理・社会的変化	Rubin の母親への適応過程、家族の心理的変化について学ぶ	事前学習課題：テキストを読んでくる（各論：第 6 章 ABCD） 事後学習課題：授業内容を整理する （前後、各 1 時間）
11	産褥期の異常と看護１	子宮復古不全、産褥期の発熱、産褥血栓症、会陰裂傷・会陰切開を行った褥婦、乳房にトラブルのある褥婦	事前学習課題：テキストを読んでくる（各論：第 7 章Ⅳ） 事後学習課題：授業内容を整理する （前後、各 1 時間）
12	産褥期の異常と看護２	精神にトラブルのある褥婦、および新生児に問題がある褥婦の看護等について学ぶ	事前学習課題：テキストを読んでくる(各論：第 7 章Ⅴ） 事後学習課題：授業内容を整理する （前後、各 1 時間）
13	新生児の生理と看護	新生児の生理と看護について学ぶ	事前学習課題：テキストを読んでくる（各論：第 5

				章 ABC) 事後学習課題：授業内容を整理する （前後、各 1 時間）
	14	育児技術に関わる援助	技術演習 新生児の抱き方と寝かせ方、オムツ、衣服の交換等	事前学習課題：技術演習資料を読んでくる 事後学習課題：技術演習内容について振り返り整理する （前後、各 1 時間）
	15	低出生体重児、高ビリルビン血症児の看護	低出生体重児のおこりやす問題と看護、ディベロッップメンタルヘルスケア、高ビリルビン血症児：黄疸のリスク因子、検査、治療と看護	事前学習課題：テキストを読んでくる（各論：第 7 章Ⅲ） 事後学習課題：新生児の異常の看護について整理する （前後、各 1 時間）

関連科目	人体の構造と機能、臨床心理学、疾病治療論、代謝栄養学、食生活論、病理学総論、感染と防御、家族関係論、看護関係法規、看護対人関係論、基礎看護技術、成人看護援助論、小児看護援助論、精神看護援助論、地域看護学、家族看護学、看護倫理、生命倫理、心理学、母性看護学概論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	系統看護学講座　母性看護学各論	森　恵美　他	医学書院
2	系統看護学講座　母性看護学概論	森　恵美　他	医学書院
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ルヴァ・ルービン母性論	新道幸恵他訳	医学書院
2	病気がみえる vol.10: 産科	井上裕美他	メディックメディア
3	ナーシンググラフィカ母性看護学②	横尾京子他	メディカ出版

評価方法 （基準）	評価割合：定期試験 80%、提出物 20%
学生への メッセージ	母性看護学は妊婦だけではなく、女性の健康を支援する看護学です。そのために、夫をはじめとした家族も看護の対象となるなど、幅広い対象に看護を行います。本科目で学ぶ内容は身近な現象として想像することができます。「生命の始まりはいつか」「子どもを産めばすぐに親になれるのか」などのたくさんの問いを持って、楽しく真摯に学んで下さい。授業担当の各教員は、総合病院で助産師（看護師）として 7～10 年間勤務した経験から、周産期の看護に関する実践的な教育を行う。
担当者の 研究室等	泉川孝子（研究室 15）、西頭知子（研究室 14）、名草みどり（研究室 13）
備考	

科目名	母性看護学援助論Ⅱ	科目名（英文）	Maternal Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	但馬　まり子.名草　みどり.飯田　恵子.泉川　孝子.永田　阿子.西頭　知子
ディプロマポリシー(DP)	DP2○,DP3◎,DP4○,DP6○,DP7○,DP8○		
科目ナンバリング	NDN2053a0		

授業概要・目的	≪概要≫ 母性看護学実習で一組の母と新生児を受け持つ時に必要な科学的思考と母性看護技術について、講義、自己学習、グループワーク、実技演習を通して学びます。（看護師・助産師として６年以上の実務経験がある教員が講義、グループワーク、実技演習を担当します。） ≪目的≫ マタニティサイクルにある女性が、心身共に健康な状態を維持・促進するために、科学的思考を用いて、一人一人に応じた看護を見出し、実践する方法を学ぶ。
到達目標	１）マタニティサイクルにある女性とその新生児が、健康な状態を維持・促進するための看護過程の方法について理解する。 ２）マタニティサイクルにある女性が、異常に移行した際に必要な看護について考えることができる。
授業方法と留意点	授業方法は、講義、自己学習、グループワーク、母性看護技術の実技演習です。 個人およびグループの課題の内容、母性看護技術の実技演習の概要、評価方法については授業で全て説明します。 母性看護技術演習は、ユニフォームを着用して母性小児看護学実習室で行います。
科目学習の効果（資格）	母性看護学実習に向けて重要な科目です。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	母性看護学の看護過程に必要な看護診断を学ぶ	目標：ウエルネス看護診断について理解できる。 内容：ウエルネス看護診断について学ぶ 方法：講義	事前学習：母性看護学各論 p541-546 を読む。 事後学習：配付資料を読む。（30 分） 参考文献 「ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程」p18～29
2	事例による看護過程の展開-情報化の方法を学ぶ	目標：①オリエンテーションを受けて看護過程の展開と母性看護技術の演習方法について理解できる。②紙媒体と DVD から事例の情報を整理できる。 内容：事例の情報化の方法を学び、事例の情報をＳ情報とＯ情報に分けアセスメントシートの情報欄に記入する。 方法：講義と演習(個人)	事前学習：母性看護学各論 p308-354 を読む。 事後学習：授業時間内にできなかった課題に取り組み、指定日時に提出する。（1 時間） 参考文献 「ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程」p70～74
3	事例による看護過程の展開-アセスメントの方法を学ぶ	目標：データベースとアセスメントシートに振り分けた情報の解釈と分析および統合ができる。 内容：記載例を参考にアセスメントの方法を学び、アセスメントシートに振り分けた情報の解釈と分析をアセスメント欄に記入する。 方法：講義と演習（個人）	事後学習として、授業時間内にできなかった課題に取り組み、指定日時に提出する。（1 時間） 参考文献 「ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程」p75～86
4	事例による看護過程の展開-看護問題の明確化の方法を学ぶ	目標：退行性変化・進行性変化・心理社会的適応・子宮外生活適応過程における看護問題を、ウエルネス・リスク・プロブレムの判断を行いながら明確化でき、優先順位を考えられる。 内容：退行性変化・進行性変化・心理社会的適応・子宮外生活適応過程における看護問題の、ウエルネス・リスク・プロブレムの判断方法について学び、事例の看護問題をウエルネス・リスク・プロブレムに分けてプロブレムリストに記載する。 方法：講義と演習（個人）	事後学習として、授業時間内にできなかった課題に取り組み、指定日時に提出する。（1 時間） 参考文献 「ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程」p75～86
5	母性看護技術演習（１）－妊産褥婦の看護を学ぶ	目標：妊婦健診の根拠と方法がわかり安全・安楽を考慮して計測できる。根拠を理解して褥婦の子宮復古の観察ができる。乳房タイプ別授乳時の抱き方、排気ができる。 内容：妊婦の計測（レオポルドの測定法、子宮底と腹囲の測定、児心音の聴取）、褥婦の観察（子宮底の測定）乳房タイプ別授乳時の抱き方、排気方法についてモデル人形を用いて実際に行う。 方法：第５回と第６回は２クラスに分かれて、２コマ続きで技術演習を行う。（母性小児看護学実習室）	事前学習として、配付資料を読み、「乳房のはり」について調べた内容を配付資料に記入する。母性看護学各論 p328～329 事後学習として、演習内容の課題シートを仕上げて指定日時に提出する。（1 時間） 母性看護学各論 p342～346,p98～103
6	母性看護技術演習（２）－妊産褥婦の看護を学ぶ	５回目と同内容	５回目と同内容
7	事例による看護過程の展開-看護計画の立案方法を学ぶ	目標：優先度の高い看護問題を解決するための看護目標を考えられ、看護計画を立案できる。 内容：看護目標の表現方法等について学び、看護目標と看護計画を立案する。 方法：講義と演習（個人）	事後学習として、授業時間内にできなかった課題に取り組み、指定日時に提出する。（1 時間） 参考文献 「ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程」p86～88

	8	母性看護技術演習（３）－新生児の看護を学ぶ	目標：根拠と方法を理解して新生児の観察、アセスメント、沐浴および寝床環境の整備ができる。産婦体験から分娩期の安全・安楽、基本的ニードについて考えられる。 内容：新生児の観察と沐浴、寝床環境の整備をモデル人形を用いて行う。分娩期の援助を学ぶ。 方法：第８回と第９回は２クラスに分かれて、２コマ続きで技術演習を行う。（母性小児看護学実習室）	事前学習として、新生児の観察の留意点、沐浴の留意点について配付資料に記入する。指定した新生児観察と沐浴の動画を視聴し、手技を覚える。(1 時間) 事後学習は、新生児の観察と沐浴の手技の振り返りを配付資料に記入し、指定日時に提出する。(1 時間)
	9	母性看護技術演習（４）－新生児の看護を学ぶ	第８回と同内容	第８回と同内容
	10	事例による看護過程の展開-看護計画の立案方法を学ぶ	目標：グループで優先度の高い看護問題を解決するための看護目標を考えられ、看護計画を立案できる。 内容：個人の看護計画を持ち寄り、グループによってよりよい看護計画を立案する。 方法：講義と演習（グループ）	授業時間内にできなかったグループは看護目標と看護計画を指定の用紙に記入し、指定日時に提出する。(1 時間) 参考文献 「ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程」p86～88
	11	事例による看護過程の展開-看護計画を実施する	目標：看護計画をロールプレイングで実施できる。 内容：看護計画をグループで実施する。 方法：グループで考えた看護計画を、２クラスに分かれてロールプレイングで実施（発表）する。（母性小児看護学実習室）	事前学習としてグループで看護計画の ロールプレイング練習をする。(1 時間)
	12	事例による看護過程の展開-看護計画の評価と修正方法を学ぶ	目標：ロールプレイングで発表（実施）した看護の評価ができ、看護計画修正の必要性を判断できる。 内容：発表した看護計画をグループで評価する。 方法：講義と演習（グループ）	授業時間内にできなかったグループは、発表した場面を評価し、指定日時に提出する。(1 時間) 母性看護学各論 p545～546
	13	退院支援と継続看護、1 か月までの実際を学ぶ	目標：退院指導と産褥１か月までの支援の実際について理解できる。 内容：臨地実習施設で行われている退院指導や産褥１か月までの支援と、社会資源として枚方市の取り組みについて紹介する。 方法：講義	事前学習として母性看護学各論 p351～354 を読む。（30 分）
	14	正常を逸脱した事例の看護-帝王切開術後の看護の方法を知る	目標：術後の母体に生じる変化についてその機序と看護の方法を知ることができる。 内容：帝王切開の適応や術式を振り返り、手術によって生じる身体機能の変化や母体に与える影響を学ぶ。 方法：講義と演習（個人・グループ）	事前：帝王切開術について母性看護学援助論Ⅰの資料および教科書１（第７章 I-⑤、K-①）を一読してくる。周手術期に関する教科書を受講時に持参できるよう準備する。 事後：配布する課題を完成させる。 （各１時間）
	15	正常を逸脱した事例の看護-帝王切開術後の看護の方法を考える	目標：術後の心身の変化に伴い生じやすい看護問題を見出し、看護計画の立案・修正ができる。 内容：一般的な帝王切開術後の観察点やアセスメントの視点（方法や基準値、分析に必要な根拠）を整理し、計画として完成させる。 方法：演習（グループ）	事前：課題を完成させ提出する。看護計画立案・修正に使用する周手術期の資料・文献を収集し、演習時に持参できるよう準備する。 事後：課題を完成させ、提出する。 （各１時間）

関連科目	既習の専門基礎科目、専門科目は全て関連していますが、特に、人体の構造と機能、代謝栄養学、食生活論、病理学総論、感染と防御、家族関係論、母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰは非常に関連しています。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	系統看護学講座　母性看護学各論	森恵美他	医学書院
2	系統看護学講座　母性看護学概論	森恵美他	医学書院
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	写真でわかる母性看護技術	小沢ひとみ編	インターメディカ
2	病気がみえる 10 巻　産科	医療情報科学研究所	メディックメディア
3	ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程	太田操編著	医歯薬出版

評価方法（基準）	筆記試験(60%)、課題の進行・提出状況、課題の完成度，プレゼンテーション(30%)、毎回の学びと感想カード、授業態度(10%)を見て総合的に評価します。評価比重は授業時間内に説明します。
学生へのメッセージ	母性看護学援助論Ⅱは母性看護学実習を想定した実践に近い科目です。課題は多いですが、既習の知識を整理しながら楽しい実習になるように、この科目の学修を頑張りましょう。
担当者の研究室等	母性看護学教員の研究室は７号館３階です。実習で不在の場合は研究室入り口に氏名とメッセージを残してください。 名草みどり（研究室 13）、西頭知子（研究室 14）、但馬まり子（研究室 20）、 飯田恵子、永田阿子（共同研究室 5）、泉川孝子（研究室 15）
備考	

科目名	母性看護学概論	科目名（英文）	Introduction to Maternal Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期後半	授業担当者	泉川　孝子.名草　みどり.西頭　知子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP4○,DP6○,DP8△		
科目ナンバリング	NDN2051a0		

授業概要・目的	母性看護の基盤となる概念を理解し、母性とはなにかを幅広く捉え、人間の性と生殖の意義からセクシュアリティ、リプロダクティブヘルス/ライツの理解を深める。母性の特性については、母性保健の動向や現代女性・家族のライフサイクルにおける特徴や発達課題の諸問題を理解し、現代女性・家族へのサポートについて考える。
到達目標	１．母性看護の概念から、母性とは、母子関係と家族発達、父性の役割ついて理解する。 ２．人間の性と生殖の意義からセクシュアリティ、リプロダクティブヘルス/ライツの理解を深める。 ３．母性看護の変遷や母性保健統計の動向、母子保健施策から現状を理解する。 ４．現代女性・家族のライフサイクルにおける特徴や発達課題の諸問題について理解する。 ５．女性のライフステージ各期における諸問題、看護について理解する。 ６．現代の女性・家族の健康に関与する諸問題へのリプロダクティブヘルスケアについて理解する。
授業方法と留意点	事前の学習課題は展開される講義内容が書かれているテキスト部分をよく読んでくる。グループ課題もあり、主体的に参加してください。 母子保健、生殖医療等に関する情報を、新聞、雑誌などから見聞を広め問題意識をもってのぞみましょう。
科目学習の効果（資格）	授業内容は、看護師国家試験の母性看護学の科目に出題されることがあり、国家試験に直結する科目です。また、助産選択に関わる科目です。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	母性の概念について	母性看護の概念から、母性とは、母子関係と家族発達、父性の役割について学ぶ. セクシュアリティ、リプロダクティブヘルス/ライツ、ヘルスプロモーションについて学ぶ（講義、討議）	事前学習課題：テキストの該当部分を読んでくる（P2-12、20-27） 事後学習課題：講義内容のキーワードについて整理する （前後、各１時間）
2	母性看護の対象を取り巻く社会について１	母性看護の歴史的変遷と現状、諸外国の歴史について、および母性看護の対象を取り巻く環境について学ぶ（講義）	事前学習課題：テキストの該当部分を読んでくる（p54-57,p86－93） 事後学習課題：講義内容から理解したことを整理する （前後、各１時間）
3	母性看護の対象を取り巻く社会について２	母子保健統計からみた動向、母子保健施策からみた現状、母性看護に必要な法制度について理解する（講義）	事前学習課題：テキストの該当部分を読んでくる（p59-85） 事後学習課題：統計データから読み取れたことを整理する （前後、各１時間）
4	母性看護の対象理解	母性と親性について理解し、子どもへの愛や親となる過程の支援に必要なことを学ぶ 女性のライフサイクル、母性各期（小児期、思春期、成熟期、更年期、老年期）について理解する（講義、討議）	事前学習課題：テキストの該当部分を読んでくる（p97-123） 事後学習課題：母性の対象理解について整理する （前後、各１時間）
5	思春期の健康と看護	思春期の身体的・心理的・社会的特徴と健康課題について学ぶ(講義)	事前学習課題：テキストの該当部分（P185－204）を読んでくる（2時間） 事後学習課題：講義内容を振り返り整理する（2時間）
6	成熟期の健康と看護	成熟期の身体的、心理的、社会的特徴を理解すると共に、成熟期のセクシュアリティの課題について学ぶ（講義）	事前学習課題：テキストの該当部分を読んでくる（p205－217） 事後学習課題：講義内容から理解したことを整理する （前後、各１時間）
7	更・老年期の健康と看護	更年期・老年期の身体的、心理的、社会的特徴を理解すると共に、セクシュアリティの課題について学ぶ（講義）	事前学習課題：テキストの該当部分を読んでくる（ｐ217－245） 事後学習課題：講義内容から理解したことを整理する （前後、各１時間）
8	リプロダクティブヘルスケア	女性の健康に関与する、性感染症・妊娠中絶・喫煙・DV、国際化社会等におけるリプロダクティブヘルスケアについて理解する（講義、討議）	事前学習課題：テキストの該当部分を読んでくる（250－315） 事後学習課題：講義内容、討議から理解したことを整理する （前後、各１時間）
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	人体の構造と機能、食生活論、家族関係論、疾病治療論、看護関係法規、看護学概論、看護対人関係論、生命倫理、地域看護学、家族看護学、看護倫理、女性学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	系統看護学講座　母性看護学概論	森　恵美他	医学書院
2			
3			

参考書

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 親と子のきずな / クラウス・ケネル / 医学書院 2 / ルヴァ・ルービン母性論 / ルービン，R / 医学書院 3 /	
評価方法 （基準）	定期試験、授業参加度（提出課題・授業態度等）を総合して判定する。 割合：定期試験 85%（泉川 65 点、西頭 10 点、名草 10 点）、提出課題等 15%
学生への メッセージ	セクシュアリティ、母性、家族に関する社会状況や問題、法改正などの情報や報道等に関心を向け自分自身の考え方を広げて行きましょう。授業は学生と教員とのパートナーシップで、力を合わせて実りある内容にしましょう。授業担当の各教員は、総合病院で助産師（看護師）として 7～10 年間勤務した経験から、母子保健や周産期の看護に関心を高める教育を行う。
担当者の 研究室等	泉川孝子（研究室 15）、西頭知子（研究室 14）、名草みどり（研究室 13）
備考	

科目名	母性看護学実習	科目名（英文）	Clinical Practice in Maternal Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	泉川　孝子.但馬　まり子.飯田　恵子.永田　阿子.名草　みどり.西頭　知子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎		
科目ナンバリング	NDN3054a0		

授業概要・目的	概要 妊婦・産婦・褥婦および新生児の身体的・心理的・社会的な特性や生理的な経過を踏まえ、看護実践を通して周産期にある対象の健康保持増進、異常の予防における看護の実際を学習する。妊娠期、分娩期、産褥期および新生児期にあるケースを受け持ち、その正常経過と周産期の看護の実際および家族への支援方法を学び、看護過程が展開できる能力を養う。また、産婦への産痛緩和などのケアを通して分娩に立ち会い、命の尊厳について考える。 目的：周産期にある女性および家族の総合的な理解、さらに、新生児の子宮外生活への適応過程を理解し、看護実践に必要な基礎的知識・技術・態度を養う。
到達目標	１．周産期の母子の身体的・心理的・社会的特性を理解し、妊娠における適応過程を明らかにできる。 ２．周産期の母子とその家族に対して、健康維持・増進に向けて看護過程を展開できる。 ３．母子保健医療の特性を理解し、母子とその家族に果たす看護の役割と連携について考えられる。 ４．母性看護における自己の看護観を育むことができる。 ５．看護学生として倫理的配慮のある言動がとれる。
授業方法と留意点	実習方法 １．原則１グループ５名の編成とし、各グループの担当教員の指示に従い実習する。実習内容は病棟実習と外来実習、カンファレンスで構成され、ローテーションで行う。 ２．実習初日は、学内実習とオリエンテーションがある。各自、実習で困らないように実習目的・目標をもとに事前学習しておく。また、母性で必要となる技術の練習をしておく。 ３．２日目より臨地実習に入る。最終日は学内でテーマ、ケースカンファレンスを持ち、記録の整理と提出を行う。 ４．実習では日々、各自の実習における課題と目標を明確にし、具体的な実習計画を立案して臨む。 ５．実習２日目に病棟のオリエンテーションを受け、病棟・外来の構造や機能や看護者の役割、一日の業務の流れと妊産褥婦・新生児の生活の流れを理解する。 ６．実習中は１組の母子を受け持ち看護過程を展開したり、分娩見学、外来で妊婦健康診査の一部実施、特殊外来の見学をする。 ７．日々、学生主体のカンファレンス（一日の振り返り、疑問点等の意見交換）を行い、学びを共有する。 ８．実習記録は毎日必ず記録し、指導教員や臨床側から指導や助言を受ける。 ９．最終週の水曜日前後には臨床側（病棟師長、指導者）に参加してもらい反省会を行う。 10．最終週の金曜日は学内で、施設合同のテーマ、ケースカンファレンスを行い、学びを共有する。 留意点 妊娠や出産は病気ではないが、妊産褥婦は精神的に不安定で、疲労も強いため、訪室時間や言動に注意をする。また、新生児は抵抗力がないため、体調を整え学生自身が感染症にかからないようにする。さらに、同時に２つの命を扱うため、看護実践では細心の注意が必要である。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	［実習内容］ １．学内 　初日に実習のオリエンテーション、最終週木曜日は学内でテーマカンファレンスの資料を作成。金曜日、施設合同のテーマ、ケースカンファレンスを実施する。 ２．病棟実習 １）１組の褥婦とその新生児を２人の学生で情報を共有しながら受け持ち看護過程の展開をする。 ２）分娩があれば、産婦を受け持ち、産婦および新生児のケアを指導者と共に実施または見学する。 ３）新生児室実習は治療や要観察、新生児だけの入院の新生児で、スタッフの指導のもとにケアを行う。 ３．外来実習 １）医師の妊婦健診を受ける妊婦の妊娠経過を把握し、健康診査に同行し、見学又は一部を実施する。 ２）助産師外来の妊婦健康診査に同行し、指導のもとに健康診査や保健指導を見学する。 ３）不妊外来、思春期外来、更年期外来などの特殊外来、学級活動の見学を行う。 ４．カンファレンス １）一日の実習の振り返り、疑問点や困っていることの意見交換を行い、教員や指導者から助言を受ける。 ２）受け持ち事例に関連したテーマで全員が発表し、学びを共有する。 ３）学内で施設合同のテーマ、ケースカンファレンスを行い、実習目標に沿って、その評価や今後の課題をのべ、学びを共有する。 ５．事前事後学習 １）実習で計画した実習内容に必要な知識や技術は事前に学習し、技術は習得しておく。また、実習での学びは自分で学習ノートを作り、復習しておく。 ２）実習で必要となる情報は、学生間で共有し、連携も取っておく。 ６．実習態度およびルール １）看護師・教員の助言は真摯な態度で受け止め、積極的に実習や学習に生かす。 ２）実習内容は事前にスタッフや教員に報告して助言や許可を得てから実施する。勝手に行動することは、禁止する。 ３）実習で知りえた情報や実施内容は、適宜、看護師や教員に必ず報告する。 ４）対象に畏敬の念を持ち、対象の権利を尊重し、プライバシーの保護に努める。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 系統看護学講座　母性看護学概論 / / 医学書院 2 / 系統看護学講座　母性看護学各論 / 森　恵美他 / 医学書院 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 病気が見える vol10 産科 / 井上裕美他 / メディックメディア 2 / ルヴァ・ルービン母性論 / ルービン，R / 医学書院 3 / ナーシンググラフィカ母性看護学② / 横尾京子他 / メディカ出版
評価方法（基準）	出席状況、実習内容、実習態度、実習記録をもとにした実習目標の到達度を母性看護学実習要綱の評価基準に沿って評価を行う。
学生への	妊産褥婦、新生児および家族を通して、ウエルネスの思考に基づいた看護ケアの実践から学びましょう。また、新しい生命の誕生に立ち会い、

メッセージ	そのパワーに触れてみてください。母親や父親（パートナー）、新生児からも学べることが多い実習になるでしょう。実習指導担当の各教員は、総合病院で助産師（看護師）として6～10年間勤務した経験から、周産期の看護に関する実践的な教育を行う。
担当者の 研究室等	泉川（研究室15）、西頭（研究室14）、名草（研究室13）、但馬（研究室20）、飯田、永田（共同研究室5）
備考	実習場所 　市立ひらかた病院、関西医科大学附属病院、関西医科大学総合医療センター、JCHO大阪病院、八尾市立病院、済生会野江病院、はるか助産院等

科目名	薬物治療学	科目名（英文）	Pharmacotherapeutics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中　雅幸
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN1009a0		

授業概要・目的	薬理学総論で修得した薬物の作用機序をもとに、さらに幅を広げ、全身の各種疾患に対して科学的根拠に基づいた薬物治療を行うための実践的な医薬品の使用方法を学ぶ。教員の大学病院薬剤部における実務経験を基に、医療チームの一員として患者の治療に貢献できる看護師となるべく、医薬品を投与した際の患者の管理や観察に必要な知識・技能・態度を身につけることを目的に講義を行う。
到達目標	（1）中枢神経に作用する薬物について、看護上の留意点を交えて説明できる。 （2）免疫系、アレルギー疾患、炎症性疾患に用いる薬物について、看護上の留意点を交えて説明できる。 （3）消化器系に作用する薬物について、看護上の留意点を交えて説明できる。 （4）抗がん薬について、看護上の留意点を交えて説明できる。 （5）生殖器系・物質代謝に作用する薬物について、看護上の留意点を交えて説明できる。 （6）抗感染症薬について、看護上の留意点を交えて説明できる。 （7）救急の際に使用される薬物、漢方薬、消毒薬について、看護上の留意点を交えて説明できる。
授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って講義を行います。講義は、教科書の内容を中心に液晶プロジェクターを用いて進めます。また、臨床的観点からの薬物治療や新薬の話題を合わせて提供します。毎回の授業でプリントを配布しますが、プリント内容は、授業前日までに webbox（ファイル共有システム）にアップロードしますので、事前学習にお役立て下さい。事前事後学修の確認テストを毎回の授業で実施する予定です。
科目学習の効果（資格）	看護師国家試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義の概要 中枢神経系に作用する薬物（1）	講義の進め方、注意事項、評価方法について説明する。中枢神経系のはたらきと薬物について、全身麻酔薬、催眠薬・抗不安薬、抗精神病薬について学修する。	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30 分）
2	中枢神経系に作用する薬物（2）	気分障害治療薬、パーキンソン症候群治療薬について学修する。	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30 分）
3	中枢神経系に作用する薬物（3）	抗てんかん薬、麻薬性鎮痛薬について学修する。	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30 分）
4	免疫治療薬	免疫系の基礎知識、免疫抑制薬、免疫増強薬・予防接種薬について学修する。	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30 分）
5	抗アレルギー薬・抗炎症薬（1）	抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬、炎症と抗炎症薬について学修する。	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30 分）
6	抗アレルギー薬・抗炎症薬（2）	ステロイド、関節リウマチ治療薬、痛風・高尿酸血症、片頭痛治療薬について学修する。	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30 分）
7	消化器系に作用する薬物（1）	消化性潰瘍治療薬、健胃・消化薬と消化管運動促進薬、制吐薬、下剤と止痢薬について学修する。	前回講義の教科書・プリントの復習（10 分） 該当範囲の教科書・プリントの予習（20 分）
8	消化器系に作用する薬物（2） 抗がん薬（1）	潰瘍性大腸炎・クローン病治療薬、駆虫薬について学修する。がん治療に関する基礎事項について、学修する。	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30 分）
9	抗がん薬（2）	抗がん薬各論について学修する。	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30 分）
10	生殖器系・物質代謝に作用する薬物	生殖器に作用する薬物、甲状腺疾患治療薬、視床下部・下垂体ホルモン、骨粗鬆症の治療薬、治療薬としてのビタミンについて学修する。	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30 分）
11	物質代謝に作用する薬物	糖尿病治療薬について学修する。	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30 分）
12	抗感染症薬（1）	感染症治療に関する基礎事項、抗感染症薬各論、感染症治療に関する問題点について学修する。	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30 分）
13	抗感染症薬（2）	抗感染症薬各論、感染症治療に関する問題点について学修する。	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30 分）
14	救急の際に使用される薬物、漢方薬、消毒薬	救急に用いられる薬物、急性中毒に対する薬物、漢方医学の基礎知識、消毒薬について学修する。	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30 分）
15	総合演習	第 1～14 回の学修内容を振り返る。	前回までに行った確認テストを復習しておくこと（30 分）

関連科目	人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ、疾病・治療論Ⅰ、Ⅱ、薬理学総論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	系統看護学講座　薬理学　疾病のなりたちと回復の促進３	吉岡充弘、泉　剛、井関　健	医学書院
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ナーシング・グラフィカ　疾病の成り立ち２　臨床薬理学	古川裕之	メディカ出版
2			
3			

評価方法 （基準）	定期試験（７０%）、確認テスト（３０%）、１００点満点の６０点以上で合格とする。
学生への メッセージ	私達が日常の生活で利用している薬剤から関心を持つと楽しく授業を受けられると思います。臨床で医師・薬剤師と意見交換が出来るよう、薬物に関する基礎的な知識を身につけましょう。
担当者の 研究室等	1 号館２階　非常勤講師室
備考	質問は、授業の前後 15 分間に教室、または非常勤講師室で受け付けます。また、メールでも受け付けます（メールアドレスは授業内でお知らせします）。遠慮せずにいらしてください。 授業内で行った確認テストは採点の上、次回授業内で返却し、解説をします。

科目名	薬理学総論	科目名（英文）	Pharmacology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	山口　太郎
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN1008a0		

授業概要・目的	薬物療法における看護師の役割として、（1）誤薬の防止、（2）治療効果の確認、（3）有害作用の予防と早期発見、（4）服薬に対する患者指導、（5）患者・家族に対する治療の説明、などがある。これらを適切に実行するためには、薬物が生体に及ぼす種々の作用及びその作用機序について詳細に学ぶ必要がある。薬理学総論では、薬物の作用を、分子、細胞、臓器、個体レベルで学習し、上記の役割を実践していく上で必要な薬物の基礎知識を修得する。また、薬物の投薬方法と投薬後の注意点、副作用とその対策、医薬品の取り扱い上の留意点等を総合的に理解し、臨床での実践へ向けた薬物療法の基盤を確かなものとする。
到達目標	（1）薬物療法における看護師の役割について概説できる。 （2）薬が作用するしくみについて、受容体、イオンチャネル、酵素、などを交えて説明できる。 （3）薬を投与した際の体内挙動（吸収、分布、代謝、排泄）について概説できる。 （4）薬物相互作用について例を挙げて説明できる。 （5）薬物の危険性について理解し、例を挙げて説明できる。 （6）薬に関連した法律について概説できる。 （7）自律神経系（交感神経・副交感神経）に作用する薬物について説明できる。 （8）体性神経系（運動神経、知覚神経）に作用する薬物について説明できる。 （8）心臓血管系に作用する薬物について、看護上の留意点を交えて説明できる。 （9）呼吸器系に作用する薬物について、看護上の留意点を交えて説明できる。 （１０）泌尿器系に作用する薬物について、看護上の留意点を交えて説明できる。
授業方法と留意点	授業方法は「講義」を中心として、問題等を用いた演習形式学習も行う。小テストを実施する場合もあるので、普段からの学習習慣を身につけるようにしてください。
科目学習の効果（資格）	看護師国家試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	薬理学を学ぶにあたって	薬理学とはなにか、薬による病気の治療について学修する	授業のまとめノートを作成すること。 予習（30 分）復習（1 時間）を目安に学習してください。
2	薬理学の基礎知識（1）	薬が作用するしくみ（受容体、イオンチャネル、酵素、トランスポーター）について学修する	授業のまとめノートを作成すること。 予習（30 分）復習（1 時間）を目安に学習してください。
3	薬理学の基礎知識（2）	薬の体内挙動（投与経路、吸収、分布、代謝、排泄）について学修する	授業のまとめノートを作成すること。 予習（30 分）復習（1 時間）を目安に学習してください。
4	薬理学の基礎知識（3）	薬物相互作用、薬効の個人差に影響する因子について学修する	授業のまとめノートを作成すること。 予習（30 分）復習（1 時間）を目安に学習してください。
5	薬理学の基礎知識（4）	薬物使用の有益性と危険性、薬と法律について学修する	授業のまとめノートを作成すること。 予習（30 分）復習（1 時間）を目安に学習してください。
6	看護師にとって必要な医薬品知識の重要性と看護の役割	看護師にとって必要な医薬品知識の重要性と看護の役割について学修する	授業のまとめノートを作成すること。 予習（30 分）復習（1 時間）を目安に学習してください。
7	末梢での神経活動に作用する薬物（1）	神経系による情報伝達、自律神経作用薬について学修する	授業のまとめノートを作成すること。 予習（30 分）復習（1 時間）を目安に学習してください。
8	末梢での神経活動に作用する薬物（2）	交感神経作用薬、副交感神経作用薬について学修する	授業のまとめノートを作成すること。 予習（30 分）復習（1 時間）を目安に学習してください。
9	末梢での神経活動に作用する薬物（3）	筋弛緩薬・局所麻酔薬について学修する	授業のまとめノートを作成すること。 予習（30 分）復習（1 時間）を目安に学習してください。
10	心臓・血管系に作用する薬物（1）	抗高血圧薬・狭心症治療薬について学修する	授業のまとめノートを作成すること。 予習（30 分）復習（1 時間）を目安に学習してください。
11	心臓・血管系に作用する薬物（2）	心不全治療薬、抗不整脈薬について学修する	授業のまとめノートを作成すること。 予習（30 分）復習（1 時間）を目安に学習してください。
12	心臓・血管系に作用する薬物（3）	利尿薬、脂質異常症治療薬について学修する	授業のまとめノートを作成すること。 予習（30 分）復習（1 時間）を目安に学習してください。
13	心臓・血管系に作用する薬物（4）	血液に作用する薬物について学修する	授業のまとめノートを作成すること。 予習（30 分）復習（1 時間）を目安に学習してください。
14	呼吸器系に作用する薬物	気管支喘息治療薬、鎮咳薬、去痰薬、呼吸促進薬について学修する	授業のまとめノートを作成すること。 予習（30 分）復習（1 時間）を目安に学習してください。
15	泌尿器系に作用する薬物	排尿を促す薬物、尿失禁に対する薬物、前立腺肥大症治療薬について学修する	授業のまとめノートを作成すること。 予習（30 分）復習（1 時間）を目安に学習してください。

関連科目	人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、薬物治療学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 （基準）	筆記試験１００点満点の６０点以上で合格とする。ただし、小テスト等の一定割合を評価に入れることもある。 尚、必要に応じて課題レポートを課すことがある。
学生への メッセージ	授業のまとめノートの作成や小テストを通して、普段からの学習習慣を身につけてください。疑問をもったときには遠慮なく質問してください。
担当者の 研究室等	1 号館 6 階　薬理学研究室
備考	講義内容をよく理解し、予習・復習するよう努めてください。

科目名	老年看護学援助論Ⅰ	科目名（英文）	Gerontological Nursing Ⅰ
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小川　宣子.田中　真佐恵.村瀬　由貴
ディプロマポリシー(DP)	DP2○,DP3◎,DP4○,DP6○,DP7○,DP8△		
科目ナンバリング	NDN2042a0		

授業概要・目的	（概要） 高齢者の生きてきた背景や価値観を踏まえたうえで、「高齢者が望む生活は何か」を重視する生活機能の視点からアセスメントし、高齢者の QOL を高める具体的ケアについて学びます。そのために、講義だけでなく、高齢者擬似体験や高齢者の生活支援についてのグループ学習・実技等を行い、高齢者理解を深めます。 （オムニバス方式/全 15 回） （小川宣子/4 回） 高齢者の生活機能から捉えた看護（コミュニケーション・活動・安全・余暇支援） (村瀬由貴/3 回) 高齢者の生活機能からとらえた看護（食事・清潔/身じたく・排泄） （田中真佐恵/２回） 認知症高齢者の理解と支援(2) （小川宣子、村瀬由貴、田中真佐恵/6 回） 高齢者疑似体験、高齢者の生活支援の演習、時代背景を踏まえた余暇支援の演習
到達目標	１）高齢者に生じやすい認知症への理解を深め、生活への影響や具体的援助を考えることができる。 ２)加齢や疾患に伴う日常生活能力の変化をアセスメントし、それに適した援助を考えることができる。 ３）高齢者の生きてきた時代背景を知り、長年の生活で培われた価値観や生活習慣を尊重する態度を養う。
授業方法と留意点	講義だけでなく、高齢者擬似体験や高齢者の生活支援の演習、時代背景を踏まえた余暇支援の企画を行います。これらはグループで実施するので、欠席しないようにしましょう。また、各講義や演習時に課すレポートや評価の対象になるので、必ず提出するようにしてください。事前・事後課題は学習の成果物としてファイル化します。なくさないように管理してください。やむを得ず欠席した場合は、必ず担当教員に連絡の上、後日、課題を提出してください。
科目学習の効果（資格）	看護師国家試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	高齢者疑似体験演習①	【演習】 グループに分かれ、高齢者疑似体験を行います。	【事前】 老年看護学実習Ⅰでの体験を思い出し、高齢者の身体的特徴について要点をレポートする(一時間) 【事後】 高齢者疑似体験から考察した高齢者への生活援助の視点をワークシートに記入し提出する(一時間)
2	高齢者疑似体験演習②	【演習】 グループに分かれ、高齢者疑似体験を行います。	【事前】 老年看護学実習Ⅰでの体験を思い出し、高齢者の身体的特徴について要点をレポートする(一時間) 【事後】 高齢者疑似体験から考察した高齢者への生活援助の視点をワークシートに記入し提出する(一時間)
3	認知症高齢者の理解と支援(1)	【講義】 認知症の疫学、定義、診断、病態、薬物療法等について学習します。	【事前】 認知症を理解するための資料（第２講目に配布）を読み、要点をまとめておく(一時間) 【事後】 認知症高齢者の援助について指示された内容をワークシートに記入し提出する(当日配布します)(一時間)
4	認知症高齢者の理解と支援(2)	【講義】 認知症の症状からくる生活障がいへの対応、家族への支援などの具体的なケアについて学習します。	事前】認知症を理解するための資料（第２講目に配布）を読み、要点をまとめておく(一時間) 【事後】認知症高齢者の援助について指示された内容をワークシートに記入し提出する（当日配布します）(一時間)
5	高齢者の生活機能から捉えた看護 （活動）	【講義】 高齢者における活動と休息のバランスや、活動状況に影響を与える心身の特徴を踏まえたアセスメントの視点、具体的な援助方法について学習します。	【事前】 テキスト P142～146 を読み、廃用性症候群の原因と種類について要点をまとめておく(一時間) 【事後】 高齢者の活動の援助の必要性について指示された内容をワークシートに記入し提出する（当日配布します）(一時間)
6	高齢者の生活機能から捉えた看護 （休息）	【講義】 高齢者の活動・休息は、心身の機能の変化によって安全・安楽が脅かされやすくなります。高齢者の安全、安楽を支えるアセスメントの視点、具体的な援助方法について学習します。	【事前】 高齢者の活動を阻害する要因についてテキストを読んで要点をまとめておく。(一時間) 【事後】 高齢者の休息の援助方法について指示された内容をワークシートに記入し提出する(当日配布します)(一時間)
7	高齢者の生活機能から捉えた看護 （食事）	【講義】 高齢者の食・栄養における特徴を踏まえたアセスメントの視点、具体的な援助方法について学習します。	【事前】 高齢者の食事や栄養の特徴について要点をまとめておく(一時間) 【事後】 高齢者の食事に関する意思決定について自己の考えをレポートに記入し提出する(一時間)
8	高齢者の生機能から捉えた	【講義】	【事前】

	看護 （清潔/身じたく）	高齢者の皮膚の状態等を踏まえながら、清潔/身じたくに関するアセスメントの視点、具体的な援助方法について学習します。	加齢による皮膚や粘膜の変化についてテキストを読み要点をまとめておく（一時間） 【事後】 高齢者の清潔の援助方法について指示された内容をワークシートに記入し提出する（一時間）
9	高齢者の生活機能から捉えた看護 （排泄）	【講義】 高齢者の排泄機能における特徴を踏まえたアセスメントの視点、具体的な援助方法について学習します。	【事前】 加齢による排泄への影響についてテキストを読み要点をまとめておく（一時間） 【事後】 高齢者の排泄の援助方法について指示された内容をワークシートに記入し提出する（一時間）
10	高齢者を尊重した生活支援の実際	【講義】 高齢者施設での生活支援の実際と高齢者を尊重したダイバージョナルセラピーワーカーとしての活動をゲストスピーカーの講演を通して学びます	【事前】 テキスト P218～223 を読み、高齢者の社会参加についての要点をまとめておく（一時間） 【事後】 講演を聴講後に学びをレポートに記入し提出する（当日に配布します）（一時間）
11	高齢者の時代背景を踏まえた余暇支援①	【演習】 高齢者の生きてきた背景を踏まえた余暇支援を個別的に行うための演習を行います。	【事前】 高齢者の生きてきた時代背景を理解するための参考図書を探し持参する（一時間） 【事後】 授業時に作成した援助計画を見直し修正を行う（一時間）
12	高齢者の時代背景を踏まえた余暇支援②	【演習】 高齢者の生きてきた背景を踏まえた余暇支援を個別的に行うための演習を行います。	【事前】 高齢者の生きてきた時代背景を理解するための参考図書を探し持参する（一時間） 【事後】 授業時に作成した援助計画を見直し修正を行う（一時間）
13	高齢者の生活支援演習①	【演習】 高齢者の特徴を踏まえた生活支援の方法を事例からグループで検討し実施します。	【事前】 事前に配布された事例を読み、援助のポイントとなる情報を把握してくること（一時間） 【事後】 配布するワークシートに学びを記入し、援助計画の修正を行って提出する（一時間）
14	高齢者の生活支援演習②	【演習】 高齢者の特徴を踏まえた生活支援の方法を事例からグループで検討し実施します。	【事前】 事前に配布された事例を読み、援助のポイントとなる情報を把握してくること（一時間） 【事後】 配布するワークシートに学びを記入し、援助計画の修正を行って提出する（一時間）
15	高齢者の生活機能から捉えた看護 （コミュニケーション）	【講義】 高齢者のコミュニケーションにおける特徴を踏まえたアセスメントの視点、具体的な援助方法について学習します。	【事前】老年看護学実習Ⅰでの体験を思い出し、気がかりに感じた場面をレポートに記入しておく。（一時間） 【事後】 授業時に作成したワークシートを完成させ、テキスト P198～212 の要点をまとめておくこと。（一時間）

関連科目	人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ、薬理学総論、老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅱ、看護基礎技術Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ、老年看護学実習Ⅰ～Ⅲ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	系統看護学講座　老年看護学	北川公子	医学書院
2	医学書院の生活機能から見た老年看護過程＋病態・生活機能関連図	山田律子、井出訓	医学書院
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	定期試験 70%、レポート 30% 演習中の学習態度や課題提出状況も加味して総合的に評価します。
学生への メッセージ	既習の基礎看護学を高齢者に適応する知識や技術と、老年看護学概論で学んだ「加齢現象」をもとにしての学習になります。 しっかりと復習、理解した上で、老年看護学援助論に取り組みましょう。 授業担当者の小川宣子は、病院での内科系病棟での 15 年間の実務経験を生かして高齢者への援助方法について実践的な教育を行う。 授業担当者の村瀬由貴は、病院での外科系病棟での 15 年間の実務経験を生かして演習での助言を行っていく。 授業担当者の田中真佐恵は、病院での外科系病棟での 10 年間の実務経験をベースとした介護・福祉領域での看護の経験を生かして演習での助言を行っていく。
担当者の 研究室等	７号館３階研究室 10
備考	

科目名	老年看護学援助論Ⅱ	科目名（英文）	Gerontological Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小川　宣子.田中　真佐恵.村瀬　由貴
ディプロマポリシー(DP)	DP2○,DP3◎,DP4○,DP6○,DP7○,DP8○		
科目ナンバリング	NDN2043a0		

授業概要・目的	加齢に伴う身体的変化や心理的変化についての知識をもとに、高齢者の健康逸脱からの回復を促す看護と終末期を支える看護について学習します。 高齢者によくみられる脳神経・循環器・呼吸器・内分泌・筋骨格系等の疾患をもつ方への援助方法を学習したうえで、健康上の課題を解決するための看護過程が展開できる能力を養います。 （オムニバス方式/全 15 回） （小川宣子/6 回） 看護過程の展開（考え方・アセスメント），健康段階に応じた高齢者の看護，疾患を持つ高齢者の看護（運動器系），退院支援の看護，機能回復を促す看護，高齢者のエンドオブライフケア （村瀬由貴/１回） 疾患を持つ高齢者の看護（脳・神経系） （田中真佐恵/１回） 疾患を持つ高齢者の看護（呼吸器・循環器・内分泌系） （小川宣子、村瀬由貴、田中真佐恵/7 回） 看護過程の展開（アセスメント①②・看護の方向性・計画立案①②・計画立案発表①②）
到達目標	１）疾患を持つ高齢者の健康障害の特徴と看護について理解できる。 ２）エンドオブライフケアが必要な高齢者と家族の看護について理解できる。 ３）健康障害を持つ高齢者の看護過程の展開ができる。
授業方法と留意点	授業はオムニバス形式で行います。基本的にはテキストを使用して授業を進めますが、適宜プリント等の補助教材を使用します。毎回、テキストと配布したプリントを必ず持参してください。 講義で学習した内容については毎回復習を行い、疑問があれば、解決を図るようにしてください。 演習では、高齢者への看護実践にむけた個人目標を設定し、目標達成を目指した主体的な学習を行っていきます。自己学習や事前・事後学習の成果物はポートフォリオとしてまとめますので、なくさないように管理してください。演習ではグループディスカッションを毎回行い、グループで看護実践方法を検討していきます。積極的に発言し欠席しないように留意してください。 また、各講義や演習時に課題を課すレポートも評価の対象となるので、必ず提出するようにして下さい。やむを得ず欠席した場合は、必ず担当教員に連絡の上、課題を提出してください。
科目学習の効果（資格）	臨地実習での看護実践のために必要な基本的な知識を得ることができます。 看護師国家試験にも必須の学習内容です。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス/ 看護過程の展開 （１：考え方・立案の仕方）	【講義】 老年看護における看護過程の展開の考え方、ポイントについて学びます。	【事前】 高齢者の看護の特徴についてテキストや資料を読み直して要点をレポートにまとめておく(一時間) 【事後】 看護過程の事例に関する疾患の特徴・治療について学習し、ワークシートにまとめて提出する(当日配布します)（一時間）
2	看護過程の展開 （２:健康段階に応じた高齢者看護）	【講義】 老年看護では、急性期・慢性期・回復期・維持期等、様々な健康段階を対象とし、各々で看護の視点も異なります。段階の見極め方や、各段階でのアセスメントの視点や看護のあり方について学習します。	【事前】 テキスト第 7 章（P314～344）を読み、治療を必要とする高齢者の看護の要点をまとめておく(一時間) 【事後】 手術を受ける高齢者に必要な看護の要点をワークシートにまとめて提出する（当日配布します）（一時間）
3	疾患をもつ高齢者の看護 （１：運動器疾患）	【講義】 骨粗鬆症や大腿骨頸部骨折、サルコペニア等、高齢者に多い筋骨格系の疾患におけるアセスメントの視点と具体的な援助について学びま	【事前】 高齢者に多い運動器疾患の特徴を調べて加齢に伴う変化と関連させてレポートしておく(一時間) 【事後】 看護過程の事例に予測される看護の必要性についてワークシートにまとめて提出する(一時間)
4	疾患をもつ高齢者の看護 （２：脳神経系疾患）	【講義)脳出血や脳梗塞等、パーキンソン病等、高齢者に多い脳・神経系疾患におけるアセスメントの視点と具体的な援助について学びます。	【事前】 高齢者の加齢に伴う身体機能の変化を見直しておく(一時間) 【事後】 リハビリ期の高齢者に必要な看護について要点をワークシートにまとめて提出する(一時間)
5	疾患をもつ高齢者の看護 （３：呼吸器・循環器・内分泌疾患）	【講義】COPD、虚血性心疾患、糖尿病等高齢者に多い呼吸器・循環器・分泌系疾患におけるアセスメントの視点と具体的な援助について学びます。	【事前】 高齢者の加齢に伴う身体機能の変化を見直しておく(一時間) 【事後】 在宅療養を行う高齢者の看護について要点をワークシートにまとめて提出する(当日配布します)（一時間）
6	看護過程の展開 （３：退院支援）	【講義】 疾患や障害を抱えながら退院していく高齢者への退院支援におけるアセスメントや看護について学習します。	【事前】 高齢者を支える家族の世帯構成の特徴や日本の課題を見直してまとめておく(一時間) 【事後】 看護過程の事例に必要な退院支援を考え、ワークシートにまとめて提出する（当日配布します）（一時

				間）
	7	障害を持つ高齢者の回復を支える看護	【講義】 認定看護師をゲストスピーカーに招き、急性期病院での機能回復のための看護の実践を学びます。看護目標の視点やチーム連携についても考えます。	【事前】 援助論Ⅰで学習した食事援助の内容から高齢者にとっての食事の意義について見直しをしてください。（一時間） 【事後】 講義後に学びをまとめるレポートがあります。（当日配布します）（一時間）
	8	看護過程の展開 （４：病態のアセスメント）	【講義・演習】 看護過程の事例の疾患関連情報のアセスメントの視点について解説します。 加齢変化を踏まえながら、二次的障害の予測を思考していきます。	【事前】 ワークシートに沿って、事例の健康上の課題を抽出して記入する（一時間） 【事後】 グループワーク後に不足する内容を記載し次回提出する（一時間）
	9	看護過程の展開 （５：生活機能のアセスメント）	【講義・演習】 看護過程の事例について、生活機能の側面からアセスメントの視点について解説します。	【事前】 ワークシートに沿って、事例の生活機能の分析をおこなって記入する（一時間） 【事後】 グループワーク後に不足する内容を記載し次回提出する グループワークでの学びを活かしながら、個別で関連図をまとめる（一時間）
	10	看護過程の展開 （６：看護の方向性）	【講義・演習】 看護過程の事例について、看護の必要性を総括し、優先度の高い看護の方針について検討します。	【事前】 事例の関連図を作成する（一時間） 【事後】 グループワーク後に不足する内容を記載し次回提出する（一時間）
	11	看護過程の展開 （７：看護計画立案Ⅰ）	【演習】 グループ単位で、関連図から浮かび上がった課題についての看護計画を立案します。	【事前】 看護計画立案に必要な参考書等の準備（一時間） 【事後】 ワークシートに沿って課題に取り組む
	12	看護過程の展開 （８：看護計画立案Ⅱ）	【演習】 グループ単位で、看護計画から援助計画を詳細に検討し、援助場面を実際に行います。	【事前】 看護計画立案に必要な参考書等の準備 【事後】 ワークシートに沿って課題に取り組む（一時間）
	13	看護過程の展開 （９：発表）	【演習】 グループ単位で、立案した看護計画を発表します。	【事前】 援助計画の見直しと発表準備（一時間） 【事後】 行った援助の評価と修正をワークシートに沿って行う（一時間）
	14	看護過程の展開 （10：発表）	【演習】 グループ単位で、立案した看護計画を発表します。	【事前】 援助計画の見直しと発表準備（一時間） 【事後】 行った援助の評価と修正をワークシートに沿って行う（一時間）
	15	エンド・オブ・ライフケア	【講義】 高齢者のエンドオブライフケアに必要な看護の視点の理解と看取りをする家族への援助を学びます。	【事前】 テキスト第８章（P348～357）を読んでおく（一時間） 【事後】 高齢者の意思決定についての自己の考えをまとめレポートする（一時間）

関連科目	老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅰ、老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	老年看護学	北川公子	医学書院
2	生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図	山田律子、井出訓	医学書院
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	老年看護学　概論と看護の実践　第５版	奥野茂代、大西和子	ヌーヴェルヒロカワ
2	老年看護技術　アセスメントとその根拠	奥野茂代、大西和子	ヌーヴェルヒロカワ
3			

評価方法（基準）	定期試験 60%、提出物・レポート（授業内で指示するもの）40%
学生へのメッセージ	疾患をもつ対象者の看護については老年期における特徴をふまえて考えていくことが必要となります。高齢者によくみられる疾患の特徴と、どのような看護を必要とするのかについての基本を学習しますので、これまでに学習した疾病治療論や看護の実践方法について復習をしておいてください。 授業担当者の小川宣子は、病院での内科系病棟での 15 年間の実務経験を生かして高齢者への援助方法について実践的な教育を行う。 授業担当者の村瀬由貴は、病院での外科系病棟での 15 年間の実務経験を生かして演習での助言を行っていく。 授業担当者の田中真佐恵は、病院での外科系病棟での 10 年間の実務経験をベースとした介護・福祉領域での看護の経験を生かして演習での助言を行っていく。
担当者の研究室等	7 号館 3 階研究室 10
備考	看護過程の展開の演習は進度によって、内容が変更になる場合があります。 授業中に案内します。

科目名	老年看護学概論	科目名（英文）	Introduction to Gerontological Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期後半	授業担当者	松田　千登勢
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP4○,DP6◎,DP8△		
科目ナンバリング	NDN2041a0		

授業概要・目的	老年看護の理念とライフサイクルにおける老年期の主要概念を理解した上で、高齢者とその家族に、健康とＱＯＬを高めるための看護を学ぶ。具体的には、統計データを通して高齢化の現状を学び、加齢による身体・心理・社会的変化と生活に及ぼす要因について理解し、質の高い健康生活のあり方を学ぶ。さらに高齢者とその家族をとりまく社会制度について学習する。
到達目標	老年看護の概要が理解できる。 超高齢社会について、疫学的側面から理解できる。 高齢者の身体・心理・社会的変化について理解できる。 高齢者をとりまく制度・施策について理解できる。 様々な場での高齢者看護の特徴を理解できる。 老年看護における倫理的課題について理解できる。
授業方法と留意点	基本的には授業計画に沿って授業します。指定した教科書を中心に講義を進めます。必要に応じてプリントを配布しますが、プリントの内容も重要資料となります。 第２回、５回、６回は課題を出し、グループワークも行います。 普段から広い視野で学習する習慣を身につけましょう。
科目学習の効果（資格）	看護師国家試験の科目です。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	老年看護の概念	老年看護とは 老年看護学の理念と目標、概念、活用できる理論について学びます。	事前課題事後課題 テキストをｐ2-20、ｐ70-82 を事前に予習して、概要をとらえておいてください。（３０分） 事後課題 講義資料を合わせて、内容を整理し、まとめてください。（１時間）
2	高齢者を取り巻く社会の理解	統計データから高齢者を取り巻く社会状況に関して学習します。	高齢社会白書などの統計データを事前に準備・学習し、自分の担当分をまとめてください。（１時間） 事後課題 グループでまとめたものを事前の資料と合わせて整理をしてください。（３０分）
3	加齢現象の理解（１） 身体的変化	老年期にある人の身体的変化について学習します	事前課題 教科書ｐ94-118 を読み、加齢現象について予習をしてください。（３０分） 事後課題 講義資料を合わせて、内容を整理してください。（１時間）
4	加齢現象の理解（２） 心理・社会的変化	老年期にある人の認知機能、心理・社会的変化について学習します。	事前課題 教科書ｐ89-91、297-299 を読み、加齢現象について予習をしてください。（３０分） 事後課題 配布するプリントに加齢現象を整理してください。（１時間）
5	高齢者とその家族の理解	高齢者と家族を取り巻く社会情勢、介護する家族の特徴とそれに応じたケアについて学習します。	事前課題 教科書ｐ378-382 を読み、高齢者の家族について予習をしてください。（３０分） 事後課題 講義資料を合わせて、内容を整理してください。（３０分）
6	高齢者を取り巻く関連法：医療制度・介護保険制度他	高齢者の保健・医療・福祉対策について、関係する制度・施策について学習します。	事前課題 教科書ｐ36-53 を読み、医療制度、介護保険制度について予習をしてください。（３０分） 事後課題 配布するプリントをもとに整理してください。（１時間）
7	高齢者への看護活動：病院・高齢者施設・地域	高齢者看護を実践する場として、病院・高齢者施設・地域における高齢者看護の特徴について学びます。	事前課題 教科書 318-344 を読み、様々な場で高齢者の看護について予習をしてください。（３０分） 事後課題 配布するプリントにそれぞれの場の看護を整理してください。（１時間）
8	高齢者へのエンドオブライフ・ケア 老年看護における倫理的課題	高齢者の死に関する状況の特徴とそのケアについて学習します。また、高齢者の意思決定、高齢者虐待など倫理的課題について学習します	事前課題 教科書ｐ348-357、54-66 を読み、倫理的課題等について予習をしてください。（３０分） 事後課題 講義資料を合わせて、内容を整理してください。（３０分）
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	看護学概論、公衆衛生学、老年看護学援助論Ⅰ、老年看護学援助論Ⅱ、

	看護関係法規
教科書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>系統看護学講座：老年看護学</td><td>北川公子</td><td>医学書院</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>老年看護学概論</td><td>正木治恵、真田弘美</td><td>南江堂</td></tr><tr><td>2</td><td>最新老年看護学</td><td>水谷信子、水野敏子</td><td>日本看護協会出版会</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
評価方法 （基準）	定期試験（80%）、レポート（20%）で評価します。
学生への メッセージ	予習、復習はもちろんのことですが、できるだけ高齢者と関わる機会を増やして、高齢者を理解してください。 講義担当者の松田千登勢は病院の内科病棟で５年間勤務した実務経験を生かして講義を行う。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　研究室 6（松田）
備考	

科目名	老年看護学実習Ⅰ	科目名（英文）	Clinical Practice in Gerontological Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	松田　千登勢.小川　宣子.田中　真佐恵.村瀬　由貴
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP4◎,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎		
科目ナンバリング	NDN2044a0		

授業概要・目的	【概要】 介護保険サービスを利用しながら、地域で暮らすさまざまな健康レベルにある高齢者との関わりを通して、理解を深める。 【目的】 地域で暮らす高齢者とのかかわりを通して、高齢者の身体的・心理的・社会的変化や特徴を理解する。
到達目標	１．高齢者の身体的特徴を理解できる。 ２．地域で暮らす高齢者の「思い」を理解できる。 ３．高齢者の地域での生活状況を理解できる。 ４．老年看護のあり方について自己の考えをまとめることができる。 ５．看護学生として適切な態度で実習に臨むことができる。
授業方法と留意点	実習前のオリエンテーションにて詳細を指示します。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【事前の計画】 １）実習目的・目標、方法、留意点など,事前にオリエンテーションを行う。 ２）事前の情報をもとに、実習施設、高齢者の特徴を事前に学修する。 【実習計画】　詳細についてはオリエンテーションにて説明します。 （１週目） 月曜日　　学内・オリエンテーション・実習準備 火曜日　　実習施設・実習 水曜日　　実習施設・実習　　火曜日から金曜日の４日間のうち実習施設での実習２日間、 木曜日　　実習施設・実習　　学内で時代背景の理解等の学習１日間 金曜日　　実習施設・実習 土曜日　　学内：グループワーク・発表、　個人面談・記録整理・記録提出 【事後の計画】 臨地での体験の振り返りを通じて、自己の看護観、高齢者観および今後の学生自身の課題を明確にする。
関連科目	老年看護学概論
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	実習目的・目標の達成状況、実習記録、実習態度から評価表を用いて評価します。
学生へのメッセージ	すでに学んだ専門基礎科目、専門科目で学んだ内容の確認をしてください。 実習担当者の松田千登勢は病院の内科系病棟で５年間勤務した実務経験を生かして実習指導を行う。 実習担当者の小川宜子は病院の内科系病棟で 15 年間勤務した実務経験を生かして実習指導を行う。 実習担当者の村瀬由貴は、病院での外科系病棟での 15 年間の実務経験を生かして実習指導を行う。 実習担当者の田中真佐恵は、病院の外科系病棟で 10 年間勤務した実務経験を活かして実習指導を行う。
担当者の研究室等	７号館３階
備考	

科目名	老年看護学実習Ⅱ	科目名（英文）	Clinical Practice in Gerontological Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	松田　千登勢.小川　宣子.田中　真佐恵.村瀬　由貴
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎		
科目ナンバリング	NDN2045a0		

授業概要・目的	【概要】 施設で生活するさまざまな健康レベルにある高齢者とその家族の理解を深めるとともに、個別性に応じた日常生活の実際を知る。また、保健・医療・福祉チームの中での連携および看護の役割について学ぶ。 【目的】 施設で生活する高齢者・家族の身体的・心理的・社会的特徴および家族や社会資源についての理解を深め、高齢者の生活を支える方法について考える力を養う。
到達目標	１．加齢に伴う身体的・心理的および社会的変化や生活背景・価値観を踏まえ、高齢者の生活状況を理解できる。 ２．高齢者の個別性に応じた日常生活援助が実施できる。 ３．高齢者・家族を取り巻く保健・医療・福祉に関する社会資源の実際について理解できる。 ４．介護保険施設における看護師の役割について理解できる。 ５．看護学生として、適切な態度で実習を行い、今後の自己の課題を明確にすることができる。
授業方法と留意点	実習前のオリエンテーションにて詳細を指示します。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【事前の計画】 １）実習目的・目標、方法、留意点など,事前にオリエンテーションを行う。 ２）事前の情報をもとに、実習施設、高齢者の特徴を事前に学修する。 【実習計画】詳細についてはオリエンテーションにて説明します。 月曜日　　実習施設・実習 火曜日　　実習施設・実習 水曜日　　実習施設・実習 木曜日　　実習施設・実習 金曜日　　学内：グループワーク・発表、個人面談・記録整理・記録提出 受け持ち高齢者の疾患等及び実施されているケアについて学修を追加すること
関連科目	老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅰ、老年看護学実習Ⅰ
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	実習目的・目標の達成状況、実習記録、実習態度から評価表を用いて評価します。
学生へのメッセージ	すでに学んだ老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅰで学んだ内容の確認をしてください。 実習担当者の松田千登勢は、病院の内科系病棟で 5 年間勤務した実務経験を生かして実習指導を行う。 実習担当者の小川宣子は病院の内科系病棟で 15 年間勤務した実務経験を生かして実習指導を行う。 実習担当者の村瀬由貴は、病院での外科系病棟での 15 年間の実務経験を生かして実習指導を行う。 実習担当者の田中真佐恵は、病院の外科系病棟で 10 年間勤務した実務経験を活かして実習指導を行う。
担当者の研究室等	７号館３階　研究室 6（松田）、研究室 10（小川）、研究室 4（村瀬）、共同研究室 2（田中真）
備考	

科目名	老年看護学実習Ⅲ	科目名（英文）	Clinical Practice in Gerontological Nursing III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	松田　千登勢.小川　宣子.田中　真佐恵.村瀬　由貴
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎		
科目ナンバリング	NDN3046a0		

授業概要・目的	【概要】 疾患や障がいを持ち、治療を受けている高齢者の健康を回復・維持する過程における看護上の課題に対して、身体的・心理的・社会的側面からのアセスメントを行い、し看護する方法を学ぶ。また、ケアにおいては老年看護に必要な基礎知識・技術を活用し、看護師として必要な倫理的態度を養う。 【目的】 入院治療を必要とする高齢者を総合的に理解し、もてる力を発揮してその人らしく生活できるよう健康上の課題を解決する能力を養う。
到達目標	１．加齢に伴う変化や、高齢者に生じやすい健康問題から高齢者を総合的に理解できる。 ２．疾病や障がいをもつ高齢者の身体的・心理的・社会的機能をアセスメントし、健康上の課題を明確にできる。 ３．健康問題を持つ高齢者の特性・個別性を考慮した看護計画が立案できる。 ４．高齢者の状態に適した看護援助を実践し、評価・修正することができる。 ５．高齢者の人権と権利を擁護する態度を身につけることができる。 ６．適切な態度で実習に臨むことができる。 ７．実習を通して、高齢者観や看護の役割について、自分の考えを深めることができる。
授業方法と留意点	実習前のオリエンテーションにて詳細を指示します。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【事前の計画】 １）実習目的・目標、方法、留意点など,事前にオリエンテーションを行う。 ２）事前の情報をもとに、高齢者によくみられる疾患及びそのケアについて事前に学修する。 【実習計画】詳細についてはオリエンテーションにて説明します。 （１週目） 月曜日　　実習施設・実習 火曜日　　実習施設・実習 水曜日　　実習施設・実習 木曜日　　学内：個人面談 金曜日　　実習施設・実習 （２週目） 月曜日　　実習施設・実習 火曜日　　実習施設・実習 水曜日　　実習施設・実習 木曜日　　学内：実習のまとめ 金曜日　　学内：個人面談・記録整理・記録提出 実習中、受け持ち高齢者の疾患及び必要なケアに関する学習を追加すること
関連科目	老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅰ、老年看護学援助論Ⅱ、老年看護学実習Ⅰ、老年看護学実習Ⅱ
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	実習目的・目標の達成状況、実習記録、実習態度から評価表を用いて評価します。
学生へのメッセージ	すでに学んだ専門基礎科目、専門科目、老年看護学で学んだ内容の確認をしてください。 実習担当者の松田千登勢は、病院の内科系病棟で 5 年間勤務した実務経験を生かして実習指導を行う。 実習担当者の小川宣子は病院の内科系病棟で 15 年間勤務した実務経験を生かして実習指導を行う。 実習担当者の村瀬由貴は、病院での外科系病棟での 15 年間の実務経験を生かして実習指導を行う。 実習担当者の田中真佐恵は、病院の外科系病棟で 10 年間勤務した実務経験を活かして実習指導を行う。
担当者の研究室等	７号館３階　研究室６（松田）、研究室 10（小川）、研究室４（村瀬）、共同研究室２（田中真）
備考	

基　　礎　　科　　目

科目名	英語Ⅰ	科目名（英文）	English Ⅰ
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ｺｱﾝ ﾏｸﾄﾞｩｰｶﾞﾙ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	NEN1301c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ファッション 1	コース紹介 教科書ユニット 1 ″The Guy with the Green Hair″ 新しい語彙 読解とリスニング ディスカッション	学習ユニット 1 語彙（先生のプリント） ミニプレゼンテーションを準備する
2	ファッション 2	ユニット 1 語彙テスト ディスカッション ミニプレゼンテーション	学習ユニット 3 語彙（先生のプリント
3	スマートフォン中毒 1	教科書ユニット 3 ″I'm not Addicted″ ユニット 3 語彙テスト 読解とリスニング ディスカッション	ミニプレゼンテーションを準備する
4	スマートフォン中毒 2	ディスカッション ミニプレゼンテーション	クラスプレゼンテーションのための実践
5	クラスプレゼンテーション 1	学生は 1 号機または 3 号機のミニプレゼンテーションをクラスに提示します 学生は質問に答える 学生は質問をする	学習ユニット 4 語彙（先生のプリント）
6	SNS1	教科書ユニット 4 ″Social Media Star″ ユニット 4 語彙テスト 読解とリスニング ディスカッション	ミニプレゼンテーションを準備する
7	SNS2	ディスカッション ミニプレゼンテーション	学習ユニット 5 語彙（先生のプリント）
8	ジェンダー問題 1	教科書ユニット 5 ″Who pays?″ ユニット 5 語彙テスト 読解とリスニング ディスカッション	ミニプレゼンテーションを準備する
9	ジェンダー問題 2	ディスカッション ミニプレゼンテーション	クラスプレゼンテーションのための実践
10	クラスプレゼンテーション 2	学生は 4 号機または 5 号機のミニプレゼンテーションをクラスに提示します 学生は質問に答える 学生は質問をする	学習ユニット 7 語彙（先生のプリント）
11	モダンファミリ問題 1	教科書ユニット 7 ″Family Values″ ユニット 7 語彙テスト 読解とリスニング ディスカッション	ミニプレゼンテーションを準備する
12	モダンファミリ問題 2	ディスカッション ミニプレゼンテーション	学習ユニット 9 語彙（先生のプリント）
13	モダンファミリ問題 3	教科書ユニット 9 ″A Visit to Grandma″ ユニット 9 語彙テスト 読解とリスニング ディスカッション	ミニプレゼンテーションを準備する
14	モダンファミリ問題 4	ディスカッション ミニプレゼンテーション	クラスプレゼンテーションのための実践
15	クラスプレゼンテーション 3	学生は 7 号機または 9 号機のミニプレゼンテーションをクラスに提示します 学生は質問に答える 学生は質問をする	学生はコースを見直すべきです

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Impact Issues 1	Richard R. Day, Joseph Shaules, Junko Yamanaka	Pearson（ピアソン）
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
評価方法 （基準）	全学共通英語課題 A　20% 全学共通英語課題 B　10% 定期試験　50% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　20%
学生への メッセージ	語学学習には、映画や音楽、テレビドラマやスポーツ中継など、興味のあるものを原語で楽しむことが効果的です。
担当者の 研究室等	1 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅰ	科目名（英文）	English Ⅰ
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中道　英美子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	NEN1301c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	入院患者を迎える	アニメーションを視聴し、内容把握、英語による質疑応答、小テスト	テキスト p. 1 - p. 3
2	病院内施設、病院内備品	テーマに関する文法、語彙の確認、小テスト	テキスト p. 4 - p. 6 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認
3	バイタルサイン確認	アニメーションを視聴し、内容把握、英語による質疑応答、小テスト	テキスト p. 7 - p. 9 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認
4	バイタル測定機器、看護物品、脈拍測定部位	テーマに関する文法、語彙の確認、小テスト	テキスト p. 10 - p. 12 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認
5	痛みのアセスメント	アニメーションを視聴し、内容把握、英語による質疑応答、小テスト	テキスト p. 13 - p. 15 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認
6	痛みを表す表現、痛みに関する問診、体の部位	テーマに関する文法、語彙の確認、小テスト	テキスト p. 16 - p.18 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認
7	様々な症状	アニメーションを視聴し、内容把握、英語による質疑応答、小テスト	テキスト p. 19 - p. 21 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認
8	症状チェック表、検査項目	テーマに関する文法、語彙の確認、小テスト	テキスト p. 22 - p. 24 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認
9	体位変換、移乗	アニメーションを視聴し、内容把握、英語による質疑応答、小テスト	テキスト p. 25 - p. 27 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認
10	体位、動きの表現、歩行補助機器	テーマに関する文法、語彙の確認、小テスト	テキスト p. 28 - p. 30 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認
11	様々な診療科	アニメーションを視聴し、内容把握、英語による質疑応答、小テスト	テキスト p. 31 - p. 33 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認
12	診療科、専門医、検査のための表現、人体器官系	テーマに関する文法、語彙の確認、小テスト	テキスト p. 34 - p. 36 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認
13	医学英語の構造	アニメーションを視聴し、内容把握、英語による質疑応答、小テスト	テキスト p. 37 - p. 39 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認
14	復習問題	テーマに関する文法、語彙の確認、小テスト	テキスト p. 1 - p. 39 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認
15	前期のまとめと復習	前期のまとめと復習	テキスト p.1 - p. 39 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Talking with Your Patients in English	Mitsuko Hirano, Christine D. Kuramoto, Ryota Ochiai	SEIBIDO
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	全学共通英語課題 A　20% 全学共通英語課題 B　10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　70%
学生への メッセージ	This class will be conducted as much as possible in English. Please come to class every week on time and prepared to participate and converse using English.
担当者の 研究室等	1 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅰ	科目名（英文）	English Ⅰ
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ヘドリックⅢ　ロイ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	NEN1301c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	自己紹介	
2	Pre-Unit Pages 8-15	音読、英文内容把握、英語による質疑応答、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
3	Unit 1: Hospital Departments Pages 16-19	冠詞の使い方、位置の説明、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
4	Unit 2: Application Forms Pages 20-23	音読、英文内容把握、英語による質疑応答、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
5	Unit 3: Parts of the Body Pages 24-28	疑問詞、疑問文の作り方、用紙に記入する方法、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
6	Unit 4: Illnesses Pages 29-33	音読、英文内容把握、英語による質疑応答、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
7	Review: Units 1-4 Pages 34-37	時制　(現在進行形、現在形)、健康上の問題について説明する、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
8	Unit 5: Daily Routine Pages 38-43	音読、英文内容把握、英語による質疑応答、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
9	Unit 6: Hospital Objects Pages 44-48	過去時制、病気と症状を説明する、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
10	Unit 7: Locations of Hospital Objects Pages 49-54	音読、英文内容把握、英語による質疑応答、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
11	Unit 8: Hospital Directions and Instructions Pages 55-59	前置詞、休暇中にしたことを説明する、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
12	Review: Unites 5-8 Pages 60-66	音読、英文内容把握、英語による質疑応答、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
13	Unit 9: Directions Pages 67-70	未来形、夏休みの予定を説明する、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
14	Unit 10: Chatting with a Patient Pages 71-76	英文内容把握、英語による質疑応答、まとめと復習、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
15	Unit 11: Taking a Medical History Pages 77-81	英文内容把握、英語による質疑応答、まとめと復習、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ホスピタルイングリッシュ＜改訂版＞ Vital Signs [Revised Edition]	Vivian Morooka	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 A　20% 全学共通英語課題 B　10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　70%
学生へのメッセージ	指示に従って、しっかりと予習をし、休まずに積極的な態度で臨んでください。このクラスは英語で実施します。 I am a native English speaker, and this class will be conducted as much as possible in English. Please come to class every week on time and prepared to participate and converse using English, not just for the lessons, but for every aspect of the class.
担当者の	1号館2階非常勤講師室

研究室等	
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱ	科目名（英文）	English II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ｴｱﾝ ﾏｸﾄﾞｩｰｶﾞﾙ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	NEN1302c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	マナー / 作法	教科書ユニット 11 ″Pet Peeve″ 新しい語彙 読解とリスニング ディスカッション	学習ユニット 11 語彙（先生のプリント） ミニプレゼンテーションを準備する
2	マナー / 作法 2	ユニット 11 語彙テスト ディスカッション ミニプレゼンテーション	学習ユニット 12 語彙（先生のプリント）
3	障害と平等 (Disability and Equality)	教科書ユニット 12 ″Close your eyes and see″ ユニット 12 語彙テスト 読解とリスニング ディスカッション	ミニプレゼンテーションを準備する
4	障害と平等 (Disability and Equality) 2	ディスカッション ミニプレゼンテーション	クラスプレゼンテーションのための実践
5	クラスプレゼンテーション 1	学生は 11 号機または 12 号機のミニプレゼンテーションをクラスに提示します 学生は質問に答える 学生は質問をする	学習ユニット 13 語彙（先生のプリント）
6	私たちの環境を守る	教科書ユニット 13 ″Protecting our environment″ ユニット 13 語彙テスト 読解とリスニング ディスカッション	ミニプレゼンテーションを準備す
7	私たちの環境を守る 2	ディスカッション ミニプレゼンテーション	学習ユニット 15 語彙（先生のプリント）
8	正直なところ	教科書ユニット 15 ″To tell or not to tell ″ ユニット 15 語彙テスト 読解とリスニング ディスカッション	ミニプレゼンテーションを準備する
9	正直なところ 2	ディスカッション ミニプレゼンテーション	クラスプレゼンテーションのための実践
10	クラスプレゼンテーション 2	学生は 13 号機または 15 号機のミニプレゼンテーションをクラスに提示します 学生は質問に答える 学生は質問をする	学習ユニット 19 語彙（先生のプリント）
11	クローニング	教科書ユニット 19 ″Cloning Cyndi″ ユニット 19 語彙テスト 読解とリスニング ディスカッション	ミニプレゼンテーションを準備する
12	クローニング 2	ディスカッション ミニプレゼンテーション	学習ユニット 20 語彙（先生のプリント）
13	英語教育	教科書ユニット 20 ″Why learn English?″ ユニット 20 語彙テスト 読解とリスニング ディスカッション	ミニプレゼンテーションを準備する
14	英語教育 2	ディスカッション ミニプレゼンテーション	クラスプレゼンテーションのための実践
15	クラスプレゼンテーション 3	学生は 19 号機または 20 号機のミニプレゼンテーションをクラスに提示します 学生は質問に答える 学生は質問をする	学生はコースを見直すべきです

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Impact Issues 1	Richard R. Day, Joseph Shaules,	Pearson（ピアソン）

			Junko Yamanaka	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

全学共通英語課題 A	20%
全学共通英語課題 B	10%
TOEIC Bridge	10%
定期試験	40%
授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）	20%

学生へのメッセージ

語学学習には、映画、音楽、テレビドラマやスポーツ中継など、興味のあるものを原語で楽しむことが効果的です。

担当者の研究室等

1 号館 2 階非常勤講師室

備考

毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱ	科目名（英文）	English II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中道　英美子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	NEN1302c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	日常生活援助	アニメーションを視聴し、内容把握、英語による質疑応答、小テスト	テキスト　p. 43 - 45
2	身だしなみ用具、日常生活援助表現、専門家との連携	テーマに関する文法、語彙の確認、小テスト	テキスト p. 46 - p. 48 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認
3	与薬	アニメーションを視聴し、内容把握、英語による質疑応答、小テスト	テキスト p. 49 - p. 51 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認
4	薬剤の種類、投薬指示関連表現、薬の効能	テーマに関する文法、語彙の確認、小テスト	テキスト p. 52 - p. 54 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認
5	排泄	アニメーションを視聴し、内容把握、英語による質疑応答、小テスト	テキスト p. 55 - p. 57 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認
6	排泄に関わる表現、仕組み、語彙	テーマに関する文法、語彙の確認、小テスト	テキスト p. 58 - p. 60 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認
7	慢性疾患	アニメーションを視聴し、内容把握、英語による質疑応答、小テスト	テキスト p. 61 - p. 63 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認
8	患者情報収集、慢性疾患について	テーマに関する文法、語彙の確認、小テスト	テキスト p. 64 - p. 66 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認
9	急性期、手術室	アニメーションを視聴し、内容把握、英語による質疑応答、小テスト	テキスト p. 67 - p. 69 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認
10	救急室にて，周手術期看護、集中治療室用語	テーマに関する文法、語彙の確認、小テスト	テキスト p. 70 - p. 72 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認
11	妊婦健診	アニメーションを視聴し、内容把握、英語による質疑応答、小テスト	テキスト p. 73 - p. 75 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認
12	妊娠初期、中期、陣痛と出産、産科用語	テーマに関する文法、語彙の確認、小テスト	テキスト p. 76 - p. 78 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認
13	医学英文読解	アニメーションを視聴し、内容把握、英語による質疑応答、小テスト	テキスト p. 79 - p. 81 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認
14	復習問題	テーマに関する文法、語彙の確認、小テスト	テキスト p. 82 - p. 84 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認
15	前期のまとめと復習	前期のまとめと復習	テキスト p. 43 - p. 84 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Talking with Your Patients in English	Mitsuko Hirano, Christine D. Kuramoto, Ryota Ochiai	SEIBIDO
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	全学共通英語課題 A　　20% 全学共通英語課題 B　　10% TOEIC Bridge　　10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　60%
学生への メッセージ	This class will be conducted as much as possible in English. Please come to class every week on time and prepared to participate and converse using English.
担当者の 研究室等	1 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱ	科目名（英文）	English II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ヘドリックⅢ　ロイ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	NEN1302c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション Pre-Unit Pages 6-10	自己紹介	
2	Unit 1: Hospital Departments Pages 11-16	音読、英文内容把握、英語による質疑応答、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
3	Unit 2: Application Forms Pages 17-21	冠詞の使い方、位置の説明、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
4	Unit 3: Parts of the Body Pages 22-26	音読、英文内容把握、英語による質疑応答、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
5	Unit 4: Illness Pages 27-32	疑問詞、疑問文の作り方、用紙に記入する方法、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
6	Unit 5: Hospital Routine Pages 33-40	音読、英文内容把握、英語による質疑応答、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
7	Unit 6: Hospital Objects Pages 41-45	時制　（現在進行形、現在形）、健康上の問題について説明する、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
8	Unit 7: Locations of Hospital Objects Pages 46-52	音読、英文内容把握、英語による質疑応答、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
9	Unit 8: Hospital Directions and Instructions Pages 53-57	過去時制、病気と症状を説明する、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
10	Review Units 5-8 Pages 63-70	音読、英文内容把握、英語による質疑応答、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
11	Unit 9: Directions Pages 71-75	前置詞、休暇中にしたことを説明する、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
12	Unit 10: Chatting with a Patient Pages 76-81	音読、英文内容把握、英語による質疑応答、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
13	Unit 11: Taking a Medical History Pages 82-85	未来形、夏休みの予定を説明する、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
14	Unit 12: Hospital Procedures Pages 86-90	英文内容把握、英語による質疑応答、まとめと復習、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
15	Review Units 9-12 Pages 91-99	英文内容把握、英語による質疑応答、まとめと復習、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ホスピタルイングリッシュ２ Vital Signs 2 Reading and Writing	Vivian Morooka	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 A　20% 全学共通英語課題 B　10% TOEIC Bridge　10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　60%
学生への	指示に従って、しっかりと予習をし、休まずに積極的な態度で臨んでください。このクラスは英語で実施します。

メッセージ	I am a native English speaker, and this class will be conducted as much as possible in English. Please come to class every week on time and prepared to participate and converse using English, not just for the lessons, but for every aspect of the class.
担当者の 研究室等	1 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅲ	科目名（英文）	English III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	２年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤原　崇
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	NEN2303c1		

授業概要・目的	英語Ⅰ，Ⅱで学んだ4技能の基礎力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	・「読解力」としては。英文を速読するためにリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 ・「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.2]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 ・「会話、ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC 等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	テキストの使用方法の説明。 リスニングとスピーキングの活動方法の説明。教科書 Page 1～3	事前：なし 事後：PC の使用方法を確認し、 実際にリスニングを行うこと。
2	病室内の施設の名前 （テキスト Chapter 1）	テキストからのリスニング 病室内の施設の名前を覚え、使えるようにする。教科書 Page 4～6	事前：Unit 1のリスニング予習 事後：病室内の施設の名前を復習
3	バイタルサイン測定 （テキスト Chapter 2）	テキストからのリスニング バイタルサイン測定について、必要な応答ができるようにする。教科書 Page 7～12	事前：Unit２のリスニング予習 事後：どのような対応があるのかを復習
4	痛みの程度を聞く （テキスト Chapter 3）	テキストからのリスニング 痛みの程度について必要な応答ができるようにする。教科書 Page 13～18	事前：Unit３のリスニング予習 事後：どのように痛みの程度を聞くのかを復習。
5	症状の表現 （テキスト Chapter 4）	テキストからのリスニング 症状について、必要な事柄を英語で表現する。教科書 Page 19～24	事前：Unit４のリスニング予習 事後：症状の表現について復習
6	体の動きの表現 （テキスト　Chapter 5）	テキストからのリスニング 体の動きについて英語で表現する。教科書 Page 25～30	事前：Unit５のリスニング予習 事後：身体部位の知識を深める。
7	TOEIC 集中練習	TOEIC 準備のためのリスニング・リーディング 別途プリント教材配布	事前：TOEIC 内容の確認 事後：まちがった部分の復習
8	検査についての表現 （テキスト　Chapter 6）	テキストからのリスニング 検査の際に必要になる手続きについて知る。さらにそれを英語で理解する。	事前：Unit６のリスニング予習 事後：検査についての一般的な事柄を知る。
9	中間のまとめ （テキスト　Chapter 7）	テキストからのリスニング 医療英語について知り、それを英語で表現する。教科書 Page 31～36	事前：Unit７のリスニング予習 事後：学んだ英語表現ができるようにする。
10	日常の看護についての表現 （テキスト　Chapter　8）	テキストからのリスニング 前回に続いて、日常の看護内容について知り、それを英語で表現をする。教科書 Page 37～42	事前：Unit８のリスニング予習 事後：学んだ英語表現ができるのようにする。
11	与薬についての表現 （テキスト　Chapter　9）	テキストからのリスニング、 与薬に関する英語表現を知り、それを英語で表現をする。	事前：Unit９のリスニング予習 事後：与薬についての理解を深める。
12	排泄についての表現 （テキスト　Chapter　10）	テキストからのリスニング 排泄に関する表現を知り、それを英語で表現をする。教科書 Page 43～48	事前：Unit１０のリスニング予習 事後：排泄についての理解を深める
13	慢性疾患についての表現 （テキスト　Chapter 11）	テキストからのリスニング よく使われる慢性疾患の名称を知る。教科書 Page 49～54	事前：Unit１１のリスニング予習 事後：慢性疾患についての理解を深める。
14	急性、緊急医療についての表現 （テキスト　Chapter 12）	テキストからのリスニング 急性、緊急医療についての表現を知る。教科書 Page 55～60	事前：Unit１２のリスニング予習 事後：急性、緊急医療について理解を深める。
15	授業内容から医療関係 Reading のまとめ	ポイントを押さえながら、理解していることの教科書確認 Page 1～60	事前：授業で取り上げられた医療内容の復習 事後：期末テストの準備

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Talking with Your Patients in English	Mitsuko Hirano, Christine D. Kuramoto, Ryota Ochiai	成美堂
2	配布プリント		
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			

	3
評価方法 （基準）	期末テスト（５０％） レポートを含む提出物（３０％） TOEIC（２０％）
学生への メッセージ	医療にさらに興味を持ち、積極的に取り組む姿勢をいつも養ってください。 さらに、英語でのコミュニケーションについては看護士として必要な事柄を学ぶという姿勢をいつも持っていて ください。
担当者の 研究室等	7 号館 4 階藤原研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に教室にて対応する。

科目名	英語Ⅲ	科目名（英文）	English III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	２年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中道　英美子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	NEN2303c1		

授業概要・目的	英語 I, II で学んだ 4 技能の基礎力を向上させるために、より高度な 4 技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。３回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	テキストの使用方法の説明。	次回のテキストの予習
2	Lesson 1: What Country is the Fattest in the World?	テキスト Lesson1（1-6 ページ）学習	テキスト Lesson1（1-6 ページ）の予習・復習
3	Lesson 2: What Do We Know about Sleep Talking?	小テスト テキスト Lesson2（7-12 ページ）学習	テキスト Lesson2（7-12 ページ）の予習・復習
4	Lesson 3: Why Are Bug Bites Dangerous?	小テスト テキスト Lesson3（13-18 ページ）学習	テキスト Lesson3（13-18 ページ）の予習・復習
5	Lesson 4: What Kind of Bacteria Can Be Found in the Great Barrier Reef?	小テスト テキスト Lesson4（19-24 ページ）学習	テキスト Lesson4（19-24 ページ）の予習・復習
6	Lesson 5: How Much Caffeine Can We Take?	小テスト テキスト Lesson5（25-30 ページ）学習	テキスト Lesson5（25-30 ページ）の予習・復習
7	Lesson 6: How Does the Love Hormone Oxytocin Work to Improve Relationships?	小テスト テキスト Lesson6（31-36 ページ）学習	テキスト Lesson6（31-36 ページ）の予習・復習
8	Lesson 7: What Can Happen If You're Too Clean?	小テスト テキスト Lesson7（41-46 ページ）学習	テキスト Lesson7（41-46 ページ）の予習・復習
9	Lesson 8: Does Gender Affect Cancer Susceptibility?	小テスト テキスト Lesson8（47-52 ページ）学習	テキスト Lesson8（47-52 ページ）の予習・復習
10	Lesson 9: Why Do Many of Us Develop Fear of Heights with Age?	小テスト テキスト Lesson9（53-58 ページ）学習	テキスト Lesson9（53-58 ページ）の予習・復習
11	Lesson 10: What Are the Dangers of a Sweltering Summer?	小テスト テキスト Lesson10（59-64 ページ）学習	テキスト Lesson10（59-64 ページ）の予習・復習
12	Lesson 11: Which Makes a Better Athlete, Being a Night Owl or an Early Bird?	小テスト テキスト Lesson11（65-70 ページ）学習	テキスト Lesson11（65-70 ページ）の予習・復習
13	Lesson 12: How Better to Release Your Stress?	小テスト テキスト Lesson12（71-76 ページ）学習	テキスト Lesson12（71-76 ページ）の予習・復習
14	Lesson 13: What Are the Differences between Real and Robotic Pets?	小テスト テキスト Lesson13（77-82 ページ）学習 まとめテストについての説明	テキスト Lesson13（77-82 ページ）の復習
15	まとめテスト	まとめテスト	これまでの振り返り

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	健康的な生活から学ぶ大学総合英語--Good Health, Better Life--	西原俊明　他	金星堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト、授業参加態度（30%） まとめテスト（50%） TOEIC スコア（20%）
学生へのメッセージ	看護英語を学ぶ上では、分野ごとの用語を把握することはもちろん、専門的立場にある者として、一般の人にも分かりやすくその知識を伝える術を身につけることも必要となるでしょう。本授業では文章の読解のみならず、ディクテーションや作文を通してその表現や論理を自分のものとした上で、再度人に伝えるための力を付けることが目的となります。
担当者の	1 号館 2 階非常勤講師室

研究室等	
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅲ	科目名（英文）	English III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	２年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	木村　理恵子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	NEN2303c1		

授業概要・目的	英語 I, II で学んだ 4 技能の基礎力を向上させるために、より高度な 4 技能統合型の授業を行う。さらに看護職に必要とされる英語力の基礎を身につける。
到達目標	(「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。また、英語の医療・看護の専門用語を理解した上で、英文内容を説明できる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。また、医療・看護に用いられる基本的な単語・表現について理解できる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。また、医療・看護に用いられる基本的な単語・表現を用いて日常会話ができる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit 1	Ｕｎｉｔ　１のリスニング内容を把握する。 病院の受診科の名前を知る（１）	Ｕｎｉｔ　２の予習が必要になる。 本日の必要な部分ができていない場合は、宿題となる。
2	Unit 2	Ｕｎｉｔ　２のリスニング内容を把握する。 病院の受診科の名前を知る（２）	Ｕｎｉｔ　３の予習が必要になる。 本日の必要な部分ができていない場合は、宿題となる。
3	Unit 3	Ｕｎｉｔ　３のリスニング内容を把握する。 病院の受診科の名前を知る（３）	Ｕｎｉｔ　４の予習が必要になる。 本日の必要な部分ができていない場合は、宿題となる。
4	Unit 4	Ｕｎｉｔ　４のリスニング内容を把握する。 病気の症状の表現を知る（１）	Ｕｎｉｔ　５の予習が必要になる。 本日の必要な部分ができていない場合は、宿題となる。
5	Unit 5	Ｕｎｉｔ　５のリスニング内容を把握する。 病気の症状の表現を知る（２）	Ｕｎｉｔ　６の予習が必要になる。 本日の必要な部分ができていない場合は、宿題となる。
6	Unit 6	Ｕｎｉｔ　６のリスニング内容を把握する。 病気の症状の表現を知る（３）	Ｕｎｉｔ　７の予習が必要になる。 本日の必要な部分ができていない場合は、宿題となる。
7	Unit 7	Ｕｎｉｔ　７のリスニング内容を把握する。 病名を知る（１）	Ｕｎｉｔ　８の予習が必要になる。 本日の必要な部分ができていない場合は、宿題となる。
8	Unit 8	Ｕｎｉｔ　８のリスニング内容を把握する。 病名を知る（２）	Ｕｎｉｔ　９の予習が必要になる。 本日の必要な部分ができていない場合は、宿題となる。
9	Unit 9	Ｕｎｉｔ　９のリスニング内容を把握する。 病名を知る（３）	Ｕｎｉｔ　１０の予習が必要になる。 本日の必要な部分ができていない場合は、宿題となる。
10	Unit 10	Ｕｎｉｔ　１０のリスニング内容を把握する。 患者さんへの看護時の指示を英語で知る（１）	Ｕｎｉｔ　１１～１２の予習が必要になる。 本日の必要な部分ができていない場合は、宿題となる。
11	Unit 11-12	Ｕｎｉｔ　１１～１２のリスニング内容を把握する。 患者さんへの看護時の指示を英語で知る（２）	Ｕｎｉｔ　１３～１４の予習が必要になる。 本日の必要な部分ができていない場合は、宿題となる。
12	Unit 13-14	Ｕｎｉｔ　１３～１４のリスニング内容を把握する。 患者さんへの看護時の指示を英語で知る（３）	Ｕｎｉｔ　１５～１６の予習が必要になる。 本日の必要な部分ができていない場合は、宿題となる。
13	Unit 15-16	Ｕｎｉｔ　１５～１６のリスニング内容を把握する。 各検査について、その検査についての表現を知る（１）	Ｕｎｉｔ　１７～１８の予習が必要になる。 本日の必要な部分ができていない場合は、宿題となる。
14	Unit 17-18	Ｕｎｉｔ　１７～１８のリスニング内容を把握する。 各検査について、その検査についての表現を知る（２）	Ｕｎｉｔ　１９～２０の予習が必要になる。 本日の必要な部分ができていない場合は、宿題となる。
15	Unit 19-20	Ｕｎｉｔ　１９～２０のリスニング内容を把握する。 前期授業の内容の確認を行う。	テキストすべての中からの復習をしておくこと

関連科目	英語 I、英語 II

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	TOEIC TEST Listening 450	Thian Wong 他	南雲堂
2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 （基準）	TOEIC スコア 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生への メッセージ	できるだけ、実践的、かつ学術的な英語を理解し、話せるようになっていただきたいと思っていますので、クラスレポートの中には Speaking を利用したものも含みます。
担当者の 研究室等	1 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	韓国語Ⅰ	科目名（英文）	Korean Ⅰ
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	１年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北島　由紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	NKO1308a1		

授業概要・目的	本授業では、初めて韓国語を学ぶ上で不可欠な文字と発音、基本的文法事項を学ぶ。授業スケジュールは目安であり、学習進度、習熟度に合わせて調整する。
到達目標	まずは文字に慣れていき、韓国語での読み書きができるようにする。その後、基本的な文法事項を学んでいく。
授業方法と留意点	初めて学ぶ文字や発音を理解、習得するため、知識が定着するまでは繰り返し小テスト等を行い反復練習をする。 授業に対し、事前、事後学習（予習、復習）、または課題に取り組む時間として１時間以上の学習時間が必要。 欠席すると次回の受講に困難をきたすので欠席しないことが望ましい。
科目学習の効果（資格）	韓国語の基礎的知識を習得すると共に、語学を通して韓国への理解を深めることができる

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	韓国語とは	文字の仕組み	教科書　基礎１課
2	母音１	基本母音	教科書　基礎２課
3	子音１	基本子音	教科書　基礎３課
4	子音２	子音（濃音・激音）	教科書　基礎３課
5	母音２	複合母音	教科書　基礎４課
6	文字の確認	文字の確認	
7	パッチム	終声について	教科書　基礎５課
8	発音の変化１	発音の変化	教科書　基礎６課 ｐ３０－３１
9	発音の変化２	発音の変化	教科書　基礎６課 ｐ３２－３４
10	体言の平叙文	体言文（平叙）	教科書　１課
11	体言の疑問文	体言文（疑問）	教科書　２課
12	体言の否定文	体言文（否定）	教科書　３課
13	復習	復習	
14	総確認	総確認	
15	韓国語の実際	韓国のドラマを見る	

関連科目	韓国語関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	基礎から学ぶ韓国語講座　初級　改訂版	木内明	国書刊行会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業時に行われる複数のテスト（小テスト等）（３０％）、中間テスト（３０％）、課題（１０％）、授業態度（３０％）を総合的に判断して評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	１号館２階　非常勤講師室
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	韓国語Ⅰ	科目名（英文）	Korean Ⅰ
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	１年	クラス	２
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北島　由紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	NKO1308a1		

基礎科目

授業概要・目的	本授業では、初めて韓国語を学ぶ上で不可欠な文字と発音、基本的文法事項を学ぶ。授業スケジュールは目安であり、学習進度、習熟度に合わせて調整する。
到達目標	まずは文字に慣れていき、韓国語での読み書きができるようにする。その後、基本的な文法事項を学んでいく。
授業方法と留意点	初めて学ぶ文字や発音を理解、習得するため、知識が定着するまでは繰り返し小テスト等を行い反復練習をする。 授業に対し、事前、事後学習（予習、復習）、または課題に取り組む時間として１時間以上の学習時間が必要。 欠席すると次回の受講に困難をきたすので欠席しないことが望ましい。
科目学習の効果（資格）	韓国語の基礎的知識を習得すると共に、語学を通して韓国への理解を深めることができる

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	韓国語とは	文字の仕組み	教科書　基礎１課
2	母音１	基本母音	教科書　基礎２課
3	子音１	基本子音	教科書　基礎３課
4	子音２	子音（濃音・激音）	教科書　基礎３課
5	母音２	複合母音	教科書　基礎４課
6	文字の確認	文字の確認	
7	パッチム	終声について	教科書　基礎５課
8	発音の変化１	発音の変化	教科書　基礎６課 ｐ３０－３１
9	発音の変化２	発音の変化	教科書　基礎６課 ｐ３２－３４
10	体言の平叙文	体言文（平叙）	教科書　１課
11	体言の疑問文	体言文（疑問）	教科書　２課
12	体言の否定文	体言文（否定）	教科書　３課
13	復習	復習	
14	総確認	総確認	
15	韓国語の実際	韓国のドラマを見る	

関連科目	韓国語関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	基礎から学ぶ韓国語講座　初級　改訂版	木内明	国書刊行会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業時に行われる複数のテスト（小テスト等）（３０％）、中間テスト（３０％）、課題（１０％）、授業態度（３０％）を総合的に判断して評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	１号館２階　非常勤講師室
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	韓国語Ⅱ	科目名（英文）	Korean II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	１年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北島　由紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	NKO1309a1		

授業概要・目的	前期に引き続き、韓国語の構造、文法と表現の特色を学習しながら、日常韓国語の運用（特に読む、書く）能力を養うことを目指す。授業スケジュールは目安であり、学習進度、習熟度に合わせて調整する。
到達目標	日常会話で使う基本的な表現を学んでいく。語尾表現を中心に習得し、簡単な文を作れるようにする。
授業方法と留意点	教科書に基づいて文法説明を加えつつ、購読、作文練習等を行う。欠席すると次回の受講に困難をきたすので、欠席しないことが望ましい。辞書を持参すること。 授業に対し、事前、事後学習（予習、復習）、または課題に取り組む時間として１時間以上の学習時間が必要。
科目学習の効果（資格）	韓国語の基礎的知識を習得すると共に、語学を通して韓国への理解を深めることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	文字の復習	母音・子音の復習	教科書　基礎２課ー４課
2	パッチムの復習	パッチムの復習	教科書　基礎５課
3	発音の復習	発音の復習	教科書　基礎６課
4	数詞	固有数詞と漢数詞	教科書　９課・１０課
5	用言文１	公的で固い表現の「です・ます」形１	教科書　４課
6	用言文２	公的で固い表現の「です・ます」形２	教科書　５課
7	用言文３	公的で固い表現の「です・ます」形３	教科書　７課
8	文法事項の確認	文法事項の確認	
9	用言文４	日常使いのやわらかい表現の「です・ます」形１	教科書　６課
10	用言文５	日常使いのやわらかい表現の「です・ます」形２	教科書　８課 ｐ８２－８６
11	用言文６	日常使いのやわらかい表現の「です・ます」形３	教科書　８課 ｐ８７
12	助詞	助詞	教科書　１７２・１７３
13	文の作成練習	文の作成練習	
14	総確認	総確認	
15	韓国語の実際	韓国のドラマをみる。	

関連科目	韓国語関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	基礎から学ぶ韓国語講座　初級　改訂版	木内明	国書刊行会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業時に行われる複数のテスト（小テスト等）（３０％）、中間テスト（３０％）、課題（１０％）、授業態度（３０％）を総合的に判断し評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	１号館２階　非常勤講師室
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	韓国語Ⅱ	科目名（英文）	Korean II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	１年	クラス	２
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北島　由紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	NKO1309a1		

授業概要・目的	前期に引き続き、韓国語の構造、文法と表現の特色を学習しながら、日常韓国語の運用（特に読む、書く）能力を養うことを目指す。授業スケジュールは目安であり、学習進度、習熟度に合わせて調整する。
到達目標	日常会話で使う基本的な表現を学んでいく。語尾表現を中心に習得し、簡単な文を作れるようにする。
授業方法と留意点	教科書に基づいて文法説明を加えつつ、購読、作文練習等を行う。欠席すると次回の受講に困難をきたすので、欠席しないことが望ましい。辞書を持参すること。 授業に対し、事前、事後学習（予習、復習）、または課題に取り組む時間として１時間以上の学習時間が必要。
科目学習の効果（資格）	韓国語の基礎的知識を習得すると共に、語学を通して韓国への理解を深めることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	文字の復習	母音・子音の復習	教科書　基礎２課ー４課
2	パッチムの復習	パッチムの復習	教科書　基礎５課
3	発音の復習	発音の復習	教科書　基礎６課
4	数詞	固有数詞と漢数詞	教科書　９課・１０課
5	用言文１	公的で固い表現の「です・ます」形１	教科書　４課
6	用言文２	公的で固い表現の「です・ます」形２	教科書　５課
7	用言文３	公的で固い表現の「です・ます」形３	教科書　７課
8	文法事項の確認	文法事項の確認	
9	用言文４	日常使いのやわらかい表現の「です・ます」形１	教科書　６課
10	用言文５	日常使いのやわらかい表現の「です・ます」形２	教科書　８課 ｐ８２－８６
11	用言文６	日常使いのやわらかい表現の「です・ます」形３	教科書　８課 ｐ８７
12	助詞	助詞	教科書　１７２・１７３
13	文の作成練習	文の作成練習	
14	総確認	総確認	
15	韓国語の実際	韓国のドラマをみる。	

関連科目	韓国語関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	基礎から学ぶ韓国語講座　初級　改訂版	木内明	国書刊行会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業時に行われる複数のテスト（小テスト等）（３０％）、中間テスト（３０％）、課題（１０％）、授業態度（３０％）を総合的に判断し評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	１号館２階　非常勤講師室
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	情報リテラシーⅠ	科目名（英文）	Information Literacy1
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小堀　栄子.寺内　睦博
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NIL1311a1		

授業概要・目的	近年、高等教育機関での勉学や社会人としての仕事において、パソコンを使えるスキルは必要不可欠である。 本科目では、パソコン初心者を想定し、パソコンでの文書作成ソフトや表計算ソフトの基本的な使い方、また発表の場で広く使用されるようになったプレゼンテーション資料作成ソフトの使い方を中心に学ぶ。実践力をつけるため課題を中心に演習を進める。さらに情報セキュリティーやモラルについても事例を通して学ぶ。
到達目標	コンピューターを使って、レポートや発表資料の作成が適切に行えるようになる。 情報セキュリティーやモラルについて理解し、実行できる。
授業方法と留意点	講義と実習を組み合わせ、理解とスキルの習得を高める。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	PC、インターネットの基礎（1）	しくみ、機能、著作権、基本操作（1） 情報のセキュリティとモラル(1)	授業後に出される課題を仕上げ、次の授業開始までに指定の場所（電子フォルダ）に提出すること（60分）
2	PC、インターネットの基礎（2）	インターネット、電子メール、基本操作（2） 情報のセキュリティとモラル(2)	授業後に出される課題を仕上げ、次の授業開始までに指定の場所（電子フォルダ）に提出すること（60分）
3	ワードの使い方（1）	Windowsの基礎、文書の作成（1） 情報のセキュリティとモラル(3)	授業後に出される課題を仕上げ、次の授業開始までに指定の場所（電子フォルダ）に提出すること（60分）
4	ワードの使い方（2）	文書の作成（2） 情報のセキュリティとモラル(4)	授業後に出される課題を仕上げ、次の授業開始までに指定の場所（電子フォルダ）に提出すること（60分）
5	ワードの使い方（3）	図表・グラフの作成、文書の作成（3） 情報のセキュリティとモラル(5)	授業後に出される課題を仕上げ、次の授業開始までに指定の場所（電子フォルダ）に提出すること（60分）
6	パワーポイントの使い方(1)	プレゼンテーション資料の作成（文章） 情報のセキュリティとモラル(6)	授業後に出される課題を仕上げ、次の授業開始までに指定の場所（電子フォルダ）に提出すること（60分）
7	パワーポイントの使い方(2)	プレゼンテーションの構成と方法(1) 情報のセキュリティとモラル(7)	授業後に出される課題を仕上げ、次の授業開始までに指定の場所（電子フォルダ）に提出すること（60分）
8	パワーポイントの使い方(3)	プレゼンテーションの構成と方法(2) 情報のセキュリティとモラル(8)	授業後に出される課題を仕上げ、次の授業開始までに指定の場所（電子フォルダ）に提出すること（60分）
9	エクセルの使い方（1）	データの入力・計算 情報のセキュリティとモラル(9)	授業後に出される課題を仕上げ、次の授業開始までに指定の場所（電子フォルダ）に提出すること（60分）
10	エクセルの使い方（2）	表の作成 情報のセキュリティとモラル(10)	授業後に出される課題を仕上げ、次の授業開始までに指定の場所（電子フォルダ）に提出すること（60分）
11	エクセルの使い方（3）	図の作成 情報のセキュリティとモラル(11)	授業後に出される課題を仕上げ、次の授業開始までに指定の場所（電子フォルダ）に提出すること（60分）
12	エクセルの使い方（4）	グラフの作成 情報のセキュリティとモラル(12)	授業後に出される課題を仕上げ、次の授業開始までに指定の場所（電子フォルダ）に提出すること（60分）
13	エクセルの使い方（5）	エクセル関数 情報のセキュリティとモラル(13)	授業後に出される課題を仕上げ、次の授業開始までに指定の場所（電子フォルダ）に提出すること（60分）
14	エクセルの使い方（6）	データベースの利用、ワード文書への貼り付け 情報のセキュリティとモラル確認テスト	授業後に出される課題を仕上げ、次の授業開始までに指定の場所（電子フォルダ）に提出すること（60分）
15	応用課題	応用課題の演習	授業内容の復習をしておくこと（60分）

関連科目	なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016	杉本くみ子、大澤栄子	実教出版
2	情報モラル&情報セキュリティ		FOM出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業全15回出席が前提である。毎回提出する課題の内容で評価し、60%以上を合格とする。

学生への メッセージ	授業に出席してコンピューターに慣れるようにすること。まずはブラインドタッチを目指そう。 授業中に疑問点を解決すること。個人的にしっかり学ぶことはもとより、クラスメンバー間でサポートし、クラスの多くで知識を共有しながら理解を深めていくこと。授業時間以外にも積極的にパソコンを使うこと。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階 24
備考	提出課題のポイントを次回の演習の冒頭に概説する。

科目名	情報リテラシーⅠ	科目名（英文）	Information Literacy1
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小堀　栄子.寺内　睦博
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NIL1311a1		

授業概要・目的	近年、高等教育機関での勉学や社会人としての仕事において、パソコンを使えるスキルは必要不可欠である。 本科目では、パソコン初心者を想定し、パソコンでの文書作成ソフトや表計算ソフトの基本的な使い方、また発表の場で広く使用されるようになったプレゼンテーション資料作成ソフトの使い方を中心に学ぶ。実践力をつけるため課題を中心に演習を進める。さらに情報セキュリティーやモラルについても事例を通して学ぶ。
到達目標	コンピューターを使って、レポートや発表資料の作成が適切に行えるようになる。 情報セキュリティーやモラルについて理解し、実行できる。
授業方法と留意点	講義と実習を組み合わせ、理解とスキルの習得を高める。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	PC、インターネットの基礎（1）	しくみ、機能、著作権、基本操作（1） 情報のセキュリティとモラル(1)	授業後に出される課題を仕上げ、次の授業開始までに指定の場所（電子フォルダ）に提出すること（60分）
2	PC、インターネットの基礎（2）	インターネット、電子メール、基本操作（2） 情報のセキュリティとモラル(2)	授業後に出される課題を仕上げ、次の授業開始までに指定の場所（電子フォルダ）に提出すること（60分）
3	ワードの使い方（1）	Windowsの基礎、文書の作成（1） 情報のセキュリティとモラル(3)	授業後に出される課題を仕上げ、次の授業開始までに指定の場所（電子フォルダ）に提出すること（60分）
4	ワードの使い方（2）	文書の作成（2） 情報のセキュリティとモラル(4)	授業後に出される課題を仕上げ、次の授業開始までに指定の場所（電子フォルダ）に提出すること（60分）
5	ワードの使い方（3）	図表・グラフの作成、文書の作成（3） 情報のセキュリティとモラル(5)	授業後に出される課題を仕上げ、次の授業開始までに指定の場所（電子フォルダ）に提出すること（60分）
6	パワーポイントの使い方(1)	プレゼンテーション資料の作成（文章） 情報のセキュリティとモラル(6)	授業後に出される課題を仕上げ、次の授業開始までに指定の場所（電子フォルダ）に提出すること（60分）
7	パワーポイントの使い方(2)	プレゼンテーションの構成と方法(1) 情報のセキュリティとモラル(7)	授業後に出される課題を仕上げ、次の授業開始までに指定の場所（電子フォルダ）に提出すること（60分）
8	パワーポイントの使い方(3)	プレゼンテーションの構成と方法(2) 情報のセキュリティとモラル(8)	授業後に出される課題を仕上げ、次の授業開始までに指定の場所（電子フォルダ）に提出すること（60分）
9	エクセルの使い方（1）	データの入力・計算 情報のセキュリティとモラル(9)	授業後に出される課題を仕上げ、次の授業開始までに指定の場所（電子フォルダ）に提出すること（60分）
10	エクセルの使い方（2）	表の作成 情報のセキュリティとモラル(10)	授業後に出される課題を仕上げ、次の授業開始までに指定の場所（電子フォルダ）に提出すること（60分）
11	エクセルの使い方（3）	図の作成 情報のセキュリティとモラル(11)	授業後に出される課題を仕上げ、次の授業開始までに指定の場所（電子フォルダ）に提出すること（60分）
12	エクセルの使い方（4）	グラフの作成 情報のセキュリティとモラル(12)	授業後に出される課題を仕上げ、次の授業開始までに指定の場所（電子フォルダ）に提出すること（60分）
13	エクセルの使い方（5）	エクセル関数 情報のセキュリティとモラル(13)	授業後に出される課題を仕上げ、次の授業開始までに指定の場所（電子フォルダ）に提出すること（60分）
14	エクセルの使い方（6）	データベースの利用、ワード文書への貼り付け 情報のセキュリティとモラル確認テスト	授業後に出される課題を仕上げ、次の授業開始までに指定の場所（電子フォルダ）に提出すること（60分）
15	応用課題	応用課題の演習	授業内容の復習をしておくこと（60分）

関連科目	なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016	杉本くみ子、大澤栄子	実教出版
2	情報モラル&情報セキュリティ		FOM出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業全15回出席が前提である。毎回提出する課題の内容で評価し、60%以上を合格とする。

学生への メッセージ	授業に出席してコンピューターに慣れるようにすること。まずはブラインドタッチを目指そう。 授業中に疑問点を解決すること。個人的にしっかり学ぶことはもとより、クラスメンバー間でサポートし、クラスの多くで知識を共有しながら理解を深めていくこと。授業時間以外にも積極的にパソコンを使うこと。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階 24
備考	提出課題のポイントを次回の演習の冒頭に概説する。

科目名	スポーツ科学Ⅰ	科目名（英文）	Sports Science1
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤林　真美.江川　達郎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NPH1313a1		

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活気のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、運動技術の修得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。 授業担当者は医療機関等における運動指導経験から、様々な年代の人々や有疾患者における運動が心身の健康にどのように貢献するか、対話を通して理解を深めてきた。このことを本授業に活用し、健康に関する課題解決的な学びや、様々な背景を持つ人々の多様なニーズに応える能力を醸成する授業を目指す。
到達目標	①健康の維持・増進をはかる ②運動技能を向上させることができる ③マナーやルールを理解することができる ④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる
授業方法と留意点	実技形式で行う（雨天の場合、講義形式で行う場合がある）。 授業での開講種目は、以下のとおり。 バスケットボール、フットサル、アルティメットなどニュースポーツ。 受講学生を半数に区分し、オムニバス形式で行う。
科目学習の効果（資格）	基礎体力の養成、健康の保持・増進およびスポーツ技術を修得できる。 「汎用的技能」：コミュニケーション・スキル、問題解決力。「態度」：自己管理力、チームワーク・リーダーシップ、倫理観。「創造的思考力」：課題解決能力を修得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	履修上の注意など（講義室）	ルールの理解。 運動・スポーツの役割および重要性について疫学・基礎・実践研究の観点から理解する。
2	体力測定①	体力測定 屋外種目（グラウンド）	測定記録評価
3	体力測定②	体力測定 体育館種目（大阪工業大情報科学部 体育館）	測定記録評価
4	体力測定③ 体力測定集計・評価	体力測定 屋外種目（グラウンド） 体力測定の集計・評価（講義室）	測定記録評価 各自の体力要素を評価すると共に、今後の課題・解決方法を理解する。
5	各コース別実技 基礎練習・簡易ゲーム	ルールの説明、基礎技術練習（グラウンドおよび大阪工業大情報科学部体育館）	事前：スポーツのルール 基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り
6	各コース別実技 基礎練習・簡易ゲーム	基礎技術練習、攻防練習（グラウンドおよび大阪工業大情報科学部体育館）	事前：基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り
7	各コース別実技 ゲーム	技術練習とゲーム（グラウンドおよび大阪工業大情報科学部体育館）	事前：応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り
8	各コース別実技 ゲーム	技術練習とゲーム（グラウンドおよび大阪工業大情報科学部体育館）	事前：応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り
9	各コース別実技 ゲーム	技術練習とゲーム（グラウンドおよび大阪工業大情報科学部体育館）	事前：応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り
10	運動・スポーツが心身へ与える影響とそのメカニズム	講義（講義室）運動・スポーツが心身へ及ぼす影響について、運動生理学・運動生化学観点から学修する。	事前：一般人における運動の必要性について調べる。 事後：授業で学んだ内容を、どのように臨床へ応用できるか考え、レポートする。
11	各コース別実技 基礎練習・簡易ゲーム	ルールの説明、基礎技術練習（グラウンドおよび大阪工業大情報科学部体育館）	事前：スポーツのルール 基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り
12	各コース別実技 基礎練習・簡易ゲーム	基礎技術練習、攻防練習（グラウンドおよび大阪工業大情報科学部体育館）	事前：基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り
13	各コース別実技 ゲーム	技術練習とゲーム（グラウンドおよび大阪工業大情報科学部体育館）	事前：応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り
14	各コース別実技 ゲーム	技術練習とゲーム（グラウンドおよび大阪工業大情報科学部体育館）	事前：応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り
15	各コース別実技 ゲーム	技術練習とゲーム（大阪工業大情報科学部 グラウンドおよび体育館）	事前：応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り、本授業の総まとめ

関連科目	人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

評価方法（基準）	平常点５０％、態度点２５％、技能点２５％として、総合評価する。 なお、平常点とは授業への参加意欲、態度点とは積極性、チームワーク・リーダーシップ、自己管理力を示す。
学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは、寝屋川キャンパス総合体育館１階体育館事務室（072-839-9187）へ問い合わせてください。
担当者の	寝屋川キャンパス総合体育館１階体育館事務室

研究室等	
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズを着用のこと

科目名	スポーツ科学Ⅰ	科目名（英文）	Sports Science1
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	１年	クラス	２
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤林　真美.江川　達郎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NPH1313a1		

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活気のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、運動技術の修得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。 授業担当者は医療機関等における運動指導経験から、様々な年代の人々や有疾患者における運動が心身の健康にどのように貢献するか、対話を通して理解を深めてきた。このことを本授業に活用し、健康に関する課題解決的な学びや、様々な背景を持つ人々の多様なニーズに応える能力を醸成する授業を目指す。
到達目標	①健康の維持・増進をはかる ②運動技能を向上させることができる ③マナーやルールを理解することができる ④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる
授業方法と留意点	実技形式で行う（雨天の場合、講義形式で行う場合がある）。 授業での開講種目は、以下のとおり。 バスケットボール、フットサル、アルティメットなどニュースポーツ。 受講学生を半数に区分し、オムニバス形式で行う。
科目学習の効果（資格）	基礎体力の養成、健康の保持・増進およびスポーツ技術を修得できる。 「汎用的技能」：コミュニケーション・スキル、問題解決力。「態度」：自己管理力、チームワーク・リーダーシップ、倫理観。「創造的思考力」：課題解決能力を修得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	履修上の注意など（講義室）	ルールの理解。 運動・スポーツの役割および重要性について疫学・基礎・実践研究の観点から理解する。
2	体力測定①	体力測定 屋外種目（グラウンド）	測定記録評価
3	体力測定②	体力測定 体育館種目（大阪工業大情報科学部 体育館）	測定記録評価
4	体力測定③ 体力測定集計・評価	体力測定 屋外種目（グラウンド） 体力測定の集計・評価（講義室）	測定記録評価 各自の体力要素を評価すると共に、今後の課題・解決方法を理解する。
5	各コース別実技 基礎練習・簡易ゲーム	ルールの説明、基礎技術練習（グラウンドおよび大阪工業大情報科学部体育館）	事前：スポーツのルール 基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り
6	各コース別実技 基礎練習・簡易ゲーム	基礎技術練習、攻防練習（グラウンドおよび大阪工業大情報科学部体育館）	事前：基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り
7	各コース別実技 ゲーム	技術練習とゲーム（グラウンドおよび大阪工業大情報科学部体育館）	事前：応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り
8	各コース別実技 ゲーム	技術練習とゲーム（グラウンドおよび大阪工業大情報科学部体育館）	事前：応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り
9	各コース別実技 ゲーム	技術練習とゲーム（グラウンドおよび大阪工業大情報科学部体育館）	事前：応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り
10	運動・スポーツが心身へ与える影響とそのメカニズム	講義（講義室）運動・スポーツが心身へ及ぼす影響について、運動生理学・運動生化学観点から学修する。	事前：一般人における運動の必要性について調べる。 事後：授業で学んだ内容を、どのように臨床へ応用できるか考え、レポートする。
11	各コース別実技 基礎練習・簡易ゲーム	ルールの説明、基礎技術練習（グラウンドおよび大阪工業大情報科学部体育館）	事前：スポーツのルール 基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り
12	各コース別実技 基礎練習・簡易ゲーム	基礎技術練習、攻防練習（グラウンドおよび大阪工業大情報科学部体育館）	事前：基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り
13	各コース別実技 ゲーム	技術練習とゲーム（グラウンドおよび大阪工業大情報科学部体育館）	事前：応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り
14	各コース別実技 ゲーム	技術練習とゲーム（グラウンドおよび大阪工業大情報科学部体育館）	事前：応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り
15	各コース別実技 ゲーム	技術練習とゲーム（大阪工業大情報科学部 グラウンドおよび体育館）	事前：応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り、本授業の総まとめ

関連科目	人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

評価方法（基準）	平常点５０％、態度点２５％、技能点２５％として、総合評価する。 なお、平常点とは授業への参加意欲、態度点とは積極性、チームワーク・リーダーシップ、自己管理力を示す。
学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは、寝屋川キャンパス総合体育館１階体育館事務室（072-839-9187）へ問い合わせてください。
担当者の	寝屋川キャンパス総合体育館１階体育館事務室

研究室等	
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズを着用のこと

科目名	スポーツ科学Ⅱ	科目名（英文）	Sports Science2
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	２年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤林　真美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NPH1337a1		

授業概要・目的	運動およびスポーツは健康づくりにおいて欠かせない要素である。本科目では、スポーツ科学Ⅰで学修した技術や知識をさらに深め、生涯スポーツへ継続できる能力育成を目的とする。さらに運動療法を安全かつ効果的に進めることの重要性、疾病予防・介護予防における運動・スポーツの役割やメカニズムについて疫学・基礎・実践研究の観点から学修する。 授業担当者は医療機関等における運動指導経験から、様々な年代の人々や有疾患者における運動が心身の健康にどのように貢献するか、対話を通して理解を深めてきた。このことを本授業に活用し、健康に関する課題解決的な学びや、様々な背景を持つ人々の多様なニーズに応える能力を醸成する授業を目指す。
到達目標	①健康の維持・増進をはかる ②生涯スポーツへ継続できる ③運動・スポーツの役割や、それらが生体へ及ぼすメカニズムについて理解できる ④多様な背景をもつ人々に対する運動・スポーツの実践方法を身につける
授業方法と留意点	グループワークおよび実技形式で行う 運動のできる服装で受講すること
科目学習の効果（資格）	基礎体力の養成、健康の保持・増進およびスポーツ技術を修得できる 汎用的技能：コミュニケーション・スキル、問題解決力 態度：自己管理力、チームワーク・リーダーシップ、倫理観 創造的思考力：課題解決能力を修得できる

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	履修上の注意など チームビルディング 自分自身の体力を維持･向上させるために必要なスポーツ（次週から開始する「スポーツ①」）に関するディスカッション	運動･スポーツの役割および重要性について理解する。
2	スポーツ①	各グループ毎に、ディスカッションにより決定したスポーツの実践練習	事前学習：スポーツ①の背景、ルールを調べる 事後学習：安全で効果的な運動が行えるか復習
3	スポーツ①	スポーツ①をロールプレイ形式で実践	事前学習：グループ内における自分の役割を果たせるよう練習 事後学習：安全で効果的な運動、わかりやすい説明が行えたか振り返る
4	スポーツ①	前週の反省点を元に内容を改善し、スポーツ①をロールプレイ形式で実施	事前学習：グループ内における自分の役割を果たせるよう練習 事後学習：安全で効果的な運動、わかりやすい説明が行えたか振り返る
5	スポーツ①のまとめ	スポーツ①の成果について、グループワーク、ワールドカフェ形式で振り返る。グループ代えを行い、スポーツ②（体脂肪量減少を目的としたスポーツ）の計画	事前：スポーツ①実践のまとめ 事後：ワールドカフェのまとめ。スポーツ①実践内容をスポーツ②に活かす工夫を考える。
6	スポーツ②	各グループ毎に、ディスカッションにより決定したスポーツの実践練習	事前学習：スポーツ②の背景、ルールを調べる 事後学習：安全で効果的な運動が行えるか復習
7	スポーツ②	スポーツ②をロールプレイ形式で実践	事前学習：グループ内における自分の役割を果たせるよう練習 事後学習：安全で効果的な運動、わかりやすい説明が行えたか振り返る
8	スポーツ②	前週の反省点を元に内容を改善し、スポーツ②をロールプレイ形式で実施	事前学習：グループ内における自分の役割を果たせるよう練習 事後学習：安全で効果的な運動、わかりやすい説明が行えたか振り返る
9	スポーツ②のまとめ	スポーツ②の成果について、グループワーク、ワールドカフェ形式で振り返る。グループ代えを行い、スポーツ③（(1)高齢者の体力および認知機能低下遅延 or (2)リラクゼーションを目的としたスポーツ）の計画。	事前：スポーツ②実践のまとめ 事後：ワールドカフェのまとめ。スポーツ①②実践内容をスポーツ③に活かす工夫を考える。
10	スポーツ③	各グループ毎に、ディスカッションにより決定したスポーツの実践練習	事前学習：スポーツ③の背景、ルールを調べる 事後学習：安全で効果的な運動が行えるか復習
11	スポーツ③	スポーツ③をロールプレイ形式で実践	事前学習：グループ内における自分の役割を果たせるよう練習 事後学習：安全で効果的な運動、わかりやすい説明が行えたか振り返る
12	スポーツ③	前週の反省点を元に内容を改善し、スポーツ③をロールプレイ形式で実施	事前学習：グループ内における自分の役割を果たせるよう練習 事後学習：安全で効果的な運動、わかりやすい説明が行えたか振り返る
13	スポーツ③のまとめ	スポーツ③の成果について、グループワーク、ワールドカフェ形式で振り返る	事前：スポーツ③実践のまとめ 事後：ワーアルドカフェのまとめ。
14	スポーツ④	ニュースポーツ体験	事前：スポーツ④の背景、ルールを調べる 事後：スポーツ④の内容まとめ
15	スポーツ⑤ 総まとめ	ニュースポーツ体験と総まとめ（ワールドカフェ）	事前：スポーツ⑤の背景、ルールを調べる 事後：スポーツ⑤の内容、本授業全般についてまとめ

関連科目	人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ

<table>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>なし</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>なし</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>平常点５０％、態度点２５％、技能点２５％として、総合評価する。
なお、平常点とは授業への参加意欲、態度点とは積極性、チームワーク・リーダーシップ、自己管理力を示す。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。
授業への質問などは、寝屋川キャンパス総合体育館１階体育館事務室（072-839-9187）へ問い合わせてください。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>寝屋川キャンパス総合体育館１階体育館事務室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>トレーニングウェア、スポーツシューズを着用のこと</td></tr>
</table>

科目名	専門日本語Ｆ Ⅰ	科目名（英文）	Japanese for Specific Purposes FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩谷　尚子
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：Ｆ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	FF01322a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、E メールの書き方、自己 PR の書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。
科目学習の効果（資格）	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習
2	E メールの書き方１	E メールの基本	E メールで使われる形式、表現等の復習
3	E メールの書き方２	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習
4	E メールの書き方３	依頼メール１	依頼メールに必要な語彙、表現の復習
5	E メールの書き方４	依頼メール２	依頼メールの書き方の復習
6	E メールの書き方５	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールで必要な語彙、表現の復習
7	話し方１	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習
8	話し方２	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習
9	話し方３	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習
10	自己 PR１	自己 PR とは何か	自己 PR で必要な項目を復習
11	自己 PR２	自己 PR 例の検討、修正１	自己 PR で必要な語彙、表現の復習
12	自己 PR３	自己 PR 例の検討、修正２	自己 PR で必要な語彙、表現の復習
13	自己 PR４	自分の自己 PR を書く１	自己 PR で必要な形式、書き方の復習
14	自己 PR５	自分の自己 PR を書く２	自己 PR の書き方の復習
15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

関連科目：専門日本語ＦⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（50%）、提出物（50%）
学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3)事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。

科目名	専門日本語ＦⅡ	科目名（英文）	Japanese for Specific Purposes FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	塩谷　尚子
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：Ｆ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	FF02323a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができるようになることを目指す。 ビジネス場面で使用する日本語表現、異文化ビジネスコミュニケーションについて学ぶ。
到達目標	相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができる。 ビジネス場面で使用する日本語表現を理解し、使用することができる。 異文化ビジネスコミュニケーションについて理解できる。
授業方法と留意点	教師が準備した資料及びタスクシートをもとに講義、ディスカッション等を行う。
科目学習の効果（資格）	ビジネス日本語・ビジネスマナー・日本の会社についての知識を得ることによって 日本での就職活動及び就職に必要な知識やスキルを身につけることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 日本語のレベルチェック	授業の説明	授業で確認した語彙、表現の復習
2	ビジネス日本語１ 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
3	ビジネス日本語２ 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
4	ビジネス日本語３ 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
5	ビジネス日本語４ 読む	速読、精読 内容理解	文章に出てきた語彙、表現の復習 授業で提示した課題
6	ビジネス日本語５ 読む	速読、精読 内容理解	文章に出てきた語彙、表現の復習 授業で提示した課題
7	ビジネス日本語６ 書く	ビジネス文書の書き方	ビジネス文書の形式、表現の復習 授業で提示した課題
8	ビジネス日本語７ 書く	Ｅメールの書き方	ビジネスにおけるＥメールに必要な形式、書き方の復習 授業で提示した課題
9	ビジネス日本語８	履歴書の書き方	履歴書を書く時に必要な表現の復習 授業で提示した課題
10	ビジネスマナー	異文化ビジネスコミュニケーション	異文化ビジネスコミュニケーションで必要な項目、表現の復習 授業で提示した課題
11	日本の会社１	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
12	日本の会社２	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
13	日本の会社３	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
14	日本の会社と仕事	仕事に関するドラマを視聴し、内容をまとめる。また、内容について話し合う。	授業で確認した語彙、表現等の復習
15	総復習・確認テスト	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

関連科目	専門日本語ＦⅠ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業の参加度（10%）、課題（30%）、テスト（60%）により総合的に判断する。
学生へのメッセージ	授業では積極的に発言することが求められます。
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	(1)事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 (2)授業進度及び参加学生のニーズによって授業内容が多少変更することがある。

科目名	専門日本語Ｒ	科目名（英文）	Japanese for Specific Purposes R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩谷　尚子
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：Ｆ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	RRE1332a1		

基礎科目

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、E メールの書き方、自己 PR の書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。
科目学習の効果（資格）	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習
2	E メールの書き方１	E メールの基本	E メールで使われる形式、表現等の復習
3	E メールの書き方２	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習
4	E メールの書き方３	依頼メール１	依頼メールに必要な語彙、表現の復習
5	E メールの書き方４	依頼メール２	依頼メールの書き方の復習
6	E メールの書き方５	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールで必要な語彙、表現の復習
7	話し方１	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習
8	話し方２	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習
9	話し方３	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習
10	自己 PR１	自己 PR とは何か	自己 PR で必要な項目を復習
11	自己 PR２	自己 PR 例の検討、修正１	自己 PR で必要な語彙、表現の復習
12	自己 PR３	自己 PR 例の検討、修正２	自己 PR で必要な語彙、表現の復習
13	自己 PR４	自分の自己 PR を書く１	自己 PR で必要な形式、書き方の復習
14	自己 PR５	自分の自己 PR を書く２	自己 PR の書き方の復習
15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

関連科目：専門日本語ＦⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（50%）、提出物（50%）
学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3)事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。

科目名	中国語Ⅰ	科目名（英文）	Chinese Ⅰ
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	欒　玉璽
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	NCH1306a1		

授業概要・目的	中国語を初めて学ぶ者にとって、中国語の基本的な発音や文法を理解し、一定の語彙数を早期に修得することが重要である。 この授業では、中国語の発音や文法について学習するとともに、日常における中国語の表現方法の学習を通して、読む・書く・聴く・話すための基礎的な能力を修得する。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	授業中集中して聴くこと、間違いを気にせず大きな声を出すことが授業の中心となる。
科目学習の効果（資格）	1年終了時には中国語検定試験準4級の受験が可能。2年目以降の継続学習のための基礎力がつく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、中国語という言語について	教科書の内容に目を通し、今後の学習内容を把握すること
2	第1課　你好／こんにちは	拼音 声調（四声） 軽声 母音（単母音）	教科書の該当部分を 60 分かけて予習すること。また、この授業で学んだ内容を 60 分かけて復習すること。
3	第2課　给你／あげるよ	子音 無気音と有気音 そり舌音	教科書の該当部分を 60 分かけて予習すること。また、この授業で学んだ内容を 60 分かけて復習すること。
4	第3課　您贵姓／お名前は	母音（複合母音） 母音（鼻母音）	教科書の該当部分を 60 分かけて予習すること。また、この授業で学んだ内容を 60 分かけて復習すること。
5	第 4 課　怎么样／いかがですか	声調記号の付け方 声調の変化 隔音記号／r 化音 発音編小テスト	教科書の該当部分を 60 分かけて予習すること。また、この授業で学んだ内容を 60 分かけて復習すること。
6	第 5 課　乘出租车／タクシーに乗る	動詞構文の基本語順 是（～は～だ） ～吗？（～か）	教科書の該当部分を 60 分かけて予習すること。また、この授業で学んだ内容を 60 分かけて復習すること。
7	第 5 課 乘出租车／タクシーに乗る	形容詞構文の基本語順 的（の） 第 5 課小テスト	教科書の該当部分を 60 分かけて予習すること。また、この授業で学んだ内容を 60 分かけて復習すること。
8	第1課～第5課　単元テスト	発音の復習と練習 基本文型まとめ 会話文の朗読練習 テスト	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること。
9	第 6 課　买水果／果物を買う	お金の言い方 動作と数量・時間 有（存在・所有）	教科書の該当部分を 60 分かけて予習すること。また、この授業で学んだ内容を 60 分かけて復習すること。
10	第 6 課　买水果／果物を買う	疑問詞を使う疑問文 物の数え方 第 6 課小テスト	教科書の該当部分を 60 分かけて予習すること。また、この授業で学んだ内容を 60 分かけて復習すること。
11	第 7 課　访友／友人を訪れる	正反疑問文 了（実現・完了） 呢を使った疑問文	教科書の該当部分を 60 分かけて予習すること。また、この授業で学んだ内容を 60 分かけて復習すること。
12	第 7 課　访友／友人を訪れる	連動文 吧（推測・勧誘・命令）） 在（所在） 第 7 課小テスト	教科書の該当部分を 60 分かけて予習すること。また、この授業で学んだ内容を 60 分かけて復習すること。
13	第 8 課　去吃饭／食事に行く	年齢の尋ね方 了（変化・新状況） 想（～したい）	教科書の該当部分を 60 分かけて予習すること。また、この授業で学んだ内容を 60 分かけて復習すること。
14	第 8 課　去吃饭／食事に行く	選択疑問文 名詞構文の基本語順 比較表現 第 8 課小テスト	教科書の該当部分を 60 分かけて予習すること。また、この授業で学んだ内容を 60 分かけて復習すること。
15	第6課～第8課　単元テスト	総合復習と練習 基本文型まとめ 会話文の朗読練習 テスト	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること。

関連科目：中国語

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	これでパーフェクト！ 新・中国語の旅	張　勤	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			
評価方法 （基準）	授業への参加度と小テスト： 30% 単元テスト： 70%			
学生への メッセージ	継続は力なり、事前・事後の学習に各 60 分要する。			
担当者の 研究室等	1 号館 2 階　非常勤講師室			
備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する			

科目名	中国語Ⅰ	科目名（英文）	Chinese Ⅰ
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	欒　玉璽
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	NCH1306a1		

授業概要・目的	中国語を初めて学ぶ者にとって、中国語の基本的な発音や文法を理解し、一定の語彙数を早期に修得することが重要である。 この授業では、中国語の発音や文法について学習するとともに、日常における中国語の表現方法の学習を通して、読む・書く・聴く・話すための基礎的な能力を修得する。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	授業中集中して聴くこと、間違いを気にせず大きな声を出すことが授業の中心となる。
科目学習の効果（資格）	1年終了時には中国語検定試験準4級の受験が可能。2年目以降の継続学習のための基礎力がつく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、中国語という言語について	教科書の内容に目を通し、今後の学習内容を把握すること
2	第1課　你好／こんにちは	拼音 声調（四声） 軽声 母音（単母音）	教科書の該当部分を 60 分かけて予習すること。また、この授業で学んだ内容を 60 分かけて復習すること。
3	第2課　给你／あげるよ	子音 無気音と有気音 そり舌音	教科書の該当部分を 60 分かけて予習すること。また、この授業で学んだ内容を 60 分かけて復習すること。
4	第3課　您贵姓／お名前は	母音（複合母音） 母音（鼻母音）	教科書の該当部分を 60 分かけて予習すること。また、この授業で学んだ内容を 60 分かけて復習すること。
5	第 4 課　怎么样／いかがですか	声調記号の付け方 声調の変化 隔音記号／r 化音 発音編小テスト	教科書の該当部分を 60 分かけて予習すること。また、この授業で学んだ内容を 60 分かけて復習すること。
6	第 5 課　乘出租车／タクシーに乗る	動詞構文の基本語順 是（～は～だ） ～吗？（～か）	教科書の該当部分を 60 分かけて予習すること。また、この授業で学んだ内容を 60 分かけて復習すること。
7	第 5 課 乘出租车／タクシーに乗る	形容詞構文の基本語順 的（の） 第 5 課小テスト	教科書の該当部分を 60 分かけて予習すること。また、この授業で学んだ内容を 60 分かけて復習すること。
8	第1課～第5課　単元テスト	発音の復習と練習 基本文型まとめ 会話文の朗読練習 テスト	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること。
9	第 6 課　买水果／果物を買う	お金の言い方 動作と数量・時間 有（存在・所有）	教科書の該当部分を 60 分かけて予習すること。また、この授業で学んだ内容を 60 分かけて復習すること。
10	第 6 課　买水果／果物を買う	疑問詞を使う疑問文 物の数え方 第 6 課小テスト	教科書の該当部分を 60 分かけて予習すること。また、この授業で学んだ内容を 60 分かけて復習すること。
11	第 7 課　访友／友人を訪れる	正反疑問文 了（実現・完了） 呢を使った疑問文	教科書の該当部分を 60 分かけて予習すること。また、この授業で学んだ内容を 60 分かけて復習すること。
12	第 7 課　访友／友人を訪れる	連動文 吧（推測・勧誘・命令） 在（所在） 第 7 課小テスト	教科書の該当部分を 60 分かけて予習すること。また、この授業で学んだ内容を 60 分かけて復習すること。
13	第 8 課　去吃饭／食事に行く	年齢の尋ね方 了（変化・新状況） 想（～したい）	教科書の該当部分を 60 分かけて予習すること。また、この授業で学んだ内容を 60 分かけて復習すること。
14	第 8 課　去吃饭／食事に行く	選択疑問文 名詞構文の基本語順 比較表現 第 8 課小テスト	教科書の該当部分を 60 分かけて予習すること。また、この授業で学んだ内容を 60 分かけて復習すること。
15	第6課～第8課　単元テスト	総合復習と練習 基本文型まとめ 会話文の朗読練習 テスト	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること。

関連科目	中国語

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	これでパーフェクト！ 新・中国語の旅	張　勤	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			
評価方法 （基準）	授業への参加度と小テスト： 30% 単元テスト： 70%			
学生への メッセージ	継続は力なり、事前・事後の学習に各 60 分要する。			
担当者の 研究室等	1 号館 2 階　非常勤講師室			
備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する			

科目名	中国語Ⅱ	科目名（英文）	Chinese II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	欒　玉璽
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	NCH1307a1		

基礎科目

授業概要・目的	中国語を初めて学ぶ者にとって、中国語の基本的な発音や文法を理解し、一定の語彙数を早期に修得することが重要である。 この授業では、中国語の発音や文法について学習するとともに、日常における中国語の表現方法の学習を通して、読む・書く・聴く・話すための基礎的な能力を修得する。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	授業中集中して聴くこと、間違いを気にせず大きな声を出すことが授業の中心となる。
科目学習の効果（資格）	1年終了時には中国語検定試験準4級の受験が可能。2年目以降の継続学習のための基礎力がつく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第9課　认识新朋友 ／新しい友人と知り合う	在・和・给（前置詞） 里・上（場所を示す） 離合詞	教科書の該当部分を 60 分かけて予習すること。また、この授業で学んだ内容を 60 分かけて復習すること。
2	第9課　认识新朋友 ／新しい友人と知り合う	二重目的語 “把”構文 軽い動作の表現 第9課小テスト	教科書の該当部分を 60 分かけて予習すること。また、この授業で学んだ内容を 60 分かけて復習すること。
3	第10課　开车 ／車を運転する	様態補語 会（できる） 可以（できる・してよい）	教科書の該当部分を 60 分かけて予習すること。また、この授業で学んだ内容を 60 分かけて復習すること。
4	第10課　开车 ／車を運転する	能（～することができる） 長さの時間の言い方 時間表現の語順 第10課小テスト	教科書の該当部分を 60 分かけて予習すること。また、この授業で学んだ内容を 60 分かけて復習すること。
5	第11課　志愿者活动 ／ボランティア活動	結果補語 動詞・形容詞が名詞を修飾する 快要／快／要～了（もう少しで～）	教科書の該当部分を 60 分かけて予習すること。また、この授業で学んだ内容を 60 分かけて復習すること。
6	第11課　志愿者活动 ／ボランティア活動 第9課～第11課　単元テスト	一边～一边～（～しながら～する） 動作進行中の表現 会（～するだろう）	第9課～第11課学習した項目を復習し、よく練習すること。
7	第12課　去网吧 ／ネットカフェへ行く	要（予定・意志） 离（～から／～より） 打算（～するつもりだ）	教科書の該当部分を 60 分かけて予習すること。また、この授業で学んだ内容を 60 分かけて復習すること。
8	第12課　去网吧 ／ネットカフェへ行く	从（～から／～より） 場所へ（行く／来る） 着（動作の状態・手段・方式） 第12課小テスト	教科書の該当部分を 60 分かけて予習すること。また、この授業で学んだ内容を 60 分かけて復習すること。
9	第13課　看病 ／診察を受ける	主述述語構文 有点儿（ちょっと～） （是）～的（強調表現）	教科書の該当部分を 60 分かけて予習すること。また、この授業で学んだ内容を 60 分かけて復習すること。
10	第13課　看病 ／診察を受ける	存在現象文 受動構文 要・必須（必要・必須） 第13課小テスト	教科書の該当部分を 60 分かけて予習すること。また、この授業で学んだ内容を 60 分かけて復習すること。
11	第14課　看演出 ／コンサートに行く	方向補語 一～就～（～すると、～） 过（～したことがある）	教科書の該当部分を 60 分かけて予習すること。また、この授業で学んだ内容を 60 分かけて復習すること。
12	第14課　看演出 ／コンサートに行く	可能補語 连（～でさえも） 向（～に向かって、へ） 第14課小テスト	教科書の該当部分を 60 分かけて予習すること。また、この授業で学んだ内容を 60 分かけて復習すること。
13	第15課　道别 ／お別れを告げる	不但～，而且～（～だけでなく、～も～） 使役構文（兼語式構文） 動詞＋了，～（～したら、～）	教科書の該当部分を 60 分かけて予習すること。また、この授業で学んだ内容を 60 分かけて復習すること。
14	第15課　道别 ／お別れを告げる	为（～のために） 跟（～と） 得（～しなければならない） 第15課小テスト	教科書の該当部分を 60 分かけて予習すること。また、この授業で学んだ内容を 60 分かけて復習すること。
15	第12課～第15課　単元テスト	総合復習と練習 基本文型まとめ 会話文の朗読練習 テスト	第12課～第15課学習した項目を復習し、よく練習すること。

関連科目	中国語

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	これでパーフェクト！ 新・中国語の旅	張　勤	朝日出版社
2			
3			

参考書

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	授業への参加度と小テスト： 30% 単元テスト： 70%
学生への メッセージ	継続は力なり、事前・事後の学習に各 60 分要する。
担当者の 研究室等	1 号館 2 階　非常勤講師室
備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する

科目名	中国語Ⅱ	科目名（英文）	Chinese II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	欒　玉璽
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	NCH1307a1		

授業概要・目的	中国語を初めて学ぶ者にとって、中国語の基本的な発音や文法を理解し、一定の語彙数を早期に修得することが重要である。 この授業では、中国語の発音や文法について学習するとともに、日常における中国語の表現方法の学習を通して、読む・書く・聴く・話すための基礎的な能力を修得する。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	授業中集中して聴くこと、間違いを気にせず大きな声を出すことが授業の中心となる。
科目学習の効果（資格）	1年終了時には中国語検定試験準4級の受験が可能。2年目以降の継続学習のための基礎力がつく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第9課　认识新朋友 ／新しい友人と知り合う	在・和・给（前置詞） 里・上（場所を示す） 離合詞	教科書の該当部分を 60 分かけて予習すること。また、この授業で学んだ内容を 60 分かけて復習すること。
2	第9課　认识新朋友 ／新しい友人と知り合う	二重目的語 “把”構文 軽い動作の表現 第9課小テスト	教科書の該当部分を 60 分かけて予習すること。また、この授業で学んだ内容を 60 分かけて復習すること。
3	第10課　开车 ／車を運転する	様態補語 会（できる） 可以（できる・してよい）	教科書の該当部分を 60 分かけて予習すること。また、この授業で学んだ内容を 60 分かけて復習すること。
4	第10課　开车 ／車を運転する	能（～することができる） 長さの時間の言い方 時間表現の語順 第10課小テスト	教科書の該当部分を 60 分かけて予習すること。また、この授業で学んだ内容を 60 分かけて復習すること。
5	第11課　志愿者活动 ／ボランティア活動	結果補語 動詞・形容詞が名詞を修飾する 快要／快／要～了（もう少しで～）	教科書の該当部分を 60 分かけて予習すること。また、この授業で学んだ内容を 60 分かけて復習すること。
6	第11課　志愿者活动 ／ボランティア活動 第9課～第11課　単元テスト	一边～一边～（～しながら～する） 動作進行中の表現 会（～するだろう）	第9課～第11課学習した項目を復習し、よく練習すること。
7	第12課　去网吧 ／ネットカフェへ行く	要（予定・意志） 离（～から／～より） 打算（～するつもりだ）	教科書の該当部分を 60 分かけて予習すること。また、この授業で学んだ内容を 60 分かけて復習すること。
8	第12課　去网吧 ／ネットカフェへ行く	从（～から／～より） 場所へ（行く／来る） 着（動作の状態・手段・方式） 第12課小テスト	教科書の該当部分を 60 分かけて予習すること。また、この授業で学んだ内容を 60 分かけて復習すること。
9	第13課　看病 ／診察を受ける	主述述語構文 有点儿（ちょっと～） （是）～的（強調表現）	教科書の該当部分を 60 分かけて予習すること。また、この授業で学んだ内容を 60 分かけて復習すること。
10	第13課　看病 ／診察を受ける	存在現象文 受動構文 要・必須（必要・必須） 第13課小テスト	教科書の該当部分を 60 分かけて予習すること。また、この授業で学んだ内容を 60 分かけて復習すること。
11	第14課　看演出 ／コンサートに行く	方向補語 一～就～（～すると、～） 过（～したことがある）	教科書の該当部分を 60 分かけて予習すること。また、この授業で学んだ内容を 60 分かけて復習すること。
12	第14課　看演出 ／コンサートに行く	可能補語 连（～でさえも） 向（～に向かって、へ） 第14課小テスト	教科書の該当部分を 60 分かけて予習すること。また、この授業で学んだ内容を 60 分かけて復習すること。
13	第15課　道别 ／お別れを告げる	不但～，而且～（～だけでなく、～も～） 使役構文（兼語式構文） 動詞＋了，～（～したら、～）	教科書の該当部分を 60 分かけて予習すること。また、この授業で学んだ内容を 60 分かけて復習すること。
14	第15課　道别 ／お別れを告げる	为（～のために） 跟（～と） 得（～しなければならない） 第15課小テスト	教科書の該当部分を 60 分かけて予習すること。また、この授業で学んだ内容を 60 分かけて復習すること。
15	第12課～第15課　単元テスト	総合復習と練習 基本文型まとめ 会話文の朗読練習 テスト	第12課～第15課学習した項目を復習し、よく練習すること。

関連科目	中国語

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	これでパーフェクト！ 新・中国語の旅	張　勤	朝日出版社
2			
3			

参考書

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	授業への参加度と小テスト： 30% 単元テスト： 70%
学生への メッセージ	継続は力なり、事前・事後の学習に各 60 分要する。
担当者の 研究室等	1 号館 2 階　非常勤講師室
備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する

科目名	統計の基礎	科目名（英文）	Basic Statistics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	２年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小堀　栄子.寺内　睦博
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2△,DP3◎		
科目ナンバリング	NIL1312a1		

授業概要・目的	看護の分野では、疾病とそのリスク要因の因果関係を明らかにするにあたり、統計学を用いる。授業では、統計の基本を理解し、基本的な統計解析を正しく行うことができるようにする。実際にエクセルや統計ソフトを使ったデータの基本的な統計解析が行えるようになることを目的とする。
到達目標	統計の基本を理解し、統計ソフトを使って統計解析を正しく行えるようになる.
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせ、理解を深める。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	統計とは	統計の役割と種類、尺度	・第１回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
2	分布をあらわす	度数分布、ヒストグラム	・前回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
3	代表値と散布度（１）	平均値、分散、標準偏差	・前回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
4	代表値と散布度（２）	中央値、4 分位、最頻値	・前回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
5	標準正規分布	基本と演習	・前回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
6	正規分布と標準偏差	正規分布、確率分布、累積確率	・前回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
7	演習（１）	平均値、分散、標準偏差、正規分布、確率分布	・前回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
8	演習（２）	平均値、分散、標準偏差、正規分布、確率分布	・前回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
9	推定（１）	母集団と標本集団、標本抽出、母平均と標本平均、母分散と標本分散	・前回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
10	推定（２）	母集団の平均値の推定、95%信頼区間	・前回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
11	検定（１）	Z 検定（1 集団）	・前回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこ

			と（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
12	検定（２）	Z 検定（1 集団）の演習問題	・前回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
13	検定（３）	t 検定（1 集団）	・前回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
14	検定（４）	t 検定（1 集団）の演習問題	・前回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
15	検定（５）	χ2 乗検定（1 集団）、演習問題	・前回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	疫学/保健統計（最新保健学講座）	丸井英二	メヂカルフレンド社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題 20%、試験 80%で評価し、60%以上を合格とする。授業全 15 回出席が前提．出席の扱いは学生便覧のとおり（「出席状況が好ましくない場合は、単位を認めないことがあります」学生便覧より）。
学生へのメッセージ	統計はその考え方とともに、データの扱い方も重要です．PC によるデータ処理に慣れるようにすること．授業中に疑問点を解決すること．授業時間以外にも積極的に PC を使うこと．
担当者の研究室等	7 号館 3 階　研究室 24（小堀）
備考	提出された課題内容をまとめたものを授業で取り上げ、解説する。

科目名	統計の基礎	科目名（英文）	Basic Statistics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	２年	クラス	２
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小堀　栄子.寺内　睦博
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2△,DP3◎		
科目ナンバリング	NIL1312a1		

基礎科目

授業概要・目的	看護の分野では、疾病とそのリスク要因の因果関係を明らかにするにあたり、統計学を用いる。授業では、統計の基本を理解し、基本的な統計解析を正しく行うことができるようにする。実際にエクセルや統計ソフトを使ったデータの基本的な統計解析が行えるようになることを目的とする。
到達目標	統計の基本を理解し、統計ソフトを使って統計解析を正しく行えるようになる.
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせ、理解を深める。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	統計とは	統計の役割と種類、尺度	・第１回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
2	分布をあらわす	度数分布、ヒストグラム	・前回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
3	代表値と散布度（１）	平均値、分散、標準偏差	・前回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
4	代表値と散布度（２）	中央値、4 分位、最頻値	・前回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
5	標準正規分布	基本と演習	・前回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
6	正規分布と標準偏差	正規分布、確率分布、累積確率	・前回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
7	演習（１）	平均値、分散、標準偏差、正規分布、確率分布	・前回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
8	演習（２）	平均値、分散、標準偏差、正規分布、確率分布	・前回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
9	推定（１）	母集団と標本集団、標本抽出、母平均と標本平均、母分散と標本分散	・前回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
10	推定（２）	母集団の平均値の推定、95%信頼区間	・前回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
11	検定（１）	Z 検定（1 集団）	・前回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこ

			と（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
12	検定（２）	Z 検定（1 集団）の演習問題	・前回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
13	検定（３）	t 検定（1 集団）	・前回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
14	検定（４）	t 検定（1 集団）の演習問題	・前回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
15	検定（５）	χ2 乗検定（1 集団）、演習問題	・前回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	疫学/保健統計（最新保健学講座）	丸井英二	メヂカルフレンド社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題 20%、試験 80%で評価し、60%以上を合格とする。授業全 15 回出席が前提．出席の扱いは学生便覧のとおり（「出席状況が好ましくない場合は、単位を認めないことがあります」学生便覧より）。
学生へのメッセージ	統計はその考え方とともに、データの扱い方も重要です．PC によるデータ処理に慣れるようにすること．授業中に疑問点を解決すること．授業時間以外にも積極的に PC を使うこと．
担当者の研究室等	7 号館 3 階　研究室 24（小堀）
備考	提出された課題内容をまとめたものを授業で取り上げ、解説する。

科目名	日本語会話Ｆ Ⅰ	科目名（英文）	Japanese Conversation FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古川　由理子
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：Ｆ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	FF01324a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成（残り）
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習（文体に気を付ける）
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師講師室（7 号館 2 階）
備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。

科目名	日本語会話ＦⅡ	科目名（英文）	Japanese Conversation FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川　由理子
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：Ｆ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	FF02325a1		

基礎科目

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成（残り）
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習（文体に気を付ける）
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する

関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師講師室（7 号館 2 階）
備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。

科目名	日本語会話R	科目名（英文）	Japanese Conversation R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川　由理子
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅲ○,Ⅳ○,R科：A◎,A科：C◎,M科：B2◎,E科：F○,C科：Ⅲ○,Ⅵ○,L科：DP1◎,DP7△,DP8△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	RRE1333a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成（残り）
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習（文体に気を付ける）
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師講師室（7 号館 2 階）
備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。

科目名	日本語総合Ｆ Ⅰ	科目名（英文）	Comprehensive Japanese FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤原　京佳
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：Ｆ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	FF01320a1		

授業概要・目的

授業では特定のテーマに関する資料を用い、以下の 4 点を行う。

１．資料で使用されている語彙や表現を学ぶ
２．資料の内容を理解する
３．資料の内容について意見交換を行う
４．必要に応じて資料の要約や意見文を書く

日本語の語彙力、読解力、口頭コミュニケーション能力、ライティング力を総合的に養うことを目的とする。

到達目標

１．論説文に特徴的な表現や語彙を理解することができる。
２．社会的・専門的テーマに関する資料を読んで理解することができる。
３．特定のテーマについて他者と議論・対話を行うことができる。
４．適切な文体・表現を用いて文章を書くことができる。

授業方法と留意点

社会的・専門的テーマに関する資料を読んでいくが、内容理解にとどまらず、内容を踏まえた上で自身の考えを深めることが求められる。したがって、授業では語彙・表現等の説明も行うが、意見交換を重視する。また、自分の考えを一方的に述べるだけでなく、異なる意見をもつ他者とどのように話し合いを進めていくかということにも意識的に取り組んでいく。

科目学習の効果（資格）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	自己紹介 授業の概要説明	自己紹介文を書く
2	テーマ１	資料の読解・テーマに関する話し合い	資料に出てきた語彙・表現等を復習する
3	テーマ２	資料の読解・テーマに関する話し合い	資料に出てきた語彙・表現等を復習する
4	テーマ３	資料の読解・テーマに関する話し合い	資料に出てきた語彙・表現等を復習する
5	確認	テーマ１から３の学習内容に関する確認・小テスト	テーマ１から３のうち１つ選んで、意見文を書く
6	テーマ４	資料の読解・テーマに関する話し合い	資料に出てきた語彙・表現等を復習する
7	テーマ５	資料の読解・テーマに関する話し合い	資料に出てきた語彙・表現等を復習する
8	テーマ６	資料の読解・テーマに関する話し合い	資料に出てきた語彙・表現等を復習する
9	確認	テーマ 4 から 6 の学習内容に関する確認・小テスト	テーマ 4 から 6 のうち１つ選んで、意見文を書く
10	テーマ７	資料の読解・テーマに関する話し合い	資料に出てきた語彙・表現等を復習する
11	テーマ８	資料の読解・テーマに関する話し合い	資料に出てきた語彙・表現等を復習する
12	テーマ９	資料の読解・テーマに関する話し合い	資料に出てきた語彙・表現等を復習する
13	確認	テーマ 7 から 9 の学習内容に関する確認・小テスト	テーマ 7 から 9 のうち１つ選んで、意見文を書く
14	レポート作成準備	レポートの書き方	これまで扱ったテーマの中から1つ選びレポートを作成する
15	発表・フィードバック	レポート内容の発表および話し合い	返却されたレポートの訂正箇所について確認する

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

授業への取り組み 30%、小テスト 30%、レポート 40%で判断する。

学生へのメッセージ

受講者の日本語レベルにより授業内容を調整・変更することがあります。

担当者の研究室等

国際交流センター講師控室（3 号館 4 階）

備考

事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。
受講者が小人数の場合、要望を取り入れながら授業を行います。
授業では学生同士の話し合いを観察し、教師が適宜フィードバックを行う。

科目名	日本語総合ＦⅡ	科目名（英文）	Comprehensive Japanese FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤原　京佳
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅲ○,Ⅳ○,R科：A◎,A科：C◎,M科：B2◎,E科：Ｆ○,C科：Ⅲ○,Ⅵ○,L科：DP1◎,DP7△,DP8△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1◎,DP7◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	FF02321a1		

授業概要・目的	日本や国際社会における社会・時事問題への理解を深めると同時に、問題について日本語で議論する能力を伸ばす。
到達目標	１．社会的な問題について論理的に自分の意見を述べることができる。 ２．他者の意見に耳を傾け、建設的に議論を進めていくことができる。
授業方法と留意点	日本・国際社会の問題に関するニュースや新聞（生教材）を使い、話し合う。 コースの後半は学生各自が興味のある話題を持ち寄って、話し合う。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	トピック①	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
2	トピック②	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
3	トピック③	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
4	トピック④	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
5	トピック⑤	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
6	トピック⑥	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
7	トピック⑦	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
8	トピック⑧	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
9	学生持ち寄りのトピック①	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
10	学生持ち寄りのトピック②	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
11	学生持ち寄りのトピック③	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
12	学生持ち寄りのトピック⑤	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
13	学生持ち寄りのトピック⑥	議論	翌週行う自分の持ち寄りトピックに関する資料収集
14	発表準備	自分が持ち寄ったトピックをさらに絞り込み、発表資料を作成する	発表練習
15	発表	口頭発表 質疑応答 振り返り	発表のフィードバックシートを用い、改善点等を確認する

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業で課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40％で判断する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。
担当者の研究室等	国際交流センター（３号館４階）
備考	事前事後学習時間の目安は毎週１時間。 受講者が小人数の場合、要望を取り入れながら授業を行います。 議論を行ううえで不明な語彙や表現がある場合は教師が適宜サポート・フィードバックします。

科目名	日本語総合R	科目名（英文）	Comprehensive Japanese R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤原　京佳
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅲ○,Ⅳ○,R科：A◎,A科：C◎,M科：B2◎,E科：F○,C科：Ⅲ○,Ⅵ○,L科：DP1◎,DP7△,DP8△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	RRE1331a1		

基礎科目

授業概要・目的	日本や国際社会における社会・時事問題への理解を深めると同時に、問題について日本語で議論する能力を伸ばす。
到達目標	1．社会的な問題について論理的に自分の意見を述べることができる。 2．他者の意見に耳を傾け、建設的に議論を進めていくことができる。
授業方法と留意点	日本・国際社会の問題に関するニュースや新聞（生教材）を使い、話し合う。 コースの後半は学生各自が興味のある話題を持ち寄って、話し合う。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	トピック①	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
2	トピック②	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
3	トピック③	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
4	トピック④	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
5	トピック⑤	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
6	トピック⑥	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
7	トピック⑦	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
8	トピック⑧	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
9	学生持ち寄りのトピック①	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
10	学生持ち寄りのトピック②	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
11	学生持ち寄りのトピック③	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
12	学生持ち寄りのトピック⑤	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
13	学生持ち寄りのトピック⑥	議論	翌週行う自分の持ち寄りトピックに関する資料収集
14	発表準備	自分が持ち寄ったトピックをさらに絞り込み、発表資料を作成する	発表練習
15	発表	口頭発表 質疑応答 振り返り	発表のフィードバックシートを用い、改善点等を確認する

関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業で課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。
担当者の研究室等	国際交流センター（3号館4階）
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 受講者が小人数の場合、要望を取り入れながら授業を行います。 議論を行ううえで不明な語彙や表現がある場合は教師が適宜サポート・フィードバックします。

科目名	日本語読解Ｆ Ⅰ	科目名（英文）	Japanese Reading FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木　成美
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：Ｆ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,DP8◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	FF01314a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。
科目学習の効果（資格）	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
4	「科学」の定義①	読解、内容理解	復習
5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	復習
6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	復習
7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	復習
8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	復習
9	言語と文化①	読解、内容理解	復習
10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	復習
11	ローソクの進化①	読解、内容理解	復習
12	ローソクの進化①	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	復習
13	「割り勘」は当然？①	読解、内容理解	復習
14	「割り勘」は当然？②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	復習
15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語読解ＦⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、提出物（30%）、小テスト（30%）
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3)新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週１時間。 (4)小テストの FB に関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。

科目名	日本語読解ＦⅡ	科目名（英文）	Japanese Reading FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木　成美
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：Ｆ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,DP8◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	FF02315a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。
科目学習の効果（資格）	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
2	統計と数字①	読解、内容理解	復習
3	統計と数字②	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	復習
4	背理法①	読解、内容理解	復習
5	背理法②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	復習
6	「待つ」こと①	読解、内容理解	復習
7	「待つ」こと②	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	復習
8	ついでに何をする？①	読解、内容理解	復習
9	ついでに何をする？②	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	復習
10	ウイルス発見！①	読解、内容理解	復習
11	ウイルス発見！②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	復習
12	大学で学ぶこと①	読解、内容理解	復習
13	大学で学ぶこと②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	復習
14	何のために「学ぶ」のか	読解、内容理解	復習
15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語読解ＦⅠ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、提出物（30%）、小テスト（30%）
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3)新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週１時間。 (4)小テストの FB に関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。

科目名	日本語読解R	科目名（英文）	Japanese Reading R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木　成美
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅲ○,Ⅳ○,R科：A◎,A科：C◎,M科：B2◎,E科：F○,C科：Ⅲ○,Ⅵ○,L科：DP1◎,DP7△,DP8△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	RRE1328a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。
科目学習の効果（資格）	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
4	「科学」の定義①	読解、内容理解	復習
5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	復習
6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	復習
7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	復習
8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	復習
9	言語と文化①	読解、内容理解	復習
10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	復習
11	ローソクの進化①	読解、内容理解	復習
12	ローソクの進化①	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	復習
13	「割り勘」は当然？①	読解、内容理解	復習
14	「割り勘」は当然？②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	復習
15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語読解FⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、提出物（30%）、小テスト（30%）
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！
担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3)新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週1時間。 (4)小テストのFBに関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。

科目名	日本語表現作文ＦⅠ	科目名（英文）	Japanese Reading and Writing FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木　成美
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：Ｆ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,DP8◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	FF01318a1		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。
到達目標	・レポート・論文の文体で書ける。 ・読んだ内容を要約できる。 ・段落分けして書ける。 ・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 ・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。
授業方法と留意点	授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。
科目学習の効果（資格）	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	復習
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	復習
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	復習
4	段落①	段落構成について学ぶ	復習
5	段落②	実践練習	復習 作文課題
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	復習
7	経過説明②	実践練習	復習 作文課題
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	復習
9	定義	定義の書き方を学ぶ	復習
10	分類・定義	実践練習	復習 作文課題
11	引用	引用の書き方を学ぶ	復習
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	復習
13	要約②	実践練習	復習 作文課題
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	復習
15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語表現作文ＦⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（50%）、提出物（50%）
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3)作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週１時間。 (4)提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。

科目名	日本語表現作文ＦⅡ	科目名（英文）	Japanese Reading and Writing FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木　成美
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：Ｆ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,DP8◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	FF02319a1		

授業概要・目的	この授業では、実際にレポートを作成することを通し、レポート・論文の書き方を守ってレポートが作成できるようになることを目指す。
到達目標	・レポート・論文の文体で書ける。 ・レポート・論文の書き方を守って書ける。 ・アウトラインに沿って書ける。 ・信頼性の高い資料を集められる。
授業方法と留意点	授業では、テーマを決め、実際にレポートを作成していく。
科目学習の効果（資格）	レポートが書けるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	復習
2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	復習
3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	復習
4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	復習 資料を集める
5	資料を整理する	集めた資料を整理する	復習
6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	復習
7	序論①	序論の内容と書き方（課題、目的の提示）を学ぶ	復習
8	序論②	序論を書く	復習
9	本論①	本論の内容と書き方（データ、意見提示）を学ぶ	復習
10	本論②	本論の内容と書き方（考察、結論提示）を学ぶ	復習
11	本論③	本論を書く	復習
12	結論①	結論の内容と書き方（全体のまとめ、今後の課題）を学ぶ	復習
13	結論②	結論を書く	復習
14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	復習
15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	復習

関連科目	日本語表現作文ＦⅠ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、提出物（30%）、レポート（30%）
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう！
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3)作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週１時間。 (4)提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。

科目名	日本語表現作文R	科目名（英文）	Japanese Reading and Writing R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木　成美
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅲ○,Ⅳ○,R科：A◎,A科：C◎,M科：B2◎,E科：Ｆ○,C科：Ⅲ○,Ⅵ○,L科：DP1◎,DP7△,DP8△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	RRE1330a1		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。
到達目標	・レポート・論文の文体で書ける。 ・読んだ内容を要約できる。 ・段落分けして書ける。 ・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 ・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。
授業方法と留意点	授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。
科目学習の効果（資格）	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	復習
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	復習
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	復習
4	段落①	段落構成について学ぶ	復習
5	段落②	実践練習	復習 作文課題
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	復習
7	経過説明②	実践練習	復習 作文課題
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	復習
9	定義	定義の書き方を学ぶ	復習
10	分類・定義	実践練習	復習 作文課題
11	引用	引用の書き方を学ぶ	復習
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	復習
13	要約②	実践練習	復習 作文課題
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	復習
15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語表現作文FⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（50%）、提出物（50%）
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3)作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週１時間。 (4)提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。

科目名	日本語表現法	科目名（英文）	Japanese Reading and Writing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	南谷　静香
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	NJA1310a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	教科書に沿って、講義形式で行う。 毎回授業開始時に前回授業の復習と日本語表現の小テストを行うため、遅刻をしないこと。 指示した課題を必ず提出すること。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 授業の内容、進め方について 「はじめに」 文章で伝えるということについて	講義	教科書 p. 1～6 を復習する（一時間程度）
2	「文章の書き方」 レポート・論文の基本事項 わかりやすい文章の書き方	講義	教科書 p. 7～12 を復習する（一時間程度）
3	「事実と意見」 事実と意見の書き分け 説明文とは何か	講義	教科書p. 13～17および配布プリントを復習する(一時間程度)
4	課題① ある事物について、論理的に説明する	課題の作成・提出	教科書 p. 1～18 を復習する（一時間程度）
5	「構成」 レポートなどの文章の構成を学ぶ	講義	教科書 p. 19～22 を復習する（一時間程度）
6	「要約」 要旨の要約の作成方法を知る	講義	教科書p. 23～26および配布プリントを復習する(一時間程度)
7	フィードバック 課題①の返却と反省 「要約」 要約文の作成	フィードバックと実践（要約文の作成）	教科書 p. 1～26 および配布プリントを復習する。返却された課題を見直す。(一時間程度)
8	「文章を引用する」 文章を引用する意方法を学ぶ	講義	教科書p. 27～31および配布プリントを復習する(一時間程度)
9	「図表を引用する」 図表を引用する方法を学ぶ	講義	教科書p. 32～37および配布プリントを復習する(一時間程度)
10	「意見を述べる」 引用をふまえた考察に基づいて意見を述べる	講義	教科書p. 38～39および配布プリントを復習する(一時間程度)
11	課題② 資料を引用して意見を述べる	課題の作成・提出	教科書 p. 32～39 を復習する（一時間程度）
12	小テストの復習テスト	復習テスト	返却した小テストの内容を復習してテストに臨む（一時間程度）
13	フィードバック 課題②の返却と反省	フィードバック	教科書 p. 32～39 を復習する。返却された課題を見直す。(一時間程度)
14	レポート これまでの講義の内容を踏まえて論説文を書く	レポートの作成・提出	教科書 p. 1～39 を復習する（一時間程度）
15	フィードバック レポートの反省点	フィードバック	教科書 p. 1～39 を復習する（一時間程度）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題 2 回（20%×2）、レポート（30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。

学生への メッセージ	口語表現と文章表現の違いを理解し、読み手を意識したわかりやすい文章を書くスキルを身につけてください。 論理的な文章を書く能力は、学生生活でのレポートや論文はもちろんのこと、社会人になってからも必要なものです。積極的に課題に取り組み、実践的な能力を身につけるよう務めましょう。
担当者の 研究室等	1 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	前もって教科書の該当箇所をしっかり読んでから講義にのぞむこと。 返却された小テストはしっかりと復習すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	日本語表現法	科目名（英文）	Japanese Reading and Writing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	１年	クラス	２
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	南谷　静香
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	NJA1310a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	教科書に沿って、講義形式で行う。 毎回授業開始時に前回授業の復習と日本語表現の小テストを行うため、遅刻をしないこと。 指示した課題を必ず提出すること。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 授業の内容、進め方について 「はじめに」 文章で伝えるということについて	講義	教科書 p. 1～6 を復習する（一時間程度）
2	「文章の書き方」 レポート・論文の基本事項 わかりやすい文章の書き方	講義	教科書 p. 7～12 を復習する（一時間程度）
3	「事実と意見」 事実と意見の書き分け 説明文とは何か	講義	教科書p. 13～17および配布プリントを復習する(一時間程度)
4	課題① ある事物について、論理的に説明する	課題の作成・提出	教科書 p. 1～18 を復習する（一時間程度）
5	「構成」 レポートなどの文章の構成を学ぶ	講義	教科書 p. 19～22 を復習する（一時間程度）
6	「要約」 要旨の要約の作成方法を知る	講義	教科書p. 23～26および配布プリントを復習する(一時間程度)
7	フィードバック 課題①の返却と反省 「要約」 要約文の作成	フィードバックと実践（要約文の作成）	教科書 p. 1～26 および配布プリントを復習する。返却された課題を見直す。(一時間程度)
8	「文章を引用する」 文章を引用する意方法を学ぶ	講義	教科書p. 27～31および配布プリントを復習する(一時間程度)
9	「図表を引用する」 図表を引用する方法を学ぶ	講義	教科書p. 32～37および配布プリントを復習する(一時間程度)
10	「意見を述べる」 引用をふまえた考察に基づいて意見を述べる	講義	教科書p. 38～39および配布プリントを復習する(一時間程度)
11	課題② 資料を引用して意見を述べる	課題の作成・提出	教科書 p. 32～39 を復習する（一時間程度）
12	小テストの復習テスト	復習テスト	返却した小テストの内容を復習してテストに臨む（一時間程度）
13	フィードバック 課題②の返却と反省	フィードバック	教科書 p. 32～39 を復習する。返却された課題を見直す。(一時間程度)
14	レポート これまでの講義の内容を踏まえて論説文を書く	レポートの作成・提出	教科書 p. 1～39 を復習する（一時間程度）
15	フィードバック レポートの反省点	フィードバック	教科書 p. 1～39 を復習する（一時間程度）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題 2 回（20%×２）、レポート（30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。

学生への メッセージ	口語表現と文章表現の違いを理解し、読み手を意識したわかりやすい文章を書くスキルを身につけてください。 論理的な文章を書く能力は、学生生活でのレポートや論文はもちろんのこと、社会人になってからも必要なものです。積極的に課題に取り組み、実践的な能力を身につけるよう務めましょう。
担当者の 研究室等	1 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	前もって教科書の該当箇所をしっかり読んでから講義にのぞむこと。 返却された小テストはしっかりと復習すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	日本語文法ＦⅠ	科目名（英文）	Japanese Grammar FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木　成美
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：Ｆ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,DP8◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	FF01316a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。
科目学習の効果（資格）	高度な日本語運用能力

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	復習
2	渡り鳥はなぜ迷わない？	文法項目の解説と練習	復習
3	フリーズする脳	文法項目の解説と練習	復習
4	「科学」の定義①	文法項目の解説と練習	復習
5	「科学」の定義②	文法項目の解説と練習	復習
6	現代の若者のマナー①	文法項目の解説と練習	復習
7	現代の若者のマナー②	文法項目の解説と練習	復習
8	親孝行な男の子	文法項目の解説と練習	復習
9	言語と文化①	文法項目の解説と練習	復習
10	言語と文化②	文法項目の解説と練習	復習
11	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	復習
12	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	復習
13	「割り勘」は当然？①	文法項目の解説と練習	復習
14	「割り勘」は当然？②	文法項目の解説と練習	復習
15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語文法ＦⅡ、日本語読解ＦⅠ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、提出物（30%）、小テスト（30%）
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3)授業内で使用したプリントを使い文法の確認（復習）。目安は毎週１時間。 (4)小テストの FB に関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。

科目名	日本語文法ＦⅡ	科目名（英文）	Japanese Grammar FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木　成美
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：Ｆ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,DP8◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	FF02317a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。
科目学習の効果（資格）	高度な日本語運用能力

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	復習
2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	復習
3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	復習
4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
5	背理法②	文法項目の解説と練習	復習
6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	復習
7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	復習
8	ついでに何をする？①	文法項目の解説と練習	復習
9	ついでに何をする？②	文法項目の解説と練習	復習
10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	復習
11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	復習
12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	復習
13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	復習
14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	復習
15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語文法ＦⅠ、日本語読解ＦⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、提出物（30%）、小テスト（30%）
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3)授業内で使用したプリントを使い文法の確認（復習）。目安は毎週１時間。 (4)小テストの FB に関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。

科目名	日本語文法R	科目名（英文）	Japanese Grammar R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木　成美
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：F ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	RRE1329a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。
科目学習の効果（資格）	高度な日本語運用能力

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	復習
2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	復習
3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	復習
4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
5	背理法②	文法項目の解説と練習	復習
6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	復習
7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	復習
8	ついでに何をする？①	文法項目の解説と練習	復習
9	ついでに何をする？②	文法項目の解説と練習	復習
10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	復習
11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	復習
12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	復習
13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	復習
14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	復習
15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語文法ＦⅠ、日本語読解ＦⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、提出物（30%）、小テスト（30%）
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3)授業内で使用したプリントを使い文法の確認（復習）。目安は毎週１時間。 (4)小テストの FB に関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。

科目名	日本事情ＦⅠ	科目名（英文）	Japanese Culture and Society FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇　薫
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1△,DP2○,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	FF01312a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。（1）映画についての情報・その他背景知識について説明　（2）映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題　（3）テーマについてディスカッション　（4）「書く」練習
科目学習の効果（資格）	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習(11 章 2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)(1.5 時間)
2	映画１：テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習（11 章 2～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5 時間)
3	映画１：テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習（11 章 2～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5 時間)
4	映画１：テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（4 章 2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）　（計 2 時間）
5	映画２：テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（4 章 2～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(計 2 時間)
6	映画２：テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習（4 章 2～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5 時間)
7	映画２：テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く）(計 2 時間)
8	テーマ１・２に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習(10 章 2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)（計 2 時間）
9	映画３：テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（10 章 2～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(計 2 時間)
10	映画３：テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習（10 章 2～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5 時間)
11	映画３：テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（4 章 2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）　（計 2 時間）
12	映画４：「ジェンダー」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（4 章 2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）　（計 2 時間）
13	映画４：「ジェンダー」	内容理解、タスク	テキスト予習（4 章 2～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5 時間)
14	映画４：「ジェンダー」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く）(計 2 時間)
15	テーマ３・４に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く）(計 2 時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
2			
3			

参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>映画でジャパニーズ</td><td>窪田守弘編</td><td>南雲堂フェニックス</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
評価方法 （基準）	各課題及びレポート（80%),授業への参加度（20%）により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関で多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説をしながら、インタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	７号館４階(門脇研究室)
備考	提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。

科目名	日本事情ＦⅡ	科目名（英文）	Japanese Culture and Society FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇　薫
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1△,DP2○,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	FF02313a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。（1）映画についての情報・その他背景知識について説明　（2）映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題　（3）テーマについてディスカッション　（4）「書く」練習
科目学習の効果（資格）	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習（2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）(1.5 時間)
2	映画１：テーマ「民族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5 時間)
3	映画１：テーマ「民族」	内容理解、タスク	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5 時間)
4	映画１：テーマ「民族」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（4 章２ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）　（計２時間)
5	映画２：テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（11 章２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(計２時間)
6	映画２：テーマ「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習（11 章２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5 時間)
7	映画２：テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く）(計２時間)
8	テーマ１・２に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（2 章２ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）(計２時間)
9	映画３：テーマ「趣味とスポーツ」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（2 章２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(計２時間)
10	映画３：テーマ「趣味とスポーツ」	内容理解、タスク	テキスト予習（2 章２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5 時間)
11	映画３：テーマ「趣味とスポーツ」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習(10 章２ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）　（計２時間)
12	映画４：「高齢化社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習(10 章２ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）　（計２時間)
13	映画４：「高齢化社会」	内容理解、タスク	テキスト予習（10 章２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5 時間)
14	映画４：「高齢化社会」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く）(計２時間)
15	テーマ３・４に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く）(計２時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
2			
3			

評価方法 （基準）	各課題及びレポート（80%),授業への参加度（20%）により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関での多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説しながらインタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	７号館４階(門脇研究室)
備考	提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。

科目名	日本事情ＲⅠ	科目名（英文）	Japanese Culture and Society RI
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇　薫
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1△,DP2○,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	RRE1326a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。（1）映画についての情報・その他背景知識について説明　（2）映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題　（3）テーマについてディスカッション　（4）「書く」練習
科目学習の効果（資格）	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習(11 章 2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)(1.5 時間)
2	映画１：テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習（11 章 2～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5 時間)
3	映画１：テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習（11 章 2～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5 時間)
4	映画１：テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（４章２ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）　（計２時間）
5	映画２：テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（４章２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(計２時間)
6	映画２：テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習（４章２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5 時間)
7	映画２：テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く）(計２時間)
8	テーマ１・２に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習(10 章 2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)（計２時間）
9	映画３：テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（10 章 2～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(計２時間)
10	映画３：テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習（10 章 2～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5 時間)
11	映画３：テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（４章２ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）　（計２時間）
12	映画４：「ジェンダー」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（４章２ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）　（計２時間）
13	映画４：「ジェンダー」	内容理解、タスク	テキスト予習（４章２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5 時間)
14	映画４：「ジェンダー」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く）(計２時間)
15	テーマ３・４に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く）(計２時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
2			
3			

評価方法 （基準）	各課題及びレポート（80%),授業への参加度（20%）により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関で多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説をしながら、インタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	７号館４階(門脇研究室)
備考	提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。

科目名	日本事情ＲⅡ	科目名（英文）	Japanese Culture and Society RII
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇　薫
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1△,DP2○,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	RRE2327a1		

基礎科目

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。（1）映画についての情報・その他背景知識について説明　（2）映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題　（3）テーマについてディスカッション　（4）「書く」練習
科目学習の効果（資格）	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習（2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）(1.5 時間)
2	映画１：テーマ「民族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5 時間)
3	映画１：テーマ「民族」	内容理解、タスク	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5 時間)
4	映画１：テーマ「民族」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（4 章２ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）　(計 2 時間)
5	映画２：テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（11 章２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(計２時間)
6	映画２：テーマ「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習（11 章２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5 時間)
7	映画２：テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く）(計２時間)
8	テーマ１・２に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（2 章２ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）(計２時間)
9	映画３：テーマ「趣味とスポーツ」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（2 章２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(計２時間)
10	映画３：テーマ「趣味とスポーツ」	内容理解、タスク	テキスト予習（2 章２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5 時間)
11	映画３：テーマ「趣味とスポーツ」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習(10 章２ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）　(計 2 時間)
12	映画４：「高齢化社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習(10 章２ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）　(計 2 時間)
13	映画４：「高齢化社会」	内容理解、タスク	テキスト予習（10 章２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5 時間)
14	映画４：「高齢化社会」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く）(計２時間)
15	テーマ３・４に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く）(計２時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
2			
3			

参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>映画でジャパニーズ</td><td>窪田守弘編</td><td>南雲堂フェニックス</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
評価方法 （基準）	各課題及びレポート（80%),授業への参加度（20%）により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関での多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説しながらインタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	７号館４階(門脇研究室)
備考	提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。

教　　養　　科　　目

科目名	海外ビジネスインターンシップ	科目名（英文）	Overseas Business Internship
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	西之坊　穂
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科･R 科･A 科･M 科･E 科･C 科:IT01428a2～IT01432a2,L 科:LT01422a2～LT01426a2,D 科･S 科:IT01428a2～IT01432a2,P 科:YT01423a2～YT01427a2,J 科：,W 科：WT01424a2～WT01428a2,N 科：NT01420a2～NT01424a2		

授業概要・ 目的	本学では、将来グローバル、あるいは地域で活躍する力を身につけた知的職業人の育成を目指している。 そのためには、他者と自分の違いを理解し、相手を尊重するという姿勢が必要である。このような態度は国内においても修得可能であるが、日本とは異なる文化、経済事情、生活習慣、価値観などもつ海外においてインターンシップを体験することにより、相手を正しく理解し、尊重する姿勢、柔軟な発想力の必要性を実感し修得できる。この海外インターンシップでは、ダイバーシティ社会の中で、自分の考えを相手に伝え、また相手の考えを理解できるコミュニケーション能力と自己の責任で自ら考え行動する自律心を育成する。 なお、授業担当者の一人は企業で人事経験を持ち、もう一人は旅行会社での実務経験を持ちます。パラダイス・バリ（旅行会社）の運営責任者は日本人であり、現地人をマネジメントしているため、授業担当者の実務視点から学生に教授する。また、旅行会社の実務視点からも学生に教授する。、
到達目標	・日本と相手国（インドネシア・バリ島）の歴史、文化、経済等の違いを正しく理解する。 ・異なる文化、価値観等を尊重する姿勢を修得する。 ・他国を理解することにより、日本についての理解を深め、日本が抱えている問題について深く考察する。 ・将来、グローバルに活躍するために、自分に欠けているものは何か、大学生活で何を学ぶべきか、体得する。
授業方法と 留意点	研修先としてサラスワティ大学、ウブド第一高校、パラダイス・バリ（旅行会社）等を予定している。 研修先により研修内容は異なり、求められる資質、英語能力が異なります。事前学習において各研修先について 説明しますが、受講生自身も調査し、研修先を選択します。有意義なインターンシップにするためには、学生の希 望と相手先の要望とのマッチングが非常に重要になります。そのため学生の希望は配慮しますが、学生が最初に 希望した研修先に配属されるとは限りません。事前に充分面談を行い、話し合いの上決定します。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	事前学習は１０日を予定している。具体的には、ガイダンス、研修先の研修内容の解説、受け入れ先とのマッチング、バリ島の歴史、習慣、経済状況などを各自調べ発表する。 本事前学習では、グループ学習、ディスカッション、プレゼンテーションを繰り返し行う。最終的には、現地での各自の研修内容の事前準備が完了するまで行う。 現地実習　１０日（移動日含む） １日目　　移動 ２日目　　環境学習　　マングローブセンターにて ３日目　　サラスワティ大学で国際交流会 ４日目～6 日目　各研修先にて各々インターンシップ研修実施 ７日目～8 日目　ウブド第一高校にてインターンシップ研修実施 ９日目　　現地視察 １０日目　　移動 研修内容は、研修先により環境問題に対するの取り組み、日本語授業の SA、課外活動のサポート、の取り組みなど異なります。なお、研修先のリクエストにより、環境問題、日本の歴史や文化紹介（茶道、書道、空手等）、旅行会社のパッケージツアーの企画など、内容が異なります。 事後学習　　３日（資料の作成が間に合わない場合は、追加する） 報告書の作成、指導、報告会に向けたプレゼンテーション資料の作成、指導、全体報告会
関連科目	外国語関連科目、世界の歴史、日本の歴史等
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	実習前の事前学習（10%）、海外現地研修 60%（実習記録 10%、実習態度 50%（研修先からの評価を勘案し、引率教員が 評価する）、実習報告書（20%）、全体報告会のプレゼン(10%)で評価する。 ただし、災害やテロ等により海外現地に行けなかった場合は単位を認定しない。
学生への メッセージ	参加を迷っている方は、遠慮なく田中先生や私の研究室に訪問して質問をしてください。
担当者の 研究室等	11 号館８階　　西之坊研究室 11 号館８階　　田中研究室
備考	事前学習は、全体で 10 時間程度行うこと。

科目名	株式投資と企業家育成	科目名（英文）	Investment & Entrepreneurship
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	林　正浩
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：IT01428a2～IT01432a2,L 科：LT01422a2～LT01426a2,D 科・S 科：IT01428a2～IT01432a2,P 科：YT01423a2～YT01427a2,J 科：,W 科：WT01424a2～WT01428a2,N 科：NT01420a2～NT01424a2		

教養科目

授業概要・目的	『「投資」とは何か』、個人投資に必要な基本的な金融・経済知識と投資手法ににについて学び、シミュレーションによる資産運用演習を体験します。更に、投資対象として注目度が高い新興企業（ベンチャー企業）について、新規事業の着想から，ビジネスモデルの構築，そして実際の起業に至るまでの諸課題や起業の実際，事業の維持・継続と発展に不可欠な諸要素について学びます。 【担当教員実務経歴】 ①ベンチャー投資財団（企業投資業務担当） ②監査法人（株式上場コンサルティング担当）
到達目標	将来、就職してからの確定拠出型年金制度への対応として、各種投資金融商品の特徴と運用リスク、リターンに対する税務処理を習得し、個人投資家の育成を目指します。 また、将来の選択肢として自身のアイデアをビジネスに転換するための知恵を習得する起業家育成を目指します。
授業方法と留意点	毎回、当該授業内容に関するキーワードを記載した「講義メモ」と付属資料を配付します。 「講義メモ」のキーワードについては、授業後の復習として活用してください。 またスライドで説明した内容について、自身で「講義メモ」に必要な点のみを記載する、効率的で効果的なノートの取り方を身に付けてください（板書の習慣を変えてください）。 毎回、講義内容に関する質問（アンケート表）を配布します。講義終了時に提出してもらいます。
科目学習の効果（資格）	自身の将来に向けた資産形成に必要な基本的ノウハウの習得 学生時代に自身のアイデアをビジネスに活かす挑戦意欲の醸成と将来の就くべき職業の選択肢を増やす（視野を拡げる）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講座ガイダンス 個人投資とは？ 起業家とは？	講座ガイダンス（勉強方法・評価方法） 投資を学ぶ理由（確定拠出型年金制度への対応、老後の資金需要への対応） 起業家教育を受ける理由	＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1 時間）
2	経済、財政の基本知識と投資との関係	投資のために必要とされる消費生活における経済動向 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1 時間）
3	家計と国の財政動向による投資環境への影響	雇用と所得、財政の役割 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1 時間）
4	海外の動向による影響と経済指標との関係	景気動向指数、為替動向による投資環境への影響と対応 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1 時間）
5	株式市場の役割と株式価値	株式市場、発行市場、流通市場による株式の役割と価値 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1 時間）
6	銘柄選択の考え方と投資シミュレーションの説明	投資情報に基づく株価評価の考え方と投資シミュレーション 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1 時間）
7	債券市場の役割と投資の考え方	債券の基礎情報と債券投資の仕組み。金利の決定方法。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1 時間）
8	株式市況先読みの捉え方	株式投資の基本的分析手法と投資テクニック 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1 時間）
9	チャート分析と銘柄選定の考え方	株価下降局面、景気低迷期における投資リスクヘッジの考え方 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1 時間）
10	投資信託の仕組み	グローバル投信を含む投資信託商品選定の考え方 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1 時間）
11	外貨預金・ＦＸ・金投資の仕組みと投資の考え方	外貨預金・ＦＸ・金投資の魅力とリスク判定 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーシ

			設問による授業内容の再確認	ョン開始（各自）（1 時間）
	12	企業組織と上場市場	ベンチャー企業組織組成の考え方と株式公開の意義。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1 時間）
	13	事業構想におけるドメイン設定の考え方	起業準備としての事業構想の立て方と事例によるディスカッション 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1 時間）
	14	経営機能構造の設計と税務	ビジネスモデル設計の考え方と会社設立および税務手続き。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1 時間）
	15	投資シミュレーション結果検証	各自投資シミュレーションの結果報告と銘柄変動の要因についてのディスカッション。	＜事後＞投資シミュレーション結果と分析の再確認（30 分）

関連科目	ベンチャービジネス論、経営管理論、ビジネスプランニング（演習）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法
（基準）

①毎回のアンケート内の［設問１］に対する回答評価（評価割合：50%）
授業内容のお復習いとして設定してある設問について、授業から学んだ手法を用いた自身の考え方を評価します。またアンケート内の［設問２］（授業内容に関する質問および要望）について、積極的に質問または提案した場合は加点評価とします。
なお、当該質問や要望については、次回授業時に解説文を付けて一覧表にして学習者全員に資料配付します。
②最終課題レポート（評価割合：50%）
投資手法および銘柄選定（経済指標分析）に関する知識度を判定するため、総括的評価としてのレポート課題とします。

学生への
メッセージ

■「投資」はギャンブルではありません。将来の資産形成のための金融手段です。
■「儲かる／儲からない」を競うものでもありません。
■法令を遵守した投資スタンスが必要です。
■投資は、あくまでも自己責任で行うものです。
この点を理解できる学生は参加してください。

担当者の
研究室等

１１号館７階　林研究室

備考

実際の株式銘柄の動きを反映した「投資シミュレーション」を行う予定です。

科目名	北河内を知る	科目名（英文）	Introduction to Kita-kawachi Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	荻田　喜代一.尾山　廣.喜多　大三.久保　貞也.鶴坂　貴恵
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ○,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP8△,J科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TL01436a2,L科：LL01417a2,D科・S科：IL01423a2,P科：YL01418a2,J科：JL01434a2,W科：WL01419a2,N科：NL01415a2		

教養科目

授業概要・目的	摂南大学と大学が立地する「北河内」に焦点をあて、この地域の歴史・文化・産業・ライフライン、地方自治体の現状と課題、「北河内」に関係する各分野で活躍している団体や機関の人びとの活動状況などをテーマに、外部講師の講演とグループディスカッションを中心に、この地域に住む人々の暮らしや特徴、現在の問題と今後の課題を知ることにより、摂南大生として、この地域とどのようにかかわるかを考える。 この授業は、「地域をつくる」「地域を考える」「地域をまなぶ」の３つのテーマからなり、地域貢献活動の動機づけを目的とする。授業担当者として、北河内７市および和歌山県すさみ町の「行政実務者」が担当する。
到達目標	北河内地域の歴史、文化、産業、街づくりを知り、地域に対する愛着を醸成し、社会の一員として地域とのかかわりの大切さを認識する。この認識を踏まえて、地域おける摂南大学の役割を考え、積極的に地域にかかわる態度を示すとともに、活気ある地域の創生に向けたアイデアを立案し、行動できる。
授業方法と留意点	北河内地域の各分野で活躍されている方々を学外講師とするオムニバス講義である。授業は、土曜日に集中的に実施し、毎回の授業で「自己学習・グループ学習」「講演の聴講」「グループワーク・成果物のプレゼンテーション」を行う。 情報収集ツールとしてスマートフォン、タブレット、ノートパソコン等を持参すること
科目学習の効果（資格）	ソーシャルイノベーション副専攻の必須科目である。「北河内を知る」を通じて、地域の課題を発見して解決する能力を身につけることに努力する。さらに、外部講師の方々と交流を深め、地域貢献活動に参画し、自ら考え行動することで、生涯にわたり学習する基盤が培われる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・グループワークのアイスブレイク ９月２８日（土）２限	授業の進め方、成績評価方法 グループワークの進め方等を学ぶ	事前課題：北河内について調べる（３０分） 事後課題：グループワークの成果物をまとめる（３０分）
2	北河内地域に関する講演 １０月５日（土）１限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する（１時間）
3	北河内地域に関する講演 １０月５日（土）２限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する（１時間）
4	グループワーク・プレゼンテーション １０月５日（土）３限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（３０分）
5	北河内地域に関する講演 １０月１９日（土）１限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）の情報を収集して地域課題を発見する	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する（１時間）
6	北河内地域に関する講演 １０月１９日（土）２限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する（１時間）
7	グループワーク・プレゼンテーション １０月１９日（土）３限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（３０分）
8	北河内地域に関する講演 １１月２日（土）１限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する（１時間）
9	北河内地域に関する講演 １１月２日（土）２限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する（１時間）
10	グループワーク・プレゼンテーション １１月２日（土）３限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（３０分）
11	北河内地域に関する講演 １１月１６日（土）１限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する（１時間）
12	北河内地域に関する講演 １１月１６日（土）２限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する（１時間）
13	グループワーク・プレゼンテーション １１月１６日（土）３限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（３０分）
14	最終発表会 １２月７日（土）１限	アクションプランをプレゼンテーションし、意見交換により、より深い学びを行う	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる。また、プレゼンテーションの練習を十分に行う（１０時間）
15	最終発表会 １２月７日（土）２限	アクションプランをプレゼンテーションし、意見交換により、より深い学びを行う	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる。また、プレゼンテーションの練習を十分に行う（１０時間）

関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻科目
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 2 3
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 2 3
評価方法 （基準）	個人レポートの評価（４０%）、グループごとの講演聴講および討議の態度のルーブリック評価（３０%）、グループワークの成果物（３０%）。 欠席・遅刻の場合には当該項目の評価は「０」とする。
学生への メッセージ	地域創生の第一歩を踏み出してみませんか？
担当者の 研究室等	荻田喜代一（薬学部・副学長室）、鶴坂貴恵（経営学部・経営情報学科）、尾山廣（理工学部・生命科学科）、久保貞也（経営学部・経営情報学科）、喜多大三
備考	学外講師のご都合により、授業計画の内容や実施日、順序等を変更すること、学外の方が聴講すること、授業の様子をカメラ・ビデオで撮影することがあります。ご了解下さい。

科目名	キャリアデザインⅠ（ＢＡＳＩＣ）	科目名（英文）	Career Planning I(Basic)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井　三恵
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：IT01428a2～IT01432a2		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、 １）就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 ２）基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 ３)専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 ４）講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。 ようになることが期待される。 なお、講義は担当講師の民間企業社員、自治体職員として業務経験及び、NPO 法人の理事、高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。
到達目標	１）摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 ２）社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 ３）調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	講義だけでなくグループワークなどを織り交ぜて進行するので、積極的な態度で受講すること。
科目学習の効果（資格）	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か、またなぜ必要なのかについて考える ・公と私について考える	・事前学修：自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること(１時間) ・事後学修:キャリアデザインがなぜ必要かをまとめ、「公と私」いついて考えること(３時間)
2	さぁ始めよう！大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける	・事前学修:大学で学ぶ意味について考えること(１時間) ・事後学修:各受講科目のノートを整理すること(３時間)
3	摂大学	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・先輩の話を聴く	・事前学修：摂大生として、HP の建学の精神と教育理念を理解すること HP の（２時間） ・事後学修：大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること(２時間)
4	自己効力感を高めよう	・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション	・事前学修：設定された個人ワークに取り組むこと(２時間) ・事後学修：学生生活の目標を再度考えること（２時間）
5	グループ課題の設定	・グループワーク（インタビュープロジェクト）の目的を理解する ・社会人としてのマナーを学ぶ ・グループで工程管理を考える	・事前学修：グループワークに必要なことを考えること（１時間） ・事後学修：グループで課題に取り組むこと(３時間)
6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える	・事前学修：社会で求められる人材について考えること(１時間) ・事後学修：社会で求められる能力について考えること（３時間）
7	社会の仕組み①	・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	・事前学修：GDP について調べること（１時間） ・事後学修：経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(３時間)
8	社会の仕組み②	・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション	・事前学修：税金について調べること（１時間） ・事後学修：配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(３時間)
9	自分づくり①	・自分の良いところを１００挙げる ・ペアワーク	・事前学修：自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(２時間) ・事後学修：長所を伸ばすための自分の言動について考えること（２時間）
10	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学４年間の目標設定	・事前学修:大学へ入学した目的をを考えること(２時間) ・事後学修：学生としての自分の目標を再確認すること(２時間)
11	スケジューリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	・事前学修：社会人基礎力を調べること（１時間） ・事後学修：社会人基礎力を実践する方法を考えること(３時間)
12	ビブリオバトル①	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	・事前学修：他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(３時間) ・事後学修：自分が選択した本に関して、よりまとめておくこと（１時間）
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	・事前学修：グループのプレゼンテーションの準備をすること。(３時間) ・事後学修：発表グループの良かった点、改善点をまとめること（１時間）
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	・事前学修：グループのプレゼンテーションの準備をすること(３時間) ・事後学修：発表グループの良かった点、改善点をまとめること（１時間）

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><td>15</td><td>夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい</td><td>・学びのプランニング
・講義の振り返り</td><td>・事前学修：キャリアデザインを振り返ること（1時間）
・事後学修：夏休み以降の大学生活の目標を考えること（3時間）</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td>キャリアデザインⅡ 、キャリアデザインⅢ 、インターンシップⅠ 、インターンシップⅡ
エンプロイメントデザイン Ⅰ、エンプロイメントデザインⅡ</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>グループワーク（20%）、ミニレポート（30%）、レポート（50%）で総合的に評価する。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>7号館5階 教育イノベーションセンター（石井）</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>１．必要に応じて授業内でレジュメを配布する。
２．ミニレポートや最終課題を除くレポートは採点した後に、講義内で返却する。</td></tr>
</table>

科目名	キャリアデザインⅠ（ＢＡＳＩＣ）	科目名（英文）	Career Planning I(Basic)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡　亮太
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：IT01428a2～IT01432a2		

教養科目

授業概要・目的	この授業を通じて学生は、 １）就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 ２）基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 ３)専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 ４）講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。 ことが期待される。
到達目標	１）摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 ２）社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 ３）調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	講義だけでなくグループワークなどを織り交ぜて進行するので、積極的な態度で受講すること。
科目学習の効果（資格）	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か、またなぜ必要なのかについて考える ・公と私について考える	・事前学修：自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること(１時間) ・事後学修:キャリアデザインがなぜ必要かをまとめ、「公と私」いついて考えること(２時間)
2	さぁ始めよう！大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける	・事前学修:大学で学ぶ意味について考えること(１時間) ・事後学修:各受講科目のノートを整理すること(３時間)
3	摂大学	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・先輩の話を聴く	・事前学修：摂大生として、HP の建学の精神と教育理念を理解すること HP の（２時間） ・事後学修：大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること(２時間)
4	自己効力感を高めよう	・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション	・事前学修：設定された個人ワークに取り組むこと(２時間) ・事後学修：学生生活の目標を再度考えること（２時間）
5	グループ課題の設定	・グループワークの目的を理解する ・社会人としてのマナーを学ぶ ・グループで工程管理を考える	・事前学修：グループワークに必要なことを考えること（１時間） ・事後学修：グループで課題に取り組むこと(３時間)
6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える	・事前学修：社会で求められる人材について考えること(１時間) ・事後学修：社会で求められる能力について考えること（３時間）
7	社会の仕組み①	・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	・事前学修：GDP について調べること（１時間） ・事後学修：経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(３時間)
8	社会の仕組み②	・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション	・事前学修：税金について調べること（１時間） ・事後学修：配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(３時間)
9	自分づくり①	・自分の良いところを１００挙げる ・ペアワーク	・事前学修：自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(２時間) ・事後学修：長所を伸ばすための自分の言動について考えること（２時間）
10	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学４年間の目標設定	・事前学修:大学へ入学した目的をを考えること(２時間) ・事後学修：学生としての自分の目標を再確認すること(２時間)
11	スケジューリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	・事前学修：社会人基礎力を調べること（１時間） ・事後学修：社会人基礎力を実践する方法を考えること(３時間)
12	ビブリオバトル①	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	・事前学修：他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(３時間) ・事後学修：自分が選択した本に関して、よりまとめておくこと（１時間）
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	・事前学修：グループのプレゼンテーションの準備をすること。(３時間) ・事後学修：発表グループの良かった点、改善点をまとめること（１時間）
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	・事前学修：グループのプレゼンテーションの準備をすること(３時間) ・事後学修：発表グループの良かった点、改善点をまとめること（１時間）
15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	・学びのプランニング ・講義の振り返り	・事前学修：キャリアデザインを振り返ること（１時間） ・事後学修：夏休み以降の大学生活の目標を考える

				こと（3時間）

関連科目	キャリアデザインⅡ 、キャリアデザインⅢ 、インターンシップⅠ 、インターンシップⅡ エンプロイメントデザイン Ⅰ、エンプロイメントデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	グループワーク（20%）、ミニレポート（30%）、レポート（50%）で総合的に評価する。
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター（上野山）
備考	1．必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 2．ミニレポートや最終課題を除くレポートは採点した後に、講義内で返却する。

科目名	キャリアデザインⅠ（ＢＡＳＩＣ）	科目名（英文）	Career Planning I(Basic)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中川　浩一
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：IT01428a2～IT01432a2		

教養科目

授業概要・目的	この授業を通じて学生は、 １）就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 ２）基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 ３)専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 ４）講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。 ことが期待される。
到達目標	１）摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 ２）社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 ３）調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	講義だけでなくグループワークなどを織り交ぜて進行するので、積極的な態度で受講すること。
科目学習の効果（資格）	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か、またなぜ必要なのかについて考える ・公と私について考える	・事前学修：自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること(１時間) ・事後学修:キャリアデザインがなぜ必要かをまとめ、「公と私」いついて考えること(２時間)
2	さぁ始めよう！大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける	・事前学修:大学で学ぶ意味について考えること(１時間) ・事後学修:各受講科目のノートを整理すること(３時間)
3	摂大学	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・先輩の話を聴く	・事前学修：摂大生として、HP の建学の精神と教育理念を理解すること HP の（２時間） ・事後学修：大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること(２時間)
4	自己効力感を高めよう	・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション	・事前学修：設定された個人ワークに取り組むこと(２時間) ・事後学修：学生生活の目標を再度考えること（２時間）
5	グループ課題の設定	・グループワークの目的を理解する ・社会人としてのマナーを学ぶ ・グループで工程管理を考える	・事前学修：グループワークに必要なことを考えること（１時間） ・事後学修：グループで課題に取り組むこと(３時間)
6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える	・事前学修：社会で求められる人材について考えること(１時間) ・事後学修：社会で求められる能力について考えること（３時間）
7	社会の仕組み①	・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	・事前学修：GDP について調べること（１時間） ・事後学修：経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(３時間)
8	社会の仕組み②	・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション	・事前学修：税金について調べること（１時間） ・事後学修：配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(３時間)
9	自分づくり①	・自分の良いところを１００挙げる ・ペアワーク	・事前学修：自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(２時間) ・事後学修：長所を伸ばすための自分の言動について考えること（２時間）
10	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学４年間の目標設定	・事前学修:大学へ入学した目的をを考えること(２時間) ・事後学修：学生としての自分の目標を再確認すること(２時間)
11	スケジューリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	・事前学修：社会人基礎力を調べること（１時間） ・事後学修：社会人基礎力を実践する方法を考えること(３時間)
12	ビブリオバトル①	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	・事前学修：他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(３時間) ・事後学修：自分が選択した本に関して、よりまとめておくこと（１時間）
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	・事前学修：グループのプレゼンテーションの準備をすること。(３時間) ・事後学修：発表グループの良かった点、改善点をまとめること（１時間）
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	・事前学修：グループのプレゼンテーションの準備をすること(３時間) ・事後学修：発表グループの良かった点、改善点をまとめること（１時間）
15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	・学びのプランニング ・講義の振り返り	・事前学修：キャリアデザインを振り返ること（１時間） ・事後学修：夏休み以降の大学生活の目標を考える

				こと（3時間）

関連科目	キャリアデザインⅡ 、キャリアデザインⅢ 、インターンシップⅠ 、インターンシップⅡ エンプロイメントデザイン Ⅰ、エンプロイメントデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	グループワーク（20%）、ミニレポート（30%）、レポート（50%）で総合的に評価する。
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター（上野山）
備考	1．必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 2．ミニレポートや最終課題を除くレポートは採点した後に、講義内で返却する。

科目名	キャリアデザインⅠ（ＢＡＳＩＣ）	科目名（英文）	Career Planning I(Basic)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上野山　裕士
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：IT01428a2～IT01432a2		

授業概要・目的

この授業を通じて学生は、
１）就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。
２）基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。
３)専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。
４）講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。
ことが期待される。

到達目標

１）摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。
２）社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。
３）調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。

授業方法と留意点

講義だけでなくグループワークなどを織り交ぜて進行するので積極的な態度で受講すること。

科目学習の効果（資格）

社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。
「大学生活を充実させる」きっかけになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か？何故必要なのか？ ・公と私について考える	・自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること(0.5時間)
2	さぁ始めよう！大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける	・大学で学ぶ意味について考えること(0.5時間)
3	摂大学	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・先輩の話を聴く	・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること ・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること(0.5時間)
4	自己効力感を高めよう	・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション	・設定された個人ワークに取り組むこと(２時間)
5	グループ課題の設定	・グループワーク（インタビュープロジェクト）の目的を理解する ・社会人としてのマナーを学ぶ ・グループで工程管理を考える	・グループで課題に取り組むこと(３時間)
6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える	・社会で求められる人材について考えること(0.5時間)
7	社会の仕組み①	・GDPから見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(0.5時間)
8	社会の仕組み②	・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション	・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(0.5時間)
9	自分づくり①	・自分の良いところを１００挙げる ・ペアワーク	・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(１時間)
10	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学４年間の目標設定	・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること(0.5時間)
11	スケジューリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCAサイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	・社会人基礎力を実践する方法を考えること(0.5時間)
12	ビブリオバトル	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(１時間)
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	・グループ内のプレゼンテーションの内容をまとめること(2時間)
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をすること(２時間)
15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	・学びのプランニング ・講義の振り返り	・夏休み以降の大学生活の目標を考えること(１時間)

関連科目

キャリアデザインⅡ 、キャリアデザインⅢ 、インターンシップⅠ 、インターンシップⅡ
エンプロイメントデザイン Ⅰ、エンプロイメントデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

	2			
	3			
評価方法 （基準）	グループワーク（20%）、ミニレポート（30%）、レポート（50%）で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。			
担当者の 研究室等	7 号館 3 階 教育イノベーションセンター（上野山）			
備考	1．必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 2．各回のミニレポートは採点した後に、最終講義で返却する。			

科目名	キャリアデザインⅠ（ＢＡＳＩＣ）	科目名（英文）	Career Planning I(Basic)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中川　浩一
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：IT01428a2～IT01432a2		

教養科目

授業概要・目的	この授業を通じて学生は、 １）就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 ２）基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 ３)専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 ４）講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。 ことが期待される。
到達目標	１）摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 ２）社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 ３）調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	講義だけでなくグループワークなどを織り交ぜて進行するので、積極的な態度で受講すること。
科目学習の効果（資格）	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か、またなぜ必要なのかについて考える ・公と私について考える	・事前学修：自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること(１時間) ・事後学修:キャリアデザインがなぜ必要かをまとめ、「公と私」いついて考えること(２時間)
2	さぁ始めよう！大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける	・事前学修:大学で学ぶ意味について考えること(１時間) ・事後学修:各受講科目のノートを整理すること(３時間)
3	摂大学	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・先輩の話を聴く	・事前学修：摂大生として、HP の建学の精神と教育理念を理解すること HP の（２時間） ・事後学修：大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること(２時間)
4	自己効力感を高めよう	・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション	・事前学修：設定された個人ワークに取り組むこと(２時間) ・事後学修：学生生活の目標を再度考えること（２時間）
5	グループ課題の設定	・グループワークの目的を理解する ・社会人としてのマナーを学ぶ ・グループで工程管理を考える	・事前学修：グループワークに必要なことを考えること（１時間） ・事後学修：グループで課題に取り組むこと(３時間)
6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える	・事前学修：社会で求められる人材について考えること(１時間) ・事後学修：社会で求められる能力について考えること（３時間）
7	社会の仕組み①	・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	・事前学修：GDP について調べること（１時間） ・事後学修：経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(３時間)
8	社会の仕組み②	・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション	・事前学修：税金について調べること（１時間） ・事後学修：配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(３時間)
9	自分づくり①	・自分の良いところを１００挙げる ・ペアワーク	・事前学修：自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(２時間) ・事後学修：長所を伸ばすための自分の言動について考えること（２時間）
10	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学４年間の目標設定	・事前学修:大学へ入学した目的をを考えること(２時間) ・事後学修：学生としての自分の目標を再確認すること(２時間)
11	スケジューリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	・事前学修：社会人基礎力を調べること（１時間） ・事後学修：社会人基礎力を実践する方法を考えること(３時間)
12	ビブリオバトル①	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	・事前学修：他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(３時間) ・事後学修：自分が選択した本に関して、よりまとめておくこと（１時間）
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	・事前学修：グループのプレゼンテーションの準備をすること。(３時間) ・事後学修：発表グループの良かった点、改善点をまとめること（１時間）
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	・事前学修：グループのプレゼンテーションの準備をすること(３時間) ・事後学修：発表グループの良かった点、改善点をまとめること（１時間）
15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	・学びのプランニング ・講義の振り返り	・事前学修：キャリアデザインを振り返ること（１時間） ・事後学修：夏休み以降の大学生活の目標を考える

				こと（3時間）

関連科目	キャリアデザインⅡ 、キャリアデザインⅢ 、インターンシップⅠ 、インターンシップⅡ エンプロイメントデザイン Ⅰ、エンプロイメントデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	グループワーク（20%）、ミニレポート（30%）、レポート（50%）で総合的に評価する。
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター（上野山）
備考	1．必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 2．ミニレポートや最終課題を除くレポートは採点した後に、講義内で返却する。

科目名	キャリアデザインⅡ（ＡＤＶＡＮＣＥ）	科目名（英文）	Career Planning II(Advanced)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	上野山　裕士
ディプロマポリシー(DP)	Ｖ科：Ⅱ◎,Ｒ科：A◎,Ａ科：A◎,Ｍ科：A1○,Ｅ科：Ｂ△,Ｃ科：Ⅱ◎		
科目ナンバリング	Ｖ科・Ｒ科・Ａ科・Ｍ科・Ｅ科・Ｃ科：IT01428a2～IT01432a2		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報から的確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。 講義は担当者の実務経験を元に議論を進行することもある。
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。
科目学習の効果（資格）	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	・配布したレジュメを見直すこと ・大学生活１年目で経験したことを思い出しておくこと(3 時間)
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・配付したレジュメを見直すこと ・人はなぜ働くのかについて自分なりに考えること(3 時間)
3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・配布したレジュメを見直すこと ・働くひとへの取材を行い、グループで討議する準備をすること(5 時間)
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・業種・職種の概念を理解する ・川上～川下の概念の理解	・配布したレジュメを見直すこと ・グループ課題に取り組むこと(5 時間)
5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	・配布したレジュメを見直すこと ・どのような業種・会社があるのか調べること(4 時間)
6	就活体験①	・特性と心がけ、自己 PR の組み立て方を学ぶ	・配布したレジュメを見直すこと ・自らの強みについて考えること(3 時間)
7	就活体験②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・配布したレジュメを見直すこと ・学生生活の振り返りを行うこと(3 時間)
8	社会を知る⑤	・グループプレゼンテーション	・配布したレジュメを見直すこと ・プレゼンテーションンの準備をしておくこと(5 時間)
9	社会を知る⑥	・グループプレゼンテーション	・配布したレジュメを見直すこと ・プレゼンテーションの準備をしておくこと(5 時間)
10	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・配布したレジュメを見直すこと ・講義を踏まえ、これからの大学生活において何に取り組むのかを考えること(3 時間)
11	自分を高める②	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	・配布したレジュメを見直すこと ・講義の内容を日常生活で実践すること(7 時間)
12	社会を知る⑦	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る。	・配付資料を見直すこと ・自らの将来について考えること(3 時間)
13	自分を高める③	・講義⑩⑪の実践報告プレゼンテーション	・配布したレジュメを見直すこと ・プレゼンテーションの準備をしておくこと(4 時間)
14	社会を知る⑧	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	・配布したレジュメを見直すこと ・日本を取り巻く課題につて理解すること(4 時間)
15	授業のおさらい	・講義のおさらい	・配布したレジュメを見直すこと ・課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと(3 時間)

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップⅠ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	グループワーク（20%）、授業参加度（30%）、レポート（50%）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加すること。

担当者の 研究室等	7 号館 3 階　教育イノベーションセンター（上野山）
備考	毎回のミニレポートが採点をした後に最終講義で返却する。

科目名	キャリアデザインⅡ（ＡＤＶＡＮＣＥ）	科目名（英文）	Career Planning II(Advanced)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本　朗子
ディプロマポリシー(DP)	Ｖ科：Ⅱ◎,Ｒ科：A◎,Ａ科：A◎,Ｍ科：A1○,Ｅ科：Ｂ△,Ｃ科：Ⅱ◎		
科目ナンバリング	Ｖ科・Ｒ科・Ａ科・Ｍ科・Ｅ科・Ｃ科：IT01428a2～IT01432a2		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報から的確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。 講義は担当者の実務経験を元に議論を進行することもある。
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。
科目学習の効果（資格）	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	・配布したレジュメを見直すこと ・大学生活１年目で経験したことを思い出しておくこと(3 時間)
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・配付したレジュメを見直すこと ・人はなぜ働くのかについて自分なりに考えること(3 時間)
3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・配布したレジュメを見直すこと ・働くひとへの取材を行い、グループで討議する準備をすること(5 時間)
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・業種・職種の概念を理解する ・川上～川下の概念の理解	・配布したレジュメを見直すこと ・グループ課題に取り組むこと(5 時間)
5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	・配布したレジュメを見直すこと ・どのような業種・会社があるのか調べること(4 時間)
6	就活体験①	・特性と心がけ、自己 PR の組み立て方を学ぶ	・配布したレジュメを見直すこと ・自らの強みについて考えること(3 時間)
7	就活体験②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・配布したレジュメを見直すこと ・学生生活の振り返りを行うこと(3 時間)
8	社会を知る⑤	・グループプレゼンテーション	・配布したレジュメを見直すこと ・プレゼンテーションンの準備をしておくこと(5 時間)
9	社会を知る⑥	・グループプレゼンテーション	・配布したレジュメを見直すこと ・プレゼンテーションの準備をしておくこと(5 時間)
10	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・配布したレジュメを見直すこと ・講義を踏まえ、これからの大学生活において何に取り組むのかを考えること(3 時間)
11	自分を高める②	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	・配布したレジュメを見直すこと ・講義の内容を日常生活で実践すること(7 時間)
12	社会を知る⑦	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る。	・配付資料を見直すこと ・自らの将来について考えること(3 時間)
13	自分を高める③	・講義⑩⑪の実践報告プレゼンテーション	・配布したレジュメを見直すこと ・プレゼンテーションの準備をしておくこと(4 時間)
14	社会を知る⑧	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	・配布したレジュメを見直すこと ・日本を取り巻く課題につて理解すること(4 時間)
15	授業のおさらい	・講義のおさらい	・配布したレジュメを見直すこと ・課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと(3 時間)

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップⅠ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	グループワーク（20%）、授業参加度（30%）、レポート（50%）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加すること。

担当者の 研究室等	7 号館 3 階　教育イノベーションセンター（上野山）
備考	毎回のミニレポートが採点をした後に最終講義で返却する。

科目名	教育学	科目名（英文）	Pedagogy
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	朝日　素明
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NHU1406a2		

授業概要・目的	あなたは「「教育」とは「善いもの」だ」と思っていませんか。思っているとしたら、それはなぜでしょう。思っていないとしたら、それはなぜでしょう。あるいは、「教育を受けることで、自分は本当に「善く」なったのだろうか」と問うてみたことはありますか。本科目は、以上のような素朴な、とはいえ重要な問いを大切にしながら、「教育」という営みについて丁寧に考え直してみようとするものです。その際に参考になるのは、「教育」に対して真摯に向き合った思想家たちの思索や、「教育」の歴史であり、これらを整理し体系化しようとする学問としての「教育学」の知見です。よって、「教育学」が果たしてきた、また果たすべき役割についても考え直してみることにします。これらを通して、受講者のみなさんがそれぞれに「教育」について考えを深め、「教育」を捉え返すことができるようにします。
到達目標	「教育」をめぐる思想や歴史、社会とのかかわりなどについて基礎的な知識を身につけます。 自分の直接的な体験から跳躍して、「教育」について問い、考える方法を身につけます。
授業方法と留意点	基本的には講義形式で行います。受講者のみなさんには折々の授業テーマに関してコメントペーパーを提出してもらい、また各自が興味をもった教育（学）の文献を読んで実にレポートを提出してもらい、それらをクラス全体またはグループで共有して、教育についてさらに多角的に深く考えるきっかけにします。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	「学問としての教育学」ということについて	「自分にとって教育とは何か」を考えておく。(30分)
2	教育学の生成（1）「誰でも語れる「教育」」	「役に立たない「教育学」」について	①自分が興味をもった「教育（学）」の文献を見つけて読んでおく。 授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。（30～60 分）
3	教育学の生成（2）教育とは何か	教育の「定義」をめぐって 「教育」という視線	②読んだ文献の内容を他者に説明できるよう整理しておく。 授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。（30～60 分）
4	教育学の生成（3）近代教育思想の源流	教育による人間改造と社会改造	③読んだ文献の魅力を他者に伝えられるようまとめておく。 授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。（30～60 分）
5	教育学の生成（4）学校教育の普及	学校の誕生と拡大 学校拡大の背景	④読んだ文献について、様式に従ってミニレポートを作成する。 授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。（30～60 分）
6	教育学の類型（1）実践的教育学	意義 扱う領域 限界	①②のおさらい 授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。（60 分）
7	教育学の類型（2）教育科学	意義 方法と課題 限界	③④のおさらい 授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。（60 分）
8	教育学ブックトーク	グループワーク ピアレビュー	ミニレポートをあらかじめ提出しておく。(30 分)
9	教育の不確実性（1）暴力的な教育	「心的システム」（個人）の外部環境としての「教育システム」（教育的働きかけ）	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。（30 分）
10	教育の不確実性（2）悲劇的な教育	教育の賭け 「学習可能性」と「教育可能性」のあいだ	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。（30 分）
11	教育可能性に向けた技術（1）罰	体罰による教育 罰による威嚇	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。（30 分）
12	教育可能性に向けた技術（2）競争の教育	競争の制度化・組織化 仕掛けとしての試験、成績評価	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。（30 分）
13	教育可能性に向けた技術（3）「発達」への視線	ルソーの「自然の教育」 ペスタロッチの「直観」と「メトーデ」 ヘルバルト派の「段階教授法」	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。（30 分）
14	教育可能性に向けた技術（4）学校の授業へ	個別教授から一斉教授へ 「クラス」と「教室」と「担任」 進歩主義教育運動	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。（30 分）
15	まとめと補足	授業に関してまとめの考察を行う。	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。（30 分）

関連科目	他の教養科目等で学習した内容と関連づけて考えてみましょう。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	定期試験 70%、ミニレポート 30%で、総合的に評価します。定期試験を受験しなかった場合には成績は判定しません。
学生への メッセージ	受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス７号館３階(朝日研究室)
備考	

科目名	経済学	科目名（英文）	Economics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高橋　勇介
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NSO1411a2		

授業概要・目的	本授業では，日本経済を理解するために，基礎的な経済理論を学びます。特に，日本の財政政策や環境・エネルギー問題，社会保障の問題等を取り上げ，日本経済の様々な諸問題について検討します。また，ミクロ・マクロ経済学の基礎も紹介しながら授業を進めます。
到達目標	経済学の基礎理論と財政学や環境経済学，社会政策の基礎を身につけ，日本経済が抱える諸問題について検討できること到達目標とします。
授業方法と留意点	基本的に教科書に沿って，講義形式で行います。
科目学習の効果（資格）	

教養科目

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	経済学を学ぶにあたっての基礎概念を解説する	配布資料等の復習(30 分)
2	現代日本の財政	日本財政の現状について解説する	教科書(pp10～24）の予習（30 分）や配布資料等の復習(1 時間)
3	国家の役割	国家・市場・市民社会の役割についてミクロ経済学の理論を踏まえ解説する	教科書(pp25～44）の予習（30 分）や配布資料等の復習(1 時間)
4	公共財の理論	公共財の理論についてミクロ経済学の理論を踏まえ解説する	教科書(pp45～59）の予習（30 分）や配布資料等の復習(1 時間)
5	社会保障制度の諸問題	日本の社会保障の費用負担の問題と海外の福祉国家モデルについて解説する	教科書(pp76～95）の予習（30 分）や配布資料等の復習(1 時間)
6	社会保障各論	年金・医療・介護・生活保護など社会保障の諸制度について解説する	教科書(pp96～112)の予習（30 分）や配布資料等の復習(1 時間)
7	現代税制の基礎理論	租税論の基礎と所得税について解説する	教科書(pp113～129)の予習（30 分）や配布資料等の復習(1 時間)
8	グローバル化と法人税	経済のグローバル化と法人税の役割について解説する	教科書(pp146～162）の予習（30 分）や配布資料等の復習(1 時間)
9	国境を越え始めた税制	グローバルタックスやタックスヘイブンについて解説する	教科書(pp163～181）の予習（30 分）や配布資料等の復習(1 時間)
10	環境税と環境政策	環境税や環境政策について経済理論の基礎を踏まえながら解説する	教科書(pp182～197）の予習（30 分）や配布資料等の復習(1 時間)
11	地方分権と政府間財政関係	日本の地方分権や地方財政について解説する	教科書（pp198～215）の予習（30 分）や配布資料等の復習(1 時間)
12	日本財政の持続可能性	日本の財政政策についてマクロ経済学の基礎を踏まえ解説する	教科書(pp216～238）の予習（30 分）や配布資料等の復習(1 時間)
13	財政民主主義と予算	日本の財政再建について経済理論を踏まえながら解説する	教科書(pp239～258）の予習（30 分）や配布資料等の復習(1 時間)
14	財政システムの未来	国家は何に投資すべきか，日本の財政システムはどうあるべきか考察する	教科書(pp259～277）の予習（30 分）や配布資料等の復習(1 時間)
15	まとめ	これまでの授業のまとめ	配布資料等の予習（30 分）や復習(1 時間)

関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	財政と現代の経済社会	諸富　徹	放送大学教育振興会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験（60%），授業での課題提出（40%）で総合的に評価します。
学生へのメッセージ	普段より新聞やニュースに関心を持つようにしてください。
担当者の研究室等	非常勤講師室
備考	

科目名	現代韓国事情	科目名（英文）	Contemporary Korean Society
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中　悟
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP8△,J科：DP1◎,W科：DP1◎,N科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：IT01428a2～IT01432a2,L科：LT01422a2～LT01426a2,D科・S科：IT01428a2～IT01432a2,P科：YT01423a2～YT01427a2,J科：,W科：WT01424a2～WT01428a2,N科：NT01420a2～NT01424a2		

授業概要・目的	日本社会に生きる者にとって、似通っているようで異なる、また異なっているようで似通っている、そんな存在である韓国。そのような隣国に関して、大きな歴史的流れを検討し、近現代の韓国社会における変化を長期的な視点から理解することを目指す。
到達目標	この講義を通じて、韓国社会についての理解を深めていく。具体的には、次の各項目を目標とする。 ・韓国近現代史を概観できるようになる。 ・「解放」前後における朝鮮半島の政治状況について理解する。 ・「民主化」前後における韓国の政治状況について理解する。
授業方法と留意点	韓国近現代史の基礎を踏まえた上で、関連する映画作品を鑑賞し、それらの解説なども交えながら講義を進める。
科目学習の効果（資格）	韓国近現代史および現代韓国社会に関する基礎的な理解

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の目指すところ、テキストの内容について概説する。	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
2	近現代韓国の基礎知識（１）	韓国近現代史概説：　1945 年以前と以後	［事前学習］配布レジュメの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
3	近現代韓国の基礎知識（２）	韓国近現代史概説：　軍事政権の時代と民主化後の時代	［事前学習］配布レジュメの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
4	映画作品に見る「韓国現代史」（前編）	関連する映画作品の鑑賞と解説	［事前学習］テキストの関連部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
5	映画作品に見る「韓国現代史」（後編）	関連する映画作品の鑑賞と解説	［事前学習］テキストの関連部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
6	近現代韓国社会への理解（１）	解放・建国に始まる韓国現代史概説	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
7	近現代韓国社会への理解（２）	解放・建国に始まる韓国現代史概説	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
8	映画作品に見る「韓国現代史における政治と人々」（前編）	関連する映画作品の鑑賞と解説	［事前学習］テキストの関連部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
9	映画作品に見る「韓国現代史における政治と人々」（後編）	関連する映画作品の鑑賞と解説	［事前学習］テキストの関連部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
10	近現代韓国社会への理解（３）	民主化と、民主化以後の現代韓国	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
11	近現代韓国社会への理解（４）	民主化と、民主化以後の現代韓国	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
12	映画作品に見る「民主化と、民主化以後の現代韓国」（前編）	関連する映画作品の鑑賞と解説	［事前学習］テキストの関連部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
13	映画作品に見る「民主化と、民主化以後の現代韓国」（後編）	関連する映画作品の鑑賞と解説	［事前学習］テキストの関連部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
14	現代韓国に向き合う（１）	韓国現代史と現代韓国社会	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
15	現代韓国に向き合う（２）	韓国現代史と現代韓国社会	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）

関連科目	
教科書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>韓国現代史</td><td>木村幹</td><td>中公新書</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
評価方法 （基準）	提出レポートに基づく評価を行なう。(100%) 詳細については授業内で指示する。
学生への メッセージ	韓国語の能力は不要です。
担当者の 研究室等	7 号館 4 階　田中研究室
備考	授業のスケジュール・進行形式については、出席者の状況によって調整する可能性もある。

科目名	現代ビジネス論	科目名（英文）	Modern Business
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牧　美喜男
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP8△,J科：DP1◎,W科：DP1◎,N科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：IT01428a2～IT01432a2,L科：LT01422a2～LT01426a2,D科・S科：IT01428a2～IT01432a2,P科：YT01423a2～YT01427a2,J科：,W科：WT01424a2～WT01428a2,N科：NT01420a2～NT01424a2		

授業概要・目的	本講義では組織行動論の中心テーマであるリーダーシップや日本企業の直面するマネジメントの国際化時代における人的資源管理を学習する。本講義の特色は将来のビジネスリーダーを目指す皆さんが考える基盤や目標の提供を目指す。 両分野の基礎知識の学習に加えて、豊富な事例を紹介する。企業の倒産や再建事例におけるリーダーの行動、皆さんが属する若者の行動や意識の特徴、日本的経営の特色や日本が生み出したビジネスリーダー実例を学習する。私たち日本人の心の奥底に存する企業観・倫理観や労働観について再検討し、グローバル化・価値観の多様化が進展する中、将来のわが国ビジネスの在り方について、皆さんと一緒に考える。
到達目標	本講義では、以下の3つの目標を設定する。 ①組織を管理するマネージャーに求められる資質やスキルを理解する。 ②日本的経営の特色および、マネジメントの国際化時代におけるその進化の方向性を理解する。 ③組織で働くとは何かを考え、自分が目指すリーダーとは何かを理解する。
授業方法と留意点	可能な限り双方向（interactive）の講義を目指す。単に教科書を読んで内容を理解するというだけでなく、レクチャーを通じて身につけた基礎的な知識に基づきながら、現実世界の経営上の諸問題についての対応策を皆さんが考え、答えを追求する。わからない点や難しい点については補足的に説明しながら、必要に応じて応用的なディスカッションを実施する。
科目学習の効果（資格）	資格等の取得はありませんが、本講義終了時には以下が身に付きます。今後のビジネス社会の方向性を理解し、ビジネスリーダーとは何か、自身はどのようなビジネスリーダーを目指すかを考える基盤を取得出来ます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	現在のビジネス環境 及びリーダーの重要性	オペレーションの国際化とマネジメントの国際化の違いを説明しリーダーの役割を述べる。ビジネスマンの職場職場の現実の雰囲気を知る。 働くとは何かをを考える。	日本企業の戦後の海外展開の歴史や現状を調べてみよう。
2	マネジャーとマネジメント	人材を管理するとは何かを学ぶ。	マネジャーはどんな仕事をしているのか、またなぜマネジメントを学ぶ必要があるか考えてみる。
3	個人行動の原点	人はどのようなときに最もよく働くのかを考える。 個人行動の起点を知る。	組織行動論の目的は何かを考えてみる。
4	リーダーシップと信頼	各種リーダー論を紹介する。	自身のリーダー体験および今までに出会った素晴らしいーダーの特徴を考えてみる。
5	変革型リーダーがなぜ求められるか	マネジメントの国際化時代の変革型リーダーの重要性を各種事例をもとに説明する。（1～5回までのレポート提出）	なぜリーダーシップに信頼が強調されるのか自己の体験に照らして考えてみる。
6	国際人的資源管理とは何か	各国人材・マネジメント方式の差異。 各国企業文化を知る。	海外展開をする企業は、本国の或いは出身国の労務管理制度のどちらを採用しようとしてしているのか考えてみる。
7	日本企業国際化の軌跡	オペレーションの国際化・マネジメント国際化時代の日本企業の対応。 多国籍従業員の意識。	トヨタ自動車･GM との合弁企業 NUMMI がなぜ設立されたのか調べてみよう。 最近、日本本社で外国人が多数採用されているがその理由を考えてみよう。
8	コミュニケーションと情報	高コンテクスト文化・社内言語とコミュニケーション外国人社員は何で苦労するのかを考える。	日本人は自己主張をしないと言われいます。あなたが発揮する日本人らしさとは何でしょうか？
9	日本人の特性と日本的経営の本質	歴史や地勢的観点から日本人独特の経営が生み出されたことを学ぶ。	有史以来他民族の侵略を受けてこなかった国が世界に一つだけあります。その特異性を考えましょう。
10	自身を考える	日米中韓 4 か国の若者調査の紹介・12人の有識者による若者の実像。人材育成のモデルの紹介・提案 （6～10 回までのレポート提出）	あなたは偉くなり社会に貢献したいですか？ 自身の能力をどう評価していますか？
11	自分はどのようなビジネスリーダーになるか 事例１．平生釟三郎	日本的経営の原点・心も金も豊かにする実学を学ぶ。人生 3 分論（成長・働く・奉仕（奉公）を実践	以下2回にわたり偉大なビジネスの先人の話をします。2 人に関する本はたくさん出版されているので図書館やインターネットで調べてみよう。
12	事例２　パナソニック創業者　松下幸之助	経営の神様が追求し実践した指導者の条件。	第 11 回参照
13	地方創生	「やりたい仕事がない」[若者が地方に魅力を持たなくなっている」地方の現状を如何に解決するか	外部講師を呼ぶ予定です
14	国際企業を経営する	マネジメントの国際化時代です。国際企業の経営者が実情を語ります。	外部講師を呼ぶ予定です
15	まとめ	全 14 回の講義の中で浮かび上がってきたことを総括する。	

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際人的資源管理	関口倫紀ほか	中央経済社

	2	マネジメント入門	スティーブン P. ロビンス	ダイヤモンド社
	3	世界が称賛する日本の経営	伊勢雅臣	育鵬社
評価方法 （基準）	第５回時のレポート（２０%）、第 10 回時のレポート（２０%）、定期試験（６０%）			
学生への メッセージ	自身を知り自身の特性を生かしマネジメントの国際化時代のリーダーとして活躍する。そのモデルである企業やリーダーに巡り合えると思います。紹介するリーダー事例より、自身がどのようなリーダーになりたいか自分に置き換えて考えてください。			
担当者の 研究室等	教務課（11 号館１階）			
備考	事前事後学習には、毎回１時間以上かけること。 「質問等は出講時に教務課にて対応する」			

科目名	コミュニケーション論	科目名（英文）	Study of Communication
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	櫻井　清華
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP4△,DP8○		
科目ナンバリング	NHU1401a2		

授業概要・目的	生命に関わる職業人となることを自覚し、それにふさわしい行動・態度をとることができるようになるために、人との共感的態度を身につけ、信頼関係を醸成し、さらに生涯にわたってそれらを向上させる習慣を身につける。 本科目では、日常的に行っているコミュニケーションの特性や仕組みを知り、表現のスキルを向上さていくことを目指す。コミュニケーションの諸場面に生じる問題を通して、円滑な意志疎通のあり方を探る。
到達目標	日常的に行っているコミュニケーションの特性や仕組みを知り、表現のスキルを向上さていくことを目指す。それを通じてコミュニケーションの諸場面に生じる問題を乗り越え、円滑な意志疎通が可能な力を身につける。
授業方法と留意点	講義による授業方法。適宜演習も取り入れる。
科目学習の効果（資格）	特になし

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義と演習	日常生活の中の非言語・言語サインに留意して、講義中の理論にあてはめ再確認してみよう。
2	コミュニケーションとは何か①	講義と演習	日常生活の中の非言語・言語サインに留意して、講義中の理論にあてはめ再確認してみよう。
3	コミュニケーションとは何か②	講義と演習	日常生活の中の非言語・言語サインに留意して、講義中の理論にあてはめ再確認してみよう。
4	言語コミュニケーション①	講義と演習	日常生活の中の非言語・言語サインに留意して、講義中の理論にあてはめ再確認してみよう。
5	言語コミュニケーション②	講義と演習	日常生活の中の非言語・言語サインに留意して、講義中の理論にあてはめ再確認してみよう。
6	言語コミュニケーション③	講義と演習	日常生活の中の非言語・言語サインに留意して、講義中の理論にあてはめ再確認してみよう。
7	非言語コミュニケーション①	講義と演習	日常生活の中の非言語・言語サインに留意して、講義中の理論にあてはめ再確認してみよう。
8	非言語コミュニケーション②	講義と演習	日常生活の中の非言語・言語サインに留意して、講義中の理論にあてはめ再確認してみよう。
9	非言語コミュニケーション③	講義と演習	日常生活の中の非言語・言語サインに留意して、講義中の理論にあてはめ再確認してみよう。
10	非言語コミュニケーション④	講義と演習	日常生活の中の非言語・言語サインに留意して、講義中の理論にあてはめ再確認してみよう。
11	コミュニケーションと文化①	講義と演習	日常生活の中の非言語・言語サインに留意して、講義中の理論にあてはめ再確認してみよう。
12	コミュニケーションと文化②	講義と演習	日常生活の中の非言語・言語サインに留意して、講義中の理論にあてはめ再確認してみよう。
13	コミュニケーション・スキルとは何か①	講義と演習	日常生活の中の非言語・言語サインに留意して、講義中の理論にあてはめ再確認してみよう。
14	コミュニケーション・スキルとは何か②	講義と演習	日常生活の中の非言語・言語サインに留意して、講義中の理論にあてはめ再確認してみよう。
15	コミュニケーション・スキルとは何か③	講義と演習	日常生活の中の非言語・言語サインに留意して、講義中の理論にあてはめ再確認してみよう。

関連科目	国語学、言語学、日本語学、社会学、コミュニケーション学など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験 90%、平常点 10%で評価します。講義に出席するのは当然のことです。よって出席したことが点数にはつながりません。ただし講義時に①授業での質問に対する積極的な応答、②授業への集中度、③ノート書写の姿勢などで注意を受けた場合や意欲が極めて低いと判断した場合は減点法で評価します。
学生へのメッセージ	積極的な参加を求めます。
担当者の研究室等	1号館2階　非常勤講師室
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	就職実践基礎	科目名（英文）	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡　亮太
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：IT01428a2～IT01432a2,L 科：LT01422a2～LT01426a2,D 科・S 科：IT01428a2～IT01432a2,P 科：YT01423a2～YT01427a2,J 科：,W 科：WT01424a2～WT01428a2,N 科：NT01420a2～NT01424a2		

教養科目

授業概要・目的	社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のものですので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。 特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。 講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	授業は基本的に数的能力をメインに学習します。授業は基本的に実践形式で、様々な問題を解いていきます。Input 量が多いので、予習・復習が大切です。
科目学習の効果（資格）	社会で必要とされる数的能力を獲得する

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的意義の確認・実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30 分)・実力テストを復習しておくこと(目安：30 分)
2	数的思考①	方程式の活用	方程式について復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
3	数的思考②	割合の活用①	割合について復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
4	数的思考③	割合の活用②	割合について復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
5	数的思考④	分数の活用	分数問題について復習しておく(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
6	中テスト①・数的思考⑤	中テスト①・速度の考え方①	2～5 回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2 時間)
7	数的思考⑥	速度の考え方②	速度算を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
8	数的思考⑦	場合の数と確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
9	数的思考⑧	集合の概念	集合について復習しておく(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
10	中テスト②・資料解釈	中テスト②・表の読み取り	6～9 回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2 時間)
11	論理推論①	順序推理	推論を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
12	論理推論②	内訳・表・位置	推論を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
13	論理推論③	その他論理推論	推論を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
14	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安：2.5 時間)
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安：5 時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オリジナル教材を使用します。 また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト　30%、中間テスト・最終テスト　55%、SmartSPI　15% その他授業態度などで加減します。
学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことをできるようになってもらえればと思います。と、同時に学ぶ楽しさも体感してください。 また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　キャリア教育推進室
備考	

科目名	就職実践基礎	科目名（英文）	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	亀田　峻宣
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：IT01428a2～IT01432a2,L 科：LT01422a2～LT01426a2,D 科・S 科：IT01428a2～IT01432a2,P 科：YT01423a2～YT01427a2,J 科：,W 科：WT01424a2～WT01428a2,N 科：NT01420a2～NT01424a2		

授業概要・目的	社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のものですので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。 特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。 講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	授業は基本的に数的能力をメインに学習します。授業は基本的に実践形式で、様々な問題を解いていきます。Input 量が多いので、予習・復習が大切です。
科目学習の効果（資格）	社会で必要とされる数的能力を獲得する

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的意義の確認・実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30 分)・実力テストを復習しておくこと(目安：30 分)
2	数的思考①	方程式の活用	方程式について復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
3	数的思考②	割合の活用①	割合について復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
4	数的思考③	割合の活用②	割合について復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
5	数的思考④	分数の活用	分数問題について復習しておく(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
6	中テスト①・数的思考⑤	中テスト①・速度の考え方①	2～5 回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2 時間)
7	数的思考⑥	速度の考え方②	速度算を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
8	数的思考⑦	場合の数と確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
9	数的思考⑧	集合の概念	集合について復習しておく(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
10	中テスト②・資料解釈	中テスト②・表の読み取り	6～9 回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2 時間)
11	論理推論①	順序推理	推論を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
12	論理推論②	内訳・表・位置	推論を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
13	論理推論③	その他論理推論	推論を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
14	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安：2.5 時間)
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安：5 時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オリジナル教材を使用します。 また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト　30%、中間テスト・最終テスト　55%、SmartSPI　15% その他授業態度などで加減します。
学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことをできるようになってもらえればと思います。と、同時に学ぶ楽しさも体感してください。 また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　キャリア教育推進室
備考	

科目名	女性学	科目名（英文）	Women's Study
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	荒木　菜穂
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NSO1408a2		

教養科目

授業概要・目的	女性学とは、男女ともが、社会のしくみについて考える場である。社会の「主人公」が男性であることが自明であった時代、「見えない存在」とされていた女性のあり方に目を向けることが女性学のきっかけとなった。しかし、それは、性別によって個人が生き方を決められてしまう社会のしくみそのものを問う学問および活動を意味する。現在では、性をめぐる社会のしくみは、男女それぞれの個人としての「生きにくさ」と何かしら関係があるのかもしれないと捉えられる一方、「もはや性別による不都合など存在しない」という意見も多く見られる。本授業では、1970年代以降、今日にいたるまで、女性学において語られてきた様々なトピックをヒントに、性をめぐっての、今日的な社会のしくみについて、家族、恋愛、仕事、セクシュアリティなど様々な角度から理解を深める。
到達目標	女性学、ジェンダーに関する基本的なキーワードを理解する。その上で、日々のニュースや社会問題などを知り、考える作業を意識的に行い、一般論としての「あたりまえ」ではなく、自分を主語としてそれらの問題について語ることができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	各回、テーマに関して、女性学等においてこれまで語られてきたことの振り返りと並行させ、ニュースや図表や文献資料、映像など、今日的な問題に沿った資料を使用し授業を進める。授業終了後に、そのテーマについて、各人が自分の考えをまとめる時間を設ける。
科目学習の効果（資格）	様々な角度からの議論を紹介していきたいと思います。自分とは異なる価値観を持つ他者と柔軟に向き合うことができ、幅広い視野で社会を読み解くことができるようになればよいと考えます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション／女性学とは何か	女性学について、また、日本における女性学誕生からジェンダー概念の普及までの簡単な歴史的な振り返りを行う。	配布プリントの復習（1時間）
2	メディアの中の男女のイメージ（1）	様々なメディアの中で、男性、女性のイメージがどのように描き分けられているか、またなぜそうなっているのかについて考える。	配布プリントの復習（1時間）・意識的にメディアを視聴し次回に備える（1時間）。
3	メディアの中の男女のイメージ（2）	メディアにおける表現の問題性、また、メディアと接する際のリテラシーについて考える。	配布プリントの復習（1時間）・意識的にメディアを視聴する（1時間）
4	恋愛・結婚・家族とジェンダー（1）	モテ非モテ、愛と暴力など、日常的な問題の背景にある社会のしくみを知る。	配布プリントの復習（1時間）・次回テーマについての予習（1時間）
5	恋愛・結婚・家族とジェンダー（2）	恋愛意識、経済、家族のあり方など、様々な社会の問題と結びつく「結婚」という制度について、結婚が困難になりつつある近年の現状をデータなどで振り返り、その構造について考える。	配布プリントの復習（1時間）・次回テーマについての予習（1時間）
6	恋愛・結婚・家族とジェンダー（3）	結婚・家族などをめぐる「あたりまえ」を疑ってみる。	配布プリントの復習（1時間）・次回テーマについての予習（1時間）
7	女性運動から学ぶこと	過去および現在のフェミニズム運動やその主張の多様性から平等とは何かを学ぶ。	配布プリントの復習（1時間）・次回テーマについての予習（1時間）
8	個人の外見と身体と社会	個人の「見た目」がジェンダーや社会による制約を受ける問題について、単に批判するだけでなく、我々が積極的に表現する行為としての意味を考える。	配布プリントの復習（1時間）・次回テーマについての予習（1時間）
9	身体と性	出産・健康・医療をめぐり、男女の身体や性が社会とどのような関係にあったのかを学ぶ。	配布プリントの復習（1時間）・次回テーマについての予習（1時間）
10	セクシュアリティとジェンダー	快楽の性、性的なものをめぐる差別など、性と社会に関する様々なことを学ぶ。	配布プリントの復習（1時間）・次回テーマについての予習（1時間）
11	労働と社会（1）	個人が生きる上での仕事、労働、生活について、現代の男女のライフコースとの関わりで考える。	配布プリントの復習（1時間）・事例を探すレポート（1時間）次回テーマについての予習（1時間）
12	労働と社会（2）	格差社会と男女共同参画といった観点から、資本主義社会の中のジェンダーと労働について学ぶ。	配布プリントの復習（1時間）・次回テーマについての予習（1時間）
13	グローバリゼーションとジェンダー	様々な文化における男女を取り巻く社会状況に目を向け、「私」とは、どのような立ち位置の女性（男性）か、について考える。	配布プリントの復習（1時間）・次回テーマについての予習（1時間）
14	性の多様性とジェンダー	性の多様性に関する論点、現状をジェンダーの視点で考える。	配布プリントの復習（1時間）・次回テーマについての予習（1時間）
15	今日的課題と向き合う	女同士の関係、貧困、ネット社会など、社会の変化をもたらした様々なキーワードを、女性学、ジェンダーの切り口から再考する。	配布プリントの復習（2時間）

関連科目	社会と個人について考える科目全てに関連性があるといえます。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		

	2			
	3			
評価方法 （基準）	授業内レポートおよび課題レポート（30%）、定期試験（70%）により総合評価する。			
学生への メッセージ	難解な理論を把握することよりも、日常生活の中の問題を、「あたりまえ」だけではない様々な視点で考えることができるようになることが本授業の目的です。この問題はなぜ起こっているのだろう、世の中ってどうなってるんだろう、と一緒に考えていけたらと思います。			
担当者の 研究室等	1号館2階　非常勤講師室			
備考				

科目名	女性学	科目名（英文）	Women's Study
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	荒木　菜穂
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NSO1408a2		

授業概要・目的	女性学とは、男女ともが、社会のしくみについて考える場である。社会の「主人公」が男性であることが自明であった時代、「見えない存在」とされていた女性のあり方に目を向けることが女性学のきっかけとなった。しかし、それは、性別によって個人が生き方を決められてしまう社会のしくみそのものを問う学問および活動を意味する。現在では、性をめぐる社会のしくみは、男女それぞれの個人としての「生きにくさ」と何かしら関係があるのかもしれないと捉えられる一方、「もはや性別による不都合など存在しない」という意見も多く見られる。本授業では、1970年代以降、今日にいたるまで、女性学において語られてきた様々なトピックをヒントに、性をめぐっての、今日的な社会のしくみについて、家族、恋愛、仕事、セクシュアリティなど様々な角度から理解を深める。
到達目標	女性学、ジェンダーに関する基本的なキーワードを理解する。その上で、日々のニュースや社会問題などを知り、考える作業を意識的に行い、一般論としての「あたりまえ」ではなく、自分を主語としてそれらの問題について語ることができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	各回、テーマに関して、女性学等においてこれまで語られてきたことの振り返りと並行させ、ニュースや図表や文献資料、映像など、今日的な問題に沿った資料を使用し授業を進める。授業終了後に、そのテーマについて、各人が自分の考えをまとめる時間を設ける。
科目学習の効果（資格）	様々な角度からの議論を紹介していきたいと思います。自分とは異なる価値観を持つ他者と柔軟に向き合うことができ、幅広い視野で社会を読み解くことができるようになればよいと考えます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション／女性学とは何か	女性学について、また、日本における女性学誕生からジェンダー概念の普及までの簡単な歴史的な振り返りを行う。	配布プリントの復習（1時間）
2	メディアの中の男女のイメージ（1）	様々なメディアの中で、男性、女性のイメージがどのように描き分けられているか、またなぜそうなっているのかについて考える。	配布プリントの復習（1時間）・意識的にメディアを視聴し次回に備える（1時間）。
3	メディアの中の男女のイメージ（2）	メディアにおける表現の問題性、また、メディアと接する際のリテラシーについて考える。	配布プリントの復習（1時間）・意識的にメディアを視聴する（1時間）
4	恋愛・結婚・家族とジェンダー（1）	モテ非モテ、愛と暴力など、日常的な問題の背景にある社会のしくみを知る。	配布プリントの復習（1時間）・次回テーマについての予習（1時間）
5	恋愛・結婚・家族とジェンダー（2）	恋愛意識、経済、家族のあり方など、様々な社会の問題と結びつく「結婚」という制度について、結婚が困難になりつつある近年の現状をデータなどで振り返り、その構造について考える。	配布プリントの復習（1時間）・次回テーマについての予習（1時間）
6	恋愛・結婚・家族とジェンダー（3）	結婚・家族などをめぐる「あたりまえ」を疑ってみる。	配布プリントの復習（1時間）・次回テーマについての予習（1時間）
7	女性運動から学ぶこと	過去および現在のフェミニズム運動やその主張の多様性から平等とは何かを学ぶ。	配布プリントの復習（1時間）・次回テーマについての予習（1時間）
8	個人の外見と身体と社会	個人の「見た目」がジェンダーや社会による制約を受ける問題について、単に批判するだけでなく、我々が積極的に表現する行為としての意味を考える。	配布プリントの復習（1時間）・次回テーマについての予習（1時間）
9	身体と性	出産・健康・医療をめぐり、男女の身体や性が社会とどのような関係にあったのかを学ぶ。	配布プリントの復習（1時間）・次回テーマについての予習（1時間）
10	セクシュアリティとジェンダー	快楽の性、性的なものをめぐる差別など、性と社会に関する様々なことを学ぶ。	配布プリントの復習（1時間）・次回テーマについての予習（1時間）
11	労働と社会（1）	個人が生きる上での仕事、労働、生活について、現代の男女のライフコースとの関わりで考える。	配布プリントの復習（1時間）・事例を探すレポート（1時間）次回テーマについての予習（1時間）
12	労働と社会（2）	格差社会と男女共同参画といった観点から、資本主義社会の中のジェンダーと労働について学ぶ。	配布プリントの復習（1時間）・次回テーマについての予習（1時間）
13	グローバリゼーションとジェンダー	様々な文化における男女を取り巻く社会状況に目を向け、「私」とは、どのような立ち位置の女性（男性）か、について考える。	配布プリントの復習（1時間）・次回テーマについての予習（1時間）
14	性の多様性とジェンダー	性の多様性に関する論点、現状をジェンダーの視点で考える。	配布プリントの復習（1時間）・次回テーマについての予習（1時間）
15	今日的課題と向き合う	女同士の関係、貧困、ネット社会など、社会の変化をもたらした様々なキーワードを、女性学、ジェンダーの切り口から再考する。	配布プリントの復習（2時間）

関連科目	社会と個人について考える科目全てに関連性があるといえます。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		

	2			
	3			
評価方法 （基準）	授業内レポートおよび課題レポート（30%）、定期試験（70%）により総合評価する。			
学生への メッセージ	難解な理論を把握することよりも、日常生活の中の問題を、「あたりまえ」だけではない様々な視点で考えることができるようになることが本授業の目的です。この問題はなぜ起こっているのだろう、世の中ってどうなってるんだろう、と一緒に考えていけたらと思います。			
担当者の 研究室等	1号館2階　非常勤講師室			
備考				

科目名	心理学	科目名（英文）	Psycology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	樋口　隆弘
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NHU1402a2		

授業概要・目的	看護においては、患者がどのように感じているのか、どのように考えているのかなどを汲み取り治療に活かす必要がある。また、看護師と患者との良好な関係は、患者の治療成果だけではなく、満足度や QOL にも直結する。 本講義では、知覚や記憶のメカニズム、学習理論や生涯発達を学ぶことを通して、私たち人間がどのように物事をとらえているのか、それに対してどのように感じているのかなどを理解し、患者を理解する上で役立つコミュニケーション法や考え方を身につけ、患者との関わりに活かすことを目的とする。
到達目標	自分自身がどのように物事をとらえているのかを知ることに加えて、患者を含む他者がどのように物事をとらえているのかを推察しようとする意識を身につけること、さらには自分と他者との物事のとらえ方の違いを受け入れ、他者に共感的に寄り添える力を高めることを目指す。
授業方法と留意点	パワーポイントによる講義を主とするが、個人のワークやグループでのワークを行う時間も設定する。各授業でプリントを配布し、毎回の講義終了前に小テストを行い、その日の授業の定着度を高める。
科目学習の効果（資格）	患者との関わり、職場での人間関係、自己理解と他者理解に活かすことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	心理学とは？ 講義内容と定期試験の説明	本講義では、心理学とはどのようなものなのかを概観し、日常生活でどのように活かされているのかについて学ぶ。	教科書で、興味を持った分野を見つけて、その分野だけでも一読しておくことが望ましい。
2	感覚と知覚について	本講義では、知覚の種類や機能について解説し、私たちが日常生活の中でどのように物事を捉えているのかについて学ぶ。	教科書の第 1 章を一読しておくことが望ましい。
3	記憶について	本講義では、記憶の仕組みや記憶に関する疾患について学ぶ。	教科書の第 2 章 B を一読しておくことが望ましい。
4	学習理論について	本講義では、人や動物がどのように学習し、行動を形成しているのかについて学ぶ。	教科書の第 2 章 A を一読しておくことが望ましい。
5	感情と欲求について	本講義では、感情の種類や機能、人間の欲求について学ぶ。	教科書の第 3 章を一読しておこくことが望ましい。
6	性格とパーソナリティ（人格）障害について	本講義では、人の性格がどのように形成されるのか、パーソナリティ（人格）障害とはどのようなものなのかについて学ぶ。	教科書の第 4 章 A,B を一読しておくことが望ましい。
7	知能と知能検査、性格検査について	本講義では、知能とは何か、知能と性格をはかる検査にどのようなものがあるのかを学ぶ。	教科書の第 4 章 C を一読しておくことが望ましい。
8	乳幼児期、児童期の発達と愛着について	本講義では、主に乳幼児期と児童期の発達の過程や愛着の機能について学ぶ。	教科書の第 5 章 A を一読しておくことが望ましい。
9	虐待とハラスメントについて	本講義では、児童虐待や高齢者虐待、さまざまなハラスメントの背景や実情について学ぶ。	ニュースをチェックして、最近の虐待やハラスメントの実情を把握しておくことが望ましい。
10	青年期の発達と青年期に発症しやすい疾患について	本講義では、青年期の発達とその時期に発症しやすい疾患について学ぶ。	教科書の第 5 章 B を一読しておくことが望ましい。
11	成人、高齢者の発達とそれらの時期に発症しやすい疾患について	本講義では、成人と高齢者の発達の過程とそれらの時期に発症しやすい疾患について学ぶ。	教科書の第 5 章 C,D を一読しておくことが望ましい。
12	ストレスマネジメントについて	本講義では、ストレスの種類や性質、リラクセーションやリフレーミングについて学ぶ。	教科書の第 7 章を一読しておくことが望ましい。
13	患者を理解する上で役立つ考え方について	本講義では、患者を理解する上で役立つ考え方について学ぶ。	教科書の第 8,9 章を一読しておくことが望ましい。
14	患者と関わる上で役立つコミュニケーション法や考え方について	本講義では、患者と関わる上で役立つ話の聞き方や共感の仕方について学ぶ。	教科書の第 9,10 章を一読しておくことが望ましい。
15	講義全体のまとめ	本講義では、これまでの全講義のまとめを行い、要点を振り返り、講義内容の定着を図る。	全講義のレジュメもしくは教科書の全章を復習しておくことが望ましい。

関連科目	臨床心理学、発達心理学、コミュニケーション学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	看護学生のための心理学	長田久雄	医学書院
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	看護のための精神医学　第２版	中井久夫	医学書院
2			
3			

評価方法（基準）	①定期試験を行い、その成績を評価の一つに用いる（60%）。 ②毎回の講義終了前に、その日に講義内容の小テストを行い、その成績を評価の一つに用いる（40%）。

	・100 点満点中、60 点以上で合格とする。
学生への メッセージ	心理学は看護に役立つだけではなく、日常生活を営む上においても役立つ学問で、知れば知るほど自分の世界が広がります。本講義を通して、今後生きていく上で、一つでも役立つ知識や経験を得られることができればよいと思います。 また、これまで私は病院や学校でカウンセリングや検査を行い、自然災害時の緊急支援で現地にも入っています。心理学の知識的な部分だけではなく、実際的な（現場での）話もするつもりなので、その両方もしくはどちらかだけでも興味を持ってもらえると嬉しいです。
担当者の 研究室等	1 号館 2 階、非常勤講師室
備考	・講義時間外における質問時間は、講義（木曜 4 時限）前後の非常勤講師室とする（メールでも可能）。 ・小テストの結果や解説は、講義中にプリントを配布する、もしくはパワーポイントで説明する形で実施します。 ・事前事後学習に、毎回 1 時間以上かけると、定期試験の点数も取りやすくなります。

科目名	青少年育成ファシリテーター養成講座	科目名（英文）	Facilitator Training Program
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野　英一
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科･R 科･A 科･M 科･E 科･C 科:IT01428a2～IT01432a2,L 科:LT01422a2～LT01426a2,D 科･S 科:IT01428a2～IT01432a2,P 科:YT01423a2～YT01427a2,J 科：,W 科：WT01424a2～WT01428a2,N 科：NT01420a2～NT01424a2		

教養科目

授業概要・目的	教養特別講義「青少年育成ファシリテータ養成講座」は、サービスラーニングの授業であり、青少年育成活動のファシリテーターとして、知識・野外活動の方法を習得し実習を通して学びと成長を得ることができる実践型学習プログラム。実践は単なる擬似的体験ではなく、人々のために役立ったという現実的な体験を得ることを目的としている。
到達目標	到達目標として自己の振り返りと自己発見、責任感、価値観・技能や知識の獲得、リスクマネジメント、社会問題の理解を果たす体験を同時に得るものである。
授業方法と留意点	大学の授業後や、授業の無い日を利用して学外活動する。週に 1 度、90 分の活動が基本となっているが、夏休み・冬休みなど長期の休み期間中に集中して活動することも可能。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	活動場所は、寝屋川市、交野市役所、すさみ町役場、共学センター、南農園等の主催・共催事業。第 1 回目の事前授業は 4 月 11 日 6 時限目、1134 教室で行う。 ---------- 事前教育①～⑨回分： ①活動についての心構え、授業内容の徹底周知、ファシリテーターについて ②守秘義務：活動に伴って知った情報を漏らしてはならない義務を学ぶ ③安全管理スキル：活動に伴って発生しうる事故を未然に防ぐ方法を学ぶ ④救命救護スキル：命の大切さ、命を助ける方法、ＡＥＤの使用法を学ぶ ⑤安全対策スキル：安全。衛生管理、危険予知、責任について学ぶ ⑥コミュニケーションスキル A：対象者理解、人とのかかわり方を学ぶ ⑦コミュニケーションスキル B：報告、連絡、相談（ホウ・レン・ソウ）の重要性を学ぶ ⑧コミュニケーションスキル C：アイスブレーキング手法を学ぶ ⑨コミュニケーションスキル D：指導者のあるべき姿、リーダーシップの取り方 活動（90 分×20 回分）： 受入機関において青少年育成ファシリテーター活動実践 事後教育（90 分）： 青少年育成ファシリテーター活動実践のふりかえり ---------- 履修上の注意： 学外団体との連携と信頼関係構築が必要であることから、履修希望者は事前に授業担当者から、説明を受け、活動内容を確認し履修許可を受けた学生のみ履修可能となる。 事前・事後学習課題： 学外での活動に際し、各種活動（各受入れ団体によって異なる）の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成に各 1 時間程度行う。
関連科目	ボランティア論
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	①参加日数、②実習報告書、③最終報告書、④受入機関からの調書、以上の 4 点を総合的に判断して評価する。
学生へのメッセージ	青少年育成活動を通して、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。
担当者の研究室等	7 号館 5 階　（浅野研究室）
備考	第 1 回目の事前授業は 4 月 11 日 6 時限目、1134 教室で行う。

科目名	生物・化学の基礎	科目名（英文）	Biology and Chemistry
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	眞島　崇
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NNA1412a2		

授業概要・目的	生物、化学は、看護師を目指す学生が専門科目を学ぶ上で基礎となる学問である。したがって、十分な生物、化学の基礎知識を有することが必須であるが、高校での履修科目のみでは不十分な点も多い。更には、高校時代に生物、化学を選択しなかった、あるいは生物、化学のみを選択した学生もいる。従って、本科目では、以後の専門科目の履修に必要な生物、化学に関する基礎力を修得する。
到達目標	医療・健康に関連する領域はもちろん、自然界で生じる現象に対して基礎的な範囲で科学的に説明し、将来仕事を共にする医師・薬剤師等の医療スタッフとの共通知識基盤として、基本的な科学に基づいた思考ができる。
授業方法と留意点	本講義はプレゼンテーションおよび教科書に準じた「講義」が中心である。継続的な学習方策のため、次回の講義までに講義中の疑問点（課題に対する）の質問時間を適宜設け、適宜小テストを実施する。全講義期間にスモールグループディスカッション(SGD)を通した問題解決方法を学ぶ機会を設ける。よって毎回の講義に関して疑問点に関する解決習慣を身につけるようにすること。 講義時にスマートフォンを使用することがあるので、準備をしておくこと。
科目学習の効果（資格）	生物、化学は、職業人の教養として必要であり、また、専門家を目指す上での基礎となる。本講義は適宜、国家試験の基礎となる事項も含まれるので、自然科学と看護を結びつける習慣をつける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第1回 看護における「生物・化学」 （講義オリエンテーション）	講義の進め方、講義資料のダウンロード方法等を実施しながら、自然科学と看護のつながりについて導入講義を行う。	スマートフォンの操作方法(Moodle へのアクセス方法）について予習しておくこと。講義後は次回講義の小テストを兼ねた対策方法について説明する。
2	第2回 見えない「場」がからだに及ぼす影響 （力の中で生きている）	われわれの身近に働いている見えない「場」、いわゆる何らかの力がわれわれの体にどのように影響しているのかを学習する。	教科書 P45-65、配布資料の予習復習。講義では前回講義に関する小テストを適宜行う。
3	第3回 私たちの体の中で起っていること （細胞のお話し）	なぜ生きるためにエネルギーが必要なのかを細胞レベルで学習する。	教科書 P66-85、配布資料の予習復習。講義では前回講義に関する小テストを適宜行う。
4	第4回 自然界の物質構成 （混合物、化合物とは）	われわれを含め、形あるものは全て化学構造で構成されている。その仕組みを学習する。	教科書 P11-14、配布資料の予習復習。講義では前回講義に関する小テストを適宜行う。
5	第5回 外界からの力に耐えるために （生命体を維持するためのしくみ）	外界を取り巻く様々な力から身を守るために、われわれの体はどのような構造を維持しているのかについて学習する。	教科書 P28-45、P158-168、配布資料の予習復習。講義では前回講義に関する小テストを適宜行う。
6	第6回 「物が溶ける」とは （溶解、水和、イオンのお話し）	砂糖や塩がなぜ水に溶けるのか。その仕組みを物理・化学的な側面から学習する。	教科書 P14-25、配布資料の予習復習。講義では前回講義に関する小テストを適宜行う。
7	第7回 からだの中での情報伝達 （自己調節機能、電気生理、物質の輸送）	われわれの体の大部分が水でできていることが、様々な生理現象に重要であることを学習する。	教科書 P86-101、配布資料の予習復習。講義では前回講義に関する小テストを適宜行う。
8	第8回 酸性、塩基性とはなにか （身近にある酸とアルカリの反応、化学平衡とは）	身近にある酸・アルカリの用途から、これらが生体にどういうはたらきをしているのかを学習する。	教科書 P25-27、配布資料の予習復習。講義では前回講義に関する小テストを適宜行う。
9	第9回 酸性、アルカリ性になるからだ （アシドーシス、アルカローシス、酸塩基平衡のお話し）	われわれの体内がほぼ中性に保たれているのはなぜか。また病気によってそのバランスが崩れるのはなぜかについて学習する。	教科書 P25-27、P169-175、配布資料の予習復習。講義では前回講義に関する小テストを適宜行う。
10	第10回 化学反応を効率的に （触媒の話）	膨大なエネルギーを必要とする化学反応を助ける「触媒」のはたらきについて学習する。	教科書 P37-39、配布資料の予習復習。講義では前回講義に関する小テストを適宜行う。
11	第11回 生体内でも触媒反応 （酵素のはなし）	われわれの体の中でもエネルギーを効率よく使うため、触媒反応が生じている。その内容（酵素）のはたらきについて学習する。	教科書 P37-39、P72-75、P160-162、配布資料の予習復習。講義では前回講義に関する小テストを適宜行う。
12	第12回 遺伝子の構造 （生体内物質の化学結合）	遺伝子が生体の設計図であることを、その働きと化学結合の観点から学習する。	教科書 P102-107、配布資料の予習復習。講義では前回講義に関する小テストを適宜行う。
13	第13回 生命体の連続性 （細胞分裂と成長について）	われわれはどのようにして生まれ成長するのか。受精から細胞分裂における過程について学習する。	教科書の P118-135、配布資料の予習復習。講義では前回講義に関する小テストを適宜行う。
14	第14回 環境と化学のかかわり （自然界での化合物の循環）	環境に存在する様々な化学物質はどのようにわれわれに影響しているのかについて学習する。	配布資料の予習復習。講義では前回講義に関する小テストを適宜行う。
15	第15回 遺伝とは何か （遺伝のしくみと病気）、講義総まとめ	遺伝の仕組み、遺伝子の異常を原因とするがんなどの疾患との関連について学習する。	教科書 P108-117、配布資料の予習復習。講義では前回講義に関する小テストを適宜行う。講義の総まとめを行うので全ての講義資料を持参しておくこと。

関連科目	人体の構造と機能（1年次前後期）、代謝栄養学（1年次後期）、感染と防御（1年次後期）、薬理学総論（2年次前期）、薬物治療学（2年次後期）
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1 | 解剖生理や生化学を学ぶ前の楽しくわかる生物・化学・物理 | 岡田隆夫 | 羊土社 2 | | | 3 | | |	
参考書	番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 1 | やさしい基礎生物学 | 南雲 保 ほか | 羊土社 2 | やさしい物理化学―自然を楽しむための 12 講 | 小池 透 | 共立出版 3 | | |
評価方法 （基準）	小テスト(12%)、SGD への取り組み・プレゼンテーション(18%)、小テスト(10%)、および授業修了後の定期試験(60%)で総合的に評価する。100 点満点中 60 点以上で合格。
学生へのメッセージ	看護師を目指す上で、生物、化学の基礎は必要である。特に高等学校時代にこれらの科目を履修していない、あるいは 3 年間履修していない学生は、この機会に、高等学校の教科書や参考書も含めて、しっかりと学習することをすすめる。また、履修した学生でも、受験科目として勉強していない場合、自分が思うよりも力がついていないことが多いので、予習、復習を欠かさずに行うことをすすめる。質問時間をできるだけ設けているので、わからない点をそのままにしないよう、継続的な予習、復習をすることを期待する。 講義担当者の眞島崇は薬局薬剤師として 5 年、非常勤病院薬剤師として 1 年の実務経験がある。また、看護学部教員（成人看護領域）としての 2 年間の看護学生指導経験をもとに、生物・化学をはじめとする自然科学の基礎知識がわれわれを取り巻く自然環境や臨床現場にどのようにはたらいているのかについて教育する。
担当者の研究室等	１号館４階　眞島講師室（オフィスアワーを初回講義時に説明します）
備考	看護に関係する範囲を中心に、高等学校で学ぶ内容の復習から専門性の高い内容まで幅広い講義になります。また、大学の学習は、講義だけはなく、学生各自の自学自習をもって完結するものです。特に高等学校で生物、化学を十分に学習していない学生は、予習（教科書を読むだけでも構いません)、復習をしっかりと行うこと。また講義終了後・オフィスアワー・講義開始前に質問を受けつけるので積極的に質問すること。態度点として評価する。 事前学習：毎回の事前・事後学習課題にある教科書指定のページをよく読んできてください（30 分×15 回)。 事後学習：SGD では課題に対するスライドを指定したグループで協力して作成してください（4 時間×3 回)。 事後学習：毎回の講義終了後・もしくは講義前に質問時間を設けます。講義・SGD を通じて感じた疑問点についてよく考え、質問するようにしてください（30 分×15 回)。

科目名	生命倫理	科目名（英文）	Bioethics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	赤塚　京子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NNA1413a2		

授業概要・目的	医療・ケアの専門職としてその社会的な責務を果たすためには、ケアの実践において人々の人権を尊重することが求められる。また科学技術の急速な進歩に伴う、医療現場における多くの倫理的な課題についての理解が必要である。 本科目では、現代の医療が直面する倫理的諸問題の歴史的・社会的背景を、具体的事例を交えながら考察し、生命倫理と患者主体の医療の中で看護職の果たす役割について学習する。
到達目標	現代の医療は、生殖補助医療、出生前診断、安楽死・尊厳死、臓器移植・脳死、ターミナルケア等多くの倫理的問題を抱えている。このような倫理的問題の本質とさまざまな側面を、具体的事例を通して学ぶことで、自ら問題を抽出し、より良いケアを考える力を育む。
授業方法と留意点	『事例でまなぶ　ケアの倫理』(G supple 編集委員会編、メディカ出版）を教科書とし、レジュメを配布する。講義中心。詳細については、初回の授業で説明する。
科目学習の効果（資格）	看護職に就くものとして備えるべき高い倫理観の醸成に資し、看護の専門科目を学ぶ上での基礎となる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、医療倫理・生命倫理の基本原則（前半）	講義：医療・生命科学研究が守るべき原則を理解し、患者主体の医療に必要なことを説明できる（生命倫理４原則、インフォームドコンセント等）。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと（30分）。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと（30分）。
2	医療倫理・生命倫理の基本原則（後半）、生殖補助医療技術と倫理（前半）	講義：医療・生命科学研究が守るべき原則を理解し、患者主体の医療に必要なことを説明できる。生殖補助医療技術について説明できる。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと（30分）。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと（30分）。
3	生殖補助医療技術と倫理（後半）	講義：生殖補助医療技術について説明できる。女性の身体の道具化、生殖のビジネス化、子どもの出自を知る権利等について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと（30分）また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと（30分）
4	出生前診断と選択的人工妊娠中絶	講義：出生前診断・着床前診断と、選択的人工妊娠中絶について説明できる。優生思想、優生保護法の倫理的問題、胎児条項、リプロダクティブ・ライツ、胚と胎児の道徳的地位等について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと（30分）。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと（30分）。
5	重症新生児治療の差し控え・中止	講義：新生児医療が直面する問題について説明できる。NICU における医療倫理、重症新生児の治療をめぐる諸ガイドライン等について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと（30分）また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと（30分）。
6	安楽死・尊厳死の倫理的問題	講義：安楽死と尊厳死の違いについて説明できる。海外での安楽死・尊厳死をめぐる主要な出来事と関連法、日本における経緯と現状を理解する。患者と家族に対して医療者ができることを考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと（30分）。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと（30分）。
7	脳死と臓器移植	講義：生体臓器移植・脳死臓器移植およびそれらが抱える問題について説明できる。脳死は人の死か、脳死患者と移植待機患者そしてそれぞれの家族の苦悩について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと（30分）。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと（30分）。
8	子どものインフォームド・コンセント	講義：子どもに医療におけるインフォームドコンセント（アセント）と親権、児童虐待の問題について説明できる。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと（30分）。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと（30分）。
9	病気と差別：HIV 感染症	講義：HIV 感染症と、その感染者や AIDS 発症者をめぐる問題について説明できる。薬害 HIV 事件、強制 HIV 検査の是非、守秘義務と警告義務について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと（30分）。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと（30分）。
10	難病を生きるということ、自己決定と遺伝カウンセリング	講義：難病と難病政策について説明できる。難病を抱えながら生きる人々に対し医療者ができること、患者とその家族の苦悩や負担について考える。遺伝子診断と遺伝カウンセリングについて説明できる。遺伝子診断をめぐる倫理的問題（知る権利と知らないでいる権利、血縁者への情報提供、DTC 遺伝子検査、遺伝子差別等）について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと（30分）。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと（30分）。
11	慢性疾患の患者に対する療養指導、認知症を抱えて（前半）	講義：慢性疾患を抱える患者との接し方について考える。認知症とそのケアの在り方について説明できる。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと（30分）。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと（30分）。
12	認知症を抱えて（後半）、ターミナルケア（前半）	講義：認知症とそのケアの在り方について説明できる。患者の QOL、身体拘束、高齢者虐待、認知症患者が関わる事件・事故（交通事故・行方不明など）等について考える。終末期の医療・緩和ケア、家族や遺族のケアについて説明できる。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと（30分）。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと（30分）。
13	ターミナルケア（後半）、研究倫理（前半）	講義：終末期の医療・緩和ケア、家族や遺族のケアについて説明できる。死の受容と延命治療、鎮静（セデーション）、家族・遺族の悲嘆のケアの在り方等について考える。看護研究の倫理について考	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと（30分）。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと（30分）。

			える。	
	14	研究倫理（後半）、医療が患者に害をもたらすとき	講義：看護研究の倫理について考える。医療事故とインシデントおよびそれらへの取り組みについて説明できる。実際に起こった医療事故例を振り返り、失敗に学ぶ医療安全体制の構築や患者の救済について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと（30分）。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと（30分）。
	15	講義の復習と映像資料鑑賞	これまでの講義の復習。生命倫理に関する映像資料を鑑賞し、生命倫理の問題を考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと（30分）。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと（30分）。

関連科目	看護倫理をはじめとした看護専門科目すべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	事例でまなぶ　ケアの倫理	G supple編集委員会編	メディカ出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業での毎回のコメントシート（30%）、定期試験（70%）により評価する。全体で60%以上獲得で合格。出席は評価に加味しないが、やむを得ない事情は考慮する。
学生へのメッセージ	医療・ケアの現場で起きている、あるいはこれから起きる可能性がある諸問題について学びます。 病気や障害を抱える人に接するうえで大事にしなければならない、専門職としての考え方・視点とともに、様々な立場の当事者の視点や社会の関わりについても理解していく一助となればと思います。
担当者の研究室等	1号館2階　非常勤講師室。 授業に関する質問等は、毎授業で配布するコメントシートやメールでも受け付けます。
備考	

科目名	世界遺産論	科目名（英文）	Rethinking World Heritage
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北條　ゆかり
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP8△,J科：DP1◎,W科：DP1◎,N科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：IT01428a2～IT01432a2,L科：LT01422a2～LT01426a2,D科・S科：IT01428a2～IT01432a2,P科：YT01423a2～YT01427a2,J科：,W科：WT01424a2～WT01428a2,N科：NT01420a2～NT01424a2		

授業概要・目的	ユネスコの「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」（1972年採択、1975年発効）に謳われる理念に基づき、世界には人類と地球にとってかけがえのない価値をもつ記念建造物や遺跡、自然環境、伝統文化などを人類共通の財産として守るための「世界遺産」がある。その理念と具体的な世界遺産に関する学びを通じて、宗教・文化の多様性、地理、芸術・建築などを深く知る知識編（前半7回）と、それぞれに異なるアプローチと研究対象地域の観点から前半の学びをさらに掘り下げて考える考察編から構成する。後半では、地域に根付く人々の暮らしや信仰を遺産化する意義、自然保護と環境保全、人類の負の歴史、行き過ぎた観光地化がもたらす問題などについて考える。
到達目標	世界遺産を通し、グローバル社会において活躍するための知識や教養を身につけるとともに、世界の動きに対する関心を深め、批判の目と自分の意見を持てるようになる。
授業方法と留意点	前半7回で世界各地の「世界遺産」について講師の体験に基づく解説を通じて知識を培い、後半は4名の教員が2回ずつ、具体的な世界遺産を窓口としてその歴史をわかりやすく説き起こし、現代世界に占める意味を問題提起する。
科目学習の効果（資格）	世界遺産検定3級 旅行・観光業、ホテル業等への就職に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	世界遺産を「学ぶ」意義はなにか。 ユネスコの理念と世界遺産理念誕生の背景について関ｇ萎える。	「世界遺産」の種類（自然、文化、複合）について理解しておく。
2	世界遺産誕生までの流れ	世界遺産条約誕生の背景と登録後の流れを知る。	前回のユネスコの理念を復習し、世界遺産条約について調べておく。
3	登録基準	世界遺産がもつ「顕著な普遍的価値」と登録基準について学ぶ。	京都と奈良の世界遺産について調べ、違いについて考えておく。
4	日本の産業遺産	日本で登録されている石見、富岡、明治日本の産業革命遺産について学ぶ。	日本の近代化について調べておく。
5	世界で最初の世界遺産	1978 年に登録された世界で最初の世界遺産12件について学ぶ。	世界で最初に登録された遺産の保有国について調べておく。
6	文化的景観	文化遺産と自然遺産の接点を登録する文化的景観について学ぶ。	日本で登録されている文化的景観の世界遺産について調べておく。
7	中間テスト シリアル・ノミネーションとトランスバウンダリー・サイト	第6回までの理解度確認を行った後、登録の多様性を目指すシリアル・ノミネーションとトランスバウンダリー・サイトについて学ぶ。	第2回目で扱ったグローバル・ストラテジーを含め、第6回までに学んだことを復習しておく。
8	日本の文化遺産１	平泉の遺産、長崎の教会群とキリスト教関連遺産などを事例に日本における信仰の多様性について考える。	日本におけるキリスト教伝来およびその展開について書籍やwebで調べておく。
9	日本の文化遺産２	白川郷・五箇山の合掌造り集落を事例に人びとの生業や暮らしが遺産化されることについて考える。	白川郷、五箇山について書籍やwebで調べておく。
10	自然遺産の重要性と課題１	世界自然遺産とその背景にある自然保護・環境保全について、特に日本に存在する自然遺産や複合遺産を事例として考察する。	日本における自然遺産の分布や歴史的な背景について書籍やwebで調べておく。
11	自然遺産の重要性と課題２	世界自然遺産とその背景にある自然保護・環境保全について、特にアフリカのケニア山やキリマンジャロ山、セレンゲティ・ンゴロンゴロなどの自然遺産を事例として考察する。	アフリカの自然遺産の実態や問題点について書籍やwebで調べておく。
12	負の世界遺産１	アウシュヴィッツ＝ヴィルケナウ強制絶滅収容所を例に、「負の世界遺産」の意義と問題点について考える。	ア第二次世界大戦中にアウシュヴィッツ＝ヴィルケナウ強制絶滅収容所がどのように用いられたのか調べておく。
13	負の世界遺産２	海商都市リヴァプールを例に、奴隷貿易という負の歴史が世界遺産を通してどのように伝えられているか考える。	リヴァプールと奴隷貿易の関係について調べておく。
14	文明の衝突の記憶１	スペイン・コルドバのメスキータ大聖堂を例に、イスラム文明がカトリック圏のイベリア半島に与えた影響と異教徒間の共存について考える。	イベリア半島の歴史と世界遺産について調べておく。
15	文明の衝突の記憶２	ラテンアメリカの古代先住民文明の遺跡を例に、インディヘニスモ（先住民擁護）の歴史と先住民統合政策、観光開発とオーバー・ツーリズムがもたらす問題について考える。	中米のマヤ文明、アンデスのインカ文明について調べておく。

関連科目	エリアスタディーズ、多文化共生論,、エコツーリズム論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	きほんを学ぶ世界遺産100＜第2版＞世界遺産検定3級公式テキスト	世界遺産検定事務局	マイナビ出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			

評価方法 （基準）	第 7 回目までの学習に関する中間テスト（40%）、後半 8 回で取り上げられた個別の世界遺産に基づくテーマのうち、最も関心を抱いたことに関するレポート（40%）、毎回の質問・コメント票（20%）によって総合的に評価する。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	講師控室（7 号館 2 階）、赤澤研究室（7 号館 4 階）、手代木研究室（7 号館 5 階）、林田研究室（7 号館 4 階）、北條研究室（7 号館 5 階）
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間。 第 7 回目に行う中間テストに関するフィードバックは第 8 回目に行う。

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	居場　嘉教.木村　朋紀.船越　英資
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TLO2438a2,L 科：LLO2419a2,D 科・S 科：ILO2425a2,P 科：YLO2420a2,J 科：JLO2436a2,W 科：WLO2421a2,N 科：NLO2417a2		

授業概要・目的	〈摂大ブランド商品の開発・販売プロジェクト〉 様々な大学でオリジナル商品が作られており、多種多様なものがある。これまでに摂南大学オリジナル商品の目指すべき方向性を模索し、いくつかの商品を企画した（サツマイモとみかんピールのお酒、焦げがとれやすいBBQ網、シソとミカンの入浴剤など）。本プロジェクトでは、これまでに企画した商品について具体的な商品開発を行い、販売を目指す。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。
授業方法と留意点	３人の教員が担当する。 少人数で活動を行うため、各自が役割を果たし、積極的に取り組むことが求められる。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	実施手順は以下のとおりである。 〈開発プロジェクト〉 １．連携企業を決める。試作品の作製および改良を行う。 ２．必要な資金を確保し、具体的な製品案を決定する。 ３．商品を委託製造する。 ４．広報活動を行う。 〈販売プロジェクト〉 １．価格設定 ２．販売ルートの確保 ３．販売管理 週１回行う活動に対応して、次回までに行わなければならない課題を決める。
関連科目	教養系・科学技術系科目
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	活動状況、取り組む姿勢および活動成果を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	摂大ブランド商品の販売を目指して、頑張りましょう。
担当者の研究室等	居場講師室（1 号館 9 階）、木村准教授室（1 号館 8 階）、船越准教授室（1 号館 9 階）
備考	新聞を読んで、大学のブランド商品に関連した情報を集めるなど、自主学習に努めましょう。

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	橋本　正治
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科･R 科･A 科･M 科･E 科･C 科:TLO2438a2,L 科:LLO2419a2,D 科･S 科:ILO2425a2,P 科:YLO2420a2,J 科:JLO2436a2,W 科:WLO2421a2,N 科：NLO2417a2		

教養科目

授業概要・目的	過疎地域におけるグリーンエネルギー活用プロジェクト これまで、過疎地域（和歌山県すさみ町）の住民・行政に提案し、グリーンエネルギーを利用した過疎地域自立活性化に利用出来る設備などを製作してきた。本年度はこれまでの活動で得た成果をもとに廃屋を改修し災害時にも対応できる休憩施設を設計、製作する。また、当地で夏に開催される柱松まつりにおいて、観望会を開催する。観望会ではこれまでのプロジェクトで製作してきた天体望遠鏡を用いる。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 １．チームで協働して作業することの問題点や有効性を理解できる。 ２．問題が生じたときの対処手順について理解し応用できる。 ３．ものつくりにかかわる作業設計・工程設計を実際に経験し、その有用性について理解できる。
授業方法と留意点	年数回すさみ町で作業します。(2 泊 3 日を 3-4 回、7 泊 8 日夏休み中に 1 回) それ以外は大学で装置や工程の設計を行い、可能であれば装置の試作や評価を行います。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	3 年計画の 3 年目のプロジェクトです。はじめに大きな目標からはずれないような目的を設定します。(受講生が提案して目的を定めることから始めます) 4 月　　テーマの情報教共有（昨年度までの成果の説明）と本年度の目的に沿った開発プロジェクトのテーマ設定。大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う。 大型装置・設備については現地で加工組み立てできるよう練習する。 5 月　　現地で加工、施工、組み立て開始　不具合の調査 6、7 月　　大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う 8 月　　現地で加工、施工、組み立て 9 月　　大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う 10-1 月　　大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う 2、3 月　　現地で加工、施工、組み立て 現地で加工、施工、組み立て 事前事後課題は、週 1 回行う活動に対応して次回までに実施しないといけないことをチームで決定し各自が役割を果たすことでプロジェクトをすすめていく
関連科目	テクニカルデザイン演習
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	通常(週 1 回の) 活動状況とすさみでの活動状況をみて十分に自らの能力を発揮しているかどうか、活動を終え自らの体験から成長点を理解できるかどうかを元に評価する。
学生へのメッセージ	「古民家再生」では建物のビフォーアフタを実体験し、イベント開催ではアイデアを実現する良い機会です。夢を実現できる実感が得られると思います。一緒に楽しみましょう。機械工学科の学生が多いのですが、これまで建築学科、住環境デザイン学科、環境環境工学科、外国語学部の参加メンバーもいました。浅野教授担当の PBL 授業「過疎地域活性化プロジェクト」と連携して活動しています。ものつくりを通じた地域活性とも言える活動です。
担当者の研究室等	８号館１階テクノセンター、１号館５階メカトロニクス研究室で活動します。
備考	週 1 階のミーティングの事前準備としての学習時間が週あたり 1 時間程度必要となります。

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田　秀士.小田　靖久.栗田　寿基.下元　一輝.釣本　聖司
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ○,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,DP5△,DP6△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP8△,J科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V科･R科･A科･M科･E科･C科:TLO2438a2,L科:LLO2419a2,D科･S科:ILO2425a2,P科:YLO2420a2,J科:JLO2436a2,W科:WLO2421a2,N科：NLO2417a2		

授業概要・目的	ミニ鉄道プロジェクトとして、レール間隔３．５インチ、５インチの鉄道模型を製作し、各種のイベントにおいて運転会などの企画・運営を行う。 蒸気機関車、電気機関車や客車の製作に加えて、軌道、鉄橋、駅舎なども製作し、イベント会場などで運転会・展示会を催す。 また、運転会・展示会では製作過程や駆動原理などの展示を行い、参加者のものづくりへの関心を高める。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、 「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、 「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 蒸気機関車や鉄道施設などの製作を通して、ものづくりの技術を能動的に習得する。 イベントにおける運転会の企画・準備・運営を通して、目標達成のために自律的に計画し遂行する能力を身につける。
授業方法と留意点	週１回のミーティングでプロジェクトの企画、運営、製作について、計画や進捗状況の報告を行う。 履修者が決定する時間割に従って、テクノセンターで部品を製作し技術を習得する。 この科目では、能動的に活動できる能力を培うことが大きな狙いである。 与えられた課題に対して全貌を把握した上で計画を作り、その計画を確実に実行する姿勢を学んでほしい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	本年度はレール間隔３．５インチ、５インチの蒸気機関車の製作を継続するとともに、運行イベントの企画・運営を行う。 １．プロジェクトの開始に先立って、社会人基礎力、目標管理、工程管理、プロジェクト管理について、メンバーで調査・討議する。 ２．教員の指導の下に目標と計画を作成する。 ３．計画に従って、技術指導を受けながら蒸気機関車、鉄道施設等を製作する。 ４．計画からの遅れには対策を講じる。 ５．製作時に利用する金属材料、工作機械、工作方法などについては図書館で調べ知識を確かなものとする。 ６．運行イベントの企画・運営を計画し、実施する。 ７．計画、進捗状況、調査結果等をミーティングで報告する。 なお，自主学習として自分の役割に応じ，マネジメント(参考書欄参照)，蒸気機関，機械工作手法，電気回路等々を継続して学ぶことが必要となる.
関連科目	教養系・科学技術系科目
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / マネジメント基本と原則 / P.F.ドラッカー（上田惇生編訳） / ダイヤモンド社 2 / もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら / 岩崎夏海 / ダイヤモンド社 3 / / /
評価方法（基準）	汎用的能力（40%）、主体性・柔軟性・課題発見解決（30%）、貢献度（30%）について、ミーティングでの報告、イベントや作業時の態度で評価する。
学生へのメッセージ	与えられた環境、条件のもとで、工夫して自律的に課題を達成できる能力は、社会人として必須の力です。この授業で「指示待ち」から「自ら行動する」姿勢を学んでください。
担当者の研究室等	１号館３階　石田准教授室 ８号館１階　テクノセンター
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田　裕子
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科･R 科･A 科･M 科･E 科･C 科:TLO2438a2,L 科:LLO2419a2,D 科･S 科:ILO2425a2,P 科:YLO2420a2,J 科:JLO2436a2,W 科:WLO2421a2,N 科：NLO2417a2		

授業概要・目的	概要：摂南大学が進める淀川水系の総合研究の実践的な担い手として、寝屋川市内での子どもたちへの環境学習支援および淀川水系での流域連携活動を実施する。流域内の様々な団体と連携し、河川での親水活動や交流会を通じて、流域住民、一般市民へ環境問題や流域の諸問題について普及・啓発する。 目的：池の里市民交流センターの活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組み力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ・何が問題であるかを認識し、それに対してチームで解決する素養を身に付けることができる。 ・多様な人の意見を聞いて理解し、自分の意見を述べることができる。 ・世界や日本で起こっている環境問題や流域の課題について、正しい知識を身に付けることができる。
授業方法と留意点	連携内容・方法：池の里市民交流センターでは、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。 留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト 内容： １．寝屋川市立池の里市民交流センターにおける環境学習支援 ２．巨椋池ビオトープを中心とした水辺再生学習の実施 ３．淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 ４．天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 ５．天然アユ復活プロジェクトの学習 ６．いい川・いい川づくりワークショップ等での発表 方法：授業のうち半分（月１回）は原則として平常授業期間内の土曜日１・２限に行い、主として学内のゼミ室において、石田が資料を用いて講義をし、池の里市民交流センターにおける自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9 月と 12 月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。 他の半分（月１回）は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。 学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト（６月）、近畿水環境交流会（７月）、いい川・いい川づくりワークショップ（9-11 月）を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。天若湖アートプロジェクト実行委員会より外部講師を招き、事前学習を行う。授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。 事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポートを作成し、年度末にプレゼンテーションを課す。
関連科目	自然・都市環境論、流域・沿岸域工学（以上、C 科） 科学技術教養 C1・C2
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	授業（イベントを含む）に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。(60%) 水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。(40%)
学生へのメッセージ	子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみなさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。
担当者の研究室等	１号館３階　石田准教授室
備考	自主学習時間として、総時間数 30 時間以上取り組むこと。

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野　英一
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科･R 科･A 科･M 科･E 科･C 科：TLO2438a2,L 科：LLO2419a2,D 科･S 科：ILO2425a2,P 科：YLO2420a2,J 科：JLO2436a2,W 科：WLO2421a2,N 科：NLO2417a2		

授業概要・目的	「すさみ町における過疎地域活性化支援プロジェクト」において必要な要素は「ヒト・モノ・カネ」である。すさみ町には豊かな自然や歴史文化など、都市にはない多くの魅力（資源）を調べ、都市と田舎の「ヒト・モノ・カネ」がうまく循環する仕組みを作ることにより、お互いが共生する活動を実践活動教育の核とする。 地域活性化活動のテーマにしているものは「農業」、「ふるさと創生」、「観光」の 3 種類。 ①調査：地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。 ②企画：具体案を立て、評価（実現可能性、コスト、実施期間、有効性）を行い、詳細な実施計画を立てる。 ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。 ④実施：実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中に実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う ⑤結果報告：プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。
授業方法と留意点	プロジェクトの実施地は、和歌山県西牟婁郡すさみ町です。活動にかかる交通手段は、バスを大学でチャーターして移動します。宿泊は、摂南大学すさみ町活動拠点（廃校になった小学校の校舎）を使うため宿泊費用は発生しません。プロジェクト実施については、調査状況に基づき事前に学内で協議して現地活動を行います。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	すさみ町は人口が約 4700 人で、39 ある集落のうち 18 が限界集落の町で、その中の１つ、佐本・大都河地域は人口約 360 人、高齢化率 60%以上であり過疎と高齢化が深刻で、日常生活や地域コミュニティーの維持が困難になりつつある地域である。少子高齢化と過疎化は、物理的な過疎に加えて人々の心の過疎化（社会の進歩に対する過疎感や年代を超えた人と人の繋がりに対する過疎感など）を招き、それが地域活性化への意欲を喪失させるという負のスパイラルの形成を促進している。こういった背景の中、履修学生は「よそ者、若者、大学生」という立場で地域活性化のプロジェクトを実施している。 すさみ町の観光イベントである「イノブータン王国建国祭」「ビルフィシュトーナメント」「ケンケン鰹祭り」の運営協力、220 年続いた山村の伝統行事「佐本川柱祭り」の復活・伝承、ボランティア活動「なんでもやる隊」、限界集落に住む独居老人宅を訪問する「見守り隊」などを実施する。 大阪府寝屋川市からすさみ町まで､貸切の大型バスで片道 5 時間という距離である｡この距離が PDCA を行うために重要なキーポイントになる。漁業に例えると遠洋漁業のイメージで、港（大学）を出港（出発）して、遠洋（すさみ町）で漁業（活動）するためには、誰が、いつ、何を、どこで、どのような方法で行うかを綿密に計画し、実施するかなど多くの課題とそれを乗り越える手段など PDCA を現実に体験する。 事前に、すさみ町役場、NPO、地域の代表者などとメールや電話などで協議し、参加者の募集、実施に必要な資材の調達、イベントの内容、学生スタッフの人員配置など、会社の中で高度な仕事を実施する能力を身につける。 社会人基礎力の、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の 3 つの能力（12 の能力要素）から構成を自主学習として、調べておくこと。
関連科目	ボランティア論
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	参加態度 40%、企画力 20%、コミュニケーション能力 20%、発表能力 20%で評価する。
学生へのメッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要が求められる。
担当者の研究室等	7 号館 5 階　浅野研究室
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	久保　貞也.針尾　大嗣
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TLO2438a2,L 科：LLO2419a2,D 科・S 科：ILO2425a2,P 科：YLO2420a2,J 科：JLO2436a2,W 科：WLO2421a2,N 科：NLO2417a2		

教養科目

授業概要・目的	地域を便利にするアプリ開発 学生が最新のデータベース技術とアプリケーション構築（携帯アプリ）の技能を身に付ける。そして、大学近隣の市町村に学生が市民への情報提供の課題を聞き取り、身に付けた情報技術を活かして自治体が公開しているオープンデータを利用したアプリケーションを開発し、その成果を検証する。
到達目標	・学生が最近の IT 動向を理解している ・学生が一般ユーザー向けの IT についてその仕組みを説明できる ・学生が初めて触れた技術を修得するための持続的な学習を行える ・学生自身が技術的な問題解決のために自学自習できる ・学生が地域の課題を知るためにインタビュー調査票を作成できる ・地域が抱える問題に対して情報技術の特性を活かした提案ができる
授業方法と留意点	データベースに関する勉強会（土曜日開催） ヒアリング調査 開発合宿 自治体でのプレゼンテーション
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ】 地域を便利にするアプリ開発 【内容】 自治体が保有するオープンデータを用いて、市民の利便性向上に貢献するアプリケーションを開発する。データベース技術を駆使することで開発期間を短縮しつつ、メンテナンス性が高いサービスの提供を目指す。 【方法】 ・データベースに関する勉強会（土曜日開催） ・ヒアリング調査 ・開発合宿 ・自治体でのプレゼンテーション などを一連の流れとし、支援協力をいただいた自治体ごとにプロジェクトチームを構成する。 【事前・事後学習課題】 プロジェクトのテーマを考慮して、以下の内容について自主的な調査、学習を行う。 ・自治体の情報サービスの現状調査（4 時間×2 回） ・IT 関連の情報収集（サービス、セキュリティ、生産性向上など）（1 時間×8 回） ・データベース設計の見直し（3 時間） ・作成したアプリの動作テスト（2 時間） 学習課題を遂行する上で必要と思った書籍やソフトウェアなどについては購入を検討する。
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学（消費者）、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	技術習得の成長度（グループとしての学び合いを高く評価する） 自発的な役割の選択 開発プロセス全体での関与の度合い
学生へのメッセージ	新しい技術は若い人が活用してこそ効果が発揮されます。少しハードルが高そうな課題ですが、社会の課題を最新技術で解決する経験に挑戦しましょう！
担当者の研究室等	11 号館 7 階　久保准教授室、針尾准教授室
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	牧野　幸志.久保　貞也
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科･R 科･A 科･M 科･E 科･C 科:TLO2438a2,L 科:LLO2419a2,D 科･S 科:ILO2425a2,P 科:YLO2420a2,J 科:JLO2436a2,W 科:WLO2421a2,N 科：NLO2417a2		

授業概要・目的	学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト　～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～ 地元の産業を活性化させる商品企画、イルミネーションイベント、子供向けのスポーツ教室の企画・運営、社会教育への貢献イベント、地域文化発信のための広報や展覧会などに主体的に参画し、地域の総合的な活性化を図るとともに、学生が実践的な場で大いに学ぶことを目的とする。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ・地域の課題を認識する ・課題を解決する方法を考える ・解決策を実行する ・自らが実行した成果を振り返り、次の行動を設定する 以上のプロセスを主体的に行えるようになることが本プロジェクトの到達目標である。
授業方法と留意点	学内でのレクチャー（学部講師を含む）、見学会や視察、海外を含む学外者とのオンラインミーティングなどを準備作業として行い、実際のイベント参加や商品企画、調査分析などの実習を行う。 プロジェクト内は複数のサブプロジェクトを配置する。ただし、改善や比較学習のために複数のプロジェクトの参加も認める。 参加する学生は「自ら課題を見つけて積極的に動く意識」を重視してすること。 自主学習時間を活動前(1 時間)と後(2 時間)に取ること。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ】 学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト　～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～ 【内容】 対象予定とするプロジェクトは、カレーに乗せてはいけない福神漬けの続編や販売展開（寝屋川市、京都市ほか）、ビジネスプランコンテスト、平和教育に関するイルミネーションイベント（枚方市）、大学共同のイルミネーションイベント（茨木市）、スポーツ教室運営（門真市）、地域の IT スキル測定と教育（摂津市）、歴史資産の展覧会企画（河南町）などである。 【方法】 ・メンバー間のディスカッション ・グループワーク ・オンラインミーティング ・博物館や自治体の見学会 ・実地調査 ・企画書や報告書の作成 ・学外でのプレゼンテーション など、サブプロジェクトの特徴に合わせて行う。 【事前学習課題】 地域社会の課題や文化・スポーツに関するニュースや新聞、雑誌、書籍などに目を通す。 事前学習の自主学習時間は、毎週 1 時間程度とする。その内容をまとめて提出すること。 【事後学習課題】 プロジェクトの中で見つけた自分の長所と短所への自学自習課題を設定すること。 事後学習の自主学習時間は、活動後 2 時間程度とする。活動での気づき、反省点などをまとめて提出すること。
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学（消費者）、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	準備やイベントの参加数、達成した内容、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価、自主学習の提出などから総合的に評価する。
学生へのメッセージ	地域を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。 自分の潜在能力を引き出しながら、地域の良さを引き出してください。
担当者の研究室等	11 号館 7 階　、牧野准教授室、久保准教授室、針尾准教授室
備考	活動内で課された課題に対しては，その後の活動の中で評価・解説を行い，フィードバックをする。 自主学習時間の評価も行います。

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	大塚　正人
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TLO2438a2,L 科：LLO2419a2,D 科・S 科：ILO2425a2,P 科：YLO2420a2,J 科：JLO2436a2,W 科：WLO2421a2,N 科：NLO2417a2		

授業概要・目的	本プロジェクトでは、連携先調剤薬局と協働し、PBL に参加した学生が、就職関連イベントを企画・運営・実施する事で、学生のコミュニケーション能力、ファシリテーション能力など、人間的な総合力を育成することを目的とする。就職関連イベントに行くのではなく、就職関連イベントを企画・運営・実施することは、難易度の高い教育プログラムである。その過程で、Active Book Dialog（ABD）の手法を用いてグループ学習を行い、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の 3 つの能力で構成される「社会人基礎力」が向上するように設計している。
到達目標	【到達目標】 現状の就職関連イベントの問題点・ニーズを踏まえた上で、調剤薬局における理想的な就職関連イベントを企画・運営・実施する。 【プロセス】 １．　理想的な就職関連イベントとは何かを定義できる。 ２．　現状の就職関連イベントの問題点・ニーズを列挙できる。 ３．　他の PBL プロジェクト参加学生と協働して、就職関連イベントの具体案を企画できる。 ４．　他の PBL プロジェクト参加学生と協働して、就職関連イベントの参加者アンケートやイベント広報を立案できる。 ５．　関係先調剤薬局の担当者とビジネスマナーをわきまえた上で円滑な人間関係を構築できる。 ６．　就職関連イベントの企画・運営・実施を通して、社会にどんな貢献が出来るか主体的に考えられる。
授業方法と留意点	大学での学びの主役は PBL の受講者である。教員は、PBL の受講者の学びを補助するファシリテーター役に徹するので、いわゆる座学的な講義は一切行わない。教員は、教科書や教材に書いてある知識の伝達は一切行わない（質問には答えます）。 具体的には、ABD 読書会方式の受講者の主体的な学び合いを行う。すなわち、各回のテーマに沿ってその内容を各自で学習し、B5 用紙 5 枚にまとめ、リレープレゼンテーションにて共有する。 ABD 読書会については、以下の URL を参照のこと。http://www.abd-abd.com/ 講義内容については、Moodle を用いて資料を配付する。また、本講義はアクティブラーニング的手法を積極的に取り入れ、学生が積極的に講義に参加できるよう工夫する。 また、大学外での学びについても、振り返りを重視した指導を行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	４月　　学内研修：まず、チームビルディングを行う。就職関連イベントの目的・方法・成果について具体例を調査・検証・評価する事により、理想的な就職関連イベントとは何かを定義する。また、企業ブランド・ミッションについて ABD の手法を用いてグループ学習する。 ５月　　学内研修：就職関連イベントの現状や課題点などについて具体例を調査・検証・評価する事により、現状の就職関連イベントの問題点と改善点とは何かを定義する。また、システム思考について ABD の手法を用いてグループ学習する。 ６月　　学内研修：理想的な就職関連イベントと現状の就職関連イベントの問題点を比較することで、就職関連イベントの企画のポイントを見いだす。また、組織開発について ABD の手法を用いてグループ学習する。 ７月　　学内研修：就職関連イベントの具体案を企画する。参加者アンケート、広報ポスター等についても検討する。役割分担を決めた上で、協働する。 ８月　　学内研修：就職関連イベントの具体案を企画する。参加者アンケート、広報ポスター等についても検討する。 学外研修：阪神調剤ホールディング株式会社を訪問し、就職関連イベント開催に向けて具体的に協議する。役割分担を決めた上で、協働する。 ９月　　学内研修：中間報告の準備。パワーポイント作成法、プレゼンテーション法について、ABD の手法を用いてグループ学習する。 １０月　学内研修：企画した就職関連イベントを実際に学内で実施してみる。必要であれば企画の練り直しを図るファシリテーション力、タイムマネジメント力の育成を図る。また、ファシリテーション法について ABD の手法を用いてグループ学習する。 １１月　学外研修：阪神調剤ホールディング株式会社にて就職関連イベントを実際に行う。役割分担を決めた上で、協働する。 学内研修：ふりかえりワークショップを行う。 １２月　学内研修：最終報告の準備。パワーポイント作成法、プレゼンテーション法について、ABD の手法を用いてグループ学習する。 １月　　学内研修：ふりかえりワークショップを行う。成果報告書の作成。 ２月　　学内研修：成果報告書の作成。 事前、事後学習課題 について 事前、事後学習課題についてはその都度指定しますが、時間的には 1 単位あたり週 2 時間の事前、事後学習課題の実施を設定致します。
関連科目	教養系、キャリア系科目
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 人を伸ばす力 ： 内発と自律のすすめ / エドワード・L・デシ, リチャード・フラスト / 新曜社 2 / フロー体験　喜びの現象学 / M. チクセントミハイ［著］；今村浩明訳 / 世界思想社 3 / モチベーション 3.0 ： 持続する「やる気!(ドライブ!)」をいかに引き出すか / ダニエル・ピンク著 ； 大前研一訳 / 講談社
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / グロービス MBA で教えているプレゼンの技術 ： 人を動かす勝利の方程式 / グロービス / ダイヤモンド社 2 / 教え上手になる！： 教えと学びのワークブック / 関根雅泰 / クロスメディア・パブリッシング 3 / 東大生が書いた議論する力を鍛えるディスカッションノート　「2 ステージ､6 ポジション」でつかむ「話し合い」の新発想! / 吉田雅裕 / 東洋経済新報社
評価方法（基準）	ＰＢＬ活動への参加意欲および貢献度（70%）、学内・学外発表会等への貢献度（30%） 準備やイベントの参加数、達成した内容、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価から総合的に評価する。?
学生へのメッセージ	医療の現場を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。 自分の潜在能力を開花させながら、ファシリテーション能力をうまく使ってチームビルディングによる力を引き出して下さい。
担当者の研究室等	摂南大学枚方キャンパス　薬学部薬学科　生命融合化学分野（１号館５階）
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井　信輝.水野　武
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科･R 科･A 科･M 科･E 科･C 科:TLO2438a2,L 科:LLO2419a2,D 科･S 科:ILO2425a2,P 科:YLO2420a2,J 科:JLO2436a2,W 科:WLO2421a2,N 科：NLO2417a2		

授業概要・目的	マーケティング手法を学び、本学ラグビー部が所属する関西大学ラグビーリーグの PR、リーグ運営サポート、及び本学内におけるラグビー部の広報活動を行い、大学ラグビーに興味をもってもらうための展開案を構築する。それにより大学ラグビーの新たなファン層拡大の可能性を探る。将来的には 2019 年ラグビーW杯に向けてのインバウンドへと繋げる。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。
授業方法と留意点	年間のスケジュールに応じて多様な授業の形態（座学、現地調査）を採用します。また、年度を通じて定期ミーティングを行い、協力団体の方々と調整しながら活動しますので、発想を柔軟にして何事にも取り組むことが留意点となります。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	以下の手続きで授業を展開する １．プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有 ２．マーケティング手法の学習（座学による） ３．連携先との面談 ４．連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出 ５．学内外におけるラグビーリーグに関するアンケート調査 ６．広報誌制作準備（広報誌は秋季リーグに週刊または隔週で発行） ７．学内外におけるリーグ戦観戦促進活動、リーグ戦運営補助、PBL 中間報告会、広報誌の発行、来場者へのアンケートの実施 ８．まとめと最終報告会
関連科目	チームビルディング

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	活動報告、活動現場での取り組をもとに評価する。
学生へのメッセージ	積極的に活動してください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　石井研究室 ７号館３階　水野研究室
備考	スケジュールに沿って１時間程度を目安として、プロジェクト遂行のための自主学習の時間（事前・事後）をとってください。

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田井　義人
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科･R 科･A 科･M 科･E 科･C 科:TLO2438a2,L 科:LLO2419a2,D 科･S 科:ILO2425a2,P 科:YLO2420a2,J 科:JLO2436a2,W 科:WLO2421a2,N 科：NLO2417a2		

教養科目

授業概要・目的

Ⅰ　授業概要
・吹田市栄通商店街における地域活性化事業への支援による商店街ブランド作成プロジェクトへの参画（企画・活動・推進・振り返り活動への参画）を行う。
・当該活動地域は、顧客獲得において対立構造にある商店街、大規模店、コンビニエンスストアが協働している希有な事例であり、TV 等でも紹介された。
・2018 年度よりプロジェクト事業拡大によりブランド化を模索・推進している地域である。

Ⅱ　目的
・シャッター街に代表される商店街の課題を成功例に学生が参画（前述のとおり）することと事前学習によって自ら設定した課題認識との比較により地域活性化の方法論を学ぶ。

到達目標

Ⅰ　到達目標（共通）
　本プロジェクトでは、参加メンバー・学外連絡先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。

Ⅱ　到達目標（本プロジェクト）：Ⅰの目標を達成するため、以下のいくつかの修得を行うこと。
（１）課題と課題対応した事例を現場体験することで解決プロセスを列挙できること。
（２）課題解決のための課題認識と対応策を具体的に提案できること。
（３）異なる世代間の交流により情報収集のスキルを修得すること。
（４）成功事例を発展させることで他の事例へのＰＤＣＡスキルを醸成できること。
（５）行政依存から脱却し地域の市民主体の取り組みの有効性と効果を体験することで自立した政策提案することができること。
（６）地域住民や商店街関係者との地域活性に尽力する「本気の大人」に出会うことによるコミュニケーション力や「気づき」力を醸成すること。
（７）企画・運営・振り返り資料作成による PPT のスキル、プレゼンテーションスキルを醸成すること。
（８）企画から振り返りまでの一貫した事業展開への参画による PDCA 活用スキルを修得すること。
（９）地域活性化に必要な知識と活用による各種ステークホルダ間の調整スキルを修得すること。
（１０）世代間コミュニケーションスキルを修得すること。

授業方法と留意点

Ⅰ　授業方法
・少子高齢化の進展と中心市街地での後継者不足とともに大規模店やコンビニエンスストアの出店によって商店街が衰退している。シャッターが閉められ人通りがほとんど無くなっている商店街も地域には多く存在する。
・本プロジェクトは、このような社会状勢のなか、プロジェクトを企画・運営する地域交流拠点（コンビニ２階）を中心に市民が商店街や大規模店及びコンビニエンスストアとも協働する様々なブランド形成事業に若者である本学学生の視点を取り入れることにより連携先課題であるシャッター商店街防止策を企画・活動・推進・振り返りを行う。
・上記目的の達成のため、大学における事前・事後学習と演習及び地元での課外学習（参画による）によって到達目標へ指導する。
・事前学習において、課題設定のブレインストーミングを行い出来ればグループ分けを行う。

Ⅱ　留意点
・上記学習、演習に必ず参加すること。特に他の授業やクラブなどの課外活動との時間調整であるタイムマネジメントに留意すること。

授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題

Ⅰ　授業テーマ：商店街を中心にした地域ブランドの創生
・事前・事後学習及び講述の課外活動に参画してテーマを達成する事業案の参画

Ⅱ　内容、方法、事前・事後学習課題
（１）事前・事後学習
・シラバスに記載した教科書、参考書を元に事前学習を行う。学習課題の設定の参考とする。
・下記課外活動後、事前学習に使用した教科書を元に課外活動等との比較を行う事後学習を行う。
・上記を通じて得た「気づき」を発表する。（中間報告会、最終報告会）

（２）参画する課外活動例
・４月頃：WEB 稼働及び勉強会。吹田祭企画会議実施。（JR 吹田で一番楽しい場として浸透。近隣店舗の参加推進。会員飲食店の営業推進。）

・５月～６月：今後の企画運営検討（エンタメ教室：地域の子育て世帯の参加者推進。商店街ブランド案の検討：栄通りの特色を検討、商店会は場提供。）
今後の企画運営検討（落研寄席：近隣住民の参画推進。近隣大学等との連携推進：地域モデルの模索、新しい形での連携で「イケテル商店街」構築へ

・７月頃：吹田祭推進、応援

・８月以降：エンタメ教室に参加。お茶とお花の教室（親子教室）に参加。落研寄席準備に参加。落研寄席-吹田お笑いグランプリに参加。（予選エントリー本戦 16 組くらいで決戦、審査員は素人で公平に。継続により商店会のブランドのひとつとなることを目指す。）
・随時：周辺空き家の活用（古民家を活かしたノスタルジック喫茶店?スタバ）による商店街連携検討。

・９月頃：エンタメ教室実施。（ミニ四駆をテーマに世代間参加を推進。親子で四駆レースを体験。翌年度吹田祭での大会レースを企画。）

・１０月頃：高浜神社　戎祭支援（チラシ配布、各店お店情報掲載、神社から店への誘導）に参加

・１２月～３月頃：今年度事業の振り返りと予算策定に参加。翌年度の向けての WEB 委員会年度計画策定二酸化。エンタメ教室、落研寄席予算申請・企画開始に参加。

このスケジュール内に中間報告会、最終報告会がある。

関連科目

地域の持続的発展　地方自治論　地域実践演習　地域貢献実践演習

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	凡人のための地域再生入門	木下斉	ダイアモンド社

	2	商店街再生の罠　売りたいモノから顧客がしたいコトへ	久繁哲之介	ちくま書房
	3	商店街はなぜ滅びるのか　社会・政治・経済史から探る再生の道	新雅史	光文社新書

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	イギリスに学ぶ商店街再生計画	足立基浩	ミネルヴァ書房
2	その島のひとたちは、ひとの話を聞かない–精神科医「自殺希少地域」を行く–	森川すいめい	青土社
3			

評価方法（基準）

事前事後学習への参加を必修とする。地域での活動内容の発表やプレゼンテーションを通じて評価を行う。

学生へのメッセージ

・教科書1「凡人のための地域再生入門」の黄色部分は必読です。
・商店会のメンバは、商店街の発展を通じて地域活性化に努力している「本気の大人」である。彼らとのコミュニケーションを通じて学生個人のコミュニケーションスキルの醸成と課題設定、解決のプロセスを学ぶ。
・積極的な活動と活動の糧となる読書を推奨する。
・当該商店街だけでなく学生が居住する地域の商店街の課題や地域活性化の課題を発見し対策を模索するプロセスを重視する。
・何よりも商店会が主催する企画会議への出席（参画）が基本である。その他の事業参加も推奨する。

担当者の研究室等

1号館7階　経済学部　田井義人研究室

備考

・事前･事後学習として教科書や参考書の輪読や講評を推奨する。
・課外活動に参画することを重視する。
・やみくもに参画するのではなく、情報や知識習得のため教科書、参考書などの熟読を進める。

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田　佐治子.水野　武
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科･R 科･A 科･M 科･E 科･C 科:TLO2438a2,L 科:LLO2419a2,D 科･S 科:ILO2425a2,P 科:YLO2420a2,J 科:JLO2436a2,W 科:WLO2421a2,N 科：NLO2417a2		

教養科目

授業概要・目的	【テーマ】 社会人サッカークラブ「FC TIAMO 枚方」の活動支援プロジェクト 【概　要】 枚方市に所在する社会人サッカークラブ「FC　TIAMO 枚方」の活動を支援するための企画を立案・実施する。ホームゲームにおける観戦者向けにアンケートを実施し、来場者は何に価値を求めてるのを明らかにした上で広報戦略を立案する。また枚方市内における認知率を測定し、認知度向上に向けた施策を行う。 また、２月には摂南大学×FC ティアの枚方主催で子ども向けスポーツフェスタを計画している。 【目的】 ・ホームゲーム来場者が感じる経験価値を測定し、クラブの広報活動に関する提案を行う ・クラブの広報ポスターを作成し、枚方市内の飲食店等で掲示 ・近隣市内におけるクラブの認知度向上とホームゲーム観戦者数の増加
到達目標	・学外の方々向けに通用するビジネスマナーを修得する ・アンケートの集計を通じ、回答者の傾向を読み取ることができる ・連携先に企画提案ができる ・広報活動（飛び込み営業）を通じ、基本的な営業スキルを感得する ・メンバー間とのディスカッションを通じ、他者を理解・共感することができる ・締切意識を持ち、「何を、いつまでに、誰が、どうやって」を意識するようになる ・メンバー間の連絡・返信コメントを行えるようになる ・プレゼンテーションの準備を通し、PPT の作成スキルが向上する
授業方法と留意点	「FC　TIAMO 枚方」と連携しつつ，学生が中心となって活動するプロジェクトです。 全員が「自分がやらなければ」という意識を持って取り組んでください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【内容】 ホームゲーム来場者が感じる経験価値を測定し，クラブの広報活動に関する提案を行う。そのことにより，近隣市内におけるクラブの認知度向上とホームゲーム観戦者数の増加を目指す。 【方法】 ・ホームゲームでのアンケート調査の実施と考察 ・連携先へのヒアリングを通じて課題を抽出 ・クラブのプロモーション案の展開を作成・評価・検証（連携先の許可により実施） ・近隣市におけるクラブの認知率測定と認知度の向上のための施策を提案 【年間計画（予定)】 ４月　マーケティング基礎講座の実施 連携先との顔合わせ ５月　ホームゲーム観戦体験 ホームゲーム来場者向けのアンケートの実施 ６月　アンケートの集計と結果を踏まえたイベントの企画立案 ７月　枚方市・寝屋川市内における認知度調査（プレ調査）の実施 域内商店街での広報活動の実施 ８月　ホームゲームでのイベントの実施 ９月　枚方市・寝屋川市における認知度調査（ポスト調査）の実施 10 月　ホームゲーム運営補助 中間報告会 12 月　最終報告会とその準備 ２月　Sports Festival
関連科目	全ての科目
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	全体で行う活動やミーティングへの貢献，自分の役割の遂行，報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表，連携先からの評価を総合的に判断し評価する。
学生へのメッセージ	プロジェクトの成否は，みなさま一人ひとりにかかっています。それぞれが主体的に取り組み，「FC TIAMO 枚方」を盛り立てていきましょう。
担当者の研究室等	吉田佐治子（７号館３階） 水野武（７号館３階）
備考	学外での活動に際し，事前の準備・事後のまとめ等にかなりの時間を要します。活動によっても異なりますが，一つの活動に対して，それぞれ 5?10 時間は必要です。

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	上野山　裕士
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ○,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,DP5△,DP6△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP8△,J科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TLO2438a2,L科：LLO2419a2,D科・S科：ILO2425a2,P科：YLO2420a2,J科：JLO2436a2,W科：WLO2421a2,N科：NLO2417a2		

授業概要・ 目的	テーマ： 中山間地域における生活支援体制の構築プロジェクト 概　要： 和歌山県海草郡紀美野町をフィールドに、中山間地域におけるひとり暮らし高齢者の生活をどのように見守り、支えるかについて、地域のキーパーソンに対するヒアリング調査や社会資源調査と地域での生活体験、その他の作業等を通じて考え、生活支援体制の構築に向けての具体的な活動に取り組んでいきます。
到達目標	①中山間地域に暮らす人びとの生活を知り、地域生活やその課題の多様性について説明することができる ②ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法を検討することで、地域福祉の必要性や相互理解の重要性について考えを述べることができる ③中山間地域における生活支援体制の構築にかかわる主体について説明することができる ④「地域の見守り、支え合い」の担い手としての自覚と責任を身につける
授業方法と 留意点	文献、資料等を用いた学内研修と和歌山県海草郡紀美野町における現地調査を実施します。 具体的には、学内研修（地域について学ぶ）→現地調査（地域について知る）→学内研修（地域について考える）→現地調査（地域のために活動する）→学内研修（活動を振り返り、評価する）というプロセスを通じ、受講生にとっても地域にとっても意義のある活動となることを目指します。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	講義では以下の内容に取り組みます（進捗状況によって変更となる場合があります)。 ・学内研修：紀美野町の人口・産業・伝統・観光・その他の特性について、地域福祉の考え方について、日常生活支援体制の構築方法について、中間報告会および最終報告会に向けた準備について、等（週一回程度；各回の実施に当たってはテーマに応じた自主学習（1 時間程度）が求められます） ・地域での活動：地域視察、地域住民との交流、日常生活支援体制構築に向けた実践、等（月一回程度；学外研修後には活動成果の整理および実施意義の分析にかかる自主学習（2 時間程度）が求められます） ・中間報告会、最終報告会：他のプロジェクトと合同で実施（各一回）
関連科目	なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学内研修および地域での活動への主体的な参加および中間／最終報告会に対する貢献度により評価します。
学生への メッセージ	ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法について考えることは、すべての地域、たとえば、みなさんが生まれ育った地域にとっても非常に有意義な取り組みです。 都会から離れた場所での生活を実際に体験し、くらしを支えるとはどのようなことか、一緒に考えてみませんか？
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	藤原　京佳.梅野　将之
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ○,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,DP5△,DP6△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP8△,J科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V科･R科･A科･M科･E科･C科:TLO2438a2,L科:LLO2419a2,D科･S科:ILO2425a2,P科:YLO2420a2,J科:JLO2436a2,W科:WLO2421a2,N科：NLO2417a2		

授業概要・目的	「異文化理解・交流を通した地域貢献プロジェクト」 留学生を含む参加学生が異文化理解・交流にかかわる活動（オリジナルかるた、ゲーム、文化紹介教材、演劇等）を企画し、寝屋川市国際交流協会や近隣学校等において実施していく。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性をもって前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の想像を目指す。 自らの言語・文化資源を活用すると同時に、異なる文化背景をもつ他者と協働し、活動を企画・実行できる。 学外の活動を通して地域への理解を深め、地域における異文化理解・交流を促すことができる。 プロジェクトにおける自身の貢献および不足点を分析し、省察することができる。
授業方法と留意点	さまざま文化背景、価値観をもつ人々と対話・交渉しながら活動を進めていくことになります。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【内容】 ・週１回のミーティングで活動に関する企画を立案し、進捗等を確認する。 ・寝屋川市国際交流協会および近隣学校と連絡をとり、活動内容や日程を決める。 ・必要に応じて本学国際交流センターにおける活動を企画・実施する。 ・活動内容を報告会等で発表する。 【方法】 ・異文化理解・交流をテーマにした教材、ゲーム等を作成する。 ・作成物を使った活動を地域や国際交流センターで実施する。 【事後学習】 受講生には活動日誌を配布する。ミーティングおよび各活動後に話し合いや活動の内容、感想、反省点を記録すること。 プロジェクト終了時に最終レポートを提出してもらう。レポートはプロジェクトを通して学んだこと、自身が貢献できた点、不足していた点を振り返るものとする。
関連科目	人文社会系科目全般、外国語科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	ミーティング、報告会、各活動への貢献度 60%、活動日誌およびプロジェクト最終レポート 40%
学生へのメッセージ	他者を知り、地域を知るは自分自身を知ることにもつながると思います。 普段自明視している常識、先入観、前提に気づくことから始めてみてください。
担当者の研究室等	
備考	自主学習時間の目安は毎週 1 時間。

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	居場　嘉教.木村　朋紀.船越　英資
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科･R 科･A 科･M 科･E 科･C 科：TLO2439a2,L 科：LLO2420a2,D 科･S 科：ILO2426a2,P 科：YLO2421a2,J 科：JLO2437a2,W 科：WLO2422a2,N 科：NLO2418a2		

授業概要・目的	〈摂大ブランド商品の開発・販売プロジェクト〉 様々な大学でオリジナル商品が作られており、多種多様なものがある。これまでに摂南大学オリジナル商品の目指すべき方向性を模索し、いくつかの商品を企画した（サツマイモとみかんピールのお酒、焦げがとれやすい BBQ 網、シソとミカンの入浴剤など）。本プロジェクトでは、これまでに企画した商品について具体的な商品開発を行い、販売を目指す。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。
授業方法と留意点	３人の教員が担当する。 少人数で活動を行うため、各自が役割を果たし、積極的に取り組むことが求められる。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	実施手順は以下のとおりである。 〈開発プロジェクト〉 １．連携企業を決める。試作品の作製および改良を行う。 ２．必要な資金を確保し、具体的な製品案を決定する。 ３．商品を委託製造する。 ４．広報活動を行う。 〈販売プロジェクト〉 １．価格設定 ２．販売ルートの確保 ３．販売管理 週 1 回行う活動に対応して、次回までに行わなければならない課題を決める。
関連科目	教養系・科学技術系科目
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	活動状況、取り組む姿勢および活動成果を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	摂大ブランド商品の販売を目指して、頑張りましょう。
担当者の研究室等	居場講師室（1 号館 9 階）、木村准教授室（1 号館 8 階）、船越准教授室（1 号館 9 階）
備考	新聞を読んで、大学のブランド商品に関連した情報を集めるなど、自主学習に努めましょう。

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	橋本　正治
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科･R 科･A 科･M 科･E 科･C 科:TLO2439a2,L 科:LLO2420a2,D 科･S 科:ILO2426a2,P 科:YLO2421a2,J 科:JLO2437a2,W 科:WLO2422a2,N 科：NLO2418a2		

教養科目

授業概要・目的	過疎地域におけるグリーンエネルギー活用プロジェクト これまで、過疎地域（和歌山県すさみ町）の住民・行政に提案し、グリーンエネルギーを利用した過疎地域自立活性化に利用出来る設備などを製作してきた。本年度はこれまでの活動で得た成果をもとに廃屋を改修し災害時にも対応できる休憩施設を設計、製作する。また、当地で夏に開催される柱松まつりにおいて、観望会を開催する。観望会ではこれまでのプロジェクトで製作してきた天体望遠鏡を用いる。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 １．チームで協働して作業することの問題点や有効性を理解できる。 ２．問題が生じたときの対処手順について理解し応用できる。 ３．ものつくりにかかわる作業設計・工程設計を実際に経験し、その有用性について理解できる。
授業方法と留意点	年数回すさみ町で作業します。(2 泊 3 日を 3-4 回、7 泊 8 日夏休み中に 1 回) それ以外は大学で装置や工程の設計を行い、可能であれば装置の試作や評価を行います。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	3 年計画の 3 年目のプロジェクトです。はじめに大きな目標からはずれないような目的を設定します。(受講生が提案して目的を定めることから始めます) 4 月　　テーマの情報教共有（昨年度までの成果の説明）と本年度の目的に沿った開発プロジェクトのテーマ設定。大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う。 大型装置・設備については現地で加工組み立てできるよう練習する。 5 月　　現地で加工、施工、組み立て開始　不具合の調査 6、7 月　　大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う 8 月　　現地で加工、施工、組み立て 9 月　　大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う 10-1 月　　大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う 2、3 月　　現地で加工、施工、組み立て 現地で加工、施工、組み立て 事前事後課題は、週 1 回行う活動に対応して次回までに実施しないといけないことをチームで決定し各自が役割を果たすことでプロジェクトをすすめていく
関連科目	テクニカルデザイン演習
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	通常(週 1 回の) 活動状況とすさみでの活動状況をみて十分に自らの能力を発揮しているかどうか、活動を終え自らの体験から成長点を理解できるかどうかを元に評価する。
学生へのメッセージ	「古民家再生」では建物のビフォーアフタを実体験し、イベント開催ではアイデアを実現する良い機会です。夢を実現できる実感が得られると思います。一緒に楽しみましょう。機械工学科の学生が多いのですが、これまで建築学科、住環境デザイン学科、環境環境工学科、外国語学部の参加メンバーもいました。浅野教授担当の PBL 授業「過疎地域活性化プロジェクト」と連携して活動しています。ものつくりを通じた地域活性とも言える活動です。
担当者の研究室等	８号館１階テクノセンター、１号館５階メカトロニクス研究室で活動します。
備考	週 1 階のミーティングの事前準備としての学習時間が週あたり 1 時間程度必要となります。

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田　秀士.小田　靖久.栗田　寿基.下元　一輝.釣本　聖司
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ○,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,DP5△,DP6△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP8△,J科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TLO2439a2,L科：LLO2420a2,D科・S科：ILO2426a2,P科：YLO2421a2,J科：JLO2437a2,W科：WLO2422a2,N科：NLO2418a2		

授業概要・目的	ミニ鉄道プロジェクトとして、レール間隔３．５インチ、５インチの鉄道模型を製作し、各種のイベントにおいて運転会などの企画・運営を行う。 蒸気機関車、電気機関車や客車の製作に加えて、軌道、鉄橋、駅舎なども製作し、イベント会場などで運転会・展示会を催す。 また、運転会・展示会では製作過程や駆動原理などの展示を行い、参加者のものづくりへの関心を高める。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、 「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、 「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 蒸気機関車や鉄道施設などの製作を通して、ものづくりの技術を能動的に習得する。 イベントにおける運転会の企画・準備・運営を通して、目標達成のために自律的に計画し遂行する能力を身につける。
授業方法と留意点	週１回のミーティングでプロジェクトの企画、運営、製作について、計画や進捗状況の報告を行う。 履修者が決定する時間割に従って、テクノセンターで部品を製作し技術を習得する。 この科目では、能動的に活動できる能力を培うことが大きな狙いである。 与えられた課題に対して全貌を把握した上で計画を作り、その計画を確実に実行する姿勢を学んでほしい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	本年度はレール間隔３．５インチ、５インチの蒸気機関車の製作を継続するとともに、運行イベントの企画・運営を行う。 １．プロジェクトの開始に先立って、社会人基礎力、目標管理、工程管理、プロジェクト管理について、メンバーで調査・討議する。 ２．教員の指導の下に目標と計画を作成する。 ３．計画に従って、技術指導を受けながら蒸気機関車、鉄道施設等を製作する。 ４．計画からの遅れには対策を講じる。 ５．製作時に利用する金属材料、工作機械、工作方法などについては図書館で調べ知識を確かなものとする。 ６．運行イベントの企画・運営を計画し、実施する。 ７．計画、進捗状況、調査結果等をミーティングで報告する。 なお，自主学習として自分の役割に応じ，マネジメント(参考書欄参照)，蒸気機関，機械工作手法，電気回路等々を継続して学ぶことが必要となる.
関連科目	教養系・科学技術系科目
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / マネジメント基本と原則 / P.F.ドラッカー（上田惇生編訳） / ダイヤモンド社 2 / もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら / 岩崎夏海 / ダイヤモンド社 3 / / /
評価方法（基準）	汎用的能力（40%）、主体性・柔軟性・課題発見解決（30%）、貢献度（30%）について、ミーティングでの報告、イベントや作業時の態度で評価する。
学生へのメッセージ	与えられた環境、条件のもとで、工夫して自律的に課題を達成できる能力は、社会人として必須の力です。この授業で「指示待ち」から「自ら行動する」姿勢を学んでください。
担当者の研究室等	１号館３階　石田准教授室 ８号館１階　テクノセンター
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田　裕子
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科･R 科･A 科･M 科･E 科･C 科:TLO2439a2,L 科:LLO2420a2,D 科･S 科:ILO2426a2,P 科:YLO2421a2,J 科:JLO2437a2,W 科:WLO2422a2,N 科：NLO2418a2		

授業概要・目的	概要：摂南大学が進める淀川水系の総合研究の実践的な担い手として、寝屋川市内での子どもたちへの環境学習支援および淀川水系での流域連携活動を実施する。流域内の様々な団体と連携し、河川での親水活動や交流会を通じて、流域住民、一般市民へ環境問題や流域の諸問題について普及・啓発する。 目的：池の里市民交流センターの活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組み力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ・何が問題であるかを認識し、それに対してチームで解決する素養を身に付けることができる。 ・多様な人の意見を聞いて理解し、自分の意見を述べることができる。 ・世界や日本で起こっている環境問題や流域の課題について、正しい知識を身に付けることができる。
授業方法と留意点	連携内容・方法：池の里市民交流センターでは、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。 留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト 内容： １．寝屋川市立池の里市民交流センターにおける環境学習支援 ２．巨椋池ビオトープを中心とした水辺再生学習の実施 ３．淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 ４．天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 ５．天然アユ復活プロジェクトの学習 ６．いい川・いい川づくりワークショップ等での発表 方法：授業のうち半分（月１回）は原則として平常授業期間内の土曜日１・２限に行い、主として学内のゼミ室において、石田が資料を用いて講義をし、池の里市民交流センターにおける自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9 月と 12 月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。 他の半分（月１回）は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。 学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト（６月）、近畿水環境交流会（７月）、いい川・いい川づくりワークショップ（9-11 月）を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。天若湖アートプロジェクト実行委員会より外部講師を招き、事前学習を行う。授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。 事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポートを作成し、年度末にプレゼンテーションを課す。
関連科目	自然・都市環境論、流域・沿岸域工学（以上、C 科） 科学技術教養 C1・C2
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	授業（イベントを含む）に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。(60%) 水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。(40%)
学生へのメッセージ	子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみなさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。
担当者の研究室等	１号館３階　石田准教授室
備考	自主学習時間として、総時間数 30 時間以上取り組むこと。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野　英一
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科･R 科･A 科･M 科･E 科･C 科:TLO2439a2,L 科:LLO2420a2,D 科･S 科:ILO2426a2,P 科:YLO2421a2,J 科:JLO2437a2,W 科:WLO2422a2,N 科：NLO2418a2		

授業概要・目的	「すさみ町における過疎地域活性化支援プロジェクト」において必要な要素は「ヒト・モノ・カネ」である。すさみ町には豊かな自然や歴史文化など、都市にはない多くの魅力（資源）を調べ、都市と田舎の「ヒト・モノ・カネ」がうまく循環する仕組みを作ることにより、お互いが共生する活動を実践活動教育の核とする。 地域活性化活動のテーマにしているものは「農業」、「ふるさと創生」、「観光」の 3 種類。 ①調査：地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。 ②企画：具体案を立て、評価（実現可能性、コスト、実施期間、有効性）を行い、詳細な実施計画を立てる。 ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。 ④実施：実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中に実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う ⑤結果報告：プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。
授業方法と留意点	プロジェクトの実施地は、和歌山県西牟婁郡すさみ町です。活動にかかる交通手段は、バスを大学でチャーターして移動します。宿泊は、摂南大学すさみ町活動拠点（廃校になった小学校の校舎）を使うため宿泊費用は発生しません。プロジェクト実施については、調査状況に基づき事前に学内で協議して現地活動を行います。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	すさみ町は人口が約 4700 人で、39 ある集落のうち 18 が限界集落の町で、その中の１つ、佐本・大都河地域は人口約 360 人、高齢化率 60%以上であり過疎と高齢化が深刻で、日常生活や地域コミュニティーの維持が困難になりつつある地域である。少子高齢化と過疎化は、物理的な過疎に加えて人々の心の過疎化（社会の進歩に対する過疎感や年代を超えた人と人の繋がりに対する過疎感など）を招き、それが地域活性化への意欲を喪失させるという負のスパイラルの形成を促進している。こういった背景の中、履修学生は「よそ者、若者、大学生」という立場で地域活性化のプロジェクトを実施している。 すさみ町の観光イベントである「イノブータン王国建国祭」「ビルフィシュトーナメント」「ケンケン鰹祭り」の運営協力、220 年続いた山村の伝統行事「佐本川柱祭り」の復活・伝承、ボランティア活動「なんでもやる隊」、限界集落に住む独居老人宅を訪問する「見守り隊」などを実施する。 大阪府寝屋川市からすさみ町まで､貸切の大型バスで片道 5 時間という距離である｡この距離が PDCA を行うために重要なキーポイントになる。漁業に例えると遠洋漁業のイメージで、港（大学）を出港（出発）して、遠洋（すさみ町）で漁業（活動）するためには、誰が、いつ、何を、どこで、どのような方法で行うかを綿密に計画し、実施するかなど多くの課題とそれを乗り越える手段など PDCA を現実に体験する。 事前に、すさみ町役場、NPO、地域の代表者などとメールや電話などで協議し、参加者の募集、実施に必要な資材の調達、イベントの内容、学生スタッフの人員配置など、会社の中で高度な仕事を実施する能力を身につける。 社会人基礎力の、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の 3 つの能力（12 の能力要素）から構成を自主学習として、調べておくこと。
関連科目	ボランティア論
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	参加態度 40%、企画力 20%、コミュニケーション能力 20%、発表能力 20%で評価する。
学生へのメッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要が求められる。
担当者の研究室等	7 号館 5 階　浅野研究室
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	久保　貞也.針尾　大嗣
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TLO2439a2,L 科：LLO2420a2,D 科・S 科：ILO2426a2,P 科：YLO2421a2,J 科：JLO2437a2,W 科：WLO2422a2,N 科：NLO2418a2		

授業概要・目的	地域を便利にするアプリ開発 学生が最新のデータベース技術とアプリケーション構築（携帯アプリ）の技能を身に付ける。そして、大学近隣の市町村に学生が市民への情報提供の課題を聞き取り、身に付けた情報技術を活かして自治体が公開しているオープンデータを利用したアプリケーションを開発し、その成果を検証する。
到達目標	・学生が最近の IT 動向を理解している ・学生が一般ユーザー向けの IT についてその仕組みを説明できる ・学生が初めて触れた技術を修得するための持続的な学習を行える ・学生自身が技術的な問題解決のために自学自習できる ・学生が地域の課題を知るためにインタビュー調査票を作成できる ・地域が抱える問題に対して情報技術の特性を活かした提案ができる
授業方法と留意点	データベースに関する勉強会（土曜日開催） ヒアリング調査 開発合宿 自治体でのプレゼンテーション
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ】 地域を便利にするアプリ開発 【内容】 自治体が保有するオープンデータを用いて、市民の利便性向上に貢献するアプリケーションを開発する。データベース技術を駆使することで開発期間を短縮しつつ、メンテナンス性が高いサービスの提供を目指す。 【方法】 ・データベースに関する勉強会（土曜日開催） ・ヒアリング調査 ・開発合宿 ・自治体でのプレゼンテーション などを一連の流れとし、支援協力をいただいた自治体ごとにプロジェクトチームを構成する。 【事前・事後学習課題】 プロジェクトのテーマを考慮して、以下の内容について自主的な調査、学習を行う。 ・自治体の情報サービスの現状調査（4 時間×2 回） ・IT 関連の情報収集（サービス、セキュリティ、生産性向上など）（1 時間×8 回） ・データベース設計の見直し（3 時間） ・作成したアプリの動作テスト（2 時間） 学習課題を遂行する上で必要と思った書籍やソフトウェアなどについては購入を検討する。
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学（消費者）、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	技術習得の成長度（グループとしての学び合いを高く評価する） 自発的な役割の選択 開発プロセス全体での関与の度合い
学生へのメッセージ	新しい技術は若い人が活用してこそ効果が発揮されます。少しハードルが高そうな課題ですが、社会の課題を最新技術で解決する経験に挑戦しましょう！
担当者の研究室等	11 号館 7 階　久保准教授室、針尾准教授室
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	牧野　幸志.久保　貞也
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科･R 科･A 科･M 科･E 科･C 科:TLO2439a2,L 科:LLO2420a2,D 科･S 科:ILO2426a2,P 科:YLO2421a2,J 科:JLO2437a2,W 科:WLO2422a2,N 科：NLO2418a2		

授業概要・目的	学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト　～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～ 地元の産業を活性化させる商品企画、イルミネーションイベント、子供向けのスポーツ教室の企画・運営、社会教育への貢献イベント、地域文化発信のための広報や展覧会などに主体的に参画し、地域の総合的な活性化を図るとともに、学生が実践的な場で大いに学ぶことを目的とする。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ・地域の課題を認識する ・課題を解決する方法を考える ・解決策を実行する ・自らが実行した成果を振り返り、次の行動を設定する 以上のプロセスを主体的に行えるようになることが本プロジェクトの到達目標である。
授業方法と留意点	学内でのレクチャー（学部講師を含む）、見学会や視察、海外を含む学外者とのオンラインミーティングなどを準備作業として行い、実際のイベント参加や商品企画、調査分析などの実習を行う。 プロジェクト内は複数のサブプロジェクトを配置する。ただし、改善や比較学習のために複数のプロジェクトの参加も認める。 参加する学生は「自ら課題を見つけて積極的に動く意識」を重視してすること。 自主学習時間を活動前(1 時間)と後(2 時間)に取ること。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ】 学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト　～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～ 【内容】 対象予定とするプロジェクトは、カレーに乗せてはいけない福神漬けの続編や販売展開（寝屋川市、京都市ほか）、ビジネスプランコンテスト、平和教育に関するイルミネーションイベント（枚方市）、大学共同のイルミネーションイベント（茨木市）、スポーツ教室運営（門真市）、地域の IT スキル測定と教育（摂津市）、歴史資産の展覧会企画（河南町）などである。 【方法】 ・メンバー間のディスカッション ・グループワーク ・オンラインミーティング ・博物館や自治体の見学会 ・実地調査 ・企画書や報告書の作成 ・学外でのプレゼンテーション など、サブプロジェクトの特徴に合わせて行う。 【事前学習課題】 地域社会の課題や文化・スポーツに関するニュースや新聞、雑誌、書籍などに目を通す。 事前学習の自主学習時間は、毎週 1 時間程度とする。その内容をまとめて提出すること。 【事後学習課題】 プロジェクトの中で見つけた自分の長所と短所への自学自習課題を設定すること。 事後学習の自主学習時間は、活動後 2 時間程度とする。活動での気づき、反省点などをまとめて提出すること。
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学（消費者）、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	準備やイベントの参加数、達成した内容、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価、自主学習の提出などから総合的に評価する。
学生へのメッセージ	地域を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。 自分の潜在能力を引き出しながら、地域の良さを引き出してください。
担当者の研究室等	11 号館 7 階　、牧野准教授室、久保准教授室、針尾准教授室
備考	活動内で課された課題に対しては，その後の活動の中で評価・解説を行い，フィードバックをする。 自主学習時間の評価も行います。

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	大塚　正人
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TLO2439a2,L 科：LLO2420a2,D 科・S 科：ILO2426a2,P 科：YLO2421a2,J 科：JLO2437a2,W 科：WLO2422a2,N 科：NLO2418a2		

授業概要・目的	本プロジェクトでは、連携先調剤薬局と協働し、PBL に参加した学生が、就職関連イベントを企画・運営・実施する事で、学生のコミュニケーション能力、ファシリテーション能力など、人間的な総合力を育成することを目的とする。就職関連イベントに行くのではなく、就職関連イベントを企画・運営・実施することは、難易度の高い教育プログラムである。その過程で、Active Book Dialog（ABD）の手法を用いてグループ学習を行い、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の 3 つの能力で構成される「社会人基礎力」が向上するように設計している。
到達目標	【到達目標】 現状の就職関連イベントの問題点・ニーズを踏まえた上で、調剤薬局における理想的な就職関連イベントを企画・運営・実施する。 【プロセス】 １．　理想的な就職関連イベントとは何かを定義できる。 ２．　現状の就職関連イベントの問題点・ニーズを列挙できる。 ３．　他の PBL プロジェクト参加学生と協働して、就職関連イベントの具体案を企画できる。 ４．　他の PBL プロジェクト参加学生と協働して、就職関連イベントの参加者アンケートやイベント広報を立案できる。 ５．　関係先調剤薬局の担当者とビジネスマナーをわきまえた上で円滑な人間関係を構築できる。 ６．　就職関連イベントの企画・運営・実施を通して、社会にどんな貢献が出来るか主体的に考えられる。
授業方法と留意点	大学での学びの主役は PBL の受講者である。教員は、PBL の受講者の学びを補助するファシリテーター役に徹するので、いわゆる座学的な講義は一切行わない。教員は、教科書や教材に書いてある知識の伝達は一切行わない（質問には答えます）。 具体的には、ABD 読書会方式の受講者の主体的な学び合いを行う。すなわち、各回のテーマに沿ってその内容を各自で学習し、B5 用紙 5 枚にまとめ、リレープレゼンテーションにて共有する。 ABD 読書会については、以下の URL を参照のこと。http://www.abd-abd.com/ 講義内容については、Moodle を用いて資料を配付する。また、本講義はアクティブラーニング的手法を積極的に取り入れ、学生が積極的に講義に参加できるよう工夫する。 また、大学外での学びについても、振り返りを重視した指導を行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	４月　　学内研修：まず、チームビルディングを行う。就職関連イベントの目的・方法・成果について具体例を調査・検証・評価する事により、理想的な就職関連イベントとは何かを定義する。また、企業ブランド・ミッションについて ABD の手法を用いてグループ学習する。 ５月　　学内研修：就職関連イベントの現状や課題点などについて具体例を調査・検証・評価する事により、現状の就職関連イベントの問題点と改善点とは何かを定義する。また、システム思考について ABD の手法を用いてグループ学習する。 ６月　　学内研修：理想的な就職関連イベントと現状の就職関連イベントの問題点を比較することで、就職関連イベントの企画のポイントを見いだす。また、組織開発について ABD の手法を用いてグループ学習する。 ７月　　学内研修：就職関連イベントの具体案を企画する。参加者アンケート、広報ポスター等についても検討する。役割分担を決めた上で、協働する。 ８月　　学内研修：就職関連イベントの具体案を企画する。参加者アンケート、広報ポスター等についても検討する。 学外研修：阪神調剤ホールディング株式会社を訪問し、就職関連イベント開催に向けて具体的に協議する。役割分担を決めた上で、協働する。 ９月　　学内研修：中間報告の準備。パワーポイント作成法、プレゼンテーション法について、ABD の手法を用いてグループ学習する。 １０月　学内研修：企画した就職関連イベントを実際に学内で実施してみる。必要であれば企画の練り直しを図るファシリテーション力、タイムマネジメント力の育成を図る。また、ファシリテーション法について ABD の手法を用いてグループ学習する。 １１月　学外研修：阪神調剤ホールディング株式会社にて就職関連イベントを実際に行う。役割分担を決めた上で、協働する。 学内研修：ふりかえりワークショップを行う。 １２月　学内研修：最終報告の準備。パワーポイント作成法、プレゼンテーション法について、ABD の手法を用いてグループ学習する。 １月　　学内研修：ふりかえりワークショップを行う。成果報告書の作成。 ２月　　学内研修：成果報告書の作成。 事前、事後学習課題 について 事前、事後学習課題についてはその都度指定しますが、時間的には 1 単位あたり週 2 時間の事前、事後学習課題の実施を設定致します。
関連科目	教養系、キャリア系科目
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 人を伸ばす力 ： 内発と自律のすすめ / エドワード・L・デシ, リチャード・フラスト / 新曜社 2 / フロー体験　喜びの現象学 / M. チクセントミハイ［著］；今村浩明訳 / 世界思想社 3 / モチベーション 3.0 ： 持続する「やる気!(ドライブ!)」をいかに引き出すか / ダニエル・ピンク著 ； 大前研一訳 / 講談社
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / グロービス MBA で教えているプレゼンの技術 ： 人を動かす勝利の方程式 / グロービス / ダイヤモンド社 2 / 教え上手になる！： 教えと学びのワークブック / 関根雅泰 / クロスメディア・パブリッシング 3 / 東大生が書いた議論する力を鍛えるディスカッションノート　「2 ステージ､6 ポジション」でつかむ「話し合い」の新発想! / 吉田雅裕 / 東洋経済新報社
評価方法（基準）	ＰＢＬ活動への参加意欲および貢献度（70%）、学内・学外発表会等への貢献度（30%） 準備やイベントの参加数、達成した内容、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価から総合的に評価する。
学生へのメッセージ	医療の現場を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。 自分の潜在能力を開花させながら、ファシリテーション能力をうまく使ってチームビルディングによる力を引き出して下さい。
担当者の研究室等	摂南大学枚方キャンパス　薬学部薬学科　生命融合化学分野（１号館５階）
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井　信輝.水野　武
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ○,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,DP5△,DP6△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP8△,J科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V科･R科･A科･M科･E科･C科:TLO2439a2,L科:LLO2420a2,D科･S科:ILO2426a2,P科:YLO2421a2,J科:JLO2437a2,W科:WLO2422a2,N科：NLO2418a2		

授業概要・目的	マーケティング手法を学び、本学ラグビー部が所属する関西大学ラグビーリーグの PR、リーグ運営サポート、及び本学内におけるラグビー部の広報活動を行い、大学ラグビーに興味をもってもらうための展開案を構築する。それにより大学ラグビーの新たなファン層拡大の可能性を探る。将来的には 2019 年ラグビーW杯に向けてのインバウンドへと繋げる。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。
授業方法と留意点	年間のスケジュールに応じて多様な授業の形態（座学、現地調査）を採用します。また、年度を通じて定期ミーティングを行い、協力団体の方々と調整しながら活動しますので、発想を柔軟にして何事にも取り組むことが留意点となります。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	以下の手続きで授業を展開する １．プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有 ２．マーケティング手法の学習（座学による） ３．連携先との面談 ４．連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出 ５．学内外におけるラグビーリーグに関するアンケート調査 ６．広報誌制作準備（広報誌は秋季リーグに週刊または隔週で発行） ７．学内外におけるリーグ戦観戦促進活動、リーグ戦運営補助、PBL 中間報告会、広報誌の発行、来場者へのアンケートの実施 ８．まとめと最終報告会
関連科目	チームビルディング

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	活動報告、活動現場での取り組をもとに評価する。
学生へのメッセージ	積極的に活動してください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　石井研究室 ７号館３階　水野研究室
備考	スケジュールに沿って１時間程度を目安として、プロジェクト遂行のための自主学習の時間（事前・事後）をとってください。

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田井　義人
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TLO2439a2,L 科：LLO2420a2,D 科・S 科：ILO2426a2,P 科：YLO2421a2,J 科：JLO2437a2,W 科：WLO2422a2,N 科：NLO2418a2		

教養科目

授業概要・目的

Ⅰ　授業概要
・吹田市栄通商店街における地域活性化事業への支援による商店街ブランド作成プロジェクトへの参画（企画・活動・推進・振り返り活動への参画）を行う。
・当該活動地域は、顧客獲得において対立構造にある商店街、大規模店、コンビニエンスストアが協働している希有な事例であり、TV 等でも紹介された。
・2018 年度よりプロジェクト事業拡大によりブランド化を模索・推進している地域である。

Ⅱ　目的
・シャッター街に代表される商店街の課題を成功例に学生が参画（前述のとおり）することと事前学習によって自ら設定した課題認識との比較により地域活性化の方法論を学ぶ。

到達目標

Ⅰ　到達目標（共通）
　本プロジェクトでは、参加メンバー・学外連絡先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。

Ⅱ　到達目標（本プロジェクト）：Ⅰの目標を達成するため、以下のいくつかの修得を行うこと。
（１）課題と課題対応した事例を現場体験することで解決プロセスを列挙できること。
（２）課題解決のための課題認識と対応策を具体的に提案できること。
（３）異なる世代間の交流により情報収集のスキルを修得すること。
（４）成功事例を発展させることで他の事例へのＰＤＣＡスキルを醸成できること。
（５）行政依存から脱却し地域の市民主体の取り組みの有効性と効果を体験することで自立した政策提案することができること。
（６）地域住民や商店街関係者との地域活性に尽力する「本気の大人」に出会うことによるコミュニケーション力や「気づき」力を醸成すること。
（７）企画・運営・振り返り資料作成による PPT のスキル、プレゼンテーションスキルを醸成すること。
（８）企画から振り返りまでの一貫した事業展開への参画による PDCA 活用スキルを修得すること。
（９）地域活性化に必要な知識と活用による各種ステークホルダ間の調整スキルを修得すること。
（１０）世代間コミュニケーションスキルを修得すること。

授業方法と留意点

Ⅰ　授業方法
・少子高齢化の進展と中心市街地での後継者不足とともに大規模店やコンビニエンスストアの出店によって商店街が衰退している。シャッターが閉められ人通りがほとんど無くなっている商店街も地域には多く存在する。
・本プロジェクトは、このような社会状勢のなか、プロジェクトを企画・運営する地域交流拠点（コンビニ２階）を中心に市民が商店街や大規模店及びコンビニエンスストアとも協働する様々なブランド形成事業に若者である本学学生の視点を取り入れることにより連携先課題であるシャッター商店街防止策を企画・活動・推進・振り返りを行う。
・上記目的の達成のため、大学における事前・事後学習と演習及び地元での課外学習（参画による）によって到達目標へ指導する。
・事前学習において、課題設定のブレインストーミングを行い出来ればグループ分けを行う。

Ⅱ　留意点
・上記学習、演習に必ず参加すること。特に他の授業やクラブなどの課外活動との時間調整であるタイムマネジメントに留意すること。

授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題

Ⅰ　授業テーマ：商店街を中心にした地域ブランドの創生
・事前・事後学習及び講述の課外活動に参画してテーマを達成する事業案の参画

Ⅱ　内容、方法、事前・事後学習課題
（１）事前・事後学習
・シラバスに記載した教科書、参考書を元に事前学習を行う。学習課題の設定の参考とする。
・下記課外活動後、事前学習に使用した教科書を元に課外活動等との比較を行う事後学習を行う。
・上記を通じて得た「気づき」を発表する。（中間報告会、最終報告会）

（２）参画する課外活動例
・４月頃：WEB 稼働及び勉強会。吹田祭企画会議実施。（JR 吹田で一番楽しい場として浸透。近隣店舗の参加推進。会員飲食店の営業推進。）

・５月～６月：今後の企画運営検討（エンタメ教室：地域の子育て世帯の参加者推進。商店街ブランド案の検討：栄通りの特色を検討、商店会は場提供。）
今後の企画運営検討（落研寄席：近隣住民の参画推進。近隣大学等との連携推進：地域モデルの模索、新しい形での連携で「イケテル商店街」構築へ

・７月頃：吹田祭推進、応援

・８月以降：エンタメ教室に参加。お茶とお花の教室（親子教室）に参加。落研寄席準備に参加。落研寄席-吹田お笑いグランプリに参加。（予選エントリー本戦 16 組くらいで決戦、審査員は素人で公平に。継続により商店会のブランドのひとつとなることを目指す。）
・随時：周辺空き家の活用（古民家を活かしたノスタルジック喫茶店?スタバ）による商店街連携検討。

・９月頃：エンタメ教室実施。（ミニ四駆をテーマに世代間参加を推進。親子で四駆レースを体験。翌年度吹田祭での大会レースを企画。）

・１０月頃：高浜神社　戎祭支援（チラシ配布、各店お店情報掲載、神社から店への誘導）に参加

・１２月～３月頃：今年度事業の振り返りと予算策定に参加。翌年度の向けての WEB 委員会年度計画策定二酸化。エンタメ教室、落研寄席予算申請・企画開始に参加。

このスケジュール内に中間報告会、最終報告会がある。

関連科目

地域の持続的発展　地方自治論　地域実践演習　地域貢献実践演習

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	凡人のための地域再生入門	木下斉	ダイアモンド社

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><td>2</td><td>商店街再生の罠　売りたいモノから顧客がしたいコトへ</td><td>久繁哲之介</td><td>ちくま書房</td></tr>
<tr><td>3</td><td>商店街はなぜ滅びるのか　社会・政治・経済史から探る再生の道</td><td>新雅史</td><td>光文社新書</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>イギリスに学ぶ商店街再生計画</td><td>足立基浩</td><td>ミネルヴァ書房</td></tr>
<tr><td>2</td><td>その島のひとたちは、ひとの話を聞かない–精神科医「自殺希少地域」を行く–</td><td>森川すいめい</td><td>青土社</td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>事前事後学習への参加を必修とする。地域での活動内容の発表やプレゼンテーションを通じて評価を行う。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>・教科書 1「凡人のための地域再生入門」の黄色部分は必読です。
・商店会のメンバは、商店街の発展を通じて地域活性化に努力している「本気の大人」である。彼らとのコミュニケーションを通じて学生個人のコミュニケーションスキルの醸成と課題設定、解決のプロセスを学ぶ。
・積極的な活動と活動の糧となる読書を推奨する。
・当該商店街だけでなく学生が居住する地域の商店街の課題や地域活性化の課題を発見し対策を模索するプロセスを重視する。
・何よりも商店会が主催する企画会議への出席（参画）が基本である。その他の事業参加も推奨する。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>１号館７階　経済学部　田井義人研究室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>・事前･事後学習として教科書や参考書の輪読や講評を推奨する。
・課外活動に参画することを重視する。
・やみくもに参画するのではなく、情報や知識習得のため教科書、参考書などの熟読を進める。</td></tr>
</table>

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田　佐治子.水野　武
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科･R 科･A 科･M 科･E 科･C 科:TLO2439a2,L 科:LLO2420a2,D 科･S 科:ILO2426a2,P 科:YLO2421a2,J 科:JLO2437a2,W 科:WLO2422a2,N 科：NLO2418a2		

教養科目

授業概要・目的	【テーマ】 社会人サッカークラブ「FC TIAMO 枚方」の活動支援プロジェクト 【概　要】 枚方市に所在する社会人サッカークラブ「FC　TIAMO 枚方」の活動を支援するための企画を立案・実施する。ホームゲームにおける観戦者向けにアンケートを実施し、来場者は何に価値を求めてるのを明らかにした上で広報戦略を立案する。また枚方市内における認知率を測定し、認知度向上に向けた施策を行う。 また、２月には摂南大学×FC ティアの枚方主催で子ども向けスポーツフェスタを計画している。 【目的】 ・ホームゲーム来場者が感じる経験価値を測定し、クラブの広報活動に関する提案を行う ・クラブの広報ポスターを作成し、枚方市内の飲食店等で掲示 ・近隣市内におけるクラブの認知度向上とホームゲーム観戦者数の増加
到達目標	・学外の方々向けに通用するビジネスマナーを修得する ・アンケートの集計を通じ、回答者の傾向を読み取ることができる ・連携先に企画提案ができる ・広報活動（飛び込み営業）を通じ、基本的な営業スキルを感得する ・メンバー間とのディスカッションを通じ、他者を理解・共感することができる ・締切意識を持ち、「何を、いつまでに、誰が、どうやって」を意識するようになる ・メンバー間の連絡・返信コメントを行えるようになる ・プレゼンテーションの準備を通し、PPT の作成スキルが向上する
授業方法と留意点	「FC　TIAMO 枚方」と連携しつつ，学生が中心となって活動するプロジェクトです。 全員が「自分がやらなければ」という意識を持って取り組んでください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【内容】 ホームゲーム来場者が感じる経験価値を測定し，クラブの広報活動に関する提案を行う。そのことにより，近隣市内におけるクラブの認知度向上とホームゲーム観戦者数の増加を目指す。 【方法】 ・ホームゲームでのアンケート調査の実施と考察 ・連携先へのヒアリングを通じて課題を抽出 ・クラブのプロモーション案の展開を作成・評価・検証（連携先の許可により実施） ・近隣市におけるクラブの認知率測定と認知度の向上のための施策を提案 【年間計画（予定)】 ４月　マーケティング基礎講座の実施 連携先との顔合わせ ５月　ホームゲーム観戦体験 ホームゲーム来場者向けのアンケートの実施 ６月　アンケートの集計と結果を踏まえたイベントの企画立案 ７月　枚方市・寝屋川市内における認知度調査（プレ調査）の実施 域内商店街での広報活動の実施 ８月　ホームゲームでのイベントの実施 ９月　枚方市・寝屋川市における認知度調査（ポスト調査）の実施 10 月　ホームゲーム運営補助 中間報告会 12 月　最終報告会とその準備 ２月　Sports Festival
関連科目	全ての科目
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	全体で行う活動やミーティングへの貢献，自分の役割の遂行，報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表，連携先からの評価を総合的に判断し評価する。
学生へのメッセージ	プロジェクトの成否は，みなさま一人ひとりにかかっています。それぞれが主体的に取り組み，「FC TIAMO 枚方」を盛り立てていきましょう。
担当者の研究室等	吉田佐治子（７号館３階） 水野武（７号館３階）
備考	学外での活動に際し，事前の準備・事後のまとめ等にかなりの時間を要します。活動によっても異なりますが，一つの活動に対して，それぞれ 5?10 時間は必要です。

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	上野山　裕士
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TLO2439a2,L 科：LLO2420a2,D 科・S 科：ILO2426a2,P 科：YLO2421a2,J 科：JLO2437a2,W 科：WLO2422a2,N 科：NLO2418a2		

授業概要・ 目的	テーマ： 中山間地域における生活支援体制の構築プロジェクト 概　要： 和歌山県海草郡紀美野町をフィールドに、中山間地域におけるひとり暮らし高齢者の生活をどのように見守り、支えるかについて、地域のキーパーソンに対するヒアリング調査や社会資源調査と地域での生活体験、その他の作業等を通じて考え、生活支援体制の構築に向けての具体的な活動に取り組んでいきます。
到達目標	①中山間地域に暮らす人びとの生活を知り、地域生活やその課題の多様性について説明することができる ②ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法を検討することで、地域福祉の必要性や相互理解の重要性について考えを述べることができる ③中山間地域における生活支援体制の構築にかかわる主体について説明することができる ④「地域の見守り、支え合い」の担い手としての自覚と責任を身につける
授業方法と 留意点	文献、資料等を用いた学内研修と和歌山県海草郡紀美野町における現地調査を実施します。 具体的には、学内研修（地域について学ぶ）→現地調査（地域について知る）→学内研修（地域について考える）→現地調査（地域のために活動する）→学内研修（活動を振り返り、評価する）というプロセスを通じ、受講生にとっても地域にとっても意義のある活動となることを目指します。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	講義では以下の内容に取り組みます（進捗状況によって変更となる場合があります)。 ・学内研修：紀美野町の人口・産業・伝統・観光・その他の特性について、地域福祉の考え方について、日常生活支援体制の構築方法について、中間報告会および最終報告会に向けた準備について、等（週一回程度；各回の実施に当たってはテーマに応じた自主学習（1 時間程度）が求められます） ・地域での活動：地域視察、地域住民との交流、日常生活支援体制構築に向けた実践、等（月一回程度；学外研修後には活動成果の整理および実施意義の分析にかかる自主学習（2 時間程度）が求められます） ・中間報告会、最終報告会：他のプロジェクトと合同で実施（各一回）
関連科目	なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学内研修および地域での活動への主体的な参加および中間／最終報告会に対する貢献度により評価します。
学生への メッセージ	ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法について考えることは、すべての地域、たとえば、みなさんが生まれ育った地域にとっても非常に有意義な取り組みです。 都会から離れた場所での生活を実際に体験し、くらしを支えるとはどのようなことか、一緒に考えてみませんか？
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	藤原　京佳.梅野　将之
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ○,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,DP5△,DP6△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP8△,J科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V科･R科･A科･M科･E科･C科:TLO2439a2,L科:LLO2420a2,D科･S科:ILO2426a2,P科:YLO2421a2,J科:JLO2437a2,W科:WLO2422a2,N科：NLO2418a2		

授業概要・目的	「異文化理解・交流を通した地域貢献プロジェクト」 留学生を含む参加学生が異文化理解・交流にかかわる活動（オリジナルかるた、ゲーム、文化紹介教材、演劇等）を企画し、寝屋川市国際交流協会や近隣学校等において実施していく。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性をもって前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の想像を目指す。 自らの言語・文化資源を活用すると同時に、異なる文化背景をもつ他者と協働し、活動を企画・実行できる。 学外の活動を通して地域への理解を深め、地域における異文化理解・交流を促すことができる。 プロジェクトにおける自身の貢献および不足点を分析し、省察することができる。
授業方法と留意点	さまざま文化背景、価値観をもつ人々と対話・交渉しながら活動を進めていくことになります。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【内容】 ・週１回のミーティングで活動に関する企画を立案し、進捗等を確認する。 ・寝屋川市国際交流協会および近隣学校と連絡をとり、活動内容や日程を決める。 ・必要に応じて本学国際交流センターにおける活動を企画・実施する。 ・活動内容を報告会等で発表する。 【方法】 ・異文化理解・交流をテーマにした教材、ゲーム等を作成する。 ・作成物を使った活動を地域や国際交流センターで実施する。 【事後学習】 受講生には活動日誌を配布する。ミーティングおよび各活動後に話し合いや活動の内容、感想、反省点を記録すること。 プロジェクト終了時に最終レポートを提出してもらう。レポートはプロジェクトを通して学んだこと、自身が貢献できた点、不足していた点を振り返るものとする。
関連科目	人文社会系科目全般、外国語科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	ミーティング、報告会、各活動への貢献度 60%、活動日誌およびプロジェクト最終レポート 40%
学生へのメッセージ	他者を知り、地域を知るは自分自身を知ることにもつながると思います。 普段自明視している常識、先入観、前提に気づくことから始めてみてください。
担当者の研究室等	
備考	自主学習時間の目安は毎週 1 時間。

科目名	ソーシャル・イノベーション実務総論	科目名（英文）	Social Innovation Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井　三恵
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TLO1437a2,L 科：LLO1418a2,D 科・S 科：ILO1424a2,P 科：YLO1419a2,J 科：JLO1435a2,W 科：WLO1420a2,N 科：NLO1416a2		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、 １）ICT 部門が急速な発展を遂げているビジネス社会にあって、ビジネスパーソン自身のあり方も大きく変わってきていることを理解する。 ２）ライフスタイルの変化は、単にキャリアパスを視野に入れるのではなく、個として生きる視点を組み込む必要性を意識せざるを得ないことを理解する。 ３）グローバル社会において必要とされるビジネス実務ななならびにビジネス実務能力とは何かを学ぶ。 ４）変化するビジネス環境の現状と課題について考察し、社会に貢献し、革新を起こすクリエイティビティを発揮する自らの職業観を確立する。ようになることが期待される。 なお、講義は担当講師の民間企業社員、自治体職員として業務経験及び、NPO 法人の理事、高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。
到達目標	１）ビジネスに必要なビジネス実務能力を理解し、計画的に身に付ける必要性を学ぶ。 ２）社会に貢献するためのビジネスという概念から、「異世代・異文化（多様性）を主体的に理解する力」、「地域社会の課題を主体的に発見する力」、「主体的に課題を解決し、新しい価値を生み出す力」（３つの力）を理解できる。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。 また、毎回の座学の後、グループワークを通して課題を議論し、もしくは事前に与えた課題に関してのプレゼンテーションを行う。
科目学習の効果（資格）	「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・ソーシャル・イノベーション実務総論の概要を説明する。 ・グループワークならびにプレゼンテーションに関して説明する。 ・自己紹介後、グループ形成をする。	・事前学修：自己紹介の原案を考えること（２時間） ・事後学修：プレゼンテーション資料を熟読すること（２時間）
2	ビジネスの定義	・ビジネスとは何かを考察する。 ・イノベーションが繰り返し唱えられる理由について考察する。	・事前学修：テキストの指定個所を熟読し、ノートにまとめること（２時間） ・事後学修：企業の事例を調べること（２時間）
3	組織の種類　－営利組織と非営利組織－	・阪神淡路大震災後、急速に進化した NPO 組織について考える。 ・営利組織と非営利組織について、ディベートを行う。	・事前学修：NPO について調べること（２時間） ・事後学修として、営利・非営利組織の対照表を作成すること（２時間）
4	ビジネス環境をとらえる①－経済のグローバル化と高度情報化－	・グローバル化の明暗について考察する。	・事前学修：グローバル化とは何か、新聞記事等の情報を集めること（２時間） ・事後学修：日本のグローバル化に関する小レポートを作成すること（２時間）
5	ビジネス環境をとらえる②－地球環境問題と少子高齢社会－	・地球環境問題とジェンダーエンパワーメント指数について考察する。	・事前学修：ジェンダーエンパワーメント指数を調べ、そこから考えたことをまとめること（２時間） ・事後学修：地球市民として考えたことをまとめること（２時間）
6	ビジネス現場をとらえる－オフィスからワークプレイスへ－	・「四角いオフィスから無限大の空間」というテーマで自由に考える。	・事前学修：将来の働き方をイメージし、まとめること（２時間） ・事後学修：グループで話し合ったことを主に、個人の意見をまとめたレポートを作成すること（２時間）
7	ビジネス実務能力	・企業等のビジネス組織で必要とされている「ビジネス実務能力」とは何かを理解する。	・事前学修：働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身に付けるかをまとめること（２時間） ・事後学修：自分に必要な「ビジネス実務能力」をまとめること（２時間）
8	ビジネス実務の基本①　－仕事の進め方－	・優先順位の付け方等、具体的な進め方や対応の科学的対処法を学ぶ。	・事前学修：問題プリント①を解くこと（２時間） ・事後学修：問題プリント②を解くこと（２時間）
9	ビジネス実務の基本②－ビジネスと諸活動－	・自己を取り巻く環境の中で、企業等のビジネス組織が展開している諸活動を理解する。	・事前学修：CSR について調べ、まとめること（２時間） ・事後学修：一企業の CSR を選び、レポートを作成すること（２時間）
10	ビジネス実務の基本③－ビジネスと経営資源－	・経営資源としての人的資源を中心に学ぶ。	・事前学修：男女共同参画社会に関して調べ、まとめてくること（２時間） ・事後学修：、ワークライフバランスに関してレポートを作成すること（２時間）
11	ビジネス実務の基本④－ビジネスと PDCA サイクル／マーケティング活動とコストパフォーマンス（経理財務）－	・PDCA サイクルを理解する。 ・マーケティングとコストの関係について理解する。	・事前学修：業界内の２社 CM を比較し、その特徴をまとめること（２時間） ・事後学修：CM の必要性の有無に関してレポートを作成すること（２時間）
12	自己実現とキャリアプランニング　－セルフマネジメントと自己啓発－	・自己啓発の必要性を理解し、ライフデザインの中のキャリアデザインを考える。 ・社会の中における自己を位置づける。	・事前学修：自己振り返りシートを作成すること（２時間） ・事後学修：再度自己振り返りシートを作成し、職業を通した自己意識をまとめること（２時間）
13	ビジネスプラン①－起業への意識－	・日常生活での不便な点、改善すべき点を挙げ、提案をするためのグループワークを行う。	・事前学修：各自がテーマを見つけること（２時間） ・事後学修：グループ活動においてビジネスプラン作成とプレゼンテーション準備を行うこと（２時

			・CM 比較をイノベーションの観点から行う（とくに CSR に関するもの)。	間)
	14	ビジネスプラン②	・CM 比較プレゼンテーションを準備する。 ・実際に企画を考える。	・事前学修：グループのビジネスプランを発展させること（２時間) ・事後学修：グループ活動においてビジネスプラン作成とプレゼンテーション準備を行うこと（２時間)
	15	ビジネスプラン・プレゼンテーション	・作成したビジネスプランに基づいて発表する。	・事前学修:プレゼンテーション準備を行うこと(２時間) ・事後学修：最終レポートを作成すること（２時間)

関連科目	「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の科目。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ビジネス実務総論	全国大学実務教育協会	紀伊国屋書店
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	20 歳のときに知っておきたかったこと	ティナ・シーリグ	阪急コミュニケーションズ
2	イノベーションと企業家精神	P.F.ドラッカー	ダイヤモンド社
3	「デザイン思考」を超えるデザイン思考	DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部	ダイヤモンド社

評価方法 （基準)	・グループワーク（30%)、プレゼンテーション（30%)、レポート（40%）を総合的に評価する。 ・毎回、座学ののち、グループワークとプレゼンが繰り返される予定であるので、準備を怠ることがないように注意する。
学生への メッセージ	私たちが生きている社会を「ビジネス」という視点で見つめなおしたとき、異なったものが見えてきます。私たちの生活を豊かにしてくれる企業等のビジネス組織へただ何となく参加するのではなく、その実態を理解し、自ら参画することを選びませんか。さまざまな組織ではさまざまな働き方がありますが、基本はビジネス実務能力が求められています。それを理解したうえで、従来の社会の上に新しい視点を作り上げていきましょう。
担当者の 研究室等	７号館５階　教育イノベーションセンター（石井)
備考	予習・復習に毎回２時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。

科目名	大学教養応用	科目名（英文）	Applied Learning of Liberal Arts
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大塚　正人.伊藤　譲.越　希美江.原　由紀子.柳沢　学
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：IT01428a2～IT01432a2,L 科：LT01422a2～LT01426a2,D 科・S 科：IT01428a2～IT01432a2,P 科：YT01423a2～YT01427a2,J 科：,W 科：WT01424a2～WT01428a2,N 科：NT01420a2～NT01424a2		

授業概要・目的

この科目は，プロジェクトベースドラーニング形式で学ぶ，学部の枠を越えた教養応用科目です．初年次の大学教養入門と大学教養実践のステップアップの講座としての位置づけです．
本科目の目的は，自分の未来のためには「学び」を実践していくことが大切であることを知ることにあります．そして，今後の大学での学びにおいても社会との接点を考えながら学ぶ姿勢を持ってもらうため，大学生として必要な，SDGs(2030 年までの世界の目標)などを中心とした教養（社会、経済、環境等）を身に付けます．また，身につけた知識をもとに考え、未来に向けての実践行動に活かすため、シナリオプランニングを活用します．
なお，授業担当者伊藤は建設系公団での対外折衝から人材育成まで幅広い実務経験から，社会人としての心がけ，コミュニケーション力の大切さを学生に伝えることができる．柳沢は大手建築会社における研究開発と設計業務の実務経験から，チームワーク力を学生に伝えることができる．原由紀子，越希美江は自治体や医療機関等でのファシリテーション講師の実務経験が豊富であり，多様な学生が入り混じった授業の運営を得意とする．

到達目標

(1)社会課題を考えるための教養として，SDGs(2030 年までの世界の目標)について知り，討議することができる．
(2)読書により教養を身につけ，さらに自分が知りたいと思うことについて「テーマ設定」をすることができる．

(3)シナリオプランニングを通して，情報収集の方法を知り，実践できる．論理的思考を知り，実践できる．

(4)論理的でわかりやすく、効果的なプレゼンテーションをすることができる．
(5)ファシリテーション力を身につけ、合意形成を促進するなどチームへの貢献ができる．

(6)チームの中でリーダーシップを発揮し，成果が上がる協働作業に貢献ができる．

授業方法と留意点

授業では教養を学ぶ過程で，自ら主体的に，仲間と対話を通して理解を深め，表現するための技術等を修得します．学修法として ABD（アクティブ・ブック・ダイアログ），テーマ設定のための QFT，未来を検討するためのシナリオプランニング等の協働学習による学びを体験します．この科目では，教員が知識を伝えるのではなく，チームの一員として協働学習に取り組むことにより，人間関係のつくり方，チームワークの仕方，リーダーシップ，ものごとに対する柔軟な対応力を身につけます．諸君が積極的に参加することが大切となります．

科目学習の効果（資格）

社会課題を議論するための教養として SDGs（2030 年までの世界の目標）を知る．自分たちが未来を創る主体であると感じられるようになる．多様なメンバーと意見を交わしながらシナリオを作成することで，違いを活かし合い新しいものを共創する力を育むことができる．

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	アイスブレイク 事前アンケート 科目の特徴、どのような力が身につくのかを知る シナリオプランニング体験 振り返りシート	SDGs を調べる（3 時間以上）
2	世界を知る教養：　2030SDGs を体感する	2030SDGs カードゲームを実施する．入門編でも行っているが，そのときとの違いを知る。 振り返り、振り返りシート	SDG s 前文を読み、サマリーの下書きをする（3 時間以上）
3	世界を知る教養：　SDGs 前文	解説，理解度確認クイズ 協働学習，プレゼン，対話 テーマ設定 振り返り、振り返りシート	設定したテーマをリサーチ、それに関連するアカデミックインパクトもリサーチ ワークシート作成（3 時間以上）
4	世界を知る教養：　SDGs 前文＋アカデミックインパクト	解説，理解度確認クイズ リサーチの共有 「2030 年未来タイムズ」を作成 プレゼンテーションを実施. 振り返り、振り返りシート	教科書の P32-97 を読み、担当のパート部分のサマリーの下書きをする（3 時間以上）
5	世界を知る教養：　SDGs（アジェンダ 1-10）	解説，理解度確認クイズ 協働学習，プレゼン，対話 テーマ設定 振り返り、振り返りシート	設定したテーマをリサーチ、それに関連するアカデミックインパクトもリサーチ ワークシート作成（3 時間以上）
6	世界を知る教養：　SDG s（アジェンダ 1-10）+アカデミックインパクト	解説，理解度確認クイズ リサーチの共有 「2030 年未来タイムズ」を作成 プレゼンテーションを実施. 振り返り、振り返りシート	教科書の p98-159 を読み、担当のパート部分のサマリーの下書きをする（3 時間以上）
7	世界を知る教養：　SDGs（アジェンダ 11-17）	解説，理解度確認クイズ 協働学習，プレゼン，対話 テーマ設定 振り返り、振り返りシート	設定したテーマをリサーチ、それに関連するアカデミックインパクトもリサーチ ワークシート作成（3 時間以上）
8	世界を知る教養：　SDG s（アジェンダ 11-17）+アカデミックインパクト	解説，理解度確認クイズ リサーチの共有 「2030 年未来タイムズ」を作成 プレゼンテーションを実施. シナリオプランニングとは講義	振り返りレポート 外部環境リサーチ（3 時間以上）
9	未来を考える教養：　ほぼ確実な未来を考える	解説、 課題の共有，提出 協働学習 振り返り、振り返りシート	外部環境リサーチシート作成（3 時間以上）
10	未来を考える教養：　不確実な未来を考える①	課題の共有，提出 協働学習 10 年後の未来シナリオづくり	外部環境リサーチシート作成（3 時間以上）

			振り返り、振り返りシート	
	11	未来を考える教養: 不確実な未来を考える②	課題の共有，提出 協働学習 10 年後の未来シナリオ完成 振り返り、振り返りシート	グループでシナリオ完成（3 時間以上）
	12	未来を考える教養: 不確実な未来を考える③	課題の共有，提出 協働学習、プレゼンテーション講義 10 年後の機会、脅威、対応策検討 振り返り、振り返りシート	ポスター作成，プレゼンテーション準備（3 時間以上）
	13	未来を考える教養: プレゼンテーション	プレゼンテーション実施，質疑応答 プレゼンテーション相互評価 振り返り、振り返りシート	自己の行動計画案作成（3 時間以上）
	14	未来を考える教養:未来に向けての行動計画作成	課題の共有，協働学習，対話 ワールドカフェ実施、行動計画完成 振り返り、振り返りシート	振り返りレポート 2 回目（3 時間以上）
	15	全体振り返り	全体を通しての学びの整理、共有，振り返り	振り返りレポート 2 回目（3 時間以上）

関連科目: 摂南大学で開講されている科目のすべて?

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	SDGs アジェンダ前文		国連
2	未来を変える目標 SDGs アイデアブック	蟹江憲史	紀伊國屋書店　1,800 円(税別)
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

・取り組み姿勢（チーム：20%）
・新聞作り／発表（チーム：20%）
・振り返りレポート　2 回（個人：20%）　　・振り返りシート（個人：10%）
・理解度確認クイズ（個人：　10%）
・外部環境リサーチ　3 回（20%）
以上の評価点の合計で 60%以上を合格とする．期末試験は実施しない．
なお，成績評価の対象は原則として出席率 80%以上の学生とする．

学生へのメッセージ

　この授業では，すべての学部の学生が，学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います．この授業を履修することで，大学生として未来を創っていくための教養，コミュニケーション力，ファシリテーション力，学習方法が身に付き，さらに学部，学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう．

担当者の研究室等

大塚正人（薬学部 1 号館 5F），伊藤譲（1 号館 3F），柳沢学（8 号館 3F），喜多大三（7 号館 8F），水野武（7 号館 3F），原由紀子（非常勤講師室），越希美江（非常勤講師室）

備考

バインダーを用意し、資料を管理します．この科目はアクティブラーニング入学式～キックオフセミナー～大学教養入門～大学教養実践 I からつながる科目です．教養を身につけながら学習法を修得することを期待しています．また，学部や学科を越えた多くの友人を見つけてください．

科目名	大学教養実践	科目名（英文）	Practical Learning of Liberal Arts
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	伊藤　譲.越　希美江.原　由紀子.藤林　真美.柳沢　学
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP8△,J科：DP1◎,W科：DP1◎,N科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：IT01428a2～IT01432a2,L科：LT01422a2～LT01426a2,D科・S科：IT01428a2～IT01432a2,P科：YT01423a2～YT01427a2,J科：,W科：WT01424a2～WT01428a2,N科：NT01420a2～NT01424a2		

授業概要・目的	この科目は，チームで協働し，対話を通し学びを深める形式で学ぶ学部の枠を越えた教養実践科目です．前期の大学教養入門のステップアップ講座としての位置づけです． 本科目の目的は，大学生として必要な教養として，文学，社会学や経済学の基礎知識を身につけ，その知識をもとに協働学習により社会課題の解決を体験します．そうすることで，教養としての知識を実社会での実践にむすびつけることを目指します． なお，,授業担当者伊藤は建設系公団での対外折衝から人材育成まで幅広い実務経験から，社会人としての心がけ，コミュニケーション力の大切さを学生に伝えることができる．柳沢は大手建築会社における研究開発と設計業務の実務経験から，チームワーク力を学生に伝えることができる．原由紀子，越希美江は自治体や医療機関等でのファシリテーション講師の実務経験が豊富であり，多様な学生が入り混じった授業の運営を得意とする．
到達目標	(1)大学生として必要な教養レベルを身につけ，実践的に討議することができている． (2)ABDによる読書法を身に付けている． (3)QFTにより，自分が知りたいと思うことのテーマ設定ができるようになる． (4)人間関係のつくり方，チームワーク能力，リーダーシップを身に付けることができる． (5)論理的でわかりやすいプレゼンテーションをすることができる． (6)ファシリテーションの基礎能力を身に付け，協働学習を進めることができる．
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で，自ら主体的に，仲間と対話を通して理解を深め，表現するための技術等を修得します．大学生として必要な教養を身につけ，身につけた教養，知識をもとに，社会課題の解決策を協働学習により検討します．この科目では，これまでの授業とは異なり，教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるので，諸君が積極的に参加することが大切です．？
科目学習の効果（資格）	大学生に必要な教養の知識が身につき,それを元に社会課題について討議できる．ABD,QFT法等の協働学習の方法が身につく．

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	アイスブレイク 事前アンケート 科目の特徴、どのような力が身につくのかを知る チームづくり＋振り返りの大切さ	「星の王子さま」1章?12章を読み、サマリーの下書き(3時間以上)
2	教養としての文学に触れる：「星の王子さま」	教科書の紹介，概要 ABDによる学習の進め方の説明 ABDにチャレンジ 振り返り、振り返りシート	「星の王子さま」13章?24章を読んでサマリーの下書き(3時間以上)
3	教養としての文学に触れる：「星の王子さま」	解説 協働学習，プレゼン，対話 振り返り、振り返りシート	「星の王子さま」25章?27章を読んでサマリーの下書き(3時間以上)
4	教養としての文学に触れる：「星の王子さま」	解説 協働学習，プレゼン，対話 QFTにより、探求テーマだし 振り返り、振り返りシート	探求テーマのリサーチ，検討(3時間以上)
5	教養としての文学に触れる：中間成果発表	解説 前回課題の共有、対話 ポスター作成 プレゼン，質疑応答 振り返り、振り返りシート	振り返りレポート1回目 「未来の年表」P3-79を読み、サマリーの下書きをする(3時間以上)
6	教養として社会課題を知る：「未来の年表」	教科書の紹介 解説 協働学習，プレゼン，対話， 理解度確認クイズ，振り返りシート	「未来の年表」P3-79から、重要なキーワードとキーセンテンスを抜き出し調べてくる(3時間以上)
7	教養として社会課題を知る：「未来の年表」	キーワードの共有、解説 QFTによる探求テーマだし 大切な質問作り 振り返り、振り返りシート	探求テーマの調査(3時間以上)
8	教養として社会課題を知る：「未来の年表」	探求テーマの調査の共有、提出 テーマ別ポスター作り プレゼンテーションを実施する 相互評価、振り返り、振り返りシート	「未来の年表」P80-146を読み、サマリーの下書きをする(3時間以上)
9	教養として社会課題を知る：「未来の年表」	解説、 協働学習，プレゼン，対話， 理解度確認クイズ，振り返り 振り返り、振り返りシート	「未来の年表」p80-146から、重要なキーワードとキーセンテンスを抜き出し、調べてくる(3時間以上)
10	教養として社会課題を知る：「未来の年表」	キーワードの共有、解説 QFTによる探求テーマだし 大切な質問作り 振り返り、振り返りシート	探求テーマの調査(3時間以上)
11	教養として社会課題を知る：「未来の年表」	探求テーマの調査の共有、提出 テーマ別ポスター作り プレゼンテーションを実施する 振り返り、振り返りレポート	「未来の年表」第２部を読む(3時間以上)
12	教養として社会課題を知る：「未来の年表」	自分たちで解決策を考えたい社会課題テーマを決める 理解度確認クイズ，振り返り 振り返り、振り返りレポート	解決策の検討(3時間以上)

	13	教養として社会課題を知る:「未来の年表」	解決策を検討、ポスター作成 プレゼンテーション準備 振り返り、振り返りレポート	ポスター作成、プレゼンテーション準備(3 時間以上)
	14	教養として社会課題を知る:最終発表	ポスター作成 発表・質疑応答 振り返り、振り返りレポート	振り返りレポート 2 回目(3 時間以上)
	15	全体振り返り	全体を通しての学びの整理、共有，振り返り	振り返りレポート 2 回目(3 時間以上)

関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて?

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	星の王子さま	サン＝テグジュペリ	新潮文庫　476 円
2	未来の年表	河合雅司	講談社現代新書　760 円
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	・取り組み姿勢（チーム：30%） ・ポスター／発表（チーム：20%） ・振り返りレポート　2 回（個人：20%）　　・振り返りシート（個人：10%） ・理解度確認クイズ（個人：20%） 以上の評価点の合計で 60%以上を合格とする．期末試験は実施しない． なお，成績評価の対象は原則として出席率 80%以上の学生とする．
学生への メッセージ	この授業では，すべての学部の学生が，学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います．この授業を履修することで，大学生としてふさわしい教養の基礎，コミュニケーション力，ファシリテーション力，と学習方法が身に付き，さらに学部，学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう．?
担当者の 研究室等	伊藤譲（1 号館 3F），柳沢学（8 号館 3F）　大塚正人（薬学部 1 号館 5F），喜多大三（7 号館 8F），藤林真美（総合体育館 1F），水野武（7 号館 3F），原由紀子（非常勤講師室），越希美江（非常勤講師室）
備考	バインダーを用意し、資料を管理します．この科目は前期の大学教養入門と同じスタイルの教養を学びながら学習法を身につけることを期待した科目です．また，学部や学科を越えた多くの友人を見つけてください．?

科目名	大学教養入門	科目名（英文）	Introduction to Liberal Arts
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	荻田　喜代一.伊藤　譲.大塚　正人
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：IT01428a2～IT01432a2,L 科：LT01422a2～LT01426a2,D 科・S 科：IT01428a2～IT01432a2,P 科：YT01423a2～YT01427a2,J 科：,W 科：WT01424a2～WT01428a2,N 科：NT01420a2～NT01424a2		

授業概要・目的	本科目は学部の枠を越えた教養入門科目です．本科目の目的は，大学生としての教養を身に付けるスタートラインに立つことにあり，自らが主体的に知識を獲得し，対話を通して理解を深め，表現するための技術等を修得することです．授業では教養の入門書を用いて ABD（アクティブ・ブック・ダイアログ）読書法や協働学習の習慣を身に付けるとともに，チームワーク能力，コミュニケーション能力等を身に付けることを目指します． なお，授業担当者伊藤は建設系公団での対外折衝から人材育成まで幅広い実務経験から，社会人としての心がけ，コミュニケーション力の大切さを学生に伝えることができる．柳沢は大手建築会社における研究開発と設計業務の実務経験から，チームワーク力を学生に伝えることができる．藤林真美は医療機関での運動指導の業務に従事した実務経験から，対話力を学生に伝えることができる． 授業担当者伊藤は建設系公団での対外折衝から人材育成まで幅広い実務経験から，社会人としての心がけ，コミュニケーション力の大切さを学生に伝えることができる．柳沢は大手建築会社における研究開発と設計業務の実務経験から，チームワーク力を学生に伝えることができる．石井は企業，自治体，NPO の運営等の実務経験から社会人基礎力全般の教育を専門としている．
到達目標	(1)大学生に必要な教養の基礎知識を身に付けている． (2)ABD による読書法を身に付けている． (3)チームワーク能力を身に付け，対話を通じた協働学習をすることができる． (4)SDGｓと UNAI について基礎的な知識を身に付けている． (5)読書の意義を理解して読書習慣を身に付けている． (6)コミュニケーション能力を身に付け，自分の考えを相手に伝え，相手の考えを理解することができる．
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で，自ら主体的に，仲間と対話を通して理解を深め，表現するための技術等を修得します．教養の入門書を用いて ABD（アクティブ・ブック・ダイアログ）学修法を中心として，読書，対話，発表等の協働学習による学びを体験します．この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるので，諸君が積極的に参加することが大切です．
科目学習の効果（資格）	大学生に必要な教養の基礎知識が身につく．ABD 法等の協働学習の方法が身につく．

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 「大人の教養」序章　私たちはどこから来て、何処へ行くのか	アイスブレイク 事前アンケート 科目の特徴，どのような力が身につくのか 「教養とは何か？」 ABD の体験	「おとなの教養」第二章を読むこと(1.5 時間以上)
2	教養入門：「大人の教養」 第二章　宇宙	教科書の紹介，概要 チーム作り，授業の約束事 ABD による学習の進め方の説明 ABD 法に挑戦「第二章 宇宙」	「おとなの教養」第六章を読むこと(1.5 時間以上)
3	教養入門：第六章　歴史	解説 協働学習，対話 理解度確認クイズ，振り返り	「おとなの教養」第四章を読むこと(1.5 時間以上)
4	教養入門:第四章　人間と病気	解説 協働学習，対話 理解度確認クイズ，振り返り	「おとなの教養」第一章を読むこと(1.5 時間以上)
5	教養入門：第一章　宗教	解説 協働学習，対話 理解度確認クイズ，振り返り 中間発表テーマの決定	中間発表の下調べ、ポスターの案（3 時間以上）
6	教養入門：中間成果発表	ポスター作成の説明 プレゼン、質疑応答 振り返り	ポスターの改善、プレゼンの改善 振り返りレポート１回目（3 時間以上）
7	教養入門：中間成果発表	ポスター改善 発表・質疑応答 振り返り	SDGｓとは何か調べる（3 時間以上）
8	世界を知る教養:国連サステイナブルディベロップメントゴールズ?	SDGs の概要 SDGｓゲーム 理解度確認クイズ，振り返り	チーム学習の振り返り（1.5 時間以上）
9	世界を知る教養:国連サステイナブルディベロップメントゴールズ?	SDGｓとは何か ワールドカフェ方式対話 理解度確認クイズ，振り返り	UNAI とは何かを調べる（3 時間以上）
10	世界を知る教養:国連アカデミックインパクト?	国連の役割と歴史 本学の取り組み 理解度確認クイズ，振り返り	振り返り学習：割り当て個所全体の読み返し（2 時間以上）
11	自分を知る教養：岸見著「アドラー心理学入門」 第二章 アドラー心理学の育児と教養?	教科書の紹介、はじめに 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ，振り返り	「アドラー心理学」第二章まで読むこと(2 時間以上)
12	自分を知る教養： 第四章 アドラー心理学の基礎理論?	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ，振り返り	「アドラー心理学」第四章を読むこと(1.5 時間以上)
13	自分を知る教養： 第五章　人生の意味を求めて?	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ，振り返り 中間発表テーマの決定	「アドラー心理学」第五章を読むこと(1.5 時間以上)
14	自分を知る教養:中間成果発	ポスター作成	振り返りレポート２回目

		表	発表・質疑応答 振り返り	（3 時間以上）
	15	大学教養入門：まとめ	グループワーク「教養とは何か？」 事後アンケート	振り返りレポート３回目 （3 時間以上）

関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	おとなの教養	池上彰	NHK 出版
2	アドラー心理学入門	岸見一郎	KK ベストセラーズ
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	・取り組み姿勢（チーム：30%） ・ポスター／発表（チーム：30%） ・振り返りレポート　3 回（個人：30%） ・理解度確認クイズ（個人：10%） 以上の評価点の合計で 60%以上を合格とする．期末試験は実施しない． なお，成績評価の対象は原則として出席率 80%以上の学生とする．
学生への メッセージ	この科目は全国に先駆けて実施する摂南大学独自の教養科目です．授業では，すべての学部の学生が，学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います．この授業を履修することで，大学生としてふさわしい教養の基礎と学習方法が身に付き，さらに学部，学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう．
担当者の 研究室等	荻田喜代一（7 号館 8F，副学長室），伊藤譲（1 号館 3F），柳沢学（8 号館 3F）　大塚正人（薬学部 1 号館 5F），藤林真美（総合体育館 1 F），久保貞也（11 号館 7F），寺内睦博（11 号館 10F），石井三恵（7 号館 5F）
備考	この科目は，入学式～キックオフセミナーからつながる科目です．教養を身につけながら学習法を身につけることを期待しています．また，学部や学科を越えた多くの友人を見つけてください．

科目名	ダイバーシティとコミュニケーション	科目名（英文）	Diversity and Communication
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井　三恵
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：ITO1428a2～ITO1432a2,L 科：LTO1422a2～LTO1426a2,D 科・S 科：ITO1428a2～ITO1432a2,P 科：YTO1423a2～YTO1427a2,J 科：,W 科：WTO1424a2～WTO1428a2,N 科：NTO1420a2～NTO1424a2		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、 １）グローバル社会では、日本人の従来の常識では予測のつかない疑問点が溢れていることを知る。 ２）「境界線」も一つの視野では理解できないことをわかる。 ３）さまざまな差異を理解するためには、ダイバーシティ（多様性）を尊重し、受け入れ、積極的に活かすことが大切であることを事例を通して学ぶ。 ４）ジェンダーの基本的理解はもちろん、ビジネスにおけるダイバーシティマネジメントをジェンダー視点で俯瞰する。 容認することが期待される。 なお、講義は担当講師の民間企業社員、自治体職員として業務経験及び、NPO 法人の理事、高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。
到達目標	ダイバーシティ理解に欠かせないコミュニケーション手法の一つであるアサーティブネス理論を中心に理解を促進させ、そのスキルを学ぶことによって社会生活に活かすことを目標とする。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。
科目学習の効果（資格）	・ダイバーシティマネジメントにおける社員教育の在り方を理解することができる。 ・「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・ダイバーシティの世界へようこそ ・政策提言へ向けて	・事前学修：ダイバーシティに関して、調べること（１時間） ・事後学修：身近なダイバーシティに対する気づきに関してレポートを作成すること（３時間）
2	ダイバーシティと境界線	・ウチとソトの感覚	・事前学修：私たちの周りにある伝統や習慣について考えること（２時間） ・事後学修：「ウチとソト」に関するレポートを作成をすること（２時間）
3	ジェンダー視点	・フェミニズム×女性学＋男性学＝人間学 ・時代を生きた女性たち６名に関して調査	・事前学修：フェミニズムの歴史的背景を理解し、近年話題のエコフェミニズムについて調べること（２時間） ・事後学修：活躍した女性たちに関してグループで文献調査し、まとめること（２時間）
4	日本の近代化	・明治の落とし物 ・グループで時代を生きた女性たちに関するプレゼンテーション	・事前学修：明治・大正・昭和の歴史年表を作成すること（２時間） ・事後学修：明治・大正・昭和の世相と時代を文学の世界から垣間見ることによって、現代にも残存している慣習に関してレポートを作成すること（２時間）
5	国際統計比較	・ジェンダーギャップ ・ジェンダーエンパワーメント指数	・事前学修：国際的統計から、日本の置かれた位置を確認し、何が問題であるか考えること（２時間） ・事後学修：国際的統計から理解できたことに関してレポートを作成すること（２時間）
6	性役割の形成①	・発達段階における「刷り込み」 ・DV/デート DV	・事前学修：性役割を理解し、幼児期から振り返ること（２時間） ・事後学修：自らの「刷り込み」体験に関するレポートを作成すること（２時間）
7	性役割の形成②	・結婚と母性信仰 ・妊娠と出生前診断 ・優生保護法と母体保護法 ・「親になること」と「親であること」の相違	・事前学修：共同作業である結婚の意味を見直すと同時に、親役割に関して考えること（２時間） ・事後学修：自らの結婚観に関するレポートを作成すること（２時間）
8	「らしさ」とセクシャル・ポリティクス	・M 字型労働力率曲線とビジネスマインドの形成 ・格差と二極分化	・事前学修：日本と世界を比較しながら、女性労働について考えること（２時間） ・事後学修：M 字型労働力率曲線の底を上げるための提言レポートを作成すること（２時間）
9	男女共同参画社会とワークライフバランス	・ジェンダーマネジメント ・働き方改革	・事前学修：ワークライフバランスとは何か、政府の見解を調べること（２時間） ・事後学修：ワークライフバランスが必要な理由をまとめ、レポートを作成すること（２時間）
10	中間プレゼンテーション	・各自決めたテーマに関して調査考察した結果を発表する	・事前学修：調査考察し、発表準備をすること（２時間） ・事後学修：議論した結果などを加筆し、最終プレゼンに向けて練習すること（２時間）
11	アサーティブネス理論①	・世界中でアサーティブネスが用いられる理由 ・政策提言へ向けての中間レポート提出	・事前学修：アサーティブネスについて調べること（２時間） ・事後学修:アサーティブに話す練習をすること（２時間）
12	アサーティブネス理論②	・スキルの必要性を理解し、身に付けることを試みる	・事前学修：アサーティブネス理論を実生活に活かす事例を考えること（２時間） ・事後学修：アサーティブネス理論を使うことによる自身の変化についてレポートを作成すること（２時間）

	13	ダイバーシティマネジメント①	・企業比較から政策提言へ	・事前学修：企業が必ず取り入れているダイバーシティマネジメントについて、事例研究すること（２時間） ・事後学修：興味のある企業のダイバーシティマネジメントに関してダイバーシティの視点からの政策提言に関するレポートを作成すること（２時間）
	14	ダイバーシティマネジメント②	・政策提言プレゼンテーション ・自由討議	・事前学修：事例研究した内容をプレゼンテーションできるよう練習すること（２時間） ・事後学修：事例研究した内容をより上手くプレゼンテーションできるよう練習すること（２時間）
	15	まとめ	・最終レポート提出 ・まとめ	・事前学修：ダイバーシティ・マネジメントについて述べられるようまとめること（２時間） ・事後学修：ダイバーシティ・マネジメントが必要である理由について述べられるようまとめること（２時間）

関連科目：「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンス科目」の「共通」分野に位置している科目である。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	共に学ぶ女性学	石井三恵	泉文堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ジェンダーで学ぶ社会学	伊藤公男	世界思想社
2	よくわかるジェンダー・スタディーズ	木村 涼子 他	ミネルヴァ書房
3	性と法律	角田 由紀子	岩波新書

評価方法（基準）	ロールプレイ（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	皆さんの身近に存在している不思議を解き明かすカギが女性学、フェミニズム、ジェンダー論、そしてダイバーシティにあります。私たちは生まれも育ちも異なることから考え方も異なるように、外国の方にもにそれが当てはまり、みな同じ問題を抱えています。社会的弱者と呼ばれる私たちの身近な事例を通して、人としての生きる権利とは何かを考えてみませんか。
担当者の研究室等	７号館５階　教育イノベーションセンター（石井）
備考	予習・復習に毎回２時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。

科目名	地域貢献実践演習	科目名（英文）	Practical Training for Social Innovation
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂　貴恵.石井　三恵.上野山　裕士.藤林　真美.水野　武
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TLO3440a2,L 科：LLO3421a2,D 科・S 科：ILO3427a2,P 科：YLO3422a2,J 科：JLO3438a2,W 科：WLO3423a2,N 科：NLO3419a2		

授業概要・ 目的	この授業は、ソーシャルイノベーション副専攻課程における総仕上げ科目です。 これまで、講義やフィールドワークで見つけた学びを総合的に活かして、地域の課題により深く関与し、課題の解決を導くための計画策定から、実施、検証にいたるまでを、学生が主体的に取り組みます。 その過程のなかで、理論と実践を結び付け方を体験を通じて学び、新たな成長につなげていくことが目的です。 具体的にはグループ単位で地域担当者と密に連携しながら、課題の抽出から解決までの年間計画を立て、現地で実践と振り返りをくりかえしながら、当初立てた目的達成にチャレンジしていきます。
到達目標	①これまで学んだ理論を実践に結び付けて、考察し行動することができる。 ②課題発見から解決までの PDCA サイクルを回すことができる。 ③チームで活動することができる。 ④チーム内ので役割行動ができる。 ⑤地域の多様性、独自性などを理解した上で、解決策を提示することができる。
授業方法と 留意点	この授業はグループワークで行います。 ・学生が主体的に地域の課題を解決するため、フィールドに赴き活動を行います。 ・中間発表会、最終報告会での発表（チーム単位）、個人別レポートの作成が課せられます。 ・チームで活動を行うため、コミュニケーションを密にし、役割行動ができることが求められます。 ・社会に出れば、必ず求められる「報告、連絡、相談」を実践し、チームで情報共有しながら連携先との相互理解を図り、課題解決のための、計画策定から実施、振り返りまで、途中で投げ出すことなく取り組むことが求められます。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	この授業は学生がチームごとに主体的にフィールドワークを行っていきますが、月に１度程度、共有を図り、進捗状況の確認を行います。 チームで活動したときには、必ず日誌を作成し、担当教員、連携先、チームメンバーに共有をしてください。 また、課題や問題が発生した時には、必ず担当教員に相談をしてください。 月に１度程度のミーティングの年間スケジュールは第１回目に提示します。 第１回　　４月 18 日（木）　６時間目　　オリエンテーション　　ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ内容や進め方の説明を行います 履修者は必ず出席してください。
関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻課程関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	活動の取組（自己評価、相互評価、連携先からの評価等）50%、発表会での発表（中間、最終）20%、レポート 30%
学生への メッセージ	PBL より、さらに踏み込んだ活動を行い、応用力や実践力をつけましょう！
担当者の 研究室等	
備考	【事前学習】活動を実施するまでには、チームで議論し役割分担を決め準備を行います。またミーティング等活動をしたときは活動記録を作成ください。そのためには１時間～４時間程度の自主学習時間が必要となります。 【事後学習】活動を行った後は、結果をまとめ、チームでミーティングを行い振り返りをしてください。また全体ミーティングに備えて、スライドの作成をしてください。この場合も活動記録を作成してください。これらの活動に１～4 時間程度の自主学生時間が必要となります。

科目名	地域と私	科目名（英文）	Introduction to Regional Science
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鶴坂　貴恵.石井　三恵.稲地　秀介.上野山　裕士.久保貞也.田中　結華.藤林　真美
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ○,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP8△,J科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TL01435a2,L科：LL01416a2,D科・S科：IL01422a2,P科：YL01417a2,J科：JL01433a2,W科：WL01418a2,N科：NL01414a2		

教養科目

授業概要・目的	「地域」に焦点を当てて学ぶ意義を理解し、地域ではどのような課題が存在しているかを学ぶために、テーマごとに学習をします。その後、体験学習では過疎地域である由良町を対象として、由良町の現状と課題を知った上で、現地に赴いて、グループ単位で調査の上、解決策を考え発表します。 この授業は、講義のテーマによって担当教員が変わるオムニバス授業です。 また由良町役場の行政担当者や地元事業者などの実務経験者より、由良町の現状や課題、現在取り組んでいる対応策について講義があります。
到達目標	・地域のことを学ぶ意義を理解する。 ・地域の課題を理解する。 ・地域の課題について解決策を提案できる。 ・グループ内で相互理解を図りながら活動できる。 ・グループの中で自分の役割を理解しながら活動できる。
授業方法と留意点	グループで議論等をした上で、グループごとに発表、レポートの作成といったグループワークが中心の授業です。 第２回目、３回目は外部講師による体験型の研修となります。 第 11 回目は和歌山県由良町での体験学習となります。 グループワークで学習を進めて行きますので、グループのメンバーに迷惑がかからないよう責任のある行動をしてください。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ４月１３日（土）２時間目	到達目標や授業方法、成績評価方法等について説明します。 地域のことを学ぶ意義を解説します。 （鶴坂）	【事前学習】 シラバスをみて、内容を確認する。 地域のことを学ぶことについて自分なりに考える（1 時間） 【事後学習】 地域という視点で新聞等のニュースを探し、読み、自分なりの意見を考える（1 時間）
2	自己の探求 ４月２０日（土）	自己理解を深め、他者への配慮をしながら主体的に行動できるための体験型セミナーを受講します。 （外部講師・鶴坂）	体験型セミナーでの気づきをまとめる（1 時間）
3	自己の探求 ４月２１日（日）	自己理解を深め、他者への配慮をしながら主体的に行動できるための体験型セミナーを受講します。 （外部講師・鶴坂）	体験型セミナーでの気づきを今後、どのように活かすかを考え、レポートをまとめる（２時間）
4	今、地域で何が起きているか ５月１８日（土）１限	人口減少時代の都市・地域の問題や課題について解説し、地域貢献活動の重要性について考えます。 （鶴坂）	【事前学習】 キーワード「消滅可能性都市」について調べる（1 時間）。 【事後学習】由良町の現状と人口減少等の地域の問題を結びつける。その上で由良町での人口減少の理由を考え、グループでレポートをまとめる（2 時間）
5	由良町関係者の講演 ５月１８日（土）２限	和歌山県由良町役場の方に来学いただき、観光、環境・防災、スポーツ・文化、地域医療の各領域の現状や課題をお聞きします。（鶴坂、稲地、藤林、上野山）	【事前学習】 和歌山県由良町の概要を調べる（1 時間） 【事後学習】 和歌山県由良町の課題をまとめグループでレポートをまとめる（2 時間）
6	地域経済・経営 －地域の観光･ブランディング－ ５月１８日（土）３限	観光資源を活用した地域経済の活性化と地域のブランディングについて学習し、都市部と過疎地域での取組の違いを議論します。 （鶴坂・久保）	【事前学習】 地域資源を活用した観光によるまちおこしの事例を調べる（1 時間） 【事後学習】 由良町の観光の目玉を考え、グループでレポートをまとめる（2 時間）
7	地域環境・防災 －空き家の現状と課題－ ６月１日（土）１限	大都市周辺市街地と地方農山村部とでは空き家を取り巻く状況は異なります。地域特性ごとに異なる空き家の現状と課題を学習し、寝屋川市や和歌山県下の市町村などを対象とした空き家対策などについて議論します。 （稲地）	【事前学習】 授業前に国内の空き家問題を概観するために、国土交通省や自治体などが行っている調査結果、対策、制度など情報をインターネットなどで収集・整理しておくこと（1 時間） 【事後学習】 授業後は議論した内容をふまえ、由良町における空き家対策について検討し、グループでレポートをまとめる（2 時間）
8	地域政策・文化 －地域とスポーツ－ ６月１日（土）２限	地域とスポーツとの関連；「トップスポーツ（プロ野球やプロサッカー、ラグビーのトップリーグ、都道府県対抗駅伝など）との循環による郷土愛的な地域性」および「地域スポーツクラブにおける住民のスポーツ参加」について理解・議論します。 （藤林）	【事前学習】 事前に提示するキーワードについて予習しておくこと（1 時間） 【事後学習】 授業ノート等で復習の上、由良町にける地域スポーツを振興するための方策を検討しグループでレポートをまとめる（2 時間）
9	地域医療 －地域で健康な生活を送るには？－ ６月 15 日（土）１限	民が活用できる、組織、サービス、専門職について理解し、地域で健康な生活を送るための課題を多様な視点から話し合います。	【事前学習】事前に提示するキーワードについて各自調べておくこと（1 時間） 【事後学習】 授業で発表された内容について整理し、由良町の地

			（田中・上野山）	域医療の課題についてまとめグループでレポートにまとめる（2 時間）
	10	事前学習 グループワーク ６月１５日（土）２、３限	由良町を対象として、地域経済・経営、地域政策・文化、地域環境・防災、地域医療のどの切り口で課題発見や解決策に取組むかをグループで検討します。また、グループ内での分担を決めます。（鶴坂、稲地、藤林、上野山）	【事前学習】 グループでどの領域の問題を取り扱うか決めておく（1 時間） 【事後学習】 由良町でのフィールドワークの準備を行う（2 時間）
	11	体験学習 （和歌山県由良町） ６月２９日（土）終日	由良町に出かけ、フィールドワーク（調査）を行います。（鶴坂、稲地、藤林、上野山）	【事前学習】 現地で調べることについて予備調査しておく（1 時間） 【事後学習】 現地で得られた情報をまとめておく（２時間）
	12	プレゼンテーション講座 ７月６日（土）１限	プレゼンテーションについての解説、パワーポイントによる資料作成方法の解説をします。 （石井、鶴坂）	【事前学習】 現地で得た情報をまとめておく（1 時間） 【事後学習】 スライドをつくってみる（２時間）
	13	事後学習① グループワーク ７月６日（土）２限	現地で得た情報の整理をもちより、発表できる形にしていきます。 （鶴坂、稲地、藤林、上野山）	【事前学習】 グループで情報を共有化しておく（2 時間） 【事後学習】 発表できるよう準備をする（４時間）
	14	事後学習② 成果発表会 ７月２０日（土）１、２限	作成したスライドを使い、成果発表を行います。 （鶴坂、稲地、藤林、上野山）	【事前学習】 発表の練習を行う（４時間） 【事後学習】 他のグループの取組内容の整理をする（1 時間） 発表したときのコメントや質問を自分たちのグループの発表内容に反映させ、レポート作成に役立たせる。
	15	事後学習③ ふりかえり ７月２１日（土）３限	「地域と私」全体の総括、ふりかえりを行います。（鶴坂）	【事前学習】 これまでのプリントや副専攻課程ガイドブック等を整理する（1 時間） 【事後学習】 副専攻課程ガイドブックの完成、レポート作成（3 時間）

関連科目	ソーシャル・イノベーション副専攻科目群

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	グループワークの成果物　40% グループの成果発表　20%（ルーブリック評価） 最終レポート　40%　６０%で合格とする。
学生への メッセージ	地域で起きていることを自分ごとにしていくための基礎を形成する授業です。また、副専攻科目を履修していくうえでの、基本的な学びができる科目でもあります。基本をしっかり身につけ、さらに学びを深めるためにも、主体的な学びの姿勢を期待します。
担当者の 研究室等	鶴坂研究室　11 号館７階
備考	

科目名	地域連携教育活動Ⅰ	科目名（英文）	Communitiy-Based Education Support Activities Ⅰ
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田　佐治子.朝日　素明.谷口　雄一.林　茂樹
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP8△,J科：DP1◎,W科：DP1◎,N科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V科･R科･A科･M科･E科･C科:IT01428a2～IT01432a2,L科:LT01422a2～LT01426a2,D科･S科:IT01428a2～IT01432a2,P科:YT01423a2～YT01427a2,J科：,W科：WT01424a2～WT01428a2,N科：NT01420a2～NT01424a2		

教養科目

授業概要・目的	本科目はサービスラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週１回９０分行う。 ※ 担当者のうち２名は、長く学校に勤務した経験をもっている。また、小学校・中学校での活動では、現職の先生方から直接ご指導いただく。
到達目標	実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年２月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の担当者との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動Ⅰ」を初めて履修する学生を対象とする。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	事前指導１　活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備 事前指導２　マナー講座・小中学校の教育現場について 事前指導３　「守秘義務」の意味とその内容について 活動準備　受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する 活動 1～25　受け入れ校にて活動　（活動業務日報・活動時間票の提出） 最終報告会　活動報告会を開催する。 ※注意事項 事前指導に１回でも欠席した場合は、履修取り消しにします。 事前・事後学習課題 学外での活動に際し、各種活動（各受入れ団体によって異なる）の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成に各１時間程度行う。
関連科目	教職課程を履修していない学生でもこの科目を履修することができる。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポート の全てを提出し、最終報告会で ⑤活動報告 した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階（朝日研究室）、７号館４階（谷口研究室）、7 号館 3 階（林研究室）、7 号館 3 階（吉田研究室）
備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。

科目名	地域連携教育活動Ⅱ	科目名（英文）	Communitiy-Based Education Support Activities II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田　佐治子.朝日　素明.谷口　雄一.林　茂樹
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP8△,J科：DP1◎,W科：DP1◎,N科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V科･R科･A科･M科･E科･C科:IT01428a2～IT01432a2,L科:LT01422a2～LT01426a2,D科･S科:IT01428a2～IT01432a2,P科:YT01423a2～YT01427a2,J科：,W科：WT01424a2～WT01428a2,N科：NT01420a2～NT01424a2		

授業概要・目的	本科目はサービスラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週１回９０分行う。 ※ 担当者のうち２名は、長く学校に勤務した経験をもっている。また、小学校・中学校での活動では、現職の先生方から直接ご指導いただく。
到達目標	実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年２月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の担当者との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動Ⅰ」を初めて履修する学生を対象とする。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	事前指導１　活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備 事前指導２　マナー講座・小中学校の教育現場について 事前指導３　「守秘義務」の意味とその内容について 活動準備　受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する 活動 1～25　受け入れ校にて活動　（活動業務日報・活動時間票の提出） 最終報告会　活動報告会を開催する。 ※注意事項 事前指導に１回でも欠席した場合は、履修取り消しにします。 事前・事後学習課題 学外での活動に際し、各種活動（各受入れ団体によって異なる）の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成に各１時間程度行う。
関連科目	教職課程を履修していない学生でもこの科目を履修することができる。
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 2 3
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 2 3
評価方法（基準）	①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポート の全てを提出し、最終報告会で ⑤活動報告 した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階（朝日研究室）、７号館４階（谷口研究室）、7 号館 3 階（林研究室）、7 号館 3 階（吉田研究室）
備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。

科目名	チームビルディング	科目名（英文）	Team Building
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野　武
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：IT01428a2～IT01432a2,L 科：LT01422a2～LT01426a2,D 科・S 科：IT01428a2～IT01432a2,P 科：YT01423a2～YT01427a2,J 科：,W 科：WT01424a2～WT01428a2,N 科：NT01420a2～NT01424a2		

授業概要・目的	成熟社会においては個人の力を集合させてプロジェクトを作り上げる「チームビルディングの思考や技術」を学ぶことが重要である。 本科目はチームビルディングの理論を学び、様々なアクティビティを通してチームに貢献する方法を考えられるようになるための授業である。 ２回生以降に摂南大学 PBL プロジェクトを履修する際にも役立つ。 なお、講義は担当者の実務経験に基づいて議論を進めることもある。 学科の学習・教育目標との対応：工学部[A]，理工学部［II］
到達目標	チームで物事を進める際に必要な知識が理解出来るようになり、技能を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	講義は受講生によるアクティビティ・プレゼンテーション・グループワークなどを織り交ぜて進める。
科目学習の効果（資格）	チームで物事を進める際の基礎知識が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の進め方 ・なぜチームが必要なのかを知る ・チームビルディングとは何か　を理解する	事前学習：本科目のシラバスを精読すること。（１時間） 事後学修：講義で配付された資料を見直すこと（１時間）
2	チームビルディングとは何か	・自己紹介ワーク ・チームビルディングの理論を学ぶ ・チームビルディングのための技能を知る	事後学修：チームにどのように貢献できるかを考える。（１時間）
3	チームビルディング体験	・ペーパータワーワーク（予定） ・チームの 10 カ条 などに取り組み、チームビルディングを体験する	事後学修：チームでの取り組みを振り返る。（１時間）
4	チームにおけるリーダーとフォロワーの役割	・リーダーシップとフォロワーシップを学ぶ ・メンバーを支援するための質問術、傾聴術を身につける	事前学修：講義３で出る課題に取り組むこと（１時間） 事後学修：講義で配付された資料を見直すこと（１時間）
5	学習するためのチームづくり	・チームを機能させるために必要な要素を学ぶ	事後学修：講義で配付された資料を見直すこと(1.5 時間)
6	話し合う技術	・チーム話し合う際の技術を学ぶ	事後学修：講義で配布された資料を見直すこと(1.5 時間)
7	ビジネス記事を活用したディスカッション	記事を活用して情報の読み取りと活用、自分ならどうするかを考える	事後学修：講義で身につけた読解技術を日常生活で試してみること(1.5 時間)
8	チームビルディングの技術を身につけるためのアクティビティ①	・ペアワークに取り組み、情報の読み取りと活用、提案することを学ぶ	事前学修：チームにどのように貢献できるかを考えること（１時間） 事後学修：講義で配付された資料を見直すこと（１時間）
9	チームビルディングの技術を身につけるためのアクティビティ②	・グループでニッポンの課題の解決策を考える	事前学修：チームにどのように貢献できるかを考えること（１時間） 事後学修：講義で配付された資料を見直すこと（１時間）
10	チームでプロジェクトを企画する	・講義の中間おさらい ・チームでプロジェクトを企画する	事後学修：チームで課題に取り組むこと(4 時間)
11	摂南大学 PBL プロジェクトの紹介①	本学で開講されている摂南大学 PBL プロジェクトの紹介	事後学修：興味を持ったプロジェクトについて調べること(1.5 時間)
12	摂南大学 PBL プロジェクトの紹介②	本学で開講されている摂南大学 PBL プロジェクトの紹介	事後学修：興味を持ったプロジェクトについて調べること。(1.5 時間)
13	プロジェクトのプレゼンテーション	第１０回目の課題の報告プレゼンテーション	事後学修：チームで発表をする準備をすること(2 時間) 事後学修：自チームの発表内容、及び他チームの発表を振り返ること（１時間）
14	プロジェクトのプレゼンテーション	第１０回目の課題の報告プレゼンテーション	事後学修：チームで発表をする準備をすること（２時間） 事後学修：自チームの発表内容、及び他チームの発表を振り返ること（１時間）
15	講義のまとめと振り返り	講義のおさらいと振り返りを行う	事前学修提出物などの出し忘れがないか確認する。(1.5 時間) 事後学修：講義全体を振り返ること。（１時間）

関連科目	・「ソーシャル・イノベーション副専攻科目過程」の科目 ・キャリアデザインⅠ・Ⅱ、摂南大学 PBL プロジェクト、ソーシャルイノベーション実務総論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			

評価方法 （基準）	チームでの提出物 20%、チームへの貢献度とワーク後の振り返りシート 30%、個別課題 10%、最終レポート 40%　で総合的に評価する。
学生への メッセージ	ワークやアクティビティを織り交ぜる授業となるので、主体性を持って講義に挑むこと。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　教育イノベーションセンター（水野研究室）
備考	・参考とする書籍、文献は適宜提示する。

科目名	哲学	科目名（英文）	Philosophy
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森本　誠一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NHU1403a2		

授業概要・目的	学問の教科書、たとえば心理学や看護学の教科書には、たいていその学問が何であるのかといった定義がはじめに書かれています。ところが哲学の教科書で「哲学とは何か」の説明から始まるものはまずありません。そのような説明から始まるとしても『哲学とは何か』という問いがすでに哲学をするいとなみである」といったようなことが書いてあるぐらいです。それでは哲学の授業では何を学ぶのでしょうか。 たしかに、哲学をひとことで言い表すことはできないかもしれません。しかしながら、物事を根本から考えるとか、批判的に考えるとか、あるいはものごとを複数の視点から観察するとかいったようなこと、すなわち哲学のいとなみを成り立たせていると考えられているものを手がかりに「哲学とは何か」という問いについて考えていくことはできるでしょう。 この授業では、教科書を手がかりに、新聞や雑誌の記事、映画、小説、マンガといった身近な素材などを活用して哲学的なものの見方、考え方を養います。
到達目標	この授業を履修することで、受講生は次のことができるようになります。 （1） 現実の問題を哲学と結びつけて考えることができる （2） 世の中で常識とされていることを疑って批判的に考えることができる （3） ものごとを複数の視点から眺め考察することができる
授業方法と留意点	この授業は講義形式ですが、受講生との対話を通じて授業を進めていきます。授業を受けるにあたって膨大な資料を読んだり多くのことを暗記したりする必要はありませんが、毎回の授業に出席しなければ学修の効果は薄いでしょう。また、授業の終わりに毎回リアクションペーパーを提出してもらい、第２回目以降の授業では冒頭でそれを取り上げます。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	現象と実在	この授業で何を学ぶのか、授業の全体像を把握します。授業の進め方、成績評価の時期、方法、基準についても確認します。 その上で教科書の第１章「現象と実在」について学修します。	事前学習：シラバスをしっかり読んでから授業に出席すること。また、授業に出席するにあたっては、シラバスを印刷して持参するか情報端末で見られる状態にしておくこと。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90 分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90 分)
2	物質は存在するか	教科書の第２章「物質は存在するか」について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90 分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90 分)
3	物質の本性	教科書の第３章「物質の本性」について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90 分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90 分)
4	観念論	教科書の第４章「観念論」について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90 分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90 分)
5	面識による知識と記述による知識	教科書の第５章「面識による知識と記述による知識」について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるの

				か考えてみましょう。(90 分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90 分)	
		6	帰納について	教科書の第 6 章「帰納について」について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90 分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90 分)	
		7	一般的原理の知識について	教科書の第 7 章「一般的原理の知識について」について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90 分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90 分)	
		8	アプリオリな知識はいかにして可能か	教科書の第 8 章「アプリオリな知識はいかにして可能か」について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90 分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90 分)	
		9	普遍の世界	教科書の第 9 章「普遍の世界」について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90 分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90 分)	
		10	普遍に関する私たちの知識	教科書の第 10 章「普遍に関する私たちの知識」について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90 分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90 分)	
		11	直観的知識について	教科書の第 11 章「直観的知識について」について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90 分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90 分)	
		12	真と偽	教科書の第 12 章「真と偽」について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90 分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示に	

				したがって調査すること。(90 分)
	13	知識、誤謬、蓋然的な見解	教科書の第 13 章「知識、誤謬、蓋然的な見解」について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90 分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90 分)
	14	哲学的知識の限界	教科書の第 14 章「哲学的知識の限界」について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90 分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90 分)
	15	哲学の価値	教科書の第 15 章「哲学の価値」について学修します。 その上で、これまでの授業をふり返りながら、各回の授業が全体としてどのようにつながっていたのかを確認します。成績評価の方法・基準についても再確認します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90 分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90 分)

関連科目	ボランティア活動論、倫理学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	哲学入門	バートランド・ラッセル	ちくま学芸文庫
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	たったひとつの「真実」なんてない――メディアは何を伝えているのか?	森達也	ちくまプリマー新書
2			
3			

評価方法 （基準）	この授業は授業内課題（リアクションペーパー）30%、期末試験 70%で評価します。評価の基準については学部の規定に準じます。
学生への メッセージ	決して堅苦しい雰囲気の授業ではありませんので、肩の力を抜いて授業に参加してもらえればと思います。授業では時事問題についてみなさんによく尋ねます。世界では日々いろいろなことが起こっています。世界に関心をもち目を向けることが哲学を始める第一歩です。この授業を通じてニュースを毎日確認する習慣を身につけてもらえればと思います。
担当者の 研究室等	この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメイルにて受け付けます。 1 号館 2 階 非常勤講師室 メールアドレス：xmorimse[*]edu.setsunan.ac.jp （[*]を半角の@に置き換え）
備考	この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメイルにて受け付けます。

科目名	日本国憲法	科目名（英文）	Constitutional Law
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小宮山　直子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NS01410a2		

授業概要・目的	本講義では、日本国憲法の基礎的知識を修得することを目的としています。さらにその知識を活用して、社会における多様な問題について、憲法の視点を踏まえて自分の言葉で発言できるようになることを目標とします。できるだけ身近な素材を利用して講義を進めますので、「憲法」と日常生活との関わりについて考えてもらえる機会になるでしょう。また、憲法をめぐるさまざまな考え方にふれ、物事を多角的にみる能力を養います。
到達目標	この授業を通して学生は、「憲法」の意義、および日本国憲法の基礎知識を修得し、社会の中の憲法にかかわる諸問題について自分の意見を述べることができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	基本的には講義方式ですが、出席者の発言を期待しています。授業では、必要に応じてレジュメや資料を配布し、映像資料も活用する予定です。受講生の皆さんは、講義内容をしっかりとノートにまとめるよう努力しましょう。各授業の最後に、学習した内容の復習と知識の定着のために小テストやミニ・レポート作成の機会を設けます。
科目学習の効果（資格）	各資格試験や就職試験における法学科目の基礎知識としても有益です。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに 現代日本の法制度の概要について	講義 日本法全体における憲法の位置づけ	事前：日本国憲法全文を読んでおく。(1 時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(1 時間)
2	「憲法」とは	講義 欧米の「憲法」の歴史を概観する。「立憲主義」という言葉の意味を考える。	事前：授業のテーマに関連する文献（書籍・新聞等）を読んでおく。(1 時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(1 時間)
3	日本における「憲法」の成立と歩み	講義 日本において「憲法」はどのように誕生したのか？大日本帝国憲法の特徴とともに、日本国憲法の成立過程及び現在までの歩みを学ぶ。	事前：授業のテーマに関連する文献（書籍・新聞等）を読んでおく。(1 時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(1 時間)
4	「日本国憲法」の基本構造・基本原理	講義 日本国憲法の基本原理および基本構造（統治の基礎と人権の基礎）を確認する。第１条から、日本国憲法における「天皇」制と国民主権について考える。	事前：授業のテーマに関連する文献（書籍・新聞等）を読んでおく。(1 時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(1 時間)
5	人権総論　―　憲法で保障される人権とは	講義 日本国憲法の人権規定の基本にある考え方を学ぶ。人権規定の種類・分類を学び、人権の意義と全体像を確認する。	事前：授業のテーマに関連する文献（書籍・新聞等）を読んでおく。(1 時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(1 時間)
6	自由権①　信教の自由	講義 重要判例を通して信教の自由・政教分離の原則の意義を考える。また信教の自由をめぐる欧米の歴史も概観する。	事前：授業のテーマに関連する文献（書籍・新聞等）を読んでおく。(1 時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(1 時間)
7	自由権②　表現の自由　（その他の自由権）	講義 「表現活動」をめぐる判例や近年の動向を通して、表現の自由の重要性を検討する	事前：授業のテーマに関連する文献（書籍・新聞等）を読んでおく。(1 時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(1 時間)
8	社会権①　生存権	講義 まず社会権の歴史を学ぶ。生存権の意義と、日本の貧困問題を考える。	事前：授業のテーマに関連する文献（書籍・新聞等）を読んでおく。(1 時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(1 時間)
9	社会権②　労働をめぐる権利	講義 教育を受ける権利、労働者に保障される権利について学ぶ。	事前：授業のテーマに関連する文献（書籍・新聞等）を読んでおく。(1 時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(1 時間)
10	法の下の平等①	講義 憲法上の「平等」とは？「憲法」で保障される平等の意味・歴史を学ぶ。	事前：授業のテーマに関連する文献（書籍・新聞等）を読んでおく。(1 時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(1 時間)
11	法の下の平等②	講義 14 条・24 条をめぐる近年の重要判例を検討しつつ、家族をめぐる法や諸問題（夫婦別姓、同性婚の問題など）を憲法を通して考える	事前：授業のテーマに関連する文献（書籍・新聞等）を読んでおく。(1 時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(1 時間)
12	自己決定権／　子どもの権利	講義 新しい人権、特に「自己決定権」について考える。また、こどもの権利について検討する。	事前：授業のテーマに関連する文献（書籍・新聞等）を読んでおく。(1 時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(1 時間)
13	国会・内閣・裁判所	講義 日本の統治機構の基本を学ぶ。特に国会・裁判所の役割、さらに三権分立の意義を考える。	事前：次回の授業のテーマに関連する文献（書籍・新聞等）を読んでおく。(1 時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(1 時間)
14	平和主義	講義 戦後から現在までの「９条」をめぐる様々な動向・多様な意見を確認し、今後の日本の「平和」と憲法の意義を考えてみる。	事前：次回の授業のテーマに関連する文献（書籍・新聞等）を読んでおく（1 時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(1 時間)

	15	憲法改正の諸問題／まとめと復習	講義 憲法改正をめぐる動向と諸問題を検討する。これまでの講義内容全体を復習する。憲法の重要判例も再度確認する。	事前：授業のテーマに関連する文献（書籍・新聞等）を読んでおく。（1 時間） 事後：これまでのレジュメ及び資料を見直して、授業の全体像を再確認・整理する。重要キーワードについては、自分の言葉で説明できるよう整理する。（5 時間）

関連科目	法学入門

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	定期試験８０％と平常点（レポート・学習態度など）２０％によって総合的に評価します。 詳しくは初回の講義で説明します。
学生へのメッセージ	「憲法」の議論が活発化する今、憲法の基礎知識をしっかり修得しましょう。気軽に質問してください。
担当者の研究室等	１号館２階　（非常勤講師室）
備考	各授業の最後に実施する課題の解答などは、次の授業で解説します。

科目名	犯罪被害者の支援と法的救済	科目名（英文）	Legal Remedies for Victims of Crime
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野　晃正
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：IT01428a2～IT01432a2,L 科：LT01422a2～LT01426a2,D 科・S 科：IT01428a2～IT01432a2,P 科：YT01423a2～YT01427a2,J 科：,W 科：WT01424a2～WT01428a2,N 科：NT01420a2～NT01424a2		

授業概要・目的	・日常的な人間関係や医療過誤を通じて、何らかの犯罪の被害者となった場合、犯罪被害者はどのような対処をとることができるだろうか。 ・たとえば、医療機関における医療ミス、交友関係をめぐって生じるストーカーやデート DV の被害、近親者からの精神的・肉体的な虐待、学生をカモにする巧妙な儲け話から起因する詐欺被害（マルチ商法）、とりわけ男子学生が陥りやすい出会い系を通じた美人局被害、あるいは、家族が犯罪に遭うことによる経済的損失ないし被害など、事例を挙げればきりがない。 ・近年、わが国でも犯罪被害に遭った者を支援する制度が構築されつつある。 しかし、わが国ではこうした支援ないし救済策が講じられてこなかった期間が長すぎたため、多くの国民にその内容が浸透していない。そのため、依然として被害者は泣き寝入りするか、何も打つ手をとらずに最悪の結果を招来することもある。 ・本講義では、自身や家族が犯罪被害者となってしまった場合、どのような救済策があるのかをわかりやすく解説し、被害を最小限度にとどめ、さらには犯罪被害者に対する理解を深めることを目的とする。 ・犯罪被害者を論ずる前に、講義の数回を用いて、まず「加害者」の法的責任、「犯罪者」刑事責任、「犯罪者」の処遇、刑罰の正当化根拠、厳罰化をめぐる諸問題など、犯罪被害者を講じる前提となる伝統的な刑事学の講義を行う。 ・法的知識は、時代を生き抜く上での一種の「転ばぬ先の杖」（教養）でもあるため、文系や理系を問わず、幅広い学生を履修対象とする。
到達目標	この講義を通じて学生には、 「・「被害者」概念について説明できる ・犯罪被害者の救済制度を挙げ、これを説明できる ・犯罪被害者の支援制度について理解できる」 ようになることが期待される。
授業方法と留意点	・原則として講義形式で行うが、教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答をミニッツペーパーを通じて行う。
科目学習の効果（資格）	・万が一に犯罪の被害に遭ったとしても、泣き寝入りすることなく、正当な手法による被害回復や救済手段を身につけることができる。 ・公務員や法律事務所などへの就職に役立ちうる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 「加害者」と「犯罪者」 「被害者」と「犯罪被害者」	・授業の進め方と文献紹介 ・「加害者」の法的責任 ・「加害者」と「犯罪者」 ・「被害者」の意義 ・「犯罪被害者」の意義	・教科書の入手 事前：教科書第 1 章をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「犯罪被害者」とは何かについてノートにまとめること（2 時間）
2	少年犯罪の被害者	・少年法と被害者救済	事前：教科書第 6 章「少年犯罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「少年犯罪からの被害者救済」についてノートにまとめること（2 時間）
3	性犯罪の被害者	・性犯罪被害特有の問題点	事前：教科書第 6 章「性犯罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「性犯罪被害の特殊性」についてノートにまとめること（2 時間）
4	ドメスティックバイオレンス（ＤＶ）の被害者	・ＤＶ被害の特殊性	事前：教科書第 6 章「ＤＶ」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「ＤＶ被害の特殊性」についてノートにまとめること（2 時間）
5	ストーカー犯罪の被害者	・ストーカーへの対抗手段	事前：教科書第 6 章「ストーカー犯罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「ストーカー被害の特殊性」についてノートにまとめること（2 時間）
6	インターネット犯罪の被害者 刑事公判と被害者	・インターネット犯罪被害の特殊性	事前：教科書第 6 章「インターネット犯罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「インターネット犯罪被害の特殊性」についてノートにまとめること（2 時間）
7	児童虐待の被害者救済	・児童虐待の意義	事前：教科書第 6 章「児童虐待」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「児童虐待被害の特殊性」についてノートにまとめること（2 時間）
8	触法精神障害者からの被害	・精神障害者の加害行為と対処法	事前：教科書第 6 章「触法精神障害者」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「触法精神障害者からの被害の特殊性」についてノートにまとめること（2 時間）
9	犯罪被害救済総論①	・被害届と告訴・告発の効果 ・加害者との示談交渉 ・マスコミ対策 ・検察審査会 ・検察審査員 ・審査申立手続 ・検察審査会と被害者 ・起訴議決制度	事前：教科書第 2 章「刑事手続きの流れ」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「刑事手続きの流れ」についてノートにまとめること（2 時間）
10	犯罪被害救済総論②	・被害者による裁判傍聴と参加 ・被害者による記録の閲覧と謄写	事前：教科書第 3 章「被害者参加制度」をあらかじめ読むこと（2 時間）

			・被害者における心情陳述 ・被害者等特定事項の非公開 ・遺影の持ち込みと公正なる刑事裁判	事後：「被害者参加制度」についてノートにまとめること（2 時間）
	11	犯罪被害救済総論③	・損害賠償命令制度	事前：教科書第 4 章「損害賠償命令制度」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「損害賠償命令制度の長所と短所」についてノートにまとめること（2 時間）
	12	犯罪被害救済総論④	・被害回復給付金制度	事前：教科書第 4 章「被害回復給付金制度」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「被害回復給付金制度の長所と短所」についてノートにまとめること（2 時間）
	13	犯罪被害救済総論⑤	・犯罪被害者等給付金支給制度	事前：教科書第 7 章「犯罪被害者等給付金支給制度」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「犯罪被害者等給付金支給制度」についてノートにまとめること（2 時間）
	14	犯罪被害救済総論⑥	・加害者情報へのアクセス ・法テラス	事前：教科書第 7 章「法テラス」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「法テラス」についてノートにまとめること（2 時間）
	15	重要事項のまとめと確認テスト	重要事項のまとめ	事前：教科書で取り扱った箇所をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：重要事項についてノートにまとめること（2 時間）

関連科目	各学部開講の教養科目・・・法学入門、現代社会と法、日本国憲法 法学部開講の専門科目・・・刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、刑事政策、少年法、民法、民事訴訟法ほか

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	補訂版 犯罪被害者支援実務ハンドブック	第一東京弁護士会犯罪被害者に関する委員会	東京法令出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	開講時に指示する。		
2			
3			

評価方法（基準）	・定期試験（95%）および講義の理解を試すミニッツペーパー（5%）の合計によって評価する。
学生へのメッセージ	・事件報道やその後の話、あるいは社会の問題に関心のある学生が受講することをおすすめします。知って得をすることがあっても、損はさせない内容です。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　小野准教授室
備考	講義の理解を試すミニッツペーパーに対するコメントは次回講義の冒頭で行う。

科目名	ビジネスマナー	科目名（英文）	Business Manners
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	奥田　和子
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：ITO1428a2～ITO1432a2,L 科：LTO1422a2～LTO1426a2,D 科・S 科：ITO1428a2～ITO1432a2,P 科：YTO1423a2～YTO1427a2,J 科：,W 科：WTO1424a2～WTO1428a2,N 科：NTO1420a2～NTO1424a2		

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。 企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性とそれを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。 ホテル実務経験者として、対人技能やコミュニケーションスキルの重要性を伝え、また経営士としての観点から人間関係について話をします。
到達目標	クリエイティブなビジネスパースンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。
授業方法と留意点	ロールプレイやグループワークを多く取り入れるため、学生の積極的な参加が求められる。
科目学習の効果（資格）	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション －あいさつの重要性（理論と実践）	・授業のオリエンテーション ・授業のルール ・あいさつの真の意味とは ・正しい基本姿勢を学ぶ	・事前学修：ビジネスマナーとは何かを考える。 ・事後学修：ビジネスマナーの意義とは何か、400字でまとめる。
2	仕事の進め方と組織活動	・定型業務と非定型業務 ・コスト意識とエコ活動 ・仕事の基本の８つの意識 ・話し方と聞き方	・事前学修：仕事の基本の８つの意識について調べる。 ・事後学修：仕事の取り組み方の基本は何か、まとめる。
3	目標設定と PDCA サイクル	・目標設定（MBO） ・PDCA とは ・チームと個人の役割	・事前学修：PDCA について調べる。 ・事後学修：あなたの日常生活における MBO ととPDCA を考え、まとめる（400 字以上）。
4	スケジュールと出張業務	・スケジュールの作り方 ・業務としての出張-YTT 方式-	・事前学修：あなたの１週間予定表を作成する。 ・事後学修：あなたの予定表を作成提出し、改善点をまとめる。
5	ビジネスの場での敬語表現	・基本的な敬語表現の復習 ・ビジネスの場での使用方法-TPO をもとに-	・事前学修：敬語プリント①をする。 ・事後学修：ケーススタディプリントをする。
6	電話応対	・ビジネスフォンの扱い方 ・5W2H から 6W3H へ ・簡潔メモの作り方 ・不在処理と伝言	・事前学修：電話応対プリントをする。 ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。
7	来客応対	・組織図と対応 ・簡単な応対から不在処理や重複処理まで ・名刺交換	・事前学修：来客応対プリント①をする。 ・事後学修：来客対応プリント②をする。
8	ホウ・レン・ソウ	・ビジネスにおける「報連相」 ・指示の受け方 ・業務の優先順位	・事前学修：報告・連絡・相談の重要性について調べる ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をする。
9	ビジネス文書の基本①	・社外文書が基本 ・商取引文書と社交文書の相違 ・社内文書と社外文書の種類 ・ファイリング	・事前学修：ビジネス文書始める前にをする。 ・事後学修：ビジネス文書②をする。
10	ビジネス文書の基本②	・実践	・事前学修：ビジネス文書③をする。 ・事後学修：ビジネス文書④をする。
11	ビジネス通信の基本	・通信手段（電子メール、ファックス等）の選択 ・作成上の注意点 ・郵便・宅配便の知識	・事前学修：郵便の知識プリント①をする。 ・事後学修：メール文書を作成する。
12	法的業務	・押印と印鑑の意味 ・内容証明 ・個人情報保護（P マーク） ・コンプライアンス	・事前学習：コンプライアンスについて調べる。 ・事後学修：個人情報保護法についてレポートを作成する（400 字以上）。
13	設営の基本	・YTT 方式からの業務遂行 ・確認の必要性 ・他部署とのコミュニケーションの必要性	・事前学修：同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめる。 ・事後学修：設営事例をまとめる。
14	慶弔と贈答	・慶弔時の基本的マナー ・「式」について ・業務としての贈答	・事前学修：慶弔・贈答プリント①をする。 ・事後学修：ビジネス文書（社外社内）、郵便の知識、慶事のマナーのポイントをまとめる。
15	協働とコミュニケーション	・外国人同僚・異文化への対応 ・働き方とキャリア開発 ・公共の場でのマナー	・事前学修：ビジネス実務能力を身に付け、グローバル社会へ対応していく決意を示す。 ・事後学修：全体をまとめる。

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

	2
	3
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 2 3
評価方法（基準）	ロールプレイ等のワーク（20%）、複数回のレポート（40%）、期末試験（40%）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなった。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致の重要性が理解され、社会人としての第一歩を築くことも可能となる。
担当者の研究室等	７号館５階　キャリア教育推進室（石井）
備考	予習・復習に毎回２時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。

科目名	プロポーザル・デザイン	科目名（英文）	Design and Proposal
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北村　浩
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：IT01428a2～IT01432a2,L 科：LT01422a2～LT01426a2,D 科・S 科：IT01428a2～IT01432a2,P 科：YT01423a2～YT01427a2,J 科：,W 科：WT01424a2～WT01428a2,N 科：NT01420a2～NT01424a2		

授業概要・目的	新しい商品・サービスを共創型でいかに創造するか、企画の提案&設計（プロポーザル・デザイン）の方法論を学習する。特に、企業・消費者等のアイデア・感性を融合する『デザイン思考（Design Thinking)』の手法により、多様なメンバーから成るグループ型の提案をどのように進めるのかを実践する。 デザイン思考は、学部・専攻の枠を超えた汎用的な課題解決プロセスを提供し、多くの産官学で実践されている米国発の方法論で、新サービス有形化の手段として、新市場の開拓を狙う関係者から注目を集めている。 担当教員は、IT&コンサルティング企業で手掛けてきた国内・海外での多数の顧客企業向けのプロポーザル（提案書）の企画・デザインの推進実績をもとに、課題解決を支援する視点・指針を示し、学生の主体的かつ自律的な学習活動を支援する。
到達目標	インターネットやソーシャルメディアの利活用を図り、新サービスを提供する業界・企業等の事例研究、提案活動の体験をとおして、提案を支援するデザインに関するリテラシーとコミュニケーション力を育成する。主な目標は次の通り。 1. サービス思考　どのようなサービスを提案し、いかにつくるのか（試作化）を試みる。 2. 共創（コラボレーション）　異分野や立場の異なる人達と思考ベクトルを合わせ、新しい価値の創出を狙う。 3. サービス提案　共創することで、アウトカム（成果）としてまとめて、プレゼンテーションで発信する。
授業方法と留意点	授業は、①講義（前半）、②グループワーク（後半）から成る。グループワークは、デザイン思考を適用したサービスデザインのケーススタディの演習に取り組み、ディスカッションやプレゼンテーション（グループまたは個人）を行う課題を指示する。ケーススタディは、現代社会の公私の活動で接することの多い IT サービスデザイン事例に、グループワークで取り組み、デザイン思考の方法論による課題解決のプロポーザル（提案）のリテラシーを高めることを学ぶ。質問は、対面に加え、指定する Web フォーム・質問共有システム（初回授業でガイド予定、締切厳守で毎回運用する）にて記名式のものを対象に適宜回答する。 グループワークで行うケーススタディ以外に、a. 個人向け課題の提示、b. 質問のクラス共有のために、携帯端末（スマートフォン）を持参することを推奨する。
科目学習の効果（資格）	・サービスデザインの方法論の手順、グループワークによる共創活動の概観を理解することができる。 ・モノのデザインとサービスデザインの違いを理解して、後者への基礎的な素養を身につけることができる。 ・他学部の異分野・専攻者とのグループワークによる意見交換と創造の機会に慣れ親しむことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	・授業ガイダンス ・『デザイン思考（Design Thinking)』とは何か ・デザインファームの役割	事後学習：イントロダクション内容から質問を Web フォーム入力する。(標準学習時間：0.5 時間)
2	サービスデザイン	・サービスデザイン ・人間中心のデザイン ・グループワーク&プレゼン	事前学習：日常接する IT サービスを列挙し、役割と特徴を、1 ページに要約する。(標準学習時間：1 時間)
3	ヒトの視点の適用デザイン	・サービスの人間の感性 ・IT サービスデザイン ・グループワーク&プレゼン	事前学習：参考文献の『デザイン思考』(前半) 概観を読んで、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)
4	市場とプロポーザルの視点	・市場におけるプロポーザルの意味 ・プロポーザルの視点 ・グループワーク&プレゼン	事前学習:指定する IT サービス事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)
5	デザイン思考の概観	・デザイン思考とシステム思考 ・デザイン思考の位置づけ ・個人発表（プレゼンテーション）	事前学習：指定する対面サービス事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)
6	顧客体験デザイン	・顧客体験デザイン（カスタマーエクスペリエンスデザイン：Customer Experience Design) ・グループワーク&プレゼン	事前学習：参考文献の『デザイン思考』(後半) 概観を読んで、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)
7	デザイン思考の手順	・デザイン思考の手順 ・発見・定義・発想・実証 ・グループワーク&プレゼン	事前学習：指定する業界・企業のデザイン思考の適用事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)
8	デザイン思考のプロトタイピング	・サービスのプロトタイピング（試作） ・グループワーク&プレゼン	事前学習：指定する業界・企業のデザイン思考の適用事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)
9	プロローザルのステークホルダー	・ステークホルダー　顧客、取引先、CMO (chief marketing officer)、利益団体 (Interest Group) ・個人発表（プレゼンテーション）	事前学習：参考文献の『デザインの誤解』を読んで、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)
10	プローザル（提案書）	・プロポーザルの構成と目次 ・顧客の課題解決の提案 ・グループワーク&プレゼン	事前学習：参考文献の『デザイン思考の誤解』を読んで、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)
11	B2C/B2B とデザイン思考	・B2C とデザイン思考 ・B2B とデザイン思考 ・グループワーク&プレゼン	事前学習：指定する業界・企業のデザイン思考の適用事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)
12	デザイン思考の個別手法	・思考の発散と収束 ・演繹法と帰納法 ・グループワーク&プレゼン	事前学習：参考文献の『デザイン思考の実践』を読んで、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)
13	オープンデザイン	・オープンデザイン ・ビジネス実践事例 ・グループワーク&プレゼン	事前学習：参考文献の『デザイン思考の社会実装』を読んで、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)
14	デザイン思考ビジネスの紹	・デザインファーム企業の講演	事後学習：講演をとおして、何が理解でき、またど

		介	・トークセッション	んな疑問が生じたのかをWebフォーム入力する。(標準学習時間：0.5時間)
	15	まとめ	・総括 ・小テスト ・小テストフィードバック	事後学習：総括と小テストの内容から質問をWebフォーム入力する。(標準学習時間：0.5時間)

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	デザイン思考の先を行くもの ファン・ブイエン，アネミック/ダールハウゼン，ヤープ/ザイルストラ，イェル/ファンデル・スコール，ロース	各務 太郎	クロスメディア・パブリッシング
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	デザイン思考が世界を変える	ティム・ブラウン	早川書房
2	IBMの思考とデザイン	山崎 和彦	丸善出版
3	オープンデザイン ―参加と共創から生まれる「つくりかたの未来」	ヴァン・アベル，バス/エバーズ，ルーカス/クラーセン，ロエル/トロクスラー，ピーター	オライリージャパン

評価方法 （基準）	平常点（15%）、個人課題（5%）、小テスト（10%）、期末テスト（70%）の累計による総合評価を行う。平常点は、ケーススタディのグループ課題（毎回および不定期、授業時間内の提出）、指名者（個人・グループ）発表、積極的な質問、建設的な発言等の授業への参画の程度で評価する。授業において、迷惑な私語、携帯機器の私用、遅刻等の進行を妨げる者、授業に無関係な行動を行う者については退室指示等で厳しく対処し、かつ成績評価に反映する。授業の受講に集中すること。
学生への メッセージ	新サービスの発想を形にする方法論として、市場から注目を集めているデザイン思考を学習します。多様な視点で考察・提案を進め、異なる価値観を有する人達との情報交流をとおして成果を導き出すアプローチに慣れ親しんでください。グループワークで共創する機会を主体的かつ自律的に参画し、コミュニケーションをとおして触発し合う重要性を認識すること。グループでの自分の存在感が発揮できるように率先して問題の発見・解決に取り組むこと。
担当者の 研究室等	11号館7階（北村教授室）
備考	指定座席での着席をお願いします。課題等のフィードバックについては、グループワークのケーススタディ、個人課題、小テストが主対象で、提出後早期の授業の中で、書面（MS Office形式）や学習支援ツール（Webフォーム形式）の媒体を使って、詳細を説明する。 初回の授業ガイダンスでは、クラス運営法、日常学習方法、成績評価基準（評価マトリクス）の説明、ケーススタディ（グループ・個人）、課題発表（プレゼンテーション）の実施要領、学習支援ツール（Webフォーム・質問共有システム）の使用方法を説明するので、必ず出席すること。また、授業の出席回数の要件を満たさない者、成績評価にかかわる活動での不正行為者は、初回授業で示す評価基準に従った評価を行う。

科目名	文学	科目名（英文）	Literature
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	辻　晶子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NHU1404a2		

授業概要・目的	【授業概要】 説話や絵巻などの古典文学に描かれた、生老病死の諸相を読みます。 自身の専門とする学びや、これからの生き方に反映させながら、受講してください。 【授業目的】 ・近代以前のひとびとが、命や身体をどのように捉えていたかを知る。 ・経験を振り返り、自分を自分たらしめる物語を想う。
到達目標	・近代以前の生命観・身体観について、具体的に説明できる。 ・自身の生命観・身体観を言語化し、他者に対して表現できる。 ・自分を支える物語を見つけることができる。
授業方法と留意点	【授業方法】 基本的には講義形式で、適宜ペアワーク・グループワークを行います。 【留意点】 ・初回授業はガイダンスを含みますので、必ず出席してください。 ・授業中の私語・飲食・スマホの使用は控えてください。 ・熱中症対策としての水分の摂取は奨励します。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 「生」を読む	講義 ペアワーク・グループワーク	【事前学習】 シラバスをよく読む（60 分） 【事後学習】 配布資料を見直す（30 分） 授業に対するコメントペーパーを書く（30 分）
2	「子ども」を読む（1）	講義 ペアワーク・グループワーク	【事前学習】 資料を読む（60 分） 【事後学習】 配布資料を見直す（30 分） 授業に対するコメントペーパーを書く（30 分）
3	「子ども」を読む（2）	講義 ペアワーク・グループワーク	【事前学習】 資料を読む（60 分） 【事後学習】 配布資料を見直す（30 分） 授業に対するコメントペーパーを書く（30 分）
4	「出産」を読む	講義 ペアワーク・グループワーク	【事前学習】 資料を読む（60 分） 【事後学習】 配布資料を見直す（30 分） 授業に対するコメントペーパーを書く（30 分）
5	「胎児」を読む	講義 ペアワーク・グループワーク	【事前学習】 資料を読む（60 分） 【事後学習】 配布資料を見直す（30 分） 1～5 回授業に関するミニレポートを書く（30 分）
6	「母乳」を読む	講義 ペアワーク・グループワーク	【事前学習】 資料を読む（60 分） 【事後学習】 配布資料を見直す（30 分） 授業に対するコメントペーパーを書く（30 分）
7	「性」を読む	講義 ペアワーク・グループワーク	【事前学習】 資料を読む（60 分） 【事後学習】 配布資料を見直す（30 分） 授業に対するコメントペーパーを書く（30 分）
8	「身体」を読む	講義 ペアワーク・グループワーク	【事前学習】 資料を読む（60 分） 【事後学習】 配布資料を見直す（30 分） 授業に対するコメントペーパーを書く（30 分）
9	「老い」を読む	講義 ペアワーク・グループワーク	【事前学習】 資料を読む（60 分） 【事後学習】 配布資料を見直す（30 分） 授業に対するコメントペーパーを書く（30 分）
10	「病」を読む	講義 ペアワーク・グループワーク	【事前学習】 資料を読む（60 分） 【事後学習】 配布資料を見直す（30 分） 6～10 回授業に関するミニレポートを書く（30 分）
11	「死」を読む	講義 ペアワーク・グループワーク	【事前学習】 資料を読む（60 分）

				【事後学習】 配布資料を見直す（30 分） 授業に対するコメントペーパーを書く（30 分）
	12	「死体」を読む	講義 ペアワーク・グループワーク	【事前学習】 資料を読む（60 分） 【事後学習】 配布資料を見直す（30 分） 授業に対するコメントペーパーを書く（30 分）
	13	「死後」を読む	講義 ペアワーク・グループワーク	【事前学習】 資料を読む（60 分） 【事後学習】 配布資料を見直す（30 分） 授業に対するコメントペーパーを書く（30 分）
	14	「魂」を読む	講義 ペアワーク・グループワーク	【事前学習】 資料を読む（60 分） 【事後学習】 配布資料を見直す（30 分） 授業に対するコメントペーパーを書く（30 分）
	15	まとめ 自分の生を読む	講義 ペアワーク・グループワーク	【事前学習】 資料を読む（60 分） 【事後学習】 配布資料を見直す（30 分） 11～15 回授業に関するミニレポートを書く（30 分）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法
（基準）

授業内パフォーマンスによって、総合的に評価します。定期試験や期末レポートはありません。
100 点満点中 60 点以上で合格とします。

評価基準は、以下のとおりです。
・コメントペーパー　全 10 回（60%）
・ミニレポート　全 3 回（30%）
・質疑などの積極的な受講姿勢（10%）

学生への
メッセージ

高等学校の「古文」が苦手だった人も歓迎します。
古典文法や古文単語を覚えていなくても全く問題ありません。

一緒に、古典世界を楽しく学びましょう。

担当者の
研究室等

1 号館 2 階　非常勤講師室

備考

授業前後の自主学習は、授業内で得た知見を自分の学習や日常に活かすよう、意識することです。
質問等がある場合は、出講時に非常勤講師室にて、あるいは授業前後に教室にて、対応します。

科目名	文化人類学	科目名（英文）	Cultural Anthropology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西垣　有
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NHU1405a2		

授業概要・目的	人類学はこれまで、世界中の人々の多様な生の理解を通して、私たち人類が地球上に生き、存在するということがどのような事態なのかを探求してきた。本講義では、人類学の基礎的な概念や方法を概説し、人類学がどのような学問なのかを示した上で、そのような人類学的な見方の成立と歴史的展開をあとづける。
到達目標	・人類学的思考がどのようなものであるかを理解すること。 ・人類学誕生以来の学説史的な展開、流れを理解すること。
授業方法と留意点	講義
科目学習の効果（資格）	異なった視点からものごとをみることにより、私たちの思考や制度を可能にしているさまざまな前提をゆさぶり、世界の見方を新たにする。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	文化人類学とは？	人間、文化、フィールドワーク、エスノグラフィーなど人類学の基礎的な概念や方法論について概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします（30 分から 1 時間程度）。分からないところは早めに質問に来るようにしてください。
2	人類学の誕生（１）：博物学から人類学へ	19 世紀におこった博物学から進化主義人類学へという変化を通して、人類学の誕生をあとづける。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします（30 分から 1 時間程度）。分からないところは早めに質問に来るようにしてください。
3	人類学の誕生（２）：進化主義人類学	前回の続き。E・タイラー、L・H・モーガン、J・フレイザーの研究を例に進化主義人類学とそれまでの博物学的研究との違いをみる。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします（30 分から 1 時間程度）。分からないところは早めに質問に来るようにしてください。
4	機能主義人類学（１）：マリノフスキーとフィールドワーク	フランス社会学におけるデュルケーム学派の成立とイギリスの機能主義人類学について、B・マリノフスキーと A・ラドクリフ=ブラウンの研究を中心に概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします（30 分から 1 時間程度）。分からないところは早めに質問に来るようにしてください。
5	機能主義人類学（２）：有機的全体としての社会	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします（30 分から 1 時間程度）。分からないところは早めに質問に来るようにしてください。
6	アメリカ文化人類学の誕生（１）：	フランツ・ボアズの研究を概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします（30 分から 1 時間程度）。分からないところは早めに質問に来るようにしてください。
7	アメリカ文化人類学の誕生（２）	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします（30 分から 1 時間程度）。分からないところは早めに質問に来るようにしてください。
8	アメリカ文化人類学の展開（１）	ルース・ベネディクトとマーガレット・ミードの研究を紹介し、アメリカ人類学のおける「文化」概念の精緻化の過程をみる。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします（30 分から 1 時間程度）。分からないところは早めに質問に来るようにしてください。
9	アメリカ文化人類学の展開（２）	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします（30 分から 1 時間程度）。分からないところは早めに質問に来るようにしてください。
10	構造主義（１）：モースからレヴィ=ストロースへ	マルセル・モースの『贈与論』と C・レヴィ=ストロースの構造主義について概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします（30 分から 1 時間程度）。分からないところは早めに質問に来るようにしてください。
11	構造主義（２）	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします（30 分から 1 時間程度）。分からないところは早めに質問に来るようにしてください。
12	構造主義（３）	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします（30 分から 1 時間程度）。分からないところは早めに質問に来るようにしてください。
13	解釈人類学（１）	クリフォード・ギアツの研究を概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度

				に要約してみることをお勧めします（30 分から 1 時間程度）。分からないところは早めに質問に来るようにしてください。
	14	解釈人類学（２）	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします（30 分から 1 時間程度）。分からないところは早めに質問に来るようにしてください。
	15	『文化を書く』とそれ以降	ポストモダン人類学とその後の展開について概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします（30 分から 1 時間程度）。分からないところは早めに質問に来るようにしてください。

関連科目	学芸員課程

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	評価方法： 評価の配分は試験を 50%、レポートなどの課題提出を 50%とする。 評価の基準： 試験については、人類学がどのような学問であるかを講義で説明した流れに沿ってきちんと理解できているかどうか、レポートについては、人類学的思考がどのようなものかを理解したうえで書けているかどうかを基準とする。ネットや参考書などで調べた知識は（授業内容と無関係であった場合）必ずしも評価の対象とならない。
学生へのメッセージ	情報量が多いのでたくさんノートを取ってください。事前学習より事後学習が大切です。ノートを読み返し、理解できているかを確認すること。分からないことがあれば、質問に来てください。 この授業に限らず一般論として、分かったつもりになっていても、試験などでいざ書こうとしたら、実はわかっていなかったという事態はしばしば起こります。そこで、この授業ではノートに半分から 1 ページほど（10 から 20 行程度）で、前の週の要約を作ってみることをお勧めしています。もし要点をうまくまとめることができれば、それは前の週の授業を整理して理解できているということを意味します。分からないことがあれば、授業後等に私のところに見せに来てください。また、希望者には要約を添削して、次週以降に返却します。 授業の中で行うレポート課題は評価の 50%をしめます。決して疎かにせず、きちんと提出するようにしてください。
担当者の研究室等	1 号館 2 階　非常勤講師室
備考	参加人数および参加者の関心・希望に応じて、授業内容が多少変更される場合があります。

科目名	法学入門	科目名（英文）	Introduction to Jurisprudence
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	安藤　由香里
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NS01409a2		

授業概要・目的	本授業は、法が「日常生活」および「医療従事者」としてどのような機能を果たしているかについて「楽しく」学ぶことを目的とする。
到達目標	1. 社会における法の役割について理解する。 2. グローバルな視野を身につけるために多様な事象を考察する。 3. 批判力および分析力を養うために、参加型講義を実施する。
授業方法と留意点	教科書以外にも授業中に適宜参考資料を紹介する。 毎回、予習・復習として講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認し持参すること。 授業冒頭で、近くの席の人に自分の印刷した記事を見せ、事件の概要となぜその記事を選らんだかを説明する。
科目学習の効果（資格）	法律の基本的知識やその活用について学ぶことは、医療従事者としての社会生活、そして日常生活に必ず役立ちます！

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	法ってなんだろう？	講義の目的、進め方、成績評価／私たちの生活と法	
2	人間らしく生きる権利の保障－基本的人権(1)	基本的人権、プライバシー、自己決定権、信教の自由	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認
3	人間らしく生きる権利の保障－基本的人権(2)	表現の自由、生存権、法の下の平等	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認
4	現代行政における国民	外国人の権利、入国管理	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認
5	すべては契約から	契約の自由、損害賠償、住まいと法律	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認
6	いろいろな決済方法	クレジットカード、連帯保証、自己破産	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認
7	家族と法－結婚・離婚	法律婚、事実婚、離婚、親権、監護権	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認
8	家族と法－親子関係	扶養、相続、遺言	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認
9	日常生活のアクシデント－交通事故	交通事故、自動車、自転車	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認
10	日常生活のアクシデント－医療事故	インフォームドコンセント、医療過誤	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認
11	日常生活のアクシデント－製造物責任・悪徳商法	クーリングオフ	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認
12	罪と罰－犯罪(1)	脳死・臓器移植、インフォームドコンセント	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認
13	罪と罰－犯罪(2)	インフォームドコンセント、安楽死・尊厳死と刑法	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認
14	労働と法	労働契約、解雇・失業	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認
15	社会保障と法	子育て、介護	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認

関連科目	日本国憲法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ワンステップ法学	國友順市、畑雅弘(編著)	嵯峨野書院
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	1. 小テスト(2回)　50% 2. 毎回、新聞記事を持参し討議に積極的に参加している。　20% 3. 毎回、コメント用紙に積極的に記入し提出する。　30%
学生へのメッセージ	法は、私たちの生活のどこにでも常に関わってくる問題です。 医療従事者として知らないではすまされない基礎知識があります。 本講義を通じて、そのことを実感し、社会問題を問いなおす視点を身につけてください。
担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室 Email: yukari.ando@edu.setsunan.ac.jp
備考	1. 講義前の予習（教科書を読む。1時間×15回） 2. 復習（講義の重要事項をまとめる。1.5時間×15回） 3. 自己学習（講義に関連する新聞記事を読み、次週に持参する）

科目名	ボランティア活動論	科目名（英文）	Study of Volunteer Activity
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	森本　誠一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NSO1407a2		

授業概要・目的	東日本大震災という未曾有の災害を経験し、ボランティア活動が日本で再び注目されるようになってきました。1995 年が日本のボランティア元年と呼ばれるようになったきっかけは阪神・淡路大震災でした。ただ、一言でボランティア活動と言っても、地域の清掃を行うといったような身近なものから専門的な知識を要するものまで活動の分野、規模、種類、求められる条件などはさまざまです。この授業では、ボランティア活動の意義、歴史、活動の分野や種類、そして社会制度との関係など、ボランティア活動の基本を学修し理解することを目標にしています。
到達目標	この授業を履修することで、受講生は次のことができるようになります。 （1） ボランティア活動の意義について理解し説明できる （2） 多様なボランティア活動について理解し説明できる （3） ボランティアを必要とする人びとがいることを知るとともに、ボランティアを必要とする社会のしくみについて理解し説明できる
授業方法と留意点	この授業は講義形式ですが、受講生との対話を通じて授業を進めていきます。授業を受けるにあたって膨大な資料を読んだり多くのことを暗記したりする必要はありませんが、毎回の授業に出席しなければ学修の効果は薄いでしょう。また、授業の終わりに毎回リアクションペーパーを提出してもらい、第２回目以降の授業では冒頭でそれを取り上げます。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	この授業で何を学ぶのか、授業の全体像を把握します。授業の進め方、成績評価の時期、方法、基準についても確認します。	事前学習：シラバスをしっかり読んでから授業に出席すること。また、授業に出席するにあたっては、シラバスを印刷して持参するか情報端末で見られる状態にしておくこと。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90 分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90 分)
2	概論	ボランティア活動の意義、目的、必要性、種類、歴史について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90 分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90 分)
3	なぜボランティアが必要なのか？	ボランティアの必要性について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90 分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90 分)
4	支え合いによって成り立つ社会――市民社会論	支え合いによって成り立つ社会、市民社会について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90 分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90 分)
5	NPO、NGO	NPO、NGO とは何か、またそれらがボランティア活動において果たす役割はどのようなものなのか学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90 分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90 分)

	6	社会制度とボランティア活動	社会制度が NPO、NGO の活動やボランティア活動にもたらす影響について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90 分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90 分)	
	7	グループワーク（1）――国内外の NGO 団体について調査	5 人前後のグループに分かれ、国内外の NGO 団体について調査します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90 分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90 分)	
	8	グループワーク（2）――国内外の NGO 団体について発表の準備	前回に引き続き、各グループで担当するテーマについて発表の準備をします。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90 分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90 分)	
	9	グループワーク（3）――国内外の NGO 団体について発表	グループで調査した内容にしたがって、国内外の NGO 団体がどのような活動を行っているのか紹介します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90 分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90 分)	
	10	災害とボランティア	災害とは何か、また災害時にどのようなボランティア活動があるのか学修します。災害時に活躍する専門ボランティアについて学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90 分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90 分)	
	11	医療福祉ボランティア	医療福祉ボランティアの種類や特徴について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90 分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90 分)	
	12	マイノリティとボランティア活動	マイノリティを支援するボランティア活動について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90 分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90 分)	
	13	国際ボランティア	国際ボランティアの種類や特徴について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるの	

				か考えてみましょう。(90 分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90 分)
	14	文化ボランティア、その他のボランティア	文化ボランティア、およびその他のボランティアについて学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90 分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90 分)
	15	まとめ、全体のふり返り	この授業で何を学んだのかを振り返ります。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90 分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90 分)

関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	この授業は授業内課題（リアクションペーパー）15%、グループワーク 20%、期末試験 65%で評価します。評価の基準については学部の規定に準じます。
学生へのメッセージ	決して堅苦しい雰囲気の授業ではありませんので、肩の力を抜いて授業に参加してもらえればと思います。授業では時事問題についてみなさんによく尋ねます。日本でも毎日いろいろなことが起こっていますが、世界ではもっといろいろなことが起こっています。ボランティアが必要であるということも、そうした世界での出来事に目を向けることから始まります。この授業を通じてニュースを毎日確認する習慣を身につけてもらえればと思います。
担当者の 研究室等	メールアドレス：xmorimse[*]edu.setsunan.ac.jp （[*]を半角の@に置き換え） この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメイルにて受け付けます。
備考	この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメイルにて受け付けます。

科目名	マーケティングと歴史	科目名（英文）	Marketing and History
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武居　奈緒子
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP8△,J科：DP1◎,W科：DP1◎,N科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：IT01428a2～IT01432a2,L科：LT01422a2～LT01426a2,D科・S科：IT01428a2～IT01432a2,P科：YT01423a2～YT01427a2,J科：,W科：WT01424a2～WT01428a2,N科：NT01420a2～NT01424a2		

授業概要・目的	この講義では、マーケティングを歴史的に考察することを目的としています。特にマーケティングの発想を踏まえ、呉服商の経営活動について説明していきます。
到達目標	マーケティングと歴史に関する基本的知識を修得し、活用できることを目指します。
授業方法と留意点	講義形式を基本とします。
科目学習の効果（資格）	マーケティング的発想で社会を見る眼が養えます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	マーケティングについて解説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングに関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
2	製品政策	ヒット商品はどのようにして作られるのかについて考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、製品政策に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
3	価格政策	価格の設定方法について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、価格政策に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
4	流通チャネル政策	商品はどのような経路をたどって販売されるのかについて考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、流通チャネル政策に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
5	販売促進政策	商品のアピールの仕方について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、販売促進政策に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
6	マーケティングのＳＴＰアプローチ	市場細分化について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、ＳＴＰアプローチに関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
7	消費行動	消費者の購買意思決定過程について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費行動に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
8	マーケティングの歴史的研究と三井越後屋	マーケティングにおける歴史的研究と三井越後屋の商法について説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、三井越後屋に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
9	呉服商の流通機構	呉服商の流通機構について、概説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、呉服商の流通機構に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
10	越後屋の仕入機構（１）	三井越後屋の絹の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
11	越後屋の仕入機構（２）	三井越後屋の木綿の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
12	いとう松坂屋、大丸屋の仕入機構	いとう松坂屋や大丸屋の仕入機構について、概説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、いとう松坂屋・大丸屋の仕入機構に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
13	呉服商から百貨店へ	呉服商から百貨店への変遷について概説します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店化に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
14	百貨店業態の成立	百貨店について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店業態に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
15	まとめ	全体のまとめをします。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングと歴史の総復習をしておきましょう。（所要時間１時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大規模呉服商の流通革新と進化ー三井越後屋における商品仕入れ体制の変遷ー	武居　奈緒子	千倉書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	史料が語る三井のあゆみ	三井文庫編	吉川弘文館
2	消費行動　新版	武居　奈緒子	晃洋書房
3			

評価方法 （基準）	期末テストの成績 70%、授業内課題 30%
学生への メッセージ	授業で提示される問題・課題に真摯に取り組みましょう。
担当者の 研究室等	11 号館８階　武居教授室
備考	

科目名	身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	科目名（英文）	Neighborhood Crime Prevention
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中沼　丈晃
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：IT01428a2～IT01432a2,L 科：LT01422a2～LT01426a2,D 科・S 科：IT01428a2～IT01432a2,P 科：YT01423a2～YT01427a2,J 科：,W 科：WT01424a2～WT01428a2,N 科：NT01420a2～NT01424a2		

授業概要・目的	私は、地域における防犯を研究し、自分自身も、研究室の学生とともに、青パト（青色回転灯をつけた自主防犯パトロールカー）で毎日、子どもの見守り活動を行っている。そうした研究者として、普段一番接する学生に、犯罪の実態を知ってもらい、少しの注意と手間で犯罪から身を守れることをわかってほしくて、この講義を開講することとした。加えて、それほど気負わなくても、防犯ボランティアとして社会貢献できる方法があることも紹介したいと考えている。 学科の学習・教育目標との対応：工学部[A]，理工学部［II］
到達目標	この授業を通じて学生には、自分と家族の身近でどんな犯罪が起きているか知り、どのような対策が必要かわかるようになることが期待される。防犯ボランティアへの参加の動機づけが大きくなればなおよい。
授業方法と留意点	とにかく実際の事件を取り上げて、加害者の視点、被害者の視野、発生した場所・時間の特徴、警察や行政、学校、ボランティアの動きを具体的に説明する。そして、いま推奨されている防犯対策を紹介する。警察の防犯実務者や、活躍する防犯ボランティア団体の世話役の方をお招きしたインタビュー講義も交えていく。
科目学習の効果（資格）	各自が自分で、家庭で防犯対策をして、犯罪から身を守れるようになってもらうのが第一である。防犯ボランティア参加の動機づけにもなるだろう。職業では、当然、警察官の仕事の視点がわかる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	昨年起きた犯罪はどのような特徴があったのか？	昨年起きた具体的な犯罪例を取り上げて、どのような人・物が、どういう理由でねらわれているのか探る。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
2	犯罪にはどのような種類があり、どうやって数えるのか？	刑法上は同じ窃盗でも、ひったくり、自転車盗、車上ねらいなどさまざまな手口がある。１件の窃盗でも、起きた数、警察に届けられた数、検挙された数がある。こうした手口の分け方や数の数え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
3	犯罪はなぜ起こるのか？どうやって減らすのか？	悪い人がいるから犯罪が起こるのか、すきがある人がいるから犯罪が起こるのか、犯罪が起きやすい場所・時間があるから犯罪が起こるのか、それぞれの理屈を確かめてみる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
4	大阪の治安はどのくらい悪いのか？どのように防犯対策を進めているのか？	大阪府は、他の都道府県に比べてどのような犯罪が多いのか、人口の多さを考慮するとどうなのか説明する。「オール大阪」で街頭犯罪ワースト１を返上する取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
5	街頭犯罪－－ひったくり、自転車盗、車上・部品ねらいを中心に	一番身近な街頭犯罪について、どういう人・物が、どういった状況でねらわれているのか、どういう人が犯罪を行っているのか説明する。ついで、ひったくり防止カバー、シリンダー錠などの防犯対策の効果について紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
6	住宅への空き巣、忍び込み、居空き	泥棒は、空き巣に入る家をどのように物色し、どうやって侵入し、何を盗んでいくのか解説する。最近の防犯住宅、防犯マンションの取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
7	性犯罪－－街頭での強制わいせつ、痴漢、公然わいせつ	大阪府は性犯罪が深刻な自治体である。犯罪者は、どんな人・場所をねらって性犯罪に及ぶのか説明する。女性の学生が今日からすべき防犯対策を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
8	子どもをねらった犯罪	子どもに対する犯罪について、過去に大きな社会問題になった殺傷事件から、日常的に起きているわいせつ、声かけ、つきまといまで、実態を具体的に説明する。そして、子どもの安全を守るために各地で行われている取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
9	ストーカー、DV（配偶者からの暴力）	ストーカーや DV は、個人間の問題に関わるので、対応の判断が難しい。しかし、大きな事件につながれば、対応の遅さ、まずさが批判されやすい。過去の事件の経緯を紹介して、深刻な問題への展開を防ぐために現在行われている対策を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
10	詐欺－－高齢者をねらった振り込め、オレオレ、リフォーム詐欺など	昨年、急激に増え、手口が次々と変わる高齢者をねらった詐欺を取り上げる。背景にどのような組織があるのか、どうして防犯が難しいのか、実例に即して説明する。若い私たちにできる協力も紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
11	サイバー犯罪－－子どもや学生が巻き込まれるネット犯罪	子どもが巻き込まれる出会い系サイトやネットゲームでのなりすまし、大学生も被害を受けている偽サイトでのショッピング詐欺、ネットバンクでの ID、	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）

		パスワード盗難など、身近なサイバー犯罪を取り上げる。	
12	違法ドラッグの実態と対策	違法ドラッグについて、その危険性、販売の実態、取締の方法を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
13	防犯カメラの普及と効果	急速に普及した防犯カメラについて、普及の背景と経緯、技術の進歩、個人情報・プライバシーとの関係、防犯効果の考え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
14	防犯ボランティアの活動	近年の犯罪対策の最大の特徴は、民間のボランティア団体の活性化である。地域での子ども見守り隊、青パト活動、学生防犯ボランティアなど、最近の各地、各世代の防犯ボランティアの活動を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
15	警察官の仕事の実際	犯罪が起きれば捜査し検挙する。犯罪が起きないように市民や企業に防犯をうながす。それを職業とする警察官の仕事の実際を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）

関連科目	法学部「刑事政策」「経済刑法」「地域防犯政策」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験(70%)、講義毎回の確認ペーパー(30%)の合計によって評価する。
学生へのメッセージ	勉強以前に、自分、家族、まちを身近な犯罪から守るために、ぜひこの講義を受講してほしいと願っている。そして、できるところからでよいので、講義で知った防犯対策をしてもらいたい。警察官志望者には、近年、警察でも人気の仕事になりつつある防犯の実務がわかるという意味で、興味を持ってもらえると思う。
担当者の研究室等	11 号館 9 階 中沼研究室
備考	講義毎回の確認ペーパーの正解の提示や、そこに書かれた意見の紹介はポータルサイトを通じて行う。

科目名	ものづくりインターンシップ基礎	科目名（英文）	Internship for Manufacturing Basics
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	坂本　淳二
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：IT01428a2～IT01432a2,L 科：LT01422a2～LT01426a2,D 科・S 科：IT01428a2～IT01432a2,P 科：YT01423a2～YT01427a2,J 科：,W 科：WT01424a2～WT01428a2,N 科：NT01420a2～NT01424a2		

授業概要・目的	これから就職活動を始める学生（大学３年）を対象に、社会人として必要とされる規律やマナー、製造業など企業で働く上での基礎知識、課題を発見して解決する方法などを習得することを目的とする。履修後には、社会人・企業人としての役割および責任、仕事への情熱、創造的態度、自己の能力向上意欲が喚起されることを期待する。 なお，本授業では、パナソニック（株）より講師を招き、社会人・企業人としての基礎である知識と心がまえについて、パナソニック（株）の新入社員研修の方式に従い、講義に加えて具体事例演習を通じて体得させる。
到達目標	(1)社会人としてのマナーを身につける。(2)仕事の基本に関する知識を修得する。(3)企業における品質問題を体験する。（4）原価管理の基礎知識を修得する。（5）PDCA サイクルによる課題解決を体験する。
授業方法と留意点	前半では、グループワーク、Think-Pair-Share などアクティブラーニングを主体に授業を進める。また授業テーマ毎に，授業内容についてのレポートを作成する。摂大教員も教室に常駐し、授業の補助と成績評価を分担する。授業は挨拶に始まり、挨拶で終わるので遅刻は厳禁。なお、1～8 回目までは 120 分授業とする。
科目学習の効果（資格）	社会が学生に何を求めているのかを体得し、職業意識を高め、自発的に能力向上を行えるようになる。就職後ただちに、社会人・企業人としての適切な行動が取れるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	企業・製造業・仕事の基本とは① 4 月 11 日（木）	社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	講義終了後、レポートを提出のこと（書式は別途）
2	企業・製造業・仕事の基本とは② 4 月 18 日（木）	社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	講義終了後、レポートを提出のこと（書式は別途）
3	企業・製造業・仕事の基本とは③ 4 月 25 日（木）	社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	講義終了後、レポートを提出のこと（書式は別途）
4	企業・製造業・仕事の基本とは④ 5 月 9 日（木）	社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	講義終了後、レポートを提出のこと（書式は別途）
5	企業・製造業・仕事の基本とは⑤ 5 月 16 日（木）	社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	講義終了後、レポートを提出のこと（書式は別途）
6	企業・製造業・仕事の基本とは⑥ 5 月 23 日（木）	社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	講義終了後、レポートを提出のこと（書式は別途）
7	品質教育① 5 月 30 日（木）	企業活動の命運をにぎる品質問題について、品質管理の基礎からＱＣ７つ道具の活用・具体実習等により、品質の重要性を体得する	-----
8	品質教育② 6 月 6 日（木）	企業活動の命運をにぎる品質問題について、品質管理の基礎からＱＣ７つ道具の活用・具体実習等により、品質の重要性を体得する	品質教育①～②の講義終了後、レポートを提出する（書式は別途）
9	原価・コスト教育① 6 月 13 日（木）	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	-----
10	原価・コスト教育② 6 月 20 日（木）	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	-----
11	原価・コスト教育③ 6 月 27 日（木）	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	原価・コスト教育①～③の講義終了後、レポートを提出する（書式は別途）
12	課題解決教育① 7 月 4 日（木）	PDCA サイクルを回すことの重要性の習得により、課題形成力・問題解決力を強化する	-----
13	課題解決教育② 7 月 11 日（木）	PDCA サイクルを回すことの重要性の習得により、課題形成力・問題解決力を強化する	課題解決教育①～②の講義終了後、レポートを提出のこと（書式は別途）
14	プレゼンテーションの方法 7 月 18 日（木）	プレゼンテーションの基礎知識を習得する	これまでの講義を総括して、全体討議・質疑応答でのプレゼン資料作成を行うこと
15	全体討議・質疑応答 7 月 25 日（木）	14 回の講義を総括しての討議・質疑応答を実施する	最終報告として受講レポートを提出する。

関連科目	『ものづくりインターンシップ実践』を履修する学生は、必ずこの科目を履修すること。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			
評価方法 （基準）	課題レポート（6 回）と受講レポート 50%、授業姿勢（積極性）20%、全体討議（プレゼンテーション）10%、期末試験 20%にて総合評価を行う。			
学生への メッセージ	日本を代表する企業であるパナソニック（株）と共同で実施する研修を受講して、社会と企業は学生に何を求めているのかを知り、職業人としての基礎知識を身につけ、社会人になるための意識転換をしましょう。この科目を履修する学生は、この科目と「ものづくりインターンシップ実践」を同時に受講することが前提です。			
担当者の 研究室等	12 号館 6 階　坂本教授室			
備考	毎回の講義内容を振り返りのための学習毎回 1 時間程度。　レポート各回 3 時間程度，プレゼン準備と期末試験のための学習 20 時間程度。全体討議におけるプレゼンテーション資料作成のため，2 回 実習前指導を実施する（7/11(木)，7/18(木)6 限目)。 パナソニック講師：佐藤哲志、山下秀行、斎藤遵、町田秀人			

科目名	ものづくりインターンシップ基礎	科目名（英文）	Internship for Manufacturing Basics
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	楢橋　祥一
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：IT01428a2～IT01432a2,L 科：LT01422a2～LT01426a2,D 科・S 科：IT01428a2～IT01432a2,P 科：YT01423a2～YT01427a2,J 科：,W 科：WT01424a2～WT01428a2,N 科：NT01420a2～NT01424a2		

授業概要・目的	本科目は、夏期の「ものづくり海外インターンシップ」で実際に海外に渡航し、海外で実習を受けるために必要な英語力やマナー、現地の予備知識（社会・文化等）、協同作業能力などを身につけるための講義である。日本の企業がますますグローバル化する中で、国際的視野と素養を身に付けた人材はますます必要となっている。本科目では、将来グローバルに活躍できる人材の育成を視野に入れ、海外事情や企業のグローバル化の実態、持続可能な開発の在り方を学ぶほか、英語によるコミュニケーション力や海外での企業や大学の人たちと交流・研究する際の社会人としてのマナーなどについて養成する。これらの各項目の要点について、企業での業務・海外渡航経験を有する授業担当者により講義する。
到達目標	(1)海外事情が理解できる。(2)海外渡航の手順や手続きが理解できる。(3)グローバル企業の現状が理解できる。(4)海外インターンシップ先の事情が理解できる。(5)英語による基本的なコミュニケーションができる。(6)社会人としてのマナーが身につく。
授業方法と留意点	講義名称が「ものづくり」であるが、専門知識は特に必要としないので参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また、男女も問わない。本講義は、夏期の「ものづくり海外インターンシップ」の準備のための講義とする。夏期の実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において受講者を選定する。講義室内ではできるだけ、日本語を使わないようにする。
科目学習の効果（資格）	英語による基本的なコミュニケーション力が身につく。TOEIC や英検などを受験する契機となる。また、社会人としてのマナーが身につく。海外における実体験ができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、海外渡航手続き概要、英語コミュニケーション 1	パスポート、チケット予約（航空機、ホテル）、保険、海外渡航準備、英語による自己紹介	事前：海外渡航手続き調査（1 時間） 事後：課題レポート作成（1 時間）
2	海外事情、日系企業のグローバル化、英語コミュニケーション 2	英語による自己紹介発表、海外の文化、経済、グローバル化事情	事前：英語での自己紹介準備（1 時間）事後：課題レポート作成（1 時間）
3	研修先　事前調査、英語コミュニケーション 3	英字新聞記事の調査、文化、歴史、経済事情，企業・大学	事前：研修先の英字新聞調査（1 時間） 事後：課題レポート作成（1 時間）
4	格差社会の問題	これからのグローバル人材として必要な素養を考える、ビデオ鑑賞など	事前：格差社会の調査（1 時間） 事後：課題レポート作成（1 時間） 格差社会の問題について、レポート提出
5	社会人基礎力、英語コミュニケーション 4	社会人として必要な基礎力、英語による日本の紹介発表	事前：英語での日本紹介準備（1 時間） 事後：課題レポート作成（1 時間）
6	英語コミュニケーション 5	海外渡航、海外生活、大学紹介、専門科目の紹介	事前：予習プリント学習（1 時間） 事後：課題レポート作成（1 時間）
7	英語コミュニケーション 6	研修先企業、大学の調査、英語による発表、英語によるワークショップなど	事前：予習プリント学習（1 時間） 事後：課題レポート作成（1 時間）
8	英語コミュニケーション 7	海外研修を想定したグループ実習 1、テクノセンター見学、ヒヤリングなど	事前：予習プリント学習（1 時間） 事後：課題レポート作成（1 時間）
9	英語コミュニケーション 8	海外研修を想定したグループ実習 2、テクニカルニュースのリスニングなど	事前：予習プリント学習（1 時間） 事後：課題レポート作成（1 時間）
10	英語コミュニケーション 9	海外研修を想定したグループ実習 3、テクニカルニュースの発表など	事前：予習プリント学習（1 時間） 事後：課題レポート作成（1 時間）
11	英語コミュニケーション 10	海外研修を想定したグループ実習 4、英語フレーズ集の作成など	事前：予習プリント学習（1 時間） 事後：課題レポート作成（1 時間）
12	英語コミュニケーション 11	海外研修を想定したグループ実習 5、英語フレーズ集の作成など	事前：予習プリント学習（1 時間） 事後：課題レポート作成（1 時間）
13	マナー実習	挨拶、礼儀、服装、ミーティング、質疑、懇親会、感謝、気配り、機転	事前：予習プリント学習（1 時間） 事後：課題レポート作成（1 時間）
14	海外渡航、海外生活	渡航準備、入出国、習慣、食生活、健康管理	事前：予習プリント学習（1 時間） 事後：課題レポート作成（1 時間）
15	英語による成果発表	まとめ	事前：成果発表の準備（1 時間） 事後：成果発表の反省（1 時間）

関連科目	ものづくり海外インターンシップ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題レポート 60%、取組み姿勢 20%、成果発表 20%として評価を行う。
学生へのメッセージ	これまでに「ものづくり海外インターンシップ」を受講した学生は、海外実習後に顕著な成長が認められるので大いにチャレンジしてほしい。授業方法、留意点にも記載のとおり、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また、男女も問わない。
担当者の研究室等	1 号館 4 階　楢橋教授室
備考	【共同担当者】　楢橋教授（E 科）、原教授（M 科）、木多教授（A 科）、白鳥准教授（R 科）、理工学部インターンシップ委員会委員

科目名	ものづくりインターンシップ実践	科目名（英文）	Internship for Manufacturing Practice
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	坂本　淳二
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科･R 科･A 科･M 科･E 科･C 科:IT01428a2～IT01432a2,L 科:LT01422a2～LT01426a2,D 科･S 科:IT01428a2～IT01432a2,P 科:YT01423a2～YT01427a2,J 科：,W 科：WT01424a2～WT01428a2,N 科：NT01420a2～NT01424a2		

教養科目

授業概要・目的	『ものづくりインターンシップ基礎』 の実践コースである。『ものづくりインターンシップ基礎』 で学んだ内容をパナソニックのモノづくり現場で具体実習・実践することにより、 更なる理解を進め、習得して自らの強みとすることを目的とする。 なお，本授業は，パナソニック人材開発カンパニーの講師陣による生産，製造の実践を通して，企業における目標達成のプロセスを体得するものである.
到達目標	(1)生産革新・改善を体験，理解することができる。(2)製造業の成り立ち・仕組みを体験，理解することができる．(3)チームワーク・ＱＣＤ問題を体験，理解することができる。(4)パナソニックの工場を見学する。(5)研修成果を発表する。
授業方法と留意点	『ものづくりインターンシップ基礎』で学んだ内容を体験するため、パナソニック（株）人材開発カンパニーで、計７日間の宿泊実習を行なう。また、事前指導として『ものづくりインターンシップ基礎』のまとめを行い、事後指導として実習で得られた成果の定着をはかるためにプレゼンテーションによる報告を行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	直前指導 ・1 回目　ものづくりインターンシップ基礎のまとめ，ものづくりインターンシップ実践の準備　7/18（木）　6 限目 ・2 回目　ものづくりインターンシップ基礎全体討議プレゼンテーション指導　7/25（木）　6 限目 宿泊実習（パナソニック人材開発カンパニー） ・1～3 日目 【授業テーマ】 生産革新演習 【内容・方法等】 1 個流しセル生産のロールプレイを通じて、生産革新実践・方法等を体得する。(グループ演習) 【事前・事後学習課題】 演習終了後、レポートを提出のこと ・4～5 日目 【授業テーマ】 モノづくりシュミレーション演習 【内容・方法等】 四角錐製作を通じて、製造業の成り立ち・しくみを習得（設計～生産）し、目標達成のためのチームワーク・QCD 問題意識の重要性を体得する。(グループ演習) 【事前・事後学習】 演習終了後、レポートを提出のこと ・6 日目 【授業テーマ】 工場見学 【内容・方法等】 パナソニックのモノづくりを工場見学を通じて体得する。(2 工場) 【事前・事後学習課題】 見学終了後、レポートを提出のこと ・7 日目 【授業テーマ】 研修成果報告会 【内容・方法等】 研修成果報告会の実施。(グループ単位) 【事前・事後学習課題】 グループ単位でプレゼン資料をまとめておくこと 実習中指導 ・8 月 31 日（土）　1～4 限目　プレゼンテーション指導 実習後指導 ・1 回目　体験報告書の添削指導 ・2 回目　研修成果報告会（2 回目）に向けたプレゼンテーション指導 ・3 回目　研修成果報告会（2 回目）に向けたプレゼンテーション指導 ・4 回目　研修成果報告会（2 回目） ・5 回目　全体報告会　学生代表者の発表・質疑 ・6 回目　全体報告会　企業管理者の講演と講評
関連科目	ものづくりインターンシップ基礎

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法	実習成果 40%、研修成果報告会（2 回）20%、実習最終レポート 10%、体験報告書 10%、実習・授業態度 20%とした総合評価を行なう。

（基準）	
学生へのメッセージ	この科目は「ものづくりインターンシップ基礎」を同時に受講することが前提です。
担当者の研究室等	坂本教授室（12 号館 6 階）
備考	期間：2019 年 8 月 26 日（月）～8 月 30 日（金）、9 月 2 日（月）～9 月 3 日（火）　パナソニック（株）人材開発カンパニーでの宿泊研修です。8 月 31 日（土）には摂南大学でプレゼン資料を作成します。その間、パナソニック㈱社員の、朝礼、ランニングにも参加します。ジーンズ、スリッパは禁止。ランニングできる履物、着替えが必要です。学生負担金・食費等は別途徴収します。 【事前事後学習】 レポート作成，プレゼン準備としての学習時間：20 時間程度。 【担当者】 パナソニック講師：佐藤哲志、高岡清、熊本義久、西尾幹夫

科目名	ものづくり海外インターンシップ	科目名（英文）	International Internship for Manufacturing
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	楢橋　祥一
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科･R 科･A 科･M 科･E 科･C 科:IT01428a2～IT01432a2,L 科:LT01422a2～LT01426a2,D 科･S 科:IT01428a2～IT01432a2,P 科:YT01423a2～YT01427a2,J 科：,W 科：WT01424a2～WT01428a2,N 科：NT01420a2～NT01424a2		

教養科目

授業概要・目的	日本の企業がますますグローバル化する中で、国際的視野と素養を身に付けた人材はますます必要となる。本科目は、「ものづくり海外インターンシップ」と呼び、世界展開をしている「ものづくり企業」の海外工場において具体的に実習体験をすることにより、グローバル企業の現状を理解するとともに、自らの視野と経験を広げることを目的とする。研修先は東南アジアおよび北米とする。研修先によっては、海外の大学でワークショップ体験も含める。企業での業務経験を有する授業担当者により、ものづくりおよび英語によるコミュニケーションの要点を講義する。
到達目標	(1)グローバル企業の現状が理解できる。(2)英語による基本的なコミュニケーションができる。(3)海外でのものづくりの工程を体験できる。(4)チームワークを体験できる。(5)国際的視野を広げられる。(6)研修成果が発表できる。
授業方法と留意点	東南アジアは、タイ、フィリピン、ベトナムを、北米は、アメリカを予定している。受講者はいずれかの企業において、本学の夏休み中に往復を含めて約１０日間（予定）の現場実習を行う。実習後にレポート作成および海外実習の成果報告会を行う。講義名称が「ものづくり」であるが、専門知識を特に必要としないので、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また男女も問わない。実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において選定する。なお、本講義を受講する学生は、前期の「ものづくりインターンシップ基礎（海外班）」の受講を必須とする。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	直前指導 ものづくり海外インターンシップ基礎の全体報告会に向けたプレゼンテーションの指導、海外実習の準備など 海外実習 ・1～2 日目 【授業テーマ】移動、オリエンテーション 【内容・方法等】研修先の概要、オリエンテーション、語学（英語）研修など 【事前・事後学習課題】実習終了後、レポートを提出のこと ・3 日目 【授業テーマ】企画・設計部門実習／ワークショップ 【内容・方法等】ものづくり工程の上流である企画・設計部門。 【事前・事後学習】実習終了後、レポート、アイディアスケッチなどを提出のこと ・4～5 日目 【授業テーマ】製造工場見学 【内容・方法等】関連工場、施設、建築、デザイン作品の見学、現地協同プロジェクト、現地現地従業員・大学生との交流会に参加する。交流会では、英語によるコミュニケーションを行う。 【事前・事後学習課題】交流会終了後、レポート、アイディアスケッチなどを提出のこと ・6～8 日目 【授業テーマ】製造系実習 【内容・方法等】製造系の加工、組立、検査・品質管理など。(グループ演習) 【事前・事後学習課題】実習終了後、レポートを提出のこと ・9～10 日目 【授業テーマ】研修成果報告会、移動 【内容・方法等】グループ単位でパワーポイントによるプレゼンテーション、または部分模型やその他手法を用いてプレゼンテーションしてもよい。 【事前・事後学習課題】実習終了後、最終レポート、または各グループで研究成果ポスター、または梗概作成を提出すること。 実習後指導 ・1 回目　最終レポート（体験報告書）の添削指導 ・2 回目　成果報告会に向けたプレゼンテーション指導 ・3 回目　全体報告会　学生代表者の発表・質疑 ・4 回目　全体報告会　企業管理者の講演と講評
関連科目	ものづくりインターンシップ基礎

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	海外現地研修 60%（実習記録簿 20%、実習・授業態度 20%、実習成果プレゼン 20%)、実習前後の学習 5%、実習最終レポート 10%、体験報告書 10%、成果報告会（2 回）15%として評価を行う。
学生へのメッセージ	これまでに受講した学生は、海外実習後に顕著な成長が認められるので、大いにチャレンジしてほしい。授業方法、留意点にも記載のとおり、参加学生は専門分野も文系・理系も問わない。また、男女も問わない。実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は、理工学部インターンシップ委員会において参加者を選定する。本講義を受講する学生は、前期の「ものづくりインターンシップ基礎（海外班）」の受講を必須とする。
担当者の研究室等	１号館４階　楢橋教授室 １号館５階　原教授室 ８号館３階　木多教授室 12 号館 7 階　白鳥准教授室

備考	【注意事項】研修予定期間：2019 年 8 月中旬（研修先の都合により変更する場合があります。） 航空運賃、宿泊費、保険代などは自己負担となります。 【事前事後学習】レポート作成、復習の学習時間：20 時間程度 【共同担当者】　楢橋教授、原教授、木多教授、白鳥准教授、理工学部インターンシップ委員会委員

科目名	役立つ金融知力	科目名（英文）	Financial Literacy
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	陸川　富盛
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：IT01428a2～IT01432a2,L 科：LT01422a2～LT01426a2,D 科・S 科：IT01428a2～IT01432a2,P 科：YT01423a2～YT01427a2,J 科：,W 科：WT01424a2～WT01428a2,N 科：NT01420a2～NT01424a2		

教養科目

授業概要・目的

諸君は大学生になるまでは、「これまでに既に起きたこと」を学んできました。「既に起きたこと」はもう変わることはありませんから必ず正解があり、それらを覚えておけば済みました。つまり、たかだか「正解を教えてもらって要領良く覚える」ということをやってきただけに過ぎません。

しかし、諸君がこれから歩を進めていく実社会は「明日を創っていく社会」ですから、最初から決まり切った正解なんかどこにもありません。自分で自分の答えを創り出して行くしかないのです。そこで最も必要となるのは、他人の話や文章を正確に理解し、自分の考えを的確に表現する能力です。

実社会で諸君が自ら成長し自分の人生を築き上げていくことは、企業がより良い企業となることを目指して経営していくことと同じです。つまり、諸君のこれからの人生は「自分株式会社を経営していくこと」に他なりません。それには、自ら考えて決断し行動する「賢い経済主体」となる、という大きな方向転換が必要なのです。具体的には、市場経済や契約社会の仕組みを実感覚として理解し、自分の人生を切り拓いていく力を身に着ける、ということです。

金融や投資などファイナンスに関する実戦的な知識を得てそれらを日常的に活用していくことは、単に目先のお金の問題に役立つだけでなく、より良い人生や社会の実現に欠かせません。これは諸君の専門科目が何であっても同じです。

本講義の目的は、諸君が人生のさまざまな局面で的確に決断し行動できるよう、ファイナンスの知識や考え方に根差した実戦的なビジネスインテリジェンスの基本を身に着けることです。

到達目標

主としてファイナンスの観点から、実戦的なビジネスインテリジェンスの基本を身に着けること、これが諸君の到達目標です。

具体的には、諸君が将来直面する経済生活やキャリアライフで、諸君自身が「賢い経済主体」として適宜的確に行動できるようになることを目指します。

授業方法と留意点

本講義は１５回全体を通して次の三つのステップで構成し、各回とも教科書を使用した講義形式で進めます。

① 先ずは経済主体としての視点で、社会の仕組みの全体観を把握し、様々な課題や対処法を認識します。
② 次に、ファイナンスの基礎知識を、大学で学ぶ様々な専門知識と関連付けながら、実戦的に学んでいきます。
③ 更に、それらを統合し活用する能力をインテリジェンスとして身に着け、社会生活に応用する方法を学びます。

本講義では毎回必ず教科書をベースに講義を進めるため、レジュメ等の資料を配布することは一切ありません。受講者は指定された教科書を必ず持参してください。但し、講義の内容は教科書通りではなく、教科書は単なる教材として手元資料的に利用するに過ぎません。このため、毎回きちんと聴講しなければ成果は得られません。

講義中や講義に関連した e-Learning として、スマホアプリの利用や検索等を適宜指示します。これらは諸君の成績評価に直結するので指示に従って必ず実施し、ビジネスに役立つ IT 活用を身に付けてください。

科目学習の効果（資格）

経済・社会生活やキャリアライフに必要な意思決定を適宜適切に行えるよう、ファイナンスの知識を活用する実戦的なビジネスインテリジェンスの基本を身に着けます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	「経済主体としての立ち位置 」	テキスト＜P15～14,4～13＞ ・私たちのくらしと経済 ・戦後の社会発展 ・パラダイムシフト ・変革の必要性
2	経済・金融の基礎知識 ①	「国際経済と国家財政」	テキスト＜P44～49,38～44＞ ・国際経済 ・国家の財政
3	経済・金融の基礎知識 ②	「市場経済と金融の役割」	テキスト＜P16～18,25～29,18～25＞ ・お金の役割 ・市場経済のしくみと意義 ・金融の役割と銀行
4	法律の基礎知識	「契約の基本」	テキスト＜P154～157,159～166＞ ・契約社会 Ⅰ ・ローン・クレジット ・契約社会 Ⅱ
5	リスクと向き合う ①	「日常生活のリスク」	テキスト＜P79～87,166～168,157～159,168＞ ・リスクマネジメント ・契約社会 Ⅲ
6	リスクと向き合う ②	「リタイアメント」	テキスト＜P88～97＞ ・年金制度 ・老後生活資金
7	投資の基礎知識	「投資とは何か」	テキスト＜P98～104＞ ・投資とは ・投資意思決定プロセス
8	経済活動と金融市場	「景気・株価」	テキスト＜P30～31,56～57,32～36,54～55,37,50～53＞ 景気 景気と株価
9	金融商品の基礎知識 ①	「代表的な金融商品（株式等)」	テキスト＜P123～135＞ ・株式 ・投資信託 ・外貨建て商品 ・保険商品

			・デリバティブ
10	金融商品の基礎知識 ②	「代表的な金融商品（債券他)」	テキスト＜P117～123＞ ・預貯金 ・信託 ・債券
11	金融商品の基礎知識 ③	「金融市場と金融商品の性格」	テキスト＜P105～117＞ ・直接金融と間接金融 ・金融商品の性格
12	投資のリスク管理	「投資のリスクマネジメント」	テキスト＜P136～153＞ ・分散投資 ・時間分散 ・長期投資
13	ライフプランニング ①	「ライフプランニング表」	テキスト＜P58～67＞ ・ライフプランニング
14	人生の三大資金	「住宅、教育、リタイヤメント資金」	テキスト＜P68～78＞ ・キャッシュフロー表の見直し ・ライフイベントごとの課題
15	最終まとめ	「講義のまとめ」	全体レビュー 講義で得た金融インテリジェンスのレビューを行い、実戦力を確認します。

関連科目

民法、会社法、経済学、国際経済、経営学、経営戦略、会計学　など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	今日から役に立つ、経済の読み方と投資の基礎		金融知力普及協会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

下記のとおり、本講義と課題に対する取り組み姿勢や理解度等を総合的に評価します。
・試験　　：　20%（経済やファイナンスに関する知識の正確性を評価します。試験範囲は講義全体です。）
・レポート　：　50%（自分で考えて調査し問題解決する能力、即ち、全講義を受講して得た知見を評価します。）
・平常点　　：　30%（受講状況と態度、質疑応答、e-Learningj 実績等を評価します。出席は前提条件です。）

必要な学習は、e-Learning システムで適宜指示します。これらにきちんと対応しなければ単位は取得できません。

講義にただ出席して教科書を開いているだけでは、目標に到達することはあり得ませんから、当然ながら単位も取得できません。毎回きちんと意識を集中して受講し、「自分で考えて講義内容を理解し行動する」という自分自身の努力を積み重ねる事が必要です。

成績評価の一つとなる上記課題レポートは表計算ソフト「エクセル」で出題するので、提出期限（定期試験当日を予定）までにこの課題レポートの出題に答えて必要事項を調査・入力し、内容を精査すること。
（講義では「エクセル」の使い方は教えませんが、フォーマットを提示するので表入力と確認が必要です。）

レポート課題は大学内の情報システムを通じて掲示・連絡しますので、学内情報システムの利用や連絡設定は各自で事前に必ず行っておいてください。

学生へのメッセージ

本講義は「受講者の誰もが覚えられるように一つ一つ教えていく」のではなく、初回「イントロダクション」でも説明する通り、全１５回を通して受講することによって、情報収集能力、考える力、判断力などの実力が付くように構成してあります。このため本講義を聴講すると、諸君は実戦と同じく、広範で大量の情報が一方的に流れてくることを経験することになります。
しかし、諸君は既に大学生なのだから、「自分に分かる程度のことを自分に分かるように教えてもらえるのが当然だ」などという子供じみた甘えは捨て去ること。
その上で、「講義されている内容を自分自身で考えて理解しよう」という確固たる意志を持ち、私語を慎み毎回静粛に受講すること。
そうすればこれまでと異なる観点に立つことができ、本講義本来の効果を各自が最大限に得ることができます。

本講義ではレジュメ等の資料を配布することは一切ありませんが、スマホやタブレット等からのネット検索やサイトの利用を適宜指示することがあります。

受講者は指定された教科書を必ず購入してください。但し、教科書は単なる教材として手元資料的に利用するに過ぎず、講義内容も教科書通りではありません。毎回きちんと聴講しなければ成果は得られませんから単位も取得できません。

その他、課題の提示方法等についても詳しくは講義の中で説明しますので、講義は毎回注意深く受講し、指示に従って下さい。こうした日常の情報収集能力が、各自の実力や成績評価にも大きく影響します。

本講義で得た知識は、自分が学んでいる様々な専門知識と組み合わせて考えていくことで、より高い効果を得ることができます。安直にありきたりの答えを求めるのではなく、自分で考える習慣を身に着けてください。

なお、居眠り、内職、途中離着席、私語など、真摯に受講せず講義の妨げとなる学生には、講義を中断して注意を促し退席を命じる場合があります。学生の本分を弁えない不適切な行動は本講義の主旨を理解していない証左であり、成績評価にはマイナスとして反映します。

担当者の研究室等

11 号館 1 階（教務課）

備考

「事前・事後学習課題」について
予習（シラバス記載の教科書該当ページを事前に読む）：３０分程度
復習（講義の内容を振り返り、自分の言葉で整理する）：３０分程度

質問等は、講義前又は後の時間帯に、教室等での対面による自由な質疑応答で受け付けます。
興味のあることや疑問を感じたことなど、自分で抱え込まないで気軽に相談してください。

	この講義は、ＳＭＢＣ日興証券グループによる「寄附講座」です。

科目名	ライフサイエンスの基礎	科目名（英文）	Introduction to Life Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西矢　芳昭
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：IT01428a2～IT01432a2,L 科：LT01422a2～LT01426a2,D 科・S 科：IT01428a2～IT01432a2,P 科：YT01423a2～YT01427a2,J 科：,W 科：WT01424a2～WT01428a2,N 科：NT01420a2～NT01424a2		

授業概要・目的	ライフサイエンスの基礎知識は、医療、環境、食品分野などへの生物機能の応用、すなわちバイオテクノロジーと密接に係る。ライフサイエンスおよびバイオテクノロジーの知識を深めることで、最新の科学情報を理解できると共に、社会人として相応しい教養が身に付く。ライフサイエンスの各分野を深く学ぶためにも役立つ基礎的知識を、各専門分野に精通した教員により概説する。 また、企業で商品開発等に 20 年以上の実務経験を有する教員が、その経験を活かして生体物質の実用化に関する教育も行う。
到達目標	教養としてのライフサイエンスの基礎的知識の理解
授業方法と留意点	配布資料に沿って、板書およびプロジェクターによる講義を行う。
科目学習の効果（資格）	生命科学の学習に必要な基礎的事項を理解することができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	概要説明 特殊環境微生物学（西矢）	授業の進め方を説明する。 微生物や酵素に関する基礎知識・キーワードを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
2	糖質生化学（大橋）	糖質にまつわる基礎知識・キーワード・最新トピックについて、生化学的な見地から解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
3	細胞生命生理学（宮崎）	生物がいかにして環境に適応する仕組み（ホメオスタシス）を獲得し、進化してきたのかについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
4	分子生物学（川崎）	分子生物学にについて説明する。 個体ゲノム制御機構に関する基礎知識・キーワードを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
5	環境分析学（青笹）	食品因子の機能性と生活習慣病などの健康との係わりについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
6	生命環境科学（長田）	ライフサイエンスにおける植物について解説する。	講義後に小論文を課す。
7	細胞機能学（船越）	生物の構成単位である細胞の構造、種類や機能について解説する。	課題レポート、または確認小テストを課す。
8	環境毒性学（木村）	環境化学物質による健康リスクへのライフサイエンスの係わりについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
9	構造生物学（中嶋）	生体分子がもつ分子構造を機能の関係性について解説する。	課題レポートを課す。
10	共生機能材料学（松尾）	タンパク質に対する水の必要性とその機能について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
11	分子細胞制御学（西村）	多くの生命現象は「現在（いま）」を生きるためだが，生殖は「未来」を作る現象であり，具体的に生殖とは何かを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
12	生体触媒科学（井尻）	生殖細胞におけるエネルギー代謝について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
13	病態薬理学（居場）	薬理学の基本について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
14	動物生理学（向井）	生物が環境の変化に適応するしくみについて、昆虫を題材として解説する。	課題レポートを課す。
15	生体分子機能学（尾山）	さまざまな機能性タンパク質について解説する。	確認小テストを課す。

関連科目	生物学概論、生化学Ⅰ、生物無機化学、生物統計学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義中の積極性、各回のレポートや知識確認テスト、小論文などで総合評価する。
学生へのメッセージ	不明な点があれば、各回の担当教員に遠慮無く質問して下さい。
担当者の研究室等	１号館　８階および９階　（理工学部生命科学科全専任教員）
備考	欠席・遅刻の扱いは理工学部の規定に従って処理する。 事後学習に要する総時間の目安は１５時間

キャリア形成科目

科目名	患者安全	科目名（英文）	Patient Safety
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	２年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	森谷　利香.神谷　美紀子.山本　智津子.吉永　愛香
ディプロマポリシー(DP)	DP4◎,DP5◎,DP6△,DP7○,DP8○		
科目ナンバリング	NCA2503a3		

授業概要・目的	薬学部生とともに学ぶ経験を通して、看護職者としてのキャリア形成を行い、医療人としてふさわしい知識・技術・態度を身につけるために、医療倫理及び世界標準の患者安全について学び、医療チームの中での看護師が果たすべき責任および役割を学ぶ。
到達目標	(1) 看護師の使命 一般目標：医療の歴史を認識するとともに、国民の健康管理、医療安全、薬害防止における役割を理解し、看護師としての使命感を身につける。 【患者安全と薬害の防止】 1. 医療にかかわるリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度) 2. WHO による患者安全の考え方について概説できる。 3. 医療に関するリスクマネジメントにおける看護師の責任と義務を説明できる。 4. 医療に関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。 (2) 看護師に求められる倫理観 一般目標：倫理的問題に配慮して主体的に行動するために、生命・医療に係る倫理観を身につけ、医療の担い手としての感性を養う。 【医療倫理】 1. 医療倫理に関する規範（ジュネーブ宣言等）について概説できる。 【患者の権利】 1. 患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。(態度) 2. 患者の基本的権利の内容（リスボン宣言等）について説明できる。 3. 患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。 4. 知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。(知識・技能・態度) (3) 多職種連携協働とチーム医療 一般目標：医療・福祉・行政・教育機関及び関連職種の連携の必要性を理解し、チームの一員としての在り方を身につける。 1. 自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度) (4) 人と社会に関わる看護師 一般目標：人の行動や考え方、社会の仕組みを理解し、人・社会と看護師の関わりを認識する。 1. 看護師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度) 2. 倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度)
授業方法と留意点	講義、自己学習、小グループ討論、発表会を行います。 教科書、プリント等を用います。
科目学習の効果（資格）	チーム医療における患者の安全の守る看護師の役割を学修する

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	1回（世界標準の患者安全1） ○WHOによる患者安全の考え方について概説できる。 ○医療に関するリスクマネジメントにおける看護師の責任と義務を説明できる。	講義、自己学習 教材:ねころんで読める WHO 患者安全カリキュラムガイド及びプリント	事前学習：実際に起こった医療事故等について自己で調査し、自分の考えを発言できるようにして下さい。 事後学習：他者の考えを受け入れ、より良い対策を考えて下さい。
2	2-5 回（指定された事例について、小グループ討論によって必要な情報や問題点を収集・考察し、最善の対応策(改善策）を提案し発表する。） ○医療にかかわるのリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度) ○患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。(態度) ○知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。(知識・技能・態度) ○自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度) ○看護師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度) ○倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度)	自己学習、小グループ討論、発表会	事前学習：実際に起こった医療事故等について自己で調査し、自分の考えを発言できるようにして下さい。 事後学習：他者の考えを受け入れ、より良い対策を考えて下さい。
3	6回(世界標準の患者安全2) ○医療に関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。	講義、自己学習 教材:ねころんで読める WHO 患者安全カリキュラムガイド及びプリント	事前学習：実際に起こった医療事故等について自己で調査し、自分の考えを発言できるようにして下さい。 事後学習：他者の考えを受け入れ、より良い対策を考えて下さい。
4	7-10 回（指定された事例について、小グループ討論によって必要な情報や問題点を収集・考察し、最善の対応策（改善策）を提案し発表する。） ○医療に関わるリスクを認	自己学習、小グループ討論、発表会	事前学習：実際に起こった医療事故等について自己で調査し、自分の考えを発言できるようにして下さい。 事後学習：他者の考えを受け入れ、より良い対策を考えて下さい。

	識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度) ○患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。(態度) ○知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。(知識・技能・態度) ○自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度) ○看護師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度) ○倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度)		
5	11 回(世界標準の患者安全3) ○医療倫理に関する規範(ジュネーブ宣言等)について概説できる。 ○患者の基本的権利の内容(リスボン宣言等)について説明できる。 ○患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。	講義、自己学習 教材:ねころんで読める WHO 患者安全カリキュラムガイド及びプリント	事前学習:実際に起こった医療事故等について自己で調査し、自分の考えを発言できるようにして下さい。 事後学習:他者の考えを受け入れ、より良い対策を考えて下さい。
6	12-15 回(指定された事例について、小グループ討論によって必要な情報や問題点を収集・考察し、最善の対応策(改善策)を提案し発表する。) ○医療に関わるリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度) ○患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。(態度) ○知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。(知識・技能・態度) ○自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度) ○看護師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度) ○倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度)	自己学習、小グループ討論、発表会	事前学習:実際に起こった医療事故等について自己で調査し、自分の考えを発言できるようにして下さい。 事後学習:他者の考えを受け入れ、より良い対策を考えて下さい。
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ねころんで読める WHO 患者安全カリキュラムガイド	相馬孝博	メディカ出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	①レポートや発表用資料等の成果物、②SGD、発表、質疑応答等での観察記録(以上 40 点)及び③臨時試験(60 点)を合わせ 100 点とし、60 点以上を合格とします。
学生への メッセージ	医療事故(医療行為に関する予期しない結果)は、日々発生しています。これを未然に防ぐことは、患者さんを守るだけでなく、医療従事者自身を守ることにもなります。本科目では、薬剤師、看護師、医師等の医療従事者になりきって、積極的に考え、悩んで下さい。

	看護学部の授業担当者は、それぞれの臨床経験に基づき、授業内容を教授する。 薬学部の授業担当者の辻琢己は、臨床薬剤師として勤務した経験から、実臨床での患者（医療）安全の考え方や対応策等について、画一的な考えに捉われることなく、常に考える実践的な教育を行う。【過去の勤務施設：北大阪警察病院病院（４年間+α）、国立病院機構京都医療センター（５年間（１日/週）、救命救急センター担当）】 眞島崇は、ドリーム調剤薬局等で薬局薬剤師として５年、奥羽大学歯学部附属病院で非常勤病院薬剤師として１年勤務し、また看護学部教員（成人看護領域）として２年間看護学生の指導に当たった経験から、薬剤師や看護師、コメディカル職種の視点から医療安全について考える実践的な教育を行う。 岩﨑綾乃は、国立の研究機関での２年間の特別研究員としての経験をもとに医療の担い手が守るべき倫理規範をふまえた実践的教育を行う。
担当者の 研究室等	辻：１号館３階（病態医科学研究室） 岩﨑：１号館４階（臨床薬剤学研究室） 眞島：１号館４階（実践薬学分野） 森谷、山本、神谷、吉永：７号館３階
備考	修学状況（受講態度等）が不良の場合、20 点を限度に減点することがあります。 課題やレポート等に関するフィードバックは、講義及び小グループ討論の中で、適宜、行います。 事前学習：実際に起こった医療事故等について自己で調査し、自分の考えを発言できるようにして下さい。(2.5 時間×3 回) 事後学習：他者の考えを受け入れ、より良い対策を考えて下さい。(2.5 時間×3 回)

科目名	患者安全	科目名（英文）	Patient Safety
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	２年	クラス	２
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	森谷　利香.神谷　美紀子.山本　智津子.吉永　愛香
ディプロマポリシー(DP)	DP4◎,DP5◎,DP6△,DP7○,DP8○		
科目ナンバリング	NCA2503a3		

授業概要・目的	薬学部生とともに学ぶ経験を通して、看護職者としてのキャリア形成を行い、医療人としてふさわしい知識・技術・態度を身につけるために、医療倫理及び世界標準の患者安全について学び、医療チームの中での看護師が果たすべき責任および役割を学ぶ。
到達目標	(1) 看護師の使命 一般目標：医療の歴史を認識するとともに、国民の健康管理、医療安全、薬害防止における役割を理解し、看護師としての使命感を身につける。 【患者安全と薬害の防止】 1. 医療にかかわるリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度) 2. WHO による患者安全の考え方について概説できる。 3. 医療に関するリスクマネジメントにおける看護師の責任と義務を説明できる。 4. 医療に関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。 (2) 看護師に求められる倫理観 一般目標：倫理的問題に配慮して主体的に行動するために、生命・医療に係る倫理観を身につけ、医療の担い手としての感性を養う。 【医療倫理】 1. 医療倫理に関する規範（ジュネーブ宣言等）について概説できる。 【患者の権利】 1. 患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。(態度) 2. 患者の基本的権利の内容（リスボン宣言等）について説明できる。 3. 患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。 4. 知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。(知識・技能・態度) (3) 多職種連携協働とチーム医療 一般目標：医療・福祉・行政・教育機関及び関連職種の連携の必要性を理解し、チームの一員としての在り方を身につける。 1. 自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度) (4) 人と社会に関わる看護師 一般目標：人の行動や考え方、社会の仕組みを理解し、人・社会と看護師の関わりを認識する。 1. 看護師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度) 2. 倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度)
授業方法と留意点	講義、自己学習、小グループ討論、発表会を行います。 教科書、プリント等を用います。
科目学習の効果（資格）	チーム医療における患者の安全の守る看護師の役割を学修する

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	1回（世界標準の患者安全1） ○WHOによる患者安全の考え方について概説できる。 ○医療に関するリスクマネジメントにおける看護師の責任と義務を説明できる。	講義、自己学習 教材:ねころんで読める WHO 患者安全カリキュラムガイド及びプリント	事前学習：実際に起こった医療事故等について自己で調査し、自分の考えを発言できるようにして下さい。 事後学習：他者の考えを受け入れ、より良い対策を考えて下さい。
2	2-5 回（指定された事例について、小グループ討論によって必要な情報や問題点を収集・考察し、最善の対応策(改善策）を提案し発表する。） ○医療にかかわるのリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度) ○患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。(態度) ○知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。(知識・技能・態度) ○自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度) ○看護師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度) ○倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度)	自己学習、小グループ討論、発表会	事前学習：実際に起こった医療事故等について自己で調査し、自分の考えを発言できるようにして下さい。 事後学習：他者の考えを受け入れ、より良い対策を考えて下さい。
3	6回(世界標準の患者安全2) ○医療に関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。	講義、自己学習 教材:ねころんで読める WHO 患者安全カリキュラムガイド及びプリント	事前学習：実際に起こった医療事故等について自己で調査し、自分の考えを発言できるようにして下さい。 事後学習：他者の考えを受け入れ、より良い対策を考えて下さい。
4	7-10 回（指定された事例について、小グループ討論によって必要な情報や問題点を収集・考察し、最善の対応策（改善策）を提案し発表する。） ○医療に関わるリスクを認	自己学習、小グループ討論、発表会	事前学習：実際に起こった医療事故等について自己で調査し、自分の考えを発言できるようにして下さい。 事後学習：他者の考えを受け入れ、より良い対策を考えて下さい。

		識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度) ○患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。(態度) ○知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。(知識・技能・態度) ○自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度) ○看護師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度) ○倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度)		
	5	11 回(世界標準の患者安全3) ○医療倫理に関する規範(ジュネーブ宣言等)について概説できる。 ○患者の基本的権利の内容(リスボン宣言等)について説明できる。 ○患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。	講義、自己学習 教材:ねころんで読める WHO 患者安全カリキュラムガイド及びプリント	事前学習:実際に起こった医療事故等について自己で調査し、自分の考えを発言できるようにして下さい。 事後学習:他者の考えを受け入れ、より良い対策を考えて下さい。
	6	12-15 回(指定された事例について、小グループ討論によって必要な情報や問題点を収集・考察し、最善の対応策(改善策)を提案し発表する。) ○医療に関わるリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度) ○患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。(態度) ○知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。(知識・技能・態度) ○自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度) ○看護師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度) ○倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度)	自己学習、小グループ討論、発表会	事前学習:実際に起こった医療事故等について自己で調査し、自分の考えを発言できるようにして下さい。 事後学習:他者の考えを受け入れ、より良い対策を考えて下さい。
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			

関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ねころんで読める WHO 患者安全カリキュラムガイド	相馬孝博	メディカ出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	①レポートや発表用資料等の成果物、②SGD、発表、質疑応答等での観察記録(以上 40 点)及び③臨時試験(60 点)を合わせ 100 点とし、60 点以上を合格とします。
学生への メッセージ	医療事故(医療行為に関する予期しない結果)は、日々発生しています。これを未然に防ぐことは、患者さんを守るだけでなく、医療従事者自身を守ることにもなります。本科目では、薬剤師、看護師、医師等の医療従事者になりきって、積極的に考え、悩んで下さい。

	看護学部の授業担当者は、それぞれの臨床経験に基づき、授業内容を教授する。 薬学部の授業担当者の辻琢己は、臨床薬剤師として勤務した経験から、実臨床での患者（医療）安全の考え方や対応策等について、画一的な考えに捉われることなく、常に考える実践的な教育を行う。【過去の勤務施設：北大阪警察病院病院（４年間+α）、国立病院機構京都医療センター（５年間（１日/週）、救命救急センター担当）】 眞島崇は、ドリーム調剤薬局等で薬局薬剤師として５年、奥羽大学歯学部附属病院で非常勤病院薬剤師として１年勤務し、また看護学部教員（成人看護領域）として２年間看護学生の指導に当たった経験から、薬剤師や看護師、コメディカル職種の視点から医療安全について考える実践的な教育を行う。 岩﨑綾乃は、国立の研究機関での２年間の特別研究員としての経験をもとに医療の担い手が守るべき倫理規範をふまえた実践的教育を行う。
担当者の 研究室等	辻：１号館３階（病態医科学研究室） 岩﨑：１号館４階（臨床薬剤学研究室） 眞島：１号館４階（実践薬学分野） 森谷、山本、神谷、吉永：７号館３階
備考	修学状況（受講態度等）が不良の場合、20 点を限度に減点することがあります。 課題やレポート等に関するフィードバックは、講義及び小グループ討論の中で、適宜、行います。 事前学習：実際に起こった医療事故等について自己で調査し、自分の考えを発言できるようにして下さい。(2.5 時間×3 回) 事後学習：他者の考えを受け入れ、より良い対策を考えて下さい。(2.5 時間×3 回)

科目名	患者コミュニケーション	科目名（英文）	Communication for Patients
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	２年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	田中　結華.眞野　祥子.村瀬　由貴
ディプロマポリシー(DP)	DP4◎,DP5◎,DP6△,DP7○,DP8◎		
科目ナンバリング	NCA2504a3		

授業概要・目的	チーム医療の場面における、患者と医療者のコミュニケーションの基本的概念を習得し、薬学部・看護学部生の共同学習を通して体験的に学ぶ。看護学部生と薬学部生が共同で学ぶことを通して、薬学部生／看護職者としてのキャリア形成を行い、医療人としてふさわしい知識・技能・態度を身につける。本科目では、医療の現場におけるコミュニケーションを、小グループにおける効果的なチーム作りによってリーダーシップ・メンバーシップを意識しながら体験的学習を通して習得する。ケア場面のコミュニケーション、チーム医療に必要なコミュニケーション技法について学ぶ。
到達目標	・患者・医療者間のコミュニケーションの特徴について説明できる。 ・医療を受ける患者を理解し（特に心理プロセス）、コミュニケーション上の配慮を述べることができる。 ・患者・医療者のコミュニケーション（会話）に必要な技法について述べることができる。 ・上記の技法について、模擬的な場面を設定し、体験的に学習し、発表、リフレクションができる。
授業方法と留意点	講義と、小グループによるディスカッション（SGD)を通して学ぶ。
科目学習の効果（資格）	キャリア形成科目として、今後のチーム医療学習、および様々な現場でのコミュニケーション場面での実践につながる科目です。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業オリエンテーション、医療の場における患者・医療者間のコミュニケーションの特徴、コミュニケーショントレーニングの必要性	合同講義を行う 授業オリエンテーション、医療の場における患者?医療者間のコミュニケーションの特徴、コミュニケーショントレーニングの必要性について解説する。	事前課題：テキスト付録の DVD を視聴し、指定箇所を読んでくる。 事後課題：個人ワークシート記録
2	ワーク１：医療の場における患者・医療者間のコミュニケーションの特徴（１）　クラス別 SGD	①チームビルディングを通して話し合える関係を作る。②患者・患者の家族になった体験を共有し、患者医療者間のコミュニケーションの特徴についてまとめ、発表する ポイント：立場の違う医療系学生として、それぞれのレディネスを話し合い、薬剤師、看護師の共通性、相違点を明らかにする。 教材：テキスト、配布物	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題：個人ワークシート記録、評価物の作成
3	ワーク１：医療の場における患者?医療者間のコミュニケーションの特徴（２）　クラス別 SGD	①チームビルディングを通して話し合える関係を作る。②患者・患者の家族になった体験を共有し、患者医療者間のコミュニケーションの特徴についてまとめ、発表する ポイント：立場の違う医療系学生として、それぞれのレディネスを話し合い、薬剤師、看護師の共通性、相違点を明らかにする。 教材：テキスト、配布物	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題：個人ワークシート記録、評価物の作成
4	ワーク１：医療の場における患者?医療者間のコミュニケーションの特徴（３）　クラス別 SGD	①チームビルディングを通して話し合える関係を作る。②患者・患者の家族になった体験を共有し、患者医療者間のコミュニケーションの特徴についてまとめ、発表する ポイント：立場の違う医療系学生として、それぞれのレディネスを話し合い、薬剤師、看護師の共通性、相違点を明らかにする。 教材：テキスト、配布物	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題：個人ワークシート記録、評価物の作成
5	ワーク１：医療の場における患者?医療者間のコミュニケーションの特徴（４）　クラス別 SGD	ワークの成果を各グループから発表する。	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題：授業内容を復習しておくこと。指定した成果物の提出
6	医療を受ける患者の心理プロセス	合同講義を行う。 医療を受ける患者がどのような心理プロセスを経験するのかについて、事例を交えた講義で学ぶ。 教材：テキスト、配布物	事前課題：課題に必要な内容を予習してくること 事後課題：個人ワークシート記録
7	ワーク２：患者の心理プロセスを体験的に理解する（１）クラス別 SGD	ワーク：①心理プロセスを理解する担当事例を検討し、②ロールプレイをグループで患者の心理プロセスを体験的に理解する。③患者の心理プロセスに配慮したコミュニケーション上の配慮について、学びをまとめる。	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題：個人ワークシート記録、評価物の作成
8	ワーク２：患者の心理プロセスを体験的に理解する（２）クラス別 SGD	ワーク：①心理プロセスを理解する担当事例を検討し、②ロールプレイをグループで患者の心理プロセスを体験的に理解する。③患者の心理プロセスに配慮したコミュニケーション上の配慮について、学びをまとめる。	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題：個人ワークシート記録、評価物の作成
9	ワーク２：患者の心理プロセスを体験的に理解する（３）クラス別 SGD	ワーク：①心理プロセスを理解する担当事例を検討し、②ロールプレイをグループで患者の心理プロセスを体験的に理	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題：個人ワークシート記録、評価物の作成

			解する。③患者の心理プロセスに配慮したコミュニケーション上の配慮について、学びをまとめる。	
	10	ワーク２:患者の心理プロセスを体験的に理解する（４） クラス別 SGD	ワークの成果を各グループから発表する。	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題：授業内容を復習しておくこと。指定した成果物の提出
	11	患者コミュニケーションの基本的技法	合同講義を行う。患者コミュニケーションの基本的技法、体験的に学ぶポイントと、設定作りについて解説する。	事前課題：課題に必要な内容を予習してくること 事後課題：個人ワークシート記録
	12	ワーク３：患者-医療者のコミュニケーション場面作りとロールプレイ（１） クラス別 SGD	①場面と台本づくり、練習、他チームとロールプレイ。場面を動画にとり、振り返る。薬物や療養生活上のコミュニケーション場面を設定し、チーム連携の立場からも学べるよう設定する。	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題：個人ワークシート記録、評価物の作成
	13	ワーク３：患者-医療者のコミュニケーション場面作りとロールプレイ（２） クラス別 SGD	①場面と台本づくり、練習、他チームとロールプレイ。場面を動画にとり、振り返る。薬物や療養生活上のコミュニケーション場面を設定し、チーム連携の立場からも学べるよう設定する。	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題：個人ワークシート記録、評価物の作成
	14	ワーク３：患者-医療者のコミュニケーション場面作りとロールプレイ（３） クラス別 SGD	①場面と台本づくり、練習、他チームとロールプレイ。場面を動画にとり、振り返る。薬物や療養生活上のコミュニケーション場面を設定し、チーム連携の立場からも学べるよう設定する。	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題：個人ワークシート記録、評価物の作成
	15	ワーク３：患者-医療者のコミュニケーション場面作りとロールプレイ（４） クラス別 SGD	ワークの成果を各グループから発表する。 学びのまとめを行う。	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題：授業内容を復習しておくこと。指定した成果物の提出

関連科目	看護対人関係論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	がん医療におけるコミュニケーション・スキル	内富　庸介／藤森　麻衣子編著	医学書院
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	成果物（個人ワークシート記録、発表会用資料等）の提出状況（３０%）、最終レポートの内容および提出状況（３０%）、態度・パフォーマンスに関する観察記録（ピア評価を含む）（４０%）で評価する（100 点満点中 60 点以上で合格）。なお、修学状況（受講態度等）が不良の場合、20 点を限度に減点することがある。
学生への メッセージ	薬学部との共同学習により、より深く患者-医療者間のコミュニケーションについて学ぶとともに、チーム医療について互いに考えを深める機会にしましょう。 ＜授業担当者の実務経験＞田中結華は大学病院での 4 年の実践経験がある。眞野祥子は精神科病院での 4 年の実践経験がある。岩﨑綾乃は国立の研究機関における 2 年間の特別研究員の経験を実践教育に活かす。眞島崇は薬局薬剤師として 5 年、非常勤病院薬剤師として 1 年の実務経験がある。また、看護学部教員（成人看護領域）としての 2 年間の看護学生指導経験を本講義での実践教育に活かす。 なお、指示した事前・事後学習を含め、自己学習に 15 時間以上をあてること。
担当者の 研究室等	田中：７号館３階（看護学部研究室９） 眞野：７号館３階（看護学部研究室１９） 岩﨑：１号館４階（岩﨑講師室） 眞島：１号館４階（眞島講師室）
備考	課題（グループ発表資料等）については、発表時にフィードバックを行い、口頭発表であれば、教員から総括のコメントを行う

科目名	キャリアデザイン	科目名（英文）	Career Design
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西鶴　智香
ディプロマポリシー(DP)	DP6◎		
科目ナンバリング	NCA1501a3		

授業概要・目的	●概要：「自分のキャリア」＝「仕事」だけを指すものではなく、「家族」「学習」「趣味」「余暇」を含む自分の人生そのもののこと、という概念のもと、自分の生涯キャリアをどう考えていくのか、をまとめていく時間です。看護師を目指すあなたは、どんな看護師を目指していくのか、そのためには自分に何が足りないか、どのような勉強、経験を積めばいいのか、を中心に、皆なで議論し、考えていきます。自分とじっくり向き合う講義です。 ●看護師という職業は、これから、職務・職域拡大についてどのように変革しようとしているかを知り、自分のキャリアデザインの参考にします。
到達目標	●到達目標：１年次の自分なりに、で構いません。自分は看護学部で何を学び、そして看護師になって何がやりたいのか、何を実現させたいのか。そのために、これから自分をどのように変革させればいいのか、等、ぼんやりでもいいので、自分の言葉で伝えられるようになることを目標とします。 ●「大学生」である皆さんには、大人としての態度、発言を求めます。講義を通して、自立、自律した大人になることを目標にします。 ●私と皆さん、皆さん同士、のディスカッションを中心に進めていきます。それを通し、「多様な価値観を認められる自分になること」「周囲からの評価を気にせず、自分の意見を言えるようになること」も目標としています。
授業方法と留意点	●毎回のテーマ講義後、少人数でのディスカション・全体でのディスカッションを実施。 回によっては、配布したワークシートを記入しながらのディスカッションもあります。 ●毎回終了時に、レポート提出あります。 ●毎回、周りを気にせず、自分の意見を述べることを求めます。
科目学習の効果（資格）	●看護師としての生涯キャリアを学生時代にデザインできていることで、迷うことなく進路選択ができ、またしっかりと動機づけされた職業人生をスタートできます。 ●自分自身をしっかりと理解することで、周囲に惑わされず、自律し、自分の力で人生を切り拓いていくことができる力を養います。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義概要、講師自身のキャリア形成、社会の現状とキャリアデザインの重要性 ・「上手に議論する方法」について説明	・「キャリア」とは、「キャリアデザイン」とは何か。「働く」ということはどういうことなのか、社会はどういうふうに動いているのか、 ・多様な価値観の受容、他人の評価を気にしない自分の確立、が早期に重要であること それぞれ事例研究　事前 60 分・事後 30 分
2	「看護師」という職業を考える！	職業「看護師」について現状を分析し、課題と今後の職域拡大に向けての動きを知る。看護師職の働き方、給与等、調査結果から生涯キャリアを調べる。	日本における「職業・看護師」の現在、今後の課題、看護師の職域拡大、求人状況等、「職業・看護師」について調べてみる 新聞、ネットメディア、専門誌等　事前 60 分・事後 30 分
3	自分自身を知る①「職業人に求められる基礎力」	求められる「職業人が身に付けるべき基礎力」は、自分はどの程度出来ているかチェック。自己分析、自分の価値観や行動パターンについて、自分のどんな考え方が根拠になっているのか整理する。	「行動変容」することは難しい。それは自分も患者でも同じです。まずは自分が看護師という専門職として働く前に、働く人の基礎力を身に付けることが求められます。どのようにしてその力をつけていくのか、考えてみましょう。 講師から具体的なアドバイスもしていきます。 ワーク事前 60 分・事後 30 分
4	自分自身を知る②「自己肯定」と「自己効力」	「自分を認めていくことが多様性理解につながる」「自分に自信がある、ないは何に起因されているのか」。物の捉え方の練習、自身の成功体験の整理、自信のつけ方、についてディスカッション。	多様性を理解できる包容力のある人になりましょう。そのために物の捉え方の練習をしていきます。患者理解でも求められる「自己効力感」、を知り、自己理解を深めましょう。 自分が気づいていなかった自分、をしっかり見つめてみます。 ワーク事前 60 分・事後 30 分
5	リーダーシップを考える	社会で求められるリーダーとは、どんな能力が必要なのか。どうやったらそうなれるのか。皆なで議論していきます。	今まで自分が見てきたリーダーはどんなところが優れていたのか、まとめてみましょう。リーダーのタイプを観察し、まとめてみましょう。 ワーク事前 60 分・事後 30 分
6	自分の生涯キャリアを考える	看護師の生涯キャリアとは。自分のキャリアデザインをどう考えるか、ワークシートにまとめ作成してみます。結婚、出産、転勤、介護等、人生に起こりうるイベントで、自分のキャリアデザインを修正していくことも迫られる可能性があることを知りましょう。	看護師職の生涯キャリアを、先輩看護師の実態から調べてみる。ステップアップ、専門看護師等、どのような道をたどっているのか、調べる。 事前 60 分・事後 30 分
7	「自分はこんな人、こんな看護師になります！」	各自発表	誰からの評価も気にせず、自分の意見を発表しましょう。今の自分の意見、で構わないのです。 ワーク事前 60 分・事後 30 分
8	まとめ～節目ごとに「自分のキャリアデザイン」を。	「自分のキャリアは自己責任」時代。今後、自分の人生の節目ごとに、自分で生涯キャリアを設計、修正することの意義を理解する。	自分の人生は自分で決める。常に、「なぜそうなのか？」を考えるクセをつけ、率直に自分の意見を言い、また他人を受容する力をつけましょう。 振り返りシート事前 60 分・事後 30 分
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	特記なし
教科書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>なし</td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>薬学生のためのキャリアデザインブック</td><td>西鶴智香</td><td>薬事日報社</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
評価方法 （基準）	・講義を通じて作成するワークシートを完成させ、講義終了時のレポートと合わせ提出することを必須要件とする。 ・出席回数・講義中に使用するワークシート記入・講義終了後レポート内容　７０％　ディスカッションでの発言・態度３０％ ※評価ポイント ・レポートには、正しい日本語で、自分の考えを論理的に記入する。 ・ディスカッションにおいて、まずは自分の考えを発言できているか。また他人の意見に耳を傾け、その多様性を受容し、理解することが出来ているか。
学生への メッセージ	自分の人生プランを一から描けるのは、若い時にだけできること。 この講義を通して、自分自身のこと、自分の人生をどうしたいか、どんな人間になりたいか、看護師になって実現したいこと、等を考え整理していくことで、「自分のキャリアビジョン」というものをぼんやりでも見つけていってほしいと思っています。自立したカッコイイ大人！を目指しましょう！ ・遅刻厳禁！前半の講義進行に影響が出るので慎むこと。 ・私語厳禁！誰かが発言している際に私語を慎むのは、大人の常識！ 　意見を言いたい時には、手を挙げて発言すること。 ・自立した大人を目指すため、様々なアドバイスをします。耳が痛いことも言うかもしれませんが、皆さんが社会人になって恥ずかしい思いをしないため、と思って言いますので、どうぞご理解下さいね。
担当者の 研究室等	1号館2階　非常勤講師
備考	講義、その他についての問い合わせは、講義終了後か、または、メール対応も出来ますので気軽に相談して下さい。 メールアドレス　chika@career-position.com

科目名	キャリア入門	科目名（英文）	Introduction to Career
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小﨑　篤志.鎌田　佳奈美.亀田　直子.中山　祐一
ディプロマポリシー(DP)	DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP8○		
科目ナンバリング	NCA1502a3		

授業概要・目的	高校生から大学生への円滑な移行に向けて、摂南大学看護学部生として、学習意欲の向上、専門職としての意識の醸成、人格的な成長を培うことを目的とする。
到達目標	1）大学で看護学を学ぶための基礎的な学習技術を習得する。 2）自身で学び考えるための基礎的能力を習得する。 3）看護学生としての自己管理能力を身につける。 4）キャリア体験と動機づけによって看護の目標志向を育む。
授業方法と留意点	・講義、薬学部との合同演習、現役看護職との交流会を実施します。 ・薬学部での合同演習では、責任感をもって個々の役割を担って下さい。 ・現役看護職との交流では、貴重な機会となりますので、自らの将来や目標を見据え、質問したいことを事前に考えてくるようにして下さい。
科目学習の効果（資格）	専門職への意識を高め、目標に向かって主体的に、学習をすすめていくことができる。 看護師としての成長のみならず、人間的に成長することができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	・大学で学ぶということ ・充実した学生生活に向けて ・担任との面談	・摂南大学生として卒業時に目指す姿、履修内容、方法および学習を深める方法について学ぶ ・大学の規範、学生としての倫理について学ぶ ・担任との面談を通じて、今後の学習活動について計画をする	事前学習課題：ファーストイヤースタディガイドを読んでおく（1時間） 事後学習課題：さらに知りたいことを深める（2時間）
2	・看護学部チームビルディング（1）	・「自己理解を深める」、「他者が自己理解を深めることに協力する」、「チームビルディングを体験する」を根幹の狙いとします。 ・学生同士が「学びあう」ことを通して、自分や他者と深く向き合い、自己理解を深め、自分の持ち味に気づき、自信を持ち、自ら動き出すきっかけを作っていきます。	事前学習課題：自分自身について考えてみよう（1時間） 事後学習課題：今日学んだことを、今後どのように役立てるかを考えてみよう（2時間）
3	・看護学部チームビルディング（2）	・「自己理解を深める」、「他者が自己理解を深めることに協力する」、「チームビルディングを体験する」を根幹の狙いとします。 ・学生同士が「学びあう」ことを通して、自分や他者と深く向き合い、自己理解を深め、自分の持ち味に気づき、自信を持ち、自ら動き出すきっかけを作っていきます。	事前学習課題：自分自身について考えてみよう（1時間） 事後学習課題：今日学んだことを、今後どのように役立てるかを考えてみよう（2時間）
4	・看護学部チームビルディング（3）	・「自己理解を深める」、「他者が自己理解を深めることに協力する」、「チームビルディングを体験する」を根幹の狙いとします。 ・学生同士が「学びあう」ことを通して、自分や他者と深く向き合い、自己理解を深め、自分の持ち味に気づき、自信を持ち、自ら動き出すきっかけを作っていきます。	事前学習課題：自分自身について考えてみよう（1時間） 事後学習課題：今日学んだことを、今後どのように役立てるかを考えてみよう（2時間）
5	・看護学部チームビルディング（4）	・「自己理解を深める」、「他者が自己理解を深めることに協力する」、「チームビルディングを体験する」を根幹の狙いとします。 ・学生同士が「学びあう」ことを通して、自分や他者と深く向き合い、自己理解を深め、自分の持ち味に気づき、自信を持ち、自ら動き出すきっかけを作っていきます。	事前学習課題：自分自身について考えてみよう（1時間） 事後学習課題：今日学んだことを、今後どのように役立てるかを考えてみよう（2時間）
6	・上級生から学ぶ	・上級生との交流を通じて、大学生活に見通しをもつ	事前学習課題：ファーストイヤースタディガイドを読んでおく（1時間） 事後学習課題：さらに知りたいことを深める（2時間）
7	・SMART SPI	・仕事に対する適性や職務遂行能力、自己の興味関心を見極めるために、言語能力検査と非言語能力検査を web 上にて行う。	事前学習課題：国語問題や計算問題など、問題を解く感覚を取り戻しておく 事後学習課題：問題の振り返りをする（2時間）
8	・薬学部との合同チームビルディング	・チームワークとは何か、チーム医療とは何かを明確にし、薬学部生とのグループワークを行う	事前学習課題：チームとは、チームワークとは、チーム医療とは何かについて調べておく 事後学習課題：チームにおける自分の果たすべき役割についてまとめる
9	生命の尊厳と人間の尊重 「緩和医療について」	ゲストスピーカーを招いて、緩和医療について学ぶ	事前学習課題：緩和医療について、緩和医療における看護師の役割について、それぞれが調べてくる。 事後学習課題：緩和医療について学んだこと、考えたことをまとめる
10	「緩和医療について」チーム	事前学習内容をグループで共有し合い、	事前学習課題：緩和医療について、緩和医療におけ

		アプローチを考える	薬学部生ともに緩和医療におけるチームアプローチについてグループで検討する	る看護師の役割について、それぞれが調べてくる。 事後学習課題：緩和医療について学んだこと、考えたことをまとめる
	11	チーム医療 「在宅医療について」	ゲストスピーカーを招いて、在宅医療、チーム連携について学ぶ	事前学習課題：在宅医療について、在宅医療における看護師の役割について、それぞれが調べてくる。 事後学習課題：在宅医療について学んだこと、考えたことをまとめる
	12	「在宅医療について」、チームアプローチを考える	事前学習内容をグループで共有し合い、薬学部生ともに在宅医療におけるチームアプローチについてグループで検討する	事前学習課題：在宅医療について、在宅医療における看護師の役割について、それぞれが調べてくる。 事後学習課題：在宅医療について学んだこと、考えたことをまとめる
	13	グループ発表会	緩和医療、在宅医療について、グループで検討した内容を発表する	事前事後学習課題：グループで検討した内容を発表するための準備をし、最終プロダクツを仕上げる
	14	グループ発表会	緩和医療、在宅医療について、グループで検討した内容を発表する	事前事後学習課題：グループで検討した内容を発表するための準備をし、最終プロダクツを仕上げる
	15	私のキャリア	連携 4 病院の現役看護師をゲストスピーカーとして招き、自身のキャリア体験や活動内容について学ぶ	事前学習課題：看護の実際や、興味関心のある分野について、質問したいことをまとめる 事後学習課題：さらに知りたいことを深める

関連科目	キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	特になし		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	特になし		
2			
3			

評価方法 （基準）	グループワーク等の参加態度 20%、提出物 80%
学生への メッセージ	自分の将来の目標を明確にし、それに向かって着実に前進できるよう、具体的な計画を立てましょう。
担当者の 研究室等	研究室２３　小崎
備考	ゲストスピーカーの都合によりシラバス内容が一部変更することがあります。

科目名	臨床医療演習Ⅰ	科目名（英文）	Clinical Medical Seminar Ⅰ
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	松本　葉子.小川　宣子.長沢　美和子.名草　みどり
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7○,DP8◎		
科目ナンバリング	NCA2505a3		

授業概要・目的	【概要】医療の質を改善する手法として開発・導入されたクリニカルパス（以下パスと略す）は、多職種が関わる医療現場で医療者の共同意識を促し、チーム医療を促進するものであると認識されている。パスの作成、運営、評価において看護職者の果たす役割は大きく、パスを介した患者や多職種とのコミュニケーションはその効果を発揮する上でも重要である。しかし、そのコミュニケーション能力を発揮するためには、既存のパスの疾患や治療の理解、看護の役割について十分に理解できる能力が前提となる。 【目的】本科目は、パスの意義や基本構造を理解し、目標とタスクの背景となるエビデンスを整理し、看護師の役割を考えることを目的とする。
到達目標	1. パスの歴史と意義、基本構造について理解できる。 2. パス作成および評価におけるアウトカム（目標）志向の重要性について理解できる。 3. グループで担当するパスの疾患や治療、生活への影響、看護について説明できる。 4. 自分の意見和わかりやすくチームメンバーに伝え、メンバーの意見を尊重し、積極的で効果的なグループ討議に主体的に参加できる。 5. グループで担当するパスの適応、および、アウトカムとタスクについてエビデンスをもとに説明できる。 6. グループワークおよび発表と討議をもとに、担当したパスにおける看護師の役割を考えることができる。
授業方法と留意点	5～6 人のグループワークを行う。グループで担当する疾患および治療のパスについて調べ、患者に説明できるように内容を整理する。学生間で患者へのパス説明内容や看護活動の要点について発表会を開催し、パスを活用するうえでの看護師の役割についてディスカッションする。 グループワーク及び 発表と討議には積極的に参加すること。 本授業は集中日程で実施するため、スケジュールや演習場所を間違わないように留意し、教員からの連絡（ポータル・掲示）は必ず確認すること。
科目学習の効果（資格）	臨地実習においてパスが適応されている患者を担当することがある。そのため、実習の学習成果の促進に貢献する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	パスの概要・作成・評価(バリアンス)について（1）	授業テーマに関する講義	事前：日本クリニカルパス学会、または、各医療機関がホームページ上に掲載しているパスの目的や意義について調べてみる。 事後：パスの目的や意義をふまえてグループワークが展開できるよう、講義内容を振り返る。
2	パスの概要・作成・評価(バリアンス)について（2）	授業テーマに関する講義 グループワークおよび発表のオリエンテーション	事前：日本クリニカルパス学会、または、各医療機関がホームページ上に掲載しているパスの目的や意義について調べてみる。 事後：パスの目的や意義をふまえてグループワークが展開できるよう、講義内容を振り返る。
3	グループワーク①:パスが適応となる疾患や治療の理解（1）	担当するパスの疾患、検査、治療、生活上の注意、他職種の役割などを調べ、医療者用パスと患者用パスに記載されている内容の根拠を記録様式に整理し、発表資料を作成する。	事前：担当する疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する。 事後：グループワークの進捗状況に応じて、課題を行う。各自が発表できるよう、作成した資料を見直す。
4	グループワーク①:パスが適応となる疾患や治療の理解（2）	担当するパスの疾患、検査、治療、生活上の注意、他職種の役割などを調べ、医療者用パスと患者用パスに記載されている内容の根拠を記録様式に整理し、発表資料を作成する。	事前：担当する疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する。 事後：グループワークの進捗状況に応じて、課題を行う。各自が発表できるよう、作成した資料を見直す。
5	グループワーク①:パスが適応となる疾患や治療の理解（3）	担当するパスの疾患、検査、治療、生活上の注意、他職種の役割などを調べ、医療者用パスと患者用パスに記載されている内容の根拠を記録様式に整理し、発表資料を作成する。 記録様式を提出し、フィードバックを受ける。	事前：担当する疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する。 事後：グループワークの進捗状況に応じて、課題を行う。各自が発表できるよう、作成した資料を見直す。
6	グループワーク①:パスが適応となる疾患や治療の理解（4）	担当するパスの疾患、検査、治療、生活上の注意、他職種の役割などを調べ、医療者用パスと患者用パスに記載されている内容の根拠を整理し、発表資料を作成する。 フィードバックをもとに記録様式および発表資料を修正する。	事前：担当する疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する。 事後：グループワークの進捗状況に応じて、課題を行う。各自が発表できるよう、作成した資料を見直す。
7	グループワーク②:パスの適応およびアウトカムとタスクについてのエビデンス整理（1）	グループワーク①で収集および作成した資料をもとに、パスの適応、アウトカムとタスクとの関係についてエビデンスを記録様式に整理し、発表資料を作成する。	事前：グループワーク①の記録および発表資料を見直す。 事後：グループワークの進捗状況に応じて、課題を行う。各自が発表できるよう、作成した資料を見直す。
8	グループワーク②:パスの適応およびアウトカムとタスクについてのエビデンス整理（2）	グループワーク①で収集および作成した資料をもとに、パスの適応、アウトカムとタスクとの関係についてエビデンスを記録様式に整理し、発表資料を作成する。	事前：グループワーク①の記録および発表資料を見直す。 事後：グループワークの進捗状況に応じて、課題を行う。各自が発表できるよう、作成した資料を見直す。
9	グループワーク②:パスの適応およびアウトカムとタスクについてのエビデンス整理（3）	グループワーク①で収集および作成した資料をもとに、パスの適応、アウトカムとタスクとの関係についてエビデンスを記録様式に整理し、発表資料を作成する。記録様式を提出し、フィードバックを受ける。	事前：グループワーク①の記録および発表資料を見直す。 事後：グループワークの進捗状況に応じて、課題を行う。各自が発表できるよう、作成した資料を見直す。
10	グループワーク②:パスの適応およびアウトカムとタスクについてのエビデンス整	グループワーク①で収集および作成した資料をもとに、パスの適応、アウトカムとタスクとの関係についてエビデン	事前：グループワーク①の記録および発表資料を見直す。 事後：グループワークの進捗状況に応じて、課題を

	理（4）	スを記録様式に整理し、発表資料を作成する。フィードバックをもとに記録様式および発表資料を修正する。	行う。各自が発表できるよう、作成した資料を見直す。
11	グループワーク③：パスの疾患及び治療における看護（1）	タスクに記載されていない看護についてもエビデンスをもとに目的、留意点を調べ、記録様式に記載する。 記録様式は提出し、フィードバックを受ける。	事前：グループワーク①②の記録および事前に収集した資料を見直し、不足している資料を収集する。 事後：グループワークの進捗状況に応じて、課題を行う。各自が発表できるよう、作成した資料を見直す。
12	グループワーク③：パスの疾患及び治療における看護（2）	フィードバックをもとに修正を加え、パスに記載されている看護タスクを含め、パスの疾患および治療における看護について、患者に説明できるように発表資料を作成する。	事前：グループワーク①②の記録および事前に収集した資料を見直し、不足している資料を収集する。 事後：グループワークの進捗状況に応じて、課題を行う。各自が発表できるよう、作成した資料を見直す。
13	グループワーク④：パスを運用した医療における看護師の役割	グループでディスカッションし、発表資料を作成する。	事前：グループワーク①～③の記録および発表資料を見直す。 事後：発表練習
14	発表と討議（1）	学生主体の運営による発表会	事前：他のグループの発表に対して質問できるよう、発表の疾患や治療、看護について学習する。 事後：レポートの作成
15	発表と討議（2）	学生主体の運営による発表会	事前：他のグループの発表に対して質問できるよう、発表の疾患や治療、看護について学習する。 事後：レポートの作成

キャリア形成科目

関連科目：これまで履修した専門基礎科目と専門科目のすべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	クリニカルパス概論	日本クリニカルパス学会学術委員会監修	サイエンティスト社
2	基礎から学ぶクリニカルパス実践テキスト	日本クリニカルパス学会学術委員会監修	医学書院
3	実践チーム医療論　実際と教育プログラム	水本清久ら編著	医歯薬出版

評価方法（基準）：
講義への参加状況、課題への取り組み、プレゼンテーションやレポートの内容を基に総合的に評価する。
講義の参加状況：10%
グループワークの提出物（記録様式①～④、発表資料）：60%
グループワークのピア評価：10%、発表のピア評価：10%
レポート：10%

学生へのメッセージ：
本授業では、各教員の病院での実践経験を踏まえて授業内容を教授します。
現代社会の多様化に伴い医療においても多様な価値観や柔軟な姿勢が必要になっています。皆さんのグループワークを通して実習および卒業後の看護実践に役立てるよう看護師としての専門意識や説明力を高められることを期待しています。
事前事後の学習時間は集中授業になりますので、授業期間中平均して 30 分～1 時間/日は確保するようにしましょう。

担当者の研究室等：7号館3階　松本研究室（28）

備考：レポートのフィードバックは必要に応じて授業終了後に行います。

科目名	臨床医療演習Ⅱ	科目名（英文）	Clinical Medical Seminar II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	池田　友美.小﨑　篤志.青野　美里.志戸岡　惠子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7○,DP8◎		
科目ナンバリング	NCA2506a3		

授業概要・目的	医療の高度化・複雑化及び医療の質や安全性の向上に伴い、多職種によるチーム医療が様々な臨床で実践されている。その中で、看護学と工学の新たな科学的知見に基づく考えや技術の導入が求められている。本科目では、人間工学、建築環境工学、情報科学の基礎知識を学修し、看護学と工学の融合について考える。
到達目標	１）人間工学の定義、目的を説明できる ２）建築環境工学の定義、目的を説明できる ３）情報科学の定義、目的を説明できる ４）看護学における工学の役割が理解できる ５）これからの看護学と工学の融合について考察できる
授業方法と留意点	講義と施設の見学を通して、人間工学、建築環境工学、情報科学の基礎を理解しやすいように解説する。施設の見学後はグループワークを行い、学生間で知識の共有ができるよう発表の時間を設ける。講義、施設の見学、グループワークの一連の学習により、看護における工学の役割について理解をうながす。授業の内容および施設の見学日程等によりシラバスの記載順と異なる場合は、別途スケジュールを提示する。
科目学習の効果（資格）	本科目は、看護学と工学の融合した学問の理解を深めるための基盤となる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	人間工学の基礎（１）	人間工学の定義	事前学習：人間工学について調べる（30 分） 事後学習：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる（1 時間）
2	人間工学の基礎（２）	臨床における人間工学の活用について	事前学習：臨床で活用されている人間工学について調べる（30 分） 事後学習：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる（1 時間）
3	建築環境工学の基礎（１）	建築環境工学の定義	事前学習：建築環境工学について調べる（30 分） 事後学習：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる（1 時間）
4	建築環境工学の基礎（２）	臨床における建築環境工学の活用について	事前学習：臨床で活用されている建築環境工学について調べる（30 分） 事後学習：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる（1 時間）
5	情報科学の基礎（１）	情報科学の定義	事前学習：情報科学について調べる（30 分） 事後学習：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる（1 時間）
6	情報科学の基礎（２）	臨床における情報科学の活用について	事前学習：臨床で活用されている情報科学について調べる（30 分） 事後学習：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる（1 時間）
7	工学の実際（１）	施設の見学を通して工学の実際を学ぶ	事前学習：これまでの授業内容の復習（1 時間） 事後学習：見学でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる（1 時間）
8	工学の実際（２）	施設の見学を通して工学の実際を学ぶ	事前学習：これまでの授業内容の復習（1 時間） 事後学習：見学でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる（1 時間）
9	工学の実際（３）	施設の見学を通して工学の実際を学ぶ	事前学習：これまでの授業内容の復習（1 時間） 事後学習：見学でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる（1 時間）
10	工学の実際（４）	施設の見学を通して工学の実際を学ぶ	事前学習：これまでの授業内容の復習（1 時間） 事後学習：見学でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる（1 時間）
11	看護学における工学の理解（１）	施設の見学を通しての学びをまとめ、看護学における工学の理解および、これからの看護学と工学の融合についてグループワークを行う	事前学習：グループワークで使用する資料を収集する（1 時間） 事後学習：グループワークの資料作成（1 時間）
12	看護学における工学の理解（２）	施設の見学を通しての学びをまとめ、看護学における工学の理解および、これからの看護学と工学の融合についてグループワークを行う	事前学習：グループワークの資料作成（1 時間） 事後学習：グループワークの資料作成（1 時間）
13	看護学における工学の理解（３）	施設の見学を通しての学びをまとめ、看護学における工学の理解および、これからの看護学と工学の融合についてグループワークを行う	事前学習：グループワークの資料作成（1 時間） 事後学習：グループワークの資料作成（1 時間）
14	看護学と工学のこれから（１）	看護学と工学のこれからについて発表を通して学びを共有する	事前学習：発表原稿を作成する（1 時間） 事後学習：さらに深く学習したいことについて調べる（1 時間）
15	看護学と工学のこれから（２）	看護学と工学のこれからについて発表を通して学びを共有する	事前学習：発表原稿を作成する（1 時間） 事後学習：さらに深く学習したいことについて調べる（1 時間）

関連科目	これまで履修した専門科目のすべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>看護理工学</td><td>真田弘美・森武俊 編</td><td>東京大学出版会</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
評価方法 （基準）	講義への参加状況、課題への取り組み、課題レポートやプレゼンテーションの内容を基に総合的に評価する。 講義・施設見学の参加状況：30% グループワークでの取り組みや回答内容：30% 発表・レポート：40%
学生への メッセージ	学外の施設に見学に行きますので、看護を学ぶ学生としての振る舞いや積極性を求めます。また、授業の後半はグループワークがメインになるのでグループで協力して学びを深めてください。 担当される先生方は、人間工学、温熱環境工学、情報生命科学におけるエキスパートで、この科目は看護学と工学の融合という新しい学問領域になります。みなさんからの斬新なアイディアが創出されることを期待しています。
担当者の 研究室等	７号館３階　小崎（研究室 23）、池田（研究室 16）
備考	

科目名	臨床医療実践演習	科目名（英文）	Clinical Medical Practice
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	山本　十三代.小堀　栄子.田中　真佐恵.安田　香
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎		
科目ナンバリング	NCA3507a3		

授業概要・目的	チーム医療を推進するために、多業種および地域医療機関などにおける協働や連携に関して、現状を把握し、今後のあり方を考察する。本科目では、看護師および薬剤師との連携、役割と機能への理解を探るため、チーム医療の行われる実践の場での活動例や体験などを基に、実践的に修得する。 ここでは、さまざまな年齢層や生活の背景をもった人が集まるコミュニティ活動に場を広げ、健康づくりにおける支援策を検討する。また、コミュニケーション合意形成のプロセス等、協働しチーム医療活動することについて、より発展的な学習を目指す。
到達目標	1.地域医療を展開するために必要とされる基本的な知識を獲得する。 ①モデル地区が抱える地域医療の課題を理解し、地域における健康に関する課題に対し介入方法を考案する。 ②地域で暮らす様々な健康レベルにある人、その家族の生活について理解する。 ③地域社会を健康の視点から捉える方法を理解する。 ④地域で暮らす人々の健康を支える資源・システムを理解する。 ⑤ヘルスプロモーションの理念および地域の健康を推進する方策を理解する。 2.パートナーシップを形成する基本的態度を獲得する。 ①他者と基本的な信頼関係を構築できる態度を獲得する。 ②自己の専門性および他職種の役割を認識し、地域におけるチーム医療の重要性を理解する。 ③地域で暮らす人々と対話する能力を獲得する。 ④地域医療におけるパートナーシップのあり方について自己の意見がもてる。 3.他者との間で双方向コミュニケーションを実践する。 ①基本的なコミュニケーション技能を身につける。 ②情報収集・提供の多様な技能の基本を身につけ、状況に応じて適切に使うことができる。 4.能動的な学習態度を獲得する。 ①小グループでの学習を通じて、チームメンバーと協調しながら自己の意見を述べることができる。 ②課題に対して関心をもち、能動的に学ぶプロセスを体験する。
授業方法と留意点	事前・事後学習をもとにグループワーク内でのディスカッションを経て提言をまとめていく。5 年前から関わりを持っているモデル地区(松塚地区)の保健医療福祉について考える。学生主体の能動的学習を取り入れ、必要に応じ学内外の講師による講義を組み込む。
科目学習の効果（資格）	地域の活性化、地域医療、健康寿命の延伸に関わる活動に参加することは、看護職者の役割の広がりを体感することとなり、看護の機能・役割を再認識することに寄与する科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	科目オリエンテーションと概要説明 アクティブエイジングとヘルスプロモーション、健康学習の理論と方法	講義形式 左記の概念についてレディネスを想起する	事前:左記の概念についてまとめる(1 時間) 事後:講義の内容を理解し、事前学習のものに追加する(1 時間)
2	松塚地区の地域医療とチーム医療の取り組み(公助、共助(互助)、自助) 地域診断について	演習形式 統計資料を基に、松塚地区の健康概況を学ぶ 地域診断の重要性、地域診断を行うための地区踏査の方法について学ぶ	事前:松塚地区の人口動態、衛生統計資料を収集する(2 時間) 事後:地域診断方法について復習し、地区踏査の視点をまとめておく(1 時間)
3	地区踏査の実施	実践 松塚地区の地区踏査を行う 交野市社会福祉協議会、松塚地区地区長、松の実カフェ運営者といった方々から松塚について説明を受ける	事後:地区踏査の視点に沿って、まとめる。写真、資料などの選択をする
4	地区踏査の実施	同上	同上
5	地区踏査の整理	演習形式 地区踏査の内容をマップにする。既存資料やインタビューで得た内容を合体し松塚地区の地域診断を明らかにする	事後:時間内にマップ作りができなかった場合は、グループで作成する(2 時間)
6	地区踏査の発表	実践 地域診断の結果について、松塚地区の方々にプレゼンテーションを行う	事前:発表の資料、役割を決めプレゼンできるようにしておく(1 時間)
7	地域住民への健康情報提示 -健康だよりの企画・作成-	演習形式 健康教育・学習において効果的な媒体の学習を行う 既存の媒体の検討	事前:①健康教育・学習の効果的媒体作成について学習しておく(1 時間) ②既存の健康だよりなどの資料を集めておく(1 時間) ?健康に関するトピックスについて案をもちよる(1 時間) 事後:グループ課題を自己で行う(1 時間)
8	地域住民への健康情報提示 -健康だよりの企画・作成-	演習形式 松塚地区の地域診断を基に、また、現在の健康トピックスを検討しテーマを決め、健康だよりの１ページ分を企画・作成する	同上
9	地域住民への健康情報提示 -健康だよりの企画・作成-	演習形式 同上 印刷・発送	同上
10	地域イベント(松塚区民祭り)への参加 -アクティブエイジング健康チェック- 企画(1)	演習形式 松塚区民祭りでのアクティブエイジング健康チェックの企画を立案する P.P モデルを用いてニーズを分析し、企画書、指導案を作成していく	事前:①昨年の状況について情報を収集しておく(1 時間) ②企画案に必要な項目を学習する(2 時間) 事後:グループ課題を行う(1 時間)
11	地域イベント(松塚区民祭	同上	事後:企画書、スケジュール、役割、アンケートを

キャリア形成科目

	り)への参加 -アクティブエイジング健康チェック- 企画(2)	関係機関、関係者、ボランティア学生との打ち合わせに参加する アンケートの作成	指定期日までに作成する(2 時間)
12	アクティブエイジング健康チェックの実践	実演 関係者、ボランティア学生との当日の打ち合わせに参加 役割を遂行する	事後:①自己で健康チェックの評価を行う(2 時間) ②グループでアンケートの入力を行い図表にしておく(3 時間)
13	アクティブエイジング健康チェックの実践	同上	同上
14	アクティブエイジング健康チェックの実践	同上	同上
15	アクティブエイジング健康チェックの評価	演習形式 当日の全体の状況、アンケート集計結果から健康チェックの評価を行う アンケートについては、事前に入力し図表に表しておく 健康認識、健康状況、昨年からの改善などから健康チェックの意義・改善点について提言する	事後:レポートを期日までに作成し提出する(2 時間)

関連科目	各領域別看護学、地域看護学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Karen Glanz 編 曽根智史訳	健康行動と健康教育-理論、研究、実践-	医学書院
2	宮坂忠夫、川田智恵子、吉田亨編著	健康教育論	メヂカルフレンド社
3	厚生統計協会(最新号)	国民衛生の動向	厚生統計協会

評価方法 (基準)	グループワーク参加度 50% 企画書、指導案、作品、実践レポートなどの成果物 50%
学生への メッセージ	この科目は、学生の能動的学習が中心です。松塚地区の概況やそこに暮らす人々の健康・生活・思考に興味関心を抱き、健康増進へ向けての課題を多職種や住民の方々と検討していきたいと考えています。領域別実習で身につけてきた知識・技術・態度を十分に発揮して、チーム医療の本来の在り方や地域包括ケアの在り方について実践を踏まえて考えていきましょう。この科目の主担当である山本十三代は、医療機関で保健師として継続看護や訪問看護を行ってきました。また、保健師養成専門学校では、健康教育、地区組織活動、地区活動といった講義・演習・実習を担当してきました。地域へ出て実際の住民の方々の思いを聴き看護に活かせるように共に考えていきたいと思います。
担当者の 研究室等	山本十三代:研究室 5 小堀栄子:研究室 24 田中眞佐恵:共同研究室
備考	

発行　2019年4月

常翔学園　摂南大学

寝屋川校地　〒572-8508
大阪府寝屋川市池田中町17番8号

電話(072)-839-9106 【教務課】

枚方校地　〒573-0101
大阪府枚方市長尾峠町45番1号

電話(072)-866-3100 【枚方事務室・薬学部】
電話(072)-807-6001 【枚方事務室・看護学部】

SETSUDAI